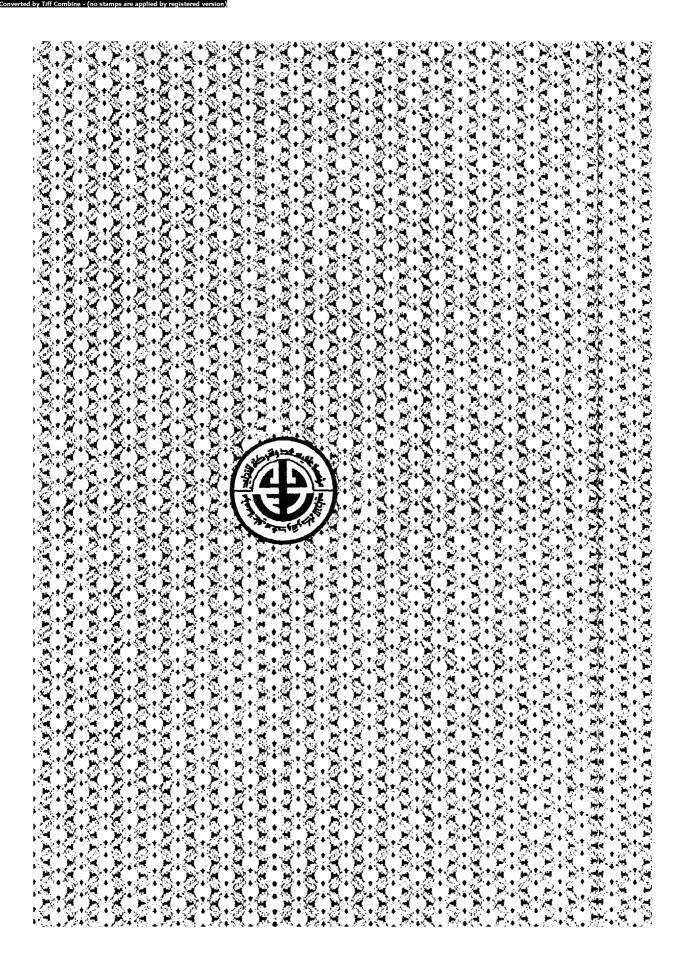
ووفيتات المشامير والاعت الام CR2561019 -A 0/1 - 0/1

*التكوْرغيعب*العَادة تدي



CONTRACTOR OF THE STATE OF THE では、これは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは 宣和其中國主義和軍士國軍官等軍士國軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍軍 THE REPORT OF THE PARTY OF THE MANAGE AND MANAGE AND STATE OF THE STATE OF のなかできたからないというできたからないのできたからないのできたからなっていると THE STREET STREE THE TANK OF THE STANK OF THE ST THE REPORT OF THE PARTY OF THE 关系是是这种的一种,这种是一种的一种,这种是一种的一种,也是一种的一种的一种的一种,也是一种的一种的一种的一种的一种的一种,也可以是一种的一种的一种,也可以是一种的一种的一种,也可以是一种的一种的一种, THE REPORT OF THE PARTY OF THE





مراد المنظمة المراد المواد ال



-30 - 30 M

و وفيات المشاميرة الأعداد

جُوُلُاكُ فُلُوكُ وَفَيْهُ كُ

-011-011

تحقیقی الدیکه و محکوری الدیکه و محکوری الدیکه و محکوری الدیسی الدیری ال

الناشِد واراللتاب والعربي إن دار الكتاب العربي لتفخر باصدار همله الأجزاء تباهاً من تاريخ الإسلام لمؤلفه الحافظ المؤرخ شمس الدين المذهبي، وهي من أوسع التواريخ العامة حيث تتناول التاريخ الإسلامي من بدء الهجرة النبوية الشريفة حتى سنة ٧٠٠هـ.

يتم التحضير لهذا المؤلف الضخم في المدار تحت اشراف لجنة من المدكاترة والأساتلة المتخصصين، بدءاً بالتظهير عن المخطوطة الميكروفيلم، إلى النسخ والتحقيق والتنضيد والاخراج.

ويحتفظ دار الكتاب العربي في بيروت بحقوق هذا العهل الكامل المنصوص أصلاه وحده، ولا يحق لاي جهة كسانت اقتساس النص المنسوخ، أو محاولة تقليده، أو إضافة مادة على التحقيق ونسبته إليه، تحت طائلة المسؤولية.

الناشسر

الطبع*تة الأولث* ١٤١٧هـ - ١٩٩٦م.

وارالكتار كالعربي

الطكابق الشكامِن ـ بنكاية بكنتك بيتبلوس ـ فشردان ـ شلفون : ١٨٦٢٩٠٥/٨٠٠٨١١٨٨ مماره ٨٦٢٩٠٥/٨٠٠٨١١٨٨ تلكس : ١٠٩٥/٨٠٠٨١١٨٨ كتاب برقيا : ١٨كاب، ص.ب : ٢٩٥٥-١١ كيروت ـ لبنان

بنِ لِسُهِ اللَّهُ الرَّمُ مُنِ الرَّحِ لِسِيمِ

الطبقة الثامنة والخمسون

سنة إحدى وسبعين وخمسمائة

[جلوس ابن الجوزي تحت المنظرة]

قال ابن الجوزي (١٠): تُقدُّمَ إليَّ بالجلوس تحت المنظرة، فتكلَّمت في ثالِث المُحَرَّم والخليفة حاضر، وكان يوماً مشهوداً. ثُمَّ تُقُدِّمَ إليَّ بالجلوس يوم عاشوراء فكان الزّحام شديداً زائداً على الحدّ، وحضر أمير المؤمنين (٢٠).

[القبض على أستاذ الدار صندل]

وفي صَفَر قُبِضَ على أستاذ الدّار صندل الّذي جاء في الرّسليّة إلى نور الدّين، وعلى خادمين أرجف النّاس أنّهم تحالفوا على سوءٍ. ووُلّي أبو الفضل ابن الصّاحب أستاذيّة الدّار، ووُلّي مكانه في الحجابة ابن النّاقد (٣).

[زواج بنت ابن الجوزيّ]

قال ابن الجوزيّ (٤): وكانت ابنتي «رابعة» قد خُطِبَت، فَسَأَل الزّوج أن يكون العقْد بباب الحُجْرة، فحضرنا يوم الجمعة، وحضر قاضي القُضاة، ونقيب النُّقباء، فزوَّجتها بأبي الفَرَج بن الرشيد الطبريّ، وتزوَّج حينئذٍ ولدي أبو القاسم بابنة الوزير عون الدّين بن هُبَيْرة (٥).

⁽١) في المنتظم ١٠/٢٥٦ (١٨/١٨).

⁽٢) أنظر: تاريخ الخميس ٤٠٩/٢.

 ⁽٣) المنتظم ٢٥٦/١٠ (٢١٨/١٨)، الكامل في التاريخ ٢١١/٤٣٤، مراة الزمان ٨/٣٣١، النجوم الزاهرة ٢/٢٠.

⁽٤) في المنتظم ١٠/ ٢٥٧ (١٨/ ٢١٩).

⁽٥) مرآة الزمان ١/٨ ٣٣١، ٣٣٢.

قلت: «رابعة» هي والدة الواعظ شمس الدّين بن الجوزيّ، لم يَطُلُ عمر ابن رشيد معها، ثمّ تزوّجها أبو شمس الدّين.

وأمّا ابنه أبو القاسم فإنّه تحارب وصار ينسخ بالأُجرة، وهو مِمّن أجاز للقاضي تقيّ الدّين الحنبليّ.

[كلام ابن الجوزيّ تحت المنظرة]

قال (١): وتكلّمت في رجب تحت المنظرة وآزدحم الخَلْق، وحضر أمير المؤمنين. وكنت إذا تكلّمت أصعد المِنْبر، ، ثمّ أضع الطّرْحة إلى جانبي، فإذا فرغتُ أَعَدْتُها.

وكان المستضيء بالله كثيراً ما يحضر مجلس ابن الجوزيّ في مكان من وراء السَّتْر، وقال مَرَّةً: ما على كلام ابن الجوزيّ مَزِيد. يعني في المُحسن^(٢).

[كثرة الرفض]

قال (٣): وكان الرَّفْض قد كَثُر، فكتب صاحب المخزن إلى أمير المؤمنين إنْ لَمْ تُقَوِّ يد ابن الجوزيّ لم يُطق رفْع البِدَع. فكتب بتقوية يدي، فأخبرت النّاس بذلك على المنبر، فقلت: إنّ أمير المؤمنين صلوات الله عليه قد بلغه كَثْرة الرَّفْض، وقد خرج توقيعه بتقوية يدي في إزالة البِدَع، فَمَن سمعتموه يسبّ فأخبروني حتى أخرّب داره وأسجنه. فأنكف النّاس.

وأمر بمنع الوُعَّاظ إلا ثلاثة أنا، وأبو الخير القزويني مِنَ الشَّافعيَّة، وصهر العَبَّاديِّ مِنَ الحنفيَّة. ثمّ سُئلَ في ابن الشّيخ عبد القادر، فأَطْلِق (٤٠).

⁽۱) في المنتظم ۱۰/ ۲۵۷ (۱۸/ ۲۲۰).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٥٨ (١٨/ ٢٢١).

⁽٣) ابن الجوزي في المنتظم ١٠/ ٢٥٩ (١٨/ ٢٢٢).

⁽٤) المنتظم ١٠/ ٢٥٩ (١٨/ ٢٢٢).

[خروج المستضيء إلى كشكه]

وفي ذي القعدة خرج المستضيء إلى الكشك الّذي جدّده راكباً، والدّولة مُشَاة، ورآه النّاس، ودعوا له (۱).

[ولاية المخزن]

وفيها خُلِع على الظُّهير بن العطَّار بولاية المخزن (٢).

[وليمة الوزير ابن رئيس الرؤساء]

وفيها عمل الوزير ابن رئيس الرؤساء دعوة جمع فيها أرباب المناصب، وخَلَع علي، ونُصَب لي مِنْبر في الدّار، وحضر الخليفة الدّعوة، فلمّا أكلوا تكلّمت، وحضر السّلطان والـدّولة، وجميع علماء بغداد ووُعًاظها إلاّ النّادر (٣).

[الفتنة بمكة]

وفيها أُرسِل إلى صاحب المدينة تقليد بمكّة، فجرت فتنة لذلك بمكّة، وقُتِل جماعة. ثمّ صعِد أميرُ مكّة المعزول، وهو مكثر بن عيسى بن فُليّتة، إلى القلعة الّتي على أبي قُبيّس، ثمّ نزل وخرج عن مكّة. ووقع النَّهب بمكّة، وأُخْرِقت دُورٌ كثيرة (٤٠).

وحكى القليوبيّ في «تاريخه» أنّ الرَّكْب خرجوا عن عَرَفَات، ولم يبيتوا بمُزْدَلِفَة، ومرّوا بها، ولم يقدروا على رَمْي الجِمار، وخرجوا إلى الأبطّح، فبكّروا يوم العيد، وقد خرج إليهم مَن يحاربهم مِن مكّة، فتطاردوا وقَتِل

⁽۱) المنتظم ۱۰/۹۰۷ (۱۸/۲۲۲).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٥٩ (١٨/ ٢٢٢).

⁽٣) المنتظم ١٠/ ٢٥٩، ٢٦٠ (١٨/ ٢٢٣).

⁽٤) المنتظم ١٠/ ٢٦٠ (٢١٤/١٨)، الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٣٢، شفاء الغرام (بتحقيقنا) ٢/٧٣٠.

جماعة بين الفريقين. ثمّ آل الأمرُ إلى أن أصيح في النّاس: الغَزَاة إلى مكّة (١).

قال ابن الجوزي (٢): فحد ثني بعض الحاج أنّ زَرَّاقاً ضرب بالنّفط داراً فأشتعلت، ولا حَوْل ولا قوَّة إلاّ بالله، وكانت تلك الدّار لأيتام، ثمّ سَوَّى قارورة نفط ليضرب بها، فجاء حجرٌ فكسرها، فعادت إليه وأحرقته. وبقي ثلاثة أيّام فتفسّخ الجَسَد، ورأى بنفسه العجائب، ثُمّ مات.

قال (٣): ثمّ ذلك الأمير الجديد قال: لا أَجْسُر أن أُقيم بعد الحاجّ بمكّة. فأمّروا غيره.

[وقعة تلّ السلطان]

وفيها كانت وقعة تلّ السّلطان، وحديث ذلك أنَّ عسكر المَوْصِل نَكَثُوا وَحَنُوا وَوَافُوا تلَّ السّلطان بنواحي حلب في جُمُوع كثيرة، وعلى الكُلّ السّلطان سيف الدّين غازي بن مودود بن زنكي، فالتّقاهُم السّلطان صلاح الدّين في جَمْع قليل، فهزمهم وأسَرَهم، ونهب، وحَقَنَ دِماءهم. ثمّ أحضر الأمراء الّذين أسرهم فأطلقهم ومَنَّ عليهم (٤).

قال ابن الأثير(٥): لم يُقتل من الفريقين ـ على كثرتهم ـ إلا رجلٌ

⁽۱) المنتظم ۱۰/۲۲۰ (۱۸/ ۲۲۶).

⁽٢) في المنتظم ١٠/ ٢٦٠ (١٨/ ٢٢٤).

⁽٣) في المنتظم ١٠/ ٢٦١ (١٨/ ٢٢٤).

⁽٤) النوادر السلطانية ٥١، ٥٢، سنا البرق الشامي ٢٠١/١، ٢٠٤، الكامل في التاريخ ١٢٠/١ و٢٧/١ و٢٧/١ زبدة الحلب ٣/ ٢٦، مفرّج الكروب ٢/٩٣، الروضتيسن ج١ ق ٢/٩٢، تاريخ الزمان ١٩٢، المغرب في حُلى المغرب ١٤٦، ١٤٧، مرآة النومان ١٩٢، المغرب في أخبار البشر ٣/٨٥، المبر النومان ٨/٣٣، نهاية الأرب ٢٨/ ٣٧٨، المختصر في أخبار البشر ٣/٨٥، المبر ١٤٠/ ٢٩٣، دول الإسلام ٢/٥٨، تاريخ ابن الوردي ٢/٢٨، البداية والنهاية ١٢/ ٢٩٣، تاريخ ابن خلدون ٥/ ٢٥٦، ١٥٠، السلوك ج١ ق ١/١٦، شفاء القلوب ٨٨ ـ ٩١، تاريخ ابن سباط ١/ ٢٤٦، تاريخ الأزمنة للدويهي ١٧٦.

⁽٥) في الكامل ٢١/ ٤٢٨ و ٤٢٩.

واحد. ووقفتُ على جريدة العَرْض، فكان عسكر سيف الدّين غازي في هذه الوقعة يزيدون على ستّة الآف فارس، والرّجّالة، أقلّ من خمسمائة.

[فتوحات صلاح المدين]

قلت: سار صلاح الدّين إلى مَنْبِج فأخذها، ثمّ سار إلى عزاز، فنازل القلعة ثمانية وثلاثين يوماً، وورد عليه وهو محاصرها قومٌ مِنَ الفداويّة، وجُرح في فخذه، وأُخِذوا وقُتِلوا. ثمّ افتتح عزاز(١).

[كتاب فاضليّ إلى الخليفة]

ومن كتاب فاضليّ عن صلاح الدين إلى الخليفة "يطالع أنّ الحلبيّين والمَوْصِليّين، لمّا وضعوا السّلاح، وخفضوا الجناح، اقتصرنا بعد أن كانت البلاد في أيدينا على استخدام عسكر الحلبيّين في البيكارات (٢٠ إلى الكُفْر، وعرضنا عليهم الأمانة فحملوها، والأيمان فبذلوها. وسار رسولنا، وحَلَّف صاحب الموصل يميناً، جعلَ الله فيها حَكَماً. وعاد رسوله ليسمع مِنّا اليمين، فلمّا حَضر وأحضر نسختها أوما بيده ليخرجها، فأخرج نسخة يمين كانت بين المَوْصِليّين والحلبيّين على حزبنا، والتَّسَاعُد على حزبنا. وقد حَلَفَ بها كُمُشْتِكِين الخادم بحلب، وجماعة معه يميناً نقضت الأوَّل، فردَدْنا اليمين إلى يمين الرسول، وقلنا: هذه يمين عن الأيمان خارجة، وأردت عمراً وأراد الله خارجة. وانصرف الرسول. وعلمنا أنّ النّاقد بصير، والمواقف الشريفة خارجة. وانصرف الرسول. وعلمنا أنّ النّاقد بصير، والمواقف الشريفة

⁽۱) النوادر السلطانية ٥٦، سنا البرق الشامي ٢٠٩/١ ـ ٢١٦، الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٣٠، ١٦٥، ١٩٥ زبدة الحلب ٢٠٨٣ ـ ٣٠، مفرّج الكروب ٢/٥٥، الروضتين ج ١ ق ٢/ ٢٦٢، تاريخ الزمان ١٩٢، المغرب في حُلَى المغرب ١٤٧، الأعلاق تاريخ مختصر الدول ٢١٦، تاريخ الزمان ١٩٢، المغرب في حُلَى المغرب في أخبار البشر الخطيرة ج ٣ ق ١/١١١ (٧٧٥ هـ.)، نهاية الأرب ٢٨/ ٣٨، المختصر في أخبار البشر ٣/٥٠، العبر ٤/٢٢، دول الإسلام ٣/٥٠، تاريخ ابن الوردي ٢/٢٨، مرآة الجنان ٣/٣٣، البداية والنهاية ٢١/٣٣، تاريخ ابن خلدون ٥/٢٥٧، السلوك ج ١ ق ١/ ٢١، شفاء القلوب ٩٢، تاريخ ابن سباط ٢/١٤١، ١٤٧، شفاء القلوب ٢٤، تاريخ ابن سباط ٢/١٤١، ١٤٧، شفاء القلوب ٢٤، تاريخ ابن سباط ٢/١٤١، ١٤٧، شفاء القلوب ٢٤، تاريخ ابن سباط ٢/١٤١، شفاء القلوب ٢٩.

⁽٢) البيكارات: جمع البيكار، وهي كلمة فارسية بمعنى الحرب.

مستخرجة الأوامر إلى المَوْصِليّ إمّا بكتابٍ مؤكّد بأن لا ينقض العهد، وإمّا الفُسْحَة لنا في حربه»(١).

[إستعراض صلاح الدين ذخائر ابن حسّان]

وقال ابن أبي طيّ ع: لمّا ملك صلاح الدّين مَنْبِج في شوّال صعِد المحصن، وجلس يستعرض أموال ابن حسّان وذخائره، فكانت ثلاثمائة ألف دينار، فرأى على بعض الأكياس والآنية مكتوباً «يوسف». فسأل عن هذا الاسم، فقيل: له ولدٌ يحبُّه اسمه يوسف، كان يدّخر هذه الأموال له. فقال السّلطان: أنا يوسف، وقد أخذتُ ما جُبّى لي (٢).

[جرح السلطان من الحشيشية]

ومن كتاب السلطان إلى أخيه العادل يقول: ولم يَنَلْني مِنَ الحشيشيّ الملعون إلاّ خَدْش قَطَرَتْ منه قَطَرَاتُ دم خفيفة، أنقطعت لوقتها، وأندملت لساعتها (٣).

[منازلة حلب]

وأما صلاح الدين فسار من عزاز فنازل حلب في نصف ذي الحجّة، وقامت العامّة في حفظها بكُل ممكن. وصابَرَها صلاح الدين شهراً، ثمّ تردَّدَتِ الرُّسُل في الصَّلْح، فترحَّل عنهم، وأطلَق لابنة نور الدين قلعة عزاز (٤).

⁽١) قارن النص بكتاب الروضتين ج ١ ق ٢/ ٢٤٨.

 ⁽۲) الروضتين ج ۱ ق ۲/۲۰۲ وفيه: «ما خُبيء لي»، وانظر: السلوك ج ۱ ق ۱/۲۱.

 ⁽٣) سنا البرق الشامي ١/٢١٦، الروضتين ج ١ ق ٢/٢٥٩، مراة الزمان ٨/٣٣٥، الدر المطلوب ٦٠، العبر ٤/٢١٢، البداية والنهاية ٢١/٣٩، السلوك ج ١ ق ١/٦١، النجوم الزاهرة ٢/٢٦، شذرات الذهب ٢٣٨/٤، ٢٣٩.

 ⁽³⁾ النوادر السلطانية ۵۲، سنا البرق الشامي ۲۰۹/۱۰ ـ ۲۱۲، الكامل في التاريخ ۲۰۲۱، ۱۲۳، الروضتين ج ۱ ق ۲۱۲۲، ۱۳۲۱، دسترج الكسروب ۲/۰۶، زبدة الحلب ۲۸/۲۸ ـ ۳۰، الروضتين ج ۱ ق ۲۱۲۲، تاريخ مختصر الدول ۲۱۲، تاريخ الزمان ۱۹۳، نهاية الأرب ۲۸/ ۳۸۱، المختصر في =

[كسوف الشمس]

قال ابن الأثير^(۱): وفي رمضان انكسفت الشمس ضَحْوة نهار، وظهرت الكواكب، حتّى بقي الوقت كأنّه ليلٌ مظلم، وكنت صبيّاً حينتذِ.

⁼ أخبار البشر ٣/٥٥، المغرب في حُلَى المغرب ١٤٧، الأعلاق الخطيرة ج ٣ ق ١/١١٧ (٢٥ هـ.)، نهاية الأرب ٢٨/ ٣٨١، الدر المطلوب ٢٠، العبر ٤/٢١٢، دول الإسلام ٢/٨٥، تاريخ ابن الوردي ٢/ ٧٨٦ مرآة الجنان ٣/٣٩٣، البداية والنهاية ٢١/ ٣٩٣، تاريخ ابن تاريخ ابن خلدون ٥/٢٥٧، السلوك ج ١ ق ١/١٦، ٢٢، شفاء القلوب ٩٢، تاريخ ابن سباط ١٤٦/١، ١٤٧.

⁽١) في الكامل ١١/ ٤٣٣

سنة اثنتين وسبعين وخمسمائة

[وعظ ابن الجوزيّ]

في المحرَّم وعَظَ ابن الجوزيِّ، وحضر الخليفة في المنظرة، وأزدحمت الأُمَم (١١).

[عرس ابنة ابن الجوزيّ]

قال^(۲): وكان عُرس ابنتي رابعة، وحضرت الجهة المعظّمة، وجهّزَتْها مِن عندها بمالِ كثير.

[نقص دجلة]

وفي صَفَر نقصت دِجْلة واخترقت حتّى ظهرت جزائر كثيرة، وكانوا يجرّون الشّفُن في أماكن^(٣).

[البَرَد في بغداد]

جاء في آب بردٌ شديد ببغداد، فنزلوا عن الأسطحة، ثمّ عاد الحَرّ^(٤).

[وعظ ابن الجوزي بجامع القصر]

وفي جُمَادَى الآخرة وَعَظْتُ بجامع القصر، واجتمع خلائق، فحزَرُوا الجَمْعَ بمائة ألف، وكان يوماً مشهوداً (٥٠).

⁽۱) المنتظم ١٠/٢٢٢ (١٨/٢٢٢).

⁽٢) ابن الجوزي في: المنتظم ١٠/٢٦٢ (١٨/٢٢٢).

⁽T) المنتظم ١٠/٢٢٢ (١٨/٢٢٧).

⁽٤) المنتظم ١٠/٢٢ (١٨/٢٢٧).

⁽٥) المنتظم ١٠/٦٣٢ (١٨/ ٢٢٨).

[وقعة السلجوقي الطامع بالسلطنة]

وفيها قارب بغداد بعضُ السَّلْجُوقيّة مِمَّن يروم السَّلْطنة، وجاء رسوله ليُؤذِن له في المجيء، فلم يلتفت إليه، فجمع جَمْعاً، ونهب قُرى، فخرج إليه عسكر فَتَواقَعُوا. وخرج جماعة. وعاد العسكر فعاد هو إلى النَّهْب، فردّ إليه العسكر وعليهم شُكر الخادم، فترحَّل إلى ناحية خُراسان(١).

[الزلزلة بالريّ وقزوين]

وفيها كانت بالرّيّ وقَزْوين زلزلةٌ عظيمة.

[معاقبة الطحّان]

وفيها قال رجلٌ لطحّان: أعطني كارة دقيق. فقال: لا. فقال: واللهِ ما أبرح حتّى آخُذ. فقال الطّحّان: وحقّ عليّ الّذي هو خير من الله ما أُعطيك. فشهد عليه جماعة، فَسُجِن أيّاماً. ثمّ ضُرِب مائة سَوْط، وسُوّد وجهُهُ وصُفِعَ والنّاس يرجمونه، وأُعيد إلى الحبس^(۲).

[جلوس ابن الجوزي]

وجلس ابن الجوزيّ في السّنة غير مرّة، يحضر فيها الخليفة^(٣).

[وقعة الكنز]

وفيها كانت وقعة الكنز مقدَّم السّودان بالصّعيد؛ جَمَعَ خَلْقاً عظيماً، وسار إلى القاهرة في مائة ألف ليُعيد دولة العُبَيْديّين، فخرج إليه العادل سيف الدّين، وأبو الهيجا الهكّاريّ، وعزّ الّدين مُوسَك، فالتقوا، فقُتِل الكنز، وما

⁽۱) المنتظم ۱۰/۱۲۲ (۱۸/۲۲۸، ۲۳۰).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٦٧ (١٨/ ٢٣٢).

⁽٣) أنظر المنتظم ١٠/ ٢٦٥ و٢٦٧ (١٨/ ٢٣١ و٢٣٢).

انتطح عَنْزٌ مع عَنْز، وقُتل خلْقٌ عظيم من جموعه، حتّى قِيل إنّه قُتِل منهم ثمانون ألفاً. كذا قال أبو المظفّر بن قزغليّ (١)، فالله أعلم بذلك.

[أخذ صلاح الدين منبج]

وفيها أخد صلاح الدين مَنْبِجَ مِن صاحبها قُطْب الدين ينال بن حسّان المَنْبِجِيّ، وكان قد ولاه إيّاها الملكُ نورُ الدّين لمّا انتزعها نور الدّين من أخيه غازي بن حسّان (٢).

[مصالحة صلاح الدين حلب]

وفيها حاصر صلاح الدِّين حلب مدَّة، . ثم وَقَعَ الصُّلْح، وأَبْقَى حلب على الملك الصَّالح ابن نور الدِّين وردِّ عليه عزاز^(٣).

[تخريب مصياف]

وعاد إلى مَصْياف، بلد الباطنيّة، فنصب عليها المجانيق، وأباح قتّلهم، وخرّب بلادهم، فضرعوا إلى شهاب الدّين صاحب حماه، خال السّلطان، فَسَأَل فيهم، فترحَّلُ عنهم.

 ⁽۱) في مرآة الزمان ٨/ ٣٣٨، وانظر: مرآة الجنان ٣٩٧/٣، والنجوم الزاهرة ٢٨٧، وشلرات اللهب ٢٤١/٤.

⁽٢) مرآة الجنان ٣/٣٩٣، زبدة الحلب ٣/ ٢٨.

⁽٣) الدرّ المطلوب ٦١.

⁽٤) سنا البرق الشامي ٢١٧/١، الكامل في التاريخ ٢١/١٦، زبدة الحلب ٣٠،٣، ٣١، مفرّج الكروب ٢٨/٤، تاريخ الزمان ١٩٣، الروضتين ج ١ ق ٢/٦٦، نهاية الأرب ٨٨/٢٨، الممختصر في أخبار البشر ٣/٩، العبر ٢١٢٤، دول الإسلام ٢/٥، ٨، ٨، ووقع فيه «ميصاف»، وهو غلط، البداية والنهاية ٢١/٤٢، ٢٩٥، ٢٩٥، تاريخ ابن الوردي ٢/٧، تاريخ ابن خلدون ٥/٧٥، تاريخ ابن سباط ١/١٤٧، شفاء القلوب ٩٢، تاريخ الأزمنة ٢٧، ١٧٧.

[بناء سور مصر]

وتوجَّه إلى مصر وأمَرَ ببناء السور الأعظم المحيط بمصر والقاهرة، وجعل على بنائه الأمير قراقوش (١).

قىال ابن الأثير (٢): دُوره تسعة وعشرون ألف ذراع وثلاثمائة ذراع بالقاسميّ (٣)، ولم يزل العمل فيه إلى أن مات صلاح الدّين.

وقال أبو المظفر ابن الجوزيّ^(٤): ضيّع فيه أموالاً عظيمة، ولم ينتفع به أحد وأمَرَ بإنشاء قلعة بجبل المقطّم وهي الّتي صارت دار السّلطنة.

قال ابن واصل^(٥): شرع بهاء الدّين قراقوش الأسَدي فيها، وقطع الخندق وتعميقه، وحَفَر واديه، وهناك مسجد سعد الدّولة، فدخل في القلعة؛ وحفر فيها بثراً كبيراً في الصَّخر. ولم يتأتّ هذا بتمامه إلاّ بعد موت السّلطان بمدّة. وبعد ذلك كمل السّلطان الملك الكامل ابن أخي صلاح الدّين العمارات بالقلعة وسكنها. وهو أوّل من سكنها. وإنّما كان سُكناه وسُكنى من قبلِه بدار الوزارة بالقاهرة (٢).

⁽۱) سنا البرق الشامي ۲۳۹/۱، الكامل في التاريخ ۲۱/۲۳۷، الروضتين ج ۱ ق ۲/۲۸۲، مرآة الجنان مفرّج الكروب ۲/۲۰، المختصر في أخبار البشر ۵۹/۳، العبر ۲۱۳/۶، مرآة الجنان ۳/۲۷، السلوك ج ۱ ق ۲/۲۱، المواعظ والاعتبار ۲/۶۲۷_ ۲۰۹، تاريخ ابن سباط ۱۲۸/۱، بدائع الزهور ج ۱ ق ۲/۲۲، النجوم الزاهرة ۲۸/۲، تاريخ الخلفاء ٤٤٧، شفاء القلوب ۹۳، تاريخ الأزمنة ۲۷۲، شذرات الذهب ۲/۲۶، مآثر الإنافة ۲/۳۰.

⁽٢) في الكامل ١١/٤٣٧.

⁽٣) في طبعة صادر من الكامل ٢١/ ٤٣٧ «الهاشمي» وكذا في: المختصر لأبي الفداء ٣/ ٥٩، أما في: السلوك ج ١ ق ٢ ٣/ ٢، وبدائع الزهور ج ١ ق ٢ ٢٤٢ «بذراع العمل»، أخبار الدول ٢/ ١٨٢، ١٨٣، سنا البرق الشامي ١/ ٢٣٩، ٢٤٠.

⁽٤) في مرآة الزمان ٨/ ٣٣٨.

⁽٥) في مفرّج الكروب ٢/٥١.

⁽٢) أخبار الدول ٢/١٨٣، تاريخ الأزمنة ١٧٧، شذرات الذهب ٢٤١/٤.

[سماع السلطان من السِّلَفيّ]

ثمَّ سافر إلى الإسكندريّة، وسمع فيها من السّلفيّ، وتردَّد إليه مرَّات عديدة، وأسمع منه ولديه الملك العزيز، والملك الأفضل(١٠).

[بناء تربة الشافعي]

ثم عاد إلى مصر وبنى تربة الشافعيّ رضي الله عنه (٢).

⁽۱) الروضتين ج ۱ ق ۲/ ۲۸۹، العبر ۲۱٤/۶، البداية والنهاية ۲۹۲/۲۹، السلوك ج ۱ ق ۱/۲۳.

 ⁽۲) سنا البرق الشامي ۱/۲۶۱، مرآة الزمان ۳۳۹/۸، المختصر في أخبار البشر ۹/۳۰، البداية والنهاية ۲/۲۹۱، السلوك ج ۱ ق ۱/۳۲، النجوم الزاهرة ۲/۷۹، تاريخ الخلفاء
 ۲۶۱، شفاء القلوب ۹۳، أخبار الدول ۱/۳۸۲.

سنة ثلاث وسبعين وخمسمائة

[العفو عن تتامش]

في أوَّلها دخل بغداد تتامِش الأمير الّذي خرج مع قَيْماز، ونزل تحت التّاج، وقَبَّلَ الأرض مراراً، فعُفي عنه، وأُعطي إمريّة (١).

[وعظ ابن الجوزي]

وحضر ابن الجوزيّ مرّتين فوعظ، وأمير المؤمنين يسمع، واجتمع خَلْق لا يُخصَون (٢٠).

وجَرَت ببغداد هَمْرَجة، وقُبِض على صاحب الحجاب وعلى جماعة (٣).

[فتوى لابن الجوزيّ]

قال ابن الجوزيّ (٤): وجاءتني فتوى (٥) في عَبْدِ وأَمَةٍ، أعتقهما مولاهما، وزوَّج أحدهما بالآخر، فبقيتْ معه عشرين سنة، وجاءت منه بأربعة أولاد، ثمّ بانَ الآن أنها أخته لأبُويَه، وقد وقعا في البُكاء والنّحيب. فعجبتُ من وقوع هذا، وأعلمتهما أنّه لا إثم عليهما، وبوجوب العُدّة، وأنّه يجوز له النّظر إليها نَظْره إلى أخته، إلاّ أنّه يخاف على نفسه.

⁽۱) المنتظم ۱۰/۲۲۹ (۱۸/ ۲۳۰)، مرآة الزمان ۱/۳٤۲.

⁽۲) المنتظم ۱۰/۲۱۹ (۱۸/ ۳۳۰)، دول الإسلام ۲/ ۸۸.

⁽٣) المنتظم ١٠/ ٢٦٩ (١٨/ ٣٣٥).

⁽٤) في المنتظم ١٠/ ٢٧١ (١٨/ ٢٣٧، ٢٣٨).

⁽٥) في الأصل: "فتوة".

[تكلُّم ابن الجوزيّ]

وفي ليلة رجب تكلَّمت تحت المنظرة الشّريفة، والخليفة حاضر، ومِن الغد حضرنا دعوة الخليفة الّتي يعملها كلَّ رجب، وحضر الدّولة، والعُلماء، والصُّوفيّة، وختمت ختْمة، وخلع على جماعةٍ كثيرة، وأنصرف مَن عادته الانصراف، وبات الباقون على عادتهم لسماع الأبيات، وفرَّق عليهم المال(١).

[بناء مسجد عظیم ببغداد]

وفيها عمل الخليفة مسجداً عظيماً ببغداد، وجعل إمامه حنبليّاً، وزَخْرفه. وتقدَّم إليَّ فصلّيت فيه التّراويح(٢).

وتكلَّمت في رمضان في دار صاحب المخزن وازدحموا، وكان الخليفة حاضراً (٣٠٠).

[هبوب الريح ببغداد]

وفي شوّال هبّت ريخٌ عظيمة ببغداد، فزلزلت الدُّنيا بتُرابِ عظيم، حتّى خيف أن يكون القيامة (٤).

[وقوع البَرَد]

وجاء بَرَدٌ ودام ساعة، ووقعت مواضع على أقوام، ومات بعضهم (٥٠).

[اغتيال الوزير ابن رئيس الرؤساء]

وتهيَّأ الوزير ابن رئيس الرؤساء للحجّ، فقيل إنَّه اشترى ستَّمائة جَمَل،

⁽۱) المنتظم ۱۰/ ۲۷۱ (۱۸/ ۲۳۸).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٧٢ (١٨/ ٢٣٩).

⁽٣) المنتظم ١٠/ ٢٧٢ (١٨/ ٢٣٩).

⁽٤) المنتظم ١٠/ ٢٧٢ (١٨/ ٢٣٩)، الكامل في التاريخ ١١/ ٤٤٦.

⁽٥) المنتظم ١٠/ ٢٧٢ (١٨/ ٢٣٩).

منها مائة للمنقطعين، ورحل في رابع ذي القعدة، فلمّا وصل في الموكب إلى باب قطفتا (١) قال رجل: يا مولانا أنا مظلوم. وتقرّب، فزجره الغلمان، فقال: دعوه. فتقدّم إليه، فضربه بسِكّين في خاصرته، فصاح الوزير: قتلني. ووَقَعَ وانكشف رأسه، فغطّى رأسه بكمّه على الطّريق، وضُرِب ذلك الباطنيّ بسيف. فعاد وضرب الوزير، فَهَبَرُوه بالسّيوف. وقيل: كانوا اثنين، وخرج منهم شابّ بيده سِكّين فقيّل، ولم يعمل شيئاً، وأُحْرِقَ الثّلاثة. وحُمِل الوزير إلى داره، وجُرِح الحاجب.

وكان الوزير قد رأى أنّه مُعَانِق عثمان رضي الله عنه، وحكى عنه ابنه أنّه اغتسل قبل خروجه، وقال: هذا غُسْل الإسلام فإنّي مقتولٌ بلا شكّ. ثمّ مات بعد الظّهر، ومات حاجبه باللّيل.

وعُمِل عزاء الوزير، فلم يحضره إلاّ عددٌ يسير، فتُعُجِّب من هذه الحال فإنّه قد يكون عزاء تاجر أحسن من ذلك. وكان انقطاع الدّولة إرضاءً لصاحب المخزن.

ولما كان في اليوم الثّاني لم يقعد أولاده، فلمّا علم السّلطان بالحال أمّرَ أرباب الدّولة بالحضور فحضروا. وتكلّمتُ على كُرسيّ(٢).

[حجابة ابن طلحة الباب]

ثمّ وُلِّي ابن طلحة حجابة الباب، وبعث صاحب المخزن بعلامة بعد ثلاثٍ إلى الأمير تتامش فحضر، فوكّل به في حُجرةٍ من داره، ونفّذ إلى بيته، فأخِذت الطَّبْل والكوسات، وكلّ ما في الدار. واختلفت الأراجيف في دينه، وقيل إنه اتُّهم بالوزير، وخيف أن تكون نيّته رَزِيّة للخليفة، فقيل إنّه كاتب أمراء خُراسان، وما صحّ ذلك.

⁽۱) قطفتا: اسم قرية صارت الآن من محلّات بغداد، وكانت مجاورة لمقبرة الشيخ معروف الكرخي.

 ⁽۲) المنتظم ۱۰/۲۷۳، ۲۷۲ (۲۵/۱۵، ۲٤۱)، الكامل في التاريخ ۲۱/٤٤۱، ۲٤۷، الكامل في التاريخ ۲۱/٤٤۱، ۲۷۵، الروضتين ج ۱ ق ۲/۷۱۵، ۷۱۵، مرآة الزمان ۳۲۸۸ ۳۶۹. دول الإسلام ۲۸۲/۲ مختصر التاريخ لابن الكازروني ۲۲۱، خلاصة الذهب المسبوك ۲۷۹.

وناب صاحب المخزن في الوزارة^(١).

[فتنة اليهود]

وجاء أهل المدائن فشكوا من يهود المدائن، فإنهم قالوا لهم: قد آذَيتمونا بكثرة الأذان. فقال المؤذّن: لا نبالي تأذّيتم أو لا. فتناوشوا وجَرَت بينهم خصومة استظهر فيها اليهود، فجاء المسلمون مستصرخين إلى صاحب المخزن، فأمر بحبس بعضهم، ثمّ أطلقهم فاستغاثوا يوم الجمعة بجامع الخليفة، فخقف الخطيب. فلمّا فرغت الصّلاة استغاثوا، فخرج إليهم الجُنْد فضربوهم ومنعوهم، فانهزموا. فغضب العوام نُصْرة للإسلام، فضجوا وشتموا، وقلعوا طوابيق الجامع، وضربوا بها الجُنْد وبالآجُرّ، وخرجوا فنهبوا المخلطين (۲)، لأنّ أكثرهم يهود. فوقف صاحب الباب بيده السيف مجذوباً، وحمل على النّاس ثانية فرجموه، وانقلب البلد، ونهبوا الكنيسة، وقلعوا شبابيكها، وقطعوا [التوارة] (۳)، واختفى اليهود. فتقدَّم الخليفة بإخراب كنيسة المدائن، وأن تُجعل مسجداً (٤).

[خروج لصوص من الحبس]

وبعد أيّام خرج من الحبس لصوص قطعوا الطّريق، فَصُلِبوا بالرّحبة، وكان منهم شابٌّ هاشميّ (٥٠).

[وقعة الرملة]

وفيها وقعة الرملة، فسار السّلطان صلاح الدّين من القاهرة إلى عسقلان

⁽۱) المنتظم ۱۰/ ۲۷۶، ۲۷۵ (۱۸/ ۲۶۱، ۲۶۲).

⁽٢) في المنتظم (طبعة حيدر أباد) ١٠/ ٢٧٥ «المخلطيين»، وفي (طبعة دار الكتب العلمية) ١٨/ ٢٤٢ ، والمثبت يتفق مع: الكامل في التاريخ ١١/ ٤٤٨ .

⁽٣) في الأصل بياض، والمستدرك من: المنتظم، والكامل.

⁽٤) المنتظم ١٠/ ٧٧٥ (١٨/ ٢٤٢)، الكامل في التاريخ ١١/ ٤٤٧، ٤٤٨، البداية والنهاية ١٢/ ٢٩٨.

⁽٥) المنتظم ١٠/ ٢٧٥ (٢٤٢/١٨)، الكامل في التاريخ ١١/ ٤٤٨.

فَسَبى وغنم، وسار إلى الرملة، فخرج عليه الفِرَنج مطلبين وعليهم البِرِنس أرناط صاحب الكَرك، وحملوا على المسلمين، فانهزموا، وثبت السلطان وابن أخيه المظفّر تقيّ الدّين عمر، ودخل اللّيل، وأحتوَت الملاعين على أثقال المسلمين، فلم يبق لهم قدرةٌ على ماء ولا زاد، وتعسّفوا تلك الرّمال راجعين إلى مصر، وتمزّقوا وهلكت خيلهم.

ومن خبر هذه الوقعة أنّ الفقيه عيسى أُسِر، فأفتداه السلطان بستين ألف دينار، وكان موصوفاً بالشّجاعة والفضيلة، أُسِر هو وأخوه ظهير الدّين، وكانا قد ضلّا عن الطّريق بعد الوقعة. ووصل صلّاح الدّين إلى القاهرة في نصف جُمَادى الآخرة.

قال ابن الأثير (١١): رأيت كتاباً بخطّ يده كتبه إلى شمس الدولة تُورانشاه، وهو بدمشق، يذكر الوقعة، وفي أوّله:

فَـذَكَـرْتُـك والخطّيّ يخطُـرُ بينَنَـا وقـد نَهَلَـتْ منّـا المَثقَّفَةُ السُّمْـرُ(٢)

ويقول فيه: لقد أشرفنا على الهلاك غير مرّة، وما نجَّانا الله إلاّ لأمرٍ يريده. وما ثبتت إلاّ وفي نفسها أمرُ

وقال غيره: انهزم السلطان، والنّاس لم يكن لهم بلدٌ يلجأون إليه إلا مصر، فسلكوا البرّية، ولقوا مشاقاً (٢)، وقلَّ عليهم القُوت والماء، وهلكت خيلهم، وفُقِد منهم خلْقٌ.

ودخل السلطانُ القاهرةَ بعد ثلاثة عشر يوماً، وتواصل العسكر، وأُسَرَ الفِرَنج فيهم. واستشهد جماعة منهم: أحمد ولد تقيّ الدّين عمر المذكور، وكان شابّاً حَسَناً له عشرون سنة.

⁽١) في الكامل ٢١/ ٤٤٣، ٤٤٣.

 ⁽٢) البيت لأبي عطاء السندي. (أنظر كتاب: «الزهرة» لأبي بكر محمد بن سليمان الإصفهاني ٢٧٨).

⁽٣) في الأصل: «مشاق».

وكان أشدّ النّاس قتالاً يومئذ الفقيه عيسى الهكّاريّ. وحملت الفِرَنج على صلاح الدّين، وتكاثروا عليه، فأنهزم يسيراً قليلاً قليلاً. وكانت نَوْبةً صَعْبَة (١).

[نزول الفرنج على حماه]

وفيها نزلت الفرنج على حماه، وهي لشهاب الدين محمود بن تِكِش خال السلطان، وكان مريضاً، وكان الأمير سيف الدين المشطوب قريباً من حماه، فدخلها وجمع الرجال، فزحفت الفِرَنج على البلد، وقاتلهم المسلمون قتالاً شديداً مدَّة أربعة أشهر، ثمّ ترخلوا عنها.

وأمّا السّلطان فإنّه أقام أيّاماً بمن سَلِم معه، ثمّ خرج من مصر، وعيّد بالبِرْكة، ثمّ كمل عدّة جيشه، فَبَلَغهُ أمرُ حماه، فأسرع إليها، فلمّا دخل دمشق تحقّق رحيل الفِرَنج عن حماه (٢).

[عصيان ابن المقدّم ببعلبك]

وعصى الأمير شمس الدين محمد بن المقدَّم ببَعْلَبَك، فكاتبَه السّلطان وترفَّق به، فلم يُجِب، ودام إلى سنة أربع (٣).

⁽۱) النوادر السلطانية ۵۲، ۵۳، سنا البرق الشامي ۲۵۲/۱ ۲۶۲، البرق الشامي ۳۱ ۵۰. ۵۰ الكوادر السلطانية ۵۲، ۵۰، ۵۰ مفرّج الكروب ۵۰/ ۸۷۰ مرآة الروضتين ج ۱ ق ۲/ ۱۹۹ منورج ۷۰ مفرّج الكروب ۵۰/ ۸۷۰ الروضتين ج ۱ ق ۲/ ۱۹۹ منورج ۱۹ تاريخ الزمان ۱۹۶، ۱۹۶، المغرب في حلى المغرب ۲۱۸، مرآة الزمان ۱۹۲۸، ۳۲۳، نهاية الأرب ۲۸/ ۳۹۳، ۳۹۳، المختصر في أخبار البشر ۹/ ۵۰، ۲۰، العبر ۲۱/ ۲۱۲، ۲۱۷، دول الإسلام ۸۲، ۵۰، مرآة الجنان ۳/ ۳۹۸، البداية والنهاية ۲۱/ ۲۹۷، تاريخ ابن الوردي ۲/ ۸۷، الدر المطلوب ۹۳، تاريخ ابن خلدون ۵/ ۲۲، السلوك ج ۱ ق ۱/ ۱۲، شفاء القلوب ۲۸، ۹۷، تاريخ ابن حمدون ۱۵۲، ۱۷۷، شدرات الذهب ۲/ ۲۶۲.

⁽٢) البرق الشامي ٧/٥٠ ـ ٥٥، سنا البرق الشامي ٢٦٦١ ـ ٢٦٦، النوادر السلطانية ٥٣، الكامل في التاريخ ٢١/٤٤٤، مفرج الكروب ٢/٤٢، زبدة الحلب ٣/٤٣ ـ ٣٦، الحروضتين ج ١ ق ٢/٥٠٠ ـ ٧٠٠، مراة الزمان ٣٤٣/٨، المختصر في أخبار البشر ٣/٠٠، العبر ٤/٧٠، دول الإسلام ٢/٨٠، تاريخ ابن الوردي ٢/٨٨، البداية والنهاية ٢١٨/١، مرآة المجنان ٣/٣٩، تاريخ ابن خلدون ٢٩٢/٥، السلوك ج ١ ق ١/٥٠، شفاء القلوب ٩٤، ٥٥، الإعلام والتبيين للحريري ٣١، تاريخ الأزمنة ١٧٧، ١٧٨.

⁽٣) البرق الشامي ٩٢/٣، ٩٣، سنا البرق الشامي ٢٩٣/١، ٢٩٤، الكامل في التاريخ =

[كتاب ابن المشطوب بقتلى الفرنج]

وجاء كتاب ابن المشطوب أنّ الّذي قُتِل من الفِرَنج على حماه أكثر من ألف نَفْس.

[مطالعة القاضي الفاضل بقتل الوزير]

ووردت مطالعة القاضي الفاضل إلى صلاح الدّين تتضمّن التّوقيع لقتل الوزير عضُد الدّين ابن رئيس الرؤساء، وفيها: ﴿وَمَا رَبُّكَ بِظَلَّم للْعَبِيد﴾ (١) فقد كان _ عفا الله عنه _ قتل وَلَدي الوزير ابن هُبَيْرة، وأزهق أَنفُسَهما وجماعة لا تُخصَى، وهذا البيت، بيت ابن المسلمة، عريق في القتل، وجدّه هو المقتول بيد البساسيريّ.

ثمّ قال: وقد ختمت له السّعادة بما حتّمت به له الشّهادة، لا سيّما وهو خارج من بيته إلى بيت الله، ووقع أجره على الله (٢).

إنّ المَساءَةَ قد تَسُرُّ وربَّما كان السّرورُ بما كرهتَ جديرا إنّ السوزير وزير آل محمد أَوْدَى فمن يَشْنَاكَ كان وزيرا (٣)

وهما في أبي سَلمة الخلال وزير بني العبّاس قبل أن يستخلفوا.

⁼ ۱۱/ ۱۵۰، ۲۵۱، تاریخ الزمان ۱۹۶، الأعلاق الخطیرة ج ۲/۸۸، مراّة الزمان ۱۹۲، ۳۲۲، المختصر في أخبار البشر ۳/ ۲۱، دول الإسلام ۲/ ۸۷، تاریخ ابن الوردي ۲/ ۸۸، البدایة والنهایة ۲۹۳/۱۲، تاریخ ابن خلدون ۹/ ۲۹۳، السلوك ج ۱ ق ۱/ ۲۰، تاریخ ابن سباط ۱/ ۱۸۰۰.

⁽١) سورة نُصُّلَت، الآية ٤٦.

 ⁽۲) الكامل في التاريخ ۲۱/۱۶، ۲۶۱، المنتظم ۲۰/۲۷۳، ۲۷۲ (۲۱، ۲٤۱، ۲۲۱)،
 تاريخ مختصر الدول ۲۱۲، الروضتين ج ۱ ق ۲۱۶۷، المختصر في أخبار البشر ۳/۲۱،
 تاريخ ابن الوردي ۲/۸۸، البداية والنهاية ۲۱/۲۹۸، مرآة الجنان ۳۹۸، تاريخ ابن سباط ۱/۱۰۱.

 ⁽٣) البيتان في: وفيات الأعيان ١٩٦/٢، وتاريخ الإسلام (١٢١ ـ ١٤٠ هـ.) ص ٤٠١، والروضتين ق ٢/ ٧١٥، والبرق الشامي ٩٠/٣، وسنا البرق الشامي ١٨٩/١، وقائلهما هو: سليمان بن المهاجر البجلي (تاريخ الطبري).

سنة أربع وسبعين وخمسمائة

[جلوس ابن الجوزي في عاشوراء]

قال ابن الجوزي (١): تكلمت في أوّل السَّنة وفي عاشوراء تحت المنظرة، وحضر الخليفة، وقلت: لو أنّي مثلّت بين يَدَي السُّدَة الشَّريفة لقلت: يا أمير المؤمنين، كُنْ الله سبحانه مع حاجتك إليه، كان لك مع غناه عنك. إنّه لم يجعل أحداً فوقك، فلا تَرْضَ أن يكون أحدٌ أشكر له منك. فتصدَّق أمير المؤمنين يومئذ بصَدَقات، وأطلَقَ محبوسين.

[كسوف القمر والشمس]

وأنكسف القمر في ربيع الأوّل، وكُسِفَتَ الشّمس في التّاسع والعشرين منه أيضاً (٢).

[ولادة ثلاثة توائم]

ووُلِدت امرأةٌ من جيراننا ابناً وبنتين في بطن، فعاشوا بضع يوم^(٣).

[تجديد قبر أحمد بن حنبل]

وفيها جدَّد المستضيء قبرَ أحمد بن حنبل رحمه الله، وعُبِل له لوحٌ فيه: «هذا ما أمر بعمله سيّدنا ومولانا الإمام المستضيء بأمر الله أمير المؤمنين». هذا في رأس اللَّوح. وفي وسطه: «هذا قبر تاج السُّنّة، ووحيد الأمّة، العالم، العابد، الفقيه، الزّاهد، الإمام أبي عبدالله

⁽١) في المنتظم ١٠/ ٢٨٣ (١٨/ ٢٤٨).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٨٣ (١٨/ ٢٤٨)، الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٥٣.

⁽٣) المنتظم ١٠/ ٢٨٢ (١٨/ ١٤٢).

أحمد بن محمد بن حنبل الشَّيْبانيِّ رحمه الله، تُوُفِّي في تاريخ كذا». وكُتِب حول ذلك آية الكرسيِّ (١).

[تكلّم ابن الجوزي في جامع المنصور]

وتكلّمت في جامع المنصور، فاجتمع خلائق، وحُزِر الجمع بمائة ألف وتاب خلق، وقُطّعت شعورهم.

ثمّ نزلتُ فمضيتُ إلى قبر أحمد، فتبِعَني من حُزِر بخمسة الآف(٢).

[إطلاق تتامش]

وفيه أُطْلِق الأمير تتامش إلى داره^(٣).

[عمل الدكة بجامع القصر]

وتقدَّم المستضيء بعمل دكّة بجامع القَصْر للشّيخ أبي الفتح بن المُنَى الحنبليّ، وجلس فيها، فتأثّر أهل المذاهب من عمل مواضع للحنابلة (٤).

[حديث ابن الجوزي عن نفسه]

وكان الوزير عضُد الدين ابن رئيس الرؤساء يقول: ما دخلت قطّ على الخليفة إلا جرى ذكر فلان، يعنيني، وصار لي اليوم خمسُ مدارس، ومائة وخمسون^(٥) مصنَّفاً في كلّ فنّ. وتاب على يدي أكثر من مائة ألف، وقطعت أكثر من عشرة الآف^(٢) طايلة، ولم يُرَ واعظٌ مثل جَمْعي، فقد حضر مجلسي الخليفة، والوزير، وصاحب المخزن، وكبار العلماء، والحمد لله^(٧).

⁽۱) المنتظم ۱۰/۲۸۳، ۱۸۶ (۱۸/۸۶۲، ۲۶۹).

^{. (}٢) المنتظم ١٠/ ٢٨٤ (١٨/ ٢٤٩)، دول الإسلام ٢/ ٨٧، تاريخ الخميس ٢/ ٤٠٩.

⁽٣) المنتظم ١٠/ ١٨٤ (١٨/ ٤٩١).

⁽٤) المنتظم ١٠/ ١٨٤ (١٨/ ٢٤٩).

⁽٥) في المنتظم: «مائة وثلاثون».

⁽٦) في المنتظم: «أكثر من عشرين ألف،

⁽٧) المنتظم ١٠/ ١٨٤ (١٨/ ٤٩١، ٢٥٠).

[حكاية ابن الجوزيّ عن الرشيد]

وفي رجب عمل المستضيء الدّعوة، ووعظت وبالَغْت في وعظ أمير المؤمنين، فممّا حكيت له أنّ الرّشيد قال لشّيبان: عِظْني. قال: لأن تصحب من يؤمّنك حتّى من يخوّفك حتّى يدركك الأمنُ خيرٌ لك من أن تَصْحَب من يؤمّنك حتّى يُدركك الخوف.

قال: فسِّر لي هذا.

قال: من يقول لك أنت مسؤول عن الرعيّة فأتّقِ الله، أَنْصَح لك ممّن يقول: أنتم أهلُ بيتٍ مغفورٌ لكم، وأنتم قرابة نبيّكم.

فبكى الرشيد حتى رحمه من حوله.

وقال له في كلامه: يا أمير المؤمنين إن تكلّمت خفت منك، وأن سكتّ خفتُ عليك، وأنا أُقَدِّم خوفي عليك على خوفي منك(١).

[ظهور مشعبذ]

وفي رمضان جاء مُشَعْبِذ فذكر أنّه يُضرب بالسّيف والسِّكْين فلا تعمل فيه، لكن بسيفه وسِكّينه خاصّة (٢).

[قَتل ابن قرايا الرافضيّ]

وفيه أُخِذَ ابن قرايا الذي ينشد على الدّكاكين من شِعْر الرّافضة، فوجدوا في بيته كتباً في سبّ الصَّحابة، فقُطِع لسانه ويده، وذُهب به إلى المارستان، فرَجَمَتْه العوامّ بالآجُرّ، فهرب وسبح وهم يضربونه حتّى مات. ثمّ أخرجوه وأحرقوه، وعملت فيه العامة كان وكان. ثمّ تتبّع جماعة من الرّوافض، وأحرِقت كُتُبٌ عندهم، وقد خمدت جَمْرتهم بمرّة، وصاروا أذَلّ من اليهود (٣).

⁽۱) المنتظم ۱۰/ ۲۸۰ (۱۸/ ۲۵۰).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٨٥ (١٨/ ٢٥١).

⁽٣) المنتظم ١٠/ ٢٨٥، ٢٨٦ (١٨/ ٢٥١)، دول الإسلام ٢/ ٨٧، العبر ٢١٨/٤، مرآة الجنان =

[امتناع الركب العراقي]

ولم يخرج الرَّكب العراقيّ لعدم الماء والعشب، وكانت سنة مُقحِطة. وحجَّ مَن حجّ على خَطَر. ورجع طائفة فنزلت عليهم عرب، فأخذوا أكثر الأموال، وقتِل جماعة(١).

[هبوب ريح وظهور نار ببغداد]

وفي ذي القعدة هبت ببغداد ريح شديدة نصف اللّيل، وظهرت أعمدة مثل النّار في أطراف السّماء كأنّها تتصاعد من الأرض، واستغاث النّاس استغاثة شديدة. وبقي الأمر على ذلك إلى السّحر(٢).

[جلوس ابن الجوزي يوم عَرَفَة]

وجلستُ يوم عَرَفَة بباب بدر، وأمير المؤمنين يسمع (٣).

[اجتماع الفرنج عند حصن الأكراد]

وفيها اجتمعت الفِرَنج عند حصن الأكراد، وسار السّلطان الملك الناصر صلاح الدّين فنزل على حمص في مقابلة العدوّ⁽³⁾.

[تسلم صلاح الدين بعلبك]

فلمّا أمِن من غاراتهم سار إلى بَعْلَبَكّ، فنزل على رأس العين، وأقام هناك أشهراً يراود شمس الدّين ابنَ المقدَّم على طاعته، وهو يَأْبَى. ولم يزل الأمرُ كذلك إلى أن دخل رمضان، فأجاب شمس الدّين إلى تسليم بَعْلَبَكَ على عِوضِ طَلَبَه. فتسلّمها السّلطان، وأنعم بها على أخيه المعظّم شمس الدّولة

⁼ ٣٩٨ ٣٩٩، ٣٩٩، شذرات الذهب ٤/٢٤٦.

⁽۱) المنتظم ۱۰/۲۸۲ (۱۸/۲۰۲).

⁽٢) المنتظم ١٠/ ٢٨٧ (١٨/ ٢٥٢)، تاريخ الخلفاء ٤٤٨، أخبار الدول ٢/ ١٨٢.

⁽٣) المنتظم ١٠/ ٢٨٧ (١٨/ ٢٥٣).

⁽٤) البرق الشامي ٣/ ٩٤، نسأ البرق الشامي ١/ ٢٩٤.

تُورانشاه بن أيوب. وسار إلى دمشق في شوال. ثمّ أقطع أخاه شمسَ الدّولة تُورانشاه بمصر، واستردّ منه بَعْلَبَك (١٠).

[قتل هنفري الفرنجي]

قال ابن الأثير (٢): في ذي القعدة أغارت الفِرَنْج على بلاد الإسلام وعلى أعمال دمشق، فسار لحربهم فَرُّخْشاه ابن أخي السلطان في ألف فارس، فألتقاهم وألقى نفسه عليهم، وقتل مِن مقدّميهم جماعة، منهم هنفري (٣)، وما أدراك ما هنفري أكان يُضْرَب المَثلُ في الشّجاعة (٤).

[غارة البرنس على شيزر]

وفيها أغار البِرِنْس صاحب أنطاكيّة على ناحية شَيْزَر^(ه).

[غارة صاحب طرابلس]

وأغار صاحب طرابلس على الثُّرْكُمان(٦).

⁽۱) البرق الشامي ٣/ ٩٣ ـ ٩٥ و ١٣٢ و ١٣٤ ، ١٤٥، سنا البرق ٢٩٣١، ٢٩٤، الكامل في التاريخ ٤٥١، ١٥١، تاريخ الزمان ١٩٤، الأعلاق الخطيرة ٤٨/٢، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٢١، دول الإسلام ٢/٧، تاريخ ابن الوردي ٢/٨٨، البداية والنهاية (٢٩٣/، تاريخ ابن سباط ١/ ٢٥٢، السلوك ج١ ق ١/ ٢٥، تاريخ ابن سباط ١/ ٢٥٢.

⁽٢) في الكامل ٢١/ ٤٥٢، ٣٥٤.

⁽٣) هو في المراجع الأجنبية: HonFroi أو Humphrey of Toron وهو صاحب حصن بانياس.

⁽٤) البرق الشامي ٣/٧١، سنا البرق الشامي١/٣١، مفرّج الكروب ٢/٧٧، ٧٧، كتاب البروضتين ٢/٢، مراّة الزمان ٨/ ٣٥١، العبر ٢١٩/٤، مراّة البنان ٣٩٩٣، البداية والنهاية ٢١٤/٠٣، السلوك ج ١ ق ١/٧١، شلرات اللهب ٢٦٤٤، عقد الجمان (مخطوط) ٢٦٤/١، ب.

⁽٥) البرق الشامي ٣/ ١٥٥، سنا البرق الشامي ٢/ ٣٢٢، الروضتين ٨/٢، الكامل في التاريخ ١١/ ٤٥٣، السلوك ج ١ ق ٢/ ٢٧، البداية والنهاية ٢١٠ / ٣٠٠، عقد الجمان ٢١٣ / ٢١٣ ب.

⁽٦) البرق الشامي ٣/١٥٥، سنا البرق الشامي ١/٣٢٢، الكامل في التاريخ ٤٥٣/١١. السلوك ج ١ ق ١/٦٢، تاريخ طرابلس السياسي والحضاري (تأليفنا) ١/٥٢٥.

[إنعام السلطان على الملك المظفر]

وفيها أنعم السلطان على ابن أخيه الملك المظفَّر تقيّ الدّين عمر بن شاهنشاه بن أيّوب بحماه، والمَعَرّة، وفامية، ومَنْبج، وقلعة نجم، فتسلّمها وبعث نوّابه إليها، وذلك عند وفاة صاحب حماه شهاب الدين محمود خال السّلطان (۱).

ثمّ تَوَجَّه إليها الملك المظفَّر تقيّ الدِّين، ورُتِّب في خدمته أميران كبيران شمس الدِّين ابن المقدَّم، وسيف الدِّين عليّ بن المشطوب، فكانوا في مقابلة صاحب أنطاكية. ورتب بحمص ابن شيركوه في مقابلة القومص (٢).

[إنشاء سور القاهرة]

وجاء من إنشاء الفاضل: وأمّا ما أمر به المولى من إنشاء سور القاهرة، فقد ظهر العمل، وطلع البناء، وسلكت به الطّريق المؤدّية إلى السّاحل بالمقسم. والله يُعَمِّر المولى إلى أن يراه نطاقاً على البلدين (٣)، وسواراً أو سوراً يكون الإسلام به مُحَلَّى اليدين (٤)، والأمير بهاء الدّين قراقوش ملازم للإستحثاث (٥) بنفسه ورجاله (٢).

⁽١) دول الإسلام ٢/ ٨٧، العبر ٢١٩/٤، مرآة الجنان ٣٩٩٧.

⁽٢) البرق الشامي ٣/ ١٥٥، ١٥٦، سنا البرق الشامي ١/ ٣٢٣.

⁽٣) في سنا البرق: «نطاقاً مستديراً على البلدين».

⁽٤) في المصادر: «محلَّى اليدين، مُحَلاً الضَّدّين».

⁽٥) في مفرج الكروب: «الاستحتاث».

⁽٢) سنّنا البرق الشامي ١/٢٩٦، ٢٩٧، الروضتين ٢/٢، مضرّج الكروب ٢/٢، الدرّ المطلوب ٦٥، البداية والنهاية ٢١/٧٩٧ (٥٧٣ هـ.)، أخبار الدول ٢/١٨٧.

[ختام كتاب المنتظم] قلت: وهذه السّنة هي آخر «المنتظم»(١).

⁽۱) آخره ترجمة «عمّار بن سلامة» رقم ۳۷۰، طُبع منه في حيدر أباد خمسة أجزاء من ٥ إلى ١٠ سنة ١٣٥٨ هـ. ثم أصدرته دار الكتب العلمية في بيروت كاملاً في ١٨ جزءاً بتحقيق: محمد عبد القادر عطا، وراجعه نعيم زرزور ١٤١٢ هـ. / ١٩٩٢ م.

وقال سبط ابن الجوزي: انتهى تاريخ جدّي المسمّى «بالمنتظم» في هذه السنة، وله تاريخ صغير سمّاه «درّة الإكليل» ذيّل من هذه السنة إلى أن حُمل إلى واسط في سنة تسعين وخمسمائة، غير أنه لم يستقص فيه الحوادث، ويقال إن منه دخل عليه الحادث، والله أعلم. (مرآة الزمان ٨/٣٥٣).

سنة خمس وسبعين وخمسمائة

[الظفر بذيل كتاب المنتظم]

أجاز لنا شيخنا أبو بكر محفوظ بن معتوق^(۱) بن أبي بكر بن عمر البغداديّ أنّ البُزُوريّ التّاجر قد ذيّل «المنتظم» في عدّة مجلّدات ذهبت في أيّام التّتار الغازانية سنة تسع وتسعين وستمائة من خزانة كُتُبه الموقوفة بتُربته بسفح قاسيون، ثمّ ظَفرنا ببعضها. فذكر في حوادث هذه السّنة، سنة ٥٧٥، أنّ أبا الحسن عليّ بن حمزة بن طلحة حاجب باب النّوبيّ عُزِل بعميد الدّين أبي طالب يحيى بن زيادة.

[وصول البشارة إلى بغداد بكسر الفرنج]

وفي صفر وصل إلى بغداد ثلاثة عشر نجّاباً، نَقَّذَهم صلاح الدّين يبشّرون بكسرة الفِرَنج، فضُرِبت الطّبول على باب النّوبيّ، وخُلِع عليهم. وأخبروا أنّ صلاح الدّين حارب الفِرَنج ونُصِر عليهم، وأسَرَ أعيانهم، وأسَرَ عليهم، الرّملة، وصاحب طَبَريّة.

[وقعة مرج العيون]

قلت: وهي وقعة مَرْج العيون^(٢).

ومن حديثها أنّ صلاح الدّين كان نازلاً بتلّ بانياس، بين سراياه، فلمّا استَهلّ المحرّم ركب فرأى راعياً، فَسَأَله عن الفِرَنج، فأخبر بقربهم، فعادَ إلى مخيّمه، وأمر الجيش بالركوب، فركبوا، وسار بهم حتّى أشرف على الفِرَنج

⁽١) - توفي سنة ٦٩٤ هـ. أنظر معجم شيوخ اللهبي ٤٤٧ رقم ٦٤٩.

⁽٢) مرج العيون، أو مرجعيون: إقليم ومدينة في جنوب «لبنان» شرقي مدينة صور.

وهم في ألف قنطاريَّة، وعشرة الآف مقاتل مِن فارس وراجل، فحملوا على المسلمين، فثبتوا لهم، وحمل المسلمون عليهم فولّوا الأَدْبار، فقُتِل أكثرهم، وأُسِرَ منهم مائتان وسبعون أسيراً، منهم: بادين (١) مقدَّم الدّاويّة، وأوذ (٢) ابن القومصة، وأخو صاحب جُبيّل، وابن صاحب مَرَقية، وصاحب طبريَّة.

فأمّا بادين بن بارزان فاستَفَكَّ نفسه بمبلغ (٣) وبألف أسير من المسلمين. واستَفَكَّ الآخرُ نفْسَه بجملة. ومات أُوذ في حبّس قلعة دمشق. وانهزم من الوقعة ملكهم مجروحاً. وأبلى في هذه الوقعة عزّ الدّين فَرُّخشاه بلاءً حَسَنا (٤).

[الظُّفَر ببُطْسَتَين للفرنج]

وَٱتَّفْقَ أَنَّ فِي يَوْمُ الوَقِعَةُ ظَفْرِ أُسطولُ مَصْرِ بَبُطْسَتَين^(ه)، وأسروا ألف نفس، فللَّه الحمدُ على نصره^(٦).

[إنهزام سلطان الروم أمام المظفّر تقيّ الدين]

وكان قَلِيج أرسلان سلطان الروم طلب رَغْبَان (٧)، وزعم أنّه من

⁽١) هو بلدوين الإبليني Baldwin of ibelin صاحب الرملة.

⁽٢) هكذا بالذال المعجمة. وفي السلوك ج ١ ق ١/ ٨٨، وتاريخ ابن سباط ١/١٥٥ «أود» بالذال المهملة.

⁽٣) المبلغ هو مائة وخمسون ألف دينار.

⁽٤) البرق الشامي ٢٢/١٣ ـ ١٦٩، سنا البرق الشامي ٢٢١/١ ـ ٣٢٨، الكامل في التاريخ البرق الشامي ٢١/ ٣٥٠، والبداية والنهاية ٢١/ ٣٠٠، مضمار الرحة التحقائق ٢٦ ـ ١٨ و ٢٠، مفرّج الكروب ٢/ ٧٠، ٢٠، شفاء القلوب ٢٠، النجوم الزاهرة ٧/ ١٥٠، تاريخ ابن سباط ١/ ١٥٥، ١٥٦، الإعلام والتبيين ٣٢، دول الإسلام ٢/ ٨٨، السلوك ج ١ ق ١/ ٢٨، شذرات الذهب ٢٤٤٠، عقد الجمان ٢١٣/١٢ ب، ٢١٤ أ.

⁽٥) البُعْسَة: بضم أوله وسكون الطاء المهملة. مركب للحرب أو التجارة بلغة إسبانيا. (محيط المحيط).

 ⁽٦) البرق الشامي ٣/١٦٩، سنا البرق الشامي ١/ ٣٣٠، نهاية الأرب ٢٨/ ٣٩٥، مفرج الكروب ٢/٧٧، عقد الجمان ٢١/ ٢١٤ أ (٧٤ هـ.).

⁽٧) رَغْبَان: قلعة بين حلب وسميساط غربي الفرات. (مراصد الإطلاع ٢/ ٦٢١).

بلادهم، وإنّما أخذه منه نور الدّين على خلاف مُراده، وأنّ ولده الصّالح إسماعيل قد أنعم به عليه. فلم يفعل السّلطان، فأرسل قلِيج عشرين ألفاً لحصار الحصن، فالتقاهم تقيّ الدين عُمَر صاحب حماة ومعه سيف الدّين علي المشطوب في ألف فارس، فهزمهم لأنّه حَمَل عليهم بغتة وهم على غير تعبثة، وضُرِبت كوساته (۱۱)، وعمل عسكره كراديس. فلمّا سمعت الروم الضّجة ظنّوا أنّهم قد دهمهم جيش عظيم، فركبوا خيولهم عُرْياً، وطلبوا النّجاة وتركوا الخيام بما فيها. فأسر منهم عدداً، ثمّ مَنّ عليهم بأموالهم وسرّحهم. ولم يزل تقيّ الدّين يدلّ بهذه النّصرة، ولا ريب أنّها عظيمة (۱۲).

[وصول بعض أسرى الروم والغنائم إلى بغداد]

وورد بغداد رسول صلاح الدين، وهو مبارز الدين كشطغاي، وجلس له ظهير الدين أبو بكر بن العطّار، وبين يديه أرباب الدولة، فجاءوا بين يديه اثنا عشر أسيراً عليهم الخوذ والزَّردِيّات، ومع كلّ واحدٍ قنطاريَّة، وعلى كتِفِه طارقة منها طارقة ملك الفِرنج، وعلى القنطاريات سُعَف الفِرنج. وبين يديه أيضاً من التُّحف والنفائس، من ذلك صَنَم طوله ذراعين حجر، فيه صناعة عجيبة، قد جعل سبّابته على شفته كالمتبسّم عجباً. ومن ذلك صينيّة ملأى جواهر، وضلع آدميّ نحو سبعة أشبار، في عرض أربع أصابع، وضلع سمكة، طوله عشرة أذرُع، في عرض ذراعين.

⁽١) الكوسات: صنوجات من نحاس تشبه الترس الصغير يُدقّ بأحدها على الآخر بإيقاع مخصوص ومعها طبول وشبابة يُدقّ بها مرتين في القلعة كل ليلة، وإذا كان السلطان في السفر تدور حول خيامه. (صبح الأعشى ٩/٤).

⁽۲) سنا البرق الشامي ١/ ٣٣١، مضمار الحقائق ١٨ ـ ٢٤، الكامل في التاريخ ١١/، الروضتين ج ٢/٩، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٢١، تاريخ الوردي ٢/٩٨، البداية والنهاية ٣/ ٣٠٣، العبر ٤/ ٢٢، ٢٢، مرآة الجنان ٣/ ٤٠١، السلوك ج ١ ق ١/ ٦٨، ٦٩، تاريخ الزمان ١٩٥، شفاء القلوب ٩٦، ٩٧، عقد الجمان ٢١/ ٢١٤ أ (٧٥ه هـ.).

[حجوبيّة ابن الدارع]

وفيها رُتّب حاجب الحُجّاب أبو الفتح محمد بن الدّارع، وكان من حُجّاب المناطق.

[وصول ابن الشهرزوري رسولاً إلى بغداد]

وفيها قدِم رسولُ صلاح الدّين، وهو القاضي أبو الفضائل بن الشّهرزوريّ، وبين يديه عشرة من أسرى الفِرَنج، وقدَّم جواهر مثمَّنة.

[عزل ابن الزّوال عن النقابة بالزينبيّ]

وفيها عُزِل عن نقابة النُّقَباء أبو العبّاس أحمد بن الزّوال بأبي الهيجا نصر بن عدنّان الزَّيْنبيّ.

[الإرجاف بموت الخليفة]

وفي شوّال مرض الخليفة وأُرجِف بموته، وهاش الغَوْغَاء ببغداد، ووقع نهُبُ، وركب العسكر لتسكيتهم، فتفاقم الضّر، وأتَّسَع الخَرْق، وركبت الأمراء بالسّلاح، وصُلِب جماعةٌ من المؤذّنين على الدّكاكين.

وكانت العامّة قد تسوّروا على دار الخلافة، ورموا بالنّشّاب فوقعت نشّابةً في فرس النّائب ومعه جماعة، فتأخّروا من مكانهم.

[التوقيع بولاية العهد]

وفيه وُقَعَ للأمير أبي العبّاس أحمد بولاية العهد.

وقال الوزير لمن حضر من الدولة: اليوم الجمعة، ولا بُدّ من إقامة الدّعوة والجهة بنقشا^(۱)، يعني امرأة الخليفة قد بالغت في كتم مرض أمير المؤمنين، ولا سبيل إلى ذلك إلا بتيقُن الأمر، فإنْ كان حيّاً جرت الخطبة على العادة، وإنْ كان قد تُونّفي خَطَبْنا لولده حيث وقّع له بولاية العهد.

⁽١) في الأصل: «بنتشا»، والمثبت من «مرآة الزمان».

ثمّ عيَّن الشَّيخ أبو الفضل مسعود بن النّادر ليحضر بين يدي الخليفة، فدخل صُحبة سعد الشّيرازيّ، فقال المملوك: الوكيل، يشير بقوله إلى ظهير الدّين بن العطّار، يُنهي أنّه وقّع بالخُطْبة للأمير أحمد بولاية العهد، وما وسع المملوك إمضاء ذلك بدون مشافهة.

فقال المستضيء: يمضي ما كنّا وقّعنا به. فقبّلَ الأرض، وعاد فأخبر الوزير ظهير الدّين، فسجدوا شكراً لله تعالى على عافيته، وخطب لولاية العهد لأبي العبّاس، ونُثِرت الدّنانير في الجوامع عند ذكره(١١).

[إمتلاك الكردي قلعة الماهكي]

وفي شوّال ملك عبد الوهّاب بن أحمد الكرديّ قلعة الماهكي، وعمل (٢) سلاليم موصولة، ونصبها عليها في ليلة ذات مطر ورعود، فشعر الحارس، فذهب وعرّف المقدّم كمشتكِين، فقام بيده طَبَر (٣)، وبين يديه المِشْعَل، فوثبوا عليه فقتلوه، وقتلوا الحارس، ونادوا بشعار عبد الوهّاب.

[وفاة الخليفة المستضيء]

وفي سلُّخ شوّال مات الخليفة (٤).

⁽١) الخبر باختصار في: مرآة الزمان ٨/ ٣٥٥.

⁽٢) في الأصل: (وعلم).

⁽٣) الطُّبَر: بالتحريك. البلطة: ذات رأس شبه دائري تُثبّت في قائم من المعدن أو من الخشب يحملها أفراد فرقة الطبر دارية.

⁽³⁾ المنتظم ٢٠/١٣٠ (١٩/ ١٩٠ وما بعدها)، الكامل في التاريخ ٢٥٩/١١ (الملابس المملوكية ٨٥) التاريخ الباهر ١٩٠ ، سنا البرق الشامي ٢٩٢/١، تاريخ دول آل سلجوق ٢٧٧، زبدة التواريخ ٢٨٦، تاريخ الزمان ١٩٥، تاريخ مختصر الدول ٢١٦، مختصر التاريخ لابن الكازروني ٢٣٧ ـ ٢٤١، تاريخ إربل ٢١٠/١ و٢١٤، الفخري ٣١٩ ـ ٣٦١ - ٣٣١، خلاصة الذهب المسبوك ٢٧٨ ـ ٢٨٠، تاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة دار الكتب الوطنية بباريس، رقم ٢٩٢١) ورقة ٢٢، مرآة الزمان ٢٥٦/١، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٢، مضمار الحقائق ٤، العبر ٢٢٣/٤، سير أعلام النبلاء ٢١/٨١ ـ ٢٧ رقم ٢٤، دول الإسلام ٢٨٨، تاريخ ابن الوري ٢٢/٨١، البداية والنهاية ٢١/٤/١٤، مرآة المجنان =

[خلافة الناصر لدين الله]

وبويع ابنه أحمد، ولقَّبوه النّاصر لدين الله، فجلس للمبايعة في القُبّة، فبدأ أخوه وبنو عمّه وأقاربه، ثمّ دخل الأعيان، فبايعه الأستاذ دار مجد الدّين هبة الله ابن الصّاحب، ثمّ شيخ الشّيوخ، ثمّ فخر الدّولة أبو المظفّر بن المطّلب، ثمّ قاضي القُضاة عليّ ابن الدّامغانيّ، وصاحب ديوان الإنشاء أبو الفَرَج محمد ابن الأنباريّ، والحاجب أبو طالب يحيى بن زيادة.

ثمّ طلب الوزير ظهير الدّين بن العطّار، وكان مريضاً، فَأُركب على فرس، ثمّ تعضّده جماعة، وأُدْخِل فَصَعد وبايَعَ، ووقف عن يمين الشُّبّاك الّذي فيه المخليفة، فعجز عن القيام، فأدخِل إلى التَّاج، ثمّ راح إلى داره. وبايع مِنَ الغَد مَن بقي من العلماء والأكابر.

وقدَّم بعزْل النّقيب أبي الهيجا، وبإعادة ابن الزّوال ـ وتَوَجَّهت الرُّسُل إلى النّواحي بإقامة الدّعوة النّاصريّة (١٠).

[القبض على ابن العطار]

وفي اليوم الخامس مِن البَيْعة تقدّم إلى عماد الدّين صَنْدل المُقْتَقَوِيّ، وسعد الدّولة نَظَر المستنجديّ الحَبَشيّ بالمُضِيّ إلى دار ابن العطّار في عدّة من المماليك للقبض عليه، فجاءوا ودخلوا عليه من غير إذْن، وقبضوا عليه بين الحريم، وترسّم بداره أستاذ دار، فنهبت العامّة فيها، وعجز الأستاذ دار (٢).

^{= &}quot;\ ٤٠١، العسجد المسبوك ٢/ ١٧٣، مآثر الإنافة ٢/ ٥٠ ـ ٥٥، تاريخ الخميس ٢/ ٤٠٩، تاريخ ابن خلدون ٣/ ٢٨٥، الجوهر الثمين ٢/ ٢١٢، ٢١٣، فوات الوفيات ٢٦٩ ـ ٢٧١ رقسم ١٩، فهاية الأرب ٣٠٠ / ٣٠٠، السلوك ج ١ ق ١/ ٧٠، تاريخ ابن سباط ١/ ٣٥١، شارات اللهب ٤٠٠٤، السلوك ج ١ ق ١/ ٧٠، تحفة الناظرين الاسمام، شارات اللهب ٤٠٠٤، ١٥٥١، أخبار الدول ١٧٧، تحفة الناظرين للشرقاوي (على هام، فترح الشام للواقدي) ١/ ١٣٣١، النجوم الزاهرة ٦/ ٨٥، وانظر كتاب: المصباح الممضيء في خلافة المستضيء لابن الجوزي.

⁽١) أنظر المصادر السابقة.

⁽٢) الكأمل في التاريخ ١١/ ٤٥٩، ٤٦٠، تاريخ الزمان ١٩٥، ١٩٦، تاريخ مختصر الدول =

[الخلعة بإمرة الحاج]

وفي سادس ذي القعدة خُلِع على طاشتِكِين خِلْعة إمرة الحاجّ، وتوجّه إلى الحجّ وتقدّمه خروج الرّكْب.

[هتك ابن العطار بعد وفاته]

وقُيِّد ابن العطّار، وسُحِب وسُجِن في مطبَّق، فهلك بعد ثلاث، وحُمِل إلى دار أخته، فغُسُّل وكُفِّن، وأُخرج بسَحَرٍ في تابوت، ومعه عدَّةٌ يحفظونه، فعرفت العامّة به عند سوق الثَّلاثاء، فَسَبّوه وهمّوا برجْمه، فدافعهم ألاغوان، فكثُرُت الغَوْغَاء، وأجمعوا على رجْمه، وشرعوا، فخاف الحمّالون من الرجْم، فوضعوه عن رؤوسهم وهربوا، فأخرج من التّابوت وسُحِب، فتعرّى من أكفانه، وبدت عَوْرته، وجعلوا يصيحون بين يديه: بسم الله، كما يفعل الحُجّاب، وطافوا به المَحَال والأسواق مسلوباً مهتوكاً، نَسْأَل الله السَّتْر والعافية.

قال ابن البُزُوري: وحكى التميميّ قال: كنت بحضرته وقد ورد عليه شيخ يلوح عليه الخير، فجعل يعِظُه بكلام لطيف، ونهاه عن محرَّمات، فقال: أَخْرجوه الكلْب سَحْباً. وكرَّر القول مِراراً.

وقال الموفّق عبد اللّطيف: صحَّ عندي بعد سِنين كثيرة أنَّ ابن العطّار هو الّذي دسّ الحشيشيّة على الوزير عضُد الدّين حتّى قتلوه.

وُلِّيَ المخزن وسكن في دار قُطْب الدِّين تيمار الَّذي هلك بنواحي الرَّحبَة، وأخذ يبكّت على الوزير، وانتصب لعداوته.

۳۱۷، ۲۱۸، المختصر في أخبار البشر ۳/۲۲، الفخري ۲۰۹ ـ ۲۲۱، مضمار الحقائق ٤، ٥، مرآة الزمان ٨/ ٣٠٥، تاريخ ابن الوردي ٢/٩٥، ٩٠، البداية والنهاية ٢//٢٠٥، العسجد المسبوك ١٧٤، ١٧٥، مآثر الإنافة ٢/٧٥، النجوم الزاهرة ٦/ ٨٥، تاريخ ابن سباط ١٥٤/، ١٥٥.

قال ابن البُزُوريّ: ثمّ في آخر النّهار خلَّص مماليك الحاجب ابن العطّار من باب الأزَج بعد تغيُّر حاله وتجرُّد لحمه عن عظمه، فحُمِل على نَعْشِ مكشوف، فوارتُهُ امرأةٌ بإزار خليع. ثمّ دُفِن (١).

[الوَباء والغلاء ببغداد]

وكان الوباء والغلاء والمرض شديداً ببغداد، وكرّ القمح بمائةٍ وعشرين ديناراً (٢).

[إرسال الخِلَع إلى ملوك الأطراف]

وفي سلنخ الشهر خُلِع على جميع الدّولة، وأُرسِلت الخِلَع إلى ملوك الأطراف، وركبوا بالخِلَع في مُستَهَلّ ذي الحجّة، وجلس النّاصر لدين الله للهنا، فدخل إلى بين يدي سُدّته أستاذ الدّار مجد الدّين ابن الصّاحب، وتلاه نائب الوزارة شرف الدّين سليمان شادوست، فقبّلا الأرض. ثمّ خرج نائب الوزارة فركب، وخُلِع على ابن الصّاحب قميصٌ أطلس أسود، وفرجيّة نسيج، الوزارة فركب، وخُلِع على ابن الصّاحب قميصٌ أطلس أسود، وفرجيّة نسيج، وعِمامة كُخلِية بعراقيّ، وقُلد سيفاً مُحَلّى بالدَّهَب، وركب فرساً بمركب ذهب، وكنبُوش إبريسم، وسيف ركاب، وضُرِبت الطُّبُول على بابه.

[الزلزلة ببلاد الجبل]

وجابت ببلاد الجبل زلزلة عظيمة سقطت قِلاع كثيرة، وهلك خلَّق (٣).

⁽۱) الكامل في التاريخ ۱۱/٥٩، ٤٦٠، تاريخ الزمان ١٩٥، ١٩٦، تاريخ مختصر الدول ٢١٧، ٢١٨، المختصر في أخبار البشر ٣/٣، الفخري ٣٣٣، مضمار الحقائق ١١، ١٢، تاريخ ابن الوردي ٢/٩٨، ٩٠، العسجد المسبوك ١٧٤، ١٧٥، البداية والنهاية ١٢/ ٣٠٥، مآثر الإنافة ٢/٧٥، النجوم الزاهرة ٣/٥٨، تاريخ ابن سباط ١٥٤/١، ١٥٥.

⁽٢) أنظر: الكامل في التاريخ ١١/ ٤٥١ (٥٧٤ هـ.)، والتاريخ الباهر ١٧٨، ١٧٩ (٥٧٤ هـ.)، ومضمار الحقائق ٣، والبداية والنهاية ٢١/ ٣٠٤.

⁽٣) شدرات الذهب ٢٤٩/٤، كشف الصلصلة ١٩٤، البداية والنهاية ٢٠٤/١٢.

سنة ست وسبعين وخمسمائة

[عزَّل وتولية في نيابة الوزارة]

في أوّلها عزل شرف الدّين بن شادوش عن نيابة الوزارة لأجل عُلُوّ سِنّه وثِقَل سَمْعه، ووليها جلال الدّين هبة الله بن عليّ بن البخاريّ.

[صلاة الناصر بجامع الرصافة]

وفي المحرّم ركب النّاصر لدين الله إلى الكشك، وصلّى الجمعة بجامع الرّصافة.

[قدوم رسول الملك طغرل] وفيه قدِم رسول الملك طُغْرُل السَّلْجُوقيّ.

[القبض على ابن الوزير]

وفيه تقدَّم إلى أستاذ الدَّار بالقبض على كمال الدَّين عُبَيْدالله ابن الوزير عضُد الدِّين محمد ابن رئيس الرؤساء، فنفّذ للقبض عليه عزّ الدّولة مسعود الشّرابيّ في جماعة من المماليك، فحمل مسحوباً إلى بين يديه، فأمرهم أن يرفقوا به، وقُيِّد وسُجنَ.

[وصول أمير الحاجّ]

وفي صَفَر وصل أمير الحاجّ وفي صُحبته صاحب المدينة عزّ الدّين أبو سالم ألقاسم بن مُهَنّى للمبايعة.

[خروج صلاح الدين لمحاربة الأرمن]

وفيها توجُّهَ السّلطان صلاح الدّين قاصداً بلاد الأرمن وبلادَ الروم

ليحارب قَلِيج رسلان بن مسعود بن قَلِيج رسلان. والمُوجِب لذلك أنّ قَلِيج زوج بنته لمحمد بن قرا رسلان بن داود صاحب حصن كيفا، ومكثت عنده حيناً، وأنّه أحبّ مُغنّية وشغف بها، فتزوّجها، وصارت تحكم في بلاده، فلمّا سمع بذلك حَمُوّه قصد بلاده عازماً على أخذ ابنته منه، فأرسل محمد إلى صلاح الدّين يستنجد به، وكرّر إليه الرّسُل. ثمّ استقرّ الحال أن يصبروا عليه سنةً، ويُفارق المُغنّية.

ونزل صلاح الدّين على حصنٍ من بلاد الأرمن فأخذه وهدمه(١).

[وصول الخِلُع إلى صلاح الدين]

ثم رجع إلى حمص فأتاه التقليد والخِلَع من الخليفة النّاصر، فركب بها بحمص، وكان يوماً مشهوداً (٢).

[من كتاب صلاح الدين إلى الخليفة الناصر]

ومن كتاب السلطان صلاح الدّين إلى الخليفة: "والخادم ـ ولله الحمد ـ جَدَّد (٣) سوابقَ في الإسلام والدّولة العبّاسيّة لا تعدها (٤) أَوَلِيَّة أَبِي مسلم، لأنّه وَالى ثمّ دَارى (٥)، ولا آخريَّة طُغْرُلُبَك لأنّه نَصَر ثمّ حَجَر. والخادم خَلَعَ مَن كان ينازع الخلافة رُواءَها، وأساغ الغصّة الّتي [أذخر] (١) الله للإساغة في سيفه

⁽۱) النوادر السلطانية ٥٤، سنا البرق الشامي ٢/٤٤، الروضتين ٢/٢، الكامل في التاريخ ٢١٤، النوادر السلطانية ٥٤، سنا البرق الشامي ٢١٩١، مفرج الكروب ٢٩٨، ٩٩، نهاية الأرب ٢١٠، ٣٩٠، مرآة الزمان ٨/ ٣٦٠، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٢، مضمار الحقائق ١٨، ١٩، العبر ٤/ ٢٧، دول الإسلام ٢/ ٨٩، تاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٠، مرآة الجنان ٣/ ٢٠، البداية والنهاية ٢١/ ٣٠٠، شفاء القلوب ٩٧، السلوك ج ١ ق ١/ ٧٠، ٢١، تاريخ ابن سباط ١/ ٢١٠، شلرات الذهب ٤/ ٢٥٤، عقد الجمان ٢/١٧ ب، ٢١٨.

⁽۲) مرآة الزمان ۸/۳۲۰.

 ⁽٣) في تاريخ الخلفاء: «يعدد».

⁽٤) في تاريخ الخلفاء: ﴿لا يعمرها».

⁽٥) في تاريخ الخلفاء: «وارى».

⁽٦) في الأصل بياض، والمثبت من تاريخ الخلفاء.

ماءها، فرجَّل الأسماء الكاذبة الراكبة على المنابر، وأُعِزِّ بتأييدٍ إبراهيميّ، فكسّر الأصنام الباطنيّة بسيفه الطّاهر»(١).

[سماع صلاح الدين «الموطّأ» في الإسكندرية]

وقال العماد الكاتب: توجّه السلطان إلى الإسكندريّة، وشاهد الأسوار الّتي جدَّدها، وقال: نغتنم حياة الإمام أبي طاهر بن عون. فحضرنا عنده وسمعنا عليه «الموطّأ».

وكتب إليه القاضي الفاضل يُهنّيه ويقول: أدام الله دولة الملك النّاصر سلطان الإسلام والمسلمين، مُحيي دولة أمير المؤمنين، وسعده برحلته للعِلْم، والإثابة عليها. (...)(٢) وفي الله رحلته، وفي سبيل الله يوماه: يوم سَفَك دم المحابر تحت قلّمه، ويوم سَفَك دَم كافر تحت عَلَمِه. ففي الأوّل يطلب حديث المصطفى، فيجعل أثره عيناً لا تُستر، وفي الثّاني يحفل لنُصرة شريعة هداه على الضّلال فيجعل عينه أثراً لا يظهر.

إلى أن قال: وما يحسب المملوك أنّ كاتب اليمين كتب لملك رحلةً قطّ في طلب العِلْم إلا للرشيد، فرحل بولديه الأمين والمأمون لسماع هذا «الموطّأ» الذي اتّفقت الهمّتان الرشيديّة والنّاصريّة على الرغبة في سماعه، والرحلة لانتجاعه.

وكان أصل «الموطأ» بسماع الرشيد على مالك في خزانة المصريين، فإنْ كان قد حصل، وإلا فَلْيُلْتَمَس.

[تقليد الخليفة البلاد لصلاح الدين]

وفيها أُرسِل شيخ الشّيوخ صدر الدّين عبد الرحيم، وبشير المستنجديّ الخادم إلى السّلطان صلاح الدّين بتقليد ما بيده من البلاد، وهو من إنشاء قِوام

⁽١) تاريخ الخلفاء ٤٥٢.

⁽٢) في الأصل بياض.

الدّين بن زبال، فمنه: "ما كان يملك الأجلّ السّيّد صلاح الدّين، ناصر الإسلام، عماد الدّولة، جمال المِلّة، فخر المِلّة، صفيّ المخلافة، تابع الملوك والسّلاطين، قامع الكَفَرة والمتمرّدين، قاهر الخوارج والمشركين، فخر المجاهدين، ألْب غازي بك أبو يعقوب يوسف بن أيّوب، أدام الله عُلُوّه على هذه السّجايا مقبلاً».

وذكر التقليد، وفيه: «آمُرُه بتقوى الله، وآمُرُه باتخاذ القرآن دليلاً، وآمره بمحافظة الصّلاة، وحضور الجماعة وبلزوم نزاهة الحُرُمات، وآمُرُه بالإحسان بإظهار العدل، وأن يأمر بالمعروف، وأن يحتاط في الثّغور، وأن يجنب إلى الأمان. وآمُرُه بكذا، وآمُرُه بكذا. وكُتِب في صفر سنة ستّ وسبعين (١٠).

[وصول رسول ابن عبّاد]

وفيها وصل الفقيه هبة الله بن عبدالله بن عبّاد صاحب جزيرة قيس رسولاً. وقدِم... (٢).

[ركوب الخليفة الدَّسْت]

وفي جُمادى الأولى يوم الجمعة ركب الخليفة في الدَّسْت بظلة الشّمسيّة. (٣)، وعلى رأسه الطَّرْحَة، والكُلِّ مُشاة، وخرج إلى ظاهر السّور، ثمّ ردّ إلى جامع المنصور وصلّى، وأقام بكشك الملكيّة أسبوعاً. وركب الجمعة الأخرى في موكبه، وصلّى بجامع الرَّصَافة، وركب في الشَّبَّارة الطويلة، تُظِلُّه القُبّة السَّوْداء، وأرباب الدّولة قيام في الشَّفُن والخلق يدعون له.

⁽۱) سنا البرق الشامي ۲/۳۰، ۳۰۳، الروضتين ۱۹/۲، مفرّج الكروب ۲/۹۰، الدرّ المطلوب ۲۸، ۲۹، البداية والنهاية ۲/۷۷، عقد الجمان ۲//۲۱۸.

⁽٢) في الأصل بياض.

⁽٣) في الأصل بياض.

[إقطاع طغرل البصرة]

وفيها أُقُطِع طُغْرُل النّاصريّ الخاصّ البصْرةَ بعد موت متولّيها قسيم الدولة بها.

[خروج الخليفة للصيد]

وفي جُمادى الآخرة ركب النّاصر لدين الله في موكبه، وخرج إلى الصّيد، وطاف البلاد والأعمال، وغاب أُسبوعاً.

[نيابة فرُّخُشاه دمشق]

وفيها وُلِّي نيابة دمشق عز الدِّين فَرُّخْشاه ابن أُخي السّلطان، وكان حازماً، عاقلاً، شجاعاً، مِقْداماً، كثير الحُرْمة (١١).

⁽١) أمراء دمشق في الإسلام ٦٥ رقم ٢٠٧، البداية والنهاية ٣١١/١٢.

سنة سبع وسبعين وخمسمائة

[تخريب بلاد الكَرَك]

فيها قصد عزّ الدّين فَرُّخْشاه بن شاهنشاه بلاد الكَرَك بالعساكر وخرّبها، وعاد (١).

وكان ملك الفرنج بِرِنْس لعنه الله قد سؤلت له نفسه قصد المدينة النّبويّة ليتملّكها، فسار فَرُّوخْشاه إلى بلد المذكور ونَهَبَه، فآل البِرِنْسُ بالخَيْبة (٢).

[ركوب الخليفة في موكب]

وفي رجب ركب الخليفة في موكبه إلى الكشك، فنزل به، وقدم إلى بغداد بزرافة من صاحب جزيرة قيس.

[معاتبة صلاح الدين على تسمّيه بالناصر]

وفيها أرسل من الدّيوان إلى السّلطان صلاح الدّين يأخذ عليه في أشياء، منها تَسَمِّيه بالملك النّاصر، مع عِلْمه أنّ الإمام اختار هذه السّمَة لنفسه (٣).

⁽١) دول الإسلام ٢/ ٨٩.

 ⁽۲) الكامل في التاريخ ۱۱/ ٤٧٠، الأعلاق الخطيرة ۲/ ۷۰، ۱۱، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٠، دول الإسلام ٢/ ٨٨، تاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٠، البلطية والنهاية ٢١/ ٣٠٩، السلوك ج ١ ق ١/ ٢٧، تاريخ ابن سباط ١٥٨/١، ١٥٩.

⁽٣) تاريخ الخلفاء ٤٥٢.

[أخْذ عزّ الدين حلب]

وفي شعبان ساق عزّ الدّين مسعود وأخذ حلب، وكان الصّالح إسماعيل بن نور الدّين قد أوصى له بها(١١).

[مقايضة سنجار بحلب]

وفي شوّال تزوّج بأمّ الصّالح، ثمّ قايض أخاه عماد الدّين بسِنجار، وقدِم عماد الدّين فتسلّم حلب^(٢).

⁽١) الكامل في التاريخ ١١/ ٤٧٪، ٤٧٣.

⁽٢) الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٧٣ و ٤٧٤، ٤٧٥، مرآة الزمان ٣٦٧/٨، المختصر في أخبار البشر ٣٣٣، المغرب في حلى المغرب ١٤٨ و١٤٩، السلوك ج ١ ق ٧٧٧، زبدة الحلب ٣/ ٥٦، ٧٥.

سنة ثمان وسبعين وخمسمائة

[رخاء الأسعار بالعراق]

فيها تراخت الأسعار بالعراق.

[الوثوب على صاحب قلعة الماهكيّ]

وفيها وثب على عبد الوهّاب الكرديّ صاحب قلعة الماهكيّ ابن عمّه جوُبان، فأخرجه منها، ونادى بشعار الدّولة العبّاسيّة، فأرسلت إليه المخِلْعة والتّقليد بولايتها(١).

[الكتابة إلى صلاح الدين بالرحيل عن الموصل]

وفيها وصل قاضي الموصل ووزيرها ابن الشهرزوريّ إلى الدّيوان العزيز يطلب أن يتقدّم إلى السّلطان صلاح الدّين بالإرتحال عن الموصل، فإنّه نزل محاصراً، ذاكراً أنّ الخليفة أقطعه إيّاها. فأجيب سؤاله، وكتب إلى السّلطان بالإرتحال عنها. وسار إليه في الرسلية شيخ الشّيوخ صدر الدّين عبد الرحيم (٢).

[فتح بلد كبير بالروم]

وفيها افتتح ملك الروم قَلِيج رسلان بن مسعود بلداً كبيراً بالروم كان للنَّصارى، وكُتِب إلى الدِّيوان بالبِشارة (٣).

⁽١) مضمار الحقائق ٩٠، ٩١.

⁽٢) البرق الشامي ٥/ ٣٥، ٣٦، الروضتين ٢/ ٣٠، مضمار الحقائق ١٠٧ ـ ١١٠، المغرب في حلى المغرب الدرّ المطلوب ٧٣، دول الإسلام ٨٩/٢، تباريخ المزمان ١٩٨، ١٩٨. ١٩٩.

[فتح حرّان وسروج وسنجار وغيرها]

وافتتح فيها صلاح الدّين حرّان، وسَرُوج، وسِنْجار، ونصيبّين، والرَّقّة، والبيرة، ونازلَ المَوْصِل وحاصرها، فبهره ما رأى من حصانتها، فرحل عنها، وقصده شاه أرمن (١) بعساكر جمّة، واجتمع في ماردين بصاحبها، وفتح آمِد (٢).

· [ملك صلاح الدين حلب]

ثم رجع إلى حلب فملكها، وعوَّض صاحبها سنجار (٣).

[الخِلْعة بشرف الفتوة]

وفيها تفتّى النّاصر لدين الله إلى الشّيخ عبد الجبّار، ولُقِّب بشرف الفُتُوَّة عبد الجبّار، وخُلع عليه. وكان النّقيب لهم أبو المكارم أحمد بن محمد بن داذي النّيليّ. وفتّى النّاصر لدين الله في ذلك الوقت ولد رفيقه عليّ بن عبد الجبّار، وخلع عليه وعلى النّقيب.

وكان عبد الجبّار هذا في بدء أمره شجاعاً مشهوراً، تهابه الفتيان، وتخافه الرجال، ثمّ ترك ذلك ولزِم العبادة، وبنى (١٤) لنفسه موضعاً، فأمر الخليفة بإحضاره حين تضوّع عبير أخباره، وتفتّى إليه، وجعل المعوّل في شرعها عليه (٥٠).

⁽١) في الأصل: «شاه رمن»، والتصحيح من: مضمار الحقائق ١١٣.

⁽٢) البرق الشامي ٧٧/٥ و٤٠، الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٩٦، مفرّج الكروب ١٤١/، نهاية الأرب ٢٨/ ٣٨٤، ٣٨٥، مضمار الحقائق ١١٠ ـ ١١٤ و١٣٦ ـ ١٤١، المغرب في حلى المغرب ١٤٠، المغرب أنه المغرب مراّة الجنان المغرب ١٤٠، المدرّ المطلوب ٧٣، دول الإسلام ٢/ ٩٠، العبر ٤/ ٢٣٢، مراّة الجنان ٣/ ٤٠٠، تاريخ الزمان ١٩٨، شذرات الذهب ٤/ ٢٥٠.

⁽٣) المصادر نفسها.

 ⁽٤) في الأصل: «بنا».

⁽٥ٍ) أنظر: مضمار الحقائق ١٧٧، والعبر ٤/ ٢٣٢، ومرآة الجنان ٣/ ٤٠٩

[الخروج الأخير لصلاح الدين من مصر]

وفيها خرج صلاح الدين من مصر غازياً، وما تهيًّا له العَوْدُ إليها، وقد عاش بعد ذلك اثنتي عشر سنة (١).

[دخول سيف الإسلام اليمن]

وفيها بعث صلاح الدين أخاه سيف الإسلام طُغْتِكِين على مملكة اليمن، وإخراج نوّاب أخيه تورانشاه منها؛ فدخل إليها، وقبض على متولّى زبِيد حطّان بن مُنْقذ الكِنانيّ. فيقال إنّه قتله سِرّاً وأخذ منه أموالاً لا تُحصى. وهرب منه عزّ الدّين عثمان ابن الزّنجيليّ(٢). وتمكّن سيف الإسلام من اليمن (٣).

[وفاة فرُّوخشاه]

وفيها مات عزّ الدين فرّوخشاه ابن شاهنشاه بن أيّوب، فبعث عمّه على نيابة دمشق شمس الدّين محمد بن المقدّم (٤٠).

⁽۱) النوادر السلطانية ٥٤، التاريخ الباهر ١٨٣، الكامل في التاريخ ٢١/٤٧٨. ٤٧٩، تاريخ الزمان ١٩٨، زبدة الحلب ٥٩، ٥٥، ٥٠، مضمار الحقائق ٣٠ و٩٣ ـ ٩٦، مراة الزمان ٨/٣٦، الدرّ المطلوب ٧١، المختصر في أخبار البشر ٣/٦٣، ٦٤، تاريخ ابن الوردي ٢/ ٩١، العسجد المسبوك ١٨، البداية والنهاية ٢١/ ٣١٠، السلوك ج ١ ق ١/٧٧، شفاء القلوب ٩٨، ٩٩، تاريخ ابن سباط ١/ ١٦٠.

⁽٢) في مضمار الحقائق «الزنجاري» وفي مفرّج الكروب ١٠٤/٢، والدر المطلوب ٧٠ «ابن الزنجبيلي».

⁽٣) الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٨٠، ١٨١، مضمار الحقائق ٦٦، العسجد المسبوك ٢/ ١٨٦، تاريخ مختصر الدول ٢١٨، مرآة الزمان ٨/ ٣٦٨، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٦٤، مفرّج الكروب ٢/ ١٠٥، ١٠٥، السدر المطلوب ٧٠ (٧٧٥ هـ.) و٧٣ (٥٧٨ هـ.)، العبر ٤/ ٢٣٢، ٣٣٣، مرآة الجنان ٣/ ٤٠٩، النجوم الزاهرة ٢/ ٩١.

⁽٤) أنظر عن (فرُخشاه) في: النوادر السلطانية ٥٦، والكامل في التاريخ ٢٩١/١١، ومفرّج الكروب ٢/٤٢، وزبدة الحلب ٢/٧٧، ووفيات الأعيان ٢/٧٧، والأعلاق المخطيرة ١/٤٩، ومرآة الزمان ٢/٣٧، والمختصر في أخبار البشر ٣/٦٥، ومضمار المحقائق ١٠٤، والمعبر ٢٣٣٢، ٢٣٥، ودول الإسلام ٢/٩، والبداية والنهاية ٢١/٣١، وتاريخ ابن سباط ابن الوردي ٢/٢٢، والعسجد المسبوك ١٨٧، والسلوك ج ١ ق ٢/٧١، تاريخ ابن سباط ١/٣٢، وشذرات الذهب ٢/٩٤.

سنة تسع وسبعين وخمسمائة

[قدوم رسول ملك مازندران إلى الخليفة]

في المحرَّم قدِم رسول ملك مازَنْدَران (١)، فتُلُقِّي وأُكْرِم، ولم يكن لمرسله عادةٌ بمراسلة الديوان، بلِ اللهُ هداه من غيِّ هواه، وقدَّمه هديّة.

[قتل مُستفتٍ سَبِّ الشافعيّ]

وفيها جاء رجل إلى النظاميّة يستفتي، فُافتي بخلاف غَرَضِه، فسبَّ الشّافعيّ، فقام إليه فقيهان، لَكَمَهُ أحدُهما، وضربه الآخر بنعله، فمات ليومه، فحُبس الفقيهان أيّاماً، وأُطْلِقا عملًا بمذهب أبي حنيفة.

[القبض على مجاهد الدين قايماز وإعادته]

وفي جُمادى الأولى قبض عزّالدّين مسعود صاحب الموصل على نائبه وأتابَكِه مجاهد الدّين قايماز، وكان هو سلطان تلك البلاد في المعنى، وعزّالدّين معه صورة. ولكنْ تخرّم عليه بإمساكه (...)(٢). ثمّ إنّه أخرجه وأعاده إلى رُتبته.

[مجيء الرُسليّة إلى صلاح الدين]

وفي رمضان جاء إلى صلاح الدين بالرسلية شيخ الشيوخ، وبشير الخادم (٣).

⁽۱) مازَنَدَان: بعد الزاي نون ساكنة، ودال مهملة، وراء، وآخره نون. اسم لولاية بطبرستان. (معجم البلدان / ٤١/٥).

⁽٢) في الأصل بياض.

⁽٣) مرآة الزمان ٨/ ٣٧٨، زبدة الحلب ٣/ ٧٦، ٧٧ و٧٩، مفرّج الكروب ٢/ ١٦٢.

[الفراغ من رباط المأمونية]

وفي شوّال فُرغ من رِباط المأمونيّة وفتح إنشاءاته والدة النّاصر لدين الله، ومُدَّ به سماط، وحضره أرباب الدّولة، والقُضاة، والأثمّة، والأعيان، ورتّب شهاب الدّين السُّهْروَرْدِيّ شيخاً به، ووُقِفَتْ عليه الوقوفُ النّفيسة (١).

[قدوم الخُجَنديّ للحجّ]

وقدِم رئيس إصبهان صدر الدّين عبد اللّطيف الخُجَنْديّ للحجّ، فتلقّى موكب الدّيوان، وأُقيمت له الإقامات. وزعيم الحاج في هذه السّنين مُجِير الدّين طاشتِكِيْن.

[كتاب فاضلي إلى الديوان بتشتيت الفرنج]

ومن كتاب فاضليّ إلى الدّيوان: «كان الفِرَنج قد ركبوا من الأمر أكرا، وأفتضّوا (٢) من البحر بِكُرا، وعمّروا مراكب حربيّة شحنوها بالمقاتلة والأسلحة والأزواد (٢)، وضربوا بها سواحل اليمن والحجاز (١)، وأثخنوا (٥) وأوغلوا في البلاد (واشتدّت مخافة أهل تلك الجوانب، بل أهل القبلة، لما أرمض إليهم من خلل الطّواف) (٢) وما [ظنّ] (٧) المسلمون إلاّ أنّها السّاعة، وقد نُشِر مَطْويّ أشراطها، و[طُوي منشور بساطها. فثار] (٨) غضب الله لفناء بيته المحرّم (ومقام خليله الأكرم) (٩)، وضريح نبيّه الأعظم (١٠٠) عليه أورجوا أن يشحذ

⁽١) الكامل في التاريخ ٢١/٥٠٣.

⁽٢) في شفاء القلوب ١٠٣ «اقتضوا» بالقاف، وهو غلط.

⁽٣) في شفاء القلوب ١٠٣: «والأزراد» بالزاي ثم الراء.

⁽٤) في شفاء القلوب ١٠٣: «وضربوا بها سواحل تهامة».

⁽٥) «وأثخنوا» ليست في: شفاء القلوب.

⁽٦) ما بين القوسين ليس في: شفاء القلوب.

⁽٧) في الأصل بياض، والمثبت من: شفاء القلوب.

 ⁽A) في الأصل بياض، وما بين الحاصرتين من شفاء القلوب.

 ⁽٩) في شفاء القلوب: «ومقام أنبيائه المعظم».

⁽١٠) في شفاء القلوب: «المفخَّم».

البصائر بنكاية هذا البيت)(١)، إذ قصده أصحاب الفيل، ووكّلوا إلى الله الأمر، فكان حَسْبُهُم ونِعْم الوكيل»(٢).

وكان للفرنج مقصدان: أحدهما قلعة أَيْلة (٣)، والآخر الخوض في هذا البحر الذي تجاوره بلادهم من ساحله، وانقسموا فريقين. أمّا اللّذين قصدوا أيلة، فإنّهم قدروا أن يمنعوا أهلها من مورد الماء، وأمّا الفريق القاصد سواحل الحجاز واليمن، فقدّروا أن يمنعوا طريق الحاج عن حَجّه، ويحول بينه وبين فَجّه (١)، ويأخذ تجّار اليمن، وكارم، وعدن، ويلمّ بسواحل الحجاز فيستبيح، والعياذ بالله، المحارم. وكان الأخ سيف الدّين (٥) بمصر قد عمّر مراكب، وفرّقها على الفريقين (٢)، وأمرهم (٧) بأن تُطْوَى وراءَهم الشُّقتَين فأمّا السّائرة إلى قلعة أَيْلة، فإنّها انقضّت على مُرابطي الماء (٩) انقضاض الجوارح على بنات الماء، وقذفتها قذف شُهُب السّماء، (٩) فأخذت مراكب العدق برئمّتها، قتلت أكثر مقاتلتها، [إلاّ من تعلّق [بسعف] (١٠) وما كاد، أو دخل في شعب وما عاد، فإنّ العربان اقتصّوا آثارهم، والتزموا إحضارهم:

وأمّا السّائرة إلى بحر الحجاز، فتمادت في السّاحل الحجازيّ، فأخذت تُجّاراً، وأخافت رفاقا، ودلّها على عورات البلاد من هو أشدّ كُفْراً ونفاقا.

⁽١) ما بين القوسين ليس في: شفاء القلوب.

⁽٢) العبارة في (شفاء القلوب ١٠٣): «وحُرس من فضل الله، كما حُرس إذ قَصَدَه أصحاب الفيل، ووكّل أهله الأمور إلى الله، فكان حسبهم ونعم الوكيل. ولم يبق من العدوّ مخبراً ولا أثراً».

⁽٣) أنظر زيادة في البرق الشامي ٢/ ٧٣.

⁽٤) في مفرّج الكروب ٢/ ١٣٠ (تَحه».

⁽٥) هو الملك العادل أخو صلاح الدين.

⁽٦) في البرق ٧٤ «الفرقتين».

 ⁽٧) في الروضتين ٢/٣٥، ومفرّج الكروب ٢/١٣٠ «وأمرها». والمثبت عن الأصل، وكذا في أصل البرق الشامي.

 ⁽A) في مفرّج الكروب ٢/ ١٣٠ «على مرابطي منع الماء».

⁽٩) في البرق وغيره زيادة: «مسترقي سمع الظلماء».

⁽١٠) في الأصل بياض.

وهناك وقع عليها أصحابُنا، وأُخذت المراكب بأسرها، وفر فِرَنْجُها)(١)، فسلكوا في الجبال مهاوي المهالك، ومواطن (٢) المعاطب، وركب أصحابنا وراءهم خيل العرب، يقتلون ويأسرون، حتى لم يتركوا مُخْبِراً، ولم يُبقُوا لهم أثراً (٤)، ﴿وَسِيقَ الَّذِينَ كَفَرُوا إِلَى جَهَنَّمَ زُمَراً (٤)، فَقُيًّذَ منهم إلى مصر مائة وسبعون أسيراً (٥).

[تسلُّم صلاح الدين حلباً]

وفي المحرَّم نزل صلاح الدِّين على حلب، ثمّ تسلَّمها صُلْحاً (٢).

[أُخْذ الغوري ملك الهند غَزْنَة]

وفيها سار شهاب الدين الغوريّ بعد ما ملك جبال الهند، وعَظُم سلطانه إلى مدينة هاوور في جيش عظيم وبها السلطان خُسرُوشاه بن بهرام شاه السُّبكتِكِينيّ الذي كان صاحب غَزْنة من ثلاثين سنة، فحاصره مدّة، ثمّ نزل بالأمان فأكرمه ووفى له. فورد رسول السلطان غياث الدّين إلى أخيه يأمره بإرسال خُسرُوشاه إليه، فقال له: أنا لي يمين في عُنقك. فطيّب قلبه ومنّاه، وأرسله هو وولده، فلم يجتمع بهما غياث الدّين بل بعثهما إلى بعض القلاع، فكان آخر العهد بهما. وهذا آخر ملوك بني سبكِتِكين. وكان ابتداء دولتهم من فكان آخر العهد بهما. وهذا آخر ملوك بني سبكِتِكين. وكان ابتداء دولتهم من سنة ستّ وستين وثلاثمائة، فتبارك الله الذي لا يزول مُلْكُه (٧٠).

⁽١) ما بين القوسين لم يرد في البرق الشامي.

⁽۲) في البرق ٥/ ٧٤ «معاطن».

⁽٣) في شفاء القلوب ١٠٣: «ولم يبق من العدق مخبراً ولا أثراً».

⁽٤) سورة الزُمَر، الآية ٧٣.

⁽٥) البرق الشامي ٧٣/٠ ٥٠، الروضتين ٣٧/٢، سنا البرق الشامي ٢/٥٤، الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٩، ٤٩١، ١٣٧ ـ ١٣٧ ـ ١٣٧، ١٣٣، ٣٩٨، ٣٩٨، مضمار الحقائق ١٤٤ و ١٤٦ ـ ١٥١، الدرّ المطلوب ٧١، ٧٧، دول الإسلام ٢/ ٩٠.

⁽٦) سيعاد هذا الخبر مفصّلًا بعد قليل.

⁽٧) العسجد المسبوك ٢/١٨٨، ١٨٩، الدرّ المطلوب ٧١، دول الإسلام ٢/ ٩٠.

[عودة الرسلية بالتقدمة إلى بغداد]

وفيها عاد شيخ الشّيوخ، وبشير من الرّسْليّة، ومعهم رسول صلاح الدّين بتقدُمة كان منها شمسيّة، يعني جزءاً، وهي مصنوعة من ريش الطّواويس، لم يُرَ في حُسْنها، وعليها اسم المستنصر بالله مَعَدّ العُبَيْديّ.

[وفاة نائب الوزارة وولاية ابن صدقة]

وتُوُفّي الخلال أبو المظفَّر بن البخاريّ نائب الوزارة، فوُلّي مكانه حاجب باب التُوبيّ عزّ الدّين أبو الفتوح بن صَدَقة.

[ولاية الحجابة]

وولي الحجابة أحمد بن هُبَيْرة.

[وفاة شيخ الشيوخ وبشير]

وعاد إلى الشّام شيخ الشّيوخ، وبشير على الفَور، فمرضا، وطلبا الرجعة إلى العراق، فقال صلاح الدّين: أقيما. فلم يفعلا، وسارا في الحرّ، فماتا بالرحبة.

[منازلة صلاح الدين حلباً وتسلّمها]

ونازل السلطان حلب، وحاصرها أشد حصار، ثم وقع الصَّلْح بين صاحبها عماد الدين وبين السلطان، على أن يعوضه عنها سِنجار، ونصيبين، والرَّقَة، وسَرُوج، والخابور. وتسلَّم حلب في ثاني عشر صفر. وفيه يقول القاضي محيي الدين ابن المنتخب يمدحه بأبياتٍ جاد منها قوله:

وفَتْحكُم حَلَبًا بِالسِّيف في صَفَر مبشِّر بفُتُوحِ القُدسِ في رجبِ(١)

⁽۱) الكامل في التاريخ ۲۱/۱۹ ـ ۹۹۲، النوادر السلطانية ۵۹، ۲۰، زبدة الحلب ۲۳/۳ ـ ۲۳٪ ، «۲۲، مفرّج الكروب ۲۲٪ ـ ۱۶۱٪ تاريخ مختصر الدول ۲۱۹، تاريخ الزمان ۲۰۰، =

[البشارة بفتح القدس]

وقد ذكر صاحب «الروضَين» (١) أنّ الفقيه مجد الدّين بن جميل الحلبيّ الشّافعيّ وقع إليه «تفسير القرآن» لأبي الحكم بن بُرّجان، فوجد فيه عند قوله تعالى: ﴿ المّ عَلَبْتِ الرُّوم ﴾ (٢) أنّ الرُّوم يُغلبون في رجب سنة ثلاث وثمانين وخمسمائة، ويُفتَح البيت المقدس، ويصير داراً للإسلام إلى آخر الأبد. واستدلّ بأشياء في كتابه. فلمّا فتحت حلب على يد السّلطان صلاح الدّين، كتب إليه المجد بن جميل ورقة يبشره بفتح القدس على يديه، ويعيّن فيها الزّمان، وأعطاها للفقيه عيسى، فلم يتجاسر أن يعرضها على السّلطان، وحدّث بما فيها لمحيي الدّين، وكان واثقاً بعقل المجد وأنه لا يقول هذا حتى تحققه، فعمل القصيدة النّي فيها هذا البيت، فلمّا سمعه السّلطان بُهِت وتعجّب. فلمّا اتفق له فتُح القُدس في رجب، سار المجد مهنّئاً، وذكر له حديث الورقة، فتعجّب وقال: قد سبق إلى ذلك محيي الدّين، غير أني أجعل حديث الورقة، فتعجّب وقال: قد سبق إلى ذلك محيي الدّين، غير أني أجعل المقدس والفرّنج بعدُ فيه لم يُنظّف منهم، وأمره أن يذكر درساً على الصّخرة. فدخل ودرس هناك، وحظى بذلك.

ثمّ قال أبو شامة: وقفت أنا على ما فسّره ابن برُّجان من أنّ البيت المقدس استولت عليه الروم عام سبعةٍ وثمانين وأربعمائة، وأشار إلى أنّه يبقى بأيديهم إلى تمام خمسمائة وثلاثٍ وثمانين سنة.

⁻ ۲۰۱، الأعلاق الخطيرة ۲/۱۷ و۲۰۳ وج ۳ ق ۱/۱۳۱ و۱۸۰، ۱۸۱، نهاية الأرب ۸۲/ ۲۸۱، نهاية الأرب ۸۲/ ۲۸۲، ۳۸۰، مضمار الحقائق ۱۱٤ و۱۶۱ ـ ۱۵۱، مرآة الزمان ۱/۲۷۲، المختصر في أخبار البشر ۲/۲۳، المدر المطلوب ۷۰، ۷۱، العبر ۲/۲۳، تاريخ ابن الوردي ۲/۳۲، البداية والنهاية ۲/۳۱، ۳۱۳، تاريخ ابن خلدون ۱٬۰۰، ۳۰۲، شفاء القلوب ۱۰۰ ـ ۱۰۸، تاريخ ابن سباط ۱/۱۲۰، النجوم الزاهرة ۲/۹۰.

⁽١) هو أبو شامة المقدسي،

⁽٢) أول سورة الروم.

قال أبو شامة: وهذا الّذي ذكره أبو الحكم من عجائب ما آتفق. وقد تكلّم عليه شيخنا السّخَاويّ فقال: وقع في «تفسير» أبي الحكم أخبارٌ عن بيت المقدس، وأنّه يُفْتَح في سنة ثلاثٍ وثمانين. قال: فقال لي بعض الفُقهاء: إنّه استخرج ذلك من فاتحة السُّورة. فأخذت السُّورة، وكشفت عن ذلك، فلم أره أخذ ذلك من الحروف، وإنّما أخذه فيما زعم من ﴿فُلبَتِ الرّومُ في أَذنَى الأَرْضِ وَهُمْ مِنْ بَعْدِ غَلْبِهِمْ سَيَغْلِبُونَ فِي بِضْعِ سِنِين﴾ (١) فبنى الأمر على التاريخ كما يفعل المنجمون، ثمّ ذكر أنّهم يغلبون في سنة كذا، وفي سنة كذا، وفي سنة كذا، وفي سنة كذا، على ما تقضيه ووافر التقدير. وهذه نجامة وافقت إصابة إنْ صحّ أنه قال ذلك عبى ما تقضيه ووافر التقدير. وهذه نجامة وافقت إصابة إنْ صحّ أنه قال الكرامات لا تُكْتسَب، ولا تفتقر إلى تاريخ، ولذلك لم يوافق الصّواب لمّا أراد الحساب على القراءة الأخرى الشّاذة وهي (غَلبَتُ) بالفتّح، ولو صحّ الله الوقتُ الّذي يُرفع فيه. فهذا ما ذكره.

[كتاب فاضلي بإبطال المكس بالرّقة]

ومن كتاب إلى الدّيوان: أشقى الأمراء من سمّن كيسه وأهزل الخلق، وأبعدهم مِن الحقّ مَن أخذ المكْس وسمّاه الحقّ. ولمّا فتحنا الرَّقة أشرفنا على شُخْتِ يؤكل، وظُلْم ممّا أمَرَ اللهُ أن يُقْطَع، وأمر الظّالمون أن يوصل، فأو حَيْنا إلى كافّة الوّلاة من قبَلِنا أن يضعوا هذه الرسوم بأسرها، ويكفوا الرعايا من سائر أيّام مِلكتِه بأسرها، ونعتق الرّقة من ربّها، وتُسَدّ هذه الأبواب وتُعطّل، وتُتسَخ هذه الأمور وتُبطًل، [وتبقى](٢) ماهيّة الأحكام، وأئمة الخلود، خالدة الدّوام، تامّة البلاغ، يانعة التمام، ملعونٌ من يطمح إليها نظرُه.

⁽١) سورة الروم، الآيتان (٢ و٣).

⁽٢) في الأصل بياض.

ومنه: وإذا ولآه أمير المؤمنين ثغراً لم يَبِتْ في وسطه، ولم يقم في ظلّ غُرَفِه، بل يبيت السَّيفُ له ضجيعاً، ويصبح ومُعْتَدَلُ القتال له ربيعاً، لا كالذين يطلبون أبواب الخلافة [كالعباد](١) ولا يؤامروها في تصرّفاتها مؤامرة الإستعباد، وكأنّ الدّنيا لهم إقطاع لا إيداع، وكأنّ الإمارة لهم تخليدٌ لا تقليد. وكأنّ السلاح عندهم وديعة، لا يِدر وكأنّ السلاح عندهم وديعة، لا يِدر مانعة ولا كابسة، وكأنّهم في البيوت الدُّمَى في لُزُوم خِدرها، لا في مستخطّننات صُورِها، راجين من الدّين بالعُروة [الدَّنية](١)، ومن إعلاء كلمته بما يسمعونه على الدّرَجَات الخشبية، ومن جهاد الخوارج باستحسان الأخبار المُهلّبية (١)، ومن قتال الكفّار بأنّه فرض كفاية، تقوم به طائفةٌ فيسقط عن المُهلّبية.

[محاصرة السلطان الكَرك]

وفيها سارَ السلطان بجيوشه إلى الكَرَك فحاصرها، ونصب عليها المجانيق، ثمّ جاءته الأخبار باجتماع الفِرَنج، فترك الكَرَك، وسار إليهم بعد أن كان قد أشرف على أخْذِها، فخالفوه في الطّريق إلى الكَرَك، وأتوا إليها بجموعهم، فسار إلى نابلس، ثمّ إلى دمشق⁽³⁾.

⁽١) في الأصل بياض.

⁽٢) في الأصل بياض.

⁽٣) يقصد أخبار بني المهلّب بن أبي صُفْرة.

⁽٤) النوادر السلطانية ١٣ و٣٦، ٢٧، مضمار الحقائق ١٥٣، ١٥٤، الكامل في التاريخ ١٥٢، ١٠٥، ١٠٥، مفرّج الكروب ١٠٧/١، ١٥٨، تاريخ الزمان ٢٠٢، زبدة الحلب ٢/ ٧٤ و٧٨، ٩٩، الأعلاق الخطيرة ٢/ ٧١، ٢١، المغرب في حُلى المغرب 10١، الدر المطلوب ٧٨، المختصر في أخبار البشر ٣/ ٨٨، مضمار الحقائق ١٨٨ ـ ١٩٠، العبر ٤/ ٢٣، دول الإسلام ٢/ ٩١، تاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٤، مرآة الجنان ٣/ ٤١٧، البداية والنهاية ٢/ ٣١٥، العسجد المسبوك ١٩٠، تاريخ ابن خلدون ٥/ ٣٠، السلوك ج ١ ق ١/ ٣٨، ١٨، شفاء القلوب ١١٤، تاريخ ابن سباط ١/ ١٦٧، ١٦٨ (٥٨٠ هـ)، الإعلام والنبين ٣٣، ٣٢،

وأعطى (١) أخاه نائب مصر الملك العادل سيف الدين حلب وأعمالها، فإنّه ألحّ عليه في طلبها. فَسَارَ إليها، وانتقل منها الملك الظّاهر غازي، وقدِم على والده (٢).

[نيابة الملك المظفّر بمصر]

وبعث السلطان ابن عمّه الملك المظفّر تقيّ الدّين عمر صاحب حماه على نيابة الدّيار المصريّة موضع الملك العادل^(٣).

⁽١) في الأصل: ﴿وأعطا ٩.

⁽٢) مُضمار الحقائق ١٥٤، البرق الشامي ١٥٣/، سنا البرق الشامي ١٥١/٢.

⁽٣) مضمار الحقائق ١٥٤، البرق الشامي ٥/١٥٥، سنا البرق الشامي ٢/١٥٤.

سنة ثمانين وخمسمائة

[جَعْلُ مشهد الكاظم أمناً]

فيها جعل الخليفة النّاصر مشهد موسى الكاظم أمْنَا لمن لاذ به، فالتجأ إليه خلّق، وحصل بذلك مفاسد (١).

[موت رجل راهن على دفنه نصف يوم]

وفي صَفَر راهن رجلٌ ببغداد على خمسة دنانير أن يندفن من غدوة إلى الظُّهْر، فدُفن وأهيل عليه التُّراب، ثمّ كُشِف عنه وقت الظُّهْر، فوُجِد ميتاً وقد عصفر سواعده من هَوْل ما رأى (٢).

[كتاب السلطان بمحاسن دمشق]

وفيها كتب زين الدين بن نَجِيّة (٣) الواعظ كتاباً إلى صلاح الدين يشوّقه إلى مصر ويصف محاسنها، ومواطن أنسها. فكتب إليه السّلطان، بإنشاء العماد فيما أظنّ: «ورد كتاب الفقيه زين الدّين: لا ريب (٤) أنّ الشّام أفضل، وأنّ أجر ساكنه أجزل، وأنّ القلوب إليه أمْيَل، وأنّ زُلاله البارد أعلّ (٥) وأنّه للهواء في صيفه وشتائه أعْدَل، وأنّ الجمال فيه أجمل وأنّه المهواء في صيفه وشتائه أعْدَل، وأنّ الجمال فيه أجمل

⁽١) تاريخ الخلفاء ٤٥٢.

⁽۲) دول الإسلام ۲/۹۱، تاريخ ابن سباط ۱/۸۲۱، دول الإسلام ۲/۹۱.

 ⁽٣) في شفاء القلوب ١١٢ «ابن نجا».

⁽٤) في الأصل: االأريب،

⁽٥) في مرآة الزمان: «احلى»، وفي شفاء القلوب: «أغلى».

وأكمل (١)، وأنّ القلب به أرّوَح، وأنّ الروح به أقْبَل. فدمشق عاشقها مُسْتَهَام، وما على مُحِبّها مَلام. وما في رَبُوتها ريبة، ولكلّ نَوْر فيها شيبة (٢)، وساجعاتها على منابر الورق خُطَباً قُطْرب، وهزاراتها وبلابلها تُعْجم وتُعْرِب، وساجعاتها على منابر الورق خُطَباً قُطْرب، وهواراتها وبلابلها تُعْجم وتُعْرِب، وكم فيها من جواري ساقيات، وسواقي جاريات، وأثمار بلا أثمان (٢)، وفاكهة ورُمّان، وخَيْرات حسان، وكونه تعالى أقسَم به فقال: ﴿وَٱلتّينِ وَالرَّيْتُونِ ﴾ (٤) يدلُّ على فضله المكنون. وقال ﷺ: «الشّام صَفْوَةُ الله من بلاده، يسوق إليها خيرته من عباده (٥). وعامّة الصّحابة اختاروا به المُقام. وفتتح دمشق بكر الإسلام. وما يُنكر أنّ الله تعالى ذكر مصر (١)، لكنّ ذلك خرج العَيْب (٧) له والذمّ. ألا ترى أنّ يوسف عليه السّلام نقل منها إلى الشّام. ثمّ المُقام بالشّام أقرب إلى الرباط، وأوجب للنشاط. وأين قطرب (٨) المقطّم (٩) من [سنا سنين] (١٠) وأين دار آصف (١١) لمن ذِرْوة الشّرف المنير (١٢)؟، وأين لُبانة البنان] من الهرّمَيْن؟ وهل هما إلاّ مثل السّلعتين؟ وهل للنّيل مع طول نَيْله وطول ذَيْله يرد بَرَدَى في نقع العليل (٤١) وما لذلك الكثير طلاوة هذا القليل.

(١) في مرآة الزمان: «وأن الجبال فيه أجمل والجمال به أكمل». وانظر: شفاء القلوب ١١٣.

(٢) في الأصل وشفاء القلوب: «شبيبه»، وفي مرآة الزمان: «سيبه».

(٣) بعدها في مرآة الزمان: «وروح وريحان»، ومثله في: شفاء القلوب ١١٣.

(٤) أول سورة التين.

(٥) في مرآة الزمان «خير أمة من خلقه»، وفي الروضتين ٩/٢٥ (فيها خير الله من عباده».

(٦) زَاد فَي مراَّة الزمانُ: «ولكُن على لسانٌ فرعون يَقُول: «أَلَيْسَ لَيْ مُلَّكُ مِصْرً ٤، وكذا في شفاء القلوب.

(V) في مرآة الزمان: «العتب».

(٨) في شفاء القلوب: «قطوم» والمثبت يتفق مع: الروضتين ٢/ ٥٩، ومرآة الزمان.

(٩) في الأصل: «المقطب»، والمثبت من المصادر.

(١٠) في الأصل بياض. والمستدرك من: شفاء القلوب ١١٣، وفي مرآة الزمان: «وأين قطوم المقطم من سياسين»١.

(١١) في مرآة الزمان «دار منيف»، وفي شفاء القلوب «دار ابن منيف».

(١٢) في المرآة: «المبين»؛ وكذًا في شَفَاء القلوب.

(١٣) في الأصل بياض، والمستدرك من المرآة، والشفاء والروضتين.

(١٤) في المرآة: «برد برداً في نفع العليل»، وفي شفاء القلوب: «بربردي في نقع الغليل».

(وإنْ فاخرنا بالجامع وفيه النَّسر(١)، ظهر بذلك(٢) قِصَر القَصْر)(٣)، ولو كان لهم مثل بانياس، لما احتاجوا إلى قياس المقياس، وَنحن لا نحقر الوطن كما حَقَرْتَه (٤)، وحب الوطن من الإيمان، ونحن لا ننكر فضل مصر، وأنّه إقليم عظيم (٥)، ولكن نقول كما قال المجلس الفاضليّ: إنّ دمشق تصلُّح أن تكون (بستاناً لمصر)(١). والسّلام»(٧).

[مهاجمة السلطان نابلس]

وفيها هجم السلطان نابلس، وكان قد وصل لنجدته عسكر ديار بكر، وعسكر آمِد، والحصن، والعادل من حلب، وتقيّ الدّين من حماه، ومظفّر الدّين صاحب إربل. هكذا ذكر أبو المظفّر في «مِرءآته» (٨٠). قال: نازل الكَرَك ونصب عليها المجانية، فجاءتها نجدات الفِرَنْج من كلّ فَجّ، وأجْلَبوا وطلبوا. واغتنم السلطان خُلُوَّ السّاحل منهم، ورأى أنّ حصارها يطول، فسار ونزل الغَوْر وهجم نابلس، فقتل وسبى، وطلع على عَقبَة [فِيق] (٩)، ودخل دمشق (١٠).

(١) في المرآة: «البشر».

(٢) في الأصل: "بيتك"، والمثبت من: مرآة الزمان.

(٣) ما بين القوسين ليس في شفاء القلوب.

(٤) في المرآة: «وُنحن لا نُجفُو الوطنُ كما جفاه،. ولا نأبي فضله كما أباه،، ومثله في شفاء القلوب ١١٣.

(٥) في المرآة: «ونحن لا ننكر أن إقليم مصر إقليم عظيم الشأن»، ومثله في شفاء القلوب

(٦) ما بين القوسين ليس في مرآة الزمان.

(٧) مرآة الزمان ٨/ ٣٨١، ٣٨٢، الروضتين ٢/ ٥٩، شفاء القلوب ١١٢ _ ١١٤.

(۸) ج ٥/٢٨٣.

(٩) فَي الأصل بياض، وما أثبتناه من مرآة الزمان ٣٨٣/٨.

(۱۰) الكامل في التاريخ ۲۰۱۱، ۵۰۷، النوادر السلطانية ۲۲، ۲۷، زبدة الحلب ۷۸/۲، ۲۷، الأعلاق الخطيرة ۲/۷۱، ۷۲، ۲۰۱ الأعلاق الخطيرة ۲/۷۱، ۷۲، ۲۰۱ الأعلاق الخطيرة ۲/۷۱، ۷۲، ۲۰۱ المختصر في أخبار البشر ۳/۸۲، المغرب في حلى المغرب ا۱۵، مضمار الحقائق ۱۹۰، نهاية الأرب ۳۸۸/۲۸، مرآة الزمان ۳۸۲/۳۸، ۳۸۳، الدرّ المطلوب ۷۸، العبر =

[منازلة الكَرَك]

وأمّا ابن الأثير فقال(١): نازل الكَرَك، ونصب المنجنيقات على ربّضِه ومَلكَه، وبقي الحصن وهو والرّبض على سطح واحد، إلاّ أنّ بينهما خندقاً عظيماً، عمقه نحو ستين ذراعاً، فأمر السّلطان بإلقاء الأحجار والترّاب فيه ليطمّه، فلم يقدروا على الدُّنُو منه لكثرة النَشّاب وأحجار المجانيق، فأمر أن يُبنّى من الأخشاب واللّبن ما يمكن للرجال يمشون تحت السّقائف، فيُلقُون في الخندق ما يطمّه، ومجانيق المسلمين مع ذلك ترمي الحصن ليلا ونهاراً، فاجتمعت القرنج عن آخرها، وساروا عَجلين، فوصل صلاح الدّين إلى طريقهم يتلقّاهم، فقرُب منهم، ولم يمكن الدُّنُو منهم لخشونة الأرض وصعوبة المسلك، فأقام ينتظر خروجهم إليه، فلم يبرحوا منه، فتأخر عنهم، فساروا إلى الكرّك، فعلم صلاح الدّين أنّه لا يتمكّن منهم حينتذ، ولا يبلغ فساروا إلى الكرّك، فعلم صلاح الدّين أنّه لا يتمكّن منهم حينتذ، ولا يبلغ غرضه، فسار إلى نابلس، ونهب كلّ ما على طريقه من قرى الفرنج، وأحرق نابلس وأسر وسبى، واستنقد الأسرى. وبثّ السّرايا يميناً وشمالاً.

[خروج ابن غانية الملثم بالمغرب]

قال (۲): وفي شعبان خرج ابن غانية الملثّم وهو عليّ بن إسحاق، من كبار الملثّمين الّذين كانوا ملوك المغرب، وهو حينئذ صاحب مّيُورقَة، إلى بِجّاية فَمَلَكَها بقتالٍ يسير. وذلك إثر موت يوسف بن عبد المؤمن، فقويت نفس ابن غانية وكثر جموعه، ثمّ التقاه متولّي بِبجاية، وكان غائباً عنها. وكَسَرَ عليّ متولّي بِجاية، وانهزم إلى مَرّاكُش، واستولى ابن غانية على أعمال بِجّاية

⁼ ۲۳۹/۶، دول الإسلام ۹۱/۲، تاریخ ابن الوردي ۴/۶۲، البدایة والنهایة ۳۱۰/۱۳، مرآة البجنان ۴۱۷/۳۱، شفاء القلوب مرآة البجنان ۴۱۷٪، العسجد المسبوك ۱۹۰، تاریخ ابن خلدون ۱۳۷۰، شفاء القلوب ۱۱۵، السلوك ج ۱ ق ۱/۳۸، ۸۶، تاریخ ابن سباط ۱/۱۳۷، ۱۲۸، تاریخ الأزمنة ۱۸۵.

⁽١) في الكامل ١١/١١ه.

⁽٢) ابن الأثير في الكامل ١١/ ٥٠٧، ٥٠٨.

سوى قَسَنْطينة (۱) الهوى، فحصرها إلى أن جاء جيش الموحدين في صَفَر سنة إحدى وثمانين في البرّ والبحر إلى بِجّاية، فهرب منها أَخَوّا ابن غانية فلحِقا به، فترحّل عن قسنطينة، وسار إلى إفريقيّة، فحشد وجمع، والتَفَّ عليه سُلَيم، ورياح، والتُرْك الّذين كانوا قد دخلوا من مصر مع قراقُوش، وبعدها، وصاروا في جيش عظيم، فتملّك بهم ابن غانية جميع بلاد إفريقيّة، سوى تونس، والمَهديّة (۲)، حفظتهما عساكر الموحّدين على شدّة وضيق نالهم، وأنضاف إلى ابن غانية كلُّ مُفْسِد وكلّ حراميّ، وأهلكوا البلاد والعباد، ونزل على جزيرة باشرا وهي بقرب تونس، تشمل على قُرّى كثيرة، فطلب أهلها الأمان فأمّنهم، فلمّا دخل عسكره نهبوها وسلبوا النّاس، وآمتدَّت أيديهم إلى الحريم والصّبيان، والله المستعان.

[إقامة الخطبة العباسية بإفريقية]

وأقام ابن غانية بإفريقيّة الخطبة العبّاسيّة، وأرسل إلى النّاصر لدين الله يطلب منه تقليداً بالسّلُطنَة. ونازل قفصة في سنة اثنتين وثمانين، فتسلّمها من نُوّاب ابن عبد المؤمن بالأمان وحصّنها. فجهّز يعقوب بن يوسف بن عبد المؤمن جيوشه، وسار في سنة ثلاث لحربه، فوصَلَ إلى تونس، وبعث ابن أخيه في ستّة الآف فارس، فالتقوا، فأنهزم الموحّدون لأنّهم كانوا معهم جماعة من التُرْك، فخامروا عليهم حال المصافّ، وتُتِل جماعة من كبار الموحّدين، وكانت الوقعة في ربيع الأوّل سنة ثلاث. فسار يعقوب بنفسه، فالتقوا في رجب بالقُرب من مدينة قابس فانهزم ابن غانية، واستَمرّ القتل فالتقوا في رجب بالقُرب من مدينة قابس فانهزم ابن غانية، واستَمرّ القتل بأصحابه فتمزّقوا، ورجع يعقوب إلى قايوس فافتتحها، وأخذ منها أهل قراقوش، فبعثهم إلى مرّاكش. ونازل قَفْصَة فحاصرها ثلاثة أشهر، وبها التُرْك، فسلّموها بالأمان. وبعث بالأتراك ففرّقهم في الثّغور لِما رأى من شجاعتهم، وقتل طائفة من الملتّمين، وهدم أسوار قفصة، وقطّع أشجارها.

⁽١) في الأصل: «قسطنطينية» وهو غلط.

⁽٢) نهاية الأرب ٢٨/ ٢٧٦، ٣٧٢.

واستقامت له إفريقية بعدما كادت تخرج عن بيت عبد المؤمن (١). وآمتدت أيّام ابن غانية إلى حدود عام ثلاثين وستمائة.

[منازلة السلطان الكَرَك]

وفي جُمادى الأولى جمع السلطان الجيوش، وسار إلى الكَرك فنازلها، ونزل بواديها، ونصب عليها تسعة مجانيق قُدّام الباب، فهدّمت السّور، ولم يبق مانع إلاّ الخندق العميق، ولم يكن حيلة إلاّ ردْمه، فضرب اللّبن، وجُمِعت الأخشاب، وعملوا مثل درب مسقوف يمرّون فيه، ويرمون التُّراب في الخندق، إلى ان آمتلا، بحيث أنّ أسيراً رمى بنفسه من السُّور إليه ونجا. وكانت فِرَنج الكَرك وسائر ملوكهم وفرسانهم يستمدّون بهم، فأقبلوا من كلّ في حدّهم وحديدهم، فنزلوا بمضائق الوالة، فرحل السلطان، ونزل على البلقاء، وأقام ينتظر الملتقنى، فما تغيّروا، فتقهقر على حسبان فراسخ. فوصلوا إلى الكرك، فقصد السلطان السّاحل لخُلُوم، ونهب كلَّ ما في طريقه، وأسر وسبى، فأكثر وبدّع بسَبَسْطِية (٢)، وجينين، ثمّ قدِم دمشق (٣).

[حصار الكَرَك في كتابٍ للعماد]

ومن كتاب عمادي في حصار الكَرك يقول: لولا الخندق الذي هو واد لسهل مشرع، فعملنا دبّابات قدّمناها، وبنينا إلى سفيرة ثلاثة أسراب باللّبن وسقفناها، وشرعنا في الطّم، وتسارع النّاس، ولم يبق إلاّ من يستبشر بالعمل، وتجاسروا حتى ازدحموا نهاراً، كازدحامهم يوم العيد ليلاً، كاجتماعهم في جامع دمشق ليلة النّصف السّعيد، وهم من الجراح سالمون، وبنصر الله موقنون، وإنْ أبطأ العدوّ عن النّجدة. والنّصر قريبٌ سريع،

⁽١) الكامل في التاريخ ١١/ ١٩، ٥٠٠ (٨١٥ هـ.)، نهاية الأرب ٢٨/ ٣٧٢.

⁽٢) سَبَسْطية: بفتح أولها وثانيها. بلدة من نواحي فلسطين، من أعمال نابلس. (معجم البلدان ٣/ ١٨٤).

 ⁽٣) تقدّم هذا الخبر ومصادره في آخر حوادث سنة ٥٧٩ هـ. وتقدم بعضه قبل قليل في هذه السنة أيضاً.

والحصن بمن فيه صريع، قد خرقت الحجارة حجابه، وقُطِعت بهم أسبابه، وناولته من الأجَل كتابه، وحَسَرَت لِثامَ سُوره وخلعت نِقابَه، فَأَلُوف الأبراج مَجدوعة، وثنايا الشُّرُفات مقلوعة ورؤوس الأبدان مخروزة، وخروق العوامل مهموزة، وبطون الشُّقُوف مبقورة، وعصا الأساقف معقورة، ووجوه [العجدُر](۱) مسلوخة، وجلود البواشير مبشورة، والنصر أشهر من نارٍ على عَلَم، والحرب قدم من ساقِ على قَدَم.

[وفاة رسولي الخليفة بالشام]

وقدِم السلطان وبدمشق الرسولان شيخ الشّيوخ صدر الدّين والطّواشيّ بشير، فمرضا، ومات جماعة من أصحابهما. وكان الشّيخ نازلاً بالمنبع، فكان السّلطان يعوده في كلّ يوم، وكان قدومهما في الصَّلح بين السّلطان وبين عزّالدّين صاحب المَوْصِل، فلم ينبرم أمرٌ، فطلبا العَوْد إلى بغداد، وعادا، فمات بشير بالسّخنة، وشيخ الشّيوخ بالرحبة (٢).

[الإذن للجيوش بالعودة إلى أوطانها]

وأذِن السَّلطان للجيوش بالرجوع إلى أوطانهم.

[خِلْعة السلطان على صاحب حصن كيفا]

وخلع على نور الدّين بن قُرا رسلان صاحب حصن كيفا الخِلْعة الّتي جاءته هذه المرّة من الخليفة بعد أن لبسها السّلطان.

[كتابة منشور لصاحب إربل]

ثمّ كتب لزين الدّين يوسف بن زين الدّين عليّ صاحب إربل منشوراً بإربل وأعمالها لمّا اغتدى إليه، وفارق صاحب المَوْصل.

⁽١) في الأصل بياض.

⁽٢) مضّمار الحقائق ١٦٢ و٢٠٠، المختصر في أخبار البشر ١٨/٣.

[خروج السلطان بقصد الموصل]

ثمّ وصلت رُسُل زَين الدّين يوسف إلى السّلطان بأنّ عسكر الموصل وعسكر قزل صاحب العجم نازلوا إربل مع مجاهد الدّين قايماز. وأنّهم نهبوا وأحرقوا، وأنّه نُصِر عليهم وكسرهم، فكان هذا ممّا حرّك عزْمَ السّلطان على قصد الموصول هذه المرّة. فسار السّلطان على طريق البقاع وبَعْلَبَك، ثمّ حمص وحماه، فأقام بحماه إلى انسلاخ السّنة (۱).

[وفاة صاحب ماردين]

وفيها مات صاحب ماردِين قُطْب الدّين إيلغازي بن نجم الدّين الرتقيّ، رحمه الله تعالى (٢).

انتهت هذه الطبقة ولله الحمد ...

⁽١) الدرّ المطلوب ٧٨.

⁽٢) أنظر عن (إيلغازي) في: الكامل في التاريخ ٢١/ ٥٠٨، تاريخ مختصر الدول ٢١٩، تاريخ الرمان ٢٠٢، وفيات الأعيان ١/١٩١ و٢/ ٢٦٥ و ٤٥١، والمختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٨، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ٤/ ٢٢، والدرّ المطلوب ٧٨، والعبر ٤/ ٣٣٠، والنجوم وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٤، والعسجد المسبوك ١٩١، والسلوك ج ١ ق ١/ ٨٦، والنجوم الزاهرة ٢/ ٩٧، وتاريخ ابن سباط ١/ ١٦٨، وشذرات الذهب ٤/ ٢٦٨، ومرآة الزمان ٨/ ٣٨٣، والوافي بالوفيات ٢٠ / ٢٦، ٢٧ رقم ٤٤٦٩.

بسم الله الرحمن الرحيم ربتًا أفرغ علينا صبراً المتوفّون سنة إحدى وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

١ - أحمد بن عليّ بن محمد بن العبّاس^(١).
 الشَّريف أبو جعفر بن المقشوط، الهاشميّ، البغداديّ.
 تُوُفّى فى ربيع الآخر.

ـ حرف الحاء ـ

٢ ـ الحسن بن إبراهيم بن محمد.

أبو محمد القيسيّ الدّمشقيّ الواعظ.

سمع: ابن الأكفانيّ، وغيره.

وعنه: أبو القاسم بن صُصْرَى.

٣ ـ الحسين بن محمد بن نَمِير^(٢).

أبو الحسن الإشبيلي، الضّرير، الفقيه الظّاهري.

قال الأبَّار: كان يُجتَمع إليه ويُناظَر عليه.

أخذ عنه: مفرِّج بن حسين الضَّرير، وغيره.

_ حرف الطاء _

٤ _ [طُغْدي] (٣) بن خُمارتِكِين.

⁽١) أنظر عن (أحمد بن علي) في: المختصر المحتاج إليه ـ ج ١.

⁽٢) أنظر عن (الحسين بن محمدً) في: تكملة الصلة لابن الأبّار.

⁽٣) في الأصل بياض، والمثبت من: المختصر المحتاج إليه ٢/١٢١، ١٢٢، والمشتبه في الرجال ٢/٢٨، ٢٨٤.

أبو محمد التُّركيّ، من شيوخ بغداد. سمع: أبا القاسم الرَّبَعيّ، وابن بدران الحلُوانيّ. روى عنه: ابن الأخضر، ومنصور بن السَّكَن، وغيره. تُوُفّي في ذي الحجّة.

ـ حرف العين ـ

٥ ـ عبدالله بن حمزة بن محمد بن سماوة.

أبو الفَرَج الكرْمُ إني، ثمّ الجيرُفْتِي (١)، ثمّ الدّمشقيّ.

تفقُّه على جمال الإسلام السُّلَميِّ، وولى خطابة دُومَة (٢) زماناً.

وروى عن جمال الإسلام.

روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى، وقال: كان ثقة صالحاً.

تُوُفّي في ربيع الآخر وهو في عَشْر الثّمانين.

وروى عنه أيضاً أبو القاسم بن صَصْرَى.

٦ ـ عبدالله بن محمد بن سهل (٣).

أبو محمد الغَرْناطيّ الضّرير، المقرىء. ويُعرف بوجه نافخ.

أخذ القراءآت عن أبي محمد بن دُرّيّ ولازَمَه.

وعن عبد الرحيم بن الفَرَس.

وسمع منهما، ومن: غالب بن عطيّة، وجماعة.

وأجاز له أبو عليّ بن سُكّرة، وغيره.

قال أَلاتِار: كان بارعاً في العربيّة.

حدَّث عنه: ابنه أبو عبدالله، وابن عيّاد.

⁽۱) الجيرُفتيّ: بكسر الجيم وسكون الياء آخر المحروف وضم الراء وسكون الفاء وفي آخرها التاء ثالث الحروف. هذه النسبة إلى جيرُفت، وهي إحدى بلاد كرمان. (الأنساب ٢/٤٠٩).

⁽٢) دُومة: بالضم، من قرى غوطة دمشق. (معجم البلدان ٢/٤٨٦).

⁽٣) أنظر عن (عبدالله بن محمد) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

وتُونُقي في ذي القعدة.

٧ - عبد الحقّ بن سليمان (١).

أبو عبدالله القَيْسي، التّلْمِساني، قاضي تلْمِسان.

سمع: القاضي أبا بكر بن العربي، وغيره.

قال الأبار: كان جليل القدر، عظيم الوجاهة، يستظهر «مقامات الحريري»، ثمَّ تزهَّد ورفض الدُّنيا، وحجَّ وجاور، وأجهد نفسه صلاةً وصوماً وطَوافاً.

تُوُفّي بالمدينة النّبويّة كهْلًا.

عبد الرَّحمٰن بن خَلَف الله بن عطيَّة.

في المتوفين تقريباً.

 Λ = عبد الرَّحمٰن بن محمد بن محمد $^{(Y)}$.

أبو محمد السُّلَميّ، المِكْناسيّ، الكاتب، الأديب.

قال الأبار: خُتِمت به البلاغة بالأندلس، ورأسَ في الكتابة. وديوان رسائله بأيدي النّاس يتنافسون فيه.

وكتب لأبي عبدالله محمد بن سعد، وغيره من الأمراء. وتُونِّي كهْلاً^(٣) رحمه الله.

٩ - عثمان بن عبدالملك^(٤).
 اللَّخميّ، الصِّفّار، الواعظ.

⁽١) أنظر عن (هبد الحق بن سليمان) في: تكملة الصلة لابن الأبّار.

 ⁽۲) أنظر عن (عبد الرحمن بن محمد) في: تكملة الصلة لابن الأبّار ۲۷٥، والوافي بالوفيات ۲۰۸/۱۸
 ۲۰۸/۱۸ رقم ۳۰۹، وبغية الوعاة ۲۸/۸۹، ۹۰.

 ⁽٣) وقع في بغية الوعاة أنه توفي سنة ٩٩١ هـ.

⁽٤) أنظَّر عن (عثمان بن عبد الملك) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ١١٢ رقم ٩٧٠، وذيل تاريخ بغداد لابن النجار (مصوّرة المجمع العلمي العراقي عن نسخة الظاهرية) ورقة ١٢٥، ١٢٦، و(المطبوع) ٢/ ٢١٢، ٢١٢ رقم ٤٣٩.

سمع: أبا الحسن بن العلّاف، وابن فتحان الشَّهْرزوريّ، وابن بيان. روى عنه: ابن الأخضر، وغيره.

١٠ - عليّ بن إبراهيم بن عيسى بن سعد الخير(١).

أبو الحسن البَلُنسيّ الأنصاريّ، النَّحْويّ.

قال الأبّار^(۲): سَمَع من أبي محمد النّيليّ، وأبي الوليد بن الدّبّاغ. ولازم أبا الحسن بن النّعمة وتأدّب به، وكان عالماً بالعربيّة واللّغة، إماماً في ذلك. أقرأها حياتَه كلّها.

وكان بارع الخطّ، كاتباً بليغاً، شاعراً مُجِيداً، مولّداً. وكانت فيه غَفْلة معروفة، وله مُصَنَّف على كتاب «الكامل» للمبرَّد، وغير ذلك (٣).

يا لاحظاً تمثمال نغمل نبيه قبّل مثمال النغمل لا متكبرا والشم به فلطالما عكفَتْ به قدمُ النبيّ مُسرَوِّحاً ومبكرا أوّ ما ترى أنّ الشجيّ مقبّلٌ طلك وإن لم يُلفِ فيه مخبرا وله مقطّعات أخرى. أنظر: الليل والتكملة ٥ ق ١٨٨/١، ١٨٩.

⁽۱) أنظر عن (علي بن إبراهيم) في: صلة الصلة لابن الزبير ۹۱، وتكملة الصلة لابن الأبّار، رقم ۱۸۲۷، وتحفة القادم ۵۱، ورايات المبرّزين ۷۸، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة، السفر ٥ ق ١٨٧/١ ـ ١٩١ رقم ٣٧٢، والمغرب ٣١/٣١، وزاد المسافر، رقم ٥٥، ونفح الطيب ٢٠٥/٤ و٥/ ١٣٧، ١٣٩، وفوات الوفيات ٣٨/٢، ٣٩، وكشف الظنون ٥٨، و٣٢، ومعجم المؤلفين ٧/٨.

⁽٢) في تكملة الصلة.

⁽٣) وقال ابن عبد الملك المراكشي: وكان إماماً متقدّماً بارعاً في علوم اللسان نحواً ولغة وأدباً، وأقرأ ذلك عمره كله، كاتباً بليغاً، شاعراً مُجيداً، بديع التشبيه، عجيب الاختراع والتوليد، أنيق الخط _ كتب الكثير وأتقن ضبطه وجوده، وعُني بالعلم طويلاً. وكانت فيه غفلة شديدة عُرف بها وشُهرت عنه. وله مصنّفات منها: «اختصاره العقد»، ومنها جمع طُرَر أبي الوليد الوتشي وأبي محمد ابن السيد على «الكامل» إلى زيادات من قبله عليهما وسمّاه بـ «القرط»، ومنها: «إكمال شرح أبي محمد بن السيد على الجمل من حيث انتهى إليه وتوفي عنه وذلك مما بعد باب الندبة إلى آخر الكتاب». ومنها كتاب «مشاهير الموضحين بالأندلس» وهم عشرون رجلاً ذكرهم بحُلاهم ومحاسنهم على طريقة الفتح في المطمح» و«القلائد»، وابن بسام في «اللخيرة»، وابن الإمام في «سمط الجمان» إلى غير ذلك من تقاييده وإملاءاته النبيلة المفيدة، ومن شعره ما أنشدناه:

تُونُقي بإشبيلية في ربيع الأوّل. وقيل: تُونُقي سنة سبعين.
١١ ـ عليّ بن الحسن بن هبة الله بن عبدالله بن الحُسَيْن (١).
الحافظ الكبير أبو القاسم، ثقة الدّين ابن عساكر الدّمشقيّ، الشّافعيّ،
صاحب «تاريخ دمشق».

أحد الأعلام في الحديث.

أنظر عن (ابن عساكر) في: خريدة القصر (قسم شعراء الشام) ٢/٤٧١ ـ ٢٨٠، والمنتظم ١٠/ ٢٦١ رقـم ٢٥٦ (١٨/ ٢٢٤، ٢٢٥ رقـم ٤٣١٠)، ومعجـم الأدبـاء ٣١/٣٧ ـ ٨٨، ومعجم البلدان ٤٠٤/١، والتقييد لابن نقطة ٤٠٥، ٤٠٦ رقم ٥٣٨، وذيل تاريخ دمشق (أنظر فهرس الأعلام) ٣٧٧، والروضتين ج ١/ ٢/ ٦٦٧، وجامع المسانيد للخوارزمي ٢/٥٣٩، ومرآة الزمَّان ٣٣٦، ٣٣٧، ووفيات الأعيان ٣٠٩/٣ ـ ٣١١، والمختصر فيَّ أخبار البشر ٣/٥٩، ودول الإسلام ٢/٨٥، والعبر ٢١٢/٤، ٢١٣، وسير أعلام النبلاء ٠٠/ ٥٥٤ - ٥٧١ رقم ٣٥٤، وتذكرة الحفاظ ٤/ ١٣٢٨ ـ ١٣٣٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٥، والمختصر المحتاج إليه ٣/ ١٢١، ١٢٢، وبدائع البدائه ١٧، ٨٩٢، ٩٨، ١٢٥، ١٢٨، ١٢٨، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٣ رقم ١٨٥٦، والمستفاد من ذيل تاريخ بغداد ١٨٦ ـ ١٨٩ رقم ١٤١، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٨٧، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ١١٥/٧_٢٢٣، وطبقات الشآفعية للإسنوي ٢١٦/٢، ٢١٧ رقم ٨٣٨، ومرآة الجنان ٣٩٣/٣ ٣٩٦. والبداية والنهاية ٢٩٤/١٢، وطبقات الشافعية لابـن كثيـر (مخطوط) ١٣٥ ب_ ١٣٧ أ، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ٣٤٥/١، ٣٤٦ رقم ٣١١، وذيل التقييد لقاضي مكة ٢/١٨٨ رقم ١٤٠٧. وتاريخ الخميس ٢/٤٠٩، والنجوم الزاهرة ٦/٧٧، وطبقات الحفاظ ٤٧٤، ٤٧٥، وتاريخ الخلفاء ٤٤٨، والدارس في تاريخ المدارس ١٠٠/، ١٠١، ومفتاح السعادة ١/٢٦٦، ٢٦٧ و٢/٢٦٧ و٢/٣٥٢، وتاريخ ابــن سبــاط (بتحقیقنــا) ۱/۱٤۲ (۷۰۰ هـ..)، وکشــف الظنــون ٥٤، ٥٧، ١٠٣، ١٦٢، ٢٩٤، ٣٤٠، ٢٤٣، ٢٢٥، ٢٧٥، ٤٧٤، ٢٣٧١، ١٧٤٧، ٢٣٨١، وشــلرات الــلهــب ٢٢٩/٤، ٢٤٠، وهدية العارفين ٢٠١/١، ٧٠٢، وإيضاح المكنون ٢/٤٢١، وديوان الإسلام ٣/ ٣٣٤_ ٣٣٦ رقم ١٥١١، ومنتخبات التواريخ لدمشق ٤٧٨، ٤٧٩، ومعجم المطبوعات العربية ١٨١، ١٨٢، وكنوز الأجداد ٣٠٦ ٣١٣، وتاريخ الأدب العربي ٦/ ٦٦ ـ ٧٧، ومعجم المؤلفين ٧/ ٦٩، ٧٠، والأعلام ٢٧٣/٤، وموسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي (تأليفنا) ق ٢/ج ٣ /٣٤_ ٣٦ رقم ٧١٨، ومعجم طبقات الحفاظ والمفسّرين ١٣٠ رقم ١٠٥٩، وانظر كتاب: ابن عساكر، الذي أصدرته وزارة التعليم العالي بالجمهورية العربية السورية بمناسبة مرور ٩٠٠ سنة على ولادته، فهو يضم مصادر ترجمتُه وأبحاثاً كبيرة عنه، وعن تاريخ دمشق، منها بحث لنا.

وُلِد في مُسْتَهَلُّ سنة تسعِ وتسعين وأربعمائة.

وسمّعه أخوه الصَّائِن هبة الله سنة خمس وخمسمائة وبعدها من: الشّريف أبي القاسم النّسيب، وأبي القاسم قوام بن زيد، وأبي الوحش سُبيّع بن قيراط، وأبي طاهر محمد بن الحسين الحِنّائيّ، وأبي الحسن بن الموازينيّ، وأبي الفضائل الماسح، ومحمد بن عليّ المصّيصيّ.

ثمّ سمِع بنفسه من: أبي محمد بن الأكفانيّ، وأبي الحسن بن قُبيّس المالكي، وعبد الكريم بن حمزة، وطاهر بن سهل، ومَن بعدهم.

ودخل إلى بغداد سنة عشرين، فأقام بها خمس سنين.

وحجَّ في سنة إحدى وعشرين، فسمع بمكّة من: عبدالله بن محمد بن الغزَال (١) المصريّ صاحب كريمة المَرْوَزِيّة.

وسمع ببغداد من: أبي القاسم بن الحُصَيْن، وأبي الحسن الدِّينَورِيّ، وأبي العرّبن كادش، وقُرَاتِكِين بن أسعد، وأبي غالب بن البنّا، والبارع أبي عبدالله الدّبّاس، وهبة الله الشُّرُوطيّ، وخلْق كثير.

وعلَّق «مسائل الخلاف» على أبي سعد إسماعيل بن أبي صالح المؤذِّن. ولازَم الدَّرْس والتَّقَقُه بالنّظاميّة، ورجع بعِلْم جَمّ وسماعات كثيرة.

وسمع بالكوفة من: عمر بن إبراهيم العلويّ.

ثمّ رحل سنة تسع وعشرين على أَذَربَيْجَان إلى جُرْجان، وجالَ في بلادها، ودخل إلى إصبهان، وبقي في هذه الرحلة نحو أربع سنين، فسمع: أبا عبدالله محمد بن الفضل الفُرَاويّ (٢)، وعبد المنعم بن القُشَيْريّ، وهبة الله السَّيّديّ (٣)، وتميم بن أبي سعيد الجُرْجانيّ الهَرَويّ، ويوسف بن أبيوب

⁽١) الغزال: بتخفيف الزاي. (المشتبه في الرجال ٢/ ٤٨٤).

 ⁽۲) الفُراوي: بضم الفاء ونتح الراء بعدهما الألف وفي آخرها الواو. هذه النسبة إلى فراوة وهي بُليدة على الثغر مما يلي خوارزم يقال لها: رباط فراوة. (الأنساب ٢٥٦/٩).

⁽٣) بفتح السين المهملة وتشديد الياء المكسورة المنقوطة من تحتها باثنتين، وفي آخرها الدال المهملة. هذه النسبة إلى السيّد. (الأنساب ١١٧٧).

الزّاهِد، وزاهر بن طاهر الشّحّاميّ، والحسين بن عبدالملك الأديب، وسعيد ابن أبي الرجاء، وغانم بن خالد، وإسماعيل بن محمد الحافظ، والموجودين في هذا العصر.

وخرَّج أربعين حديثاً في أربعين بلداً كالسَّلَفيّ. وعدَّة شيوخه ألف وثلاثمائة شيخ وثمانون امرأة ونيُف. وحدَّث بخُراسان، وإصبهان، وبغداد.

وسمع منه الكبار: كالحافظ أبي العلاء الهَمَذَانيّ، والحافظ أبي سعد السَّمعانيّ.

وصنَّف التَّصانيف المفيدة، ولم يكن في زمانه أحفظ ولا أعرف بالرجال منه. ومن تصفَّح تاريخه علم قدر الرحلة.

وأجاز له من الكبار: أبو الحسن بن العلاف، وأبو القاسم بن بيان، وأبو عليّ بن نبهان، وأبو الفتح أحمد بن محمد الحدّاد، وغانم البرجيّ، وأبو بكر عبد الغفّار الشّيرُويّ، وأبو عليّ الحدّاد، وأبو صادق مرشد بن يحيى، وأبو عبدالله الرّازيّ، وطائفة.

روى عنه: ابنه القاسم، وبنو أخيه فخر الدّين أبو منصور، وتاج الأمناء، وزين الأمناء عبد الرحيم، وعزّ الدّين النّسّابة ابن تاج الأمناء، والحافظ أبو المواهب بن صَصْرَى، وأخوه أبو القاسم الحسين، والقاضي أبو القاسم بن الحرّستانيّ، وأبو جعفر القُرْطُبيّ، والحافظ عبد القادر، وأبو القاسم بن الحرّستانيّ، وأبو العدن بن عليّ الصّيقليّ، وصالح بن فلاح الزّاهد، وظهير الدّين عبد الواحد بن عبد الرّحمن بن سلطان القُرَشيّ، وأبو العزّ مظفّر بن عقيل الشّيبانيّ العقّار والد النّجيب، والصّائن نصر الله بن عبد الكريم بن الحرّستانيّ، والبدر بن يونس بن محمد الفارقيّ الخطيب، والقاضي الكريم بن الحرّستانيّ، والبدر بن يونس بن محمد الفارقيّ الخطيب، والقاضي أبو نصر بن الشيرازيّ، ومحمد ابن أخي الشيخ أبي البيان، وعبد القادر بن الحسين البغداديّ، ونصرالله بن فتيان، وإبراهيم وعبد العزيز ابنا الخُشُوعيّ، الحسين البغداديّ، ونصرالله بن فتيان، وإبراهيم وعبد العزيز ابنا الخُشُوعيّ، ويونس بن منصور السّقبانيّ، وإدريس بن الخَضِر الشيبانيّ، ومحمد بن رومي الحردانيّ، وحاطب بن عبد الكريم المِزّيّ، وذاكر بن عبد الوهّاب السّتيانيّ، الحردانيّ، وحاطب بن عبد الكريم المِزّيّ، وذاكر بن عبد الوهّاب السّتيانيّ،

وذاكر الله بن أبي بكر الشّعيريّ، ومحمد بن غسّان، ومحمد بن عبد الكريم بن الهادي، والمسلم بن أحمد المازِنيّ، وعبد العزيز بن محمد بن الدّجاجيّة، وعبد الرحمن بن عبد المؤمن زُريّق العطّار، وشعبان بن إبراهيم، ومحمد بن أحمد بن زُهير، ومحمود بن خطير الدّارانيّون، وعبد الرحمن بن راشد البيت سَوَائيّ (۱)، ونجم الأمناء عبد الرحمن بن عليّ الأزْديّ، وعمر بن عبد الوهّاب بن البرادعيّ، وعتيق السّلمانيّ، وبهاء الدّين عليّ بن الجُمّيزيّ، وعبد المنعم بن محمد بن أبي المضاء نزيل حماه، ومات في آخر سنة أربع وأربعين، والرشيد أحمد بن مَسْلَمَة، وعبد الواحد بن هلال، وخلق أخرهم وفاة أبو بكر محمد بن المسلم بن علان.

وقد روى عنه الكثير أبو سعد السّمعانيّ؛ ومات قبل ابن علاّن بتسعين سنة. فمن تصانيفه: «التّاريخ»(۲) ثمانمائة جزء، و«الموافقات»(۳) اثنا وسبعون

⁽١) البيت سَوَائيّ: بالفتح والقصر. (معجم البلدان ١/ ٥٢١) وهي من بلدان الشام.

 ⁽٢) وهو: «تاريخ مدينة دمشق حماها الله وذكر فضلها وتسمية من حلّها من الأماثل، أو اجتاز بنواحيها من وارديها وأهلها».

وهو من أعظم كتب التراجم وأضخمها، بل هو أوْعَى كتاب في تاريخ المدن على الإطلاق، من ثمانين مجلّداً، على نَسَق "تاريخ بغداد" للخطيب ولكنه أعم وأشمل. وقد اتخذ ابن عساكر من دمشق عنواناً للكتاب لأنها عاصمة بلاد الشام وقاعدتها، ولكنه أحاط بتراجم كلّ من أخرجته المدن والبلدان والقرى الشامية على اتساع رقعتها والتي كانت تشتمل في عصره على: سوريا ولبنان وفلسطين والأردن، وكل من دخلها من علماء العالم الإسلامي، وخصّص المجلّد الأخير من الكتاب لتراجم النساء، ورتب التراجم على الحروف مع مراعاة الاسم الثاني والثالث، وابتدأ بمن اسمه "أحمد" تيمّناً باسم النبي على ولم تقتصر تراجمه على الأعلام في العصر الإسلامي، بل عرض لعدّة أعلام من السابقين للإسلام بزمان طويل.

ويتبنّى «مجمع اللغة العربية بدمشق» مشروع طبع هذا السفر العظيم، وهو قمين بهذه المهمة الجليلة التي تتطلّب حشد الطاقات العلمية والتفرّغ لإخراج هذا الكتاب الموسوعيّ الضخم في أقرب وقت ليعمّ نفعه ويفيد من مَعِينه الباحثون، حيث لم يُنشر منه حتى الآن ونحن في سنة ١٤١٥هـ./١٩٩٥ م. سوى أقل من ربع أجزائه.

فقد صدر المجلّد الأول سنة ١٩٥١، والقسم الأول من المجلّد الثاني سنة ١٩٥٤ بتحقيق الدكتور صلاح الدين المنجد، وصدر المجلّد العاشر سنة ١٩٦٣ بتحقيق الشيخ محمد =

أحمد دهمان، ويتضمّن تراجم حرف الباء والتاء وأول الثاء (بُسر بن أبي أرطاة ـ ثابت بن أقرم). وصدر في أواخر ١٩٧٦ مجلّد بتحقيق المرحوم الدكتور شكري فيصل، ويتضمّن تراجم حرف العين المتلُوة بالألف (عاصم بن بهدلة ـ عائد بن محمد)، وصدر سنة ١٩٨١ مجلّد بتحقيق الأستاذين: مطاع الطرابيشي وسُكينة الشهابي، وفيه من ترجمة (عبدالله بن جابر) حتى (عبدالله بن زيد). ثم صدر المجلّد الأخير من الكتاب المتضمّن لتراجم النساء، في سنة ١٩٨٢ صدر مجلّد آخر بتحقيق في سنة ١٩٨٢ صدر مجلّد آخر بتحقيق الدكتور شكري فيصل والأستاذين رياض مراد وروحية النحاس، وفيه تراجم (عبادة بن

وفي سنة ١٩٨٤ صدر بتحقيق الباحثة سكينة الشهابي المجلّد الخاصّ بترجمة الخليفة (عثمان بن عفان) رضي الله عنه، والقسم الأول من السيرة النبوية بتحقيق عبد الغني الدقر ومراجعة مطاع الطرابيشي، ويبدأ بترجمة (أحمد بن عتبة) وينتهي بترجمة (أحمد بن محمد بن المؤمّل).

أوفى ـ عبدالله بن ثوّب).

وفي سنة ١٩٨٦ صدر المجلّد (٣٤) بتعليق مطاع الطرابيشي، ويبدأ من ترجمة (عبدالله بن سالم) وينتهي بترجمة (عبدالله بن أبي عائشة) وصدر المجلّد (٣٨) بتحقيق الباحثة سكينة الشهابي، ويبدأ بترجمة (عبدالله بن مسعدة)، وصدر المجلّد (٣٩) بتحقيق الباحثة سكينة الشهابي، يبدأ بترجمة (عبدالله بن مسعود) وينتهي بترجمة (عبدالله بن مسعود) وينتهي بترجمة (عبد الحميد بن بكار).

وكان المجمع أصدر في سنة ١٩٧٨ مجلّداً مصوّراً دون تحقيق عن نسخة مكتبة ليننغراد بموسكو، وفيها تراجم بعض العبادلة، يبدأ بترجمة (عبدالله بن عمران) وينتهي بترجمة (عبدالله بن قيس).

وصدر في بيروت سنة ١٩٧٥ عن دار التعارف للمطبوعات مجلّدان يتناولان ترجمة (علي بن أبي طالب) رضي الله عنه، بتحقيق الشيخ محمد باقر المحمودي.

وفي سنة ١٩٨٧ نشرت مؤسسة الرسالة في بيروت جزءاً خاصّاً بترجمة «الزُّهري»، بتحقيق شكرالله بن نعمة الله قوجاني.

ثم نشرت مؤسسة الرسالة أيضاً المجلّد الخاص بترجمة (عمر بن الخطاب) رضي الله عنه، بتحقيق الباحثة سكينة الشهابي.

وقد قام المرحوم الشيخ عبد القادر بدران باختصار التاريخ وتهذيبه، فصدر منه سبعة أجزاء بعنوان (تهذيب تاريخ دمشق الكبير).

وبيـن سنتـي ١٩٨٤ ـ ١٩٨٨ صـدر مـن دار الفكـر بـدمشـق (مختصـر تــاريـخ دمشــق) لابـن منظور، في (٢٩) مجلّداً، وهو بتحقيق عدّة أساتذة.

ثم قامت مؤسسة الرسالة ببيروت بتصوير التاريخ الكبير عن أصله المخطوط ونشرته دون تحقيق. و «الأطراف الّتي للسّنن» (۱) ثمانية وأربعون جزءاً، و «عوالي مالك» أحد وثلاثون جزءاً، و «التّالي لحديث مالك العالي» تسعة عشر جزءاً، و «غرائب مالك» (۲) عشرة أجزاء، «ومعجم (۳) القرى والأمصار» جزءاً، و «معجم شيوخه» إثنا عشر جزءاً، و «مناقب الشّبّان» خمسة عشر جزءاً، و «فضل أصحاب الصديث» أحد عشر جزءاً، و «السّباعيّات» سبعة أجزاء، وكتاب «تبيين كذِب المفتري فيما نسب إلى الأشعريّ» (٤) مجلّد، و «السّلسلات» له مجلّد (٥) وكتاب «فضل الجمعة» مجلّد، و «الأربعون الطّوال» ثلاثة أجزاء، و «عوالي التّوريّ» شعبّة» مجلّد، و «كتاب الزّهادة في ترك الشّهادة» (١) مجلّد، و «عوالي التّوريّ» مُجنيليد، و «الأربعون الجهاديّة»، و «الأربعون اللبليّة»، و «الأربعون الأبدال»، و «حديث أهل صنعاء الشّام» مجلّد صغير، و «فضائل عاشوراء» ثلاثة أجزاء و «كتاب الزّلازل» ثلاثة أجزاء، و «ثواب المُصاب بالولد» جزءان، و «طُرُق و «كتاب الزّلازل» ثلاثة أجزاء، و «ثواب المُصاب بالولد» جزءان، و «كتاب فضل المدينة»، و «كتاب فضل المدينة»، و «كتاب فضل المدينة»، و «كتاب فضل القدس»، وجزء «فضائل عسقلان»، وجزء «فيمن نزل بالمزّة»، و «كتاب فضل القدس»، وجزء «فضائل عسقلان»، وجزء «فيمن نزل بالمرّة»، و «كتاب فضل القدس»، وجزء «فضائل عسقلان»، وجزء «فيمن نزل بالمرّة»، و جزء «فضائل عسقلان»، وجزء «فيمن نزل بالمرّة»، و جزء «فضائل عسقلان»، وجزء «فيمن نزل بالمرّة»، و جزء «فيمن نزل بالمرّة»، وجزء «فضائل عسقلان»، وجزء «فيمن نزل بالمرّة»، و جزء «فيمن نزل بالمرّة» و حزء «فيمن برء و حزء «فيمن نزل بالمرّة» و حزء «فيمن برء على مرّة على مرّة

وقد قيض الله لي أنا طالب العلم وخادمه «عمر عبد السلام تدمري» أن أقرأ هذا السنفر الضخم مرتين بدار الكتب المصرية، ونسختها هناك برقم ١٠٤١ تاريخ تيمور، من (٤٨) مجلّداً. وأفدت منها كثيراً في تأليف كتابي «موسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي» وخاصة في أجزائها الخمسة الأولى التي صدرت سنة ١٩٨٤.

كما قيض لي أن أشارك في المؤتمر العالمي الذي أقامته وزارة التعليم العالي سنة ١٩٧٩ بدمشق، بمناسبة مرور (٩٠٠) سنة على ولادة «ابن عساكر» بنصوص عن طرابلس الشام من خلال «تاريخ دمشق».

 ⁽٣) في معجم الأدباء ٢٧/١٣ «الموافقات على شيوخ الأثمة الثقات».

⁽١) في معجم الأدباء ٧٧/١٣ «الإشراف على معرفة الأطراف».

 ⁽٢) في معجم الأدباء ٧٧/١٣ «مجموع الرغائب مما وقع من أحاديث مالك الغرائب».

⁽٣) في الأصل: «معظم» وهو وهم.

⁽٤) طَبع في دمشق سنة ١٣٤٧ هـ.

⁽٥) في معجم الأدباء ٧٧/١٣ «عشرة أجزاء».

 ⁽٦) في سير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٦٠ «الزهادة في الشهادة».

في "فضائل الرَّبُوة والنَّيْرب"، وجزء في "مقام إبراهيم وبَرْزَة"، وجزء في قرية الحِمْيَريّين (١)، وجزء أهل كَفَرْسُوسَة (٢)، وجزء أهل كَفَرْبَطْنا، وجزء بيت قُوفًا، وبيت راسين (٣)، وجزء سعد بن عُبَادة، والمنيحة، وجزء أهل حَرَسْتا، وجزء أهل زَمْلكَا، وجزء بيت لِهْيا، وجزء جَوْبَر، وجزء أهل حُردان (٤)، وجزء أهل جَديا (٥)، وجزء أهل بيت وجزء أهل مَنين، وجزء أهل بيت سوا (١)، وجزء أهل بَعْلَبَك، وجزء «المبسوط لمنكر حديث الهبوط»، و«الجواهر واللّاليء» (٧) ثلاثة أجزاء، وغير ذلك.

وأملى أربعمائة مجلس وثمانية مجالس في فنون شتّى، وخرَّج لشيخه أبي غالب ابن البنّا مشيخة، ولشيخه جمال الإسلام مشيخة، وأربعين حديثاً مساواة لشيخه الفُرَاويّ.

وخرَّج في آخر عُمره لنفسه «كتاب الأبدال» ولم يُتِمُّه، ولو تمَّ لجاء في نحو ماثتي جزء.

ذكره ابن السّمعانيّ في تاريخه فقال: كبير العلم، غزير الفضل، حافظ، ثقة، متقِن، ديّن، خيّر حَسن السَّمْت، جمع بين معرفة المُتُون والأسانيد، صحيح القراءة، متثبّت، محتاط. رحل وتعب، وبالغ في الطّلب إلى أن جمع ما لم يجمع غيره، وأربى على أقرانه. ودخل نيسابور قبلي بشهر أو نحوه في سنة تسع وعشرين، فسمع بقراءتي وسمعت بقراءته مدّة مُقامنا بها، إلى أن اتفق خروجه في سنة ثلاثِ وثلاثين.

⁽١) في معجم الأدباء ١٣/ ٨٠ (الحُمْرَيَيْن؛، وكذا في: سير أعلام النبلاء ٢٠/ ٢١م.~

⁽٢) في معجم الأدباء ٨٠/١٣، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٢٠ (كفرسوسية).

⁽٣) في معجم الأدباء ١٣/ ٨٠ (بيت أرانس).

⁽٤) خُرْدان: بضم الحاء المهملة وسكون الراء والدال المهملة. من قرى دمشق. (معجم البلدان ٢٠/٢).

 ⁽٥) في الأصل: «حدايا». والمثبت من: معجم الأدباء ١٣/ ٨١، وسير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٦١.

⁽٦) في معجم الأدباء ١٣/ ٨١ (بيت سَوَايَ».

⁽٧) في الأبدال والعوالي. (معجم الأدباء ٣١/ ٩٧).

وسمعت منه كتاب «المجالسة» بدمشق، «ومُعْجم شيوخه». وكان قد شرع في «التّاريخ الكبير» لمدينة دمشق، وصنّف التّصانيف، وخرَّج التّخاريج. وقرأت بخطّ ابن الحاجب قال: حدَّثني زين الأمناء قال: حدَّثني ابن القزوينيّ، عن والده مدرّس النّظاميّة، يعني أبا الخير، قال: حكى لنا أبو عبدالله الفُراويّ قال: قدِم أبو القاسم بن عساكر فقرأ عليَّ ثلاثة أيّام، فأكثر وأضجَرني، وآليت على نفسي أن أُعْلِق الغدَ بابي وأمتنع، فلمّا أصبحتُ قدِم عليّ شخصٌ فقال: أنا رسول رسول الله علي النوم فقال لي: امض إلى رسول الله علي في النّوم فقال لي: امض إلى

قال القزوينيّ: فواللهِ ما كان الفُراويّ يقوم من المجلس حتّى يقوم الحافظ ابتداءً منه.

الفُراويّ وقُلْ له: قدِم بَلَدَكم رجلٌ من الشّام أسمر اللّون يطلب الحديث، فلا

وقال ابنه القاسم أبو محمد الحافظ: كان رحمه الله مواظباً على صلاة المجماعة وتلاوة القرآن. يختم في كلّ جمعة، ويختم في رمضان كلّ يوم، ويعتكف في المنارة الشّرقيّة، وكان كثير النّوافل والأذكار. وكان يُحيي ليلة النّصف والعيدين بالصّلاة والذكر، وكان يحاسب نفسه على لحظةٍ تذهب في غير طاعة.

وقال لي: لمّا حَمَلَتْ بي أمّي رأت في منامها قائلاً يقول لها: تلِدين غلاماً يكون له شأن.

وحدَّثني أنَّ أباه رأى رؤيا معناها: يولدُ لك ولد يُحيي الله به السُّنَّة.

حدَّثني أبي رحمه الله قال: كنت أقرأ على أبي الفتح المختار بن عبد الحميد وهو يتحدَّث مع الجماعة فقال: قدِم علينا أبو عليّ بن الوزير، فقلنا: ما رأينا مثله. ثمّ قدِم علينا أبو سعد بن السّمعانيّ فقلنا: ما رأينا مثله. حتّى قدِم علينا هذا، فلم نر مثله (١).

يَأْخُذُكُ منه ضجرِ ولا مَلَل.

⁽١)٠ معجم الأدباء ١٣/ ٨٣، ٨٤.

وحكى لي أبو الحسن عليّ بن إبراهيم الأنصاريّ الحنبليّ عن أبي الحسن سعد الخير قال: ما رأينا في سِنّ الحافظ أبي القاسم مثله.

وحدَّثنا محمد بن عبد الرحمن المسعوديّ: سمعت أبا العلاء الهَمَدَانيّ يقول لرجل، وقد استأذنه أن يرحل، فقال: إنْ عرفتَ أستاذاً أعرف منّي أو في الفضل مثلي فحينئذ آذَنُ لكَ أن تسافر إليه، إلاّ أن تسافر إلى الحافظ ابن عساكر، فإنّه حافظ كما يجب. فقلت: مَن هذا؟ فقال: حافظ الشّام أبو القاسم ويسكن دمشق. وأثنى عليه.

وكان يجري ذكره عند خطيب الموصل أبي الفضل فيقول: ما نعلم مَن يستحقّ هذا اللّقب اليوم، أعني الحافظ، ويكون به حقيقاً سواه. كذا حدَّثني أبو المواهب بن صَصْرَى، وقال: لمّا دخلت هَمَذَان أثنى عليه الحافظ أبو العلاء وقال: أنا أعلم أنّه لا يُساجل الحافظ أبا القاسم في شأنه أحد، فلو خالق النّاس ومازحَهم كما أصنع، إذا لاجتمع عليه الموافِق والمخالِف.

وقال لي يوماً: أيُّ شيءٍ فُتِح له، وكيف ترى النَّاسَ له؟

قلت: هو بعيد من هذا كله، لم يشتغل منذ أربعين سنة إلا بالجمع والتصنيف والتسميع في نُزَهِهِ وخَلَواته. فقال: الحمد لله، هذا ثمرة العِلم. ألا إنّا قد حصل لنا هذا المسجد والدّار والكُتُب، هذا يدلّ على قلّة حظوظ أهل العلم في بلادكم.

ثم قال لي: ما كان يُسمّى أبو القاسم ببغداد إلا شُعلة نارٍ من تَوَقُّده وخُسْن إدراكه (١).

وقال أبو المواهب: أمّا أنا فكنت أُذاكره في خَلَوَاتِه عن الحُفّاظ الّذين لَقِيَهُم. فقال: أمّا ببغداد فأبو عامر العَبْدَرِيّ؛ وأمّا بإصبهان فأبو نصر العَبْدَريّ، وأمّا بإصبهان فأبو نصر اليُونَارتيّ، لكنّ إسماعيل الحافظ كان أشهر منه.

⁽١) معجم الأدباء ١٣/٨٤، ٨٥.

فقلت له: فَعَلَى هذا ما رأى سيّدنا مثله. فقال: لا تَقُلُ هذا، قال الله تعالى: ﴿وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبُّكَ تعالى: ﴿وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبُّكَ فَحَدَّتْ ﴾ (١). قلت: وقد قال تعالى: ﴿وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبُّكَ فَحَدَّتْ ﴾ (١). فقال: نعم، لو قال قائل: إنّ عيني لم تَرَ مثلي لَصَدَق.

قال أبو المواهب: وأنا أقول لم أر مثله، ولا مَن اجتمع فيه ما اجتمع فيه من أزُوم طريقة واحدة مدَّة أربعين سنة، من لُزُوم الصّلوات في الصّفّ الأوّل إلاّ من عُذْر، والإعتكاف في رمضان وعَشْر ذي الحجّة، وعدم التّطلُّع إلى تحصيل الأملاك وبناء الدُّور. وقد أسقط ذلك عن نفسه، وأعرض عن طلب المناصب من الإمامة والخطابة، وأباها بعد أن عُرِضَت عليه، وقلّة التفاته إلى الأمراء، وأخذِ نفسِه بالأمر بالمعروف والنّهْي عن المنكر، لا تأخذه في الله لومة لائم.

قال لي: لمّا عزمت على التّحديث، واللهُ المطّلعُ أنّه ما حملني على ذلك حبُّ الرياسة والتّقدُّم، بل قلت: متى أروي كلّ ما سمعت وأيّ فائدة في كوني أخلّفه بعدي صحائف؟ فاسْتَخَرْتُ الله تعالى وأستأذنت أعيان شيوخي ورؤساء البلد، وطُفْتُ عليهم، فكلٌ قال: ومن أحقُ بهذا منك. فشرعت في ذلك في سنة ثلاثِ وثلاثين.

وقال عمر بن الحاجب: حكى لي زين الأمناء أنّ الحافظ لمّا عزم على الرحلة اشترى جَمَلًا، وتركه بالخان، فلمّا رحل القَفْل تجهّز. وخرج فوجد الجمل قد مات. فقال له الجماعة الّذين خرجوا لوداعه: ارجِع فما هذا فألٌ مبارك، وفندوا عَزْمَه، فقال: واللهِ لو مشيت راجلًا لا أثنيت عزمي. وحمل خرْجَه وقماشه، وتبع المركب، واكترى منهم في القصير. وكانت طريقه مباركة.

وقال أبو محمد القاسم: قال لي والدي لمّا قدِمت في سَفَري: قال لي

⁽١) سورة النجم، الآية ٣٢.

 ⁽٢) سورة الضحٰى، الآية ١١.

جدي القاضي أبو المفضّل يحيى بن علي: اجلس إلى سارية من هذه السّواري حتى نجلس إليك. فلمّا عزمت على الجلوس اتّفق أنّه مرض ولم يقدر بعد ذلك خروج إلى المسجد. وكان أبي رحمه الله قد سمع بنساً لم يحصّل منها نُسَخا اعتماداً على نُسَخ رفيقه الحافظ أبي عليّ بن الوزير. وكان ما حصّله أبي لا يحصّله ابن الوزير، فسمعته يقول: رحلت وما كأنّي رحلت. كنت أحسب أنّ ابن الوزير يقدم بالكُتُب مثل الصّحيحين، وكُتُب البَيّهَقيّ والأجزاء، فاتّفق سُكناه بمرو، وكنت أومّل وصول رفيق آخر يوسف بن فارّو الجيّانيّ، ووصول رفيقنا المُراديّ، وما أرى أحداً منهم قدِم، فلا بُدّ من الرحلة ثالثاً وتحصيل الكُتُب والمَهمَّات. فلم يمض إلاّ أيّامٌ يسيرة حتى قدِم أبو الحسن وتحصيل الكُتُب والمَهمَّات. فلم يمض إلاّ أيّامٌ يسيرة حتى قدِم أبو الحسن وتحصيل الكُتُب وقابل، فقدِم بأربعة أسفاط كُتُب مسموعة، ففرح أبي المراديّ، فأنزله أبي عندنا، فقدِم بأربعة أسفاط كُتُب مسموعة، ففرح أبي بذلك، وكفاه الله مؤونة السَّفر. وأقبل على النَّسْخ والإستنساخ، وقابل، وبقي من مسموعاته نحو ثلاثمائة جزء، فأعانه عليها ابن السمعانيّ، ونقل إليه منها من مسموعاته نحو ثلاثمائة جزء، فأعانه عليها ابن السمعانيّ، ونقل إليه منها جملة حتى لم يبق عليه أكثر من عشرين جزءاً. وكان كلّما حصل له جزء منها كأنّه قد حصل على ملك الدّنيا.

قلت: وله شِعْر جيّد يُملي منه عقيب مجالسه، فمنه:

أیا نفسُ ویْحـكِ جـاء المَشِیـب تـولّـی شبـابـي كـأنْ لـم یكُــنْ فیـا لَیْـتَ شِعْـري ممّـن^(۲) أكـون

فماذا التّصابي وماذا الغَـزَلْ وجاء مَشيبي كأنْ لـم يَـزَلْ (١) وما قـدَرُرُ اللهُ لـى مـن الأزَلُ (٣)

⁽١) زاد بعده في سير أعلام النبلاء ٢٠/٧٠٠ بيتاً:

كَانَّسِي بنفسِي على غِسرَّةٍ وخطْبُ المَنُونِ بها قد نولُ (٢) في معجم الأدباء: «فيمن».

 ⁽٣) الأبيات في: معجم الأدباء ٨٦/١٣، ووفيات الأعيان ٣١٠/٣، ومرآة الزمان ٨/٣٣٦، ومرآة البجنان ٣/٣٩٤، وطبقات الشافعية للإسنوي ٢/٢١، والبداية والنهاية ٢١/٢٩٤، وخريدة القصر ٢/٢٧٤، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٥٦٩، ٥٧٠، والنجوم الزاهرة ٢/٧٧.

سمعت أبا الحسين اليُونينيّ (١): سمعت أبا محمد المُنذريّ الحافظ يقول: سألت شيخنا أبا الحسن عليّ بن المفضّل الحافظ عن أربعةٍ تعاصروا أيّهم أحفظ؟.

فقال: من؟

قلت: الحافظ ابن ناصر، وابن عساكر.

فقال: ابن عساكر.

فقلت: الحافظ أبو موسى المَدِينيّ، وابن عساكر.

قال: ابن عساكر.

فقلت: الحافظ أبو طاهر السِّلَفيّ، وابن عساكر.

فقال: السِّلَفيّ شيخُنا السِّلَفيّ شيخنا.

قلت: يعني أنّه ما أحبّ أن يصرّح بأنّ ابن عساكر أفضل من السُّلَفيْ، ولوَّح بأنّه شيخه. ويكفي هذا في الإشارة.

قلت: والرجل ورع ثَبْت. وما أَطْلَقَ أنّه ما رأى مثل نفسه في جواب الحافظ أبى المواهب إلا وهو بارٌ صَدُوق.

وكذلك رأيت شيخنا أبا الحَجّاج المِزّيّ يميل إلى هذا. وأنا جازِمٌ بذلك أنّه ما رأى مثل نفسه. هو أحفظ من جميع الحُفّاظ الّذين رآهم من شيوخه وأقرانه.

وقال الحافظ أبو محمد عبد القادر الرُّهاويّ: رأيت الحافظ السِّلَفيّ، والحافظ أبا العلاء، والحافظ أبا موسى، ما رأيت فيهم مثل ابن عساكر^(٢).

وقرأت بخطّ عمر بن الحاجب: قال: حكى لي مَن أثق به أنّ الحافظ عبد الغنيّ قال: الحافظ ابن عساكر برجال الشّام أعرف من البخاريّ لهم، وندِم على ترك السّماع منه ندامةً كُلِّيّة.

⁽١) اليونيني: نسبة إلى يونين، بلدة قريبة من بعلبك.

⁽٢) التقييد لابن نقطة ٤٠٦.

وذكره ابن النّجّار في «تاريخه» فقال: إمام المحدّثين في وقته، ومن انتهت إليه الرئاسة في الإتقان والحفظ والمعرفة التّامّة والثّقة، وبه خُتم هذا الشّأن.

روى عنه جماعةٌ وهو في الحياة، وحدَّثوا عنه بالإجازة في حياته.

قال: وقرأت بخط الحافظ مَعْمَر بن الفاخر في «معجمه»: أخبرني أبو القاسم عليّ بن الحسن الدّمشقيّ الحافظ من لفظه [بمِنَى](١) إملاءً يوم التّفر الأوّل، وكان أحفظ مَن رأيت مِن طَلَبة الحديث والشُّبّان، وكان شيخنا الإمام إسماعيل بن محمد يفضّله على جميع مَن لقيناهم من أهل إصبهان وغيرها.

قدِم إصبهانَ، وسمع ونزل في داري، وما رأيت شابّاً أورع ولا أتْقن ولا أحفظ منه. وكان مع ذلك فقيها أديباً [سنيّاً] (٢)، جزاه الله خيراً، وكثّر في الإسلام مثله، أفادني في الرحلة الأولى والثّانية ببغداد كثيراً، وسألته عن تأخّره في الرحلة الأولى عن المجيء إلى إصبهان فقال: لم تأذن لي أمّي.

قلت: وهو مع جلالته وحِفْظه يروي الأحاديث الواهية والموضوعة ولا يتبيّنها، وكذا كان عامّة الحُفّاظ الّذين بعد القرون الأولى، إلاّ من شاء ربك فَلَيْساَلنّهم الله تعالى عن ذلك. وأيّ فائدة بمعرفة الرجال ومصنفات التّاريخ والجرح والتّعديل إلاّ كشف الحديث المكذوب وهتُكه؟

قال ابنه أبو محمد: تُونِّقي أبي في حادي عشر رجب، وحضر الصّلاة عليه السّلطان صلاح الدّين، وصلّيت عليه في الجامع، والشّيخ قُطْب الدّين في المَيْدان الّذي يُقابل المُصلّى. ورأى له جماعة من الصّالحين مناماتٍ حَسَنَة، ورثي بقصائد، ودُفن بمقبرة باب الصغير.

قلت: قبره مشهور يُزار رحمه الله^(٣).

⁽١) ساقطة من الأصل، استدركتها من: سير أعلام النبلاء ٢٠/٧٢٥.

 ⁽٢) ساقطة من الأصل، استدركتها من: سير أعلام النبلاء ٢٠/٧٢٥.

⁽٣) أقول: أفاد ابن عساكر من شيوخ ساحل دمشق حيث نزل بعلبك مرتين على الأقلّ، فأخد =

١٢ ـ علىّ بن حُمَيْد بن عمّار (١).

أبو الحسن الأنصاريّ، الأطْرابُلُسيّ، ثمّ المكّيّ، النّحُويّ، المقرىء. حدّث في هذا العام بـ «صحيح البخاريّ» عن أبي مكتوم عيسى بن أبي ذَرّ الهَرَوِيّ سَمَاعاً، وهو آخر من سمع من أبي مكتوم.

روى عنه: محمد بن عبد الرحمن التُّجَيْبيّ الأندلسيّ، وعبد الرحمن بن أبي حَرَمي فَتُوح بن بنين المكّيّ العطّار، وناصر بن عبدالله المصريّ العطّار نزيل مكّة ستين عاماً، وأبو الربيع سليمان بن أحمد السَّعْديّ المغربل الشّارعيّ، وآخرون.

ولا أعلم متى تُونِقي^(٢).

إجازة من أبي المضاء محمد بن علي بن الحسن بن محمد بن أبي المضاء البعلبكي المتوفى سنة ٥٠٩هـ. (تاريخ دمشق مخطوطة التيمورية) ٥٢٩/٣٨، معجم البلدان ٤٥٤/١) ولقي: الحسين بن جعفر البعلبكي المعروف بابن بريك المتوفى سنة ٥٥١هـ. وسمع منه شعراً (تاريخ دمشق ٢٩٩/٩، تهذيبه ١٥٦/٤) وكتب عن: شكر بنت سهل بن بشر بن أحمد بن سعيد الإسفرائيني الصابغ المولودة بصور والمتوفاة بدمشق سنة ٥٥١هـ. (أعلام النساء ٢/٢٠٣) وسمع من أبي الحسن علي بن محمد بن علي البعلبكي المتوفى سنة النساء ٢/٢٠٣) وسمع من أبي الحسن علي بن محمد بن علي البعلبكي المتوفى سنة عقيل بن محمد الفارسي المعروف بابن أبي الحوافر البعلبكي المتوفى سنة ٥٣١هـ. (تاريخ دمشق ٣/٨١، تهذيبه ٢/٣٩١) وروى عن أبي الحزم مكي بن الحسن الجُبيلي، من جبيل بساحل دمشق. (تاريخ دمشق ٢١/٣٩١ و٣٤/٥٢١) وسمع أبا الفرج غيث بن الصور، فنقل ابن عساكر كثيراً منه وأفرغه في تاريخ دمشق وحفظ بذلك قسماً كبيراً منه. (الأنساب ٢٧ أ، أدب الإملاء ١٥٤).

⁽۱) أنظر عن (علي بن حُمَيد) في: المعين في طبقات المحدّثين ۱۷۲ رقم ۱۸۵۷، وسير أعلام النبلاء ۲۰/ ٥٤١، رقم ٣٤٣، والعقد الثمين ٦/ ١٥٦، ١٥٧، والنجوم الزاهرة ٦/٧٠، وشدرات الذهب ٢٤٠/٤.

 ⁽۲) وقال المؤلّف ـ رحمه الله ـ في سير أعلام النبلاء، أثناء ترجمته: «بقي إلى سنة إحدى
وسبعين وخمسمائة»، ثم قال في آخرها: «وقيل إنه عاش إلى سنة خمس وسبعين، وحدّث
فيها».

وفي (العقد الثمين) وقاته سنة ست وسبعين. وسيعاد برقم (١٦٤).

 $^{(1)}$ عليّ بن المبارك بن أحمد بن محمد بن بكرى $^{(1)}$. أبو الحَسَن البغداديّ.

سمع: أبا عليّ بن المهديّ، وأبا الغنائم بن المهتدي بالله، وابن الخُصَيْنِ.

> سمع منه: عمر بن عليّ القُرَشيّ، وعمر العُلَيْميّ الدّمشقيّان. تُوُفّى في جُمَادَى الأولى^(٢).

أنظر عن (علي بن المبارك) في: المختصر المحتاج إليه ١٤٠/٣ رقم ١٠٤٨، وخريدة (١) القصر (قسم العراق) ٣/٣٤٩_٣٥٧، وتاريخ ابن الدبيثي (مخطوط) ٣/ورقة ١٦٢، والمستفاد من ذيل تاريخ بغداد ٣٤٥ رقم ١٥٠، والوافي بالوفيات ٢١/٣٩٦، ٣٩٧ رقم . ٢٧٤

قال العماد الكاتب: والده مستعمل السقلاطون لدار الخلافة. وكان هو كاتباً في ديوان **(Y)** المجلس سنين، ثم صرفه الوزير. فيه فضل وأدب. وهو من طبقة الشِطرَنجيّين ببغداد. أنشدني لنفسه ببغداد سنة اثنتين وخمسين وخمسمائة بيتين له في سوداء، وهما:

منيَّ مِّ، مِا يسزالُ فِانستِ للصُّنعِ خَالُ يـــا مــن فـــؤآدي فيــه إنْ كـــان للّــل بــدرٌ وأنشدني لنفسه يستعير كتاباً ممّن الزم نفسه الاّ يُعير أحداً كتاباً:

يـــــا مَـــــن أنـــــاب وتـــــاب وله في تُفّاحةِ أُهدِيت له:

حيِّسا بُتفِّساحسة، فسأحيسان كالمساريخها تنفسه وقوله في الشطرَنج:

أَحَبُّ دُعَابِاَت الرجال إلى قلبي أسالم فيها، ثم أغدو مُحارباً، وقوله في الشطرنج أيضاً:

إنّم العبُ ك بسالشِطُ المُحْسرَ لسديسه وتجنَّسبَ صـاحــب الجهـ لا تُجـــالِــسْ غيـــرَ نَـــدُب

الا يُعيــــرَ كتـــابـــا محبّــة الشكـــر تـــابـــي

مُسواصِلٌ بعسد طسول هجسران ولونها وردُّ حدده القاليي

دُعابةُ شِطْرَنجِ أغادي بها صَحْبي فسِلمٌ بلا سِلْمٍ، وحربٌ بلا حربِ

ـــرُنْــج للنَّفْــس ريـاضَــه لا تــرد يــومــأ حِيــاضـــه -ل، ومَن فيسه غضاضية زائسية العقيل وراضية 1٤ ـ علي بن المظفّر بن علي بن حسين الظّهِيري (١٠).
 أبو القاسم والد الأعزر.

سمع: هبة الله بن أحمد المَوْصِليّ، وأبا الغنائم النَّرْسيّ.

روى عنه: تميم بن أحمد البُنْدَنِيجيّ، وعبد العزيز بن الأخضر، وأبو الفتوح بن الحُصْريّ، وأبو محمد بن قُدَامَة، وغيرهم.

تُوُفِّي في جُمَادَى الآخرة في الطّريق فجأة (٢)، وله ستُّ وسبعون سنة. وكان مَهِيبًا، وَتُورًا، صَمُوتًا.

١٥ _ عمر (٣) بن هديّة بن سلامة.

أبو حفص البغدادي، الصوّاف، السَّمْسار.

سمع: أبا القاسم بن بيان، وأبا الخطّاب الكَلْوَذانيّ.

روى عنه: أبو الفَرَج بن الجوزيّ ووثّقه.

عاش تِسعاً وثمانين سنة .

ـ حرف الميم ـ

١٦ _ محمد بن أحمد بن أحمد بن سليمان(٤) .

أبو عبدالله الغافقيّ، المعروف بالقّبَاعيّ. من أهل الجزيرة الخضراء.

روى ببلده عن: أبي عبدالله بن عبد الحقّ، وأبي عبدالله بن أبي صوفة، وغيرهما.

⁽١) أنظر عن (علي بن المظفّر) في: المختصر المحتاج إليه ٣/١٤٣، ١٤٤ رقم ١٠٥٩، والتاريخ المجدّد لابن النجار (مخطوطة باريس ١٢٣١) ورقة ٤١.

⁽٢) وقال أبن النّجار: "ونُقل عن بعض الشيوخ أنه كان شيخاً وقوراً، دائم الصمت، مليح الهيئة، وكان يخرج إلى الجامع من بعد صلاة الصبح، فخرج يوماً من بيته بباب المراتب كان صحيحاً، فلما وصل إلى البستان قعد ليستريح وأسند ظهره... فمات فجأة».

 ⁽٣) في الأصل: «علي»، والمثبت من:
 المنتظم (طبعة دار الكتب العلمية) ١٨/ ٢٢٥ رقم ٤٣١١ ولم ترد ترجمته في (طبعة حيدر أباد) _ أنظر ٢٦١/١٠.

⁽٤) أنظر عن (محمد بن أحمد بن أحمد) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

وأجاز له أبو عليّ بن سُكّرة الصَّدَفيّ. ووُلّي خطابةَ بلده. قال الأَبّار: وكان فقيهاً مشاوَراً، ذا دُعابة مع خشْية وخشوع.

حدَّث عنه: أبو القاسم بن الحَسَن، وأبو نصر السَّبْتيّ، ويعيش بن التَّديم، وأبو الخطَّاب عمر بن الجميّل.

وأجاز في رجب من السَّنَة. ولم تُؤرَّخ وفاته.

١٧ ـ محمد بن أسعد بن محمد بن الحسين (١٠).

الإمام مجد الدّين، أبو منصور الطُّوسيّ، العطّاريّ (٢)، المعروف بحَفَدَة (٣).

الفقيه الشّافعيّ. كان فقيها واعظاً أصولياً فاضلاً، تفقّه بمَرُو على أبي بكر محمد بن منصور السّمْعانيّ، ثمّ انتقل إلى مَرُو الرّوذ، وتفقّه على القاضي أبي محمد الحسين بن مسعود الفرّاء البَغَوِيّ، وسمع منه كتابيه: «شرح السُّنّة» و«معالم التَّنزيل»، وغير ذلك.

ثم انتقل إلى بُخَارَىٰ واشتغل بها على البرهان عبد العزيز بن عمر بن مازة الحنفي ثم عاد إلى مَرْو، وقدِم أَذَرْبَيْجان، والجزيرة، واجتمع النّاس عليه بسبب الوعظ. وكان مجلسه في الوعظ من أحسن المجالس، ولا ندري لِمَ لُقُب حَفَدَة.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن أسعد) في: التحبير ۲/۹۸، ۹۰ رقم ۲۹۰، والمنتظم ۱/۹۷۰ (۲۲۸/۱۸) (۱) أنظر عن (محمد بن أسعد) في وفيات سنة ۷۵ هـ.، ووفيات الأعيان ۲۲۳۸، ۲۳۹، ۲۳۹، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ۲/۰۸، ۹۸۱، والعبر ۲/۳۵، ودول الإسلام ۲/۸۵، والإعلام بوفيات الأعلام ۲۳۰، وسير أعلام النبلاء ۲۱/۳۵، ۵۰، رقم ۱۳۳۱، والمعين في طبقات المحدّثين ۱۷۶ رقم ۱۸۵۸، وتذكرة الحفاظ ۲۳۳۳، ۱۳۳۳، والمختصر المحتاج إليه ۲۲/۱، والوافي بالوفيات ۲/۲۰۲، ۲۰۳، رقم ۵۸۰، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ۲/۲۲، ۹۳، وطبقات الشافعية للإسنوي ۱/۱٤۱، ۱۶۶، والبداية والنبوا والنهاية ۲۱/۹۲، وشارات الذهب ٤٤٠ وسيعاد برقم (۸۷).

⁽٢) في شذرات الذهب: «العطاردي»، وهو غلط.

⁽٣) ضبطها ابن خلَّكان بفتح الحاء والفاء والدال. وقال: لا أعلم لِمَ سُمِّي بهذا الأسم مع كثرة كشفى عنه. (وفيات الأعيان).

روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى، وأبو أحمد بن سُكَيْنَة، وعبد العزيز بن الأخضر، وأبو المجد محمد بن الحسين القزوينيّ، والقاضي أبو المحاسن يوسف بن رافع بن شدّاد، وآخرون.

قال السَّمْعانيِّ (۱): كتبت عنه بمَرْو، ونَيْسابور. وكان فقيها، واعِظاً، شاطراً، جَلْداً، فصيحاً (۲).

سمع من: عبد الغفّار الشّيرُوِيّ، وأبي الفِتْيان الرَّوَّاسيّ، وناصر بن أحمد العِياضيّ.

أخبرنا أحمد بن إسحاق: أنا يوسف بن رافع الأسكيّ قدِم علينا مصر: أنا محمد بن أسعد، نا مُحيي السُّنة الحسين بن مسعود، أنا أحمد بن عبدالله بن أحمد الصّالحيّ (ح)، وأنا إسماعيل بن عبدالرحمن: أنا ابن قُدامة، أنا البَطّيّ، أنا أبو الحسن الأنباريّ قال: انبا أبو الحسين بن بِشُران، أنا إسماعيل الصّفّار: ثنا أحمد بن منصور، ثنا عبد الرّزّاق، أنا معمّر، عن عاصم بن أبي الجود، عن أبي وائل، عن مُعاذ بن جبل، أنّ النبيّ على قال: «وهل يكبّ النّاس في النّار على وجوههم ـ أو قال على مناخرهم ـ إلا حصائد ألْسنتهم» (٣).

⁽١) في التحبير ٢/ ٨٩.

⁽٢) زاد في التحبير: «أصولياً».

⁽٣) حديث صحيح، رواه الترمذي في الإيمان (٢٧٤٩) باب ما جاء في حرمة الصلاة، من حديث طويل عن معاذ بن جبل قال: كنت مع النبي ﷺ في سفر فأصبحت يوماً قريباً منه ونحن نسير فقلت: يا رسول الله، أخبرني يعمل يُدخلني الجنة ويباعدني عن النار، قال: لقد سألتني عن عظيم، وإنه ليسير على من يسره الله: تعبدالله ولا تشرك به شيئاً، وتقيم الصلاة، وتؤتي الزكاة، وتصوم رمضان، وتحج البيت، ثم قال: ألا أدلك على أبواب الخير: الصوم جُنّة، والصدقة تُطفىء الخطيئة كما يُطفيء الماء النار، وصلاة الرجل من جوف الليل، قال: ثم تلا ﴿تَتَجَافَىٰ جُنُوبُهُمْ عَنِ المَضَاجِعِ يَدْعُونَ رَبِهُمْ حتى بلغ جوف الليل، قال: ألا أخبركم برأس الأمر كله وعموده وذروة سنامه الجهاد، ثم قال: ألا رسول الله قال: رأس الأمر الإسلام، وعموده الصلاة، وذروة سنامه الجهاد، ثم قال: ألا أخبرك بملك ذلك كلّه، قلت: بلى يا أخبرك بملك ذلك كلّه، قلت: بلى يا رسول الله، قال: فأخذ بلسانه، قال: كُفّ عليك =

قال ابن خَلِّكان^(۱): تُوُفِّي في ربيع الآخر سنة إحدى بتبريز. وقال: قيل أيضاً إنّه تُوُفِّي في رجب سنة ثلاثٍ وسبعين، فالله أعلم. والثّاني أصحّ.

وكان مولده سنة ستِّ وثمانين وأربعمائة.

١٨ - محمد بن الحسن بن عليّ بن هلال بن همصا بن نافع.
 العِجْليّ. أخو هبة الله الدَّقَاق، البغداديّ.

روى عن: عليّ بن محمد بن عليّ الأنباريّ، الحنبليّ، وسعدالله بن أيّوب، وأبي الخطّاب الكَلْوَاذَانيّ.

وتفقُّه على أسعد المَيْهَنَيِّ.

وأخذ الأدب عن: أبي منصور بن الجواليقيّ. وكان مولده سنة اثنتين وتسعين وأربعمائة. ولد أخٌ آخر باسمه. كتب ذاك أبو المعالى.

١٩ _ محمد بن الحسين بن محمد بن المعلم.

القاضي أبو منصور الحنفيّ. ۗ

ناب في القضاء عن قاضي القُضاة أبي القاسم الزَّيْنبيّ، ودرّس. وسكن هَمَذَان مدّة، ثمّ قدِم بغداد رسولاً.

روى عن: أبي القاسم بن بيان، وعليّ بن الموحّد.

سمع منه: أبو المواهب بن صَصْرَى، وغيره بهَمَذَان.

وعاش ثمانين سنة.

هذا. فقلت: يا نبي الله وإنّا لمؤآخذون بما نتكلّم به؟ فقال: ثكِلتُك أمُّك يا مُعاذ وهل يكبّ الناس في النار على وجوههم أو على مناخرهم إلا حصائد ألسنتهم. قال الترمذي:
 هذا حديث حسن صحيح.
 في وفيات الأعيان ٢٣٩/٤.

٢٠ _ محمد بن عُبَيْد الله بن عليّ (١).

أبو حنيفة بن أبي القاسم الإصبهانيّ، الخطيبيّ.

من بيت عِلْمٍ وشُهْرة. قدِم بغداد حاجًا سنة نيْف وستّين.

وحدَّث عن تَّ جدَّه لأمَّه حَمْد بن صَدَقَة، وأبي مطيع المصريّ، وأبي بكر بن مَرْذُوَيْه، وأبي الفتح الحدّاد، وعبد الواحد بن حَمْد الدُّونيّ. وأملى عدَّة مجالس. وكان حنفيّ المذهب.

روى عنه: أبو طالب بن عبد السَّميع، وموفَّق الدّين بن قُدَامَة، وأبو القاسم بن صَصْرَى، لقِيه بمكّة، وسمع منه بقراءة أبيه.

ُتُوُفّى أبو حنيفة بإصبهان وله ثلاثٌ وثمانون سنة^(٢).

وروى عنه: ابن الأخضر.

٢١ ـ محمد ابن الوزير عليّ بن طِراد الزَّيْنَبيّ^(٣).

أبو العبّاس المعروف بالأمير التّركيّ، لأنّه ابن تركيّة.

كان مُقْبِلًا على العِلم. قرأ الفرائض والأدب. وقرأ الحديث على: هبة الله الشَّبْليّ، وابن البطّيّ.

ولم يلحق أن يسمع من أبيه. وتُوُفّى شابّاً.

۲۲ _ محمد بن محمد بن حمّود^(٤).

⁽۱) أنظر عن (محمد بن عبيدالله) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ٣٤/٢ رقم ٣٤٣، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٤ رقم ١٨٥٣، والجواهر المضيّة ٢/٨٨، والوافي بالوفيات ١١/٤ رقم ١٤٦٩، وتبصير المنتبه ٥٩٧، وشذرات الذهب ٢٤١/٤.

⁽۲) مولده سنة ۸۸۱ هـ.

 ⁽٣) أنظر عن (محمد بن علي بن طراد) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ١٢٠/، ١٢١، رقم
 ٣٤٥ والمختصر المحتاج إليه ١٩٠/.

أنظر عن (محمد بن محمود) في: تاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة شهيد علي) ورقة ١٠٥،
والمختصر المحتاج إليه ١١٧/١، ومعرفة القراء الكبار ١٩٣٩، ٥٤٠، رقم ٤٨٦، وغاية
النهاية ٢/ ٢٣٩، ٢٤٠ رقم ٣٤٠٨.

أبو الأزهر الواسطيّ، المقرىء، الصُّوفيّ. قرأ بالروايات على أبي العزّ القلانسيّ. وسمع من: أبي نُعَيْم محمد بن إبراهيم الجماريّ. وببغداد من أبي غالب بن البنّاء. وأقرأ النّاسَ مدّةً.

روى عنه: عمر بن يوسف خَتَن ابن الشّعار، وعمر بن محمد بن أحمد الدّينَورِيّ، ومحمد بن أحمد بن إسماعيل القزوينيّ.

ذكره ابن النّجار فأطنب في وصفه وقال: كان شيخاً صالحاً، ورِعاً، تقيّاً، زاهداً، قانعاً، منقطعاً عن النّاس، يرجع إلى فضل وعلم بالقراءات.

وتُوُفّي رحمه الله ببغداد في رجب.

٢٣ ـ محمد بن محمد بن أحمد بن خلف بن إبراهيم بن لبيب. الاً مام أبو القاسم بن الحاج التُّجيبيّ، القُرْطُبيّ.

سمع من: والده الشّهيد أَبي عبدالله بن الحاّج، وأبي محمد بن عَتّاب، وأبي عليّ بن سُكّرة، وأبي الوليد بن رُشْد، وابن يحيى بن العاص.

وأجاز له أبو عبدالله الخَوْلانيّ. وكان بصيراً بمذهب مالك، عارفاً بالمسائل، ذاكراً للخلاف. وجلس للمناظرة مكان أبيه. ولم يكن يعرف الحديث.

وكان وَقُوراً مَهِيباً، لا يتكلَّم إلا في النّادر. ولي قضاء الجماعة بقُرْطُبة وقتاً، ثمّ خرج عنه في الفتنة، وتجوَّل في الأندلس، واستقرَّ بمُرْسِية مرتسماً في ديوان الجُنْد عند الأمير محمد بن سعد. ثمّ سافر إلى مَيُورقَة بعد موت ابن سعد، فحدَّث بها.

روى عنه: فقيل بن (...)(١)، وابن سُفْيان، وغيرهما.

⁽١) في الأصل بياض.

ثمّ وفد إلى إشبيلية فمات بها.

۲٤ ـ مبارك بن الحَسَن^(۱).

أبو النَّجْم، ابن القابلة الفَرَضيِّ.

بغدادي، عارف بالفرائض والمواقيت.

سمع: أبا الحسين بن القاضي أبي يَعْلَى (٢).

 $^{(7)}$. محفوظ بن أبي عبدالله محمد بن عبد المنعم

أبو جعفر بن الورّاق البغداديّ، الوكيل بباب القاضي.

سمع: أبا الحسين بن الطُّيُوريّ، وأبا سعد الأَسَدِيّ.

روى عنه: حفيده محمد بن يوسف، وعبد العزيز بن الأخضر، وجماعة.

وتُونُقّي في جُمادَى الآخرة، وله ثمان وسبعون سنة.

۲٦ _ مسعود ^(١) بن الحسين بن سعد ^(٥).

القاضي، أبو الحسين(٦) اليَزْديّ، الحَنَفيّ.

أفتى، ودرَّس، وناب في القضاء ببغداد، ثمّ خرج إلى الموصل ودرّس بها (٧).

⁽۱) أنظر عن (مبارك بن الحسن) في: المنتظم ١٠/ ٢٦١ رقم ٣٥٧ (١٨/ ٢٢٥ رقم ٤٣١٢)، وذيل طبقات الحنابلة ١/ ٣٣٤، ٣٣٥ رقم ١٥٤، وشذرات الذهب ٢٤٠٠/٤.

⁽٢) وُلد سنة ٥٠٥ تقريباً، وسمع من طلحة العاقولي سنة عشر، وهو أقدم سماع وُجد له، وذكره ابن القطيعي وقال: كتبت عنه، وكان ثقة. قال: وكان أهلم أهل زمانه بالفرائض والحساب والدور، حسن العلم بالجبر والمقابلة، وغامض الوصايا والمناسخات، حنبلي المذهب، أمّاراً بالمعروف، شديداً على أهل البدّع، عارفاً بمواقيت الشمس والقمر.

 ⁽٣) أنظر عن (محفوظ بن محمد) في: المختصر المُحتاج إليه ٣/١٩٧ رقم ١٢٢١.

⁽٤) في الأصل: «منصور» وهو غلط.

⁽٥) أنظر عن (مسعود بن الحسن) في: المنتظم ١٠/ ٢٦١ رقم ٣٥٨ (١٨/ ٢٢٥ رقم ٣١٣٤)، والمختصر المحتاج إليه ١١٨٨ رقم ١١٩٠، وتلخيص مجمع الآداب ج ٥ رقم ٤٤٠، والجواهر المضيّة ٢/ ١٦٨.

 ⁽٦) في الأصل: «أبو الحسن»، والتصحيح من المنتظم. وفي المختصر المحتاج إليه: «أبو الخير».

⁽٧) وذَّكره القاضي تاج الدين يحيى بن القاسم التَّكريتي وقال: كان شيخاً لطيفاً فيه دُعابة، وكان يدرس بالمدرسة الغياثية، وبُعث رسولاً من الديوان في أيام المستنجد بالله. =

وتُوُفّي في جُمادي الآخرة، وله بضعٌ وستّون سنة.

_ حرف الهاء _

٢٧ ـ هبة الله بن يحيى بن الحسن(١).

أبو جعفر بن البُوقي (٢) الواسطيّ، العطّار، الفقيه الشّافعيّ.

كان عارفاً بالمذهب والخلاف والفرائض (٣).

تفقُّه على أبي عليّ الفارقيّ.

وسمع: أبا نُعَيْم الجماريّ، وأبا نُعَيْم بن زبزب، وخميساً الحَوْزِيّ.

وببغداد: أبا بكر الأنصاري، وغيره.

وبرع في المذهب، وناظر الفُقَهاء. ثمّ استقدمه الوزير عون الدّين فحدَّث بعداد (٤).

وروى عنه: ابن الأخضر، وأبو إسحاق الكاشْغُريّ، وجماعة. وتُوُفّي في ذي القعدة بواسط، وله ٨٣ سنة^(ه).

_ حرف الياء _

٢٨ ـ يحيى بن سعيد بن أبي الأسود.

= (تلخيص مجمع الآداب).

⁽۱) أنظر عن (هبة الله بن يحيى) في: التاريخ المظفري لابن أبي الدم الحموي (مخطوطة مكتبة البلدية بإسكندرية، رقم ۱۲۹۲ ب) ورقة ۲۰۷، وتلخيص مجمع الآداب ـ ج ٥/رقم ٥٦٥، والمختصر المحتاج إليه ٣/٢٢٨، ٢٢٩ رقم ١٣٠١، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٣٢٢/٤، وطبقات الشافعية للإسنوي ١٤٢١، ٢٦٥ رقم ٢٤٢١.

 ⁽٢) في الأصل: «العوقي»، والتصحيح من المصادر، وهي نسبة إلى قرية من أعمال أنطاكية.
 وفي (اللباب): وهو أيضاً نسبة إلى عمل البوق.

⁽٣) زاد الإسنوي: بارعاً، مناظراً، غزير الفضل، حسن الأخلاق.
وكان له ولد يقال له: أبو علي الحسن، ولد سنة ثلاث وعشرين وخمسمائة، وتفقّه على
أبيه، وبرع في المذهب وصارت الفتوى إليه ببلده، وسمع وحدّث.

قال ابن النجار: بلغني أنه توفي في سادس شعبان سنة ثمان وثمانين وخمسمائة.

 ⁽٤) قال ابن الدبيثي: وحدّثنا عنه جماعة، وكان صحيح السماع، ثقة، ديِّناً.

⁽٥) وكان مولده سنة ٨٨٨ هـ.

أبو عليّ الثّقفيّ، الإصبهانيّ. حدَّث ببغداد عن: أبي عليّ الحدّاد، وطائفة. وعنه: محمد بن مَشِّقْ، وأبو طالب بن عبد السّميع. مات في رجب.

سنة اثنتين وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

٢٩ - أحمد بن عبد العزيز بن الفضل بن الخليع(١).

الأنصاريّ، النّاسخ، الأندلسيّ، الشُّرِيُّونيّ.

أخذ عن: أبي محمد البطليُوسيّ.

وأحكم العربيّة. وكان أديباً شاعراً، بديع الكتابة. نسخ الكثير، وقتِل صبْراً بإشبيلية في حدود هذا العام(٢).

٣٠ ـ أحمد بن محمد بن هبة الله.

أبو منصور بن سركيل البغداديّ.

سمع: أبا الحسن بن العلاف.

روى عنه: عبد العزيز بن الأخضر.

وتُوُفّي في جُمادى الآخرة.

٣١ ـ إبراهيم بن خَلف بن الحبيب.

الفِهْريّ، الأندلسيّ. من ولد أمير الأندلس، عِياض بن يوسف.

أخذ الصَّحِيحين عن: ميمون بن ياسين. وغلب عليه عِلم الأدب والفرائض.

أنظر عن (أحمد بن عبد العزيز) في: تكملة الصلة لابن الأبّار ١٠٩ رقم ٢٠٧، والوافي بالوفيات ٧/٨٠ رقم ٣٠٠٩.

⁽٢) وقال ابن الأبار: وتجوّل في بلاد الأندلس والعُدوة، وكان أديباً شاعراً، أنيق الوراقة بديعها، معروفاً بالإتقان والضبط، يُتنافس فيما وُجد بخطه من الدواوين، وكان مضعّفاً... مولده بشُرِيُّون قبل الخمسمائة. أكثر خبره عن محمد بن عياد.

روى عنه: أبو الخطّاب بن واجب.

وعاش أربعاً وثمانين سنة.

ذكره أحمد بن فَرْتُوت في «تاريخه» فقال: سمع «المُوطَّأ» عام سبعة وخمسمائة من القاضي أبي عبدالله محمد بن عليّ بن حمدين. وكان من أهل الإتقان، مشاراً إليه في العِلم والذّكاء.

٣٢ ـ إسماعيل بن عبد الرَّحمٰن بن يحيى بن إسماعيل (١).

العثمانيّ الدّيباجيّ أبو الطاهر، أخو المحدِّث أبي محمد عبدالله.

سمع بإفادة أخيه من جماعة.

أخذ عنه: الحافظ أبو الحسن بن الفضل وقال: مات في ذي القعدة بعد أخيه بتسعة عشر يوماً بالإسكندرية.

ـ حرف الباء ـ

٣٣ ـ بشير الهنديّ.

مولى عبد الحقّ اليوسُفيّ.

سمع من: أبي سعد بن خُشَيْش، وأبي القاسم بن بيان.

وكان رجلًا صالحاً.

ـ حرف الحاء ـ

٣٤ ـ الحَجّاج بن يوسف الهواريّ.

قاضى الجماعة بمَرّاكُش، وخطيبها. يُكنَّى أبا يوسف.

وهو من أهل أعمال بجّاية.

قال ابن الأبّار: كان فصيحاً مفوّها، بليغاً، مدركاً. نال دنيا عريضة. ولمّا تُوُفّي حضر دفنه السّلطان.

٣٥ ـ الحسن بن سعيد بن أحمد بن الحسن بن البناً .

⁽١) أنظر عن (إسماعيل بن عبد الرحمن) في: المقفّى الكبير ١١٨/٢ رقم ٧٦٩.

أبو محمد بن أبي القاسم البغدادي، الحربيّ، والد غياث. سمع الكثير من: جعفر السّرّاج، وأبي غالب الباقِلّاني، وأبي سعد بن خُشَيْش، وغيرهم.

> روى عنه: ابن الأخضر، وابن الخُصْريّ، وغيره. وهو من بيت الرواية. تُوُفّي في رجب.

٣٦ ـ الحسن بن عبدالله بن هبة الله ابن المسلمة. تاج الدّين أخو الوزير أبي الفَرَج. سمع: أبا منصور بن خيرون.

۳۷ ـ الحسن بن عبد المجبّار. أبو محمد بن البردغوُليّ. روى عن: أحمد بن الحسين بن قُريش.

٣٨ ـ الحَسَن بن علي بن نصر بن محمد بن خميس.
 القاضي أبو علي الكعبي، المَوْصلي، قاضي العسكر.
 تُوُفّي في أوَّل سنة اثنتين وسبعين عن ستٌ وستين سنة.
 كتب عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى.

_ حرف الصاد_

٣٩ ـ صالح بن المبارك بن محمد بن عبد الواحد^(١).

⁽۱) أنظر عن (صالح بن المبارك) في: المختصر المحتاج إليه ١٠٤/٢ رقم ٧٢٧، والعبر ٤/٤٤، والمشتبه في الرجال ٢١٩/١، وسير أعلام النبلاء ٢٠/١٥، ٥٤١ رقم ٣٤٢، والإعلام بوفيات الأعلام ٣٤٦، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٤ رقم ١٨٦٠، والقاموس المحيط (مادة: رخل)، وتبصير المنتبه ٢/٧٩، والنجوم الزاهرة ٢/٠٨، وشذرات الذهب ٤٤١/٤.

أبو محمد بن الدِّخْلَة (١) البغداديّ، المقرىء، القزَّاز، الكَرْخِيّ. سمَّعه أبوه من: أبي عبدالله بن طلحة النّعاليّ، وأبي الحسين بن الطُّيُوريّ.

روى عنه: تميم بن أحمد البَنْدَنِيجيّ، ومحمد بن مَشَّق، وأبو محمد، وأبو إسحاق إبراهيم بن عبد الواحد المقدسيّ.

وتُونِّقي في صفر.

_ حرف الظاء _

٤٠ ـ ظُفَر بن عمر^(٢).

أبو أحمد الخبّاز.

سمع من: شجاع الذَّهْليّ، ومحمد بن عبد الواحد القزَّاز. وحدَّث.

وتُوُفّي في صَفَر أيضاً.

روى عنه: عبد الرَّحمٰن بن محفوظ، والأعزّ بن فضائل.

_ حرف العين _

٤١ _ عبدالله بن محمد بن خَلَف بن سعادة (٣).

أبو محمد الإصْبَحيّ، الدّانيّ.

سمع: أبا بكر بن نمارة، وأبا الحسن بن سعد الخير.

ثم رَحَل فأكثر عن السَّلَفيّ، وأبي الطّاهر بن عون، وكتب عنه الكثير.

وسمع منه: جعفر بن أبي عَوْن الشَّاطبيِّ، وعبدالله بن محمد.

وحدَّث عنه: أبو القاسم عيسى بن الوجيه عبد العزيز عيسى الشُّرِيْشيّ،

⁽١) ضبطها اللهبي بكسر الراء وسكون الخاء المعجمة (المشتبه ٢١٩/١).

⁽٢) أنظر عن (ظفر بن عمر) في: المختصر المحتاج إليه ١٢٣/٢ رقم ٧٤٦.

 ⁽٣) أنظر عن (عبدالله بن محمد بن خلف) في: تكملة الصلة لابن الأبار، رقم ٨٥، والديل والتكملة لكتابي الموصول والصلة للمراكشي ٢٢٧/٤، ٢٢٨ رقم ٣٩٠.

وحَمَّله الرواية عن قوم لم يَرَهم ولا أدركهم، وبَعضهم لا يُعرف. قاله أبو عبدالله الأبار في «تاريخه»(١)، ثمّ قال: وذلك من أوهام عيسى هذا واضطّرابه فى روايته.

قال: وقال أبو عبدالله التُّجِيبيّ: كان ابن سَعادة مُقْرِئاً، محدِّثاً، ورعاً، فاضلًا. أُخبرتُ أنّه غرق في البحر عند صدره.

قلت: تُوُفِّي في بغداد هذه السّنة فيما أرى، أو في الّتي قبلها، كهلاً.

٤٢ _ عبدالله بن عبد الرَّحمٰن بن يحيى بن إسماعيل (٢).

القاضي أبو محمد العثماني، الأُمَوي، الدِّيباجي، الإسكندراني، المحدِّث.

روى عن: أبيه، وأبي القاسم بن الفحَّام الصَّقَلِّيِّ المقرىء، وأبي بكر محمد بن الوليد الطُّرْطُوشيّ (٣)، وأبي (٤) عبدالله الرَّازيّ، وأبي الفضل جمعة بن إسماعيل بن خَلَف المقرىء، وعبدالله بن يحيى بن حمّود، وطائفة.

وله فوائد في ثمانية أجزاء ^(٥) رواها جعفر الهَمَذَانيّ عنه.

وروى عنه: الحافظ أبو محمد عبد الغنيّ، والحافظ عبد القادر الرُّهَاويّ، والحافظ عليّ بن المفضل، وابن راجح، وآخرون.

⁽¹⁾

تكملة الصلة.

أنظر عن (عبدالله بن عبد الرحمن) في: الروضتين ج١ ق ٢/ ٦٩٥، والعبر ٢١٤/٤، **(Y)** ٢١٥، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٩٦٥ ـ ٩٩٨ رقم ٣٧٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٤ رقم ١٨٦١، وذيل طبقات الحنابلة ١/٣٣٥، ومرآة الجنان ٣/٣٩٧، ٣٩٨ وفيه: «عبدالله بن عبدالله بن عبد الرحمن بن يحيى»، ولسان الميزان ٣٠٩/٣، والمقفّى الكبير ٤١٧/٤ رقم ١٤٩٩، وتبصير المنتبه ١٢٧٥، والنجوم الزاهرة ٦/ ٨٠، وحسن المحاضرة ١/ ٣٧٥، وشذرات الذهب ٢٤١، ٢٤٢، والمنتخب من مخطوطات الحديث (فهرس الظاهرية) للألباني ٢٧٨.

تحرّفت هذه النسبة في: لسان الميزان، وحسن المحاضرة إلى الطرسوسي. (٣)

في الأصل: ﴿أَبُو﴾. (1)

أنظر المنتخب من مخطوطات الحديث ٢٧٨. (0)

وكان يُعرف بابن أبي اليابس^(١). قال ابن المفضَّل: كان عنده فُنُون عِدَّة.

تُوُفِّي في شوّال، ومولده في سِنة أربع وثمانين وأربعمائة. قال حمّاد الحَرّانيّ: رَمَى السَّلَفِيُّ العَثَّمانيّ بالكذِب.

وقال حمّاد: ذكر لي جماعة من أعيان الإسكندريّة أنّ العثمانيّ كان صحيح السَّمَاعات، وكان ثقة تُبْتًا، صالحاً، متعفِّفاً. وكان يُقرِيء النَّحْو واللُّغة والحديث.

وسمعتُ جماعة يقولون إنّه كان يقول: كلّ من بيني وبينه شيء فهو في حِلّ ما عدا السُّلَفيّ فبيني وبينه وقفةٌ بين يدي الله تعالى.

أنشدنا أبو على بن الخَلال أنشدنا جعفر، أنشدنا أبو محمد العثماني، أنشدني أبو الحسن على بن محمد البغدادي لنفسه:

ما أجهل الإنسان في فِعْلُه مُنْ جمنع آثنام وأوزارِ يبخـــل بـــالمـــال علـــى نفســـه وهــو بهــا يسخــو علــى النـــار(٢٠)

٤٣ ـ عبدالله بن عطاف^(٣).

في لسان الميزان «ابن أبي الياس»، ومثله في: الروضتين. (١)

وَقَالَ الأَبَّارِ: أَكْثَرُ أَبُو عبدالله التجيبي عن أبي الحجَّاجِ الثغري، وقال: لم أر أفضل منه، **(Y)** ولم أر بالبلاد المشرقية أفضل من أبي محمد العثماني ولا أزهد ولا أورع منه. وقال المؤلَّف ـ رحمه الله ــ: خرَّج تلك الفوائد في سنة أربع عشرة وخمسمائة وحدَّث بها في ذلك الوقت وهَلَمّ جَرّاً، وكان أبوه من علماء اَلثغر.

وقال أبو شامة: توفى بالإسكندرية القاضي الشريف أبو محمد عبدالله العثماني الديباجي من ولد الديباج محمَّد بن عبدالله بن عمرو بن عثمان بن عفان رضي الله عنهم، ويُعرف بابن أبي إلياس، من بيت القضاء والعلم. وكان واسع الباع في علم الحديث، كثير الرواية، قيَّماً بالأدب، متصرَّفاً في النظم والنثر، إلاَّ أنه مُقِلٍّ مَن النظم، أوحد عصره في علم الشروط، وقوله المقبول على كل العدول. ذكر ذلك العماد رحمه الله في الخريدة.

أنظر عن (عبدالله بن عطاف) في: المقفّى الكبير ٤/ ٩٤٥ رقم ١٥٤٣. (٣)

الأزدي، الإسكندراني.

ورَّخه الحافظ ابن المفضّل وروى عنه، وقال: تُوُفّي في صفر. وكان ثقة متحرياً.

سمع: أبا عبدالله الرَّازيِّ، وأبا بكر الطِّرطُوشيِّ. وكان لا بأس به في الفقه.

٤٤ ـ عبد الصَّمد بن سعد بن أحمد بن محمد.

أبو محمد النَّسَوِيّ، ثُمَّ الدّمشقيّ، المعروف بالقاضي.

وُلِد سنة خمسِ وثمانين وأربعمائة.

وتُوُفّي في صَفّر بدمشق.

وسمع من: قِوام الدّين بن زيد في سنة خمسِ وتسعين.

روى عنه: الحافظ أبو المواهب بن صَصْرَى، وأخوه أبو القاسم، وعبد الحقّ بن خَلَف، والعزّ محمد بن أحمد النّسّابة، وغيرهم.

ه ٤ - [عليّ](١) بن عساكر بن المُرَحّب بن العوّام (٢).

أبو الحسن البَطَائحي، الضّرير، المقرىء، الأستاذ.

والبطائح: بين واسط والبصرة.

قدِم بغداد وحفظ بها القراءآت، وقرأه بالرّوايات الكثيرة المشهورة

(١) في الأصل بياض، والمستدرك من المنتظم.

⁽٢) أنظر عن (علي بن عساكر) في: المنتظم ١٠/٢٦٧ رقم ٣٥٩ (١٨/٢٢٧ رقم ٢٣٤)، والكامل في التاريخ ١١/٥٣١ (٥١١ هـ.)، ومعجم الأدباء ١٤/٢١، ٢٢، وإنباه الرواة ٢/٨٢، والمختصر المحتاج إليه ٣/١١٧، والعبر ١٦٥٤، ودول الإسلام ٢/٨٨، ومعرفة القراء الكبار ٢/٥٤٥ رقم ٨٨١، وسير أعلام النيلاء ٢١٨،٥٥ - ٥٥، رقم ٣٥٠، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، والمعين في طبقات المحدثين ١٧٤ رقم ١٨٦٢، والمشتبه في الرجال ٢/٥٠، وتلخيص ابن مكتوم ٢١٦، ونكت الهميان ١١٤، ٢١٥، والبداية والنهاية ٢/١٥، ٢١٦، وذيل طبقات الحنابلة ١/٣٣٠ - ٣٣٧، رقم ١٥٦، والنجوم والنهاية ٢/٢٥، والطبقات لابن قاضي شهبة ٢/١٢، وتبصير المنتبه ٤/١٧٥، والنجوم الزاهرة ٢/٥، وبغية الوعاة ٢/٩٧١ رقم ١٧٣٩، وشلرات اللهب ٤/٢٤٢، والتاج المكلل للقنوجي ٢٠٨، ومعجم المؤلفين ٢/١٥.

والشَّاذَّة على أبي العزِّ القلانِسِيِّ، وأبي عبدالله البارع، وأبي بكر المَزْرَفيِّ^(۱)، وسبُط الخيَّاط.

وقرأ بالكوفة على: الشّريف عمر بن إبراهيم العَلَويّ.

وسمع من: أبي طالب يوسف، وابن الحُصَيْن، وطائفة.

وروى الكثير وتصدَّر للإقراء. وقرأ القراءآت مدَّة طويلة. وكان بارِعاً فيها، جيِّد المعرفة بالعربيّة، ثقة صحيح السَّماع، أثنى عليه غير واحد.

وُلِد سنة تسعين وأربعمائة أو قُبَيْلَها.

وروى عنه القراءآت خلْق كثير، آخِرهم وفاة عبد العزيز بن دُلَف. وسمع منه الكبار.

وحدَّث عنه الحافظ عبد الغنيّ، وأبو محمد بن قُدامة، والحافظ عبد القادر، والزّاهد أبو عمر المقدسيّ، والشّهاب بن راجح، وأبو صالح الجِيليّ، وعبد العزيز بن يَاقا.

وآخر من روى عنه وقرأ عليه القراءآت العَشْر الإمام بها الدّين عليّ بن الجُمَّيْزِيّ (٢٠).

وتُوُفّي في الثّامن والعشرين من شعبان^(٣).

⁽١) تصحفت في معجم الأدباء ٢٢/١٤ إلى «المرزقي» بالراء ثم زاي ثم قاف، وفي إنباه الرواة، وغاية النهاية إلى «المزرقي» بالقاف.

⁽٢) في الأصل؛ «الحميري»، والمثبت من معرفة القراء ٢/١٥، وسير أعلام النبلاء ٠٤١/٢ و ٥٤١ وتحرّفت في ذيل طبقات الحنابلة ٢٣٦/١ إلى «الجمري».

⁽٣) وقال المؤلّف ـ رحمه الله ــ: وممّن قرأ عليه الوزير عون الدين بن هبيرة، وأكرمه ونوّه باسمه.

وقال ابن النجار: كان إماماً كبيراً في معرفة القراءآت، ووجوهها وعِللها وطُوقها وضبطها وتجويدها، وحُسن الأداء والإتقان والصدق والثقة. وكانت له معرفة تامة بالنحو. وكان متديّناً، جميل السيرة، مَرْضِيّ الطريقة.

وقال الشيخ مُوفّق الدين المَقّدسي عنه: كان مقرىء بغداد في وقته، وكان عالماً بالعربية، إماماً في الشّنّة.

٤٦ ـ (...)^(۱) بن محمد بن هبة الله.
 أبو محمد البغداديّ، المعروف بابن المطّلِب.
 سمع: أبا الحسن العلاّف، وأبا طالب اليُوسُفيّ.
 سمع منه بمكّة. الفَرّاء، وغيره.

_ حرف الميم _

٤٧ ـ محمد بن أحمد بن أبي الفَرَج بن ماشاذة (٢). أبو بكر الإصبهانيّ، السُّكَّريّ، المقرىء. محوِّد، عالِم بطُرُق القُرَّاء، طويل العُمْر.

سمع: الحافظ سليمان بن إبراهيم وتفرّد عنه، والقاسم بن الفضل الرئيس، ومكّى بن منصور السّلار، وغيره.

وروى عنه بالإجازة: الخليفة الناصر العباسي، وقرأ عليه القرآن أيضاً: الوزير ابن هبيرة وأكرمه ونوّه باسمه. وكان الوزير قد قرأ بالروايات على رجل يقال له: مسعود بن الحسين الحنبلي، وادّعى أنّه قرأ على ابن سوار، وأسند الوزير القراءات عنه عن ابن سوار في كتاب «الإفصاح» فحضر البطائحي دار الوزير وابن شافع يقرأ عليه. فلما انتهى إلى قوله: وأما رواية عاصم فإنك قرأت بها على مسعود بن الحسين، قال: قرأت بها على ابن سوار. وكان البطائحي قاعداً في غمار الناس، لأنه لم يكن حينتل معروفاً، ولا له ما يتجمّل به، فقام وقال: هذا كذب. ورفع صوته، ثم خرج وبلغ الوزير الخبر، فطلبه وطلب مسعوداً وحاققوه، فتبيّن كذبه. وأنه لم يدخل بغداد إلاّ بعد موت ابن سوار بكثير، وأحضر البطائحي نسخة من المستنير بخط ابن سوار، فقوبل بخطها الخط الذي مع مسعود، ويدّعى أنه خط ابن سوار، فبان الفرق بينهما.

وقال البطائحي: هو خط مزوّر بخط أبي رُوَيح الكاتب. وكان خطّه شبيهاً بخط ابن سوار. فأهان الوزير مسعوداً ومنعه من الصلاة بالناس، وقال له: لولا أنك شيخ لنكّلت بك. ثم قرأ الوزير على البطائحي، وأسند عنه القراءآت، وعلا قدره.

وذكر مضمون هذه الحكَّاية ابن النجار عن أحمد بن البندنيجي، وكان شاهداً للقصة، وصار للبطائحي بعد ذلك اتصال بالدولة، ويدخل بواطن دار الخلافة، وكان ضريراً يحفي شاربه.

⁽١) بياض في الأصل.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن أحمد بن أبي الفرج) في: العبر ٢١٥/٤، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٤ رقم ٣٤٥، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٣٤٠، ٥٤٥ رقم ٣٤٥، والنجوم الزاهرة ٢/٧٤، وشذرات الذهب ٢٤٣/٤.

روى عنه: محمد بن مكّيّ الحنبليّ، والحافظ عبد القادر، وعبد الأعلى بن محمد بن محمد الرُّسْتَميّ، وإسحاق بن المطهّر اليَزْديّ القاضي، وأحمد بن إبراهيم بن شُفيان بن مُندَة، وجامع بن أحمد الخبَّاز الإصبهانيّون، وآخرون.

وبالإجازة كريمة القُرَشِيّة.

وتُونِّقي في هذا العام وله نيّفٌ وتسعون سنة (١).

 $^{(1)}$ عحمد بن سعید بن محمد بن عمر $^{(1)}$.

أبو سعيد (٣) بن الإمام أبي منصور الرَّزَّاز، البغداديّ، المعدَّل.

سمع: أبا القاسم بن بيان، وابن نَبْهان، وزاهر بن طاهر، وابن المُصَيْن.

وتفقّه على والده، وله شِعْر حَسَن. وَلِي نظر الحشريّة مدّة، فلم تُحمد سِيرتُه. قاله ابن النّجّار.

روى عنه: أبو نصر عمر بن محمد الدِّينَوَرِيِّ. وتُوُفِّي في ذي الحجّة وله إحدى وسبعون سنة (٤٠).

يا مَن أياديه يعيا من يعدّدها وليس يُحه عجزتُ عن شُكر ما أدليت من كرم وصرتُ ع أهديتَ منظومَ شعر كلّه دُرَرٌ فكلّ نا إذا أتيتَ بييتِ منّه كيان لنا قصراً ودُرً وإن أتيتُ أنا بيتاً نناقضه أتيت لك لا كنتُ منه ولا من أهله أبداً وإنّما حي

وليس يُحصى مَدَاها مَن لها يَصِفُ وصرتُ عبداً ولي في ذلك الشرفُ فكل ناظم عقد دونه يقفُ قصراً ودُرَّ المعالي فوقه شُرفُ أتست لكن ببيت سقفه يَكِفُ وإنّما حين أدنو منه أقطِفُ

⁽١) وقال المؤلّف _ رحمه الله _ في: سير أعلام النبلاء: «وما علمت على من تلا».

 ⁽۲) أنظر عن (محمد بن سعيد) في: المنتظم ۲۱۸/۱۰ رقم ۳۳۰ (۱۱/۲۳۳ رقم ٤٣١٥)،
 والكامل في التاريخ ۲۱/ ٤٣٥ (۷۱ هـ.)، والوافي بالوفيات ۳/۱۰ رقم ۱۰۳۷.

⁽٣) هكذا في الأصل والوافي بالوفيات. وفي: المنتظم، والكامل: «أبو سعد».

⁽٤) وقال ابن الجوزي: وكان ينظر في التركات ويقول شعراً مطبوعاً، كتب إليه بعض الناس مكاتبة تتضمّن شعراً، فكتب في جوابها:

٤٩ ـ محمد بن عبدالله بن القاسم بن المظفَّر بن علي (١).

قاضي القُضاة، كمال الدين، أبو الفضل بن أبي محمد بن الشّه رُزُوريّ (٢)، ثمّ المَوْصِليّ، الفقيه الشّافعيّ، ويُعرفون قديماً ببني الخُراسانيّ.

وُلِد سنة إحدى وتسعين وأربعمائة (٢)، وتفقّه ببغداد على أسعد المَيْهَنيّ.

وسمع الحديث من نور الهدى بن أبي طالب الزَّينبيّ.

وبالموصل من: أبي البركات بن خميس، وجدّه لأمّه عليّ بن أحمد بن طَوْق.

ووُلِّي قضاءَ بلده.

وكان يتردّد إلى بغداد وخُراسان رسولاً من أتابَك زنكي. ثمّ قدِم الشّامَ وافداً على نور الدّين، فبالغ في إكرامه، ونقّده رسولاً من حلب الدّيوان العزيز. وقد بنى بالمَوْصِل مدرسة، وبنى بمدينة النبي على رباطاً. ثمّ ولاه

⁽۱) أنظر عن (محمد بن عبدالله بن القاسم) في: المنتظم ١٠/ ٢٦٨ رقم ٣٦١ رقم ٢٣٣ (١٨ ٢٣٣)، والكامل في التاريخ ١١/ ٤١١ ، وذيل تاريخ مدينة السلام بغداد لابن الدبيثي ٢/ ١١، ١٢ رقم ٢١٩، والمختصر المحتاج إليه ١/ ٥٥، وتاريخ إربل ٢٠٦١، الدبيثي ٢/ ١١، ٢٢ رقم ٢١٩، والمختصر المحتاج إليه ١/ ٥٥، وتاريخ إربل ٢٠٢١، ومرآة الزمان ٨/ ٣٤٠، وسنا البرق الشامي ١/ ٢٢٢، والروضتين ج ١ ق ٢/ ٢٧١ والعبر ٢٧٢، وخريدة القصر (قسم الشام) ٢/ ٣٢٣ ـ ٣٢٧، ووفيات الأعيان ٤/ ١٤١، والعبر ١/ ٢٥٠ ومير أعلام النبلاء ٢١/ ٥٥ ـ ٠٠ رقم ١/ ٢١٠، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٤ رقم ١٨٦٤، وتياريخ ابن الوردي ٢/ ٧٨، والوافي بالوفيات ٢/ ٣٣١، رقم ١٣٩١، وذيل طبقات الحنابلة ١/ ٣٢٧، ومرآة الجنان ٣/ ٣٩٨، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٤/ ٤٧، والبداية والنهاية ٢/ ٢٢٢، ٢٩٢، وعقد الجمان ١/ ٢٤٧، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ١/ ٣٤٧، وشذرات الذهب ٤/ ٢٤٢، (مخطوط) ٢١٠ - ٢١٠ أ، والنجوم المزاهرة ٢/ ٨٠، وشذرات الذهب ٤/ ٢٤٢، وقضاة دمشق ٤٤، ٨٤، والأعلام ٧/ ١٠٠.

 ⁽٢) تحرّفت النسبة في مرآة الجنان إلى: «السهروردي».

⁽٣) في مرآة الزمان: ٤٩٢ هـ.

السلطان (۱) نور الدين قضاء دمشق، ونظر الأوقاف، ونظر أموال السلطان، وغير ذلك. فاستناب ابنه القاضي أبا حامد بحلب، وابن أخيه أبا القاسم بحماه، وابن أخيه الآخر في قضاء حمص. وحدَّث بالشّام وبغداد.

قال القاسم بن عساكر: وُلِّي قضاءَ دمشق سنة خمس وخمسين، وكان يتكلَّم في الأصول كلاماً حَسَناً. وكان أديباً، شاعراً، ظريفاً، [فكِهَ المجلس](٢)، وقف وُقُوفاً كثيرة، وكان خبيراً بالسّياسة وتدبير المُلْك. وقد أنبا بحضرة أبى قال: أنبا ابن خميس فذكر حديثاً.

وقال ابن خَلِّكان (٢٣): وُلِّي قضاء دمشق، وترقَّى إلى درجة الوزارة، وحكم في البلاد الشّاميّة، واستناب ولده محيي الدّين في الحكم بحلب. وتمكّن في الأيّام النُّوريَّة تمكُّناً بالغاً. فلمّا تملَّك صلاح الدّين أقرَّه على ما كان عليه.

وله أوقاف كثيرة بالموصل، ونصيبين، ودمشق. عَظُمَت رئاسته، ونال ما لم ينله أحدٌ من التَّقَدُّم.

وقال سِبط ابن الجوزيّ (٤): قدِم صلاح الدّين سنة سبعين فأخذ دمشق.

قال: وكان عسكر دمشق لمّا رَأَوْا فِعْل العوامّ والتقاءهم له، ونثره عليهم الدُراهم والذَّهب، فدخلها ولم يُغْلَق في وجهه باب، وانكفأ العسكر إلى القلعة، ونزل هو بدار العقيقيّ، وكانت لأبيه. وتمنَّعت عليه القلعة أيّاماً. ومشى صلاح الدّين إلى دار القاضي كمال الدّين، فانزعج وخرج لتلقيه، فدخل وجلس وباسَطَه وقال: طِبْ نفْساً، وقُرّ عيناً، فالأمر أمرك، والبلد بلدك.

فكان مَشْي صلاح الدّين إليه من أحسن ما وُرِّخَ، وهو دليلٌ على تواضعه، وعلى جلالة كمال الدّين.

⁽١) في الأصل: «للسلطان».

 ⁽٢) في الأصل بياض، والمستدرك من سير أعلام النبلاء ٢١/٥٩.

⁽٣) في وفيات الأعيان ١/٤١٪.

⁽٤) في مرآة الزمان ٨/ ٣٤١.

وقال أبو الفَرَج ابن الجَوْزِيّ (١): كان أبو الفضل رئيس أهل بيته، بني مدرسة بالموصل، ومدرسة بنصيبين. وولاّه نور الدّين القضاء، ثمّ استوزره، ورد بغداد رسولاً، فذكر أنّه كتب قَصَّةً إلى المقتفيّ، وكتب على رأسها محمد بن عبدالله الرسول، فكتب المقتفى: ﷺ.

وقال سِبْط ابن الجوزيّ (٢): لمّا جاء الشّيخ أحمد بن قُدَامة والد الشّيخ أبي عمر إلى دمشق خرج إليه أبو الفَرَج ومعه ألف دينار، فعرضها فلم يقبلُها، فاشترى بها قرية الهامَة^(٣)، ووقفها على المَقَادِسة.

ولمَّا تُوُفِّي رثاه بحلب ابنه محيى الدِّين بقصيدته الَّتي أوَّلها:

أَلِمُنُوا بِسَفْحَى قَاسِيُونَ وسلِّموا على جَدَثِ بادى السَّنَا وترحَّموا وأدّوا إليه عن لبيب (٤) تحيَّة يكلّفُكُم (٥) إهداء ها القلبُ والفّمُ

تُوُفّى في المحرَّم يوم الخميس السّادس منه.

وقد روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى، وأخوه أبو القاسم بن صَصْرَى، وموفّق الله بن قُدَامَة، وبهاء الدّين عبد الرَّحمن، وشمس الدين عمر بن المُنَجّا، وأبو محمد بن الأخضر، وآخرون.

ومن شعره:

وجاءوا عشاءً يُهْرَعُون وقد بدا فقالوا وكلّ معظم بعض ما رأى

بجسمي من دآء الصَّبَابة ألوانُ أصابَتْكَ عَيْنٌ. قلتُ: إنَّ وأجفانُ (٢)

والفجر وهُـمٌ فـي ضميـر المشـرق شــوقـــاً إليــك لعلّنــا أن نلتقـــيّ

⁽¹⁾ في المنتطم.

في مرآة الزمان ٨/ ٣٤١. **(Y)**

الهامة: قرية مشهورة بغوطة دمشق. (٣)

في سير أعلام النبلاء ٢١/ ٦٠ الكثيب. (1)

في سير أعلام النبلاء «مكلفكم». (0)

ومن شعره: (7)

ولقد أتيتُك والنجوم رواصد وركبت للأهسوال كسل عظيمة

٥٠ ـ محمد بن عبد الباقي بن أحمد بن علي بن النَّرسي (١).
 أبو الفتح الأنَجي، الضَّرير.

من بيت حديث وعدالة.

سمع: أباه، وأبا القاسم بن بيان، وغيرهما.

روى عنه: أبو محمد بن الأخضر، وأبو محمد بن قُدَامة، وجماعة.

وتُوُفّي في ربيع الأوّل. ورَّخه الدَّبِيثيّ.

وقال ابن مَشِّق: تُوُفِّي في ذي الحَجَّة، والأوَّل أصحَّ وهو الّذي نقله ابن النَّجَار.

٥١ _ محمد بن عليّ بن محمد بن مهنَّد (٢).

أبو عبدالله بن السَّقا، الحريميّ، المقرىء.

شيخ صالح ملقّن، لَقَّن خلْقاً. وكان يستقي الماء إلى بيوت النَّاس ويتعفّف به.

روى عن: أبي القاسم بن بيان، وغيره.

تُوفِي في صَفَر.

روى عنه: عبدالله بن أحمد الخبّاز، وغيره.

۲٥ _ محمد بن غالب^(٣).

• .t

وله: يا ربّ لا تُحْيينسي إلى زمن أكسون فيسه كَسلاً على أحسد خُسدُ بيسدي قبل أن أقسول لمن ألقساه عند القيسام خُسد بيسدي (الوافي بالوفيات) وفيه أبيات أخرى.

(۱) أنظر عن (محمد بن عبد الباقي) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ٧٣/٢، ٧٤ رقم ٢٨٢، والمختصر المحتاج إليه ١٨٨١، والمشتبه في الرجال ٢٨٦/ ٦٣٦ - ٦٣٨.

(٢) أنظر عن (محمد بن علي) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ١٢١/، ١٢٢ رقم ٣٤٦، والمختصر المحتاج إليه ١/ ٩١.

(٣) أنظر عن (محمد بن فالب) في: بغية الملتمس للضبيّ ١١٩ ـ ١٢١ رقم ٢٥١، وتكملة الصلة لابن الأبارج ١، ووفيات الأعيان ٢/٠١، والوافي بالوفيات ٣١٢ ـ ٣١٢ رقم ١٨٥٢.

أبو عبدالله الأندلسي، الرَّصافي، رصافة بَلنَسِية، الرِّقاء. نزيل مالقة. كان يعيش من صناعة الرَّفْو بيده.

قال الأبّار(١): كان شاعر زمانه. سكن غَرْناطَة مدّة، وآمتدح أميرها. وشِعْره مدوَّن يتنافس فيه النّاس. كان ينظم البديع، ويُبدع المنظوم. ولم يتزوَّج وكان متعفَّفاً.

روى عنه من نَظْمه: أبو عليّ بن كسرى المالقيّ، وأبو الحسين بن

تُوُفّي في رمضان بمالقة (٢).

فى تكملة الصلة. (1)

وأنشد أبو عبدالله محمد بن باز قال: أنشدني أبو عبدالله الرصافي لنفسه من قطعة يصف **(Y)** فيها حاثكاً وسيماً:

> غُـزَيُـلٌ لم ترل في الغَـزُل جائلةً جَــذُلانُ تلعب بــالمخــوَك انْمُلُــه ما إنْ يني تعب الأطراف مشتغلا وله في وسيم صغير:

أُمَيْلِكُ، متاس إذا قاده الصا بيتل مآقي زهريته بريقه ويحكي بسم السزهر المنظم المن أيوهم أن الدمع بل جفرونه

رمُهَفْه في كسالغُصن إلا أنه أضحمى ينام وقمد تحبّب خمده وله من قصيدة طويلة أولها:

أيها الآمل خيمات النقا إنَّ سرباً حَسى الخيم به لَا تُشَــرهـــا فتنـــة مـــن ربـــرب وانسج منهسا لحظية سهمتية وإذا قيسل: نجا الركب، فقُلل يسا رُمساة الحسي مسوهسوب لكسم مسا تعمدتهم ولكسن سبب

بنائه جولانَ الفكر في الغَـزَل على السّدى لعب الأيام بالأمل أفديه من تعب الأطراف مستغل تخبُّط الظّبي في أشراك مُخْتبل

إلى ملح الإدلال أيده السخر البكا عمداً كما ابتسم الزهر

سلب التثنبي النبوم عبين إثنبائسه عسرقاً فقلت: السورد رأش بمائه

خف على قلبك تلك الحدق ربما غرتك حتى ترمقا تسرعد الأسد لديهم بسرقا طــال مـا قلـت رداي علقـا كيف ما سالم تلك الطرف مــا سَفَكُنُــم مــن دمــي يــوم النقـــا قسرات الخيسن وأمسر سقسا

٥٣ ـ محمد بن محمد بن عَبْدِكان (١).

أبو المحاسن البغدادي، المقرىء.

قرأ القرآن على: أبي الخير المبارك الغسّال، وأبي سعد محمد بن عبد الجبّار الحريميّ.

قرأ عليه: عبد الوهاب بن برغش.

وله مصنّف في الأصول سمّاه «نور المحجّة»(٢) على طريقة الأشعريّ. ويُعْرَف بابن الضّجَة (٣).

٤٥ _ محمد بن محمود بن محمد.

أبو طالب بن الشّيرازيّ، البغداديّ، المعروف بابن العلويّة.

سمع: أبا غالب محمد بن الحَسَن الباقِلانيّ.

روى عنه: ابن الأخضر، والحافظ عبد القادر، وجماعة.

وولي قضاء بعض البلاد، وأقام بواسط مدّةً، وبها تُوُفّي في ذي الحجّة.

٥٥ _ محمد بن المحسّن بن الحسين بن أبي المضاء^(٤).

الخطيب شمس الدّين أبو عبدالله البَعْلَبَكيّ، ثمّ المصريّ.

نشأ بمصر وقرأ بها الأدب.

⁼ وانظر أبياتاً أخرى في: الوافي بالوفيات.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن محمد بن عبدكان) في: الوافي بالوفيات ١٦٦/١، ١٦٧ رقم ٩٩، وهدية العارفين ٢٨/١، والأعلام ٧/ ٢٥١، ومعجم المؤلفين ٢/٢٤١.

⁽٢) في الوافي: «نور الحجة وإيضاح المحجة».

 ⁽٣) قال ابن النجار: سألت عنه ابن أبي الفنون النحوي فأثنى عليه ووصفه بالعلم والفضل.

⁽٤) أنظر عن (محمد بن المحسّن) في: المختصر المحتاج إليه ١/٢٤١، وسنا البرق الشامي ١/٢٥ و٢٢٠ (٢٢٥، و١٣٠ و١٢٥٠) والسوافي بالروفيات ٢٢٥، والسروضتيسن ج ١ ق ١٩٤٢، والبداية والنهاية ٢١/٧٩، وإتعاظ الحنفا ٣/٧٧، وعقد الجمان (مخطوط) ٢٠٩/١٢ب، وموسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي ق ٢ ج ١٢٢، ١٢٧، وقم ١١٣٤.

ويرد: «محمد بن الحسين».

وسمع بدمشق من: الحافظ ابن عساكر، وغيره.

ورحل إلى بغداد وسمع بها وقرأ الفقه. وعاد إلى مصر، واتَّصل بالسّلطان صلاح الدّين.

وهو أوّل من خطب بمصر لبني العبّاس. ثمّ نقّذه السّلطان رسولاً إلى الدّيوان.

وسمع ببغداد من: أبي زُرْعة، وابن البطّي.

ومات بدمشق ولم يكمل أربعين سنة.

٥٦ - المبارك بن عبد الجبّار بن محمد(١).

أبو عبدالله البَرْدَغُوليّ.

روى عن: أحمد بن عليّ بن قريش.

روى عنه: ابنه عبد السّلام، وغيره.

وتُوُفّي في جُمادَى الأولى (٢).

٥٧ ـ المبارك بن محمد بن المبارك.

أبو جعفر البصري، المواقيتي، الكتاني الشافعي، المعدَّل.

وُلِد سنة تسعين وأربعمائة.

وسمع من: أبي طاهر محمد بن محمد بن إبراهيم العَبْدي، والغَطريف بن عبدالله السّعيداني، وجابر بن محمد بن جابر، وعدّة.

وحدَّث ببغداد.

وروى عنه: عمر بن محمد بن جابر الصُّوفيّ، ومحمد بن أبي غالب الباقِدْراثيّ، وطائفة.

وسمع من السِّلَفيّ بالبصرة.

 ⁽١) أنظر عن (المبارك بن عبد الجبار) في: المختصر المحتاج إليه ١٧١، ١٧١، رقم
 ١١٣٣.

⁽٢) وكانت ولادته سنة نيّف وتسعين وأربعمائة.

قال ابن النَّجَّار: مات بالبصرة بعد السَّبعين وخمسمائة.

٥٨ - محمود بن محمد بن عبد الواحد بن ماشاذة.

الإصبهانيّ الصُّوفيّ، نزيل بغداد، وشيخ رباط الأقفاصيّين.

زاهد عابد عارف.

سمع من: زاهر الشّحّاميّ، وأبي غالب بن البنّاء، وأبي بكر المَزْرَفيّ. وله مصنّفات في الحقائق.

سمع منه: عمر بن عليّ القُرَشيّ، ومحمد بن بنا الضّرير. تُوُفّي في ربيع الآخر، كذا ترجمه ابن النّجّار.

٥٩ ـ مسعود بن عبدالله بن عُبَيدالله.

أبو عبدالله البغدادي الواعظ.

روى بدمشق عن: أبي الوقت.

وعنه: أبو القاسم بن صَصْرَى.

مات في رمضان.

۲۰ ـ مسلم بن ثابت بن زید بن القاسم (۱۰).

أبو عبدالله بن النَّخاس، الوكيل، البغدادي.

ويُعرف بابن جُوالِق والد عبدالله. فقيه إمام حنبليّ.

تفقُّه على: أبي بكر الدَّينَوَرِيِّ.

وتوكُّل لبعض الأمراء، وعَلَتْ سِنَّه.

وحدَّث بالكثير عن: أبي بكر بن سَوْسَن، وأبي القاسم بن بيان، وابن نَبْهان، وأُبِيّ النَّرْسيّ، وجماعة.

ووُلِد سنة أربع وتسعين وأربعمائة.

 ⁽۱) أنظر عن (مسلم بن ثابت) في: المنتظم ۲۰۱،۲۲۱، ۲۲۹ رقم ۳۲۳ (۱۸/۲۳۸ رقم ۲۳۵۸)، والمختصر المحتاج إليه ۳/۲۰۲ رقم ۱۲۳۵، وذيل طبقات الحنابلة ۲۳۷/۱ رقم ۱۲۳۷، وذيل طبقات الحنابلة ۲۳۷/۱ رقم ۱۵۷، وشذرات الذهب ۲۳۶٪.

روى عنه: أبو محمد بن قُدَامة، ونصر بن عبد الرّزّاق الجِيليّ، وأبو البقاء إسماعيل بن محمد بن يحيى الهَمَذَانيّ، والحسين بن مسعود البيّع، وعثمان بن أبي نصر بن الوتّار، وآخرون.

تُوُفّي في ذي الحجّة.

وقد سمّع منه أبو المحاسن عمر بن عليّ القُرَشيّ، والقُدَماء (١).

_ حرف النون _

٦١ - نصر بن سيّار بن صاعد بن سيّار ^(٢).

شرف الدِّين، أبو الفتح الكِنانيّ، الهَرَوِيّ، القاضي الحنفيّ، الفقيه.

من بيت القضاء والحشمة والرواية. وكان خبيراً بالمذهب، عالي الإسناد، معمّراً.

سمع الكثير من: جدّه القاضي أبي العلاء صاعد بن سيّار بن يحيى بن محمد بن إدريس، والقاضي أبي عامر محمود بن القاسم الأزْدِيّ، وأبي عطاء عبدالأعلى بن أبي عمر المَلِيحيّ، والزّاهد محمد بن عليّ العُمَيْريّ، ونجيب بن ميمون الواسطيّ، وأبي نصر أحمد بن أبي المعروف بأمير جَة سك، وغيرهم.

وأجاز له شيخ الإسلام أبو إسماعيل الأنصاري، وأبو القاسم أحمد بن محمد الخليلي.

⁽١) ذكره ابن القطيعي وقال: سمع منه جماعة من الطلبة، وكتبت عنه. وكان صحيح السماع.

⁽٢) أنظر عن (نصر بن سيّار) في: التحبير ٣٤٣/٢ ـ ٣٤٥ قم ١٠٥٦، ومعجم شيوخ ابن السمعاني (مخطوط) ورقة ٢٧٤ ب، ٢٧٥ أ، والتقييد لابن نقطة ٢٦٥، ٢٦٦ رقم ٢٢٦، وتاريخ إربل ١٣٢١، ودول الإسلام ٢/٨، والعبر ٢١٦٢، وسير أعلام النبلاء ٢/٥٤٥، ٢٥٥ رقم ٣٤٧، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٤ رقم ١٨٦٦، والجواهر المضيّة ٢/١٩٥، والنجوم الزاهرة ٢/٨٠، وشذرات اللهب ٢٤٢/٤.

قال ابن السَّمعانيّ^(۱): كان فقيها، مُناظِراً، فاضلاً، متديّناً، حَسَن السيرة، مطبوع الحركات، تاركاً للتكلُّف، سليم الجانب.

وُرُلِد في شوّال سنة خمس وسبعين وأربعمائة.

قلت: روى عنه هو، وابنه أبو المظفّر عبد الرحيم، وأبو القاسم زنكي بن أبي الوفاء، ومودود بن محمود الشّقّانيّ، والحافظ عبد القادر الرّهاويّ، والمفتي ضياء الدّين أبو بكر بن عليّ المامنجيّ، المصريّ، وآخرون.

وبالإجازة القاضي شمس الدّين ابن الشّيرازيّ.

قال السّمعانيّ في «تحبيره» (٢): سمعت منه «جامع التّرُولِيّ»، وسمعت منه كتاب «الزُّهْد» لسعيد بن منصور، بروايته عن جدّه.

وقال ابن نُقْطة (٣) إنّه حدَّث بكتاب «الجامع» للتَّرْمِذِيّ، عن أبي عامر الأَزْديّ. وسمع «صحيح الإسماعيليّ»، من جدّه. وكان سماعه صحيحاً. وبلغني أنّه تُونُفي يوم الثُلاثاء عاشر المحرَّم.

قلت: عاش سبعاً وتسعين سنة. وكان رحمه الله أسندَ من بقي بخُراسان.

_ حرف الهاء _

٦٢ ـ هبة الله بن علي بن محمد بن زَنْبَقة.
 أبو القاسم الصَّفَّار.

شيخ بغداديّ.

سمّع: شجاعاً الذُّهْليّ، وأبا عليّ بن المهديّ.

روى عنه: عبد الوهّاب بن أَزْهَر.

⁽١) في التحبير ٢/ ٣٤٤.

⁽۲) ج ۲/٤٤٣.

⁽٣) في التقييد ٤٦٦.

قال ابن القَطِيعيّ: مات في شوّال.

٦٣ _ هبة الله بن يحيى بن محمد بن هبة الله (١).

أبو محمد البغدادي، الوكيل بباب القَضاة.

سمع: أبا الحسن العَلَّاف.

روى عنه: أبو الفُتُوح بن الحُصْريّ.

تُوُفّي في ربيع الآخر.

_ حرف الياء _

٦٤ _ يحيى بن أحمد (٢).

أبو شجاع بن البرّاج، الوكيل بباب القُضاة. ثمّ زُكّي، وشَهِد وتقدُّم.

روى عن: أبي القاسم بن الحُصَيْن، وغيره.

كتب عنه: عمر القُرَشْتي، وغيره.

٦٥ _ يحيى بن محمد بن أحمد بن إبراهيم .

أبو زكريًا بن الخطَّاب الرّازيّ، ثمّ الإسكندرانيّ.

سمع من والده وتُوُفّي في هذه السّنة.

وحَدَّث.

ضعّفه ابن المفضّل وقال: لا أروي عنه.

张 张 张

وفيها وُلِد الشَّيخ الفقيه حونين في رجب، والصَّفِيّ إسماعيل بن إبراهيم بن الدرجيّ بدمشق، والكمال عليّ بن شجاع الضّرير بمصر في شعبان، والشّيخ أوحد الدّين عمر الدُّويّنيّ.

⁽١) أنظر عن (هبة الله بن يحيى) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٢٩ رقم ١٣٠٢.

⁽٢) أنظر عن (يحيى بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٣٧ رقم ١٣٣٢.

سنة ثلاث وسبعين وخمسمائة

.. حرف الألف ..

٦٦ _ أحمد بن أحمد بن عبد العزيز بن أبي يَعْلى (١١).

أبو جَعْفر ابن القاصّ الشّيرازيّ، ثمّ البَغْدادِيّ، القَطَفْطيّ (٢) المُقْرِىء، الزّاهِد. صَاحب رِياضَة وتعبُّد ونُسُك وعِرْفان وتَصَوُّف.

قَرَأُ القراءآت على أحمد بن عليّ بن بدران^(٣) الحلْوانيّ، وأبي الخير المبارك الغسّال، وأبي بكر محمد بن بركات بن سلامة الدّارميّ الآمِديّ.

وسمِع: أبا محمد بن الأَبْنُوسيّ، وأبا القاسم بن بيان، وجماعة.

وحدَّث وأقرأ النَّاس.

أخذ عنه جماعة وأثنوا عليه.

وتُوُفِّي في صَفَر وله سبْعٌ وسبعون سنة (٤).

روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى، وأبو بكر بن مَشِّقْ، وآخرون، وأبو القاسم بن صَصْرَى، وأحمد بن أحمد البَّنْدَنِيجيّ.

وقرأ عليه بالرّوايات عبد العزيز بن دُلَف، وجماعة (٥٠).

⁽۱) أنظر عن (أحمد بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ١/ ١٧٠، ١٧١، ومعرفة القراء الكبار ٢/ ٥٠٠ رقم ٤٩٩، وغاية النهاية ١/ ٣٨، والوافي بالوفيات ٢٢٦٦ رقم ٢٦٩٠.

⁽٢) في الأصل: «القطفي» والمثبت من (معرفة القراء الكبار).

⁽٣) تَصْحَف «بدران» في (الوافي بالوفيات) إلى «بردان».

⁽٤) وكان مولده سنة ٩٦٦ هـ.

⁽٥) وقال ابن النجار: كان أحد عباد الله الصالحين منقطعاً إلى الطاعة، مشتغلاً بالزهد والعبادة، لازماً لمسجده لا يخرج منه إلاّ إلى صلاة الجمعة منقطعاً أو جنازة، وكان =

٦٧ _ أحمد بن حامد بن الفُرات بن أحمد بن مَهْدِيّ. أبو العبَّاس الرَّبَعِيّ، الضَّمْرِيّ، البزّاز.

سمع ابن الخطّاب الرّازيّ بثغر الإسكندريّة.

روى عنه: ابن صُصْرَى في مشيخته، وفيها أنَّه وُلِد بقرية ضمير سنة ستٌ وثمانين أربعمائة.

وله شغرٌ حَسَن.

مات في جُمادي الآخرة سنة ثلاث هذه.

 $^{(1)}$ عمد بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بكُرُوس $^{(1)}$. أبو العبَّاس البغدادي، الحنبليّ، الفقيه، الزَّاهد.

وُلد سنة إحدى وخمسمائة.

وسمِع من: أبي سعد بن الطُّيُوريّ، وأبي طالب الزَّيْنبيّ.

وتفقّه على: أبي بكر الدِّينَوَريّ، وأبي خَازِم بن القاضي أبي يَعْلَى.

وأنشأ له نَصْر بن العطَّار التَّاجِر مدرسة ودرَّس بها.

وأقرأ الفقه وتخرّج به جماعة.

وكان زاهداً عابداً، خيراً، متنبِّلًا، كبير القَّدْر.

قرأ أيضاً القراءآت على أبي عبدالله البارع، وأبي بكر المَزْرَفيّ ^(٢).

معتكفاً على إقراء الناس القرآن والفقه والحديث، وكان غزير الدمعة عند الذكر، ظاهر الخشوع، وله قدم في التصوّف ومعرفة بأحوال أهل الطريقة، وله مصنّفات في ذلك. وكان يحضر السماع ويقول به على طريقة المتصوّفة والناس يقصدون زيارته ويطلبون بركته.

أنظر عن (أحمد بن محمد بن المبارك) في: المنتظم ١٠/٢٧٦ رقم ٣٦٤ (١٨/ ٢٤٣ رقم (1) ٤٣١٩)، والمختصر المحتاج إليه ٢٠٦/١، ومرآة الزمان ٨/٤٤، وتاريخ إربل ٩٨/١، وذيل طبقات الحنابلة ١/٣٣٨، رقم ١٥٨، والوافي بالوفيات ١١٣/٨، ١١٤ رقم ٣٥٢٨، وشذرات الذهب ٤/ ٢٤٤، ٢٤٥.

في الأصل، وأصل الوافي بالوفيات: «المرزفي» بتقديم الراء. والتحرير من: المنتظم، **(Y)** والمختصر، والذيل.

و«المَزْرَفي»: بفتح الميم وسكون الزاي وفتح الراء، وفي آخرها الفاء، هذه النسبة إلى =

روى عنه: موفّق الدّين المقدسيّ وقال: كان من أصحاب أحمد، وله مسجد ومدرسة. يتكلّم في مسائل الخلاف ويدرس. وكان يتزهّد وما علمت منه إلاّ الخير.

قال ابن مَشِّقْ: تُوُفِّي في خامس صَفَر.

وروى عنه أيضاً عبد العزيز بن باقا، ومحمد بن أحمد بن شافع(١).

٦٩ ـ أرسلان (٢) بن طُغْرُل (٣) بن محمد بن مَلِكْشاه.

السَّلْجُوقيّ السّلطان.

تُونِّقي في هذا العام.

وكان القائم بدولته زوج أمّه شمس الدّين إلْدكز، وابنه البهلوان. وكان أرسلان سلطاناً مستَضْعَفاً، له السّكّة والخطْبة. ولمّا مات خُطِب

۱) وقال سبط ابن اا ومن نظمه:

يمين من يخون في اليمين وقرحت من أدمعي جُفُوني وقرحت من أدمعي جُفُوني فالشوق والتلكمار أودعوني فراخك الأوراق في الغصون أم كيف أنسى والسوداد ديني تجري وخوف البين يعتريني أيدى النوى بقلبك المحزون

أحبابنا لا سلمَتْ من السردَى
بكيستُ دمعساً ودمساً لبينهسمُ
مُمذُ رحلوا أحبابُ قلبي سَحَراً
فيسا غُسرابَ بَيْنهسمُ لا سَتَسرَتْ
فكيف أشكو والسوفاء ملهبي
قسالسوا وقد ودعتهم وأدمُعي

وقال ابن رجب: وقرأت بخط ناصح الدين بن الحنبلي: كان فقيهاً زاهداً، عابداً مفتياً. وسمعته يتكلّم في حلقة شيخنا ابن المنّي، وعليه من نور العبادة وهدّي الصالحين ما يشهد له.

- (٢) أنظر عن (أرسلان بن طغرل) في: الكامل في التاريخ ٢١/٣٥، والدرّ المطلوب ٢١ (في وفيات سنة ٧٧٦ هـ.)، والعبر ٢١٧/٤، ودول الإسلام ٧/٣٨، وتاريخ ابن الوردي ٢/٨٨، والبداية والنهاية ٢١/٣٩، والنجوم الزاهرة ٦/٤٧ (في وفيات سنة ٥٧٠ هـ.)، والوافي بالوفيات ٨/٣٢٤ رقم ٣٧٧٦، وشذرات اللهب ٢٤٤٤.
 - (٣) في (العبر): «طغربل».

المَزْرَفة، وهي قرية كبيرة بغربي بغداد على خمسة فراسخ منها. (الأنساب ١١/ ٢٧٥).
 (١) وقال سبط ابن الجوزي: زوّجه جدّي ستّ العلماء أكبر بناته.

بعده لولده طُغْرِل الَّذي قتله خُوارَزْم شاه، كما يأتي إن شاء الله تعالى.

_ حرف الحاء _

٧٠ - الحسن بن أحمد بن محمد بن أحمد.

أبو عليّ بن الخُوَيْريّ، العبّاسيّ.

سمع: إسماعيل بن السَّمَرْقُندِيّ، وطائفة.

وقرأً بالرّوايات على الشَّهْرزُوريّ، وأقرأ القراءآت والعربيّة بواسط.

وكان يعلم الموسيقي، فيه دِين وتعبُّد.

أرَّخه ابن النُّجَّار .

_ حرف الدال _

٧١ ـ [داود](١) بن محمد بن الحسن بن خالد(٢).

القاضي أبو سليمان الخالديّ، الإرْبليّ، ثمّ الحَصْكفيّ، الفقيه الشّافعيّ. وُلِد سنة ثلاثٍ وتسعين وأربعمائة بالموصل. وتفقّه ببغداد.

وسمع: أبا القاسم بن بيان ببغداد؛ وأبا منصور محمد بن عليّ بن محمود الكُراعيّ بمرُو.

وقدِم دمشقَ رسولاً فحدَّث بها، ثمّ سكن الموصل وحدَّث بها بأشياء منها «صحيح البخاريّ»، لكنّه أسقط من إسناده إلى البخاريّ رجلاً، واستمرّ الوهْم عليهم وعليه.

⁽۱) في الأصل بياض، والمثبت من: تاريخ إربل ٢٦٥/١ ــ ٢٦٧ رقم ١٦٢، وطبقات الشافعية للإسنوي ١١٩/١، وانظر الوافي بالوفيات ١/٩٤ رقم ٥٨٩.

⁽۲) يقال: ابن أبي خالد الإربلي. قال ابن المستوفي: كذا وجدت نسبه بخطّه ـ رحمه الله ـ سوى الإربلي فإني وجدته باستجازة لأبي الفتوح عبدالله بن شيخنا أبي المظفر المبارك بن طاهر. وذكر صورتها وفيها سماعه في مجالس عدّة آخرها شهر ربيع الأول من سنة ٣٠٥ هـ.، وأسماء الكتب التي سمعها: صحيح مسلم، في سنة ٥١٨ هـ.، وبمرو سنة ٥٢٠ هـ.، وموطّأ مالك في سنة ٥٢٠ هـ. بمصر، وكتاب الشهاب ببغداد سنة ٥٠٩ هـ.، وكتاب المقامات للحريري ببغداد سنة ٥٠٩ هـ.، وطريق آخر البخاري سنة ٧٢٥ هـ.

روى عنه: أبو القاسم بن صَصْرَى، والقاضي أبو نَصْر بن الشّيرازيّ. وأجاز البّهَاء عبد الرّحمٰن.

وْتُوُفِّي بالموصل يوم النَّحْر، وقد ولي قضاء كيْفا مُدَّة.

۲۷ _ [داود](۱) بن يزيد.

أبو سليمان السّعديّ، الغَرْناطيّ.

بقيَّة النَّحُويين بالأندلس.

أخد عن: أبي الحَسَن بن الباذَش؛ وكان من أكبر تلامذته.

وسمع من: أبي محمد بن عتّاب، وأبي بحربن العاص، وابن مغيث، وغيرهم.

وكان له مشاركة في عِلم الحديث. أخذ القراءآت عنه، ومن رواته: أبو بكر بن أبي زَمَنين، وأبو الحسن بن خروف، وأبو القاسم الملاحي (٢). وتُوفِقي عن خمسِ وثمانين سنة.

_ حرف الصاد _

٧٣ _ صَدَقَة بن الحسين بن الحسن بن بختيار (٣).

(١) في الأصل بياض، والمستدرك من: بغية الوعاة ١/٥٦٣، ٥٦٤ رقم ١١٨٠، والوافي بالوفيات ٢٩/٩١ع رقم ٥٩٨.

⁽Y) وكان يقرىء العربية والأدب واللغة، ويستفتح مجلسه بأمّ القرآن تبرُّكاً، ويسمع الحديث في رمضان بدلاً من كتب الأشعار، وكان غزير الدمعة، كثير الخشية عند قراءة القرآن والحديث، وكان يأكل الشعير، ولم يأكل لحماً من الفتنة الأولى لأجل المغانم والمكاسب. انتقل من غرناطة إلى باغة من أجل السلطان دعاه لإقراء بنيه، فقال: واللهلا أهنت العلم، ولا مشيت به إلى الديار، ثم انتقل إلى قرطبة، وكان يسأل الله تعالى الموت بها. فمات بها سنة ثلاث وسبعين وخمسمائة، ومولده بعد الثمانين وأربعمائة بيسير.

 ⁽٣) أنظر عن (صدقة بن الحسين) في: المنتظم ٢٧٦/١٠ رقم ٣٦٥، (٣١٨ ٢٤٣،)
 ٢٤٤ رقم ٤٣٢٠)، والكامل في التاريخ ٤٤٩/١١، ومرآة الزمان ٤٤٤/٣٤، والمختصر في أخبار البشر ٣/٦، ووفيات الأعيان ٢/٣٥٠، وسير أعلام النبلاء ٢١/٢١، ٢٧ رقم ٢٣٠، وميزان الاعتدال ٢/٣١، والمغني في الضعفاء ٢/٧٠، والمختصر المحتاج إليه ٢/١٠٩، وذيل الروضتين ٢١، والوافي بالوفيات ٢١/٢٩٢_٢٩٤ رقم ٣٢٣، والإعلام =

أبو الفَرَج بن الحدّاد البغداديّ، الفقيه، الحنبليّ، النّاسخ. تفقّه على: أبي الوفاء بن عَقِيل، وأبي الحسن بن الزّاغونيّ؛ وسمع منهما. ومن: أبي عثمان بن مَلّة، وأبي طالب اليُوسُفيّ.

وكان قيّماً بالفرائض والحساب، ويفهم الكلام. وأقرأ النّاس، وتخرّج به جماعة.

وكان مليح الخطّ، نسخ الكثير، وكان ذلك معاشه. وكان يؤمّ بمسجدٍ وهو يقيم فيه (١٦).

قال أبو الفَرَج بن الجوزيّ (٢): ناظَرَ وأَفْتى إلاّ أنّه كان يظهر في فَلَتَات لسانه ما يدلّ على سوء عقيدته. وكان لا ينضبط، فكلّ من يجالسه يعثر منه على ذلك (٣). وكان تارّة يميل إلى مذهب الفلاسفة، وتارة يعترض على القَدَر.

دخلتُ عليه يوماً وعليه جرب فقال: ينبغي أن يكون هذا على جَمَل لا على.

بولهيات الأعلام ٢٣٦، وتاريخ ابن الوردي ٢٨٨ وفيه: «الذيل ذيّل تاريخ ابن الزعفراني»، وذيل طبقات الحنابلة ١٩٩١، ٣٤٣ رقم ١٥٩، والبداية والنهاية ١٨/٢٩٨، و٢٩٨، ولبداية والنهاية ٢٤٥/٤، و٢٩٩، ولبدان الدهب ٢٤٥/٤، وتاريخ ابن سباط ١/١٥١، وشذرات الذهب ٢٤٥/٤، وكشف الظنون ٢٩٠، ومعجم المؤلفين ٥/٨١، وصيد الخاطر ٢٣٩.

⁽۱) وقال ابن رجب: وبرع في الفقه، فروعه وأصوله، وقرأ علم الجدل والكلام، والمنطق والفلسفة والحساب، ومتعلقاته من الفرائض وغيرها. وكتب خطاً صحيحاً. وقال الشعر المليح، وأفتى وناظر، وانقطع بمسجده بالبدرية شرقي بغداد، يؤم الناس فيه: وينسخ ويُفتي، ويتردّد إليه الطلبة يقرأون عليه فنون العلم، وبقي على ذلك نحواً من سبعين سنة حتى توفي.

قال ابن النجار: وله مصنفات حسنة في أصول الدين. وقد جمع تاريخاً على السنين، بدأ فيه من وقت وفاة شيخه ابن الزاغوني سنة سبع وعشرين وخمسمائة، مذيّلاً به على تاريخ شيخه، ولم يزل يكتب فيه إلى قريب من وقت وفاته، يذكر فيه الحوادث والوفيات، وقد نسخ بخطه كثيراً للناس من سائر الفنون. وكان قوته من أجرة نشخه، ولم يطلب من أحد شيئاً ولا سكن مدرسة، ولم يزل قليل الحظ، منكسر الأغراض، متنفّص العيش، مقتراً عليه أكثر عمره.

⁽٢) في المنتظم.

 ⁽٣) في المنتظم زيادة: «وكان يخبط الاعتقاد وتارة يرمز إلى إنكار بعث الأجسام».

وقال لي يوماً: أنا لا أخاصم إلاً من فوق الفَلَك.

وقال لي القاضي أبو يَعْلَى: مُذْ كتب صَدَقةُ «الشَّفاء» لابن سينا تغيَّر.

وحدَّثني عليّ بن الحسن (١١) المقرىء فقال: دخلت عليه فقال: والله ما أدري من أين جاءوا بنا، ولا إلى أيّ مُطْبَق (٢) يريدون أن يحملونا.

وحدَّثني الظّهير [ابن] (٣) الحنفيّ قال: دخلت عليه فقال: إنّي لأفرح بتعثيري. قلت: ولِمَ؟ قال: لأنّ الصّانع يقصدني.

وكان طول عُمره ينسخ بالأجرة، وفي آخر عمره تفقّده بكيس، فقيل له، قال: أنا كنت أنسخ طول عُمري فلا أقدر على دجاجة. فأنظر كيف بعث لي الحذّواء والدّجاج في وقتٍ لا أقدر أن آكله.

وهو كقول ابن الرّاوَنْديّ: وكنت أتأمّل عليه إذا قام للصّلاة، وأكون إلى جانبه، فلا أرى شَفَتَيه تتحرّك أصلاً.

ومن شعره:

لا تُوطَّنها فليست بمُقامِ واجْتَنِبُها فهي دارُ الإنتقامِ أَمْ تُراها رَمْيةً من غير رامِ (١) أَتُراها رَمْيةً من غير رامِ

فلمّا كثرُ عُثُوري على هذا منه هَجَزتُه، ولم أُصَلِّ عليه حين مات.

وكان يُعرف منه فواحش. وكان يطلب من غير حاجةٍ. وخلّف ثلاثمائة دينار (٥٠).

وحُكيَ عنه أنّه رُؤُيَ له منامات نحسة، نسأل الله العفو.

⁽١) المنتظم: اعلي بن عساكرا.

⁽٢) في المنتظم: (أي مضيق).

⁽٣) إضافة من المنتظم.

⁽٤) المنتظم، الوافي ٢٩٤/١٦.

⁽٥) وقال ابن القطيعي: كان بينه وبين ابن المجرزي مباينة شديدة، وكل واحد يقول في صاحبه مقالة الله أعلم بها، (ذيل طبقات الحنابلة ١/٣٤٠).

تُوُفّي في ربيع الآخر في عَشّر الثّمانين(١).

_ حرف العين _

٧٤ - عبد الباقي بن أبي العز بن عبد الباقي ابن الكوّار (٢).
 البغداديّ الصُّوفيّ، ويعرف بابن القوّالة.

روى عن: أبي الحسين بن الطُّيُوريّ.

روى عنه: عمر بن بكُرُون، وابن الأخضر.

(۱) وقال ابن النجار: كان الوزير ابن رئيس الرؤساء سأل عن مسألة في الحكمة فقيل له إن صدقة الناسخ له في ذاك يد، فأنفذها إليه، فكتب فيها جواباً شافياً استحسنه الوزير، وسأل عن حاله فأخبر بفقره، فأجرى له ما يقوته. وعلمت الجهة بنفشا بحاله، فصارت تتفقده في بعض الأوقات بما يكون بين يديها من الأطعمة الفاخرة والحلوى، فيعجز عن أكله، فيعطيه لمن يبيعه له، وكان ربّما شكا حاله لمن يأنس به، فيشفّع عليه من له فيه غرض ويقول: هو يعترض على الأقدار، وينسبه إلى أشياء الله عالم بحقيقتها.

لَّــو قَنَّــع الإنســانُ مــن حظّــه لــزال جُـــلّ الغـــمّ عـــن نفســـهِ الكنّــه يــرضــى بغيــر الــرضَــى ويستقـــلّ الحـــظُّ مـــع وفَـــره وفــي انعكــاس الأمــر لــو رامــهُ ومن شعره:

واحسرتا من وجود ما تقدمنا ونحن في ظُلماتِ ما بها قمرٌ مُسدَلَّهين حيارى قد تكنَّفنا فالفِعلُ فيه بالاريبِ ولا عملِ منه:

نظرت بعين القلب ما صنع الدهرُ فنحسن شدّى فيه بغيـر سيـاسـةٍ فللا من يحلّ الـزيـج وهـو منجّـمٌ يحلّ لنـا مـا نحـن فيـه فنهـدي عمّى في ظلمةٍ فوق ظلمةٍ

بمثل ما يقنع من عقله وكل ما يهتم من الجله من الجله من علمه والخلق من جهله ويحمد ألما المادوم من فعله راحتُه والفوز في مثله

نیسه اختیسارٌ ولا عِلسمٌ فیقتیسسُ یُضیء فیها ولا شمس ولا قَبَسُ جَهْــلٌ تجهّمَنَــا فــي وجهــه عَبَـسُ والقــول فیــه کــلام کلّــه هَــوسٌ

ف الفيت غِسرًا وليس لم خُبْسرُ نسروح ونغدو قد تكنَّفنا الشـرُ ولا من عليه ينزل الوحي والذكرُ وهـل يهتـدي قـومٌ أضلهُم الشُّكرُ تـراكمها مـن دونـه يعجـز الصبـرُ

(٢) أنظر عن (عبد الباقي بُن أَبِي العُزّ) في: المختصر المحتّاج إليه ٢/ ٨٥ رقّم ٩١١، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ١/ ٩٧٩ ـ ٩٨٥.

وتُوُفّي في ربيع الآخر.

٧٥ ـ عبد الرَّحمن بن أبي القاسم أحمد بن محمد بن أحمد بن مخلد بن عبد الرَّحمن (١).

[روى عن] (٢): أبي القاسم بن النّحّاس، وأبي محمد بن عتّاب، وغيرهم.

قال الأَبّار: وكان فقيها مشاوَراً. ولي القضاء، وكان عريقاً في العلم والنّباهة.

سمع منه: ابنه أبو الوليد يزيد، وحفيده شيخنا أبو القاسم أحمد بن يزيد. وتُوُفّي عن ثمانٍ وسبعين سنة.

٧٦ ـ عبد العزيز بن أحمد بن غالب(٣).

أبو الأصبّغ بن مؤمّل البّلنسِيّ، الزّاهد، المقرىء.

قال الأبّار: أخذ القراءآت عن ابن هُذَيْل، وكان مقدَّماً فيها، عارِفاً بالتّعليل، مجوِّداً، فَرْداً في الاجتهاد، صَوّاماً قَوَّاماً، صاحب ليل. ولم يتزوَّج قطّ.

تُوُفّي في حدود سنة ثلاث.

٧٧ _ عبد الكريم بن عسكر.

أبو محمد المخزومي، الخالدي، الهَمَذَاني الأصل.

وُلِد بمصر، وسكن الإسكندريّة. وكان يُعرف بالنَّجّار.

سمع من: أبي صادق مرشد، وأبي عبدالله الرَّازيّ.

قال الحافظ ابن المفضّل: سألته عن مولده فقال: في رجب سنة سبع وتسعين.

⁽١) أنظر عن (عبد الرحمن بن أبي القاسم) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

⁽٢) ما بين الحاصرتين إضافة على الأصل يقتضيها السياق.

 ⁽٣) أنظر عن (عبد العزيز بن أحمد) في: في تكملة الصلة لابن الأبار.

سمعنا منه كتاب «الأثمان» لابن أبي شيبة، والحادي والعشرين من حديث الدُّهْليّ. وكان شيخاً صالحاً. قال لي: نَسَبي عندي بخطَّ أبي إلى خالد بن الوليد رضي الله عنه.

وتُوُفّي في تاسع عشر ذي الحجّة.

قلت: روى عنه. جعفر الهَمَذَانيّ، وعبد الوهّاب بن روّاج، وجماعة.

 $^{(1)}$ بن عبدالله بن عبد الرَّحمن بن مسعود بن عَيْشون . $^{(1)}$

أبو مروان المَعَافِريّ، البَلَنْسِيّ.

روى عن: أبي الوليد بن الدَّبَّاغ.

وحيج فلقي: أبا عليّ بن العوجا، وأبا عبدالله المازريّ، وأبا طاهر بن سِلَفَة.

روى عنه: أبو عبدالله بن نوح الغافقيّ.

قال ألابّار: وكان نهاية في الصّلاح والبِرّ والمخير، متواضعاً. لم يتزوّج، وكان ذا ثروة، واقتنى كثيراً من الكتب.

وتُوُفِّي سنة ثلاثٍ أو ٧٤.

 $^{(7)}$ بن عليّ بن صيلا $^{(7)}$ بن عليّ بن صيلا $^{(7)}$.

أبو بكر الحربيّ، الخبّاز، والد عبد الرَّحمٰن، وعبد العزيز.

سمع: عبد الواحد بن علوان الشَّيْبَانيَ، وأحمد بن عبد القادر بن يوسف، وغيرهما.

روى عنه: أبو محمد بن الأخضر، وعبد الرّزّاق الجِيليّ، وأحمد بن صيلا أحمد البُنْ دَنِيجيّ، والبهاء عبد الـرحمـن، والأنجـب بـن محمـد بـن صيلا الحمّاميّ، وأبو القاسم بن أبي الحسين المالحانيّ، وآخرون.

⁽١) في الأصل بياض.

⁽٢) أنظر عن (عتيق بن عبد العزيز) في: المختصر المحتاج إليه ١٥٣/٣ رقم ١٠٨٦، والتاريخ المجدّد لمدينة السلام لابن النجار، (مصوّرة المجمع العلمي العراقي عن نسخة الظاهرية) ورقة ١٢٠، وذيل تاريخ بغداد، له ١٨٧/٢، ١٨٨ رقم ٤٠٨.

⁽٣) هكذا في الأصل. وفي المختصر المحتاج إليه «اصيلا».

وُلد سنة ثمانٍ وثمانين وأربعمائة. ومات في ربيع الآخر وله خمسٌ وثمانون سنة (١).

٨٠ ـ عليّ بن الحسين بن عليّ (٢).

أبو الحسن اللُّوَاتيّ الفاسيّ.

روى عن: أبي جعفر بن باقي، وأبي الحسين بن الأخضر الإشبيليّ أخذ عنه النَّحو واللّغة.

وسمع: أبا عبدالله بن شبرين.

وأجاز له أبو عبدالله الخولانيّ، وأبو عليّ الصَّدَفيّ.

وحدَّث «بالموطأ» عن الخَوْلانيّ، لقِيه سنة إحدى وخمسمائة، وأجاز له وروى عن جماعة آخرين.

قال الأَبَّار: كان فقيها، مشاوَراً، فاضلاً، متقِناً. أخذ عنه يعيش بن النّديم، وأبو عبدالله بن الحقّ التَّلْمِسانيّ، وأبو الخطّاب بن الحمّيل، يعني ابن دُخية.

ووُلِد سنة تسعِ وتسعين وأربعمائة.

٨١ ـ عليّ بن عبدالله بن حمُّود^(٣).

أبو الحسن المِكناسيّ، الفاسي، وأصله من مِكْناسة الزَّيتون، حجّ سنة اثنتى عشرة.

وأخذ عن أبي بكر الطُّرْطُوشيّ «سُنَن أبي داود»، و«صحيح مسلم»، أخذ عن طُرْخان، و«جامع» أبي عيسى، عن ابن المبارك.

⁽۱) وقال ابن الدبيثي: ذكره أبو سعد ابن السمعاني في موضعين من كتابه فيمن اسمه «محمد»، وفيمن اسمه «المبارك» فوهم فيهما، بل اسمه عتيق، هكذا ذكره الذين سمعوا عنه.

⁽٢) أنظر عن (علي بن الحسين) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

 ⁽٣) أنظر عن (على بن عبدالله) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

ودخل الأندلس مرابطاً. ثمّ حجّ ثانياً وجاور، وأقام بالحَرَم. قال ابن الأَبّار: وكان زاهداً، ورعاً، محسِناً إلى الغُرباء. تُوُفّي بمكّة عن سبْع وسبعين سنة.

_ حرف الفاء _

٨٢ ـ فاطمة بنت نصر بن العطّار البغداديّة (١).

أخت صاحب المخزن. امرأة محتشمة، زاهدة، عابدة، كبيرة القدر. سمعها أرباب الدّولة لأجل أخيها، وخلْق كثير.

وقال أخوها إنّها ما خرجت من البيت في عُمرها إلاّ ثلاث مرّات رضي الله عنها.

۸۳ ـ (...) (۲) بن حَيْدَرة.

أبو المجد البُجليّ، الكاتب.

تُوُفّي بدمشق في جُمادى الأولى.

يروي عن: الحسن بن صَصْرَى.

روى عنه: الحافظ أبو المواهب وقال: وُلِد سنة خمسٍ وثمانين وأربعمائة. ويُعرف بابن الرُّمَيْليّ.

وروى عنه أيضاً أبو القاسم بن صَصْرَى.

_ حرف الكاف _

٨٤ ـ كُمُشْتِكِين (٣).

⁽۱) أنظر عن (فاطمة بنت نصر) في: المنتظم ۲۷۹/۱۰ رقم ۳۲۳ (۱۸/۲۶۵ رقم ۴۳۲۱)، والبداية والنهاية ۲۱/۲۹۹.

⁽٢) في الأصل بياض.

 ⁽٣) أنظر عن (كمشتكين) في: سنا البرق الشامي ١/٢٦٤ ـ ٢٦٦، والنوادر السلطانية ٤٣، والكامل في التاريخ ١١٥/١١ ـ ٤١٩، والروضتين ج ١ ق ١/٢٦١ ـ ٦٦٣ و ٢٠٥٠، ومفرج الكروب ١٦٣، والتاريخ الباهر ١٧٨، ومرآة الزمان ٨/٣٤٣، والتاريخ المظفّري لابن =

نائب حلب للملك الصّالح إسماعيل بن نور الدّين، ولَقَبُه: سعد الدّين. وهو مدبّر دولة الصّالح.

وكان الرئيس أبو صالح ابن العجميّ كالوزير في دولة إسماعيل فقُتِل، فأتهموا به سعد الدّين، وحسّنوا للصّالح القبض عليه، فقبض عليه وقُتِل تحت العذاب في هذه السّنة. لأنّ رفقاءه الخدّام حسدوا مرتبته، ومالوا إلى أبي صالح، فصارت الأمور كلّها إلى أبي صالح، فجهّز كمشتركين عليه جماعة من الباطنيّة، فقتلوه يوم جمعة.

_ حرف الميم _

٨٥ ـ محمد بن أحمد بن عبد الجبّار (١١).

الفقيه، أبو المظفَّر الحنفيّ، المعروف بالمُشَطَّب السُّمَنَانيّ (٢).

تفقّه بمَرْو على أبي الفضل الكرْمانيّ، وأفتى، وناظَرَ، ودرّس.

وكان مولده في سنة اثنتين وتسعين وأربعمائة؛ وجال في بلاد المشرق، ثمّ استوطن بغداد، ودرِّس المذهب بمدرسة زيرك.

وحدَّث عن: أبي المعالي جعفر بن حيدر، والحسين بن محمد بن فُرُخان.

وعنه: عمر القُرَشيّ.

وتُوُفّي في حادي عشر جُمادى الأولى، وشيّعه قاضي القُضاة، والنّاس.

٨٦ ـ محمد بن أحمد بن هبة الله بن محمد.

أبي الدم (مخطوط) ورقة ٨٨ ب، وتاريخ ابن الوردي ٨٩/٢، والوافي بالوفيات (مخطوط) ٢١/ ورقة ٢١١ أ، ب.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن أحمد بن عبد الجبّار) في: المنتظم ٢٧٩/١٠ رقم ٢٤٦/١٨٥٣ رقم ٢٤٦/١٨٥٣ رقم ٢٤٢١)، والوافي بالوفيات (٤٣٢٤)، والكامل في التاريخ ٢١٠/٤٤١، والجواهر المضيّة ٢/١٤، والوافي بالوفيات ٢/٢٠١، ١٠٠ رقم ٤٣٠.

 ⁽٢) السّمَنَاني: بكسر السين المهملة، وفتح الميم. والنون. نسبة إلى بلدة من بلاد قومس بين الدامغان وخوار الري يقال لها: سمنان. (الأنساب ١٤٨٧).

أبو عبدالله بن أبي منصور الدِّيناريّ.

ذكر أنّه من ولد ذي الرّياستين.

روى عن: أبي القاسم بن بيان، وأُبَيِّ النَّرْسيِّ.

سمع منه: عمر بن عليّ القُرَشيّ، وعمر بن محمد العُلَيميّ، وعبد العزيز بن الأخضر. وتُونِي في آخر العام، وقيل: تُونِي في شوّال سنة ٧٥.

 $^{(1)}$ محمد بن أسعد حَفَدَة العطّاريّ $^{(1)}$.

درّس، وأفتى، ونَاظَر، وأخذ عن: الغزاليّ.

وقد ذُكِر في سنة إحدى وسبعين.

وذكره في سنة ثلاث أبو الفَرَج بن الجوزيّ، وابن الدَّبِيثيّ وقال: روى عن أبي الفتيان عمر الدِّهِسْتانيّ. ثنا عنه: عبد الوهّاب بن سُكَيْنَة، وابن الأخضر.

وطوّل فيه ابن النّجّار .

٨٨ ـ محمد بن بدر بن عبدالله.

أبو الرّضا الشّيحيّ.

كان أبوه يروي عن أبي بكر الخطيب.

سمع: أباه، وأبا الحسن بن العلاف، وأبا القاسم بن بيان.

روى عنه: أحمد بن أحمد البُّنْدَنِيجيّ، وابن الأخضر.

وآخر من روى عنه يحيى بن القُمَيْرة.

تُوُفّي في ربيع الأوّل.

۸۹ ـ محمد بن بنيكان بن يوسف^(۲).

الهَمَذَانيّ.

تُوُفّي في آخر السّنة عن تسعين سنة.

⁽١) تقدّم في وفيات ٧١ه هـ. برقم (١٧).

⁽٢) أنظر عن (محمد بن بُنيمان) في: التحبير ١٠٢، ١٠٢، رقم ٧١٢، ومعجم شيوخ ابن السمعاني (مخطوط) ورقة ٢٠٧، وسير أعلام النبلاء ٢٠٨/٥٩، ٩٩٥ رقم ٣٧٥.

وكان مُسْنِد هَمَذَان في وقته.

يحوَّل إلى هنا. نعم.

هو أبو الفضل المؤدِّب الأديب.

سمع: محمد بن جامع القطّان الجوهري، شيخ هَمَذَاني.

وقد روى عن ابنه جامع بن محمد، والرَّيْحانيّ.

وتُونِّي سنة إحدى وسبعين.

وسمع من: مكّي بن منصور السّلار الكُرْجِيّ؛ ومن: سعد بن عليّ العِجْليّ مفتي هَمَذَان؛ ومن: عبد الرحمن بن حَمْد اَلدُّونيّ، وغيرهم.

روى: «سُنَن» النّسائيّ، و«عمل يوم وليلة» لابن السُّنّيّ، عن الدُّونيّ.

قال السَّمْعاني (١): هو أبو الفضل المؤدّب المؤذّن الأشناني (٢). وهو سِبْط أحمد بن نصر الحافظ الأعمش. شيخ أديب فاضل، جميل الطّريقة، له سَمْتُ، ووقار، وصلاح، وتودُّد، مُكْثِر منَ الحديث.

سمع من: جدّه، وعَبْدُوس بن عبدالله بن عَبْدُوس، والحسن بن ياسين، وجماعة كبيرة بإفادة جدّه.

وقرأ الأدب على أبي المظفَّر ألابيوَرُدِيِّ.

سمعت من لفظه كتاب «سُنَن التَّحديث» لصالح بن أحمد الهَمَذَانيّ، وجزء الدُّهْليّ.

قلت: حدَّث عنه: يوسف بن أحمد الشّيرازيّ في «الأربعين البُلْدانيّة» له، وأبو المواهب بن صَصْرَى، ومحمد بن محمد الكرابيسيّ الهَمَذانيّ، وصالح بن المعزّم، وأحمد بن آدم الكرابيسيّ، وآخرون.

وكان أسند من بقي ببلده. وكان شيخًا صالحًا، أديبًا، فاضلًا، انفرد بالرواية عن جماعة.

⁽¹⁾

في التحبير ١٠١/٢. الأشناني: نسبة إلى ألاشنان الذي تُغسّل به الثياب، وإلى بيعة وشرائه. (الأنساب ١/٢٧٢).

قال أبو المواهب: سألته عن مولده فقال: سنة اثنتين وثمانين وأربعمائة.

وتُوُفِّي في آخر سنة ثلاثٍ وسبعين بهَمَذَان.

۹۰ _ محمود ^(۱) بن تَكَش ^(۲) .

الأمير شهاب الدين الحارمي، خال صلاح الدين.

أعطاه السلطان حماه عندما تملّكها، فبقي بها هذه المدّة، ومرض فحاصرته الفرنج حصاراً شديداً، ولولا لُطْف الله لأخذت الفرنج حماه.

ولمّا ترحّلوا تُوُفّي شهاب الدّين.

تُوُفّي قبله بثلاثة أيّام ولدُّهُ، وكان شابّاً مليحاً، من أحسن أهل زمانه.

المن الروساء أبي المن المن المن المن المن الروساء أبي المنا المسلمة (7) .

أبو الفَرَج، وزير العراق^(٤).

⁽۱) في الأصل: «محمد» والتصويب من: البرق الشامي ۳/۵۳، وسنا البرق الشامي ۲۸۸۱، ۲۲۸، و۲۸۸، ومرآة الـزمـان ۴۲۸، ومفرج الكروب ۲۰۰۲، ومرآة الـزمـان ۴۳۸، والبداية والنهاية ۲۱/۲۹ و۲۹۹، والسلوك ج ۱ ق ۲۱۲۱، وعقد الجمان (مخطوط) ۲۱۱/۱۲.

وسیعاد برقم (۱۸۳) في وفیات ۷۵۰ هـ.

⁽٢) تصحفت في البداية والنهاية ٢٩٩/١٢ إلى: «تتش».

⁽٣) أنظر عن (محمد بن عبدالله بن هبة الله) في: المنتظم ٢٨٠/١٠ رقم ٣٦٩ (٢٤٢/١٨) ٢٤٧ كالم رقم ٤٣٢٤)، والكامل في التاريخ (٢/٦٤١)، وذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ٢/٢١ ـ ١٨ رقم ٤٣٢، والكامل في التاريخ إربل ٢١٢/١، والروضتين ج ١ ق ٢/١٤، ١٥٥، ١١٥، وتاريخ إربل ٢١٢١، والروضتين ج ١ ق ٢/١٤، ١٥٥، والبرق الشامي وتلخيص مجمع الآداب ج ٤/رقم ٤٦٤، ومراة الزمان ٨/٣٤٣ ـ ٣٤٩، والبرق الشامي ٣/٨٩، ١٩٠، والفخري ٣١٩ ـ ٣٢١، والمختصر في أخبار البشر ٣/ ٢١، والعبر ٤/٢١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، ومراة البخان أخبار البشر ٣/ ٢١، والنهاية ٢١/٨٩، والوافي بالوفيات ٣/ ٢٣٥، وعقد الجمان (مخطوط) ٢٢/ ورقة ٣٢ أ، ب، والنجوم الزاهرة ٢/٨، وشذرات الذهب ٤/٤٥٢.

⁽٤) قال ابن الطقطقي بعد أن ذكر لقبه «عضد الدين»: كان عضد الدين من أفاضل الناس وأعيانهم وكان أستاذ الدار في أيام المستنجد، فلما جرى للمستنجد ما جرى استولى عضد الدين ونهض في إخراج المستضيء من الحبس ومبايعته وإحلافه، فاستوزره المستضيء، =

ونهض عضد الدين بأعباء الوزارة نهوضاً مرضياً، وفرّق في يوم جلوسه في دست الوزارة ذهباً كثيراً وحنطة على المقيمين بالمشاهد والجوامع والمدارس والرُبَط، وتلطّف بالأمور تلطّفاً لم يكن في حساب الناس. وبيته مشهور بالرياسة يُعرفون قديماً ببيت الرُفَيل، وكان ابن التعاويذي الشاعر البغدادي شاعرهم ومنقطعاً إليهم وأنفق جُلّ عمره معهم، ولهم

قضيت شطر العمر في مدحكم وعست المست النسم وعسدات أفنيسه هجساء لكسم وله فيهم مدائح كثيرة، فمن جملتها: وما زلت في آل الرئيل بمعزل فيان أقترف ذنبا بمدح سواهم وإن عاد لي عطف الوزير محمد وزير إذا اعتل الزمان فرائية

يخاطب بقوله:

ظناً بكرم انكرم الملك فضاع فيكرم عمري كلُّمه

عن الجور مبذولاً لَي الأمنُ والخصْبُ فَـاِنَّ خِمـاص الطير يقنِصُهـا الحَبُّ فقد أكثب النائي ولان ليَ الصَّعْبُ هِنـاءٌ بــه تُطْلَـى خــلائقــه الجُــربُ

وما زالُ أمر عضُدُّ الدين يجري على السداد حَتى عزله المستضيء وقبض عليه.

وصورة عزله: كان يوماً جالساً في الدست فهجم عليه خادم من خدم الخليفة فقال له: قد استغني عنك! ثم أطبق دواته ودخل الأتراك والجند إلى دُوره فنهبوا ما بها، ودخل العوام أيضاً وكُسرت الصناديق الآبنوس والعاج بالدبابيس وأخد جميع ما كان بها. فخرج عضد الدين وهو يتشاهد ويقول للأتراك: أما تستحيون مني! أما دخلتم داري! أما أكلتم زادي! فلم ينفعه ذلك. فلم يمض إلا ساعة واحدة حتى صارت داره بلاقع، ثم حُمل إلى الحريم ووكل به هناك مدة، ثم أعاده المستضيء إلى الوزارة وحكمه وبسطه، فصفت له الدنيا وعظم شأنه وكثرت خيراته وهباتُه وأحبّه الناس. وكان سخيّاً وهوباً شريف النفس. قيل: وعظم شاترى لداره قط سُكراً بأقل من ألف دينار.

حدّث عنه بعض مماليكه قال: احتاج مرة إلى ألف دينار فأنفَتْ نفسه أن يقترضها من أولاده أو من غيرهم، وكان يأنس بي، فقال لي: يا ولدي قد احتجت إلى ألف دينار أعيدها عليك بعد أيام. فقلت: السمع والطاعة يا مولاي، ثم مضيت وأحضرت له خمسة آلاف دينار. وقلت: يا مولاي، هذه والله، اكتسبتها منك، فخذ منها ما شئت. فأطرق ساعة، ثم قال: والله لا أخذتُ منها حبّة واحدة، خذها وانصرف، ثم أنشد:

والصاحبُ المتبوعُ يَقبُح أن يُرى منتبَعاً ما في يسديْ أنباعِ من الخرم ته المتبوعُ يقبُح أن يُرى منتبَعاً ما في يسديْ أنباعِ من الخليفة الإذن له في الوزارة الثانية جارياً على السداد حتى كان آخر مدّته، فطلب من الخليفة الإذن له في الحج، فأذِن له، فتجهّز تجهّزاً لم يُرّ مثله. ثم عبر إلى الجانب الغربي من مدينة السلام ليتوجّه إلى الحلّة والكوفة ومنها إلى مكة، وبين يديه جميع أرباب الدولة، فلقيه رجل عند محلّة هناك تُعرف بقطُفتا، فقال: يا مولانا مظلوم مظلوم وناوله قصّة، فناولها الوزير منه، فوثب عليه وثبة عالية وضربه بسكّين في تَرْقُونة، ووثب عليه آخر من ا

سمع من: ابن الحُصَين، وعُبَيْدالله بن محمد بن البَيْهَقيّ، وزاهِر الشّحّاميّ.

روى عنه: حافده داود بن عليّ.

وكان أوّلاً أستاذ دار المقتفيّ، والمستنجد، ووَزَرَ للمستضيء. وكان فيه مروءة وإكرام للعُلَماء.

وُلِد سنة أربع عشرة وخمسمائة، وكان يُلَقَّب عَضُدَ الدّين.

وكان سَرِيّاً، مَهِيباً، جواداً.

قال الموَفَّق عَبد اللَّطيف: كان إذا وزن الذَّهب يرمي تحت المُحَصْر قُرَاضةً كثيرة قدر خمسة دنانير، فأخذتُ منها يوماً، فَنَهَرَني أبي وقال: هذه يرميها الوزير برسم الفرّاشين.

وكان يسير في داره، فلا يرى واحداً منّا معشر الصّبيان إلاّ وضع في يده ديناراً، وكذا كان يفعل ولداه كمال الدّين، وعماد الدّين، إلاّ أنّ دينارهما أخفّ. وكان والدي ملازِمه على قراءة القرآن والحديث.

استوزره الإمام المستضيء أوّل ما ولي، واستفحل أمره. وكان المستضيء كريماً رؤوفاً، واسع المعروف، هيّناً، ليّناً. وكانت زوجته بنفسه كثيرة الصّدقات والمروءة.

وكان الوزير ذا انصباب إلى أهل العِلم والصُوفيّة، يُسبِغ عليهم النّعمة؛ ويشتغل هو وأولاده بالحديث والفقه والأدب. وكان النّاس معهم في بلْهَنِيّة،

الجانب الآخر فضربه في خاصرته، ووثب آخر وبيده سكّين مسلولة فلم يصل إليه، وتكاثر
 الناس على الثلاثة فقتلوهم، ثم مات الوزير وصُلّي عليه ودُفِن في تربتهم.
 وقيل: إن الثلاثة الذين قتلوه كانوا من الباطنية من جبل السُّمَّاق.

وحكى بعض أهل قطَفْتا قال: دخلت قبل قتل الوزير بساعتين إلى مسجد هناك فرأيت به ثلاثة رجال، وقد قدّموا واحداً منهم إلى المحراب وأقاموه، ثم صلّى الرجلان الآخران عليه صلاة الميت، ثم قام ونام آخر وصلى الآخران عليه، حتى صلّى كل واحدٍ منهم على الآخر، وأنا أراهم وهم لا يروني. فعجبت مما فعلوا. ثم لما قُتل الوزير وقُتل الثلاثة تأمّلتُ وجوههم فإذا هُمُ هم. (الفخري).

ثمّ وقعت كُدُورات، منها الإحنة الّتي وقعت بينه وبين قُطْب الدّين قايماز.

قلت: ذكرتُها في مكانها.

وعُزِلَ ثمّ أُعيدَ إلى الوزارة.

وخَرَج من بيته حاجًا في رابع ذي القعدة، فضربه واحد من الباطنيّة أربع ضربات على باب قطُفتا، فَحُمِل إلى دارٍ هُنَاك، فلم يتكلّم، إلاّ أنّه كان يقول: الله، الله. وقال: ادفنوني عند أبي. ثمّ مات بعد الظّهر، رحمه الله تعالى.

٩٢ - محمد بن عبدالله بن الحسين بن السَّكَن (١).

أبو سعد بن المعوَجّ.

وُلّي حجابة الباب التُّوبيِّ في سنة إحدى وسبعين، وجُرِح مع الوزير أبي الفَرَج المذكور جراحاتِ مُنْكَرَة، ومات ليْلَتَئِذٍ.

 \P - محمد بن محمد بن هبة الله بن أحمد بن منصور \P .

أبو الثّناء الزّيْتُونيّ، الواعظ، المجهر، سبط ابن الواثق.

وُلِد سنة اثنتين وخمسمائة.

وسمع: هبة الله بن الحُصَيْن، وأبا بكر الأنصاريّ.

وبنيسابور من: محمد بن الفضل الفراوي، وعبد الجبّار الخُواري، وأبي (٣) سعيد بن أحمد بن محمد بن صاعد، وزاهر بن طاهر، وعبد الغافر بن اسماعيل.

وبهراة: تميم بن أبي سعيد الجُرْجانيّ.

ولزم مسجداً في آخر عُمره يعِظ فيه، ويروي الحديث.

 ⁽۱) أنظر عن (محمد بن عبدالله بن الحسين) في: المنتظم ۱۰/ ۲۸۲ رقم ۳۷۱ (۲۲/۸۸ رقم ۲۲۲ رقم ۲۲۲)، ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ۱۸/۲، ۱۹ رقم ۲۲۱، ومرأة الزمان ۱۳٤٧.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن محمد بن هبة الله) في: المنتظم ١٠/ ٢٨١ رقم ٣٧٠ (٢٤٧/١٨ رقم ٢٤٧).

⁽٣) في الأصل: «وأبا».

وسمع منه خلْق، وحدَّث بكتاب «أسباب النُّزول» للواحديّ.

روى عنه: أبو طالب بن عبد السَّميع، وأبو محمد بن قُدَامة، والبهاء عبدالرحمن، وطائفة.

قال ابن قُدَامة: كان شيخ جماعة، له أصحاب. حدَّثني الشّهاب الهَمَذَانيّ أنّه رجل صالح له كرامات.

وقال ابن النّجّار: لزِم مسجده معتكفاً على الإقراء والتّحديث والوعظ ونفْع النّاس. وكان مشهوراً بالصّلاح والزّهْد والعبادة والتُقى، كان النّاس يتبرّكون به ويستشفون بدُعائه. وكان له صِيت عظيم عند الخاصّ والعامّ.

كان السّلطان مسعود يأتي إلى زيارته؛ ويقال إنّه وُجِد في ترِكته عدّة رقاع قد كتبها إليه السّلطان يخاطبه فيها بخادمه.

وكان مليح الخلْقة، ظريف الشَّكْل، بزِيِّ الصُّوفيّة، ولـه تـلاميـذ ومريدون.

وقال ابن الدَّبيثيّ: تُوُفّي في نصف رمضان رحمه الله.

۹۶ ـ محمد بن میدمان^(۱).

أبو عبدالله الكلبيّ، القُرْطُبيّ.

سمع: «جامع التُّرْمِذيّ» سنة عشرين وخمسمائة من عبّاد بن سرحان.

وكان أديباً متصرّفاً فاضلاً.

ذكره الأبار.

٩٥ _ [مَنْوَية] (٢).

أُمَة الواحد بنت عبدالله بن أحمد بن عبد القادر بن يوسف، ابنة عمّ أبي الحسين بن عبد الحقّ وزوجته.

⁽١) أنظر عن (محمد بن ميدمان) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

⁽٢) في الأصل بياض. والمثبت من: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٧٢ رقم ١٤٣٦.

سمعت من: أبي الحَسن بن العلاف.

وصفها أبو سعد بن السَّمْعانيّ، وروى عنها هو، وموفّق الدّين بن قُدَامَة، وآخرون.

وتُونِّيت في المحرَّم في عَشْر الثّمانين، رحمها الله.

_ حرف الهاء _

٩٦ _ هارون بن العبّاس بن محمد بن أحمد بن محمد بن المأمون (١). أبو محمد الهاشميّ، العبّاسيّ، المأمونيّ، البغداديّ، الأديب.

سمع: أبا بكر الأنصاري، وأبا منصور بن زريق الشَّيْبانيّ، وغيرهما.

وصنّف شرحاً «لمقامات الحريريّ» مختصراً. وجمع تاريخاً على السّنين فيه أخبار الأوائل والحوادث والدُّول في مجلّدين.

تُوُفّي في ذي الحجّة.

٩٧ _ هبة الله بن محفوظ بن الحَسَن بن محمد بن الحسين بن أحمد بن الحسين بن صَصْرَى (٢).

القاضي الجليل أبو الغنائم الرَّبَعيّ، التَّغْلبيّ. الدّمشقيّ.

روى عن: يحيى بن بطريق، وابن المسلم، وهبة الله بن طاوس، وجماعة.

وتفقَّه وقرأ القرآن، وحصّل وشهد على القضاة، وحدَّث بدمشق والحَرَمَين.

روى عنه: ولداه أبو المواهب، وأبو القاسم.

وكان كثير البِرّ والتَّعبُّد والتّلاوة. يختم في شهر رمضان ثلاثين ختمة.

⁽۱) أنظر عن (هارون بن العباس) في: العبر ۲۱۷٪، ۲۱۸، ومراّة الجنان ۳۹۸٪، وكشف الظنون ۳۰۲، ۲۱۷، وإيضاح المكنون ۲۹۰/۱۱ و۲/ ٥٣٥، ومعجم المؤلفين ۲۲۸/۱۳.

 ⁽٢) أنظر عن (هبة الله بن محقوط) في: حديث خيثمة الأطرابلسي ١٧٣، وموسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي ق ٢/ج ٥/٨٨ رقم ١٣٢٤.

تُوفِّي في جُمادى الآخرة سنة ثلاثٍ، وله اثنتان وستُّون سنة.

_ حرف لام ألِف _

٩٨ ــ [لاحقُ]^(١) بنُ عليّ بن منصور بن كَارَة^(٢).

أبو محمد أخو دَهْبَل.

روى عن: أبى القاسم بن بيان، وابن نَبْهان.

كتب عنه أبو سعد السَّمْعانيّ، وذكره في «تاريخه».

وحدَّث عنه: ابن الأخضر، والشّيخ الموفَّق، والبهاء، وآخرون.

تُونِّي ليلة نصف شعبان، وله ثمان وسبعون سنة.

وعنه: ابن المقيّر، وعبد العزيز بن خَلَف.

ـ حرف الياء ـ

۹۹ ـ يحيى بن موهوب بن المبارك بن السّدنُك^(٣).

أبو نصر المستعمل، أخو أحمد.

سمع: أبا القاسم بن بيان، وأبا العزّ محمد بن المختار، وغيرهما.

روى عنه: ابن الأخضر، وعبد العزيز بن الزُّبَيْديّ، والبهاء عبد الرَّحمٰن، ومحمد بن عبد الواحد بن سُفْيان، وجماعة.

وتُونُقي في شوّال، وله أربعٌ وسبعون سنة(٤).

۱۰۰ ـ يحيى بن يوسف بن أحمد (٥).

⁽۱) في الأصل بياض، والمثبت من: العبر ٢١٨/٤، والمختصر المحتاج إليه ٣٦/٢، وتكملة إكمال الإكمال لابن الصابوني ٣٠٩، وشذرات الذهب ٤٢٦/٤.

⁽٢) كارة: بالكاف وفتح الراء.

⁽٣) أنظر عن (يحيي بن موهوب) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٥١ رقم ١٣٦٧.

⁽٤) وكان مولده سنة ٤٩٩ هـ.

أنظر عن (يحيى بن يوسف) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٥٢ رقم ١٣٧٠، والعبر ٢١٨/٤ وفيه «يحيى بن يوسف بن بالان الخبّاز»، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٥ رقم ١٨٦٨، والنجوم الزاهرة ٢/ ٨٢.

أبو شاكر السَّقْلاطُونيّ (١)، عُرِف بصاحب ابن بالان. شيخ مُشْنِد، مُعَمَّر.

روى عن: ثنابت بن بُندار، والحسين بن عليّ بن البُسْريّ، وابن الطُيُوريّ، وأبي سعد بن حُشَيْش، وأحمد بن سَوْسن، وغيرهم.

روى عنه: ابن الأخضر، وابن قُدَامة، والبهاء، والمبارك بن عليّ المطرّز، وأبو الحَسَن عليّ بن هبة الله بن الجُمَّيْزيّ، وآخرون.

وكان خبّازاً.

تُوُفّي في شعبان.

١٠١ _ يوسف بن محمد.

أبو الحَجّاج الإسكندري، المؤدّب.

سمع: أبا بكر الطُّرْطُوشيّ.

قال ابن المفضَّل: ثنا، وكان فَرَضِيًّا، له شِعْر.

海 梁 举

وفيها وُلِد الشّريف أبو عبدالله محمد بن عبد الرَّحمٰن بن عليّ الحُسَيْنيّ، الحلبيّ، ثمّ المصريّ في رمضان.

ومحمد بن سليمان بن أبي الفضل الأنصاريّ ليلة الفِطْر.

⁽١) السَّقْلاطُوني: نسبة إلى السقلاطون وهي ضرب من الثياب الرومية الملوّنة بالألوان القُرمزية، وغيرها.

سنة أربع وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

١٠٢ ـ أحمد بن أحمد بن عليّ.

أبو منصور النَّهْروانيّ، المؤدِّب، المعروف بابن بَهْدل.

سمع: أبا سعد أحمد بن الطُّيُوريِّ، وغيره.

سمع منه: عمر الفَرَشيّ، وأبو القاسم بن البُّنْدَنِيجيّ.

وتُوُفّي في رمضان عن ثمانين سنة.

روى عنه: ابن الطُّيُوريُّ.

١٠٣ ـ أحمد بن عليّ بن أحمد بن هبة الله بن محمد بن عليّ بن المهتدي بالله.

أبو تمّام بن أبي الحسن بن أبي تمّام الهاشميّ ابن الغريق. خطيب الحربيّة.

روى عن: ابن الحُصَيْن، وغيره.

كتب عنه: محمد بن المبارك بن مَشِّق.

١٠٤ ـ أحمد بن على بن الحسين بن النّاعم(١).

أبو بكر الوكيل بباب القاضي.

سمع: هبة الله بن أحمد المَوْصِلي، وأبا القاسم بن بيان، وابن بدران الحلواني، والقاسم بن عليّ الحريريّ.

⁽١) أنظر عن (أحمد بن علي بن الحسين) في: سير أعلام النبلاء ٢١/ ٤٣٥ دون ترجمة.

روى عنه: ابن الأخضر، وأبو محمد بن قُدَامة، والبهاء عبد الرحمن، وجماعة.

تُونفي في ربيع الأوّل.

١٠٥ _ أحمد بن نصر بن تميم (١).

الفقيه أبو زيد الحمويّ، الأشعريّ، المتكلّم.

كان متعصّباً في علم الكلام.

وُلِّي حَسْبة دمشق وحَسْبة مصر .

١٠٦ ـ إبراهيم بن أحمد.

والد البهاء عبد الرحمن المقدسيّ.

تُوُفّي في رجب

قرأت ترجمته بخط الضّياء، وقال: وُلِد في حدود سنة خمس وعشرين وخمسمائة. وسألت عنه خالي الموفّق، فقال: كان رجلاً كاملاً حَسَن الخَلْق. كان يمازحنى وأنا صغير، وكنت أحبّه لحسن خلقه.

سمعت أنّ عمّي إبراهيم سافر إلى مصر في تجارةٍ، ومضى إلى إسكندريّة فسمع من السَّلَفيّ.

وكان مقدَّم الفِرَنج قد حبسه وأراد صلْبه لأنَّهم وجدوه ومعه متاع من آلة الكنيسة قد اشتراه من سارق، فهرب هو وغيره من الحبس باللَّيل.

١٠٧ _ أسعد بن بلدرك بن أبي اللّقاء (٢).

أبو أحمد الجبريلي، البواب بدار الخلافة.

شيخ بغدادي، معمّر.

قال: عمر بن علي القُرَشيّ: سألته عن مولده فقال: في ربيع الأوّل سنة سبعين وأربعمائة.

⁽۱) سیعاد باسم: «زید بن نصر بن تمیم» برقم (۱۱۰).

 ⁽٢) أنظر عن (أسعد بن بلدرك) في: العبر ٤/٢١٩، وسير أعلام النبلاء ٢٠٨/٢٠ رقم ٣٦٠، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، والبداية والنهاية ٢١/ ٣٠١، وشدرات الذهب ٢٤٦/٤.

قلت: كان يمكن أن يُجيز له أبو الحسين بن النَّقُور، وأن يسمع من أبي نصر الزَّيْنَبيّ فيبقى مُسْنِد الدُّنيا.

قال ابن الدَّبيثيِّ (١): كان أبوه صاحباً للرئيس أبي الخطّاب بن الجرّاح، فأسمعه منه، ومن: أبى الحسن بن العلّاف.

روى عنه: ابن الأخضر، والشّيخ الموفّق، والبهاء عبد الرحمن، ومحمد بن أبي البدر مقبل بن فتيان بن المَنّى، وطائفة سواهم.

تُوُفّي في سلْخ ربيع الأوّل.

۱۰۸ ـ (...) (۲) بن أبي الفوارس بن أبي بكر.

أبو بكر الإصبهانيّ، السّنباك.

سمع: أبا مطيع محمد بن عبد الواحد.

وحدَّث في رجب من السّنة .

ولا أعلم وفاته.

روى عنه: الحافظ عبد الغنيّ.

ـ حرف الحاء ـ

١٠٩ ـ الحسن بن عليّ بن محمد بن فَرَج (٣).

الكلبيّ، المعروف بأبن الجميّل الدّانيّ. والد عمر وعثمان المحدّثيّن النازِلَيْن بديار مصر.

نزل أبو عليّ سبْتَة، وبها تُوُفّي عن ثمانين سنة. قال الأبّار: لا أعلم له رواية.

⁽١) في المختصر المحتاج إليه ج ١.

⁽٢) في الأصل بياض.

⁽٣) أنظر عن (الحسن بن علي) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

ـ حرف الزاي ـ

۱۱۰ ـ زيد بن نصر بن تميم (۱).

الحموي، الفقيه الشَّافعيِّ.

كذا سمّاه أبو المواهب بن صَصْرَى، وهذا هو أبو زيد أحمد بن نصر المذكور آنفاً.

وقال: تُوُفِّي في شعبان بدمشق وقد جاوز السّبعين، وكان ذا فنون وذا خبرة بمقالة الأشعريّ.

روى عن: عبد الكريم بن حمزة، وجمال الإسلام وتفقُّه عليه مدّة.

قال البهاء ابن عساكر: كان شديد التَّعَصُّب في مذهب الحقّ، وهو زيد أبو القاسم الحمويّ، ثمّ تسمَّى بأحمد، وتكنَّى بأبي زيد.

قلت: روى عنه: أبو القاسم بن صَصْرى.

_ حرف السين _

١١١ _ سعد بن محمد بن سعد بن صَيْفيّ (٢) .

(Y)

⁽١) تقدّم باسم: ﴿أحمد بن نصر بن تميم ، برقم (١٠٥).

أنظر عن (سعد = الحيص بيص) في: خريدة القصر (قسم شعراء العراق) ٢٠٢١- ٣٦٦، انظر عن (سعد = الحيص بيص) في: خريدة القصر (قسم شعراء العراق) ٢٠٢١- ٣٦٦، والمنظم ٢٠٨/١٠ رقم ٣٧٣ (١٨/ ٢٥٣ رقم ٤٣٢٤)، والكامل في التاريخ ٢١٩٥١، وعمير ومعجم الأدباء ١٩٩١، والمنذكرة الفخرية للإربلي ١٦ و ٩٥ و ١٩٤ و ٣٦٤ و ٣٤٤، وتاريخ إربل ٢٠٧١، ١٩٧١، وعبون الأنباء ٢٨٣١، ووفيات الأعيان ٢/ ٣٣٠ ٥٣٣ رقم ٣٥٨، والمروض المعطار ١٣٤، والمختصر في أخبار البشر ٣/ ٢١، والعبر ١٩٤٤، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ١٦، ٢٦ رقم ٢١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٢، وتاريخ ابن الوردي ٢٧٨٧، ٩٨، ومرآة الجنان ٣/ ٣٩٩، ٢٠٠، والبداية والنهاية وتاريخ إربل ٢٧١، ومرآة الزمان ٨/ ٢٨، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٤/١١، وتاريخ إربل ٢٧٧ وطبقات الشافعية للإسنوي ٢/ ٣٤٠، والوافي بالوفيات ١٥/ ١٦٥ ـ ١٦٩ رقم ٢٣٢، وطبقات الشافعية للإسنوي ٢/ ٣٤٠، والمختصر المحتاج إليه ٢/ ٨٢، ٣٨ رقم والسلك الناظم ١١٢ ـ ٢٣٢، وتكملة إكمال الإكمال ٢٧١ ـ ٢٧٣ (بالهامش)، =

شهاب الدّين، أبو الفوارس التّميميّ، الشّاعر المشهور، الملّقّب بالحَيْص بَيْص، ومعناهما: الشّدّة والإختلاط.

قيل إنّه رأى النّاس في شدّة وحركة، فقال: ما للنّاس في حَيْصَ بَيْصَ؟ فلزِمه ذلك. وكان من فُضَلاء العالَم.

تفقّه في مذهب الشّافعيّ بالرّيّ على القاضي محمد بن عبد الكريم الوزّان، وتكلّم في مسائل الخلاف.

وذكره ابن السمعانيّ في «ذيله» (١٠) فقال: كان فصيحاً، حَسَن الشُّعْر.

وذكره ابن أبي طيَّء في «تاريخ الشَّيعة» (٢) فقال: شاعر فاضل، بليغ، وافر الأدب، عظيم المنزلة في الدولتين العبّاسيّة والسَّلْجُوقيّة. وكان ذا معرفة تامّة بالأدب، و[باع] (٣) في اللّغة، وحفْظ كثير للشِّعْر. وكان إماماً في الرأي، حَسَن العقيدة.

حدَّثني عبد الباقي بن زُرَيق الحلبيّ الزّاهد قال: رأيته واجتمعت به فكان صدْراً في كلّ عِلم، عظيم النّفس، حَسَن الشارة، يركب الخيل العربيّة الأصيلة ويتقلّد بسيفين، ويحمل حلقة الرمح، ويأخذ نفسه بمآخذ الأمراء، ويتبادى في لفظه، ويعقد القاف. وكان أفصح مَن رأيت.

وكان يناظر على رأي الجمهور.

وقال الزَّيْنَبيّ: سمع من: أبي طالب الحسين بن محمد الزَّيْنبيّ.

وبواسط من: أبي المجد محمد بن جهور.

ولسان الميزان ١٩/٣، والنجوم الزاهرة ٦/٤٨، وتاريخ ابن سباط ١٩٢١، وكشف الظنون ٢٨٥، وشذرات الذهب ٢٦٤٤، وهدية العارفين ١/٣٥٥، وروضات الجنات المجاه، وديـوان الإسـلام ١٣٩/، ١٤٠، رقـم ٢٥٧، وأعيان الشيعة ٣٤/١٩٩، والأعـلام ٣/٧٧، ومعجم المؤلفين ٢١٢٤.

⁽١) في حكم المفقود.

⁽٢) في حكم المفقود.

 ⁽٣) في الأصل بياض، والمستدرك من: سير أعلام النبلاء ٢١/٢١.

وله دِيوان شِعر مشهور وترشُّل. وكان برِعاً في الشَّعر، مُحسِناً، بديع المعاني، مليح الرسائل ذا خبرة تامّة باللَّغة.

ومن شِعره:

فما أنصفت بغداد نبائبها (١) الذي سَلُ ذا (٢) إذا مد الجدال رواقه و وجرت بأنواع العلوم مقالتي وذعرت ألباب الخصوم بخاطر فتصدة عدوا متفرقين كأنهم

كثُر الثناء به على بغداد بسر الشيروف حداد بسر السيروف حداد كالسيل مَد إلى قرار الوادي يُقْطان في الإصدار والإيراد مالٌ تفرقه يد ابن طراد (٣)

وله يستعفي من حضور سِماط ابن هُبَيْرة، ويسمّون السُماط: الطَّبَق، لِما كان يناله من تألُّمه بقعود بعض الأعيان فوقه، فقال:

يا باذلَ المالِ في عَدم (١) وفي سَعَة في كلّ بيت خِوانٌ مَن فَوَاضِله (٥) في كلّ بيت خِوانٌ مَن فَوَاضِله (٥) فاض النّوال، فلولا خوفُ مفعمة وكـــلّ أرضِ بهـــا صَوْبٌ وساكبَةٌ صُنْ مَنكِبي عند زِحام إنْ غضبتُ لهُ وإنّ رضيتُ به فــالــدُلُّ منقصةٌ وانْ تَــوَهَّــم قـــومٌ أنّــه حُمُــتُ

ومُطْعمَ الزّاد في صُبْحِ وفي غَسَقِ يَمِيرُهُم وهُوَ يدعوهم إلى الطّبَقِ من بأس عدلك نادى النّاسُ بالغرق حين (٦) الوَغَى من نجيع الخيل والعَرَقِ تمكَّنَ الطَّعْنُ من عقلي ومن خُلُقي وكم تكلَّفْتُهُ خجلًا (٧) فلم أُطقِ فربّما (٨) [اشتبه] (٩) التّوقير بالحُمُقِ فربّما (٨)

⁽١) في الخريدة ١/ ٢٢٥ (ناشئها»، وفي المنتظم: «ناشئيها».

⁽٢) في المنتظم «شاني»، وفي الخريدة «سل بي».

 ⁽٣) المنتظم ١٠/ ٨٨٨ (١٨/ ٣٥٣)، الخريدة ١/ ٢٢٥.

⁽٤) في الخريدة: اعدل).

⁽٥) في الخريدة: «مكارمه».

⁽٢) في الخريدة: «حتى».

⁽٧) في الخريدة: ﴿حملاً ٤.

⁽A) في الخريدة: «فطالما».

 ⁽٩) في الأصل بياض، والمستدرك من الخريدة ١/ ٢٨٥.

وقد مدح الخلفاءَ والوزراءَ، واكتسب بالشُّعْر. وكان لا يخاطب أحداً إلاَّ بالكلام العربي (١)، ويلبس زيّ العرب، ويتقلّد سيفاً. فعمل فيه أبو القاسم بن الفضل:

فَكُلِ الضَّبُّ وَاقْرِطِ^(۲) الحَنَظُلَ اليا بس^(۳) واشرب ما شنت من بَوْل الظَّليم ليس ذا وجه من يضيف ولا يَقْ ري ولا يدفع الأذى عن حريم⁽¹⁾

كم تَبَادَى وكم تُطَوِّلُ طَرْطُو (كُ؟ ما فيك شَعْرةٌ من تميم

فعمل أبو الفوارس لمّا بلغته الأبيات:

لا تَضَعْ مَن عظيم قَدْر وإنْ كن ست مُشاراً إليه بالتّعظيم فالشّريف العظيم (١) فالشّريف العظيم (١) قدْراً بالتّعدّي (٧) على الشّريف العظيم (١) وَلَعُ الخمر بالعُقُول رَمَى الخم سرّ بتنجيسها وبالتّحريم (١)

رواها عنه القاضي بهاء الدّين بن شدّاد سماعاً.

وقد روى عنه: محمد بن أبي البدر بن المَنّي، وغيره.

وتُوفِّي رحمه الله في سادس شعبان(١٠).

١١٢ ـ سعدالله بن نجا بن محمد بن فهد(١١).

في معجم الأدباء ٢٠١/١١ «إلا بكلام مغرب». (1)

في الوافي: «واقرض». **(Y)**

في الوافي: «الأخضر». (٣)

وفيات الأعيان ٢/ ٣٦٤. (٤)

نمى الخريدة، ووفيات الأعيان: «الكريم»، وكذا في الوافي بالوفيات. (0)

في الخريدة: "ينقض"، وفي وفيات الأعيان: "ينقص"، وكذا في الوافي. (7)

في الوافي: ﴿بِالتَجِدِيُ . **(Y)**

في الخريدة: ووفيات الأعيان «العظيم»، وكذا في الوافي. (A)

خُريدة القصر ٢/ ٣٢٠، وفيات الأعيان ٢/ ٣٦٤، الوافيّ بالوفيات ١٦٧/١٥. (9)

وقال ابن خلَّكان: وكان إذا سئل عن عمره يقول: أنا أعيش في الدنيا مجازفة، لأنه كان $() \cdot)$ لا يحفظ مولده، وكان يزعم أنه من ولد أكثم بن صيفي التميمي حكيم العرب. ولم يترك أبو الفوارس عقباً. (وفيات الأعيان ٢/ ٣٦٥).

أنظر عن (سعد الله بن نجا) في: المختصر المحتاج إليه ٧٩/٢ رقم ٦٨١، وسير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٤٣ (دون ترجمة)، والوافي بالوفيات ١٨٥/١٥ رقم ٢٥٩.

أبو صالح بن الوادي الدُّلَّال في الدُّور.

سمع الكثير من: زاهر (١٠)، وهبة الله بن عبدالله الشُّرُوطيّ، وأبي غالب بن البنّاء، وهبة الله بن الطَّبر، وطبقتهم.

وبورك له في مسموعاته.

وروى الكثير، وسمع منه حلَّق.

قال ابن الدَّبيثيّ (٢): كان ثقة، مضى على الصِّحة، وأجاز لي مَرْوِيّاته.

قلت: روى عنه ابن قُدَامة، والبهاء عبد الرَّحمن، وجماعة من البغداديّين. وتُونُفّي في ذي الحِجّة (٣).

_ حرف الشين _

١١٣ _ شُهْدَة بنتُ أبي نصر (٤) أحمد بن الفَرَج بن عمر الدِّينوَرِيّ، ثمّ البغداديّ، الإبريّ (٥).

⁽١) هو زاهر الشخّامي.

⁽٢) في المختصر المحتاج إليه.

⁽٣) عن ٨٤ سنة.

وقال الصفدي: سمع الكثير، وقرأ وكتب بخطّه وجدّ في السماع والتحصيل، ورزقه الله الرواية مع تأخّر إسناده، وحدّث بأكثر مسموعاته. وكان صدوقاً ديّناً، حافظاً لكتاب الله تعالى، حسن التلاوة إلاّ أنه كان خالياً من العلم.

⁽³⁾ أنظر عن (شهدة بنت أبي نصر) في: الأنساب ١١٨/١، والمنتظم ١٠٨/١ رقم ٢٧٤ رقم ٢٧٤ (١٨) (١٨) الظر عن (شهدة بنت أبي نصر) في: الأنساب ١١٨/١، والمنتظم ٢٠٠ (٢٥ رقم ٢٨٩) وقاريخ إربل ٢١٨، ٢١٥، ١٩٥١، ١٩٧٤، ١٨٤، ١٨١، ٢٢٥، والمختصر المحتاج إليه وتاريخ إربل ١٨٩، ١٣٥، ١٩٥، والمختصر في أخبار البشر ١/ ٢١، ووفيات الأعيان ٢/ ٤٧٧، ١٨٥، ومراة الزمان ١/ ٣٥٧، والعبر ٤/ ٢٢٠، ودول الإسلام ٢/ ٨٧، والمعين في طبقات المحددثين ١٥٥ رقم ١٨٦٩، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، وسير أعلام النبلاء ٢٠/ ٢٤٥، ١٤٥٠ وقل الموفيات الأعلام ٢٣٦، ومراة الجنان ١/ ٢٠٠، والوافي بالوفيات ١٨٥، رقم ٤٤٤، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٨، ومراة الجنان ١/ ٢٠٠، والوافي بالوفيات الدبيثي ١٥٠ / ٢٠، ومراة الجلساء في أشعار النساء للسيوطي الدبيثي ١٥ / ٢٠، والذبوم الزاهرة ٢ / ٨٤، ونزهة الجلساء في أشعار النساء للسيوطي ١٢، وشدرات الذهب ٤/ ٢٤٨، والدرّ المنثور ٢٥، ٢٥٠، وأعلام النساء ٢/ ٢٠٩ ـ ٢١٢.

⁽٥) الإبري: بكسر الهمزة وفتح الباء الموحدة وفي آخرها الراء المهملة، نسبة إلى بيع الإبر وعملها.

الكاتبة، فخر النساء، مُسْنِدة العراق.

قال ابن الدَّبِيثيِّ (۱): امرأة جليلة صالحة، ذات دِين، وورع، وعبادة. سمعَت الكثير وعُمِّرت، وصارت أسند أهل زمانها، وعُني بها أبوها.

وسمعت من: طِراد بن محمد الزَّيْنَبِيّ، وابن طلحة النّعاليّ، وأبي الحسن بن أيّوب، وأبي الخطّاب بن البّطِر، وأحمد بن عبد القادر بن يوسف، والحسن بن أحمد بن سلمان الدّقاق، وثابت بن بُنْدار، وأخيه أبي ياسر أحمد، وعبد الواحد بن علوان الشَّيْبانيّ، وجعفر السّرّاج، وأبي منصور محمد بن هريسة، ومنصور بن حِيد النّيْسابوريّ، وأبي البركات حمد بن عبدالله الوكيل، وأبي غالب الباقِلانيّ، وجماعة.

روى عنها: الحفّاظ الكبار أبو القاسم بن عساكر، وأبو سعد السّمعانيّ، وأبو محمد عبد الغنيّ، وعبد القادر الرَّهاويّ، وعبد العزيز بن الأخضر، وأبو الفرّج بن الجورْزيّ، وأبو محمد بن قُدَامة، والعماد إبراهيم بن عبد الواحد، والبهاء عبد الرَّحمن، والشّهاب بن راجح، والقاضي أبو صالح الجيليّ، والنّاصح ابن الحنبليّ، والفخر الإربِليّ، وعبد الرّزّاق بن سُكَيْنَة، وشيخ الشّيوخ أبو محمد بن حَمُّويْه، والأعزّ ابن العُلّيق (٢)، وإبراهيم بن الخيّر، وأبو الحسن بن الجُمَّيْزيّ، وأبو القاسم بن قميرة، ومحمد بن مُقبل بن المَنِّي، وخلق كثير.

وكانت تكتب خطّاً مليحاً.

قال أبو الفَرَج بن الجَوْزيِّ (٣): قرأت عليها كثيراً من حديثها. وكان لها خطٌ حَسَن. وتزوَّجتُ ببعض وُكلاء الخليفة، وعاشت مخالِطة للدَّار ولأهل العلم. وكان لها بِرُّ وخير. وقُرِيء عليها الحديث سِنين، وعُمَّرت حتى قاربت المائة.

⁽۱) في تاريخه ۱۵/۲۰۲.

 ⁽٢) خُبطه ابن حجر في (تبصير المنتبه ٣/ ٩٦٥) بضم العين وتشديد اللام المُمَالة.

⁽٣) في المنتظم.

وتُوُفِّيت ليلة الإثنين رابع عشر المحرَّم، وصُلِّي عليها بجامع القصر، وأُزِيل شُبّاك المقصورة لأجْلها، وحَضَرَها خلْقٌ كثير وعامَّة العُلماء.

وقال الشّيخ المُونَقّى، وقد سُئل عنها: انتهى إليها(١) إسناد بغداد، وعُمِّرتْ حتّى ألحقت الصِّغار بالكِبار. وكان لها دارٌ واسعة، وقلَّ ما كانت تَرُدُّ أحداً يريد السَّماع. وكانت تكتب خطّاً جيّداً، لكنّه تغيَّر لكِبَرها.

وقال أبو سعد السمعاني في «الذَّيل» وذكرها، فقال: امرأة من أولاد المحدّثين، متميّزة فصيحة، حَسَنَة الحظّ، تكتب على طريقة الكاتية بنت الأقرع. وما كان ببغداد في زمانها من يكتب مثل خطّها. وكانت مختصّة بأمير(٢) المؤمنين المقتفي.

سَمَّعها أبوها الكثير، وعُمِّرت حتّى حدَّثت. قرأتُ عليها جزء الحقّار (٣).

(١) في الأصل: «إلينا»، والتصحيح من سير أعلام النبلاء ٢٠/٣٤٥.

(٢) في الأصل: «بأمور».

(٣) وقال الصفدي: رأيت بخط بعض الأفاضل يقول: نقلت من مجموع بخط الصاحب كمال
 الدين ابن العديم لشهدة بنت الإبري الكاتبة:

مِلْ بي إلى مَجْرَى النسيم الواني وإذا العيونُ شَنَنَ غارة سِحرها فاحفظ فوادك أن يصاب بنظرة سخرها بيض غنين بحسنهن عن الحِلى سكنوا العقيق وحركوا بغرامهم ملته ثقل السلو فلم يُطِق سَلَبَتْ يُ يوم الدوحتين طليقة ختام تُقرط في الصبابة أضلعي يا حاوي البكرات هل لك رُوحة فتذكر الناسين عهدي بالحِمَى وذكرت ميدان الوداع فأرسلت

واجعل مقيلك دُوحتي نَعمان ورمين عن خُضر المتون حَوان عرضا فاقعة قلبك العينان مسرح الشباب اللدن هز البان وله المعناء النساء غواني قلباً يكاد يطير بالخفقان فاطعته في طرحه وعصاني نزلت بها الحي من غطفان وتليج في عبراتها أجفاني أغرى دموع العين بالهمالان وبالغمر عند مُوقع الرعيان في عبدالها عنالها في عبدالها المالان من أبالاني

۱۱٤ ـ صالح بن عبد الملك بن سعيد^(۱).

أبو الحسن الأوسى، المالِقيّ.

أخذ القراءآت عن: أبيه، وأبي المطرّف بن زيد الورّاق، ومنصور بن الخير.

وروى عن: أبي يحمر الأسَديّ، وأبي القاسم بن رشد، وغالب بن عطيّة، وشُرَيْح، وخلْق سواهم.

وكان من أهل العِلم والزُّهد. وكان يشارك في الأصول.

قال الأَبَّار (٢): لم يُكن بالضّابط. أخذ عنه أَبُو بكر بن أبي زَمَنِين، وأبو الصَّبْر السَّبْتيّ، وابن عَيْشُون وأجاز له في صَفَر من هذه السّنة (٣).

ولا نعلم وفاته^(٤).

لم أخش من ظمأ الحوادث إذْ عَرَتْ ومعيي نظيرُ الجدول الريّان إنْ مسّني سَغَبٌ قَراني غَرْبُهُ أو قلّني ظمأ فرى فسقاني وإذا السيوف تحديثها منه بأحمر قاني

قال الصفدي: أنا أستبعد أن يكون هذا الشعر لشُهدة، على أني رأيته أيضاً في مجموع قديم بخط فاضل، وقد نسبه إليها. (الوافي بالوفيات ١٩١/١٦، ١٩٢).

(۱) أنظر عن (صالح بن عبد الملك) في: تكملة الصلة لابن الأبّار، رقم ٧٦٢، وبغية الملتمس ٣١٩، رقم ٨٥١، والليل والتكملة لكتأبي الموصول والصلة للمراكشي ١٣٣/٤، ١٣٤ رقم ٢٥٢.

(٢) في تكملة الصلة.

 (٣) وقال ابن عبد الملك المراكشي: له مقالة في الإيمان والإسلام. وقد استُقضي في حدود الثلاثين وخمسمائة.

(٤) وقال المراكشي: توفي في أوائل رمضان سنة ست وثمانين وخمسمائة، ومولده سنة خمسمائة.

وقال الضبيّ: محدّث مالقيّ يروي عن الحافظ أبي بكر بن العربي، كتب كثيراً، ثم فقد يده اليمنى، فصار يكتب باليُسرى، وكتب بها كثيراً. نقلت من خطّ يده اليسرى كتاب أبي عيسى الترمذي في أربعة أسفار. (بغية الملتمس).

١١٥ _ (...) الله محمد بن مسعود بن السدنك.

أبو الفتح الحريميّ.

سمع: أبا الحسن العلَّاف، وأبا عليّ بن نبهان، وغيرهما.

سمع منه: أبو سعد السّمعانيّ، وذكره في «الذَّيْل».

وروى عنه: أحمد بن منصور الكازرونيّ، وغيره، وابن الأخضر، وأبو المعالى بن شافع.

وتُوُفِّي في رمضان

_ حرف العين _

١١٦ ـ عبدالله بن الخَضِر بن الحسين(٢).

الفقيه أبو البركات بن الشّيرجيّ، المَوْصِليّ، الشّافعيّ، أحد الأثمّة.

انتفع به جماعة. وحصَّلَ المذهب وناظر.

وسمّع: أبا بكر الأنصاريّ، وأبا منصور الشَّيْبانيّ، وجماعة.

روى عنه: غير واحد بالمَوْصِل، منهم: محمد بن علوان الفقيه، والقاضي بهاء الدّين بن شدّاد.

وكان زاهداً إماماً، متقشَّفاً.

 $^{(7)}$. عبدالله بن عمر بن عبدالله بن عمر

أبو رشيد الإصبهاني،

سمع: الرئيس: أبًّا عبدالله الثَّقفيّ، وأحمد بن عبد الغفَّار بن أَشْتَة،

⁽١) بياض في الأصل.

⁽۲) أنظر عن (عبدالله بن الخضر) في: المختصر المحتاج إليه ۱۶۳/۲ رقم ۷۷۲، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ۴۳۶، ووفيات الأعيان ۱۵/۸۰، وطبقات الشافعية للإسنوي ۲/۱۱، ۱۱۱ رقم ۷۰۸، والوافي بالوفيات ۱۵۹/۱۷ رقم ۱۶.

⁽٣) أنظر عن (عبدالله بن عمر) في: العبر ٢٢٠/٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٢٥، رقم ٣٥٨، والمعين في طبقات المحدَّثين ١٧٥ رقم ١٨٥٠، وهم وشارات الذهب ٢٤٨/٤.

وهو آخر من روى عنهما بإصبهان.

وتُوُفِّي في ربيع الآخر عن نيْفٍ وتسعين سنة.

روى عنه: طائفة بإصبهان (١٠). وبالإجازة: ابن الَّلْتَيُّ، وكريمة.

١١٨ ـ عبدالله بن محمد بن عليّ بن خَلَف (٢).

أبو محمد الشَّاطبيُّ.

أخذ القراءآت عن أبيه.

وسمع من: أبي الوليد بن الدَّبّاغ، وأبي إسحاق بن جماعة، وأبي بكر بن أسد وتفقّه به.

وأخذ الأدب عن جماعة. وعاش ستين سنة.

ذكره الأبار.

١١٩ ـ عبدالله بن محمد بن عيسى.

أبو محمد بن المالِقيّ، الأنصاريّ.

نزيل مَرّاكُش.

أخذ عن: أبي الحكم بن برجان، واختلَف إليه. وبَرَعَ في عِلمه.

وكان فقيهاً، نظَّاراً، خطيباً، مفوَّها متيقَّظاً. وكان ذا دنيا وسعةٍ وجاه.

۱۲۰ ـ عبد الرحيم بن عبد الخالق بن أحمد بن عبد القادر بن محمد بن يوسف^(۳).

أبو نَصْر بن الحافظ أبي الفَرَج، أخو أبي الحسين عبد الحقّ البغداديّ.

⁽١) قال المؤلّف _ رحمه الله _ في سير أعلام النبلاء: "وسمع منه أحاديث: ابن نظيف محمد بن محمود الواعظ الهمذاني، ومحمد بن أبي سعيد الأديب الإصبهاني، ومحمد بن محمد بن محمد بن المقريء، وأخوه أحمد، ومحمد بن أبي الحسن القصار، والحسين بن الحسن الكوسج، الإصبهانيون».

⁽٢) أنظر عن (عبدالله بن محمد بن علي) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

 ⁽٣) أنظر عن (عبد الرحيم بن عبد المخالق) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٤، ٢٤ رقم ٧٨٥، والعبر ٤/ ٢٢٠، وشذرات الذهب ٤/ ٢٤٨.

من بيت حديثٍ وصلاح.

حدَّث عن: أبي القاسم بن بيان، وابن نبهان، وأبي الحسن محمد بن مرزوق، وأبي طالب بن يوسف.

قال أبو المحاسن عمر بن عليّ القُرَشيّ: كتبت عنه، وكان خيّاطاً، خيرًا، ذا مروءة تامَّة.

وُلِد سنة خمسٍ وخمسمائة، وتُوُفّي بمكّة.

قلت: حدَّث ببغداد ودمشق.

روى عنه: ابن الأخضر، والشّيخ موفّق الدّين، والبهاء عبد الرّحمن، وعبد الحقّ الضّياليّ، والشّمس أحمد بن عبد الواحد، وكتائب بن مهديّ، وآخرون، آخرهم عبد الحقّ بن خَلَف.

١٢١ _ عُبَيْد الله بن عبد الله بن خَلَف بن عيّاش.

أبو مروان الأنصاريّ، القُرْطُبيّ، نزيل مالقة.

سمع: «الموطّأ» من: أبي محمد بن عتّاب سنة اثنتي عشرة وخمسمائة. وكان رجلًا صالحاً.

حدَّث عنه أبو العبّاس بن الجنان المالقيّ.

١٢٢ _ عليّ بن عيسى بن هبة الله(١).

الشّيخ مهذِّب الدّين بن النّقاش البغداديّ، الطّبيب، الأديب، صاحب أمين الدّولة ابن التّلميذ.

سمع من: ابن الحُصَيْن (٢)، وحدَّث.

وكان بزّازاً. وكان أبوه أديباً.

⁽۱) أنظر عن (علي بن عيسى) في: عيون الأنباء في طبقات الأطباء لابن أبي أصيبعة ٢/ ١٦٢، والواقي بالوفيات ٢١/ ٣٧٨، ٣٧٨ رقم ٢٤٨، والأعلام ٣١٨/٤.

⁽٢) سمعه حضوراً سنة ٥٢١ هـ.

تُوُفّي سنة أربعٍ وأربعين.

وهو من شيوخً ابن السّمعانيّ.

قدِم المهذّب دمشقَ وطبّ بُها، ورأس وآشتغل وأشغَلَ، واشتهر ذِكره. وخدم نور الدّين بالطّبّ والإنشاء، وخدم في زمانه في مارستانه. ثمّ طُبّ صلاح الدّين.

وتُونِّقي في المحرَّم بدمشق (١).

۱۲۳ ـ على بن محمد بن عيسى (٢).

الإصبهانيّ، الوزير، جلال الدّين ابن الوزير جمال الدّين الجواد، وزير صاحب المَوْصِل.

وَزَرَ هذا للملك سيف الدّين غازي بن مودود في سنة إحدى وسبعين

واتصل بنور الدين الشهيد وقدم رسولاً إلى بغداًد سنة سبع وستين وخمسمائة، وحدَّث بها عن أبيه وابن الحصين، كذا قال محب الدين ابن النجار.

وقال الصفدي: وأظنّه مهلّب الدين ابن النقاش الطبيب الأديب صاحب أمين الدولة ابن التلميذ. طَبَّ بدمشق ورأس بها واشتهر ذكره، وخدم نور الدين بالطب والإنشاء، وباشر في مارستانه. ثم خدم صلاح الدين، وأوقعه الله في لسان الوهراني، وفيه وضع المنام المشهور عنه.

ومن شعره:

ست مسن قسدرت به حيسن لسم يُسرزقِ العسلارتُ إلى الميسيةِ الميسسةِ الميسسة المي

مَهجتـــي مـــن غيـــر أمـــري كمشـــــل أربعــــةٍ وعَشْــــرِي ــــمُ مــن سقـــامهـــا ويُبْــري ليـــل شهــــدت لـــه بفجــــر رُزِقت يساراً فوافيت من وأتلفت من بعده فاعتدرتُ وإن كان يشكر فيما مضى من شعره:

كيف السُلُور وقد تملَّدك قمدرٌ ترراه إذا استمرر يرزد بنجدلاوين يُسْق وإذا تبسِّر م

٢) أنظر عن (علي بن محمدً) في: مرآة الزمان ٨/ ٣٥٣.

⁽۱) قيل عنه: قرأ الطبيعيات واشتغل بها، واشتُهر عنه التهاون بأمور الشرع ومداومة شرب الخمر، ونُقل عنه إلى الصاحب الوزير ابن هبيرة أنه تكلّم في القرآن بما لا يجوز فأهدر دمه، فخرج من بغداد وسكن دمشق إلى أن توفي بها.

وخمسمائة، فظهرت منه فضيلة وخبرة الدّيوان، وله حمسٌ وعشرون سنة.

ثمّ قُبض عليه بعد سنين فشفع فيه حَمْوُه كمال الدّين وزير صاحب آمِد، فُاطلِق له، فسار إلى آمِد مريضاً، وتعلَّل ثمّ مات بدنيْسر سنة أربع وسبعين، ثمّ حُمِل إلى المدينة النّبويّة، فدُفِن عند والده رحمهما الله تعالى.

١٢٤ ـ علىّ بن مَهْديّ بن عليّ بن قلينا.

أبو القاسم اللَّخْميّ، الفقيه الإسكندريّ. وبنو قلينا من أقدم بيت في الإسلام. يقال إنّ أسلافهم حضروا فتح الإسكندريّة.

وذكر هذا الحافظ ابن المفضَّل، وقال: كان ثقة، وله أدبٌ وشِعر. حدَّثنا عن أبي عبدالله الرّازيّ، وأبي بكر الطّرْطُوشيّ، وأبي الحسن التُّونسيّ.

قلت: وإليه يُنْسَب جزء ابن قلينا الَّذي للسَّلَفيِّ.

١٢٥ ـ عليّ بن خَلَف بن العريف.

أبو القاسم الإسكندراني.

قال ابن المفضَّل: تُونُفِّي في صَفَر، ونبا عن: أبي عبدالله الرّازيّ.

١٢٦ _ عمر بن محمد بن عبدالله بن الخَضِر بن مسافر(١).

أبو الخطّاب العُلَيْميّ، ثمّ الدّمشقيّ، التّاجر، ويُعرف بابن حوائج كاش.

سافر للتّجارة إلى مصر، والعراقين، وخُراسان، وما وراء النّهر. وكان يطلب الحديث ويسمع ويكتب حتّى أكْثَرُ من ذلك.

سمع: نصر الله بن محمد المصّيصيّ، ونصر بن أحمد بن مقاتل، وناصر بن عبد الرحمن النّجّار، وأبا القاسم بن البنّ بدمشق.

والشّريف ناصر بن إسماعيل الحسنبيّ الخطيب، وعبدالله بن رفاعة

⁽۱) أنظر عن (عمر بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ١٠٤/، ١٠٥ رقم ٩٥٠، والعبر ٢٢٠/٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٦، وسير أعلام النبلاء ٢٩/٢١.

بمصر؛ والسِّلَفيّ بالثَّغْر؛ والحسين بن خميس بالموصل، ونصر بن المظفّر الشّخص بهَمَذَان؛ وأبا سعد هبة الرَّحمٰن بن القُشَيْريّ، وأبا البركات عبدالله بن الفراويّ، وعمر بن أحمد الصّفّار، وعبد الخالق بن زاهر بنيسابور، وهبة الله الدقّاق، ومحمد بن عبدالله الحرّانيّ، وابن البطّيّ ببغداد.

وبالَغَ حتّى سمع مِن أقرانه ومَن دونهم.

وكان يفهم ويدري.

قال ابن النَّجَّار: كان صدوقاً محمود السّيرة.

روى اليسير ببغداد، ودمشق. ثنا عنه ابن الأخضر وأثنى عليه. وسمع منه: شيخه أبو سعد السّمعانيّ.

وروى عنه زين ألامَناء وقُال: سمعته يقول: مولدي سنة عشرين وخمسمائة.

قال: وتُونُقي بدمشق في شوّال. وكان فاضلاً ، حَسَن الأخلاق، طيّب المعاشرة.

_ حرف الفاء _

١٢٧ _ فتح بن محمد بن فتح .

أبو نصر الإشبيليّ، الأنصاريّ.

أخذ القراءآت عن: منصور بن الخيّر، وأبي العبّاس بن القصبيّ، وابن الأَصْبَغ عيسى بن حزْم، وغيرهم.

وتصدَّر بقُرْطُبة مدَّةً، ثمّ أقرأ بشِلْب، ثمّ تحوّل إلى فاس، فأخذ عنه أبو القاسم بن الملجوم، ومفرّج الضّرير، وعبد الجليل بن موسى، وعقيل بن عطيّة.

تُوُفّي في شهر رجب.

_ حرف الكاف _

١٢٨ ـ كرم بن أحمد بن عبد الرحمن بن قُتيبة (١).
 الدّارقزيّ.

⁽١) أنظر عن (كرم بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/١٦٢ رقم ١١١١.

سمع الكثير بنفسه من: أبي غالب ابن البنّا، وأبي المواهب بن ملوك، والقاضي أبي بكر، وطائفة.

وروى عنه: صفيّة بنت عبد الجبّار.

وأضرّ بأخَرَة.

_ حرف الميم _

١٢٩ _ محمد بن أحمد بن عبيدالله بن عبد الرَّحمن (١).

الأنصاري، الإشبيلي أبو عبدالله ابن المجاهد الزّاهد. وقيل لأبيه المجاهد لأنّه كان كثير الغزو.

وُلد أبو عبدالله في سنة ثلاثٍ وثمانين وأربعمائة، وقد سمع من: أبي مروان الباجيّ؛ ولازمَ أبا بكر بن العربيّ.

وأخذ النَّحُو عن: أبي الحسين بن الأخضر.

قال الأَبَّار (٢): كان المشار إليه في وقته بالصّلاح والورع والعبادة وإجابة الدّعاء. كان أحد أولياء الله الذين تُذكّر بهم رؤيتهم. آثاره مشهودة وكراماته معروفة رضي الله عنه، مع الحظّ الوافر من الفِقْه والقراءآت.

وعُمّر وأسَنّ.

وأخذ عنه: أبو بكربن خير، وأبو عمران المرتّل وهو الّذي سلك طريقته من بعده، وأبو عبدالله بن قسّوم الفهميّ، وأبو الخطّاب بن الجميّل. وتُونُفّي في شوّال.

وكان قد انقطع من مجلس أبي بكر بن العربيّ، فقيل له في ذلك، فقال: كان يدرّس وبغلته عند الباب ينتظر الركوب إلى السّلطان.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن أحمد بن عبيدالله) في: تكملة الصلة لابن الأبار، والعبر ٢٢٠/، ٢٢٠ وفيه المحمد بن أحمد بن عبدالله، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٣٤٥، والعبر ٤/٢٢٠، ومرآة المجنان ٣/٠٤٠، وشدرات الذهب ٤/٢٤٩.

⁽٢) في تكملة الصلة.

١٣٠ ـ محمد بن عبد الرحمن بن أحمد.

أبو عبد الرحمن القَيْسي، المُرْسي، الفقيه.

أخذ بقُرطُبة عن: أبي مروان بن سَمُرة، وطبقته.

ثمّ أقبل على مطالعة كُتُب الأوائل، فصار إماماً فيها، والله أعلم بما يعتقده منها.

تُوُفّي بمرّاكُش.

۱۳۱ ـ محمد بن عليّ بن أحمد بن واصل^(۱).

أبو المظفَّر ابن الموازيني، المصريّ، ثمّ البغداديّ سِبْط ابن الأخوة.

روى عن: ابن بيان الرّزّاز.

وعنه: ابن الأخضر، وابن الحُصْريّ.

۱۳۲ ـ محمد بن نسيم بن عبدالله (۲).

العَيْشُونيُّ (٣)، أبو عبدالله.

كان نسيم مولى أبي الفضل بن عَيْشُون.

سمع محمد من: أبي الحسن بن العلاّف، وأبي القاسم بن بيان.

روى عنه: ابن الأخضر، والبهاء عبد الرحمن، والمأمون بن أحمد الرشيدي، وعبد القادر الرَّهاوي، والحسين بن باز الموصلي، وأبو الحسن على بن الجُمَّيْزي، وآخرون.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن علي بن أحمد) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ٢/ ١٢٢ رقم ٣٤٧ والمختصر المحتاج إليه ١٩١/، والعبر ١٢٢/، وسير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٤٣ دون ترجمة، والبداية والنهاية ٢/ ٢٤٢، وشذرات الذهب ٢٤٢/، ٢٤٢.

 ⁽۲) أنظر عن (محمد بن نسيم) في: العبر ٢٥١/٤، والمختصر المحتاج إليه ١٥٣/١، والوافي بالوفيات ١١٠٥ رقم ٢١٢٥، والبداية والنهاية ٢١/٢١، والنجوم الزاهرة ٢٨٤٨، وشذرات الذهب ٢٤٩/٤.

 ⁽٣) العَيْشُوني: بالشين المعجمة. وقد وقع في (البداية والنهاية): «العبسوني». أنظر: اللباب
 ٢/ ٣٦٨.

ومات شهيداً، فإنّه وقع من سُلَّم بيته فمات لوقته في جُمادى الآخرة.

۱۳۳ _ محمد بن هبة الله بن عبدالله (۱) .

السّديد، السّلَمَاسيّ، الفقيه الشّافعيّ.

قال ابن خَلِّكان (٢٠): هو الَّذي شهر طريقة الشَّريف بالعراق. وقصده النّاس واشتغلوا عليه. وخرج من تلامذته علماء ومدرّسون منهم العماد محمد والكمال موسى ابنا يونس، والشّرف محمد بن علوان بن مهاجر.

وكان مسدَّداً في الفتوى. أعاد ببغداد بالنَّظاميَّة، وأتقن عدَّة فنون.

وتُوْفِّي في شعبان.

 $^{(9)}$ بن سكّينة $^{(9)}$ بن مكارم $^{(1)}$ بن سكّينة $^{(9)}$.

أبو المظفّر.

بغدادي محتشم.

روى عن: أبي القاسم بن بيان.

وعنه: ابن الأخضر.

تُونِّي في رجب^(٦) بأرض السواد.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن هبة الله) في: وفيات الأعيان ٣٧٢/٣، والمختصر المحتاج إليه ١٥٥/١، وطبقات الشافعية الوسطى، له (مخطوط) ١٢٨أ، ومرآة الجنان ٣٠٠/٤، والوافي بالوفيات ١٥٦/٥ رقم ٢١٨٥، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ٢/٣٥، ٣٥١ رقم ٣١٧.

 ⁽۲) في وفيات الأعيان.
 ۱ (۲) وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ١٩٥/٤، وطبقات الشافعية الوسطى، له
 (مخطوط) ١٢٨ أ، ومرآة الجنان ٤٠٠، ١٠٤، والوافي بالوفيات ١٥٦/٥ رقم ٢١٨٥، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ٢٥٠/١، ٣٥١ رقم ٣١٧.

 ⁽٣) أنظر عن (المبارك بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ١٧٥ رقم ١١٤٦، والمشتبه
 في الرجال ٢٦٨/١، ٢٦٩.

 ⁽٤) في الأصل: «كامل» وهو سهو. والمثبت من المصدرين.

⁽٥) سكينة: بتشديد الكاف، بمعنى المدية.

⁽٦) وله ثلاث وسبعون سنة.

ذمّه ابن النَّجّار، كان يأكل الرِّبا.

١٣٥ ـ المشرّف بن عليّ بن مشرّف بن المسلم.
 أبو الفضل الأنماطيّ.

تُوُفّي بالإسكندريّة. ومولده سنة ستٌ وخمسمائة. قاله ابن المفضّل الحافظ.

• _ المهذّب بن النقّاش (١١).

الطّبيب .

هو عليّ بن عيسى البغداديّ، مرّ.

_ حرف النون _

۱۳٦ ـ نفيس بن دينار.

الرّزّاز .

روى عن: ابن الحُصَيْن.

وعنه: تميم البُّنْدَنِيجيّ.

_ حرف الياء _

١٣٧ ـ ياقوت النّقّاش.

عن ابن الحُصَيْن.

وعنه: ابن الأخضر، وجماعة.

* * *

وفيها وُلِد: الصّدر البكريّ، وإبراهيم بن نجيب بن بشارة بالقاهرة، والحسن بن عليّ بن منتصر الكببيّ، وأحمد بن حامد بن أحمد الأرياحيّ.

⁽۱) تقدّم برقم (۱۲۲).

سنة خمس وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

١٣٨ _ أحمد بن عبد الرحمن بن الحسن(١).

أبو بكر الفارسيّ.

شيخ رباط الزَّوْزَنيّ ببغداد.

قال ابن الدَّبيثيّ: كان كثير العبادة دائم الصَّوْم والصَّلاة والتّلاوة، وهو أصغر من أخيه الحسن.

وقد سمع: هبة الله بن الطبر، وأبا بكر الأنصاري، وابن رزيق الشيباني،

وغيرهم .

سمع منه: محمد بن سعدالله الدجاجي، ومحمد بن علي بن الرأس. تُوُفّي كهلاً في ذي القعدة.

١٣٩ _ أحمد بن عبد الرَّحمن بن سلمان بن حمزة بن الخضِر.

السُّلَميّ، الدّمشقيّ، أبو الحسين.

سمع: عم أبيه عبد الكريم بن حمزة.

روى عنه: أبو المواهب، وأبو القاسم ابنا صُصْرَى.

وتُوُفّي في ذي القعدة وقد جاوز السّبعين رحمه الله تعالى.

١٤٠ _ أحمد بن محمد بن عبد الرحمن ابن الدّينوريّ.

⁽١) أنظر عن (أحمد بن عبد الرحمن بن الحسن) في: الكامل في التاريخ ٢١/٢١، وذيل تاريخ مدينة السلام بغداد (مصورة مكتبة الدراسات العليا بجامعة بغداد رقم ٤٤٦) ورقة ٣٣ ب، والعسجـــد المسبــوك ٢/٢٧، والمختصــر المحتــاج إليــه ١٨٩/١ رقــم ٣٦٦، والوافي بالوفيات ٧/ ٤٥ رقم ٢٩٧٥.

أبو العبّاس البغدادي. شيخٌ مُقِلّ.

سمع: أبا عليّ بن المهديّ، وابن الحُصَيْن.

وعنه: أبو المحاسن القَرَشيّ، وابنه عبدالله بن عُمَر.

تُوُفِّي في رمضان.

١٤١ ـ أحمد بن محمد بن عبد الرَّحمن^(١).

أبو العبّاس اليَافعيّ، السّبْتيّ^(٢).

روى عن: شُرَيْح، والقاضى عِياض.

وعنه: أبو الخطّاب بن دحية، وغيره^(٣).

١٤٢ ـ أحمد بن مسعود بن عبد الواحد بن مطر.

أبو العبّاس الهاشميّ، البغداديّ.

سمع: أبا الغنائم النَّرْسيّ، وأبا الحسن محمد بن مرزوق.

سمع منه: ابناه، وعمر بن عليّ، وغير واحد.

وروى عنه: الشيخ موفَّق الدّين، والبهاء عبد الرَّحمن، وآخرون.

تُوُفّي في شعبان وله ثمان وسبعون سنة.

١٤٣ ـ أحمد بن أبي الوفاء بن عبد الرَّحمن بن عبد الصَّمَد (٤).

أبو الفتح البغداديّ، الحنبليّ، ابن الصّائغ. ويُعرف بغلام أبي الخطّاب لخدمته له.

روى عن: أبى القاسم بن بيان.

⁽١) أنظر عن (أحمد بن محمد بن عبد الرحمن) في: تكملة الصلة لابن الأبار ١٦٦ رقم ٣٢٠.

⁽٢) ويُعرف بابن المعذور.

⁽٣) وقال ابن الأبّار: وتجوّل في بلاد الأندلس، وبلغ بلنسية، فسمع بها من أبي الحسن بن هُذيل، وهناك لقيه ابن عياد، وأجاز له روايته. ومنها: كتاب «الإلماع» لعياض، حُدّث به عنه... ومولده حول الخمسمائة.

⁽٤) أنظر عـن (أحمـد بـن أبـي الـوفـاء) فـي: تـاريـخ إربـل ٩٨/، ٢٩٢، والعبـر ٢٢٢٢، والمختصر المحتاج إليه ٢٢٨/١، وذيل طبقات الحنابلة ٣٤٧، ٣٤٨، ٣٤٨ رقم ١٦٥، والوافي بالوفيات ٨/ ٢٣٠ قم ٣٦٦٨، وشذرات الذهب ٢٤٩/٤ وسيعاد مختصراً برقم (١٩٥).

وحدَّث بحلب، وحَرّان.

روى عنه: الحافظ أبو محمد عبد الغنيّ، والحافظ يوسف بن أحمد الشّيرازيّ، وأبو القاسم بن صَصْرى، وإبراهيم بن أبي الحسن الزّيّات، وأخَوَاه محمد وبركات، وعليّ بن سلامة الخيّاط، وعماد بن عبد المنعم بن منيع، وعبد الحقّ بن خَلَف، وسليمان بن أحمد المقدسيّ الفقيه، وابنه عبد الرزّاق بن أحمد.

وتُومُقِي بِحَرّان.

قال ابن النَّجَّار: درَّس بحرَّان وأفتى.

مولده سنة سبعين (١) وأربعمائة، وتُؤُفّي سنة ستٌّ. كذا قال في موته (٢).

١٤٤ ـ إبراهيم السُّلَميّ بن عليّ (٣).

أبو إسحاق السُّلْمي، الآمِدي، ظهير الدّين ابن الفرّاء.

قرأ ببعض الروايات على أبي عبدالله البارع.

وسمع من: ابن الحُصَيْن، والفراويّ.

وتفقّه على أسعد المِيْهَنيّ.

وعلَّقَ الخلاف بنَيْسابور عن الإمام محمد بن يحيى.

وحدَّث «بصحيح مسلم».

ومولده سنة إحدى وخمسمائة.

وكان فقيهاً، مَهِيباً، عارفاً بمذهب الشَّافعيِّ.

ومن شعره:

كما تَتَحَالمَى العَيْنُ سهْماً مُفَوَّقا وصالاً مُحَالاً واعتِداراً منمَّقا فما التَقَتِ الأجفانُ حتى تفرَّقا تَحَامَثُهُ عَزْلان الحِمَى ومهـا النَّقـا وبــات يُــرَجّــي مــن مــزار مــزوّر وكــم جمعــت بيــن الشّتيتيــن غفــوةٌ

 ⁽١) في ذيل طبقات الحنابلة ١/٣٤٧ وُلد ببغداد سنة تسعين وأربعمائة. قاله ابن القطيعي عنه.
 وقال أبو المحاسن القُرشي عنه: سنة سبعين.

⁽۲) ذكر ابن القطيعي وفاته في سنة ٥٧٦ هـ.

 ⁽٣) أنظر عن (إبراهيم بن على الآمدي) في: البداية والنهاية ٢١/ ٣٠٤، ٣٠٥.

١٤٥ _ إبراهيم بن عليّ بن مواهب (١). أبو إسحاق ابن الزّرّاد الأزّجيّ.

ابو إسحاق ابن الرزاد الدرابي. سمع: أبا الغنائم محمد بن علي النَّرْسيّ، وابن الحُصَيْن. روى عنه: أبو سعدالسَّمعانيّ وهو أقدم منه، وأبو الحسن القَطِيعيّ في تاريخه. توفّي رحمه الله في تاسع رجب.

١٤٦ ـ إسحاق بن موهوب بن أحمد بن محمد بن الخَضِر (٢).

أبو طاهر بن أبي منصور بن الجواليقيّ .

سمع: زاهر بن طاهر، وابن الحُصَيْن، وجماعة.

ووُلِد سنة سبّع عشرة.

 $^{(7)}$. إسماعيل بن موهوب بن الجواليقي $^{(7)}$.

أبو محمد.

تُونِي في شوّال بعد أخيه إسحاق بشهرين.

وكان إسماعيل أديباً لُغُويّاً. قرأ على والده.

وسمع من: ابن الحُصَيْن، وأبي العزّ بن كادش.

وأقرأ النّاس العربيّة بعد أبيه.

وروى عنه: ابن الأخضر، وغيره.

ووُلِد سنة اثنتي عشرة وخمسمائة (٤).

قال ابن النّجّار: كان من أعيان العلماء بالأدب صحيح النّقل، كثير

⁽۱) سيعيده برقم (١٩٦).

 ⁽۲) أنظر عن (إسحاق بن موهوب) في: معجم الأدباء ٦/٨٨، وإنباه الرواة ١/٢٣٠، ومرآة الزمان ٨/٣٥٥، والوافي بالوفيات ٨/٤٢٧ رقم ٣٩٠١.

⁽٣) أنظر عن (إسماعيل بن موهوب) في: معجم الأدباء ٣٥٨/٢، وإنباء الرواة ٢١٠/١، وراباء الرواة ٢١٠/١، ومرآة الزمان ٨/٥٥٠، ٣٥٦، وذيل تاريخ بغداد لابن الدبيثي ٢٥٠أ، وذيل طبقات الحنابلة ٢١/ ٣٤٠، والوافي بالوفيات ٩/ ٣٠٠ رقم ١٦٤، والبداية والنهاية ٢/ ٣٠٥، والوافي بالوفيات ٩/ ٣٠٠ رقم ١٣٥٥، وبغية الوعاة ٢/ ٤٥٧، وشذرات اللهب ٢٤٩/٤.

⁽٤) في مرآة الزمان ٨/ ٣٥٥ وُلد سنة ٥١١ هـ.

المحفوظ، ثقة، نبيلًا، مليح الخطّ. تأدَّبَ على أبيه، وله حَلْقة بجامع القومر. وقد كتَّب أولاد الخلفاء كأبيه، مع التَّزَهُّد والدّيانة والرّزانة.

قال ابن الجَوزيّ: ما رأينا ولداً أشبه أباه مثل إسماعيل بن الجواليقيّ (١).

١٤٨ ـ إسماعيل بن أبي القاسم نصر بن نصر.

العُكْبَري، أبو محمد الواعظ.

سمع: أبا طالب بن يوسف، وأبا سعد أحمد بن الطُّيُوريّ.

وتُوُفِّي في شوّال.

ووُلِد سنة خمسمائة.

قال ابن النَّجَّار: كان فقيها شافعياً، حَسَن الوعظ.

١٤٩ ـ إلْيَسَعُ بنُ عيسى بن حَزْم بن عبدالله بن إلْيَسَع (٢).

أبو يحيى الغافقي، الجيّانيّ، المقرىء.

سكن أبوه المَرِيَّة.

أخذ القراءآت عن: أبيه، وأبي العبّاس القصير، وأبي القاسم بن أبي رجاء، وأبي الحَسَن شُرَيْح.

وسمع منهم، ومن: أبي عبدالله بن زُغَيْبَة، وابن مَوْهَب الجُذاميّ، وأبي

⁽١) ذيل طبقات الحنابلة ١/٣٤٧.

وقال المنذري: هو أحد الفضلاء النُّسّاك، سمع من غير واحد، وحدّث.

وقال ابن الدبيثي: شيخ فاضل له معرفة بالأدب، وقور، حسن الطريقة، واختصّ بخدمة الخلفاء في أيام المستضيء.

وقال ابن النجار: روى لَّنا عنه ابن الأخضر، وأثنى عليه ثناءً كثيراً.

⁽٢) أنظر عن (إليّسع بن عيسى) في: تكملة الصلة لابن الآبار (مخطوط) ٣/ورقة ١٤٠، والمطبوع ٧٤٠، والمغرب ٢/٨٨، والمطبوع ٧٤٠، ومعجم الشيوخ لابن الآبار ٣٣١ـ ٣٣٠، والمغرب ٢/٨٨، والعبر ٤/ ٢٢٢، ٣٢٠، ومعرفة القراء الكبار ٢/٤٥، ٥٥٥ رقم ٤٩٠، وميزان الاعتدال ٤/ ٢٥٤، والمغني في الضعفاء ٢/ ٢٥٠، وسير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٥٠ دون ترجمة، ومرآة الجنان ٣/ ٤٠٠، وغاية النهاية ٢/ ٣٨٥، ولسان الميزان ٢/ ٢٦٩، وحسن المحاضرة ٢/ ٢٩٠، وشلرات الذهب ٤/ ٢٥٠، ونفح الطيب ٢/ ٣٧٩، وكشف الظنون المحاضرة الـ ٣٧٩، وهدية العارفين ٢/ ٣٠٥.

الفضل بن مشرِّف، وابن أخت غانم.

ولقي بِبَلَنْسِيَة: أبا حفص بن واجب، وأبا إسحاق بن خَفَاجة الشّاعر. وأجاز له أبو محمد بن عتّاب، وأبو عمران بن أبي تليد، وجماعة.

ورحل واستوطن الإسكندرية، وأقرأ بها القراءآت. ثمّ رحل إلى القاهرة واشتمل عليه الملك صلاح الدّين، وَرَسَم له جارياً يقوم به. وكان يُكُرمه ويحترمه ويقبل شفاعته. وكان مِن أوّل مَن خطب بالدّعوة العباسيّة.

وكان فقيها، مشاوَراً، مُقْرِئاً، محدّثاً، حافظاً نسّابة، بديع الخطّ، بليغ الإنشاء، راثق النظم. وله تصنيف سمّاه «المُغرِب في محاسن المَغرب».

قيل هو متَّهم في هذا التّصنيف.

روى عنه: أبو عبدالله التُّجِيبيّ، والحافظ أبو الحَسَن بن المفضّل، وأبو الحسين بن الصَّفْراويّ، وآخرون.

وقرأ عليه بالروايات ابن الصّفروايّ، وغيره. وتُوُفّي في رجب وقد جاوز السّبعين.

_ حرف التاء _

۱۵۰ ـ [تَجَنِّي] (١) أمّ عِتْب الوَهْبانيّة (٢). عتيقة أبي المكارم بن وَهْبان.

⁽۱) في الأصل بياض. والمثبت من: الإستدراك لابن نقطة (مخطوط) باب: تجني ونحيي، والمختصر المحتاج إليه ٢٧٥٩ رقم ١٣٩١، والعبر ٢٢٣/٤، ودول الإسلام ٢٨٨، والمشتبه في الرجال ٢٩١، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٥٥، ٥٥١ رقم ٣٥١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٥ رقم ١٨٧٧، وتذكرة الحفاظ ١٥٤ وفيه: «تحيي»، والمستفاد من ذيل تاريخ بغداد ٢٦٨، ٢٦٩، والوافي بالوفيات ١٨٤/١، رقم ٣٧٨، والقاموس المحيط (مادة ج ن ي) وفيه ظنها مسمّاة بالفعل المضارع من: جُنيت، المبني للمجهول، أي تُجنّى، وتبصير المنتبه ١٩٤/١، والنجوم الزاهرة ٢/٨، والدارس في تاريخ المدارس ٢/٣١، وانظر: الإكمال ١٩٤١، والحاشية. العروس ١٨٨٠، وأعلام النساء ١/١٦٥، ١٦٢، وانظر: الإكمال ١٣٠١، بالحاشية.

شيخة مُسْنِدة معمّرة. وهي مِن آخر مَن سمع في الدُّنيا من طِراد الزَّيْنَبيّ، وابن طَلْحة النَّعَاليّ.

روى عنها: أبو سعد السَّمْعانيّ، والشَّيخ الموفّق، والبهاء عبد الرحمن، والنّاصح بن نجم الحنبليّ، وعبد الرّحيم بن عمر بن عليّ القُرَشيّ، وعمر بن عبد العزيز بن النّاقد، وعبد السّلام بن عبد الرحمن بن سُكَيْنَة، وأبو الفُتُوح نصر بن الحصريّ، وهبة الله بن الحسن الدَّوامي، وسيّدة بنت عبد الرحيم بن السَّهْروَرْديّ، ومحمد بن عبد الكريم السّيديّ، وزُهْرة بنت حاضر، وفخر النساء بنت الوزير محمد بن عبدالله ابن رئيس الرؤساء، ويوسف بن يحيى البرّاز، وأبو الوليد منصور بن عبدالله بن عفيجة، وإبراهيم بن الخير، ويحيى بن القُمَيْرة، وآخرون.

قال ابن الدَّبيثيّ (١): أجازت لنا، وتُونُيّت في شوّال.

_ حرف الحاء _

١٥١ ـ الحَجّاج بن عليّ بن حَجّاج (٢).

أبو القاسم بن الدَّبِيثيّ، الواسطيّ.

قال ابن الدَّبِيثيّ: هو جدّي لأمّي.

سمع بواسط من القاضي الجلابيّ. وسمع ببغداد من: أبي السّعادات أحمد بن أحمد، وابن الحُصَيْن.

وسألته عن مولده فقال: سنة خمسٍ وخمسمائة يوم عاشوراء وتُوُفّي. رحمه الله في صفر.

سمعته يتمثل بشِعْر.

١٥٢ ـ الحَسَن المستضِيء بأمر الله (٣).

⁽١) في المختصر المحتاج إليه ٣/٢٥٩.

⁽٢) أنْظر عن (الحَجّاج بن علي) في: المختصر المحتاج إليه ج١.

⁽٣) ﴿ أَنْظُرُ عَنَ (المُستَضَّىءَ بِأَمْرُ اللهُ) في: المنتظم ١٩٠/١٨ (١٩٠/١٨ وما بعدها)، وسنا البرق=

أمير المؤمنين أبو محمد بن المستنجد بالله يوسف بن المقتفي محمد بن المستظهر أحمد بن المقتدي، الهاشمي، العبّاسي.

بويع بالخلافة بعد موت أبيه في ربيع الآخر سنة ستّ وستين وخمسمائة. وكان القائم بأخذ البيعة له الوزير عَضُد الدّين أبو الفَرَج محمد بن عبدالله ابن رئيس الرؤساء واستوزره يومئذ.

وُلِد المستضيء في سنة ستِّ وثلاثين وخمسمائة، وكان ذا حُلُم وأناة، وفيه رَأْفَة. وكان كثير الصَّدَقة والمعروف. وأمّه أرمنيّة تُدْعى غضة، وكان له من الولد أحمد، وهو الإمام النّاصر، وهاشم أبو منصور.

قال ابن الجَوْزِيِّ في «المنتظم»(۱): بايعه النّاس ونودي برفع المكوس، وردّ مظالم كثيرة، وأظهر من العدل والكرم ما لم نره في أعمارنا. وفَرَّق مالاً عظيماً على الهاشميّين، والعلويّين، والعُلماء، والمدارس، والرُّبُط. وكان

الشامي ١/٣٤٢، وخريدة القصر (قسم شعراء العراق) ٩/١، والتاريخ الباهر ١٧٩، والكامل في التاريخ ٢١١/٤٥٩، وتاريخ دولة آل سلجوق ٢٧٧، وزبدة التواريخ ٢٨٦، وتاريخ الزمان ١٩٥، وتاريخ مختصر الدول ٢١٦، ومختصر التاريخ لابن الكازروني ٢٣٧ ـ ٢٤١، وتــاريــخ إربــل ٢١٠/١ و٢١٤ و٤٢١، والفخــري ٣١٩ ـ ٣٢١. وخـــلاصــة الذهب المسبوك ١٢٧٨ ـ ٢٨٠، وتاريخ ابن الدبيثي (مخطوط دار الكتب الوطنية بباريس، رقم ٩٩٢١) ورقة ٢٢، ومرآة الزمان ٨/٣٥٦، ومضمار الحقائق ٤، والمختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٢، ومرآة الزمان ٨/ ٣٥٦، والمختصر المحتاج إليه ٢/ ٣٠، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، والعبر ٢٢٣/٤، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٦٨ ـ ٧٢ رقم ٢٤، ودول الإسلام ٢/ ٨٨، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٨٩، ونهاية الأرب ٣٠٠/٣٣ ـ ٣٠٨، والبداية والنهاية ٣٠٤/١٢، ومُـرَآة الجنـان ٣/ ٤٠١، والـوافـي بـالـوفيـات ٣١٩/١٢ ـ ٣١١ رقــم ٢٨٠، والعسجد المسبوك ٢/١٦٣، ومآثر الإنافة ٢/٥٠ ـ ٥٥، وتاريخ الخميس ٢/٤٠٩، وتــاريــخ ابــن خلــدون ٢/٨٧، والجــوهــر الثميــن ١/٢١٢، ٢١٣، وفــوات الــوفيــات ٢/ ٢٦٩ ـ ٢٧١ رقم ١٩، والسلوك ج ١ ق ١/ ٧٠، والنجوم المزاهرة ٦/ ٨٥، وتماريخ الخلفاء ٤٤٤، وتاريخ ابن سباط ١/١٥٣، ١٥٤، وشذرات اللهب ٤/٢٥١، ٢٥١، وأخبار الدول ١٧٧، وتحفة الناظرين للشرقاوي (على هامش: فتوح الشام للواقدي) . 184/1

وانظر كتاب: المصباح المضيء في خلافة المستضيء، لابن الجوزي. (١) ج ١٩٦/١٠ (١٩٠/١٨).

دائم البَذْل للمال ليس له عنده وقع. ولمّا استخلف خلع على أرباب الدّولة وغيرهم، فحكى خيّاط المخزن أنّه فصَّل ألفاً وثلاثمائة قُباء أبريسم. وخُطِب له على منابر بغداد، ونُثِرت له الدُّنانير كما جَرَت العادة.

ووُلِّي رَوْح بن الحديثيّ قضاء القضاة، ثمّ أمَّر سبعة عشر مملوكاً.

وللحَيْص بَيْص فيه:

يـا إمـامُ الهُـدَى عَلَـوْتَ مـن الجـو

د بمـــالٍ وفِضّــةٍ ونِضَــار فَوهبُتُ الأعمارُ والامَن والب وزتَ فضلَ البُحُورِ والامصرِ فبماذا نُثْني عليكَ وقد جَا وزتَ فضلَ البُحُورِ والامصرِ إِنّه للعقدول ولللفافكارِ المعتالِ الم

قال ابن الجوزي (٢): واحتجب المستضيء عن أكثر النَّاس، فلم يَرْكب إلاّ مع الخدم، ولم يدخل عليه غير قَيْماز. وفي خلافته انقضت دولة بني عُبَيِّد المصريّين، وخُطِب له بمصر، و ضُرِبت السّكّة بأسمه، وجاء البشير بذلك إلى بغداد، فغُلُقت الأسواق ببغداد وعُمِلت القباب. وصنَّفتُ كتاباً سمَّيْته «النَّصر على مصر» وعرضته على الإمام المستضيء.

تُوُفّي في شوّال.

قلت: رُزِق سعادةً عظيمة في خلافته، وخُطِب له باليمن، وبَرَقة، وتَوْرَز، ومصر إلى أسوان. ودانت الملوك بطاعته. وكان يطلب ابن الجوزي، ويأمر بعقد مجلس الوعظ، ويجلس بحيث يُسمَع، ويميل إلى الحنابلة.

وفي أيَّامه ضَعُفَ الرفْض ببغداد ووهي، وأمِن النَّاس.

لم ترد هذه الأبيات في (ديوان الحيص بيص) بتحقيق مكي السيد جاسم وشاكر هادي شكر (1) (بغداد ١٩٧٤ ــ ١٩٧٥)، كما لم ترد في خريدة القصر حيث ورد معظم شعره.

⁽Y) في المنتظم.

قال ابن النّجّار: وكان حليماً، رحيماً، شفيقاً، ليّناً، كريماً. نقلت من خطّ أبي طالب عبد السّميع أنّه كان من الأثمّة الموفّقين، كثير السّخاء، حَسَن السّيرة. إلى أن قال: اتّصل بي أنّه وهب في يوم لجهات وحظايا زيادة على خمسين ألف دينار.

وقال عبد العزيز بن دُلَف: ثنا مسعود بن النّاصر قال: كنت أنادم المستضيء، وكان صاحب المخزن ابن العطّار قد عمل تور كأنّه شمعدان شمعه من ألف دينار.

قال: فحضر وفيه الشّمعة، فلمّا قمت قام الخادم بها بين يدي، فأطلق لى التور.

مات في سَلْخ شوّال.

_ حرف السين _

۱۵۳ ـ سالم بن عليّ بن سلامة (۱).

الدّلاّل ابن البيطار.

بغدادي، سمع بنفسه من القاضي أبي بكر الأنصاري، وعليّ بن الصّبّاغ، وجماعة.

وحدَّث^(۲).

١٥٤ ـ سعيد بن عبدالله بن أحمد بن مفضَّل (٣).

أبو القاسم الأزَجِيّ.

ابن الأخضر فوائد في جزء لطيف، ورواه لنا عنه. وُلد سنة إحدى وخمسمائة.

⁽۱) أنظر عن (سالم بن علي) في: المختصر المحتاج إليه ۹۹/۲ رقم ۷۱۰، والوافي بالوفيات ما ۸۸/۱۵ رقم ۱۱۷.

⁽٢) قال ابن الدبيثي: سمع منه القرشي، وابن مشّق، وغيرهما، وكان صحيح السماع. توفي في آخر سنة حمس وسبعين وخمسمائة. وقال ابن النجار: سمع الكثير وحصّل الأصول. وكان متيقّظاً صالحاً صدوقاً.. وخرّج له

⁽٣) أنظر عن (سعيد بن عبدالله) في: المختصر المحتاج إليه ٢٧/٧ رقم ٦٩١.

سمع: أُبِيّاً النَّرْسيّ، ومحمد بن عبد الباقي الدُّوريّ. وكان كاتباً مذموم السّيرة.

سمع منه: أبو محمد بن الخشّاب، والقدماء(١).

وتُوُفِّي في رمضان^(٢).

_ حرف الشين _

١٥٥ _ شافع بن صالح^(٣) بن حاتم^(٤).

الجيليّ، ثمّ البغداديّ. أخو الحافظ أحمد بن صالح. وشافع الأكبر.

وكان من عُدُول بغداد.

سمع: أبا سعد بن الطُّيُوريّ، وهبة الله بن الحُصَيْن، وهبة الله الشُّرُوطيّ.

روى عنه: إلياس بن جامع الإربليّ، وجماعة.

قال ابن الدَّبيثيّ: أجاز لنا.

وتُوُفّي في آخر السّنة.

١٥٦ ـ شهاب بن أبي الفوارس محمد بن هبة الله.

أبو شجاع البوّاب.

أسمعه خاله عليّ بن سعد الخبّاز من: أبي نصر بن رضوان، وهبة الله بن الحُصَين.

روی عنه غیر واحد.

⁽١) وُلد سنة ٤٩٧ هـ.

⁽٢) في المختصر: الشعبان).

⁽٣) أنظر عن (شافع بن صالح) في: المختصر المحتاج إليه ١٠٢/٢ رقم ٧١٨، والتكملة لوفيات النقلة للمنذري ٣/ ٥٣٢ رقم ٢٩٣٢ في ترجمة ابنه (أبي المعالي صالح بن شافع بن صالح بن شافع بن حاتم..)، وذيل طبقات الحنابلة ٢٩/١، والوافي بالوفيات ٢٢/١٢ رقم ٩٥، وشذرات الذهب ٣/ ٣٦٤.

⁽٤) في الأصل: «حامد» وهو سهو.

ـ حرف العين ـ

١٥٧ _ عبدالله بن أحمد بن بكران(١).

أبو محمد الدَّاهريّ، الضّرير، المقرىء والد عبد السّلام الخفّاف.

والدَّاهرية من قُرى السّواد.

قرأ على سِبْط الخيّاط. وسمع من: أبي غالب بن البنّا.

وتُوُفّي راجعاً من الحجّ.

١٥٨ ـ عبدالله بن أحمد بن عليّ بن قُرَشيّ.

أبو الوليد الحَجْريّ، القَرْطُبيّ.

سمع من: أبا الوليد بن الدَّبّاغ، وأبي الحسن بن النّعمة، وجدّه لأمّه أبي الحسن بن فيد.

وصحِب أبا بكر عتيق ابن الخصم وتأدَّب به، وأبي الحسن بن سعد الخير.

ومَهَرَ في صناعة العربيّة واللُّغة، وجلس لإقرائهما. وله النَّظْم والنَّثْر.

أخذ عنه: أبو عبدالله بن سعادة النَّحْويّ، وغيره.

۱۵۹ ـ عبد الحقّ بن عبد الخالق بن أحمد بن عبد القادر بن محمد بن يوسف^(۲).

أبو الحسين الشّيخ، الثقة، من بيت الحديث والفضل.

⁽١) أنظر عن (عبدالله بن أحمد بن بكران) في: المختصر المحتاج إليه ٢/ ١٣٠، ومعرفة القراء الكبار ٢/ ٧٢، رقم ٥٢٩، وغاية النهاية ١/ ٤٠٥.

⁽٢) أنظر عن (عبد الحق بن عبد الخالق) في: الكامل في التاريخ ٢١/١١، وتاريخ إربل ١/ ٣٥، ٩٨، ١٣٢، ١٨٤، والمختصر المحتاج إليه ٢٠/١، ١٧ رقسم ٨٧٣، والعبر ٤/ ٢٠، ١٧ رقسم ٢٨٤، والعبر ٤/ ٢٠، وسير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٠، ٥٥٠ رقم ٣٥٣، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٥ رقم ١٨٧١، ودول الإسلام ٢/ ٨٨، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، وتذكرة الحفاظ ٤/ ١٣١، وتاريخ ابن الدبيثي ١/ ٢٦٩، وذيل التقييد ٢/ ١١٥ رقم ١٢٥٩، والعسجد المسبوك ٢/ ١٧٦، ١٧٧، والنجوم الزاهرة ٢/ ٨٦، وشلرات الذهب ٤/ ٢٥١.

وُلِـد سنـة أربـع وتسعيـن وأربعمائـة. وسمَّعـه أبـوه الكثيـر مـن أبـي الحسين بن الطُّيُوريِّ، وجعفر السَّرَاج، وأبي القاسم الرَّبَعيِّ، وأبي سعد بن خُشَيْش، وأبي الحسن العلَّف، وابن بيان، وخلُق سواهم.

وكان أبو الفضل بن شافع يقول: هو أثبت أقرانه (١).

وقال عبد العزيز بن الأخضر: كان عبد الحقّ لا يحدُّث بما سمعه حُشُوراً. ترك ذلك تورُّعاً (٢).

روى عنه: ابن السّمعانيّ، وذكره في "تاريخه"، وأبو الفَرَج بن الجوزيّ، وقال: كان حافظاً لكتاب الله، ديّناً، ثقة، سمع الكثير وحدَّث (٣). وهو من بيت المحدّثين (١٠).

وقال البهاء عبد الرحمن: سمعنا كثيراً على عبد الحق، وكان من بيت الحديث فإنه روى لنا عن أبيه عن أبيه عن أبيه.

قال: وكان صالحاً فقيراً، وكان عَسِراً في السّماع جدّاً. ورُزقت منه حظّاً، لأنّه كان يراني منكسِراً مُواظِباً، وكان يُعيرني الأجزاء فأكتبها. وأُلهِمَ في آخر عِمره القرآن، فكان يقرأ كلّ يوم عشرين جزءاً أو أكثر (٥٠).

قلت: وروى عنه الحافظان: عبد العزيز بن الأخضر، وعبد القادر الرُّهاويّ، والشّيخ موفّق الدّين، والحافظ عبد الغنيّ، والشّهاب بن راجح، وحمد بن صِدِّيق الحرّانيّ، وأبو الحسين القَطِيعيّ، وعبد الرحمن بن بختيار، وقيئصر البوّاب، وإبراهيم بن الخيّر، ويحيى بن القُمَيْرَة، وعليّ بن هبة الله بن الجُمَّيْزيّ، والأعزّ بن العُليّق، ومحمد بن عبد الكريم السّنديّ، وخلْق سواهم.

وقال ابن مَشَّقْ: تُونُفِّي في السّادس والعشرين من جُمادى الأولى.

⁽١) المختصر المحتاج إليه ٢٠/٢.

⁽٢) المختصر المحتاج إليه ٢/٧٠.

⁽٣) المختصر المحتاج إليه ١١/٢.

⁽٤) المختصر المحتاج إليه ٢/٧١.

⁽٥) المختصر المحتاج إليه ٢/ ٧١.

١٦٠ ـ عبد المحسّن بن تُرَيْك بن عبد المحسّن بن تُرَيْك (١). أبو الفضل الأزَجيّ، البيّع.

سمع: أبا الغنائم النَّرْسِيِّ، وأبا القاسم بن بيان، وأبا عبدالله الدُّوريّ.

سمع منه: أحمد وتميم أبنا أحمد البَنْدَنِيجيّ، وعبد العزيز بن الأخضر، والبهاء عبد الرحمن، ونصر بن عبد الرّزّاق، وآخرون.

تُوُفّي يوم عَرَفَة .

١٦١ _ عُبَيْدالله بن أحمد بن محمد بن قُدَامة.

أخو الشّيخ أبي عمر، والشّيخ الموفّق.

وُلِد في أوّل سنة خمسين، وعاش خمساً وعشرين سنة.

ومات في طريق الحجّ.

وقد سافر إلى بغداد، وسمع من: شُهْدَة، وعبد الحقّ، وجماعة.

وكان ذا مُروءة وكَرَم. رُميَ بسهم بين مكّة وعَرَفات، فبقي منه مريضاً حتّى مات بين تَيْماء والمدينة.

قال الضّياء: وسمعت أنّ ابنه الشّرف كان طفلاً نائماً، فانتبه فقال: السّاعة يدفنون أبي. فَزَجَرَتْه أُمُّه. فلمّا قدِم الحاجّ تبيّن أنّهم دفنوه تلك اللّيلة.

خلُّف من الولد: أحمد، وسارة، وزينب.

١٦٢ ـ عَلَمُ (٢) زوجة الشّيخ محمد بن يحيى الزَّبيديّ.

امرأة زاهدة، صالحة، واعِظة.

قَدِمَتْ بغداد مع زوجها. وهي أمّ المبارك وجدّة الحسين.

تزوَّج بها بدمشق، وعُمِّرت دهراً.

⁽۱) أنظر عن (عبد المحسّن بن تريك) في: المختصر المحتاج إليه ٢/٨٧ رقم ٩١٥، والمشتبه في الرجال ٢/٧٢، والعبر ٤/٤٢٤، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٥٥٥ دون ترجمة.

 ⁽٢) في الأصل: «علما» والتصحيح من: المختصر المحتاج إليه ٣/٢٦٧ رقم ١٤٢٠.

١٦٣ _ عليّ بن أحمد بن محمد بن عمر بن حسن (١).

أبو الحسن العَلَويّ الحسينيّ الزيديّ البغداديّ، القُدْوَة السيّد الفقيه الشافعيّ المحدِّث.

قال ابن الدَّبيثيّ (٢): أحد الأعيان والرُّهَّاد والنُّسَّاك. حفظ القرآن وحصّل الفقه، وكتب الكثير من الحديث وجمعه. وكان نبيلًا، جامعاً لِصفات الخير. سمعتُ شيخنا ابن الأخضر يعظِّم شأنه ويُثني عليه ويصِف زُهده ودينه.

وقال: أوَّل سماعه سنة أربعين وإلى آخر عمره.

سمع: الحافظ ابن ناصر، وابن الزّاغُونيّ، ونصر بن العُكْبَريّ.

وانتخبَ لنفسه أجزاء، وحدَّث بها وسمَّع منه شيوخه وأقرانه تَبَرُّكاً به، منهم: عمر القُرَشيِّ، وعمر العُلَيميِّ، وأبو المواهب بن صَصْرى.

وكان ثقة صدوقاً. وُلِد سنة تسع وعشرين وخمسمائة.

وتُونِّقِي في شوّال وأبواه في الحياة، ودُفِنَ بداره. ووقَفَ كُتُبه، وانتفع بها النَّاس. فقيل إنّ الوزير عضُد الدين ابن رئيس الرؤساء لمّا عادَ إلى الوزارة بعث إليه بألف دينار، وكان نَذَرَها إنْ عاد إلى الوزارة، فلمّا سمع المستضيء بذلك بعث إلى الشريف بألف دينار أخرى، وبعثت إليه بنفسه أمّ الخليفة بألف دينار، فلم يتصرّف فيها بل بنى مسجداً وآشترى كُتُباً كثيرة وقفها (٣) فيه وانتفع بها النّاس (٤).

⁽۱) أنظر عن (علي بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ۱۱۵،۱۱۲، ۱۱۰ رقم ۹۷۰، والتاريخ المجدّد لمدينة السلام لابن النجار (مخطوطة الظاهرية) ورقة ۱۲۹، ۱۲۰، ومرآة الزمان ۸/۲۵، ۳۵۷، وذيل تـاريخ بغـداد ۱۵۸/۳۵ ـ ۱۲۲ رقـم ۷۶۰، و(المخطوط) ۲/ورقـة ۲۱۲۱، وسير أعلام النبلاء ۲/۱۲، ۱۰۰ رقم ۶۹، والمعين في طبقات المحدّثين المحدّد المسبوك ۱۸۷۲، والنجوم الزاهرة ۲/۲۸، والعسجد المسبوك ۲۷۷۲،

⁽٢) في المختصر المحتاج إليه.

⁽٣) ني الأصل: «فوقها».

⁽٤) وقال ابن النجار: أبو الحسن العلوي الحسني الزيدي نسباً الشافعي مذهباً، وكذا رأيت =

١٦٤ ـ على بن حُمَيْد بن عمّار (١).

أبو الحسن الأنصاريّ، الأطرابُلُسيّ، ثمّ المكّيّ، النّخويّ، المقرىء. حدَّث في هذا العام «بصحيح البخاريّ»، عن أبي مكتوم عيسى بن أبي ذَرّ الهَرَويّ سماعاً، وهو آخر مَن سمع منه.

روى عنه: محمد بن عبد الرحمن التُّجِيبيّ الأندلسيّ، وعبد الرحمن بن أبي حَرَميّ فتّوح بن بنين المكّيّ العطّار، وناصر بن عبدالله المصريّ العطّار

نسبه بخط يده، كان أحد الأعيان المشار إليهم بالزهد والعبادة والفضل والعفة والنزاهة، وحُسن الطريقة، وصحة العقيدة، وسلامة الطويّة، قطع أوقاته في العبادة، ومواصلة الطاعة، وطلب العلم ودرسه وكتابته والسعي في تحصيله حتى مكّن الله منزلته في قلوب الناس، فأحبّه الخاص والعام، ووقع له القبول في الأرض حتى كان يقصده الأماثل والأعيان لزيارته والتبرّك به، وهو مع ذلك متواضع في طلب العلم وحضور مجالس الحديث والسماع من كل راو وصحبة طلب العلم والنسخ والتحصيل لا يفتر من ذلك، وكان موصوفاً بحسن الحُلق، والحُلق وطيب الملقى وحسن العشرة وحلاوة الألفاظ والجود والمروءة، وبلل ما بيده، وتفقد المتحملين، والأفضال على الناس، وسمع الحديث الكثير، وقرأ بنفسه وكتب بخطه، واستكتب بغط غيره، وحصّل الأصول الكثيرة حتى صار له من الكتب المصنّفة والمسانيد والأجزاء شيء كثير، فوقفه بمسجده الذي استجدّه بدار دينار الصغيرة، وشاركه في الوقفية شريكه رفيقه صبيح النصري، وأضاف إلى حسن الصحبة وصحة النيّة وسلامة الطويّة حتى كأنهما روحان في جسد.. وبالغ في خسن الصحبة وصحة النيّة وسلامة الطويّة حتى كأنهما روحان في جسد.. وبالغ في الطلب حتى طلب من أقرانه، وعمّن هو دونه، وحدّث باليسير لأنه مات شاباً قبل أوان الرواية.

قرأت في كتاب القاضي أبي المحاسن عمر بن علي القرشي بخطه قال: وممن مات في شوال في هذه السنة في هذا الطاعون _ يعني سنة خمس وسبعين وخمسمائة _ الشريف الزاهد ولي الله أبو الحسن علي بن أحمد بن عمر بن الزيدي، وكان عالماً فاضلاً، حافظاً عارفاً له المجاهدات الكثيرة والمعرفة التامة، والأحوال الحسنة والكرامات الظاهرة لو أتيت ما شاهدت له من الكرامات، وما حدّثني به الثقات من ذلك لقام من ذلك كراريس، ومات عن قريب من سبع وأربعين سنة، وكان رفيقي في السماع سنين كثيرة. (ذيل تاريخ بغداد).

⁽۱) أنظر عن (علي بن حميد) في: سير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٤١ (دون ترجمة)، والعقد الثمين لقاضي مكة ٦/ ١٥٦، ١٥٧، وذيل التقييد، له ٢/ ١٩١ رقم ١٤١٣. وقد تقدّم برقم (١٢).

نزيل مكّة ستّين عاماً، وأبو الربيع سليمان بن أحمد السَّعْديّ المُغَرْبِل الشّاوي، و وآخرون.

وحدَّث في سنة خمسِ وسبعين.

١٦٥ ـ عليّ بن هبة الله بن عليّ بن خلدون(١١).

أبو المعالي الواعظ.

وُلِد ببغداد، ونشأ بالكوفة، وحجّ، ودخل مصر فتعلّم الوعْظ، ثمّ قدِم دمشقَ وسمع بها من أبي الحسين عليّ بن المَوَازِينيّ. وسكنها حتّى مات.

روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى وقال: تُوُفّي في ربيع الآخر عن ثلاثٍ وتسعين سنة ممتَّعاً بحواسه.

قلت: وروى عنه: عتيق السّلمانيّ، ومكّيّ بن عِلّان.

١٦٦ عمر بن عليّ بن الخَضِر بن عبدالله بن عليّ (٢).

أبو المحاسن القُرَشي، الزُّبَيْري، الدّمشقي، القاضي، الحافظ،

قال ابن الدَّبيثيّ (٣): حافظ، ثقة، عالم، عُنِي بطلب الحديث وبسماعه وكتابته: وسمع بدمشق، وحلب، وحَرّان، والمَوْصِل، وبغداد، والكوفة،

والحجاز، ورُزق الفَهْم والحديث.

سمع: أبا الدُّرّ باقوت، وأبا القاسم بن البنّ، وأبا طالب عبد

⁽۱) أنظر عن (علي بن هبة الله) في: المختصر المحتاج إليه ١٤٦/٣ رقم ١٠٠٦٦، والتاريخ المجدّد لابن النجار (مخطوطة باريس رقم ١٣٦١) ورقة ٢٥، ٢١، وسير أعلام النبلاء ١٨٣/ ٥٠ دون ترجمة، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، والنجوم الزاهرة ٢/٨٦.

⁽۲) أنظر عن (عمر بن علي) في: المختصر المحتاج إليه ۱۰۲، ۱۰۲ رقم ٩٤٤، والتاريخ المجدد لابن النجار (مخطوطة باريس) ورقة ۱۱۳، والكامل في التاريخ (حوادث ٥٧٥ هـ.) ولقبه: نعنع، وتلخيص مجمع الآداب ج ٥/رقم ١٤٨٣، والعبر ٤/٢٢٤، وسير أعلام النبلاء ٢١/٥٠١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، والمعين في طبقات المحدثين ١٧٥ رقم ١٨٧٤، ومرآة الجنان ٣/٢٠٤، والعسجد المسبوك ٢/٧٧، والنجوم الزاهرة ٢/ ٢٨، وشارات اللهب ٤/٢٥٢.

⁽٣) في المختصر المحتاج إليه.

الرحمن بن العجميّ، وحامد بن محمود الحرّانيّ.

وقدِم بغدادَ في سنة ثلاثٍ وخمسين، وسكنها. وسمع: أبا الوقت، وأبا جعفر العبّاسيّ، وأبا المظفّر بن التُّرَيْكيّ، وأبا محمد بن المادح، فَمَن بعدهم. حتّى سمع من أصحاب قاضي المَرسْتان.

وصحِب أبا النّجيب السَّهْرُورْدِيّ. وولاّه قاضي القضاة رَوْح بن الحديثيّ قضاء الحريم.

ونُقِّذَ رسولاً إلى نور الدّين وما كان بلغ الثّلاثين سنة.

سمع منه: أبو سُكَّرة الباقداريّ، وأحمد بن أحمد البَنْدَنِيجيّ، وأبو الفُتُوح بن الخُصْريّ، وابنه أبو بكر عبدالله بن عُمَر.

وأجاز لي.

وُلِد بدمشق في شَعْبان سنة ستٌّ وعشرين.

وتُونِّي في ذي الحجّة.

١٦٧ _ عيسى بن أحمد بن محمد بن عُبَيْدالله(١).

أبو هاشم الدُّوشابيّ (٢)، الهاشميّ، العبّاسيّ، البغداديّ، الهرَّاس. وهو منسوب إلى دوشاب بن عليّ العبّاسيّ.

سمع من: أبي عبدالله الحسين بن عليّ بن البُسْريّ.

قال أبو سعد السّمعانيّ: كان هرّاساً. كتبتُّ عنه حديثين.

قلت: وروى عنه: البهاء عبد الرَّحمن، وأبو بكر عبدالله بن نصر قاضي حرّان، وحمَّد بن صُٰدَيق، وابن المقيّر، وجماعة.

ئُونِقِي في رجب.

⁽۱) أنظر عن (عيسى بن أحمد) في: الأنساب ٥/٢٦٣، ٢٦٤، واللباب ٥١٣/١، والمختصر المحتصر المحتاج إليه ٣/٢٥ رقم ١٠٨٤، والإعلام وسير أعلام النبلاء ٢١/٨٣، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧.

 ⁽٢) الدُّوْشابي: بضم الدال المهملة وسكون الواو وفتح الشين المعجمة وفي آخرها باء موحدة. هذه النسبة إلى دُو شاب، وهو الدبس بالعربية، وبيعه أو عمله.

١٦٨ - عيسى بن الإمام المسترشد بالله. تُوفِّي كهٰلاً في المحرَّم.

ـ حرف القاف ـ

١٦٩ ـ القاسم بن عبد الرحمن بن دحمان (١).

أبو محمد الأنصاريّ، المالَقيّ، المقرىء.

قال الأبّار: أخذ القراءآت عن أبي منصور بن الخير، وأبي عبدالله ابن أخت غانم، وأبي الحسين بن الطّراوة، وأبي الفتح سَعْدون المراديّ أخذ عنه كُتُب النّحُو.

وناظر في «المدوَّنة» على: أبي محمد بن الوحيديّ، وأبي عبدالله بن الأديب. وسمع منهما «صحيح البخاريّ».

وأجاز له أبو بحر ألاسَديّ، وأبو عبدالله بن الحاجّ، وجماعة.

وكان مقرِئاً جليلاً، نَحُويّاً ماهراً، عالماً بالقراءآت والعربيّة، متصوّراً الإقرائها. حدَّث عنه جماعة من شيوخنا.

وقد أخذ عنه: أبو زيد السُّهَيْلي مَعَ تقدُّمه، وأبو الحسن بن خروف. تُوُفّى بمالقة وقد نيّف على الثّمانين.

_ حرف الميم _

١٧٠ ـ محمد بن أحمد بن الفَرَج (٢).

أبو منصور الدَّقاق، البغداديّ الوكيل بباب القاضي. وهو أحد الإخوة الأربعة.

⁽۱) أنظر عن (القاسم بن عبد الرحمن) في: التكملة لكتاب الصلة لابن الأبّار (مخطوط) ٣/ ورقة ١٠١، والمطرب لابن سعيد ٢١٦، وبغية الملتمس للضبّي ٤٥٠، ٤٥٠ رقم ١٣٠٧، والليل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٥ ق ٢/٥٤٥، ٤٦، ومعرفة القراء الكبار ٢/٥١، رقم ٥٠٠، وغاية النهاية ٢/١٦، وبغية الوعاة ٢/٥٥٧.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن أحمد بن الفرج) لمي: تاريخ إربل ١/ ١٨٤، والمختصر المحتاج إليه ١/٩.

سمّعه خاله الحافظ محمد بن ناصر من أحمد بن محمد بن المَحَامِليّ، وعبدالله بن أحمد بن السَّمَرْقنديّ، وأبي طالب اليُوسُفيّ، وأبي العزّ القلانِسيّ.

وحدَّث عنهم. وكان ثقة.

روى عنه: الحافظ أبو بكر الخازميّ، وأبو محمد بن الأخضر، والبهاء عبد الرّحمن، وطائفة سواهم.

وتُونِقي في ذي الحجّة. وكان مولده في سنة أربع وخمسمائة. وأوّل سماعه سنة إحدى عشرة من ابن يوسف.

١٧١ ـ محمد بن الحسين بن الحسن بن الخليل (١).

أبو الفَرَج الأديب الهيتيّ.

سمع: أبا القاسم بن الطبر، وعبد الوهَّاب الأنماطيّ.

وقرأ العربيّة على ابن الشَّجَريّ.

كتب عنه ابن السّمعانيّ مع تقدُّمه، وتُونِي في ربيع الآخر(٢).

۱۷۲ ـ محمد بن خير بن عمر بن خليفة (٣).

عسزيسزة عندي وأبكساهسا عسن مهجسة هجسرك أفنساهسا يسا قساتلسي فسي قتلسي الله

يا راقداً أسهر لي مقلة مسا أن للهجران أن ينقضي إن كنت ما ترحمني فارتقب وله من النثر:

ونه من النشر. من كان الصمت شجرته، كانت السلامة ثمرته.

. في احتراز اللبيب، ما يغنيه عن الطبيب.

من ترك المراء، استمال الورى.

(٣) أنظر عن (محمد بن خير) في: بغية الملتمس للضبي ٧٥ رقم ١١٣، وتكملة كتاب الصلة =

⁽١) أنظر عن (محمد بن الحسين) في: مرآة الزمان ٨/٣٥٧، ٣٥٨.

⁽٢) وُلد بهيت سنة ٤٩٥ هـ. وسكن بغداد وكان صالحاً فاضلاً، له نظم ونثر وله براعة في ذلك:

المقرىء، الأستاذ، الحافظ، أبو بكر الّلْمتونيّ، الإشبيليّ. أخذ القراءآت عن شُرَيْح، وآختصٌ به حتّى برع وفاق. وسمع من: أبي مروان الباجيّ، وأبي بكر بن العربيّ.

ورحل إلى قُرْطُبَة فسمع من: أبي جعفر بن عبد العزيز، وابن عمّه أبي بكر، وأبي القاسم بن بَقِيّ، وابن مغيث، وابن أبي الخصال، وطائفة.

قال الأبّار (١): وكان مكثراً إلى الغاية بحيث انّه سمع من رفاقه، وسمع أكثر من مائة نَفْر. ولا نَعْلَم أحداً من طبقته مثله. وتصدَّر بإشبيلية للإقراء والإسماع. وأخذ النّاس عنه. وكان مقرئاً مجوِّداً، ومحدِّثاً مُثقِناً، أديباً، نَحْوياً، لُغَوِّياً، واسع المعرفة، رضاً، مأموناً. ولما مات بيعت كتبه بأغلى ثمن لصحّتها.

ولم يكن له نظير في هذا الشّأن مع الحظّ الأوفر من علم اللّسان. تُوُفّي في ربيع الأوّل، وكان له جنازة مشهودة.

ووُلِد سنة اثنتين وخمسمائة.

أكثر عن شيخنا ابن واجب.

ابن قاضي القضاة أبي الحسن عليّ بن أحمد بن عليّ بن الحمد بن عليّ بن محمد بن عليّ $(1)^{(1)}$.

القاضي أبو الفتح بن الدَّامَغَانيّ.

لابن الأبار ٢/ ٢٣٥ _ ٥٢٥، والعبر ٢/ ٢٥/٥، والمعين في طبقات الحفاظ ١٧٥ رقم ١٨٥٥، ومعرفة القراء الكبار ٢/ ٥٥٨، رقم ٥١٧، وتذكرة الحفاظ ٢/ ١٣٦٦، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ومرآة الجنان ٣/ ٤٠١، والوافي بالوفيات ٣/ ١٥ رقم ٩٤٩، وغاية النهاية ١/ ١٣٩، وبغية الوعاة ١/ ٤١، وطبقات الحفاظ للسيوطي ٤٨٣، وشذرات الذهب ٢/٥٢، ومعجم طبقات الحفاظ ١٥٦ رقم ١٠٧٣.

⁽١) في تكملة الصلة.

⁽٢) أَنْظُر عن (محمد بن علي بن أحمد) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد ١٢٥/٢ رقم ٣٥٢، والمختصر المحتاج إليه ١٢١٨، وتلخيص مجمع الآداب ٤/ رقسم ١٢١٩، والمجواهر المضيّة ٢/ ٢١، ومرآة الزمان ٨/ ٣٥٨.

كان عارفاً بمذهب أبي حنيفة، وناب في الحُكْم عن والده. وتُوُفّي شاباً عن تسعِ وعشرين سنة (١).

۱۷٤ ـ محمد بن عليّ بن حمزة بن محمد (٢).

أبو يَعْلَى بن الأقساسي (٣)، العلوي، الشّريف، الكوفي، أخو التقيب أبي محمد الحسن بن علي .

كان أديباً، شاعراً(١).

سمع من: أُبَيّ النَّرْسيّ، وأبي البركات عمر بن إبراهيم العَلَويّ. وتُونُفي في ذي الحجّة وقد قارب الثّمانين.

١٧٥ ـ محمد بن القاضي عياض بن موسى بن عياض^(۵).
 اليحصُبيّ السَّبْتيّ أبو عبدالله قاضي دانية.
 قيل: تُوُفّي في هذه السّنة، أو سنة اثنتين وسبعين^(٢).

(١) وقال سبط ابن الجوزي: من بيت الرياسة والفضل والقضاء استنابه أبوه في القضاء، وكان فاضلاً نزهاً عفيفاً.

(٢) أنظر عن (محمد بن علي بن حمزة) في: الكامل في التاريخ ١٨٨/١، وذيل تاريخ مدينة السلام بغسداد ١٢٦/٢ رقم ٣٥٣، وتلخيص مجمع الآداب ٢٩٨/٤ رقم ٢٨٩٤، والعسجد والمختصر المحتاج إليه ٢٢١١، والوافي بالوفيات ١٥٥/٤، ١٥٦ رقم ١٦٨٩، والعسجد المسبوك ٢/٨٧١.

(٣) الأقساسي: بفتح الألف وسكون القاف والألف بين السينين المهملتين. هذه النسبة إلى
 الأقساس وهي قرية كبيرة بالكوفة. (الأنساب ٢/٣٣٣).

(٤) من شعره: رُبُّ قـــوم فـــي خـــلائقهــم غـــرَدُّ قـــد صُبُّــروا غُـــرَرا ستــــر الإثــــراء عيبهُـــم سَتَـــرَى إن زال مـــاستـــرا ومنه أيضاً:

وكنت إذا خاصمت خصماً كبَّتُهُ على الوجه حتى خاصَمَتْني الدراهمُ فلما تنازعنا الخصام تحكّمتُ على وقالت: قُمْ فإنك ظالمُ

(٥) أنظر عن (محمد بن عياض) في: الوفيات لابن قنفذ ٢٨٨ رقم ٥٧٥، والديباج المذهب ٢٨٩، الوافي بالوفيات ٢٩٤/٤ رقم ١٨٢٦.

 (٢) في الديباج المذهب وفاته سنة ٩٥٥ هـ. وقال ابن قنفذ في (الوفيات) إنه توفي بغرناطة، وعرّف في تأليفه بأبيه. ١٧٦ محمد بن أبي غالب بن أحمد بن مرزوق (١).
 الحافظ أبو بكر الباقداريّ (٢)، الضّرير.

قدِم بغداد في صباه من باقدار، وقرأ على جماعة.

وسمع الحديث من خلَّق كثير.

وقال ابن الدَّبِيثيّ: وآنتهى إليه معرفة رجال الحديث وحفظه، وعليه كان المعتمد فيه (٣٠).

وقال أبو الفتوح بن الحُصريّ: هو آخر من بقي من حفّاظ الحديث الأئمّة(٤).

وقال ابن الدَّبِيثيّ: سمعتُ غير واحدٍ من شيوخنا يذكرون أبا بكر الباقداريّ، ويصِفُونه بالحِفْظ ومعرفة الرجال، والمُتُون، والإتقان، مع كونه ضريراً مقصوراً، إلاّ أنّه كان حفَظَةً، حَسَن الفَهُم.

سمع: أبا محمد سِبْط الخيّاط، وابـن نـاصـر، وابـن الـزّاغـونـيّ، والفضل بن سهل الإَسْفَرَاثينيّ، والنّاس بعدهم.

وبلغني أنّ ابن ناصر كان يُراجع الباقداريّ في أشياء، ويرجع الى قوله (٥٠).

وقال الحافظ زكيّ الدّين عبد العظيم، وذكر الباقداريّ فقال: كان أبوه أحد حُفّاظ بغداد المشهورين بمعرفة الرجال، والتّقدُّم مع ضرره (٢٠).

⁽۱) أنظر عن (محمد بن أبي خالب) في: العبر ٢٢٥/٤، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٥ رقم ١٨٧٦، وفيه «محمد بن غالب»، ومرآة الجنان ٢/٣ ـ ٤، وذيل طبقات الحنابلة ١/٤٤٣ ـ ٣٤٢ رقم ١٦٢، وشلرات الذهب ٢/٢.

⁽۲) الباقداري: بكسر القاف، نسبة إلى باقدارى بالقصر. قرية من قرى بغداد. (شذرات اللهب).

⁽٣) ذيل طبقات الحنابلة ١/٤٤٤.

⁽٤) ذيل طبقات الحنابلة ١/٣٤٥.

⁽٥) ذيل طبقات الحنابلة ١/٣٤٥.

⁽٦) ذيل طبقات الحنابلة ١/ ٣٤٥.

قلت: وسمع منه: إبراهيم الشّعّار، وعمر بن عليّ القُرَشيّ، ونصر بن المُحضريّ.

وقال ابن الدَّبِيثيّ: أنا عبدالله بن عمر الوكيل، أنا الحافظ أبو بكر، أنا ابن الزَّاغُونيّ، وسعيد بن البنّا، وابن المادح قالوا: أنا أبو نصر الزَّيْنَبيّ، فذكر من البعث أنّ النبي ﷺ تُونِيّت بنته زينب، فخرج لجنازتها. . الحديث.

تُوُفّى الحافظ أبو بكر في ذي الحجّة كهلاً.

وكانت بنته «عجيبة» من أسند شيوخ بغداد. سمَّعها واستجاز لها الكبار.

۱۷۷ ـ محمد بن محمد^(۱).

الأنباري، أبو الفَرَج.

صاحب ديوان الإنشاء ببغداد. ناب في الوزارة.

وقد كتب الإنشاء سبعة عشر عاماً وأشهراً.

وحدَّث عن: عبدالله بن أحمد بن السَّمَرْ قَنْديّ.

تُوُفّى في ذي القعدة وله ثمان وستّون سنة.

روى عنه: أحمد بن طارق الكُرْكيّ.

وكان ناقص الفضيلة، ظاهر القصور في التَّرَسُّل. وإنّما رُوعيَ لأجل والله سديد الدّولة محمد بن عبد الكريم.

۱۷۸ ـ محمد بن محرز^(۲).

أبو عبدالله الوَهْرَانيِّ المغربيِّ، ركن الدِّين. وقيل جمال الدِّين. أبو عبدالله الوَهْرَانيِّ المغربيِّ، وكن الدِّين وقيل جمال الدِّين. أحد ظُرفاء العالم وأدبائهم. قدِم من بلاده إلى ديار مصر وهو يدَّعي أنّه

⁽۱) أنظر عن (محمد بن محمد) في: الكامل في التاريخ ۲۱/۱۱، ومضمار الحقائق ۱۳۵، ۱۳۵ ومضمار الحقائق ۱۳۵، ۱۳۵ ومرآة الزمان ۲۵۸/۸.

 ⁽۲) أنظر عن (محمد بن محرز) في: وفيات الأعيان ٢٥٥، ٣٨٥، ٣٨٦ رقم ٢٥٦، والعبر ٤/ ٢٥٥، ١٩٤٥، وشدرات اللهب ٤/ ٢٢٥، والوافي بالوفيات ٢٨٦/٤. ٣٨٩ رقم ١٩٤٥، وشدرات اللهب ٤/ ٢٥٢، وتاريخ الأدب العربي ٤/ ٤٨٩.

يعرف صناعة الإنشاء، فرأى بها القاضي الفاضل والعماد الكاتب وتلك الحلبة، فعلم من نفسه أنه ليس من طبقتهم، فسلك سبيل الهزّل، وعمل المنامات المشهورة (١)، والرسائل المعروفة. ولو لم يكن في ذلك إلا المنام الكبير لكفاه، فإنّه ما سُبِق إلى مثله.

قدِم دمشق وأقام بها مُدَيْدَة، وبها تُوُفّي في رجب. وأمّا وَهْران فمدينةٌ كبيرةٌ على أرض القيروان بينها وبين تلْمِسان يومان. بُنيت سنة تسعين ومائتين.

ومن كلامه، ممّا كتب به إلى القاضي الأثير: "فالخادم كلّما ذكر تلك المائدة الخصيبة، وما يجري عليها من الخواطر المصيبة علم أنَّ التخلُّف عنها هو المصيبة. لكنّه إذا ذكر ما يأتي بعدها من القيام والقعود، والركوع والسّجود، علم أنّ هذا أجرة ما يأكله من تلك الوليمة، نحو من عشرين تسليمة، كلّ لُقمة بنقمة، فما تحصل الشّبعة إلاّ بأربعين ركْعة، فيكون الدّعوة عليه لا لَه، والحضور في الشّرطة أحبّ إليه منها له. فزهدتُ حينتذ في الوصول، إذ ليس للخادم من الدّين، ولا قوة اليقين، ما يهجز لأجله مؤآكلة الوجوه القمرية، بمشاهدة السّنة العمرية. فموعد الإتمام انقضاء شهر الصّيام، والسّلام».

وكتب رُقعة إلى ابن القاسم العَونيّ الأعور: يا مولاي الشيخ الزّاهد، دبّوس الإسلام، لتّ الفقهاء، قنطاريَّة العلماء، تافروت الأئمّة، طبل باز الشّنة، نصر الله خاطرك، وستر ناظرك. أنت تعلم أنّ الله ما خلقك إلاّ تلعة، فكُنْ في رقاب الرّافضة واليهود، وما صوّرك إلاّ لالكة في رؤوس المبتّلِعة، وأراذل الشّهود. وأنت بلا مِرْية جعموسٌ عظيم، ولكنْ في ذقون الزّائغين، فالله ينفعك بالإسلام، ولا يوقعك يوم القيامة في يد عليّ عليه السّلام، وأنْ يُنقذك من الهاوية، بشفاعة معاوية.

⁽۱) طُبعت باسم «منامات الوهراني ومقاماته ورسائله»، بتحقيق: إبراهيم شعلان ومحمد نغش. وصدرت عن دار الكاتب العربي للطباعة والنشر بالقاهرة ۱۳۸۷ هـ./١٩٦٨ م.

وله: وصل كتاب الأمير المولى تقيّ الدّين مصطفى أمير المؤمنين ـ أطال الله بقاءه _، حتى يتوب المخلص من القيادة، وينقطع المُعيديّ إلى العبادة، بألفاظ أحسن من فتور الألحاظ، ومعاني كترجيع المغاني. وكان ذلك أجمل في عيني من الرَّوض غبّ السَّحاب، وألذ من الصَّفْع بخفاف القِحاب، لا بل أحلى من مطابقة الزّامر للعَوَّاد، وأَشْهى إلى النّفس من مواعيد القَوَّاد، فطرب المملوك ولا طَرَب فلان الفُلانيّ لما اجتمع بفلانة في دعوة فلان في المحرَّم من هذه السَّنة، وغنَّت له:

ما غيَّر البُعْد ودّاً كنت تعرف ولا تبدُّل بعد اللَّذُكر نسيانا ولا ذكرت صديقاً كنت آلفه إلاّ جعلتك فوق الذّكر عنوانا

فإنّه لمّا سمع ذلك قام وقعد، وصاح ولطم، وفتل شَعْر عَنْفُقَته، وأدار شربوشه على رأسه، وشقّ غلالته، وجَرَى إلى الشّمعة ليحرق ذقنه بها ولم يزل يحلف بحياة الجماعة، لَيَسْكِبَنّ قدحه في سُرَّتها، ويتلقّاه ويستقيه من بين أشفارها، بحيث أن يكون لحيته ستارة على ثُقّبها، فمنعه عشيقها، فحلف برأس الملك العظيم لَيَشْرَبَنّ بخُفّها، فقال: هذا هيّن، فلو أردت أن أسْقِيك بالخُفّ ثلاثمائة فَعَلْت. فَعَبَّ في الخُفّ إلى أن وقع. لا واللهِ ولا طَرَب الصُّوفية ليلة العيد، إذا حضر عندهم مرتضى المغنّي، معشوق العماد الكاتب، وقد أسبل شُغْره على كتفيه، وأمسك أبو شعيب الشَّمعة بين يديه، وهو يغنَّى لابن رشيق القيرواني:

> فتــور عينيــك ينهــانــى ويــأمــرنــى أمّا لئن بعْت دِيني واشتريت بـه استغفـــر اللهَ لا واللهِ مــــا نَفَعَــــت

وورد حدّيك يغري بي ويغريني دنيا فما بعت فيك الدّين بالدُّونِ سُبحانَ من خَلَق الأشياء قاطبة تُراه صوّر ذاك الجسم من طينِ من سِخرِ مُقْلته آياتُ ياسينِ

فإنَّهم لمَّا سمعوا هاجوا وماجوا، وصاحوا وناحوا، وزعقوا وقفزوا إلى السّماء، وفتلوا حتّى انخسف ببعضهم الموضع، فنُبِشوا وكُفِّنوا ودُفِنوا، والباقون يرقصون ولا يدرون.

وبعد هذا فالذي فعله مولانا تقيّ الدّين من التقاء الجَمْع الكثير بالعدد القليل عين الخطأ، لأنّه ما المغرور بمحمود وإنْ سَلِم. فالله الله لا يكون لها مَثْنُويّة، ولا يرجع المولى يلتقي ألفاً وستّماتة فارس إلاّ أن يكون في ثلاثين ألفاً، بشرط أن يكون العدو مثل حمزة الزّامر، وعثمان الجنكيّ، وأبي عليّ العوّاد، وحُمَيْدة المخنّث، وأمثال هؤلاء الفرسان، ويكون جُنْدك مثل فُلان وفلان الذين ما اجتمع المملوك بواحد منهم إلاّ تجشّا في وجهي سيوف وسكاكين، ويزعم أنّه يُقرقش الحديد. والرأيُ عندي غير هذا كلّه. وهوأن تستقيل من الخدمة، وتنقطع في بستان القابون، وتنكث التّوبة، وتجمع عُلُوق دمشق، وقحاب الموصل، وقوًادين حلب، ومغاني العراق، وتقطع بقية العُمر على عفو العفو الرحيم. فَيَوْمٌ من أيّامك في دمياط مكفّر لهذا كلّه. فإنْ قبِلت منّي فأنت صحيح المِزاج، وإنْ أبَيْتَ ولعنت كلّ من جاء من وَهْران، فأنت منحرف، محتاج إلى العلاج.

وله، جواب كتاب إلى الكِنْديّ: «فأمّا تعريضه لخادمه بالقيّادة، وعَتبِه عليّ بالتّرويج بالنّساء العَوَاهر، فسيّدي معذور، لأنّه لم يَذُق حلاوة هذه الصّفعة، ولو أنّه ـ أدام الله عزّه ـ خرج يوماً من البيت، ولم يترك إلاّ ثمن الخُبْز والجُبن، ورجع بعد ساعة، وجد السّنبُوسَك المورّد، والدّجاج المسمّن، والفاكهة المنوّعة، والخُضرة النّضرة، فتربّع في الصّدر، فأكل وشرب وطرب، ولم يخرج في هذا كلّه إلاّ التّغافل وحُسْن الظنّ، وقِلّة الفضول لَسَأَل الله أن يُحْييه قوّاداً، وأن يُميته قوّاداً، وأن يحشره مع القوّادين.

ويظنّ الخادم أنّه في هذا القول كجالب التّمر إلى هَجَر، و(رُبّ حاملِ فقه إلى من هو أفقه منه)(١)، ومهما جهل من فضل نكاح المِلاح النّهِمات،

⁽۱) ما بين القوسين جزء من الحديث المشهور: "نضّر الله امرءاً سمع مقالتي هذه فوعاها وحفِظُها وعقِلها، فرُبّ حامل فقه ليس بفقيه". وفي رواية: "نضّر الله امرءاً سمع منّا حديثاً فحفظه حتى يبلّغه غيره، فرُبّ حامل فقه إلى من هو أفقه منه، ورُبّ حامل فقهٍ ليس بفقيه".

فلا يجهل أنّ أكل الحلاوة مع النّاس أحسن من أكل الخرا منفرداً».

١٧٩ ـ محمد بن محمد بن محمد بن عثمان. أبو الفضل بن الدباب البابَصْريّ، الدَّبَاس. عن: عبدالله بن الحُصَيْن، وأحمد بن المُجلي. وعنه: محمد بن أحمد بن صالح الجِيليّ. وكان شيخاً صالحاً، كثير الصّدق.

مات في شعبان.

۱۸۰ ــ المبارك بن عليّ بن الحسين بن عبدالله بن محمد (۱). أبو محمد بن الطّبّاخ البغداديّ، الحنبليّ. نزيل مكّة. كان إمام الحنابلة بمكة ويكتب العُمَر (۲) ويبيعها. سمع: أبا السّعادات أحمد بن أحمد المتوكّليّ، وهبة الله بن الحُصّين، وابن كادَش، وإسماعيل بن أبي صالح المؤذّن، وجماعة.

⁽۱) أنظر عن (المبارك بن علي) في: المنتظم ٢١٦/١، وتاريخ ابن الدبيثي ٣٣٨/١٥ والعبر والمختصر المحتاج إليه ٢١٢/٣، رقم ١١٣٩، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، والعبر ٢٨٦/، وذيل طبقات الحنابلة ٢٦٦/١ رقم ١٦٣، وذيل التقييد لقاضي مكة ٢٨٦/١، رقم ١٦٣، وذيل التقييد لقاضي مكة ٢٨٦/١، وشفرات رقم ١٦٣٧، والعقد الثمين، له ١١٩/٧، والعسجد المسبوك ٢/٧٧، ١٧٧، وشفرات اللهب ٢٥٣/٤.

⁽٢) أي يكتب مناسك العُمرة للمعتمرين الذين لا يعرفون مناسكها.

⁽٣) طُبع بروايته كتاب «الكنى والأسماء» لأبي بشر محمد بن أحمد بن حمّاد الدولابي، في حيدر أباد الدكن سنة ١٣٢٢ هـ.، وجاء في أوله: «أخبرنا الشيخ الإمام الحافظ أبو محمد المبارك بن علي بن الحسين مكاتبة من مكة ـ شرّفها الله تعالى ـ ونقلته من خطّه». وتكرّر ذكره ثانية في ج ٢/ص ٢ منه: «أبو محمد المبارك بن علي بن الحسين الطباخ

وتحرر ددره نائية في ج ٢ ص ٢ منه: «أبو محمد المبارك بن علي بن الحسين الطباخ البغدادي في كتابه إليّ من مكة».

وقال ابن رَجب: وعُني بالطلب، وسمع الكثير، وقرأ بنفسه، وكتب بخطّه. وكان صالحاً ديِّناً ثقة، وهو كان حافظ الحديث بمكة في زمانه، والمشار إليه بالعلم بها.

سمع منه: أبو سعد السمعاني مع تقدُّمه.

وروى عنه: أبو محمد بن قُدَامة، وابن الأخضر، وغير واحد.

وتُوُفّي في شوّال.

أخبرني عبد الحافظ، أنا ابن قُدامة، أنا ابن الطّبّاخ، أنا زاهر، وإسماعيل بن المؤذن بالمسلسل بالأوّليّة.

١٨١ ـ المبارك بن محمد بن أحمد بن محمد بن قيداس.

أبو المعالي الحريميّ.

سمع: ابن بيان، وأبيّاً النَّرْسيّ.

وعنه: عبدالله بن أحمد الخبّاز.

وكان ظريفاً مطبوعاً.

بقي إلى هذه السّنة، وتُوُفي في الغُرْبة.

۱۸۲ ـ المبارك بن محمد بن عبد الكريم بن أبي الفوارس (١).

أبو الفُتُوح الهاشميّ، البغداديّ.

سمع: ابن بيان، وابن نبهان.

وقرأ القرآن على: أبي بكر المَزْرَفيّ.

سمع منه: عمر القَرَشيّ، وابن الأخضر.

وتُوُفّي رحمه الله تعالى في ذي القعدة.

۱۸۳ ـ محمود بن تَكَش^(۲).

الأمير شهاب الدين الحارِميّ صاحب حماه. خال السلطان صلاح الدين يوسف بن أيّوب.

⁽١) أنظر عن (المبارك بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ١٧٥ رقم ١١٤٧.

⁽۲) أنظر عن (محمود بن تكش) في: البرق الشامي ٣/٥٣، وسنا البرق الشامي ٢٦٨/١، ٢٦٩ ٢٦٩، والـروضتيـن ج ١ ق ٢/٧٠٧، ومفـرّج الكـروب ٢/٧٠، ومـرآة الـزمـان ٣٤٣٨، والسلوك ج ١ ق ٢٦/١، والبداية والنهاية ٢٩٨/١، ٢٩٨، وعقد الجمان (مخطوط) ٢١/ ورقة ٢١١ ب. وقد تقدّم في وفيات ٥٧٣ هـ. برقم (٩٠).

مات في هذه السَّنة كهْلاً(١).

١٨٤ _ مكّى بن محمد بن عبد الملك.

الهَمَذَاني، أبو محمد الشّعّار.

من بيت الحديث.

ذكره ابن النّجّار فقال: كان حافظاً ذا فَهم ثاقب وإدراك. وكان من أصحاب الحافظ أبي العلاء العطّار، خِصّيصاً به، مُقدَّماً عنده.

قدِم بغداد، وحدَّث عن: محمد بن عليّ بن كاكوَيْه الكاتب، وأبي الحسن محمد بن عبدالملك الكرجيّ، وأبي جعفر محمد بن أبي عليّ الحافظ، وهبة الله ابن أخت الطّويل.

روى عنه: محمد بن محمود الحرّانيّ، وأبو الحسن القَطِيعيّ. وتُونُقى في المحرّم عن ٥٢ سنة.

۱۸۵ ــ منصور بن نصر بن منصور بن الحسين (۲). أبو بكر بن العطّار الحَرّانيّ، ثمّ البغداديّ، الكاتب الوزير. كان أبوه من كبار التّجّار.

قال ابن النَّجَّار: نشأ أبو بكر، وسمع الكثير وقرأ العلم.

وقال ابن الدَّبِيثيّ: لَقَبُه ظهير الدّين.

سمع من: ابن ناصر، وأبي بكر بن الزّاغُونيّ، وأبي الوقت.

سمع منه: مكّيّ الغرّاد.

⁽١) مرض عند نزول الفرنج على حماه، ومرض ولده تكش الأمير وهو شاب في ريعان إبانه، وعنفوان حسنه وإحسانه. فمات يوم الأربعاء سابع جمادى الآخرة، ومات شهاب الدين يوم الأحد بعده بثلاثة أيام. واتفق ذلك وقت وقعة الرملة. فأصيب السلطان في الشام. بخاله وابن أخته منه. (سنا البرق ٢٦٨/١، ٢٦٩).

 ⁽۲) أنظر عن (منصور بن نصر) في: الكامل في التاريخ ۲۱/۷۱، والمنتظم ۱۹۱/۱۸،
 ۳۹۱، ۱۹۷، ۲۲۲، ۲۲۲، ومرآة الزمان ۸/ ۳۵۸ ـ ۳۲۰، والمختصر المحتاج إليه ۳/۱۹۱،
 رقم ۱۲۰۶، وسير أعلام النبلاء ۲۱/۸۶، ۸۵ رقم ۳۲، والفخري ۳۲۱ و۳۲۳.

فلمّا مات أبوه بسط يده بالمال وخالطَ الدّولة.

قال ابن النّجّار: ورث نعمة طائلة، وخالَطَ الكُبرَاء وأرباب المناصب، وبذل معروفه، وتوصَّلَ حتّى صار له اختصاص بالإمام المستضيء قبل أن يلي المخلافة. فلمّا استخلف قرّبه وولاه مُشارفة المخزن، ثمّ ولاه نظر المخزن والوكالة المطلقة، وارتفع أمره. فلمّا قُتِل الوزير أبو الفَرَج ابن رئيس الرؤساء ردّ المستضيء جميع أمور دواوينه إليه، ونابه في الوزارة. وكان كلّ الدولة يحضرون عليه. وكان يولّي ويعزل. وكان شَهْماً مِقْداماً، له هيبة عظيمة، وشدّة وطاة، ولم يزل على ذلك حتّى مات المستضيء، فأقرّه النّاصر على نظر المخزن فقط، ثمّ خلّه أيّاماً وقبض عليه وسجنه أيّاماً، ومات.

وبلغني أنّ مولده سنة أربع وثلاثين وخمسمائة.

وأنبأنا ابن الجوزي (١) قال: منصور بن العطّار كان مِقْداماً على القطّع والصَّلْب، ولمّا مات حُمِل إلى بيت أخته، قُاخْرج بعد الصَّبْح، فعلم به النّاس فضربوا التّابوت بالآجُرّ، ثمّ رُمي فطُرِح التّابوت في النّار، وخُرِّقَ الكفن، وأُخِد القُطْن، قُاخرج عرياناً، وشُدَّ في رِجْله حبْلٌ، وسُحِب إلى المدبغة. ورمَوْه فيها. ثمّ سُحِب إلى قراح أبي الشخم، والصّبيان يصيحون بين يديه: يا مولانا وقع لنا. إلى أن جاء جماعة من الأتراك فاستخلصوه منهم، ولقوه في شقة، ومضوا به فألقوه في قبر والده (٢).

تُـوُقِي في ذي القعدة وأراح الله منه، إلاّ أنّه كان نقمة وعذاباً على الشّعة.

⁽١) في المنتظم.

⁽Y) وقال ابن الطقطقي: ومن طريف ما وقع في ذلك أن بعض الأتراك عمّر حمّاماً وجعل مجراته تجوز على دار بعض الجيران. فتأذّى ذلك الجار بتلك المجراة، فشكا ذلك إلى الوزير، فزبره ولم يأخذ بيده، وقال له: إن لم تسكت وإلاّ جعلت رأسك في المجراة، فيقال: إنّ ابن العطار لما سحبه العوامّ ومثلوا به اجتازوا به على باب الحمّام المذكور، فاتفق أنه وقع في المجراة، فسحبوه فيها خطوات، فتعجّب الناس من ذلك. (الفخري ٣٣٣).

۱۸٦ _ [منوجهر](۱) بن محمد بن تركانشاه.

أبو الفضل الكاتب. كاتب الأمير قُطْب الدّين قايماز المستنجديّ.

قال ابن النَّجَّار: كان أديباً فاضلاً، صادقاً، حَسَن الطَّريقة، صدوقاً.

سمع: أباه أبا الوفاء، وهبة الله بن أحمد المَوْصِليّ، وأبا القاسم بن بيان، والقاسم بن عليّ الحريريّ روى عنه المقامات مِراراً. وهو آخر من رواها عنه ببغداد.

روى عنه: أبو سعد السّمعاتيّ^(٢).

وثنا عنه: ابن الأخضر، وأبو الفُتُوح بن الحُصْري، وأحمد بن البُندُنِيجي، وأحمد بن البُندُنِيجي، وسعيد بن المبارك الحمامي.

وقرأتُ مولده بخطّه في شوّال سنة تسع وثمانين وأربعمائة.

وحدَّث بكتاب «إصلاح المنطق» عن أبِّي عبدالله البارع.

قلت: وأصله من بروجرد، وهو بغداديّ.

وروى عنه: البهاء عبد الرَّحمن، ونصر بن عبد الرَّزَاق الجِيليّ، ويوسف بن عمر بن صُفَير، وطائفة سواهم.

وتُوُفّي في جُمادى الآخرة.

_ حرف النون _

۱۸۷ ـ نصر الله بن عبدالرَّحمن بن عبد السّلام (٣).

⁽١) في الأصل بياض، والمستدرك من: المختصر المحتاج إليه ٢/٧١ و٣/٢٠٢، ٢٠٣ رقم ١٩٣٥، ومعجم الأدباء ١٩٣٧، والمستفاد من ذيل تاريخ بغداد ٣٣٣ رقم ١٧٩، والعبر ٤/٢٢٦، وفيه «متوجهر وتركشاه»، والعسجد المسبوك ١٧٨/٢، وبغية الوعاة ٢/٩٩٣، وشذرات الذهب ٤/٤٥٤.

⁽٢) وهو ذكره في تاريخه فقال: هو أخو تركانشاه، يكون مولده تقريباً سنة أربع وتسعين وأربعمائة، سمع بقراءة والدي جزءاً من هبة الله الموصلي.

 ⁽٣) أنظر عن (نصر الله بن عبد الرحمن) في: الكامل في التاريخ ٢١/١١، والمختصر المحتاج إليه ٢٠٨/٣ رقم ٢٢٤١، والجواهر المضية ٢/٧٧، والعسجد المسبوك ١٧٨.

أبو الفُتُوح الدامغانيّ، الحنفيّ، الفقيه. كان مُفتياً، مناظِراً ببغداد، كثير العبادة، ديِّناً خيّراً رحمه الله.

_ حرف الياء _

١٨٨ ـ يوسف بن أحمد بن الحسين.

أبو طالب اللَّبَّان. له دكّان ببغداد لبيع اللَّبن.

سمع: أبا المعالي أحمد بن البخاري، وأخاه هبة الله، وأبا العزّ بن ش.

وعنه: أحمد بن البُّندَنِيجيّ، وعبد الرَّحمن بن عمر بن الغزّال.

مات في شعبان عن خمس وسبعين سنة.

۱۸۹ ـ يوسف بن عبدالله بن سعيد بن عبدالله بن أبي زيد^(۱). الأندلسيّ اللَّرييّ (۲) الأستاذ أبو عمر بن عيّاد^(۳).

أخذ القراءآت عن: أبي عبدالله بن أبي إسحاق.

وقدِم بَلَنْسِيَة سنة ثمانِ وعشرين وخمسمائة، ولقي بها أعلام المقرئين: أبا مروان بن الصَّيْقل، وابن هُذَيْل، وأبا الحسنِ بن النَّعْمة، فأخذ عنهم.

> وسمع من: أبي الوليد بن الدّبّاغ، وطارق بن يعيش، وخلّق. وكتب إليه أبو القاسم بن ورد، وأبو محمد بن عطيّة.

⁽۱) أنظر عن (يوسف بن عبدالله) في: تكملة الصلة لابن الأبار (مخطوط) ٣/ ورقة ١٤١، ومعرفة القراء الكبار ٢/٥٥، ٥٥٥ رقم ٢٠٠، وتلكرة الحفاظ ١٣٦١، والعبر ١٣٦٢، وسير أعلام النبلاء ٢١/١٨، ١٨١ رقم ٩١، ومرآة الجنان ٣/٢٠٤، وغاية النهاية ٢/٧٣، وطبقات الحفاظ ١٨٤، ونيل الابتهاج للتنبكتي ٣٥١، وشذرات الذهب ١/٥٤، ومعجم طبقات الحفاظ والمفسرين ١٩٠ رقم ١٠٧٤، وإيضاح المكنون ١/٥٥، ٥٤٥ و٢/٠٠، ٧٠، ٣٢٥، وهدية العارفين ٢/٢٥٥، ٥٥٥، والأعلام ٢/٧١، ومعجم المؤلفين ٣/٢١٣،

 ⁽٢) تحرّفت هذه النسبة في غاية النهاية إلى «اللدي» بالدل.

⁽٣) تصحّفت في العبر إلى «عباد».

وكان مَعْنِيّاً بصناعة الحديث، جمّاعة للدّفاتر والدّواوين، معدوداً في الأثبات المكثرِين. سمع العالي والنّازل، ولقي خلْقاً، ولو اعتنى بذلك من أوّل أمره اعتناءه به في الآخر لبَدُّ أقرانه وفات أصحابه.

وكان يحفظ أخبار المشايخ وينفق عليهم ويعتني بهم، ويؤرِّخ وَفَيَاتَهم ُ ويُدوِّن قصصهم، وفي ذلك أنفق عمره.

وكان قد شرع في تذييل كتاب ابن بَشْكُوال، وله كتاب «الكفاية في مراتب الرّواية» و «المُرْتَضَى في شرح المُنْتَقَى لابن الجارود»، و «بهجة الألباب في شرح الشّهاب»، و «الأربعون حديثاً في النّشر وأهوال الحشر»، «وأربعون حديثاً في وظائف العبادة»، و «المنهج الرائق في الوثائق»، و «بهجة الحقائق في الرّهد والرقائق»، و كتاب «طبقات الفقهاء» من عصر ابن عبد البَرّ إلى عصره.

حدَّث عنه: ابنه أبو عبدالله محمد، وأبو الحَجَّاج بن عَبْدَة، وأبو محمد بن غَلْبُون، وغيرهم.

وصفه بعض أصحابه بالمشاركة في الآداب والفقه وفهم القراءآت. وكان من أهل التواضع والخُلُق السَّهْل.

واستشهد ببلده عند كبُسة العدوّ، فقاتل حتّى أُثخِن جراحاً، ثمّ أَجهزوا عليه، وذلك يوم العيد. وعاش سبعين سنة رحمه الله. ترجمه الأبّار (١٠).

١٩٠ ـ يوسف بن عمر بن الحَسَن (٢).

أبو الحَجّاج بن البستنيان البغدادي، المقرىء.

سمع: أبا طالب بن يوسف، وحدَّث

وتُوُفّي في المحرَّم وقد شاخ.

* * *

⁽١) في تكملة الصلة.

⁽٢) أنظر عن (يوس ف بن عمر) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٣٤ رقم ١٣١٩.

وفيها وُلد ابن عبد الدائم، والإمام مجد الدّين إسماعيل بن باطيش الفقيه، ومحمد بن الأنجب النّعّال، وعبد الغنيّ بن بنين، والعماد أبو بكر بن هلال بن عبّاد الحنفيّ.

سنة ست وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

١٩١ - أحمد بن محمد بن عليّ بن هبة الله بن عبد السّلام(١).

أبو الغنائم الكاتب.

سمّعه أبوه أبو الفتح من: جدّه، وأبي الغنائم بن المهتدي بالله، وأبي عليّ بن المهديّ، وابن الحُصَيْن.

روى عنه: أحمد بن طارق الكُرْكيّ، وغيره.

ذُبِح غِيلَةً في جُمادى الأولى ولم يُعلم بوفاته.

۱۹۲ ـ أحمد بن أحمد بن محمد بن على بن حمدي (۲).

أبو المظفِّر البغداديّ، المقرىء، الشّاهد.

قرأ القراءات على أبي محمد سِبْط الخيّاط، وقبله على أبي بكر المَزْرَفيّ، وأبي عبدالله البارع.

وأقام بعد بمسجد ابن جردة. وكان طيِّب الصَّوْت مجوِّداً.

سمع: أبا سعد بن الطُّيُوريِّ، وأبا العزِّ بن كادش، وزاهر بن طاهر، وابن الحُصَيْن، وخلْقاً سواهم.

وحدَّث بالكثير. ووُلِد سنة عشرِ وخمسمائة.

وتُوُفّي في جُمادى الأولى.

سیعاد برقم (۲٤٣).

 ⁽۲) أنظر عن (أحمد بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ١٧١/١، والوافي بالوفيات
 ٢٢٨/٢، ٢٢٩ رقم ٢٦٩٩، ومرآة الزمان ٣٦١/٨.

روى عنه: أبو محمد بن قُدامة، والبهاء عبد الرَّحمن، ومحمد بن مقبل بن المَنّي(١).

 $^{(4)}$. أحمد بن عبدالله بن الإمام أبي بكر محمد بن أحمد $^{(4)}$.

الشَّاشيّ، ثـمّ البغـداديّ، العَـلاّمـة أبـو نصـر مـدرّس النّظاميّة، وأحـد المصنّفين في المذهب.

تفقُّه على أبيه، وعلى أبي الحسين بن الخَلِّ^(٣).

وسمع من أبي الوقت.

ومات شابّاً رحمه الله.

(٤)

١٩٤ - أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم (٤).

(١) وبالغ في الطلب حتى كتب عن أصحاب طراد، وابن البطر، وابن طلحة، ومن دونهم، وكتب بخطه كثيراً وكان خطه جيداً ونقله حسناً، وله معرفة بالحديث، وحدّث بأكثر مسموعاته وسمع منه الكبار.

قال أبن النجار: وكان ثقة صدوقاً، حدّثنا عنه الحافظ أبو محمد ابن الأخضر، وله طريقة غريبة في التلاوة يقصده الناس لسماعها. وتوفي سنة ست وسبعين وخمسمائة بالممخزن كان به معتقلاً وحُمل إلى بيته فدُفن بباب حرب لأنه تولى نظر ديوان الجوالي أيام الإمام المستضيء ثم عُزل واعتُقل.

(۲) أنظر عن (أحمد بن عبدالله) في: تاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة شهيد علي) ورقة ١٦٣،
وسير أعلام النبلاء ٢١/٨٥ رقم ٣٣، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٢٩/٤، والوافي
بالوفيات ٢/٧٧، و٧/١١٧ رقم ٣٠٤٤.

(٣) ولازم ابن الخلّ حتى برع، وولي التدريس بالنظامية . . وحدّث باليسير ، وكانت له معرفة بالفقه .

أنظر عن (أحمد بن محمد بن أحمد السلفي) في: الأنساب ١٠٥/، ١٠٦، وتاريخ دمشق (أحمد بن عتبة _ أحمد بن محمد بن المؤمّل) ١١٩٧ _ ١٨٢ رقم ١٠٩، والكامل في التاريخ ١١٩٦، ١٦٦، واللباب ١٠٥٥، وتاريخ إربل ١١٣١، ١٦٥، ٢١٦، ٢١٥، ١٤٥، والتاريخ إربل ١١٣١، ٢١٥، ٢١٦، ٢١٥، ١٤٥، والتقييد لابن نقطة ١٧٦ _ ١٨٠ رقم ١١٩، وتكملة إكمال الإكمال لابن الصابوني ١، ١١، ١٤، وتاريخ ابن الدبيثي ١١٩/١، والروضتين ١٦/١، ووفيات الأعيان ١/٥٥ _ ١١، ١١٠، والتدوين في أخبار قزوين ٢/٤٢٢ _ ٢٢١، ومرآة الزمان ١١/٣١، وبدائع البدائه لابن ظافر ٢٥٢ و ٣٠٥، والتكملة لوفيات النقلة للمنذري (الطبعة الأولى) ٣/١٥١، وتلخيص مجمع الآداب لابن الفوطي ج ٤ ق ٢/١٣٥، والوفيات لابن قنفذ ١٨٩ رقم وتلخيص مجمع الآداب لابن الفوطي ج ٤ ق ٢/١٥١، والوفيات لابن قنفذ ١٨٩ رقم الأعلام) ٢/٤٨، وطبقات الشافعية للنووي (مخطوط) ورقة ٤٢، وملء العيبة للفهري (أنظر فهرس الأحلام) ٢/٤٨٤، وأزهار الرياض ٣/١٦١، ٣٨٧، والمختصر المحتاج إليه ١/٢٠١،

الحافظ الكبير أبو طاهر بن أبي أحمد بن سِلَفة الإصبهاني، الجَرْوَاني، وجَرْوان: محلّة بإصبهان. وسِلَفة لَقَب أحمد وإليه يُنْسَب.

قال الحافظ عبد الغنيّ: سمعت السَّلَقي يقول: أنا أذكر قتل نظام المُلك في سنة خمس وثمانين، وكان عمري نحو عشر سنين. وقد كتبوا عنّي في أول سنة اثنتين وتسعين وأنا ابن سبْع عشرة سنة أكثر أو أقلّ، وليس في

والعبر ٤/ ٢٢٧، وتذكرة الجفاظ ٤/ ١٢٩٨، وميزان الاعتدال ١/ ١٥٥ رقم ٦١٠، وأهل المائة فصاعداً (نُشر في مجلَّة المورد العراقية) ١٣٤، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٥ _ ٣٩ رقم ١، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٦ رقم ١٨٧٩، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، ودول الإسلام ٨٩/٢، والوافي بالوفيات ٧/ ٣٥١ ـ ٣٥٦ رقم ٣٣٤٤، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٢١٠/٤، وطبقات الشافعية الوسطى، له (مخطوط) ورقة ٣٧ أ، ومرآة الجنان ٣/ ٤٠٣، ٤٠٤، والبداية والنهاية ٢/ ٣٠٧، والمستفاد من ذيل تاريخ بغداد ٦٨ ـ ٧٢ رقم ٤٥، وذيل التقييد لقاضي مكة ١/ ٣٧١، ٣٧٢ رقم ٧٢١، وغاية النهاية ١٠٢/١، ١٠٣ رقم ٤٧٢، وتوضيح المشتبه ٥/ ١٣١، ١٣٢، وذيل تـاريخ ابن الفرات ٢٣/٩، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ١/٣٣٨، ٣٣٩ رقم ٣٠٤، وطبقات الشافعية للإسنيوي ٢/ ٥٨، ٥٥ رقم ٦٤٤، ولسمان الميسزان ٢٩٩١، ٣٠٠ رقم ٨٨٠، والتماج المكلَّل للقنوجي ٣٤، والعسجد المسبوك ٢/ ١٨١، ١٨٢، وتبصير المنتبه ٢/ ٧٣٨، والسلوك ج ١ ق ١٣/١، ٧٢، وعقـد الجمـان للعينـي (مخطـوط) ١٦/ورقـة ٦٣٠، والنجـوم الـزاهـرة ٣/ ٨٨، وحسن المحاضرة ١/ ٣٥٤، وطبقات الحفاظ ٤٦٩، وتـاريـخ الخلفـاء ٤٥٧، ومختصر تاريخ دمشق لابن منظور ٣/ ٢٢٩ رقم ٢٧٨، وشذرات الذهب ٤/ ٢٥٥، وديوان الإسلام لابن الغزّي ٣/ ٩٤ رقم ١١٧٥، وكشفُ الظنون ٥٤، ٨٨٥، ٩٨٢، ٩٩٦، ٩٩٧، ١٠٤٤، ١٦٩٦، وإيضاح المكنون ٢/٥٠٨، وفهرس الفهارس للكتاني ٢/ ٣٣٩_ ٣٤٢، والأعلام ٢١٥/١، ومعجم المؤلفيين ٢/٥٧، ٧٦، وتهذيب تباريخ دمشق ١/٤٤٩، ومعجم طبقات الحفاظ والمفسرين ٥٧ رقم ١٠٤٧، وموسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي (تأليفنا) ق ٢ ج ١/ ٣٥٥_ ٣٥٧ رقم ٢١٠، ودراسات في تاريخ الساحل الشامي (لبنان في العصر الفاطمي) _ التاريخ الحضاري _ (تأليفنا) ٣٢٤ _ ٣٢٦.

وانظر للسلفي كتابه «معجم السفر» ففيه معلومات كثيرة عنه. وانظر: مختصر معجم السفر، الذي نشره الدكتور إحسان عباس في (أخبار وتراجم أندلسية) بيروت ١٩٦٣ ـ ٥٠ من معجم السفر الذي نشرته د. بهيجة الحسني ـ بغداد ١٩٨٨ هـ ١٩٧٨، والجزء الأول من معجم السفر للدكتور بشار عوّاد معروف في مجلة المورد العمراقية ـ مجلّد ٨، العدد ١، بغداد ١٩٧٩، ومقدّمة كتاب سؤالات الحافظ السلفي لخميس الحوزي، بتحقيق مطاع الطرابيشي، طبعة دار الفكر دمشق ١٤٠٣هـ ١٩٨٣، م.

وجهي شُعرة كالبخاريّ؛ يعني لمّا كتبوا عنه.

وأوَّل سماع السِّلَفِّي سنة ثمانِ وثمانين.

سمع من: القاسم بن الفضل الثقفيّ؛ وسمع من: عبد الرَّحمن بن محمد بن يوسف السَّمْسار، وسعيد بن محمد الجوهريّ، ومحمد بن محمد بن عبد الغفّار بن بن عبد الوهّاب المَدِينيّ، والفضل بن عليّ الحنفيّ، وأحمد بن عبد الغفّار بن أشتة، وأحمد ومحمد ابني عبدالله بن السُّوْذَرْجَانيّ (۱)، ومكّيّ بن منصور بن علان الكرْجيّ، ومَعْمَر بن أحمد اللَّنْبانيّ (۲)، وخلْق كثير.

وعمل مُعْجَماً حافلاً لشيوخه الإصبهانيين. ثمّ دخل في رمضان إلى بغداد، من سنة ثلاث وتسعين وأدرك أبا الخطّاب نصر بن البَطِر، فقال حمّاد الحرانيّ: سمعت السِّلَفيّ يقول: دخلت بغداد في رابع شوّال سنة ثلاث، فساعة دخولي لم يكن لي هِمّةٌ إلاّ أنْ مضيتُ إلى ابن البَطِر فدخلت عليه، وكان شيخاً عَسِراً، فقلت: قد وصلت من إصبهان لأجلك. فقال: إقرأ. جعل بدل الرّاء غَيناً. فقرأتُ عليه وأنا مُتّكِيء لأجل دمامل بي، فقال: أبصِرْ ذا الكلب. فاعتذرتُ بالدّماميل، وبكيت من كلامه، وقرأت سبعة عشر حديثاً، وخرجت، ثمّ قرأتُ عليه نحواً من خمسة وعشرين جزءاً، ولم يكن بذاك.

قلت: فسمع منه، ومن: أبي بكر الطُّرَيْثِيثيّ، وأبي عبدالله بن البُسْري، وثابت بن بُنْدَار، والموجودين بها.

وعمل معجَماً لشيوخ بغداد، ثمّ حجّ وسمع في طريقه بالكوفة من: أبي البقاء المعمّر بن محمّد الحبّال، وغيره.

وبمكّة من: الحسين بن عليّ الطّبريّ.

⁽١) الشُّوْذَرْجاني: بضم السين المهملة، والذال المفتوحة المعجمة، وسكون الراء، وفي آخرها البون. هذه النسبة إلى سُوذَرْجان، وهي من قرى إصبهان. (الأنساب ٧/١٨٥).

 ⁽۲) اللّنباني: بضم اللام، وسكون النون. وفتح الباء المنقوطة بواحدة وفي آخرها النون. هده النسبة إلى محلة كبيرة بإصبهان. (الأنساب ۲۱/۳۲).

وبالمدينة: أبا الفَرَج القزوينيّ.

وقدِم بغدادَ، وأقبل على الفقه، والعربيّة، حتّى برع فيهما، وأتْقن مذهب الشّافعيّ.

ثمّ رحل إلى البصرة سنة خمسمائة، فسمع من: محمد بن جعفر العسكريّ، وجماعة.

وبزَنْجَان: أبا بكر أحمد بن محمد بن زَنْجُويَه الفقيه، الرّاوي عن أبي عليّ بن شاذان.

وبهَمَذَان: أبا غالب أحمد بن محمد المزكّي، وطائفة.

وجَالَ في الجبال ومُدُنها.

وسمع بالرّيّ، والدِّينَوَرَ، وقَزْوين(١١)، وساوَة، ونهاوند.

وكذا طاف بلاد أَذَرْبَيْجَان إلى دَرَبَّنْد، فسمع بأماكن، وعاد إلى الجزيرة من ثغر آمِد.

وسمع بخِلاط، والرَّحْبة. وقدِم دمشقَ سنة تسع وخمسمائة بعلم جَمّ، فأقام بها عامَيْن. وسمع بها من: أبي طاهر الحِنّائيّ، وأبي الحسين بن المَوّازِينيّ، وخلْق.

ثمّ مضى إلى صُور (٢)، وركب منها البحر الأخضر (٣) إلى الإسكندرية،

⁽۱) قال عبد الكريم القزويني: ورد قزوين سنة إحدى وخمسمائة، وسمع بها من أبي الفتح إسماعيل بن عبد الجبار القاضي وغيره، ورأيت خطّه على كثير من الأجزاء العتيقة، وسمع واستفاد منه الحجمّ الغفير. (التدوين ٢/ ٢٢٥).

⁽٢) أقام السَّلَفي مدَّة في صور قبل أن يُبحر إلى الإسكندرية سنة ٥١١ هـ. فكان يأخذ على شيوخها، وهو كان يروي أيضاً، فقصده عبد الجليل الحيفي من حيفا بساحل فلسطين، فسمع منه بصور، وكان من رجال البحر. والتقى السلفي بدمشق وصور أبا النور ضياء بن الحسين بن نصير، وهو من أهل جبل عاملة، وسمع منه. كما سمع بدمشق من: أبي الفرج أحمد بن الحسن بن علي بن زُرعة الصوري، وأبي طالب علي بن عبد الرحمن بن محمد بن أبي عقيل الصوري، وأبي عمرو عثمان بن عمر بن أبي عبدالله البيروتي.

وكان أهل صور وطرابلس يتردّدون عليه وهو في الإسكندرية، ومنهم: عبدالله بن أحمد بن الحسين بن النقّار الطرابلسي وقد علّق عنه من شعره ومن شعر أبيه، وكان يراسله ويكاتبه =

فاستوطنها إلى الموت، لم يخرج منها إلا مرّة في سنة سبّع عشرة إلى مصر، فسمع من: أبي صادق المَدِينيّ، والموجودين. وعاد.

وكان إماماً، مُقْرِثاً، محموداً، ومحدِّثاً، حافظاً، جَهْبَداً، وفقيها متقِناً، ونَخوياً ماهراً، ولُغَوِيّاً محقِّقاً، ثقة فيما ينقله، حُجَّة، ثَبْتاً. انتهى إليه عُلُوّ الإسناد في البلاد. وقد جمع مُعْجَماً ثالثاً في البلدان الّتي سمع بها، سوى إصبهان، وبغداد، فإنّ لكلّ واحدة معجماً.

سمع منه ببغداد من شيوخه ورفاقه: أبو عليّ البَرَدَانيّ، وهزارسب بن عِوض، وأبو عامر العَبْدَريّ، وعبد الملك بن يوسف، وسعد الخير الأندلسيّ.

وروى عنه: الحافظ محمد بن طاهر شيخه، وسِبْطُه أبو القاسم عبد الرحمن بن مكّي، وبينهما في الموت مائةٌ وأربعٌ وأربعونَ سنة.

وروى عنه: الحافظ سعد الخير، وعليّ بن إبراهيم السَّرَقُسُطِيّ، وأبو العِزّ محمد بن عليّ المُلْقَاباذِيّ، والطّبيب بن محمد المَرْوَزِيِّ، وقد روى عن هؤلاء الثّلاثة عنه أبو سعد السّمعانيّ. ومات ابن السّمعانيّ قبله بأربع عشرة سنة.

وروى عنه أيضاً: الصّائن هبة الله بن عساكر، ويحيى بن سعدون القُرْطُبيّ.

وروى عنه بالإجازة جماعة ماتوا قبله، منهم القاضي عِياض.

نظماً. وأنشده أبو الحسن علي بن يحيى الكتاني المجلالي المعروف بالناهض الذي تربّى في خدمة بني عمّار بطرابلس، وأبو البركات محمد بن موهوب القاضي بمصر، وهو من مواليد صور، وأبو الحسين علي بن الحسن بن جعفر الصيداوي الفقيه المعروف بعين الدولة، وتقيّة بنت غيث الأرمنازية، وكان ابنها الفقيه علي بن فاضل بن حمدون الصوري يدرس عليه. وتصدّر في جامع عمرو بن العاص بالفسطاط لإقراء القرآن مع المتصدّرين هبة الله الكاملي الصوري، وكان صديقاً للسلفي أثناء إقامته بصور، فلم ينقطع السلفي عن زيارته في مصر وكان يأنس به. (أنظر: كتابنا: لبنان في العصر الفاطمي التاريخ الحضاري ـ الحياة الثقافية في صور).

 ⁽٣) هكذا يسمّيه المؤلف _ رحمه الله _.

وروى عنه أمم منهم: حمّاد الحَرّانيّ، والحافظ عليّ بن الفضل، والحافظ عبد الغنيّ، والحافظ عبد القاهر الرُّهاويّ، وابن راجح، وعبد القويّ بن الجبّاب، وفرقد الكبانيّ، وعبد الغفّار المحبّلي، ونصر بن جرو، والفخـر الفـارسـيّ، والشّيخ حسـن الأدمـي، وعيسـى بـن الـوجيـه اللّخمـيّ، ومحمد بن عمّاد، ومحمد بن عبد الوهّاب بن الشّيرجيّ، وعبد الخالق بن إسماعيل التّنيسيّ، وعليّ بن رحّال، ومحمد بن محمد بن سعيد المأمونيّ، ومُرْتَضَى بن أبي الجود، وأبو القاسم عبد الرَّحمن بن الصَّفْراويّ، وأبو الفضل جعفر الهَمَذاني، وإبراهيم ومحمد ابناعبد الرحمن بن الجَبّاب، وأحمد بن محمد بن الجَبَّاب، وعبد الرحيم بن الطُّفَيْل، والحسين بن دينار، وعليّ بن مختار، ويوسف بن المخيلي، وظافر بن شُخم، وعليّ بن زيد التَّسَارَسِيّ^(۱)، ومحمد بن عليّ بن تاجر عينه، وحمزة بن أُوْس الغزّال، وعلى بن جُبَارة، ويحيى بن عبد العزيز الأغْمَاتيّ، وحسين بن يوسف الشّاطبيّ، وعبد العزيز بن النَّقَّار، ومظفَّر بن الفُوِّيِّ (٢)، ومنصور بن الدَّماغ، وعليَّ بن محمد السَّخاويّ، وعليّ بن عبد الجليل الرّازيّ، وأبو الوفاء عبد الملك ابن الحنبليّ، وشُعيب الزَّعْفرانيّ، والعَلّم بن الصَّابونيّ، والعزّ بن روَاحة، وعبد الوهّاب بن رواح، ويوسف بن محمود السّاويّ، وبهاء الدّين بن الجِيزيّ، وهبة الله بن محمد ابن الواعظ. وتُوُفَّى سنة خمسين وستَّمائة، والسِّبْط.

وبقي أبو بكر محمد بن الحسن السّفَاقُسيّ إلى سنة أربع وخمسين، فروى عن السّلَفيّ «المُسَلْسَل» بأوّل حديث، رواه حضوراً، ولم يكن عنده سواه. وهو ابن أخت الحافظ عليّ بن المفضّل.

أنبأني أحمد بن سلامة، عن فاطمة، بنت سعد الخير ح. وقال ابن النجّار: قرأتُ على محمد بن عبدالله المخزومي، عن فاطمة بنت سعد

التَّسَارَسي: بفتح التاء المشدَّدة المثنّاة والسين المهملة، والراء، وسين مهملة أخرى.
 (أنظر: معجم البلدان) وفيه: تسارس: قصر ببرقة.

 ⁽٢) الفُوّي: بضم الفاء وتشديد الواو المفتوحة، نسبة إلى فُوّة بلدة قريبة من الإسكندرية.

الخير، قالت: أنا أبي سنة ثمان وعشرين وخمسمائة: حدَّثني أبو طاهر بن سِلْفَة سنة سبِّع وتسعين وأربعمائة: أنا القاسم بن الفضل الثقفيّ، فذكر حديث البلد الرائع، وهو إصبهان، متنه: «إنَّكم اليوم على دِين وإنِّي مُكاثر بكم الأمم»(١).

ولا أعلم أحداً في الدّنيا حدَّث نيّفاً وثمانين سنة سوى السِّلَفيّ. وقد أملى المجالس الخمسة بسَلَمَاس، وعُمره ثلاثون سنة. وعمل «الأربعين البلديّة» الّتي لم يُسْبَق إلى مثلها.

وقد انتخب على غير واحدٍ من شيوخه.

قال الزّاهد أبو عليّ الأوْقيّ: سمعت السَّلَفيّ يقول: لي ستّون سنة ما رأيت منارة الإسكندريّة إلاّ من هذه الطّاقة. رواها ابن النّجّار عن الأوْقيّ.

وقال ابن المفضّل في معجمه: عدّة شيوخ شيخنا السِّلَفيّ تزيد على ستّمائة نفس بإصبهان. وخرج إلى بغداد وله نَحْوٌ من عشرين سنة أقلّ أو أكثر، ومشيخته البغداديّة خمسة وثلاثون جزءاً. وله تصانيف كثيرة. وكان يستحسن الشِّغْر ويَنْظمُه، ويُتيب من يمدحه.

وأخذ الفقه عن: إِنْكِيا أبي الحسن عليّ بن محمد الطَّبَريّ، وأبي بكر محمد بن أحمد الشّاشيّ، وأبي القاسم يوسف بن عليّ الزّنجانيّ.

والأدب عن: أبي زكريّا التّبْرِيزيّ، وأبي الكَرَم بن فاخر، وعليّ بن محمد القصبجيّ.

وسمعته يقول: متى لم يكن الأصل بخطّي لم أفرح به.

وكان جيّد الضَّبْط، كثير البحث عمّا يُشْكُل عليه. وكان أوحد زمانه في علم الحديث، وأغرَفهم بقوانين الرّواية والتَّحْدِيث. جمع بين عُلُوّ الإسناد، وعُلُوّ الإنتقاد، وبِذلك كان ينفرد عن أبناء جنسه.

⁽۱) حديث إني مكاثر بكم الأمم، أخرجه النسائي في النكاح ٢/ ٦٥، ٦٦ باب: كراهية تزويج العقيم، وابن ماجه في النكاح (١٨٦٣) باب تزويج الحرائر والولود، وأحمد في المسند ٣/ ١٥٨ و ٢٤٩ و ٢٤٩ و ٢٥٠.

وقال ابن السمعانيّ في «الذَّيْل»: هو ثقة ورع، متقِن، متيقظ، حافظ، فَهْم، له حِفْظ من العربيّة، كثير الحديث، حَسَن الفَهْم والبَصيرة فيه.

روى عنه الحافظ ابن طاهر فسمعت أبا العلاء أحمد بن محمد بن الفضل الحافظ يقول: سمعت محمد بن طاهر المقدسيّ يقول: سمعت أبا طاهر الإصبهانيّ، وكان من أهل الصَّنْعة، يقول: كان أبو حازم العَبْدريّ: إذا روى عن أبي سعد المالينيّ يقول: أنبا أحمد بن حفص الحديثيّ هذا أو نحوه.

وقال الحافظ عبد القادر الرُّهاويّ: سمعت من يحكي عن الحافظ ابن ناصر أنّه قال عن السَّلَفيّ: كان ببغداد كأنّه شُعْلة نار في تحصيل الحديث.

قال عبد القادر: وكان له عند ملوك مصر الجاه والكلمة النّافدة مع مخالفته لهم في المذهب. وكان لا يبدو منه جفوةٌ لأحد، ويجلس للحديث فلا يشرب ماء، ولا يَبْزق، ولا يتورّك، ولا يبدو له قَدَم، وقد جاز المائة.

بلغّني أنّ سلطان مصر حضر عنده للسّماع، فجعل يتحدَّث مع أخيه فَزَبَرَه وقال: إيش هذا، نحن نقرأ الحديث وأنتما تتحدَّثان؟ ا

قال: وبلغني أنّه في مدّة مُقامه بالإسكندريّة، وهي أربعٌ وستّون سنة، ما خرج إلى بستان ولا فرجة غير مرّة واحدة. بل كان عامّة دهره لازماً مدرسَتَه، وما كنّا نكاد ندخل عليه إلاّ نراه مطالِعاً في شيء. وكان حليماً، متجمّلاً لحُفّاظ الغرباء.

وقد سمعت بعض فُضَلاء هَمَذَان يقول: السَّلَفيّ أحفظ الحفّاظ.

وحدَّث بدمشق، فسمع منه أصحابنا، ولم أظفر بالسماع منه. وسمعت بقراءته من شيوخ عدّة. ثمّ خرج إلى مصر، واستوطن الإسكندريّة، وتزوَّج بها امرأةً ذات يسار، وحصلت له ثروة بعد فقر وتصوّف. وصارت له بالإسكندريّة وجاهة. وبنى له العادل عليّ بن إسحاق بن السّلار أميرُ مصر مدرسة بالإسكندريّة. وحدَّثني عنه أخي وأجاز لي. أنا ابن البَطرِ أنا ابن البيّع، فذكر حديثاً، وهو موافقة مسلم من سادس المَحَامِليّات.

ثمّ قال: أنشدنا أبو سعد السّمّعانيّ بدمشق، أنشدنا أبو العزّ محمد بن عليّ البُسْتيّ: أنشدنا أبو طاهر أحمد بن محمد الحافظ لنفسه بمَيّافارقين:

وقلت: أنشَدَناهما أبو الحسين اليُونِينيّ وأبو عليّ بن الخلاّل قالا: أنشدنا جعفر بن عليّ، أنشدنا السِّلَفيّ، فذكرهما.

وقال الحافظ عبد القادر عنه: وكان آمراً بالمعروف، ناهياً عن المنكر، حتى إنه كان قد زال من جواره مُنكرات كثيرة. ورأيته يوماً وقد جاء جماعة من المقرئين بالألحان فأرادوا أن يقرأوا، فمنعهم من ذلك وقال: هذه القراءة بدعة. بل آقرأوا ترسمًا للهم فقرأوا كما أمرهم.

قرأت بخط الحافظ عبد الغنيّ جزءاً فيه نقل خطوط المشايخ للسّلَقي بالقراءات. وقد قرأ بحرف عاصم على أبي سعد المطرّز؛ وقرأ بحمزة والكِسائيّ على محمد بن أبي نصر القصّار، وقرأ برواية قالون على نصر بن محمد الشّيرازيّ، وبرواية قُنبُل على عبدالله بن أحمد الخِرَقيّ. وقد قرأ عليهم سنة إحدى وتسعين وبعدها.

وقال ابن نُقْطَة (٣): كان حافظاً، ثقة، جَوّالاً في الآفاق. سأل عن أحوال الرجال شجاعاً الدُّهْلي، والمؤتمن السّاجيّ، وأبا عليّ البَرَدَانيّ، وأبا الغنائم النَّرْسِيّ، وخميساً الحَوْزِيّ.

وحدَّثني عبد العظيم المُنْذِريّ الحافظ قال: لمّا أرادوا أن يقرأوا «سُنَن النَّسائيّ» على السِّلَفيّ أتوه بنسخة سعد الخير وهي مصحّحة قد سمعها من

⁽١) في سير أعلام النبلاء ٢١/٣٦: ﴿ فَإِذَا جَنَّ لَيْلُهُمْ ۗ . وَالْمُثْبَتُ يَتَفَقَ مِعَ : الْوَافِي بالوفيات.

⁽٢) سير أعلام النبلاء ٣٦/٢١، الوافي بالوفيات ٧/٣٥٣.

⁽٣) في التقييد ١٧٦.

الذُّونيّ. فقال: إسمي فيها؟ قالوا: لا. فاجتذبها من يد القاريء بغيظ وقال: لا أُحدِّث إلاّ من أَصلِ فيه اسمي. ولم يُحدِّث بالكتاب.

وقال لي عبد العظيم إنّ أبا الحسن المقدسيّ قال: حفظت أسماء وكنّى، وجئت إلى السِّلَفيّ فذاكَرْتُه بها، فجعل يذكرها من حفظه، وما قال لي أحسنت. وقال: ما هذا شيء مليح، أنا شيخ كبير في هذه البلدة هذه السّنين لا يُذاكرني أحدٌ وحِفْظي هكذا.

وقال أبو سعد السمعاني: أنشدنا يحيى بن سعدون النَّحْويّ بدمشق: أنشدنا السَّلَفيّ لنفسه:

عند أرباب عِلْمِهِ النَّقَادِ مَان والحِفْظ صحّةُ الإسنادِ فاغتنمُهُ فذاك أقصر المرادِ (١)

ليس حُسْنُ الحديثِ قربَ رجالٍ بل عُلُوّ الحديثِ عند أُولي الإنْـ فإذا ما تجمّعا في حديث

قلت: أنشدنا اليُونِينيّ، وابن الخلّال قال: أنشدنا جعفر أنشدنا السَّلَفيّ فذكرها.

قرأت بخط السيف بن المجد: سمعت أحمد بن سلامة النّجّار يقول إنّ الحافظَين: عبد الغنيّ وعبد القادر، أرادا سماع كتاب اللّالكائيّ، يعني «شرح الشّنة»، على السّلَفيّ، فأخذ يتعلّل عليهما مرّة، ويدافعهما عنه أخرى بأصل السّماع، حتى كلّمته امرأتُه في ذلك.

قرأت بخط الحافظ عمر بن الحاجب أنّ «معجم السَّفَر» للسِّلَفيّ مشتمِل على ألفَىٰ شيخ.

وقال الحافظ زكيّ الدّين عبد العظيم: كان السُّلَفيّ مُغْرَى بجمع الكُتُب والاستكثار منها. وما كان يصل إليه من المال يُخرجه في شرائها. وكان عنده خزائن كُتُب، ولا يتفرَّغ للنَّظَر فيها. فلمّا مات وجدوا مُعْظَم الكتب في

⁽١) سير أعلام النبلاء ٢١/٣٧.

الخزائن قد عَفَّنت، والتصق بعضها في بعض، لنَدَاوة الإسكندريّة. وكانوا يستخلصونها بالفأس فتلَفَ أكثرها.

أنبأنا أحمد بن سلامة الحدّاد، عن الحافظ عبد الغنّي، أنّ السّلَفيّ أنشدهم لنفسه:

ضَــلَّ المجسِّم والمعطَّـل مثلـه وأتــى أمــاثلهــم ينكــر لا رعــوا وعــدوا يقيسـون الأمــور بــرأيهــم فــالأوّلــون تعــدوّا الحَــدُّ اللّــدي وتصـــوّروه صـــورة مــن جنسنــا والآخــرون فعطلــوا مــا جــاء فــي وأبـوا حـديث المصطفى أن يقبلـوا

عن منهج الحق المبين ضلالا من مَعْشَرِ قد حاولوا الأشكالا ويُسدلِسون على الورى الأقوالا قد حُد في وصف الإله تعالى(١) جسما، وليس الله عز مشالا القرآن أقبح بالمقال مقالا ورأوه حَشْدواً لا يفيد منالا

وهي بِضعةٌ وعشرون بيتاً.

وله قصيدةٌ أخرى نحوٌ من تسعين بيتاً، سمّى فيها أئمّة السُّنّة، ورؤوس البِدْعة، أوردتُها في ترجمته الّتي أفردتها (٢).

وقال الوجيه عيسى بن عبد العزيز اللَّخْميّ: تُوُفّي الحافظ صبيحة الجمعة خامس ربيع الآخر سنة ستَّ وسبعين، وله مائة وستّ سِنين. ولم يزل يُقرأ عليه الحديث إلى أن غربت الشّمس من ليلة وفاته، وهو يرد على

⁽١) في الأصل: «تعالا».

⁽۲) وأورد القزويني من شعره:

دين السرسول وشرعه أخباره من كنان مشتغبلاً بهنا وينشيرها إيضاً:

كــم جئــت طـــولاً وعــرضـــاً ومــــــا ظفـــــرت بخــــــــلِّ (التدوين ۲۲۲/۲).

وأجــــلّ عِلــــم يُقتنَــــى آثــــاره بيـــن البـــريّـــة لا عَفَـــت آثـــاره

وجلست أرضماً فسأرضا مسن غيسر غِسلٌ فسأرضى

القارىء اللَّحْن الخَفِيّ، وصلّى يوم الجمعة الصّبح عند انفجار الفجر، وتُونُفّي بعدها فجأةً.

قلت: قد اضطّرب قول السَّلَفيّ في مولده. وقد ذكرنا قوله للحافظ عبد الغنيّ إنّه كان ابن نحو عشر سِنين وقت قُتِل نظام المُلْك، فيكون مولده على هذا القول في حدود سنة خمسِ وسبعين.

وقال الإمام شهاب الدين أبو شامة: سمعت الإمام عَلَم الدين السَّخَاويّ يقول: سمعت أبا طاهر السِّلَفيّ يوماً وهو ينشد لنفسه شِعراً قاله قديماً، وهو: أنا من أهل الحديث وهم خير فِئَهُ بُرْت تسعين وأرجو أن أجوز مائهُ

فقيل له: قد حقّق الله رجاءك. فعلمت أنّه قد جاوز المائة. وذلك في سنة اثنتين وسبعين وخمسمائة.

وقال محمد بن عبد الرحمن بن عليّ التَّجِيْبيّ الأندلسيّ: سمعت الحديث على السَّلَفيّ، ووجدت بخطّه: مولدي بإصبهان سنة اثنتين وسبعين وأربعمائة تخميناً لا يقيناً.

وقال قاضي القضاة ابن خَلِّكان^(۱): كانت ولادة السَّلَفيّ سنة اثنتين وسبعين تقريباً.

قال: وجدت العلماء بالدّيار المصريّة من جملتهم الحافظ زكيّ الدّين عبد العظيم يقولون في مولده هذه المقالة.

قال: ثمّ وجدت في كتاب «زهر الرياض» لجمال الدّين عبد الرحمن بن عبد المجيد الصَّفْراويّ يقول: إنّ السُّلَفيّ كان يقول: مولدي ـ بالتّخمين لا باليقين ـ سنة ثمانٍ وسبعين.

قد شذً الصَّفْراويّ عن الجماعة بهذا القول، والسَّلَفيّ فقد جاوز المائة بلا رَيْب. وقد طلب الحديث، وكتب الأجزاء، وقرأ بالروايات في سنة تسعين

⁽١) في وفيات الأعيان ١٠٦/١، ١٠٧.

وبعدها، فقد حكى الحافظ عبد الغنّي أنّه حدَّث سنة اثنتين وتسعين، وما في وجهه شعرة، وأنّه كان ابن سبع عشرة سنة أو نحوها، ولكنّه اختلف قوله، فتارة قال سنة اثنتين وسبعين تقريباً، وتارة يقول في سنة خمس وسبعين تقريباً، وهذا تبايُن ظاهر (١).

١٩٥ ـ أحمد بن أبي الوفاء^(٢).

الصّائغ الحنبليّ.

قد ذُكِر في العام الماضي. وقيل: تُوُفّي في هذا العام.

۱۹۲ - إبراهيم بن عليّ بن مواهب^(۳).

أبو إسحاق ابن الزّرّاد، الأَزَجيّ، البزّاز.

روى عن: أبي الغنائم النَّرْسيِّ.

سمع منه: أبو سعد السّمعانيّ.

وتُوفِّي في رجب.

١٩٧ ــ أيّوب بن محمد بن وهْب بن أيّوب.

أبو محمد الغافِقيّ، المعروف بابن نوح، وهو لَقُب جدّهم وهْب بن أيّرب لُقّب به لكثرة أولاده.

كان أبو محمد من رؤساء سَرَقُسْطَة.

روى عن: أبيه محمد، وأبي زيد بن الورّاق، وأبي مروان بن الصَّيْقل، وجماعة.

وأخذت الروم سَرَقُسْطَة فخرج منها سنة اثنتي عشرة إلى طرطُوشَة، ثمّ سكن غَرْناطَة، ولقي أبا عبدالله بن أبي الخصال، وكتب عنه خطَبه الّتي عارض بها ابن نُباتة. ثمّ كرَّ إلى بَلنسية فسكنها، وولي قضاء جزيرة سَقر بعد أبيه. ونسخ عِلماً كثيراً، وجمع شيئاً من التّاريخ رواه عنه ابنه القاضي أبو

⁽١) كتب بعضهم على هامش الأصل: ﴿إِذَا قَالَ تَقْرِيباً فَقَدَ ارْتَفَعَ الْتَبَايِنِ ٩.

⁽٢) تقدّم برقم (١٤٣).

⁽٣) تقدم برقم (١٤٥).

عبدالله محمد بن نوح، وقال: تُونِّي في صَفَر عن تسعين سنة.

_ حرف الباء _

۱۹۸ ـ بدر^(۱).

الحبشيّ الجذاذاديّ (٢)، الطّواشيّ، أبو الضّياء، مولى العدل أبي عبدالله محمد بن جَذاذاد الإسكندريّ أو المصريّ، والثّاني أقرب.

سمع: أبا عبدالله محمد بن أحمد الرّازيّ، وأبا صادق المَدِينيّ، وأبا الحسين الفرّاء، وعبد الرحمن بن فاتك، وأبا القاسم بن الدُّوريّ.

روى عنه: أبو الحسن بن المفضّل، ويوسف بن جبريل اللّواتيّ، وأبو القاسم سِبْط السُّلَفيّ، وآخرون.

وتُوُفّي في شوّال رحمه الله تعالى.

_ حرف التاء _

۱۹۹ ـ تورانشاه^(۳) .

⁽١) أنظر عن (بدر) في: سير أعلام النبلاء ٢٠/ ٥٧٩ وفيه: «راوي الصحيح».

⁽٢) في السير: «الجداداذي».

⁽٣) أنظر عن (تورانشاه) في: البرق الشامي ٢/٢٥، ٧٧٨ ، ٩٩، ٩٩، ١٤٢، ١٤٢، ١٥٣، وسنا البرق الشامي ١٢٩١، والروضتين، والكامل في التاريخ ١٢٨١، ٤٦٩، ٤٦٩، والبستان (مخطوط) ورقة ١١٩أ، ومفرّج الكروب ٢/٢٨، ٢٢٩، وتاريخ الزمان ١٩٧، وتاريخ الزمان ١٩٧، وتاريخ مختصر الدول ٢١٨، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ١١٨٦/، ووفيات الأعيان ١٨٦، ٣٠، والمدرّ ومرآة الـزمان ١٨٢، ٣٦، والمدرّ المطلوب ٢٨، ومسالك الأبصار (مخطوط) ٢٧/ ورقة ١١٠ أ، والإعلام بوفيات الأعلام ١٨٣، وسيسر أعلام النبلاء ٢١/٣٥، ٥٥ رقم ١١، ودول الإسلام ٢/٩٨، والعبر ١٢٨، وسيسر أعلام النبلاء ٢١/٣٥، ٥٥ رقم ١٠، ودول الإسلام ٢/٩٨، والعبر ٤٢٨، وتاريخ ابن الوردي ٢/٠٩، والوافي بالوفيات ١١/١٤١ ـ ٣٤٤ رقم ٣٩٤، ومرآة الجنان ٣٠٤، ٣٠٥، والبداية والنهاية ٢١/٣، ٣٠٧، ومآثر الإنافة ٢/٥٢ (وفيه مات سنة ٧٥، هـ.)، والسلوك ج ١ ق ١/٢١، والذهب المسبوك في ذكر ٢/٥٢ (وفيه مات سنة ٧٥، هـ.)، والسلوك ج ١ ق ١/٢١، والذهب المسبوك في ذكر ١٨٢٠، والعسجد المسبوك ٢/٨١، والنجوم الزاهرة ٢/٧٨، وتاريخ ابن سباط ١/١٥١، ١٥٨، والعسجد المسبوك ٢/٨١، والنجوم الزاهرة ٢/٨١، وتاريخ ابن سباط ١/١٥٠،

الملك المعظّم، شمس الدَّوْلَة بن أيوب بن شاذي، أخو صلاح الدّين، والسَّلطان سيف الدِّين، وكان يُلقَّب أيضاً بفخر الدِّين. وكان أَسَنَّ من صلاح الدّين، فكان يحترمه ويرجّحه على نفسه. وسيّره سنة ثماني وستّين إلى بلاد النُّوبة ليفتحها، فلمَّا قدِمَها وجدها لا تساوي التَّعب، فرجع بغنائم كثيرة، ورقيق.

ثمّ أرسله إلى اليمن، وبها عبد النبيّ بن مهديّ قد استولى على أكثر اليمن. فقدِمَها تورانشاه، وظفر بعبد النّبيّ وقتله، وملك معظم اليمن.

وكان سخيّاً جواداً. ثمّ إنّه قدِم دمشق في آخر سنة إحدى وسبعين، وقد تمهّدت له مملكة اليمن، لكنه كره المُقام بها، وحنَّ إلى الشّام وثِماره. وكان قد جاءه رسول من أخيه صلاح الدّين يرغّبه في المُقام باليمن، فلمّا أدّى الرسالة طلب ألف دينار، وقال لغلام له: إمضِ إلى السّوق واشترِ لي بها قطعة ثلج. فقال: ومن أين هنا الثَّلج؟ فقال: فاشترِ به طَبَق مشمش، فقال: ومن أين يوجد ذلك؟ فأخذ يذكر له أنواع الفواكه، والغلام يقول ما يوجد. فقال للرسول: ليت شِعْري، ما أصنع بالأموال إذا لم أنتفع بها في شهوتي؟

ورجع الرسول فأذِن له السَّلطان في القُدوم. وقد كتب له بإنشاء القاضي الفاضل:

> لا تضجَرن ممّا أتيت (١) فإنه أمَّــا فِــراقَــكَ واللَّقــاءُ فـــإنَّ ذا حىول المضاجع كُتْبُكُمْ فكأنّني كم يَلْبَثُ الجسَّمُ الَّذي ما نفْسُهُ

صدر لأسرار الصّبابةِ يَنْفِتُ منه أمُهوتُ وذا منه أُنعَهُ حَلَف الزّمان على تفرُّق شَمْلِنا فَمَتَى يرقُ لنا الزّمان ويَخْنَثُ؟ مَلْسُوعُكُمْ وهْمِي السُّوْقَاةُ النُّفَّـثُ فيه ولا أنف است كرم يلبث (٢)

فلمّا قدِم دمشق استنابه بها صلاح الدّين لمّا رجع إلى مصر. ثمّ انتقل

وتحفة الأحباب للسخاوي ٩٧، وشدرات الذهب ٤/٢٥٥.

هكذا في الأصل، وديوان القاضي الفاضل. وفي الواني بالوفيات ١٠/١١ «أبثُّ». (1)

ديوان القاضي الفاضل ١/ ٤٨٥، الوافي بالوفيات ١٠/ ٤٤١، ٤٤٢.

تواراتشاه إلى مصر سنة أربع وسبعين.

وكانت وفاته بالإسكندريّة في صَفَر سنة ستٌّ، فنقلته شقيقته ستّ الشّام فدفنته في مدرستها.

وذكر المهذَّب محمد بن عليّ بن الخِيَميّ الحِلْيّ الأديب قال: رأيت في النّوم شمس الدّولة تورانشاه بعد موته، فمدحته بأبيات وهو في القبر، فلفّ كفنه ورماه إلى، ثمّ قال:

لا تستقلَّنَّ معروفها سمحتُ به ميَّتا فأمسيتُ (١) منه عاري البدن إنّى خرجتُ من الدّنيا وليس معى

ولا تظنُّونَ جُودي شَانَهُ بَخَلٌ مِن بعد بذُّلِيَ ملك الشَّام واليمن من كلّ ما ملَكَتْ يدي (٢) سوى كَفَنى ^(٣)

تورانشاه: معناه ملك الشّرق. قال ابن الأثير: كان لمّا قدِم من اليمن وعمل نيابة دمشق قد ملك بَعْلَبَكّ، ثمّ عوَّضه أخوه عنها بالإسكندريّة إقطَاعاً، فذهب إليها. وكان له أكثر بلاد اليمن، ونوّابه هناك يحملون إليه الأموال من زُبيد، وعدن، وما بينهما.

وكان أَجْوَد النَّاس وأسخاهم كفًّا، يُخرج كلَّما يُحمل إليه من البلاد، ومع هذا مات وعليه نحو مائتي ألف دينار، فَوَفاها أخوه صلاح الدّين عنه. وكان منهمكاً على اللَّهُو واللَّعِب، فيه شرِّ وظُلْم.

_ حرف الحاء _

٢٠٠ ـ حمّاد بن إبراهيم بن إسماعيل بن إسحاق بن أحمد بن شيث بن نصر بن شيث بن الحَكَم بن افلذ بن أبان بن عُقْبة بن يزيد(٤).

في الوافي: «فأصبحت». (1)

في الوافي: «كفّي». **(Y)**

الُوافي بالُوفيات ١٠/٤٤٢، ٤٤٣، وانظر له قصيدة أخرى. (٣)

أنظر عن (حمَّاد بن إبراهيم) في: تاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة باريس ٩٢٢٥) ورقة ٣٨، (٤) والأنساب ٨/٧٨، وسير أعلام النبلاء ٢٦/١١، ٩٦ رقم ٣٨، والجواهر المضيّة ١/٢٢٤،=

الإمام قِوام الدّين أبو المحامد ابن الإمام رُكْن الدّين أبي إسحاق ابن الإمام أبي إبراهيم الوائليّ، البخاريّ ابن الصّفّار الحنفيّ.

سمع من: أبيه، وإسماعيل بن أحمد بن الحسين البَيْهقيّ.

وعنه: إسماعيل بن محمد البَيْلَقيّ، وإبراهيم بن سالار الخُوارزْميّ، وأبو الفضل عُبَيْدالله بن إبراهيم المحبوبيّ، والأديب أبو عليّ الحسن بن عمر التِّرْمِذيّ، وبُرهان الإسلام عمر بن مسعود بن مازة، وآخرون آخرهم موتاً تاج الإسلام محمد بن طاهر بن محمد الخُدَاباذيّ البخاريّ.

نقلت ذلك من خطّ الفَرَضيّ (١).

ثمَّ قال:

ـ وأبوه رُكْن الدّين.

من كبار مشايخ البخاريّ. سمع على: والده، وعلى عمر بن منصور البزّاز المعروف بخَنْب، وعبد العزيز بن المستقرّ الكرْمِينيّ، وأجاز له، وشيخ الإسلام أبو نصر أحمد بن عثمان العاصميّ البلْخيّ، وغيرهم.

قال: وتُوُفّي رُكُن الدّين بعد سنة اثنتين وثلاثين وخمسمائة.

ـ وأبوه إسماعيل الوائليّ:

روى عن: عمر بن عبد العزيز بن محمد بن النَّضْر الشُّرُوطيّ، وأبي عاصم محمد بن عليّ البلْخيّ، وأبي الحسين عبد الغافر بن محمد الفارسيّ. وعنه: ولده رُكن الدِّين. ولم يذكر الفَرَضيّ لهذا وفاة.

رقم ٥٦٠، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤/رقم ٣٠٤١، والوافي بالوفيات ١٥٣/١٣ رقم ١٠٣١.
 ١٦٦، وغاية النهاية ٢/ ٣٤٥ رقم ١٤٠١، ولسان الميزان ٢/ ٣٤٥ رقم ١٤٠١.

⁽١) وقال الصفدي: من بيت العلم والزهد، شذا طرفاً من الكلام والفقه والأدب. وكان يؤمّ بالناس يوم الجمعة في الصلاة ويخطب غيره. وكذا عادة أهل بخارا، لا يصلّي بهم الخطيب إلا من هو أعلم منه وأحسن طريقة. ووقع في الوافي أنه توفي سنة ثلاث وتسعين وأربعمائة؟

ـ حرف الخاء ـ

۲۰۱ ـ خَلَف بن يحيى بن خطّاب(۱).

أبو القاسم القُرْطُبيّ الزّاهد.

من أهل التصوُّف والهَدْي الصَّالح.

وكان يُوصف بإجابة الدَّعوة. أمَّ بجامع قُرْطُبة مُدَيْدَة، ثمَّ رغب في الانقباض.

وكان يعظ ويقصده النَّاس للبركة رحِمه الله تعالى.

_ حرف السين _

٢٠٢ ـ سالم بن إسحاق بن الحسين.

البزّاز أبو المعالي التّنوخيّ. تاجر صاحب مُرُوءَة وخير.

قال الشّيخ الموفّق: كان ذا مروءة وكرم. حملني الحافظ عبد الغنيّ من بغداد إلى دمشق، وكنّا نرى منه كَرَماً وبذْلاً.

قلت: روى عن سعيد بن البنّا، وجماعة من البغداديّين.

سمع منهم بعد الأربعين وخمسمائة.

وروى عنه: أبو المواهب بن صَصْرَى، والحافظ عبد القادر، والشّيخ الموقّق.

وكان يسافر كثيراً للتّجارة.

وتُوُفّي في عَشْر السّتّين.

 $^{(Y)}$. walk in library in mark in archi^(Y).

⁽۱) أنظر عن (خلف بن يحيى) في: تكملة الصلة لابن الأبّار ٣٠٤/١ رقم ٨٣٠، والوافي بالوفيات ٣٦٩/١٣ رقم ٤٦٢.

 ⁽۲) أنظر عن (سعيد بن الحسين) في: العبر ٢٢٩/٤، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٧ رقم ١٨٨٠، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، وسير أعلام النبلاء ٢٧٩/١، ومرآة الجنان ٣/٥٠، والنجوم الزاهرة ٢/٨٨، وحسن المحاضرة ١/٣٧٥، وفيه «سعد». =

أبو المَفَاخر الهاشميّ، المأمونيّ، النَّيْسابوريّ، الشّريف.

قدِم مصر وحدَّث بها «بصحيح مسلم» غير مرّة، عن أبي عبدالله الفراويّ.

روى عنه: أبو الحسن بن المفضّل المقدسيّ، وصالح بن شجاع الدلَجيّ، وأحمد بن محمد بن عبد العزيز ابن الجبّاب، وحفيده محمد بن محمد المأمونيّ، وآخرون.

ورَّخه ابن المفضّل.

۲۰۶ ـ سعيد بن عبدالله بن القاسم (۱۰).

فخر الدّين أبو الرّضا، أخو القاضي كمال الدّين محمد الشَّهْرزُوريّ^(٢).

فقيه شافعيّ. سمع بالعراق من: زاهر الشّحّاميّ، والقاضي أبي بكر، وجماعة.

وتفقّه بخُراسان عند الفقيه محمد بن يحيى. وعاد إلى المَوْصِل، وتقدّم وسادَ، وصار أوجه أهل بيته. وسار في الرسليّة إلى بغداد.

سمع منه: هبة الله بن الحسن الفقيه، والياس بن جامع الإربلي، وأحمد بن صَدَقة.

وتُوُفّي في جُمَادى الآخرة في العَشْر الأخير عن سبعين سنة (٣).

٢٠٥ _ سليمان بن أحمد بن سليمان (٤) .

وشذرات الذهب ٢٥٧/٤، وبدائع الزهور ج ١ ق ١/٢٤٤ وقد ورد في الأصل: «سعد» والمثبت من المصادر.

⁽۱) أنظر عن (سعيد بن عبدالله) في: مرآة الزمان ۱/۳۲٪، ۳۲۳، والمختصر المحتاج إليه ٢/٧٨٧ ٨٨ رقم ٦٩٢، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤/ رقم ١٢٥٢، والوافي بالوفيات ١٤/ ٢٣٢، ٣٣٢ رقم ٣٣٦، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٢٢١/٤.

⁽Y) أنظر عنه في: المختصر المحتاج إليه ١/٥٥.

 ⁽٣) مولده سنة ٥٠٦ هـ. وكان أمير أهل بيته، يعرف المذهب والخلاف، ويكتب خطاً حسناً.
 وكان نزهاً كثير الصدقة مقبلاً على أهل الخير.

⁽٤) أنظر عن (سليمان بن أحمد) في: تكملة الصلة لابن الأبار، رقم ٦٩٨٧، والليل والتكملة =

وبعض أصحابه قال فيه: سليمان بن خَلَف.

أبو الحسين الإشبيليّ جدّ أبي العبّاس أحمد بن سيّد النّاس لأمّه.

سمع من: أبي بكر بن طاهر، وأبي الحسن شُرَيْح وأخذ عنه القراءآت.

وسمع من: ابن العربيّ، وغير واحد.

وكان مُقْرِئاً، نَحْوِيّاً، ضابطاً، مجوّداً.

أخذ عنه: أبو محمد، وأبو سليمان ابنا حَوْط الله، ومفرَّج بن حسين الضّرير، وغيرهم.

حدَّث في هذا العام وأنقطع ذِكره.

۲۰۲ ـ سليمان بن محمد بن حسن (۱)

أبو طالب العُكْبَرِيّ، ثمّ الواسطيّ، المقرىء.

قرأ القراءآت علَى: ابن شيران، وأبي بكر المَزْرَفيّ، وسِبْط الخيّاط، والشَّهْرزُوريّ.

قرأ عليه ابن الدَّبِيثيّ، وعليّ بن منصور البُرْسُقيّ.

ـ حرف العين ــ

٢٠٧ ـ عبدالله بن المحدِّث عبد الرَّحمن بن أحمد بن عليّ بن صابر السُّلَميّ (٢٠).

أبو المعالي الدّمشقيّ، ويُعرف بابن سيده.

وُلِد سنة تسع وتسعين وأربعمائة.

⁼ لكتابي الموصول والصلة ٢/٤٥، ٥٧ رقم ١٣٠، وبغية الوعاة ١/٦٦٥ رقم ١٢٦٤.

⁽۱) أنظر عن (سليمان بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٧٧/٢ رقم ١٠٦، ومعرفة القراء الكبار (مخطوطة دار الكتب الوطنية بباريس ٢٠٨٤) ورقة ١٦٩، وغاية النهاية ١/ ٣١٥ رقم ١٣٨٦.

 ⁽۲) أنظر عن (عبدالله بن عبد الرحمن) في: الإعلام بوفيات الأعلام ۲۳۷، وسير أعلام النبلاء
 ۲۱/ ۹۳ ، ۹۶ رقم ۴۶، والعبر ۲۲۹/۶، والمختصر المحتاج إليه ۲۲۲۲، ۱٤۷ رقم
 ۷۷۷، والنجوم الزاهرة ۲۸۸۱، وشذرات الذهب ۲۵۲/۶، والعسجد المسبوك ۲۸۲۲.

وسمع: الشّريف أبا القاسم النّسيب، وأبا طاهر محمد بن الحسين الحِنّائي، وابن الموازيني، وطبقتهم.

وحدَّث ببغداد فسمع منه: الحافظ أبو سعد السّمعانيّ كتاب «المروة». وذكره في «الذّيل» فقال: شابٌّ قدِم بغداد للتّجارة.

وذكره أبو المواهب بن صَصْرَى في «معجمه» فقال: باع كُتُب أبيه وعمّه بثمن بَخْس، وأعرض عن الخير في وسط عُمره، ثمّ أقلعَ في آخره، وسُمِع منه مِن النَّسَخ الّتي بأيدي النّاس.

وتُوُفّي ف*ي* رجب.

قلت: وروى عنه الحافظ أبو محمد عبد الغنيّ (١)، والشّيخان أبو عَمْرو والموفّق، والبهاء عبد الرَّحمن، والشّمس عمر بن المُنَجَّا، وسالم بن عبد الرّزّاق، وأخوه يحيى، وعبد الحقّ بن خَلَف، والحافظ الضّياء، وغيرهم.

٢٠٨ _ عبدالله بن خَلَف بن محمد بن حبيب بن فَرْقَد (٢).

⁽۱) غلط محقق كتاب «العسجد المسبوك» السيد شاكر محمود عبد المنعم، إذ اعتبر أن أبا محمد عبد الغني هذا: هو أبو محمد عبد الغني بن سعيد بن علي بن سعيد بن بشر الأزدي المحافظ المصري، صاحب مشتبه النسبة، وكتاب المؤتلف والمختلف، وغير ذلك. (العسجد ٢/ ١٨٢ بالحاشية رقم ٥٨).

ويقول محقق هذا الكتاب طالب العلم "عمر عبد السلام تدمري": إن هذا غلط فاحش، لأن عبد الغني بن سعيد الأزدي صاحب مشتبه النسبة توفي سنة ٤٠٩ هـ. فكيف يروي عن أبي المعالي الدمشقي وهو لم يكن قد وُلد بعد؟ أما الحافظ أبو محمد عبد الغني اللي يروي عن أبي المعالي فهو: "أبو محمد عبد الغني بن عبد الواحد بن علي بن سرور بن رافع المقدسي الأصل الجماعيلي الدمشقي الدار المصري الوفاة الحنبلي. توفي سنة ١٠٠ هـ. (أنظر عنه: التكملة لوفيات النقلة ٢/٧١ ـ ١٩ رقم ٧٧٧) وأنظر عن "عبد الغني بن سعيد الأزدي" في تاريخ الإسلام (٤٠١ ـ ٢٠١ هـ.) ١٨٨ ـ ١٩٠ رقم ٢٧٧.

⁽٢) أنظر عن (عبدالله بن خلف) في: تكملة الصلة لابن الأبار، رقم ٨٥٤، والليل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٢٢٤، ٢٢٢ رقم ٣٨٢.

أبو محمد القُرَشِيّ، الفِهْريّ، الأندلسيّ، الإشبيليّ.

سمع مع أخيه أبي إسحاق من: أبي محمد بن عتّاب، وأبي الحسن بن قيّ. وناظَرَ في الرأي عن أبي عبدالله بن الحاجّ.

وأخذ القراءآت عن أبي عَمْرو وموسى بن حبيب عن مكّيّ بن أبي طالب.

وقال الأَبّار(١): كان حافظاً للفقه، صادعاً بالحقّ.

مولده بعد التسعين وأربعمائة.

حدَّث عنه ابنه أبو القاسم.

۲۰۹ ـ عبدالله بن مُغِيث بن يونس بن محمد بن مغيث بن محمد بن يونس بن عبدالله بن مُغِيث (۲).

أبو محمد بن الصّفّار الأنصاري، القُرْطُبيّ.

روى عن: جدّه أبي الحسن، وأبي عبدالله بن الحاجّ، وأبي الحسن شُرَيْح، وأبي بكر بن العربيّ، وجماعة.

ووُلِّي قضاء الجماعة بقُرطُبة ثمانية عشر عاماً.

قال الأَبَّار: روى عنه أبو القاسم بن الملجوم، وعامر بن هاشم، وأبو محمد بن حَوْط الله، وأخوه أبو سليمان بن حَوْط الله.

وتُوُفّي في ربيع الأوّل وله ستّون سنة.

٢١٠ ـ عبدالله بن يزيد بن عبدالله.

القاضي أبو محمد السعدي، الغَرْناطي، ثمّ اليَحْصُبيّ. من قلعة يحصب.

حدَّث في هذا العام عن أبي الوليد بن طريف، وأبي الحسن بن البادش، وطائفة.

⁽١) في تكملة الصلة.

 ⁽٢) أنظر عن (عبدالله بن مغيث) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

وعنه: الأخَوان ابنا حوط الله، وابن دحية، وآخرون.

٢١١ _ عبدالله بن يوسف بن عليّ بن محمد.

القُضَاعي، المُرِّي.

سمع من: أبيه.

وبالثُّغر من: أبي عبدالله محمد بن أحمد الرَّازيِّ.

روى عنه: عليّ بن المفضَّل الحافظ.

بقي إلى هذا العام.

٢١٢ ـ عبدالله بن يحيى بن عليّ بن هلال(١).

أبو سعيد الأزَجيّ، الدّبّاس، المعروف بابن الأعرابيّ.

سمع أبا القاسم بن بيان، وأبا ياسر البَرَدانيّ، ومحمد بن عبد الباقي التُّوريّ، وابن الحُصَيْن، وجماعة.

سمع منه: أبو محمد بن الخشّاب مع تقدُّمه.

وروى عنه: ابن الدَّبِيثيّ، والبهاء عبد الرحمن، وجماعة.

وتُوُفّي في ربيع الآخر وله ستٌّ وسبعون سنة.

٢١٣ ـ عبد الرَّحمٰن بن عبد العزيز بن محمد بن عبد الرحمن بن عليّ بن عبد الرحمن بن عليّ بن عبد الرحمن بن سعيد بن حُمَيْد بن أبي العجائز^(٢).

أبو الفهم الأزديّ، الدّمشقيّ.

من بيت الحديث والرواية.

سمع: أبا طاهر الحِنّائيّ، وغيره.

روى عنه: الحافظ أبن عساكر، وابنه القاسم، وأبو المواهب بن صَصْرَى، وإبراهيم الخُشُوعيّ، ومكّيّ بن علّان، وطائفة.

⁽١) انظر عن (عبدالله بن يحيى) في: تاريخ ابن الدبيثي.

⁽٢) أنظر عن (عبد الرحمن بن عبد العزيز) في: العبر ٢٢٩/٤، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧١ رقم ١٨٧٨، وسير أعلام النبلاء ٢١/١٤ رقم ٤١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، والعسجد المسبوك ٢/١٨٣، والنجوم الزاهرة ٢/٨٨، وشذرات اللهب ٢٥٧/٤.

وكان ملازماً لحلقة الحافظ ابن عساكر.

تُونُفّي رحمه الله في جُمادى الآخرة، وله ثمانون سنة. وهو راوي حديث سختام.

٢١٤ _ عبد الرَّحمن بن أحمد بن محمد بن أحمد.

أبو جعفر بن القصير الأزدي، الغَرناطي.

روى عن: أبيه أبي الحسن، وعمّه أبي مروان عبدالملك، وأبي الحسن بن البادش، وأبي الوليد بن رُشد، والقاضي عِباض.

وكان وجيهاً في بلده، من بيت تقدُّم؛ وكان كثير العناية بالرواية، وله حظٌّ وافرٌ من الفِقْه والأدب. وصنَّف تصانيف منها شيء من مناقب أهلُ عصره. وحجَّ وسُكن بإفريقيّة وتونس.

ووُلّي القضاء.

وحدَّث عنه: أبو عبدالله بن نافع الخطيب.

غرق في البحر في آخر العام رحمه الله تعالى.

٢١٥ ـ عبد العزيز بن عبد الواحد بن عبد الماجد بن عبد الواحد بن أبي القاسم القُشَيْريّ.

أبو المحاسن النَّيْسابوريّ، الصُّوفيّ.

تُوُفِّي في ربيع الأوّل، وله خمسون سنة.

روى عن: عبد المنعم القَشَيْريّ.

روى عنه: أبو القاسم بن صَصْرَى.

٢١٦ ـ عبدالله بن محمد بن عبدالله بن هبة الله ابن رئيس الرؤساء.

أبو المفضَّل ابن الوزير أبي الفَرَج. يُلَقَّب كمال الدّين.

استنابه أبوه في الأُسْتَاذ داريّة ثمّ استقلّ بها عندما وَزَرَ أبوه.

وكان ذا غِلْظة وشدّة وطأة وصرامةٍ وقساوة وسوء سيرة. كانت الألْسِنة مُجْمِعَة على ذَمّه. وله شعْرٌ جيّد.

قال العماد الكاتب: هو شهم مَهِيب، وله فهم مُصيب. وهو غضنفر بني المنطقر، وقيل: بني الرقيل. ومن شِعره:

وأهْيَـفٌ معسـولُ النّكاهـة واللَّمَـى مليــح النســى والشّمــائــل والقــدُّ به ريّ عيني وهو ظاميء إلى دمي وخــدّي لــه ورد ومــن خــدُّه وردي

تُونُقي في الكُهُولة. وقد عُزِل عن أستاذيّة الدّار لسوء سيرته، في أيّام أبيه. وخافه مجد الدّين ابن الصّاحب أستاذ دار الخليفة النّاصر، فدَقَّ الحيلة في القبض عليه، ثمّ صادره وعاقبه عقوبةً شديدة. وقيل إنّه رفسه برِجله فمات منها.

۲۱۷ ـ عليّ بن أحمد بن محمد بن بكروس^(۱). أبو الحسن.

وُلِد سنة تسع وخمسمائة.

وتُوُفّي في ثالَث ذي الحجّة ببغداد.

كذا سمَّاه ابن مَشِّق، وسيُعاد.

٢١٨ ـ عليّ بن عبد الرحيم بن الحسين بن عبد الملك (٢).

أبو الحسن بن القَصّار (٣) السُّلَمي، المِرْداسي، الرَّقيّ، ثمّ البغدادي، اللُّغُوي.

⁽١) سيُعاد باسم: «على بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بكروس»، برقم (٢١٩).

⁽۲) أنظر عن (علي بن عبد الرحيم) في: معجم الأدباء ١٩/١، ١١، والكامل في التاريخ ١١ (٢٩) أنظر عن (علي بن عبد الرحيم) في: معجم الأدباب ١٩٤٤ و ٢٩٦ و وانباه الرواة ٢/ ٢٩١، ٢٩١، واللباب ٢/ ١٩٢، ٢٩١، وتلخيص مجمع الآداب ٣/ ٣٦٥، والمعين في طبقات ١/ ٢٩١، ٢٩١، والعبر المحدثين ١٧٧ رقم ١٨٨١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، وسير أعملام النبلاء ١٨٠ (٥٧٨، ٥١٠، والوافي بالوفيات ١٤٥، ١١٥، والوافي بالوفيات ٢/ ٢٢١، ٢٣٠، رقم ١٥٧، وفيه «على ابن عبد الرحيم بن الحسن»، ومرآة الجنان ٣/ ١٦٠، وفيه «على بن عبد الرحمن»، وطبقات النحويين واللغويين لابن قاضي شهبة ٢/ ١٦٤، ١٦٥، والنجوم الزاهرة ٢/٨٨، والعسجد المسبوك ٢/ ١٨٢، وبغية الوعاة ٢/ ١٧٥، وتاريخ الخلفاء ٤٥٧، وشدرات الذهب ٤/ ٢٥٧.

 ⁽٣) هكذا في الأصل وتاريخ الخلفاء ٤٧، وفي العبر ٢٢٩/٤، وسير أعلام النبلاء ٢٠/٥٧٨، وفي والوافي بالوفيات ٢١/ ٢٣٢ «العصار» بالعين، ومثله في العسجد المسبوك ٢/ ٨٢، وفي مرآة الجنان ٣/ ٤٠٥ «عطار».

كان علامة العرب وحُجّة الأدب في نقل اللُّغة.

أخذ عن أبي منصور بن الجواليقيّ، وكتب الكثير. وأكثر المطالعة. وكان مليح الخطّ، أنيق الوراقة والضّبط، ثقة.

سافر إلى مصر تاجراً، وأقام بها مدّة، وقرأ بها الأدب على أبي الحَجّاج يوسف بن محمد بن الحسين الكاتب ابن الخلال صاحب ديوان الإنشاء. ثمّ قدِم بغداد، وتصدّر للإقراء والإفادة في داره.

وكان الفُضلاء يتردّدون إليه، ويقرأون عليه كتب الأدب.

وسمع من: أبي الغنائم بن المهتدي، وأبي العزّ بن كادَش، وجماعة.

روى عنه: أبو الفُتُوح بن الحُصريّ، وابن أخته أحمد بن طارق، وغيرهما.

وتُوُفّي في المحرّم.

ووُلِد سنة ثمانٍ وخمسمائة.

وقال ابن النّجّار: وخلّف مالاً طائلاً، وكان بخيلاً مقتّراً على نفسه رحمه الله تعالى.

قلت: كان آيةً في اللّغة، وهو متوسّط في النَّخُو، وكان تاجراً متموّلاً، سافر إلى مصر. ويحضر حلقة ابن بَرِّي، ويأخذ عنه النّحو، وكان ابن بَرِّيَ يأخذ عنه اللّغة.

وكان يحفظ من أشعار العرب ما لا يوصف(١).

 $^{(Y)}$. عليّ بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بكروس $^{(Y)}$.

⁽١) وقال ابن النجار: لم يكن له عيب سوى تقنيطه على نفسه، وله في ذلك حكايات، وخلّف مالاً طائلاً.

 ⁽۲) تقدّم باسم «علي بن أحمد بن محمد بن بكروس» برقم (۲۱۷).
 وانظر عنه في:
 التاريخ المجدد لابن الدبيثي (مخطوطة باريس ۲۱۳۱) ورقة ۱۲، ۱۷، والمختصر المحتاج إليه ٣/ ١٣٥ رقم ١٠٣١.

أبو الحَسَن أخو أبي العبّاس البغداديّ، الحنبليّ.

شيخ صالح، سمع الكثير بنفسه.

روى عن: أبي الغنائم محمد بن محمد بن المهتدي بالله، وابن الحُصَيْن، وأبي غالب بن البناء، وهبة الله الشُّرُوطيّ، وجماعة.

روى عنه: موفّق الدّين بن قُدَامة، والبهاء عبد الرحمن، والياس^(۱) الإربليّ، وآخرون.

تُوُفّي في ذي الحجّة (٢).

٠٢٠ _ عمر بن عبد الرحمن بن عدرة .

أبو حفص الأنصاري، الأندلسي، من أهل الجزيرة الخضراء.

روى عن: أبي بكر بن العربيّ، وأبي الحسن بن مُغِيث، وأبي القاسم بن بَقيّ.

وولي قضاء بلده وقضاء سَبْتَة.

وكان فقيهاً مشاوَراً، له النَّظْم والنَّشْر.

أخذ عنه: أبو الوليد القسطكي، وعمر بن عبد المجيد النَّحُوي، وجماعة.

وتُوُفّي في رمضان.

_ حرف الغين _

۲۲۱ ـ غازي^(۳).

⁽١) مهملة في الأصل. والتحرير من تاريخ ابن الدبيثي ومختصره.

 ⁽۲) مولده ثالث رجب ٤٠٥ هـ. وتفقه في المذهب وبرع وأفتى وناظر، ودرّس بمدرسة أخيه آخراً، وصنف في المذهب، وله كتاب «رؤوس المسائل» وكتاب «الأعلام».
 لزم بيته في آخر عمره لمرض حصل له إلى أن توفي.

 ⁽٣) أنظر عن (فازي) في: سنا البرق الشامي ٣٥٦/١، ٣٥٧، والكامل في التاريخ ٢١/٤٦١،
 ٣٦٥، والتاريخ الباهر ١٨٠، وتاريخ الزمان ١٩١، وزبدة الحلب ٣٩/٣، والأعلاق الخطيرة ج ٣ ق ٧/٧، ومفرّج الكروب ١١٦/١ و٢/٢٩ ـ ٩٤، ووفيات الأعيان =

سيف الدين صاحب الموصل ابن الملك قُطّب الدّين مودود بن أتابك زنكي بن أقسنقر التُركيّ. والد سنجر شاه صاحب جزيرة ابن عمر.

لمّا مات أبوه قُطْب الدّين بلغ السّلطان نور الدّين الخبر، وهو على تلّ باشر، فسار في الحال إلى الموصل، وأتى الرّقة في أول سنة ستّ وستين فملكها، ثمّ سار إلى نصيبين فملكها، ثمّ أخد سننجار في ربيع الآخر، ثمّ أتى الموصل، وقصد أن لا يقابلها، فعبر بجيشه من مخاضة بلد ثمّ نزل قُبَالة الموصل، وأرسل إلى غازي وعرّفه صحّة قصده، فصالحه. ونزل الموصل ودخلها، وأقرّ صاحبها فيها، وزوّجه بابنته؛ وعاد إلى الشّام، فدخل في شعبان من السّنة. فلمّا تملّك صلاح الدّين وسار إلى حلب وحاصرها، سيّر إليه غازي جيشاً عليه أخوه عزّ الدّين مسعود، فالتقوا عند قرون حماه، فأنكسر عزّ الدّين. فتجهّز غازي وسار بنفسه، فألتقوا على تلّ السّلطان، وهي قرية بين حلب وحماه في شوّال سنة إحدى وسبعين، فانكسرت ميسرة صلاح الدّين بمظفّر الدّين ابن ربيب الدّين صاحب إربل، فإنّه كان على ميمنة غازي، فحمل السّلطان صلاح الدّين بنفسه، فأنهزم جيش غازي فعاد إلى حلب، ثمّ فحمل السّلطان صلاح الدّين بنفسه، فأنهزم جيش غازي فعاد إلى حلب، ثمّ فحمل الموصل. ومات بالسّل في صَفَر. وعاش نخوا من ثلاثين سنة.

قال ابن الأثير (١): كان مليح الشّباب، تامّ القامة، أبيض اللّون، وكان عاقلاً وَقُوراً، قليل الإلتفات. لم يُذكر عنه ما يُنافي الصّفة. وكان غيوراً شديد الغَيْرة، يمنع الخدّام من دخول الدُّور، ولا يحبّ الظُّلْم، على شُحِّ فيه وجُبْن.

^{= \$1/}٣، ٤، ومضمار الحقائق ٤٣، ومرآة الزمان ٣٦٣/٨، ٣٦٥، والمعختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٦، وتاريخ مختصر الدول ٢١٨، والعبر ٤/ ٣٦٠، ودول الإسلام ٢/ ٨٩، وسير أعلام النبلاء ٢/ ١٩٢، ١٩٣ رقم ١٢٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٧، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٠، وتاريخ ابن خلدون ٢/ ٣٠٠، ومرآة الجنان ٣/ ٤٠٥، ٢٠٤، وحرآة الجنان ٣/ ٤٠٥، ٢٠٤، و٧٠٤، والدر المطلوب ٦٤، ٦٩، والسلوك ج ١ ق ١/ ٧٠، والنجوم الزاهرة ٥/ ٢٨٦، والعسجد المسبوك ١٧٩، وتاريخ ابن سباط ١/ ١٥٦، ١٥٧، واللمعات البرقية في النكت التاريخية لابن طولون ١٢، وشذرات الذهب ٤/ ١٥٠.

⁽۱) في الكامل ٤٦٣/١١.

قلت: وأدار الخمر والزّنا ببلاده بعد موت نور الدّين، فمقته أهل الخير. وقد تاب قبل موته بيسير، وتملّك بعده أخوه مسعود، فبقي ثلاث عشرة سنة.

ـ حرف الميم ـ

۲۲۲ ـ محمد بن حامد.

أبو سعيد الإصبهاني .

من حفّاظ الحديث ببلده.

يروي عن: أبي العلاء صاعد بن سيّار الدَّهّان. وغيره.

تُوُفّي بإصبهان.

٢٢٣ ـ محمد بن عُبَيْدالله بن أحمد بن محمد بن هشام (١٠).

الإمام أبو عبدالله الخُشنيّ، الرَّنديّ، نزيل مالقة.

ويُعْرِف قديماً بِاسم العويص.

أخذ القراءآت عن: منصُور بن الخير، وعن أبي القاسم بن رضا.

وسمع من: ابن مغيث، وابن مكّيّ، وجماعة.

وناظر في «كتاب سِيبوَيْه» على ابن الطَّرَاوة وروى عنه، وعن أبي محمد البَطَلْيُوسيّ.

قال الأَبَار: وكان مُقْرِئاً مَاهِراً، نَحُويّاً، لُغُويّاً، دأبَ على تعليم القرآن والعربيّة دهره. وحدَّث.

وتُوُفّي بمالقة في شوّال.

ثنا عنه: ابن حَوْط الله، وأبو العبّاس الغرّقيّ.

۲۲۶ ـ محمد بن عليّ بن محبوب^(۲).

⁽١) أنظر عن (محمد بن عبيدالله) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن علي بن محبوب) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد لابن الدبيثي ٢/ ١٢٦، ١٢٧ رقم ٣٥٤، والمختصر المحتاج إليه ١٩٢١.

أبو بكر البغداديّ المُسَدِّيّ (1).

سمع: أبا العزّ محمد بن المختار، وأحمد بن الحسين بن قريش.

وعنه: ابن الحُصْريّ، ومحمد بن عبدالله بن محمد بن جرير.

وكان مباركاً. تُوُفِّي في ربيع الآخر^(٢).

۲۲۵ ـ محمد بن محمد بن مَوَاهِب^(۳).

أبو العزّبن الخُراسانيّ، البغداديّ، الشَّاعر، صاحب العَرُوض ومصنَّف النّوادر المنسوبة إلى حِدّة الخاطر.

قرأ الأدب على: أبي منصور بن الجواليقيّ.

وله ديوان شعر في خمسة عشر مجلّداً. قاله العماد الكاتب. ومصنّفات أدبيّة ومَدَح المخلفاء والوزراء، وتغيّر ذهنه في آخر أيّامه قليلًا. وكان بارع الأدب بصيراً بالعَروض، مقدَّماً في اللّغة والنّحُو، صاحب مُجُون وخلاعة ونوادر.

سمع: أبا الحسين المبارك بن عبد الجبّار، وأبا سعد بن خُشَيْش، وأحمد بن المظفّر بن سَوْسن، وأبا علىّ بن نبهان.

قال ابن الدَّبِيثيّ^(٤): سمعت منه وتركته لتغيّره. وأجاز لي قبل أن يتغيّر ذهنه.

⁽١) هذه النسبة تقال ببغداد لمن يعمل السدى للثياب السقلاطونية.

⁽۲) وكان مولده في سنة ۱۸۹ هـ.

⁽٣) أنظر عن (محمد بن محمد بن مواهب) في: معجم الأدباء ١٠١/، وإنباه الرواة ٣/ ٢١٣، والمختصر المحتاج إليه ١١٩/، وتاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة أحمد الثالث ٢١٣/ ١٤٠) ورقة ٢٨، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٨٨، ٨٨ رقم ٣٠، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٧ رقم ١٨٨، والعبر ٤/ ٢٣٠، ومرآة الجنان ٣/ ٤٠٥، والوافي بالوفيات المحدّثين ١٧٧ رقم ٢٥، وفوات الوفيات ٣/ ٢٣٨، وإنباه الرواة ٣/ ٢١٣، والعسجد المسبوك ٢/ ١٥١، وبغية الوعاة ٢/ ٢٣٥، وشذرات الذهب ٤/ ٢٥٧، وتلخيص الآداب ج ٤ ق ٣/ ٣٧٣ رقم ٢٤٢٨.

⁽٤) في تاريخه.

قلت: روى عنه الشّيخ الموفّق، والبهاء عبد الرحمن، وجماعة. تُوفِّي في رمضان، وله اثنتان وثمانون سنة. قال ابن الدَّبيثيّ: أنشدنا في المسترشد بالله:

مسترشد إنْ بَدَا فَالبِدر غُرَّتُهُ ﴿ وَإِنْ يَقُلُ كَلِما ۖ فَاللَّرُ مُنتظِمُ (١)

قُـلْ لـلإمـام الّـذي أنعـامـه نِعَـمٌ وسـح كفَّيْـهِ منـه تخجـل الـدّيـمُ وعــرضــه وافــر فــي كــلّ نــازِلــةٍ ومــالــه فــي جميــع النّــاس مقتســـمُ وبحره الجَمّ عذب ماؤه غدد السّرائع غمر طيب سم

 $^{(Y)}$. المبارك بن عبدالله بن محمد $^{(Y)}$.

أبو منصور البغداديّ.

قال الدَّبيثيّ: كان خيّراً مُتَيقّظاً. سمعت عليه.

روى عن: ابن الحُصَيْن، وزاهر بن طاهر. ولازَمَ ابنَ ناصر فأكثر. وتُوُفِّي في رمضان.

> $^{(7)}$. المبارك بن المبارك بن محمد بن أحمد بن حكيم أبو بكر الخيّاط البغداديّ.

> > وأورد له ابن النجار ما يُكتُب على كمران: (1)

أنــــا محســــودٌ مــــن النــــاس أنـــا مـــا بيـــن قضيـــــې

أنا راض منكم بايسر شي بسلام على الطريق إذا ما

إِنْ شئــــتَ أن لا تُعَـــدٌ غَمْـــرا واستغــــنِ بــــالله فــــي أمــــورٍ ولا تخسأنسف مسدى الليسالسيّ واقنسع بمسا راج مسن طعسام

يرتضيم لعماشق معشوق جمعتنا بالإتفاق الطريق

فخسلٌ زيداً معساً وعَمْسرا مسا ذِلسن طسول السزمسان إمسرا لله حتـــى الممــات أمـــرا والبس إذا ما عَسريت طمرا

أنظر عن (المبارك بن عبدالله) في: المُختصر المحتاج إليه ٣/ ١٧٠ رقم ١١٣١. **(Y)**

أنظر عن (المبارك بن المبارك) في: المختصر المحتاج إليه ٣/١٧٦ رقم ١١٥٣. (٣) سمع: أبا الحسن العلاف، وشجاعاً الذُّهٰليّ، وأباعليّ بن المهديّ، وغيرهم.

روى عنه: إلياس بن جامع، وابن الأخضر، والبهاء (١) عبد الرَّحمٰن، وآخرون.

تُوُفّي أيضاً في رمضان (٢).

٢٢٨ ـ المبارك بن محمد بن محمد بن العرمرم.

أبو جعفر بن أبي طاهر بن الواسطيّ، البغداديّ.

له إجازة من جعفر السَّرَّاج، وأبي الحسين بن الطُّيُوريّ.

سمع منه: عليّ بن أحمد الرّنْدِيّ، ومحمد بن سعيد بن الدَّبيثيّ.

مات في ذي القعدة سنة ستٍّ.

٢٢٩ ـ مسعود بن عمر الملاّح.

سمع: أبا الحسن بن الزَّاغونيّ، وعليّ بن الفاعوس.

روى عنه: أبو الحسن القُطِيعيّ في "تاريخه".

 $^{(7)}$... مسعود بن محمود بن أحمد بن عبد المنعم بن ماشاذة $^{(7)}$.

الإمام أبو عبدالله الإصبهاني، المفسِّر، الفقيه.

قال أبن النّجار: كان إماماً حافظاً، قيّماً بالمذهب، والخلاف، والتّفسير، والوعظ.

سمع: غانماً البُرجيّ، وأبا عليّ الحدّاد، ومحمود بن إسماعيل، وعبد الكريم بن فُورجة.

وحج وحدَّث (¹⁾ ببغداد (^(٥)، وجلس للوعظ، ولقي القبول التَّام، واستحسن الأكابر كلامه.

⁽١) في الأصل: «البا».

⁽٢) مُولده تقريباً سنة ٥٠٠ هـ..

⁽٣) أنظر عن (مسعود بن محمود) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ١٩٠ رقم ١٢٠٠.

⁽٤) في الأصل: «وحدّث وحبح ببغداد».

⁽٥) وكان قدومه بغداد سنة ٧٦٦ هـ.

قلت: ولم يذكر أنّ أحداً روى عنه.

٢٣١ _ مسلم بن عبد المحسن بن أحمد.

أبو الغنائم الكَفَرْطابيّ، ثمّ الدّمشقيّ، البزّاز.

سمع من: جدِّه لأمّه أبي طاهر محمد بن الحسين الحِنّائيّ.

ودخل بغداد للتجارة، وسمع بها: عليّ بن هبة الله بن عبد السلام.

أخذ عنه: عمر بن محمد بن جابر، وإلياس بن جامع، وغيرهما.

وتُونِّي في جُمادي الآخرة عن إحدى وسبعين سنة.

٢٣٢ ـ مظفَّر بن خَلَف بن عبد الكريم بن خَلَف بن طاهر بن محمد الشَّحّاميّ.

النَّيْسابوريّ.

حدث بدمشق عن: وجيه بن طاهر.

وكان صوفيًّا ينسخُ بالأجرة.

روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرى، وأخوه أبو القاسم، ومحمد البَلْخيّ المقرىء.

٢٣٣ ـ مظفّر بن محمد بن عبد الباقي بن جند.

أبو عبدالله البنّاء، البغدادي.

معمّر؛ وهو ابن عمّ بقاء بن عمر.

سمع: أبا طالب بن يوسف، وأبا الحسن الزّاغُونيّ، وأبا غالب بن البناء.

روى عنه: أحمد بن أحمد البُّنْدَنِيجيّ وأثنى عليه.

وتُوفّي في ربيع الآخر.

_ حرف النون _

٢٣٤ ـ نصر الله بن أحمد بن حمزة بن أبي الحَجّاج (١).

⁽١) رُسِم اسم «الحجاج» في الأصل: «الحححاح».

أبو الفتح العَدَويّ، الحلبيّ، ثمّ الدّمشقيّ، العطّار. حدَّث عن: هبة الله بن طاوس. وعنه: أبو القاسم بن صَصْرى.

_ حرف الهاء _

٣٣٥ ـ هبة الله بن أحمد بن محمد بن هلال (١).
أبو الفَرَج بن الأعرابيّ، ألازَجيّ، الدَّبَاس.
سمع: أبا القاسم بن بيان، وأبا الغنائم النَّرْسيّ، وأبا ياسر البَرْدانيّ. سمع منه: أبو محمد بن الخشّاب، وعمر بن عليّ القُرَشيّ.
وتُونُفي في رجب (٢).

وهو أَسَنَّ من ابن عمَّه عبد الجبَّار بعامَيْن.

_ حرف الواو_

٢٣٦ ـ واثق بن الحسين بن عليّ^(٣). العطّار أبو الحسين بن السّمّاك. أما الله التراسية الرئمة أنهم المراكبة

سمع: أبا القاسم بن الحُصَيْن، وأبا غالب بن البنّاء. روى عنه: عبدالله بن أحمد الخبّاز.

وعاش ثلاثاً وستين سنة(٤).

_ حرف الياء _

٢٣٧ ـ يوسف بن محمد بن عليّ بن أبي سعيد^(٥). الموصليّ، ثمّ البغداديّ، أخو سليمان وعليّ، ووالدالموفّق عبد اللّطيف.

⁽١) أنظر عن (هبة الله بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ٢٠/٣ رقم ١٢٨٠.

⁽٢) ولد في شعبان سنة ٩٩٨ هـ.

 ⁽٣) أنظر عن (واثق بن الحسين) في: المختصر المحتاج إليه ٣/٢١٧ رقم ١٢٧١.

⁽٤) ولد سنة ١٣٥هـ.

⁽٥) أنظر عن (يوسف بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٣٦ رقم ١٣٢٤.

صحِب أبا النّجيب السُّهْرُورَدِيّ وتفقّه عليه. وسمع: أبا القاسِم بن السَّمَرْقَنْدِيّ، وأبا منصور بن خَيْرون، وخلْقاً.

وسمَّع ابنه، وحدَّث. وتُوُفِّي في المحرَّم، وله إحدى وستّون سنة^(١).

۲۳۸ ـ يونس بن محمد.

أبو الوليد القَسْطليّ، الأندلسيّ.

من فُحُول الشُّعراء وأعيان البُّلغاء.

كتب لبعض ملوك الأندلس، وصنَّفَ في الأدب.

张珠珠

وفيها وُلِد كمال الدّين محمد ابن قاضي القُضاة صَدْر الدّين عبد الملك بن درباس المارانيّ في ربيع الأوّل.

⁽١) ولد تقريباً سنة ١٥ه هـ.

سنة سبع وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

٢٣٩ _ أحمد بن حُمَيْد بن الحَسَن.

أبو منصور الأزَجيّ، الكاتب، الشَّيْبَاني، مصنّف «المقامات» العشرين.

أديب بارع، وشاعر مُحْسِن.

روى عنه: ولده يوسف.

تُوُفّي في ربيع الأوّل ببغداد.

٢٤٠ ـ أحمد بن عبد الملك بن عُمَيْرة (١٠).

أبو جعفر الضّبّي، الأندلسيّ.

سمع بمُرْسِية (٢) من: أبي علي الصَّدَفي، وأبي محمد بن أبي جعفر الفقيه.

وبقُرْطُبة^(٣): أبا محمد بن عتّاب، وابن رُشْد.

ولقي بمصالة منصور بن الخير وأخذ عنه القراءآت. وحجَّ، وكان زاهداً عابداً، قانتاً لله.

روى عنه: سليمان بن حَوْط الله، وأحمد بن يحيى بن عُمَيْرة. وتُورُقِي عن سِنِّ عالية (٤).

⁽۱) أنظر عن (أحمد بن عبد الملك) في: معجم شيوخ الصدفي ٥٣، وتكملة الصلة لابن الأبّار الربّار المربّ المربّ المربّ المنتمس للضبيّ ١٩٤، ١٩٥، رقم ٤٤١، والـذيـل والتكملـة لكتـابـي الموصول والصلة ١ ق ٢٦٤/١، ٢٦٥ رقم ٣٤٤، ونفح الطيب ٣/٧٥٧.

⁽٢) رحل إليها سنة ٥١٣ هـ.

⁽٣) رحل إليها سنة ١٥هـ.

 ⁽٤) وقال أبو جعفر بن يحيى بن عميرة: ساكنته أياماً فما رأيته من الليالي إلا قائماً ولا من
 النهار إلا صائماً. قال: وقال لي: كنت قبل أن أرحل أرى الناس يعظمون العلم وأهله، =

۲٤۱ ـ أحمد بن عليّ بن محمد بن عبدالملك بن سليمان بن سند^(۱). أبو العبّاس الأندلسيّ، الكتّانيّ، النّحُويّ، من أهل إشبيلية. وكان يُعرف باللّص لإغارته على الأشعار في حداثته (۲).

فلما قدمت من رحلتي لم أر ما عهدت، وأبصرت أمري، وأقبل على العمل وترك التصنّع ونبذ الدنيا. (الذيل والتكملة ٢٦٤/، ٢٦٥).

وقال الضبّي: هو ابن عمّ أبي يكنى أبا جعفر، وكان رحمه الله عالماً عاملاً زاهداً فاضلاً متقللاً من الدنيا، أخبرت عنه أنه كان يواصل الصيام خمسة عشر يوماً. وكانت أوقاته محفوظة عليه. أخبرني رحمه الله قال: دخلت مرسية بعد العشر وخمسمائة سمعت بها على الحافظ أبي علي بن سكرة، وعلى الفقيه أبي محمد عبدالله بن محمد بن أبي جعفر، فلما توفي الحافظ أبو علي رحلت إلى قرطبة وسمعت بها وقرأت علي أبي الوليد بن رشد، وأبي محمد بن عتاب، والموروري، وجماعة. ثم انصرفت وقد نلت حظاً وافراً من العمل، فلما وصلت مالقة قبل لي: تترك الفقيه أبا علي منصور بن الخير بمالقة وتنصرف العمل، فلما وصلت مالقة قبل لي: تترك الفقيه أبا علي منصور بن الخير بمالقة وتنصرف ورأى الناس عند دخوله يعظمون العلم وأهله، فكتب: أرى من في بكس يلقاني على مسيرة يوم وأن أهل لورقة يتجاورون في لقائي ببلس، فلما وصلت لم ألق أحدا، ولا رأيت من الناس ما عهلت، فكان لي في ذلك موعظة ورجعت إلى نفسي فقلت: يا أحمد، فكأنك إنما رحلت في طلب العلم وسهرت الليل ليعظمك الناس، لقد خبت وضل أحمد، فكأنك إنما رحلت في طلب العلم وسهرت الليل ليعظمك الناس، لقد خبت وضل سعيك، فعكفت على ما ينفعني ولزمتُ بيتي، ولم أتعرّض لعرض دنياوي، وسلكت سُبُل سعينك، فعكفت على ما ينفعني ولزمتُ بيتي، ولم أتعرّض لعرض دنياوي، وسلكت سُبُل القوم لعل الله أن يجعلني منهم، وبكّتُبهم انتفعت.

وكان رحمه الله إماماً في طريقة التصوّف، وكنتَ لا تراه من الليل إلا قائماً. وكان أكثر دهره صائماً. توفي وقد أناف على التسعين. توفي سنة سبع وسبعين وخمسمائة، ومولده بعد الثمانين وأربعمائة.

ولما اجتمع معه شيخي القاضي أبو القاسم ابن حبيش بلورقة رأيته قد بكى فسألته مِمَّ بكاؤك؟ ذكرتني رؤية ابن عمّ أبيك هذا من تقدّم هكذا كان زيّهم وسمتهم. وقد بتّ عنده ليالي ذوات عدد فما كان يوقظني في أكثر الليالي إلاّ بكاؤه في السجود، وما كان ينام من الليل إلاّ قليلاً، فلما وصلت من عنده مرسية حدّثت بذلك بعض جيرانه قديماً بلورقة، فقال لى: هكذا أعرفه منذ أزيد من ثلاثين عاماً. (بغية الملتمس).

(۱) هكذا في الأصل: «سند»، وفي المصادر: «سيد». أنظر: المعجب ١٥٤، والمطرب ١٨٢، وتكملة الصلة ٢٠/١، والمنّ بالإمامة ١٥٥، وزاد المسافر ٢٥، ورايات المبرّزين ١٩٦، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ١ ق ٣١٦/١ ـ ٣٢٠ رقم ٤١١، وبغية الوعاة ٣٤٠، ٣٤٥، رقم ٢٥٧، ونفح الطيب ٣٢٥/٥.

ُ (٢) وَجَاء في «المنّ بالإمامة» أنه يُسمَّى باللص لقوله يتغزّل في أبي الحسين ابن فندلة أيام الفتّوة: خلبت قلبي بطرف أبا الحسين خلوب قليم أسمر أسمر أسمر القلوب

وواضح من البيتين أنه كان يُسمّى باللص قبل قوله لهما. ولابن دحية في (المطرب) وجهة أخرى للَّقب إذ قال: وكان شيخنا هذا رحمه الله يلقّب باللص لدماثته وسكونه وتصرّفه خفية في جمع شؤونه. ولكنه لا ينكر هذا اللقب مع جاهه عند سلطان زمانه. وانظر احترافه بلقبه وأنه لسرقته أشعار الناس في (نفح الطيب ٥/ ٣٣٢).

وقال ابن عبد الملك المراكشي: وكان مقرئاً محدّثاً متحقّقاً بعلوم اللسان نحواً ولغة وأدباً، ذاكراً للتواريخ حسن المجالسة، شاعراً مفلقاً، وشعره مدوّن، وأقرأ اللغة والعربية والأدب طويلاً. ومن طريف ما جرى له في انتحاله شعر غيره أن أحد بني عبد المؤمن قدم على إشبيلية والياً فانتدب أدباءها لامتداحه وتلقيه بالتهنئة والإنشاد إذا دخلوا عليه قال: فطمعت في تلك الليلة أن يسمح خاطري بشيء في ذلك المقصد فلم يتّجه لي شيء، فنظرت إلى معلقاتي فخرج لي قصيد لأبي العباس الأعمى وعليه مكتوب ولم ينشد، فأدغمت فيه اسم ذلك الأمير وقلبته في مدحه، فلمّا أصبحنا وخرجنا إلى اللقاء وأنشد الناس وأنشدت ذلك القصيد، فقام أبو القاسم محمد بن إبراهيم بن المواعيني، وأخرج من كمّه القصيد نفسه وقد صنع فيه ما صنعت، وأخبر بقصته في ذلك، فإذا قصّتهما واحدة، فضحك الوالي من وقد صنع فيه ما صنعت، وأخبر بقصته في ذلك، فإذا قصّتهما واحدة، فضحك الوالي من ذلك وأثابهما ثواب غيرهما من الشعراء، وكثر العجب من تواردهما على السرقة وصارت بين الناس أحدوثة زماناً. وبالجملة فإنه كان من الشعراء المجيدين والأدباء المبرّزين والأساتيد المفيدين، وقد أنجب تلامذة شعراء بَرَعَة. ومما استجيد من شعره في معنى المناجاة قوله:

مولاي إنبي ما أتيت جريمة لـولا الـرجـاء ونيـة لـي نُطْتُهـا ومن نظمه في حال مرض أصابه: (1)

وقسائلة والضنسا شماملي وقمد ذاب جسمك فموق الفرا فقلمت: وكيسف أرى نسائمها

إلاّ وقلت تندُّمني يمحنوهما بكريم عفوك لما أكن آتيهما

على م سهرت ولم تسرقًد؟ ش حسى خفيت على العود ورابس المنتِسة بسالمرصد

وكان دأبه استصحاب كسرة خبز لا يفارقها، فقيل له في ذلك، فذكر أنه قيل له في النوم لا يموت إلا عطشان فأنا أخاف من ذلك فإن أصابني العطش دفعتها إلى سقاء يسقيني، فقضى الله سبحانه أن توفي وحيداً في منزله فلا يبعد أن يكون مات عطشاً كما أخبر في النوم. والله أعلم. وكانت وفاته عام سبعة أو ثمانية وقيل: ثلاثة. وقال أبو المحسن الشاري النون وسبعين وخمسمائة، وهذان القولان الأخران كلاهما باطل قطعاً، فقد وقفت على بعض ما قرِيء عليه مؤرّخاً بجمادى الأولى سنة أربع وسبعين، مولده في صفر سنة ثنتين =

روى عنه: أبو الحسين بن رزقون، وأبو الخطّاب بن دحيَّة.

وعاش بضْعاً وسبعين سنة .

وتُوْفِّي سنة سبْع أو سنة ثمانٍ وسبعين.

٢٤٢ _ أحمد بن على بن سعيد.

أبو العبّاس الحوزيّ الصُّوفيّ.

قرأ بواسط، وسمع بها من: أبي عليّ الحسين بن إبراهيم الفارقيّ.

وببغداد من: أبي بكر الأنصاريّ.

وكان رجلاً صالحاً. عاش ٧٧ سنة.

٢٤٣ _ أحمد بن محمد بن عليّ بن هبة الله بن عبد السّلام (١٠).

أبو الغنائم الكاتب، أخو أبي منصور عبدالله.

سمع: أبا عليّ بن المهدي، وأبا القاسم بن الحُصَيْن.

وحدّث.

قتله غلام له طَمَعاً في شيءِ كان له في الممحرَّم. وقيل في سنة ستٍّ. ووُلِد سنة أربع وخمسمائة.

٢٤٤ _ أحمد بن محمد بن أبي القاسم.

الشّيخ أبو الرشيد الخفيفيّ، الصُّوفيّ، الزّاهد.

قال أبن النَّجَّار: قدِم بغداد شابًّا من أَبْهَر زنجان، وتفقُّه مدّة.

وسمع: زاهر الشُّحَّاميّ، وأبا بكر محمد بن عبد الباقي، وجماعة.

وصحِب أبا النّجيب السَّهْرُورَدِيّ؛ وانقطع، وجلس في الخَلْوَة، وظهر له الكرامات، وفُتِح عليه.

روى لنا عنه: أبو نصر عمر بن محمد بن جابر المقري.

وقرأت بخطّ عمر بن عليّ القُرَشيّ: جَلَسَ أبو الرشيد أَلابْهَريّ في الخَلْوة اثنتي عشرة سنة، وفُتِح له خيرٌ كثير، وظهر كلامه.

أو ثلاث ـ الشك منه ـ وخمسمائة . (الليل والتكملة).

⁽۱) تقدّم برقم (۱۹۲)

وقد كتب من كلامه ما يُقارِب ثمانين مجلَّدة.

قال ابن النّجّار: بلغني أنّه كان في جُمادى الآخرة. وكان منسوباً إلى ابن خفيف الشّيرازي.

٢٤٥ ـ أحمد بن مواهب بن حسن.

أبو عبد الرَّحمٰن البغداديّ، المعروف بغلام الزّاهد ابن العلبيّ.

شيخ صالح، سمع: أبا طالب بن يوسف.

سمع منه: ابنه عبد الرحمن، وتميم بن أحمد البُنْدَنِيجيّ، والحافظ عبد القادر الرُّهاويّ.

سمعوا منه في هذه السّنة، وانقطع خبره.

۲٤٦ ـ إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران^(١).

الإمام رضيّ الدّين أبو إسحاق الجَزَريّ، الفقيه الشّافعيّ.

تفقُّه وبرع على شيخه أبي القاسم بن البزريِّ. ثمَّ تفقُّه ببغداد بالنَّظاميَّة.

وسمع من: الكروخيّ.

ودرَّس ببلده وساد بعد ابن البزريّ.

مات في المحرَّم عن أربع وستّين سنة. ذكره الفَرَضيّ (٢).

٢٤٧ ـ إسماعيل بن الملك الصَّالِح نور الدّين (٣).

⁽١) أنظر عن (إبراهيم بن محمد) في: الكامل في التاريخ ١١/ ٤٧٧.

⁽٢) وقال ابن الأثير: كان فاضلاً كثير الورع.

⁽٣) أنظر عن (إسماعيل بن نور الدين) في: البرق الشامي ٣/١٤، ٥٠ ـ ٥٢، ١٥٣، ١٧٢، والنوادر السلطانية ٥٥، والتاريخ الباهر ١٨١، ١٨١، والكامل في التاريخ ١١/٢٧٤، والديخ المراديخ الزمان ١٩٧، وزبدة الحلب ٣/٤٠، ١٤، ومراة الزمان ٨/٢٣، وتاريخ الزمان ١٩٧، وزبدة الحلب ٣/٤٠، ١٤، ومراة الزمان ٨/٣٣، والمختصر في أخبار البشر ٣/٣، والدرّ المطلوب ٦٩، (سنة ٢٧٥ هـ.)، والعبر ٤/٢١، وسير أعلام النبلاء ٢١/١١٠ رقم ٥٤، ودول الإسلام ٢/٩٨، والإعلام بوفيات الأعلام ٨٣، والوافي بالوفيات ٢/١٢ ـ ٢٢٢ رقم ١٢٤، ومرآة الجنان ٣/٧٤، ٨٤، والبداية والنهاية ٢١/٨، ٣٠٩، وتاريخ ابن الوردي ٢/٠٩، وتاريخ ابن خلدون ٥/٣٥٢، والكواكب الدرية ٢٢، ٢٣٠، والسلوك =

أبو الفتح بن الملك العادل نور الدين محمود بن زنكي التركي.

خَتْنَه أَبُوه في سنة تسع وستين، وسُرَّ به، وزيَّنوا دمشق، وكان وقتاً مشهوداً وهو يوم عيد الفِطْر، وزُيِّنت دمشق أيّاماً وضُربت خيمة بالميدان، وصلّى هناك بالنّاس شمس الدّين قاضي العسكر، وخَطّب، ثمّ مُدَّ السّماط العامّ، وأُنهِبَ على عادة التُّرْك.

وعاد نور الدّين إلى القلعة فمدّ سماطه الخاصّ، ولعب من الغد بالكُرة، فاعترضه برتقش أمير آخور وقال له: باش. فاغتاظ بخلاف عادته، وزير برتقش، ثمّ ساق ودخل القلعة، فما خرج منها إلاّ ميّتاً.

وتُونِّقي نور الدِّين بعد الخِتان بأيّام، فحلّف أمراء دمشق لابنه أنْ يكون في السَّلْطَنة بعده، وهو يومئذ صبيّ، ووقعت البطاقة إلى حلب بموت نور الدين، ومتولّيها شاذبخت الخادم، فأمر بضرب البشائر، وأحضر الأمراء والعلماء وقال: هذا كتابٌ من السّلطان بأنّه خَتَنَ ولده وولاه العهد. فحلفوا كلّهم في الحال. ثمّ قام إلى مجلس فلبس الحِداد، وخرج إليهم وقال: يُحسِن اللهُ عزاكم في الملك العادل بن زنكي.

وأمّا صلاح الدّين فسار إلى الشّام ليكون هو المدبّر لدولة هذا الصّبيّ، ويستولي على الأمور. ووقعت الفّتنة بحلب بين السُّنّة والرّافضة. ونهبت الشّيعة دار قُطْب الدّين ابن العجميّ، ودار بهاء الدّين بن أمين المُلك. ونزل بخريّة القلعة وأمَرهُم الأمير شمس الدّين عليّ بن محمد ابن الدايّة والي القلعة أن يزحفوا إلى دار أبي الفضل بن الخشّاب رئيس الشّيعة، فزحفوا إليها ونهبوها، واختفى ابن الخشّاب.

ثم وصل الصّالح إسماعيل إلى حلب في ثاني المحرّم من سنة سبعين، ومعه سابق الدّين عثمان ابن الدايّة، فقبض عليه، وصعد القلعة، وظهر ابن

ج ۱ ق ۱/۷۷، والعسجد المسبوك ۲/۱۸۳، ۱۸٤، ومضمار الحقائق ۵۹، ۲۰، والنجوم الزاهرة ۲/۹۸، وتاريخ ابن سباط ۱/۹۹، وشدرات الذهب ۲۵۸/۶.

الخشّاب، وركب في جَمْع عظيم إلى القلعة، فصعِد إليها، والشّيعة تحت القلعة وُقُوف. فقُتِل بها أبن الخشّاب وتفرّق ذلك الجَمْع، وسُجِن شمس الدّين عليّ بن الدّاية وأخواه: سابق الدّين عثمان، وبدر الدّين حسن.

ودخل السَّلطان صلاح الدِّين دمشق في سلَّخ ربيع الآخر، ثمَّ سار إلى حمص فملكها. ثمّ نازلَ حلب في سَلْخ جُمادى الأولى، فنزل الملك الصّالح إلى البلد، واستنجد بأهلها، وذكّرهم حقوق والده، فوعدوه بالنَّصْر، وجاءته النّجدة من ابن عمّه صاحب الموصل مع عزّ الدّين مسعود بن مودود. فردّ السَّلطان صلاح الدِّين إلى حماه، وتبِعه عزَّ الدِّين مسعود، فالتقوا عند قرون حماه في رمضان. فانكسر عزّ الدّين وانهزم، وردّ صلاح الدّين فنازل حلب، فصالحوه وأعطوه المَعَرَّة، وكَفَرْطاب، وبارين. ثمّ جاء صاحب الموصل سيف الدّين غازي في جيشِ كثيف، وجاء صلاح الدّين بعساكره، فالتقوا في شوّال سنة إحدى وسبعين، فانكسر صاحب الموصل على تلّ السّلطان، وسار صلاح الدّين، فأخذ منبج، ثمّ نازل عزاز ففتحها، ثمّ نازل حلب في ذي القعدة، وأقام عليها مدّةً. وبذل أهلها المجهود في القتال، بحيث أنّهم كانوا يحملون ويصلون إلى مخيّم صلاح الدّين، وأنّه قبض على جماعةٍ منهم، فكان يشرِّح أسافل أقدامهم، ولا يمنعهم ذلك عن القتال، فلمَّا ملَّ صالَّحَهُم وسار عنها. وخرجت إليه أخت الملك الصّالح، وكانت طفلة، فأطلق لها عزاز لمّا طُلَبَتْها منه. وكان تدبير أمر حلب إلى والدة الصّالح، وإلى شاذبخت، وخالد بن القَيْسرانيّ.

ثمّ إنّ الصّالح مرض بالقولنج جُمعَتَين، ومات في رجب من سنة سبّع، وتأسّفوا عليه، وأقاموا عليه المآتم، وفرشوا الرّماد في الأسواق، وبالغوا في النّوح عليه. وكان أمراً مُنْكَراً.

وكان ديِّناً، عفيفاً، ورِعاً، عادلاً، محبَّباً إلى العامَّة، متَّبِعاً للسُّنَّة، رحمه الله، ولم يبلغ عشرين سنة.

وذكر العفيف بن سُكَّرة اليهوديّ ـ لا رحِمَهُ الله ـ، وكان يطبّبه، قال:

قلت له: يا مولانا، واللهِ شفاؤك في قَدَح خَمْر ، وأنا أحمله إليك سرّاً، ولا تعلم والدتك، ولا اللّالا، ولا أحد. فقال: كنت أظنّك عاقلاً، نبيّنا عليها يقول: "إنّ الله لم يجعل شِفاءَ أمّتي فيما حُرِّم عليها» (١). وتقول لي أنت هذا. وما يؤمّنني أن أشربه وأموت وهو في جوفي؟ ا(٢).

وقيل: تُوُفِّي وله قريبٌ من ثماني عشر سنة. فتملّك حلب بعده عزُّ الدِّين مسعود ابن عمّه مودود.

٢٤٨ ـ أشرف بن هبة الله.

أبو العبّاس الهاشميّ، البياضيّ. إمام جامع المنصور.

سمع: أحمد بن المُجلي، وهبة الله بن الحُصَين.

سمع منه: محمد بن مَشَّقْ، وأحمد بن أحمد البَّنْدَنِيجيّ. وتُونُقي في أوّل السّنة.

_ حرف التاء _

۲٤٩ ـ تمرتاش.

مولى أبي الفَرَج هبة الله ابن رئيس الرؤساء.

سمع من: أبي الحسين بن العلاف.

روى عنه: ابن الأخضر، وغيره، ونصر بن الحُصْريّ.

وتُوُفّي في رمضان.

أخرجه البخاري في الأشربة ٢٤٨/٦ باب: شراب الحلواء والعسل. وهو قول ابن مسعود في الشُّكّر: «إن الله لم يجعل شفاءكم فيما حَرّم عليكم».

⁽٢) وقال ابن الأثير: إنه لما اشتد به المرض وضعف وصف له الأطباء قليل خمر، فقال لا أفعل حتى أسأل الفقهاء، فسأل الشافعية فأفتوه بالجواز، وسأل العلاء الكاشاني فأفتاه أيضاً، ولم يفعل، وقال: إن كان الله قرّب أجلي أيؤخره شرّبُ الخمر؟ قال: لا. قال: فوالله لا لاقيت الله وقد لقيت ما حرّم عليّ. فمات ولم يشربه. (الكامل). قال سبط ابن الجوزي: أخطأ الكاشاني، فإنّ الخمر لا يباح عند أبي حنيفة، وجميع قال سبط ابن الجوزي: أخطأ الكاشاني، فإنّ الخمر لا يباح عند أبي حنيفة، وجميع

قال سبط ابن الجوزي: أخطأ الكاشاني، فإنّ الخمر لا يباح عند أبي حنيفة، وجميع أصحابنا للتداوي، وكذا عند مالك، وأحمد، وعند الشافعي يجوز للضرورة، وعندنا أن الله لم يجعل شفاء الأمّة فيما حُرّم عليها. (مراّة الزمان ١٦٦٨، ٣٦٧).

ـ حرف السين ـ

۲۵۰ ـ سليمان بن أرسلان (۱).

(٣)

المعروف بشرف الدِّين بن شاووش البغداديّ.

كان يخدم في السّواد فَعَلاَ وساد، وناب في وزارة النّاصر لدين الله أوّل ما استخلف، ثمّ عُزِل بعد شهرين لشيخوخته وضعفه.

تُونِّقِي في جمادي الأولى عن سنِّ عالية (٢).

- حرف العين ـ

٢٥١ _ عبد الرَّحمن بن محمد بن عُبَيْدالله بن أبي سعيد (٣).

⁽١) أنظر عن (سليمان بن أرسلان) في: مضمار الحقائق ١٤، والوافي بالوفيات ٢٥٢/١٥ رقم 8٩٧.

 ⁽۲) وكان شيخاً حسناً فاضلاً نبيلاً، حافظاً لكتاب الله تعالى، كثير التلاوة. سمع من أبي الوفاء علي بن عقيل الحنبلي، وحدّث بيسير.

أنظر عن (عبد الرحمن بن محمد) في: الكامل في التاريخ ٢١/ ٤٧٧، وإنباه الرواة ٢/ ١٧١، والـروضتيــن ٢/ ٢٧، ووفيــات الأعيــان ٣ (١٣٩، ومـراَة الــزمــان ٨/ ٣٦٨، والمختصر في أخبار البشر ٣/٦٣، والمختصر المحتاج إليه ٢٠٩/٢، والعبر ٢٣١/٤، وسير أعلام النبلاء ١١٣/٢١ ـ ١١٥ رقم ٥٦، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٧ رقم ١٨٨٣، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩١، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٢٤٨/٤، وطبقات الشافعية للإسنوي ٢٠/١، وفوات الوفيات ٢/٢٨٢، والبداية والنهاية ٢١/ ٣١٠، ومرآة الجنان ٤٠٨/٣، والوافي بالوفيات ٢٤٧/١٨ ومرآة رقم ۲۹۸، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ۳۱۲/۱، ٣٤٣، رقم ۳۰۸، والوفيات لابن قنف ل ٢٩٠ رقم ٧٧٥، والعسجد المسبوك ٢/١٨٥، ١٨٦، وفيه "عبدالله" بدل «عبيدالله»، والبلغة في تاريخ أثمة اللغة ١٢٤، ١٢٥، والنجوم الزاهرة ٦٠/٦، وتاريخ الخلفاء ٤٥٧، وبغية الوعاة ٢/٨٦، وتاريخ ابن سباط ١٦٠/١، وشذرات الذهب ٤/ ٢٥٨، وكشف الظنون ٨٣، ١٢٣، ١٣٠، ٢١٨، ٢١٢، ٢٢٨، ٢٨٥، ٢٢١، ٢٧٠، ·PT, AYY, YVP, 0P·1, TP·1, 07/1, 1771, V031, ·301, 3701, ۵۶۵۱، ۱۳۷۱، ۱۸۷۲، ۱۸۸۱، ۱۹۸۱، ۱۹۱۸، ۱۹۶۲، ۱۹۸۲، ۲۰۰۲، ۳۰۲، وإيضاح المكنون ١/٧٧، ٩٢، ١١٨، ١٩١، ١٩٣، ٢٠٢، ٢٢٤، ٣٠١، ٢٣٣، ٤٢٠، ٧٢٥، ٨٤٥، و٢/٠٥، ٢٥، ٢١١، ٢٤١، ٤٥١، ١٢٠، ١٧٢، ١٣٠، ٤٢٣، ٤٢٤، =

كمال الدين أبو البركات الأنباري، النَّحْويّ، الرجل الصّالح، صاحب التّصانيف المفيدة.

سكن بغداد من صباه، وتفقَّه بالنّظاميّة على أبي منصور بن الرّزّاز، وقرأ النّخو على أبي السّعادات بن الشَّجَريّ: واللّغة على أبي منصور بن الجواليقيّ.

وبرع في الأدب حتى صار شيخ العراق في عصره، وأقرأ النّاس ودرَّس النّخو بالنّظاميّة، ثمّ أنقطع في منزله مشتغِلاً بالعِلم والعبادة والورع وإفادة النّاس.

وكان زاهداً ناسكاً، تاركاً للدُّنيا، ذا صِدق وإخلاص.

قال الموقّق عبد اللّطيف: أمّا شيخنا كمّال الدّين الأنباريّ فلم أرّ في العبّاد والمنقطعين مثله (۱) في طريقه، ولا أصدق منه في أسلوبه، خير محض لا يعتريه تصنّع، ولا يعرف الشّرور، ولا أحوال العالم. وكان له من أبيه دار يسكنها، ودار وحانوت مقدار أجرتهما نصف دينار في الشّهر ينتفع به ويشتري منه ورقاً.

وسيَّر إليه المستضيء خمسمائة دينار فردَّها، فقالوا له: اجعلها لولدك، فقال: إنْ كنت خَلَقْتُه فأنا أرزقه.

وكان لا يوقد عليه ضوءاً. وتحته حصير قَصَب، وعليه ثوب وعمامة من قُطْن يلبسهما يوم الجمعة. وكان لا يخرج إلاّ للجمعة، ويلبس في بيته ثوباً خلِقاً.

وكان ممّن قعد في الخَلْوة عند الشّيخ أبي النّجيب.

قرأ عليه مُعيد بالنّظاميّة، فبقي يُكْثر الصِّياح والكلام، فلطمه على رأسه وقال: ويُلك، إذا كنت تَجْتَرُ في المرعى متى ترعى؟

وللشيخ مائة وثلاثون مصنَّفاً، أكثرها نَحْقٌ، وبعضها في الفِقَّه

۳۲۵، ۳۳۵، ۵۷۵، ۲۲۲، ۲۵۰، ۲۷۷، ۲۷۷، ۵۷۲ وهـديــة العــارفيــن ۱۹۱۸، والأعلام ٤/٤، ۱، ودائرة المعارف الإسلامية ٣/٤، ٥.
 وانظر مقدمة كتاب: نزهة الألبّاء، له، بتحقيق الدكتور إبراهيم السامرائي.

⁽١) في الأصل: «منه».

وألاصول، والتَّصوُّف، والزُّهد، أتيت على أكثرها قراءةً، وسماعاً وحِفظاً.

قلت: من كُتُبه «أسرار العربيّة»، «الإنصاف في مسائل الخلاف»، «أخبار التُّحَاة»، «الدَّاعي إلى الإسلام في عِلم الكلام»، «النّور اللّاثح (۱) في اعتقاد السَّلَف الصَّالح»، «الجُمَل في عِلْم الجَدَل»، «كتاب ما» (۲)، و (غرائب إعراب القرآن»، «ديوان اللّغة»، «الضّاد والظّاء»، «تفسير لغة المقامات»، «شرح المتنبيّ»، «نزهة الألبّا في طبقات الأدبا»، «تاريخ الأنبار»، «نشمة العبير في علم التّعبير».

وروى الحديث عن: أبيه، وخليفة بن محفوظ الأنباريّ، ومحمد بن محمد بن عطّاف، وأحمد بن نظام الملك.

> رَوَى عنه: الحافظ أبو بكر الحازمي، وابن الدَّبِيثيّ، وطائفة. وتُوُنِّي في شعبان. وله أربعٌ وستون سنة.

ومن شعِره:

دَعِ الفَـوْآدَ بمـا فيـه مـن الخِـرِق ليس بلَ التصوُّف صَفْوُ القلبِ من كدر ورؤيـ وصبـر النّفس على أذى مطاعمها وعن وتــرك دعــوى بمعنـى فيـه حقتـه فكيف

ليس التصوّفُ بالتلبيس والمخِررَقِ ورؤيـةُ الصُّـوفيّـة أعظـم الخـرقِ وعن مطامعها في الخلق بالخلق فكيف دعوى بلا معنى ولا خلق؟

٢٥٢ _ عبد الصَّمَد بن عليّ^(٣).

أبو القاسم بن الأخرم البغدادي، الحدّاء.

سمع: أبا عليّ الباقرُحِيّ، وأبا سعد بن الطُّيُوريّ، وأبا طالب اليُوسُفيّ. سمع منه: عمر القُرَشيّ، وجماعة.

وتُوُنِّي فجأةً في ذي الحجَّة، وله سبعون سنة (٤).

⁽١) في سير أعلام النبلاء ١١٤/٢١ «اللامح».

⁽۲) في سير أعلام النبلاء ۲۱/ ۱۱۶ «كتاب لو وما».

 ⁽٣) أنظر عن (عبد الصمد بن علي) في: المختصر المحتاج إليه ٣/٧٩ رقم ٨٩٤.

⁽٤) وقال ابن الدبيثي: رأيته ولم يتفقُّ لي السماع منه وأجآز لي. ومولده سُنة سبع وخمسمائة.

٢٥٣ _ عبد القادر بن عليّ بن نوقة (١).

أبو محمد الواسطيّ الشّاعر.

جالس أبا السّعادات بن الشَّجَريّ، وأبا منصور بن الجواليقيّ.

ومَدَح الخلفاء.

ومات غريباً بمصر .

ومن شعره:

أصيب ببلوى الجسم أيوب فأغتدَى به تضرب الأمثال أن ذُكِر (٢) الصَّبرُ فلَّما انتهى بلواه من بعد جسمه إلى القلب نادى مُعْلِناً: «مَسَّنِيَ الضُّرُ»(٣) وكُـلُّ بـلائـيَ عنـد قلبـي ولـم أبّـخ بشكوى الّذي ألقى ولم يظهر السّرُّ

هذا هَذَيان وقُولٌ من وراء العافية، ومجرَّد دعوى كاذبة. كما فَشَرَ من قال: وكُاتُّ بلاء أيّوب بعضُ بليّتي

ولكن الشَّعراء في كلِّ واد(٤) يهيمون، ويقولون ما لا يفعلون. وكما قيل: أَمْلَح الشُّغْرِ أَكذبه (٥).

د تهــــز بيـــان المــــدور د ورشمه كهافسور الثغهور بيسن المسروادف والخصيور

قَسَمِاً بِاغصان القدو ويعـــــضّ تفــــــاح الخــــــدو إنىي ليصرعني الهيوى (خريدة القصر).

أنظر عن (عبد القادر بن علي) في: خريدة القصر (قسم مصر)، والمختصر المحتاج إليه (1) ٣/ ۸۰ رقم ۸۹۸.

في المختصر: «إذ يذكر». (٢)

اقتباس من سورة الأنبياء، آية ٨٣. (٣)

في الأصل: ﴿وَاحدٌ ، وَالْقُولُ فَيْهُ ، (٤) إشارة إلى الآيات الكريمة: ﴿ وَالشُّعَرَاءُ يَتُبُّعُهُمُ الْغَاوُونَ. أَلَّمْ تَرَ أَنَّهُمْ فِي كُلِّ وادٍ يَهِيمُون. وأَنْهُمْ يَقُولُونَ مَأَ لَا يَفْعَلُون﴾ (النمل ٢٢٤ ـ ٢٢٦).

وقالُ العماد الكاتب: لقيته كهلاً، للفضل أهلاً، وله نظم راثق بالتحسين والإحسان حقيق، (0) وأنشدت له، ثم أنشدني لنفسه:

٢٥٤ ـ عثمان بن يوسف بن أبي بكر بن عبد البَرّ بن سيّدي بن ثابت (١). أبو عَمْرو الأنصَاريّ، السَّرَقُسْطِيّ، المعروف بالبِلجِيطيّ. أخذا القراءآت عن: أبي زيد الورّاق، ويحيى بن محمد القلعيّ. وأخذ قراءة نافع عن: أبي زيد بن حيوة.

واختلف إلى أبي جعفر بن سراج، وأبي الحسن بن طاهر وأخذ عنه العربيّة. وسمع «التيّسير» سنة إحدى وعشرين وخمسمائة من ابن هُذَيْل.

وأقرأ القراءآت، وسكن بلد لريَّة ثمَّ وُلِّيَ قضاءَها.

وكان محقِّقاً للقراءآت، ضابطاً، إخبارياً، ذاكراً، ماهراً بالقضاء والشُّروط. تُوُفّي عن تسعين سنة في نصف ذي القعدة.

أخذ عنه: أبو عمر بن عيّاد، وأبو عبدالله بن عيّاد، وأبو عبدالله الشّونيّ، وأبو الربيع بن سالم (٢٠).

٥٥٥ ـ عليّ بن محمد بن الحَسَن (٣).

أبو المفاخر المستوفي البَيُّهَقيّ، الواعظ، الصُّوفيّ.

حدَّث ببغداد وواسط عن: محمد بن أحمد بن صاعد، وعبد الغافر بن إسماعيل، وأبي عبدالله الفراويّ، وغيرهم.

وتُوُفّي رحمه الله في شعبان.

٢٥٦ ـ عمر بن عليّ بن الزاهد محمد بن عليّ بن حَمُّوَيُّه (٤).

⁽۱) أنظر عن (عثمان بن يوسف) في: صلة الصلة لابن الزبير ٧٥، وتكملة الصلة لابن الأبّار، رقم ١٨٦٠، ١٤١ رقم ٢٨٦.

⁽٢) وقال ابن عبد الملك المراكشي: وكان مقرئاً مجوّداً، ضابطاً، محقّقاً، تاريخياً، ذاكراً ملوك بلده وقضاته وعلماءه، فقيهاً حافظاً عاقداً للشروط، بصيراً بالأحكام، جيد الدربة فيها، تردّد في الكثير من كور بلنسية وأقرأ فيها، واستوطن لرية، ثم رحل عنها حاجاً سنة إحدى وثلاثين وخمسمائة فكاديغرق في ركوبه البحر، فعاد إليها واستقرّبها واستقضي فيها وفي جزيرة شقر. ولد بسرقسطة أول يوم من شعبان سنة سبع وثمانين وأربعمائة، وتوفي بلرية.

⁽٣) أنظر عن (علي بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/١٣٥ رقم ١٠٣٣.

⁽٤) أنظر عن (عمر بن علي بن الزاهد) في: العبر ٤/ ٢٣٢، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، =

أبو الفتح الجُوَيْنيّ (١٦) الصُّوفيّ. شيخ الشّيوخ بدمشق. وُلِد في جُمادَى الأولى سنة ثلاث عشرة.

وسمع من: جدّه، وأبي عبدالله الفُرَاويّ، وأبي القاسم الشّحّاميّ، وأبي الفتوح عبد الوهّاب الشّاذْياخيّ (٢)، وعبد الجبّار الخُواريّ (٣)، وعبد الواحد الفارْمَذِيّ (٤).

وأقام بدُوَيرة السُّمَيْسَاطِيّ^(ه). وحدَّث؛ وإليه انتهى التَّقدُّم في التَّصوُّف. وكان السّلطان صلاح الدِّين يحترمه ويُعَظَّمه، وهو أخو أبي بكر وأبي سعد عبد الواحد.

روى عنه: الحافظ أبو المواهب، وأخوه أبو القاسم الحسين، والبهاء عبد الرحمن، والحافظ الضّياء، وآخرون.

= وسير أعلام النبلاء ١١٥/٢١ دون ترجمة، ومرآة المجنان ٤٠٨/٣، والنجوم الزاهرة ٢/ ٩٠، والعسجد المسبوك ٢/ ١٨٦، وشذرات الذهب ٢٥٩/٤.

(۱) الجُويَني: بضم الحيم وفتح الواو وسكون الياء المنقوطة باثنتين من تحتها، هذه النسبة إلى جوين وهي إلى ناحية كثيرة مشتملة على قرى مجتمعة يقال لها كويان معُرّب وجُعل جُوين. وهذه الناحية متصلة بحدود بيهق ولها قرى كثيرة متصلة بعضها ببعض. (الأنساب ٣/ ٣٨٥).

(٢) الشاذياخي: بفتح الشين المعجمة والذال المعجمة الساكنة، والياء المفتوحة المنقوطة باثنتين من تحتها بين الألفين، وفي آخرها الخاء المعجمة. هذه النسبة إلى موضعين: أحدهما إلى باب نيسابور مثل قرية متصلة بالبلد بها دار السلطان. وشاذياخ: قرية ببلخ على أربعة فراسخ منها.

وقال ياقوت بكسر الذال المعجمة. يؤيده قول أبي محلّم في شعره:

سقى قصور الشاذياخ الحيا

(الأنساب ٧/ ٢٤٠ ـ ٢٤٢).

(٣) الخُواري: بضم الخاء المنقوطة والراء بعد الواو والألف. هذه النسبة إلى خوار الري،
 مدينة على ثمانية عشر فرسخاً من الري. (الأنساب ١٩٥٥).

(٤) الفارْمُذِي: بفتح الفاء وسكون الراء وفتح الميم وفي آخرها الدال المعجمة. نسبة إلى فارْمُد وهي قرية من قرى طوس.

(٥) الشَّمَيْساطي: بضم السين المهملة بعدها ميم، وسكون الياء المنقوطة باثنتين من تحتها، وبعدها سين أخرى مفتوحة وفي آخرها الطاء. نسبة إلى سُمَيْساط من بلاد الشام. (الأنساب ١٥٣/٧).

وتُوُفّي في رجب ودُفِن بمقابر الصُّوفيّة.

وذكرة العماد الكاتب فقال: كبير الشّأن، كثير الإحسان، لم يكن له في عِلْم الطّريقة والحقيقة مُسَاوِ.

وأقبلَ عليه نور الدّين بكلّيته، وأمرني بإنشاء منشور له بمشيخة الشّام، ورغّبه بالإحسان في المُقام، ومن جملة ما أتحفه به عِمامةٌ ذهبيّة نقّذ بها صلاح الدّين من مصر، فبُذل له فيها ألف دينار بزِنة ذهبها، فلم يُجِب.

_ حرف الميم _

٢٥٧ _ محمد بن أحمد بن محمد بن عبد العزيز(١).

أبو عبدالله الحِمْيَريّ، القَرْطُبيّ، المعروف بالأسْتِجِيّ نزيل مالقة.

سمع: "صحيح البخاريّ" من شُرَيْح.

وولى خطابة مالقة.

وكان من أهل الفضل والصّلاح.

ورّخه الأبّار، وقال: ثنا عنه أبو عبدالله الأنْدرشيّ، وأبو سليمان بن حَوْط الله.

٢٥٨ ـ محمد بن عبد الملك بن مسعود بن بَشْكُوال.

أخو الحافظ أبي القاسم، أبو عبدالله القُرْطُبيّ.

روى عن: أبيه، وأبي جعفر البَطْروجيّ، وأبي الحسن بن مغيث.

وكان فقيهاً شروطيّاً.

وأجاز له أبو عليّ بن سُكَّرَة.

تُوُفّي في جُمادَى الآخرة قبل أخيه.

٢٥٩ ـ محمد بن محمد بن شجاع بن أحمد بن عليّ.

أبو الطيِّب اللَّفتوانيِّ، الإصبهانيِّ.

⁽١) أنظر عن (محمد بن أحمد) في: تكملة الصلة لابن الأبّار.

سمع: أباه أبا بكر، وجعفر بن عبد الواحد الثقفيّ، وفاطمة الجوزدانيّة، وجماعة.

وطلب بنفسه، وكتب، وقرأ. تُوُفّى في صَفَر.

٢٦٠ ـ المبارك بن عليّ بن محمد بن خَلَف (١).

أبو الفائز البَودانيّ، الدّلاّل في الدُّور.

سمع: أبا الغنائم النَّرْسيِّ، ومحمد بن الحسن بن البنّا، وأبا طالب بن يوسف. روى عنه: أبو بكر الحازميِّ، وابن الأخضر، وآخرون^(٢).

تُوُفِّي في جُمادى الآخرة وله سَبْعٌ وسبعون سنة. وقيل: إحدى وثمانون منة (٣).

_ حرف الهاء _

... (3)

أبو طاهر الحلبيّ، الخطيب. شيخٌ زاهِد خيّر بارع في العربيّة.

كتب عنه: أبو سعد بن السّمعانيّ، والخطيب يونس بن محمد الفارقيّ. وتُونُقي في جُمادي الآخرة.

وروی عنه: أبو القاسم بن صَصْری، وقال: كان خطيب حَلَب، جامعاً لفنونِ شتّی.

وقال ابن النّجّار: أديب، بليغ، فصيح، له تصانيف وخُطَب، وله كتاب «التّبيه عن اللّحن الخفيّ». قرأ عليه حمزة بن القُبّيطيّ.

عاش ثلاثاً وثمانين سنة.

⁽١) أنظر عن (المبارك بن علي) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ١٧٢ رقم ١١٤٠.

⁽۲) وقال ابن الدبیثی: أجاز لی ورأیته.

⁽٣) وُلد سنة ٥٠٠ هـ.

 ⁽٤) أنظر عن (هاشم بن أحمد) في: الوافي بالوفيات (مخطوط) ٨٨/٢٧، والأعلام ٤٦/٩،
 ومعجم المؤلفين ١٣١/١٣٠.

٢٦٢ ـ هبة الله بن المبارك بن بكري الحريمي (١).

من بيت رواية.

سمع: أبا الحسن الدِّينَوَرِيّ، وابن الحُصَيْن، أخذ عنه ابن مَشَّق، وغيره. وتُونِّي في شوّال.

وروى عنه: عبد الوهّاب بن برغش، وعبد الرحمن بن عمر الغرِّال.

٢٦٣ ـ هبة الله بن أبي الكرم نصر الله بن محمد بن محمد بن مَخْلد (٢). أبو العبّاس بن الجَلَخْت الواسطيّ، المعدّل.

ثقة، صحيح السّماع، من بيت رواية وعدالة.

وُلِد سنة أربع وثمانين وأربعمائة.

وسمع: أبا تُعَيِّم محمد بن إبراهيم الجماري، وأبا نُعَيِّم محمد بن زبزب، ومحمد بن محمد بن السَّواديّ.

وسمع ببغداد من: هبة الله بن البخاريّ، وأبا بكر القاضي.

وروى الكثير.

روى عنه: أبو عبدالله بن الدَّبيثيّ وترجمه، وقال: تُوُنِّي في رجب.

_ حرف الياء _

٢٦٤ ـ يحيى بن عليّ بن يحيى بن العافية.

المؤذّن أبو زكريّا الدُّمشقيّ، المقري.

سمع من: جمال الإسلام أبي الحسن.

كتب عنه: أبو المواهب بن صَصْرى، وقال: تُوني في ربيع الأوّل.

⁽١) أنظر عن (هبة الله بن المبارك) في: المختصر المحتاج إليه ٣/٢٢٧ رقم ١٢٩٧.

 ⁽٢) انظر عن (هبة الله بن أبي الكرم) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٢٢٨ رأم ١٢٩٨.

الكني

٢٦٥ ـ أبو الفكهم بن فتيان بن حيدرة.
 البَجَليّ، الدّمشقيّ ابن الكاتب.
 زاهد عابد ورع.
 روى عن: جمال الإسلام.

وعنه: ابن صَصْرى.

举 举

وفيها وُلد: أبو البيان بن سعد الله بن راهب الحمويّ بحماه؛ وشمس الدّين إسحاق ابن بلكويْه، وأبو الفتح عبد الهادي بن عبد الكريم القَيْسيّ، وعبد العزيز بن عبدالوهّاب الكَفَرْطابيّ، وعماد الدّين بن الحَرَسْتانيّ، وعماد الدّين بن الحَرَسْتانيّ، وكمال الدّين أحمد بن نعمة بنابلس.

سنة ثمان وسبعين وخمسمائة

- حرف الألف -

٢٦٦ ـ أحمد بن أبي الحسن بن عليّ بن أحمد بن يحيى بن حازم بن عليّ بن رفاعة (١).

الزّاهد الكبير، سلطان العارفين في زمانه أبو العبّاس الرّفاعيّ، المغربيّ رضي الله عنه.

قدِم أبوه العراقَ وسكن البطائح بقرية اسمها أمّ عَبِيدَة، فتزوَّج بأخت الشّيخ منصور الزّاهد، ورُزِق منها أولاداً منهم الشّيخ أحمد بن الرفاعيّ رحمه الله.

وكان أبو الحسن مُقرِئاً يؤمّ بالشّيخ منصور، فمات وزوجته حامل

⁽۱) أنظر عن (أحمد بن أبي الحسن بن علي) في: الكامل في التاريخ ۱۱/ ٤٩١، ووفيات الأعيان ١/ ١٧١، ومرآة الزمان ١/ ٣٧٠، ٣٧١، والمختصر في أخبار البشر ٣/ ٢٥٠، ٢٦، ودول الإسلام ٢/ ٩٠، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٧٧ ـ ٨٠ رقم ٢٨، والعبر ٢٣٣٤، والمعين في طبقات المحدثين ١٧٧ رقم ١٨٨٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٠، والبداية والنهاية ٢١/ ٣١٦، ومرآة الجنان ٣/ ٤٠٤ ـ ٤١٢، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٤/ ٤، وطبقات الشافعية الوسطى، له (مخطوط) ورقة ٣٠، والوافي بالوفيات ١١٧، رقم ١١٧٧، ومختصر تاريخ ابن الساعي ١١١، والعسجد المسبوك ٢/ ١٨٨، والنجوم الزاهرة ٢/ ٩٠، وتاريخ ابن سباط ١/ ١٦٣، وشذرات الذهب المسبوك ٢/ ١٨٧، وطبقات الأولياء لابن الملقن ٣٣ ـ ١٠١ رقم ٢٢، وتاريخ الخلفاء ١٨٠٤، وبدائع الزهور ج ١ ق ١/ ٤٢٤، والطبقات الكبرى للشعراني ١/ ١٦٤، والكواكب الدرية في تراجم السادة الصوفية للمناوي ٢/ ٥٧، وذيل تاريخ الأدب العربي لبروكلمان ١٨٧، ومعجم المطبوعات العربية والمعربة ١٩٤، ١٩٤، والأعلام ١/ ١٦٠، ومعجم المطبوعات العربية والمعربة ١٩٤، ١٩٤، والأعلام ١/ ١٢٨، ومعجم المطبوعات العربية والمعربة مهه، والأعلام ١/ ١٢٠، ومعجم المؤلفين ٢/ ٢٥، وديوان الإسلام ٢/ ٣٠١، ومهرب

بالشّيخ أحمد، فربّاه خاله منصور، فقيل إنّه وُلِد في أوّل المحرّم سنة خمسمائة.

ويُروى عن الشّيخ يعقوب بن كِراز قال: كان سيّديّ أحمد بن الرفاعيّ في المجلس، فقال لأصحابه: إي سادة، أقسمتُ عليكم بالعزيز سِبحانه، مَن كان يعلم فيّ عَيْباً (١) يقوله.

فقام الشَّيخ عمر الفاروقيّ وقال: إي سيّديّ، أنا أعلم فيك عيباً.

فقال: يا شيخ عمر، قله^(۲) لي.

قال: إي سيّدي عَيْبُك نحن الّذين مثلنا في أصحابك.

فبكى الشّيخ والفقراء وقال: أيْ عمر، إنْ سَلِم المركبُ حَمَلَ من فيه في التَّعْدية.

وقيل إنّ هرّةً نامت على كُمّ الشيخ أحمد، وجاء وقت الصّلاة، فقصّ كُمّه، ولم يزعجُها، وعاد من الصّلاة فوجدها قد فاقت، فوصل الكُمُّ بالثّوب وخيّطه وقال: ما تغيّر شيء.

وعن يعقوب بن كِراز، وكان يؤذن في المنارة ويُصَلِّي بالشَّيخ، قال: دخلت على سيّديّ أحمد في يوم بارد، وقد تَوضًا ويده ممدودة، فبقي زماناً لا يُحرِّك يده، فتقدّمتُ وجئتُ أُقبِّلها فقال: أيّ يعقوب، شوّشت، على هذه الضّعيفة.

قلت: من هي؟

قال: بَعُوضةٌ كانت تأكل رزقها من يدي، فهربتْ منك.

قال: ورأيته مرّةً يتكلّم ويقول: يا مُباركة ما علمت بكِ، أبعدتك عن وطنك. فَنَظَرْتُ فإذا جرادةٌ تعلّقت بثوبه، وهو يعتذر إليها رحمةً لها.

وعنه قال: سلكت كلَّ الطُّرُق الموصلة، فما رأيت أقرب ولا أسهل ولا

⁽١) في الأصل: اعيب،

⁽٢) في الأصل: «قوله لي».

أصحّ من الافتقار، والذّلّ، والإنكسار. فقيل له: يا سيّدي، فكيف يكون؟ قال: تُعَظّم أمرَ الله، وتُشْفِق على خلْق الله، وتقتدي بسنّة سيّدك رسول الله.

وورد أنّه كان فقيهاً، شافعيّ المذهب.

وعن الشّيخ يعقوب بن كِراز قال: كان سيّدي أحمد إذا قدِم من سَفَرٍ شمَّرَ، وجمع الحَطَب، ثمّ يحمله إلى بيوت الأرامل والمساكين، فكان الفقراء يوافقونه ويحتطبون معه. وربّما كان يملأ الماء للأرامل ويُؤثرهم رحمه الله.

قيل له: أي منصور أطلب. فقال: أصحابي. فقال رجل لسيّدي أحمد: يا سيّدي وأنت أيش؟ فبكى فقال: أي فقير، ومَن أنا في البَيْن، ثَبّتْ نَسَبْ وأَطْلُبْ ميراث (١).

فقلت: يا سيّدي أقسم عليك بالعزيز أيش أنت؟

قال: أي يعقوب، لمّا اجتمع القوم وطلب كلّ واحد شيئا(٢) دارت النّوبة إلى هذا اللّاشيء أحمد وقيل: أيْ أحمد أطلُب. قلت: أيْ ربّ عِلْمُكَ محيطٌ بطلبي. فكرّر عليّ القول، قلت: أيْ مولاي، أريد أن لا أريد، وأختار أن لا يكون لي اختيار. فأجابني، وصار الأمر له وعليه. أيْ يعقوب، مَن يختاره العزيز يُحبه إلى هذه البُقْعة.

وعن يعقوب قال: مرَّ سيّديّ على دار الطّعام، فرأى الكلاب يأكلون التَّمر من القوصرَّة، وهم يتجارشون، فوقف على الباب لئلاّ يدخل إليهم أحد يؤذيهم، وهو يقول: إي مُباركين اصطلحوا وكُلُوا، وإلاّ يدروا بكم منعوكم.

ورأى فقيراً يقتل قملةً فقال: لا واخَذَكَ الله، شفيتَ غيظك؟

وعن يعقوب، قال لي سيّديّ أحمد: يا يعقوب، لو أنَّ عن يميني خمسمائة يروّحوني بمراوح النّد والطّيب، وهم من أقرب النّاس إليَّ، وعن يساري مثلهم من أبغض النّاس إليَّ، معهم مقاريض يقرضون بها لحمي، ما

⁽١) العبارة هكذا في الأصل.

٢١) في الأصل: (شيء).

زاد هؤلاء عندي، ولا نقص هؤلاء عندي بما فعلوه. ثمّ قرأ: ﴿كَيْ لاَ تَأْسَوْا عَلَىٰ مَا فَاتَكُمْ وَلاَ تَفْرَحُوا بِمَا آتَاكُمْ وَٱللهُ لاَ يُعِبُّ كُلَّ مُخْتَالٍ فَخُورٍ﴾ (١).

وكان سيّدي أحمد إذا حضر بين يديه تَمْرٌ أو رُطَبٌ ينقّي الشّيص والحشف لنفسه يأكله ويقول: أنا أحقّ بالدُّون من غيري، فإنّي مثله دون.

وكان لا يجمع بين لبس قميصين لا في شتاء ولا في صيف، ولا يأكل إلاّ بعد يومين ثلاثة أكلةً. وإذا غَسَلَ ثوبه نزل في الشّطّ كما هو قائم يفركه، ثمّ يقف في الشّمس حتّى ينشف.

وإذا ورد عليه ضيفٌ يدور على بيوت أصحابه يجمع الطّعام في مِئزر. وأُحضِر ابن الصَّيْرَفيّ وهو مريض ليدعو له الشّيخ ومعه خَدَمه وحَشَمه، فبقي أيّاماً لم يكلّمه، فقال يعقوب بن كِراز: أيْ سيّدي ما تدعو لهذا المريض.

فقال: أي يعقوب، وعِزّةِ العزيزِ لأحمد كلّ يوم عليه مائة حاجةٍ مَقْضيّه، وما سألتموه (٢) منها حاجة واحدة.

فقلت: أيْ سيّدي فتكون واحدة لهذا المريض المسكين.

فقال: لا كرامة ولا عزازة، تريدني أكون سيّء الأدب. لي إرادة وله إرادة.

ثمّ قرأ: ﴿ أَلا لَهُ النَّحَلْقُ وَأَلامُرُ تَبَارَكَ اللهُ رَبُّ العَالَمِينَ ﴾ (٣) أي يعقوب، الرجل المتمكّن في أحواله، إذا سأل حاجةً وقُضِيتَ له، نقص تمكُّنُه درجةً.

فقلت: أراكَ تدعو عقيب الصَّلُوات وكلّ وقت. قال: ذاك الدَّعاء تعبُّد وآمتثال. ودعاء الحاجات لها شروط، وهو غير هذا الدَّعاء.

ثمّ بعد يومين تَعَافى ذلك المريض.

⁽١) سورة الحديد، الآية ٢٣.

⁽٢) في الأصل: «وما سألتوه».

⁽٣) سُورة الأعراف، الآية ٥٤.

وعن يعقوب أنّه سأل الشّيخ أحمد: أيْ سيّدي، لو كانت جهنّمُ لَكَ ما كنت تصنع بها؟ تُعَدِّبُ بها أحداً؟ (١) فقال: لا وعِزِّتِهِ، ما كنت أُدخل إليها أحداً. فقال: أيْ شيخ، فأنت تقول إنّك أكرم ممّن خلقها لينتقم بها ممّن عصاه. فزعق وسقط على وجهه زماناً، ثمّ أفاق وهو يقول: من هو أحمد في البَيْن؟ يكرّرها مرّات.

وقال: أيُّ يعقوب، المالك يتصرَّف سبحانه.

وعن يعقوب أنّ الشّيخِ أحمد كان لا يقوم لأحدِ من أبناء الـدُّنيا، ويقول: النّظر إلى وجوههم يُقسّي القلب.

وعن الشّيخ يعقوب، وسُئل عن أوراد سيّدي أحمد، فقال: كان يُصَلّي أربع ركْعاتِ بألْف ﴿ قُلْ هُوَ آللهُ أَحَدٌ ﴾ (٢). ويستغفر الله كلّ يوم ألف مرّة، واستغفارُه أن يقول: لا إلّه إلاّ أنت سبحانك إنّي كنتُ من الظّالمين، عملت سوءاً، وظلمت نفسي، وأسرفت في أمري، ولا يغفر الذّنوب إلاّ أنت، فأغفِرْ لي، وتُبْ عليّ، إنّك أنت التوّابُ الرّحيم. يا حيّ يا قَيّومُ، لا إله إلاّ أنت. وذكر غير ذلك.

وكان يترنَّم بهذا البيت:

إنْ كان لىي عند سُلَيْمى قَبُولُ وَكَان يَقُول:

ومستخبر عن سِرِّ ليلىي تىركت يقولىون: خبُرْنا، فأنت أمينُها

ويقول:

أرى رجمالاً بـدون العَيش قـد قنعـوا

فلا أبالي ما يقول العَذُولُ

بعَمْیاء مسن لیلی بغیسر یقیسن وما أنسا إنْ خبَّرتهـم بـــأمیــن

وما أراهم رضوا الدّنيا على الدّينِ

⁽١) في الأصل: «أحد».

⁽٢) أول سورة الإخلاص.

إذا رأيت ملوك الأرض أجمعها وقيل هو فوقهم في النّاس مرتبةً ذاك الَّذي حَسُنَت في النَّاس سِيرتُهُ ويقول:

أغـــــارُ عليهــــا مـــن أبيهــــا وأمّهـــا وأَحْــذَرُ مــن حــدٌ المــرآة بكَفُّهــا

و منه:

إذا تـذكُّـرتُ مـن أنتـم وكيـف أنـا اجللت ذِّكْركـم يجري على بالي ولو شریت بروحی ساعةً سَلَفَتْ من عیشتی معکم ما کان بالغالی

بــــلا مِـــرآءِ ولا شـــكٌ ولا ميْـــن فقُلْ نَعَم مَلِكٌ في زِيِّ مسكينِ وصار يصلُحُ للدّنيا وللدّين

ومِن كُلُّ مَن يُرنُو إليها وينظُرُ إذا نظرت منك اللي أنا أنظر ا

وكان كثير التّعظيم لخاله سيّدي الشّيخ منصور، ويقول للفقراء: إذا قبّلتم عَتبَة الشّيخ منصور، فإنّما تقبّلون يده. ويقول: أنا ملّاح لسفينة الشّيخ منصور، فاسألوا ربَّنا به في حوائجكم.

وكان يقول: إلى أن يُنْفَخُ في الصُّور لا يأتي مثل طريق الشّيخ منصور. وعن ابن كِراز: سمعت يوسف بن صُقَيْر المحدِّث يقول: كنّا في قريةٍ الصّريّة مع سيّدي أحمد، وقد غنّى ابن هديّة:

لو يسمعون كما سمعت حديثها حرّوا لعِـرّة رُكّعـاً وسُجُـودا

فقام سيّدي وتواجد، وردّد البيت، ولم يَزَلْ حتّى كادت قلوب الفقراء تنفطر. وكان ذلك في بدايته بعد موت الشّيخ منصور. ولمّا كان في النهاية بقي سبْع سِنين لا يسمع الحادي وهو قريب منه حتّى تُوُفّي.

وعنه قال: ذكر الشَّيخ جمال الدِّين أبو الفَرَج بن الجَوْزيِّ أنَّ سبب وفاة سيّدي أحمد أبيات أنشِدت بين يديه، تواجَد عند سماعها تواجُداً كان سبب مرضه الَّذي مات فيه. وكان المنشد لها الشَّيخ عبد الغنيِّ بن نُقَطَّة حين زاره، وهي:

إذا جنّ ليلي هام قلبي بذكركم أنوحُ كما ناح الحمامُ المطوَّقُ

وفوقي سَحَابٌ يمطِرُ الهمَّ والأسى سلوا أمَّ عَمْروِ كيف بات أسيرها فلا أنا^(٢) مقتولٌ ففي القتلِ راحةٌ

وتحتي بحارٌ بالدّموع (١) تدفّقُ تُفَكُّ الأسارى دونه وهو موثّقُ ولا أنا ممنونٌ عليّ فأعتَـتُ (٣)

قال: وتُوُفّي يوم الخميس ثاني عشر جُمادى الأولى سنة ثمانٍ وسبعين.

وعن يعقوب بن كِراز قال: كان سيّدي أحمد والفقراء في نهر وليد فقال: لا إله إلاّ الله، قد حان أوان هذا المجلس، فليُعلم الحاضرُ الغائبَ أنّ أحمد يقول، وأنتم تسمعون: مَن خَلا بامرأة أجنبيّة، فأنا منه بريء، وسيّدي الشيخ منصور منه بريء، وسيّدي المصطفى ﷺ منه بريء، وربّنا سبحانه منه بريء، ومن خلا بأمْرَد فكذلك، ومن نكث البَيْعة فإنّما ينكث على نفسه. ثمّ قام من مجلسه.

وبعد شهر عَبَر إلى الله، ودُفِن في قبّة الشّيخ يحيى النّجّار.

وحكى الشّيخ محمد بن أبي بكر بن أبي طالب الصُّوفي آنه سمع جدّه عفيف الدّين أبا طالب يقول: سمعت الشّيخ عبد الرحمن شَمْلة يقول: سمعت سيّدي عليّ يقول: لمّا حَضَرَت الوفاة سيّدي أحمد قبْلها بأيّام قلت: أيْ سيّدي، ما نقول بعدك، وأيش تورّتنا؟

فقال: أيْ عليّ، قُلُ عنّي إنّه ما نام ليلةً إلاّ وكلُّ الخَلْق أفضل منه، ولا حرد قطّ، ولا رأى لنفسه قيمة قطّ. وأمّا ما أورثه فيا ولدي تشهد أنّ لي مال حتّى أورثكم؟! إنّما أورثكم قلوبَ الخَلْق.

فلمّا سمعت من سيّدي خرجت إلى الشّيخ يعقوب بن كِراز فأخبرته، فقال: لك حَسْبٌ، أو لذرّيتك معك؟ فعدت إلى سيّدي فقلت له فقال: لك

⁽١) في الوافي: «بحار للأسي».

⁽٢) في الوافي: «فلا هو».

⁽٣) في الوافي: «عليه فيُطلِّقُ». (٧/ ٢١٩).

ولذُريتك إلى يوم القيامة؛ البَيْعة عامّة، والنّعمة تامّة، والضَّمين ثقة، هي اليوم مشيخة وإلى يوم القيامة مملكة بمشيخة.

نقلت أكثر ما هنا عن يعقوب من كتاب «مناقب ابن الرفاعي» رضي الله عنه. جمع الشيخ محيي الدين أحمد بن سليمان الهمامي، الحسيني، الرفاعي، شيخ الرواق المعمور بالهلالية، بظاهر القاهرة، سمعه منه الشيخ أبو عبدالله محمد بن أبي بكر ابن الشيخ أبو طالب الأنصاري، الرفاعي، الدّمشقي، ويُعرف بشيخ حِطّين، بالقاهرة في سنة ثمانين وستمائة. وقد كتبه عنه مناؤلة وإجازة المولى شمسُ الدّين أبو عبدالله محمدُ بنُ إبراهيم النجزري، وأودعه تاريخه في سنة خمسِ وسبعمائة، فأوَّله قال: ذِكر ولادته. ثمّ قال: قال الشيخ أحمد بن عبد الرحمن ابن الشيخ يعقوب بن كِراز؛ وأكثر الكتاب عن الشيخ يعقوب، وهو نحوٌ من أربعة كراريس. وهو ثمانية فصول في مقاماته وكراماته، وغير ذلك. وهي بلا إستاد، وقع الاختيار منها على هذا القدر الذي هنا.

وتُونُفِّي الشَّيخ ولم يُعْقِب. وإنَّما المشيخة في أولاد أخيه.

قال القاضي ابن خَلِّكان (۱): كان رجلاً صالحاً، شافعياً، فقيهاً، آنضماً إليه خلْقٌ من الفقراء، وأحسنوا فيه الإعتقاد، وهم الطّائفة الرفاعيّة، ويُقال لهم الأحمديّة. ويقال لهم البطائحيّة. ولهم أحوالٌ عجيبةٌ من أكل الحيّات حييّة، والنّزول إلى التّنانير وهي تُضْرَم ناراً، والدّخول إلى الأفْرِنَة، وينام الواحدُ منهم في جانب الفُرن والخبّاز يخبز في الجانب الآخر. وتُوقد لهم النّار العظيمة، ويُقام السّماع، فيرقصون عليها إلى أن تنطفيء. ويُقال إنهم في بلادهم يركبون ألاسُود ونحو ذلك وأشباهه. ولهم أوقات معلومة يحتمع عندهم من الفقراء عالم لا يُحْصَون ويقومون بكفاية الجميع.

والبطائح عدّة قرى مجتمعة في وسط الماء بين واسط والبصرة.

⁽١) ني ونيات الأعيان.

أحمد بن المسلم.
 سيأتي^(۱).

_ حرف الحاء _

٢٦٧ ـ الحسن بن أحمد بن محمد بن المعمّر.

أبو جعفر البغدادي.

سمع: أبا القاسم بن بيان.

وعنه: نسيبه أبو طالب عليّ بن جعفر.

مات في صَفَر .

قاله ابن النّجّار .

٢٦٨ ـ الحسن بن عليّ بن الحسين بن شِيرُويَه (٢).

أبو علي الدَّيْلميِّ الأصَّل، الأزَّجيِّ.

سمع: أبا الغنائم محمد بن علي النَّرْسيّ.

روى عنه: أحمد وتميم ابنا البَنْدَنِيجيّ، ونصر بن الحُصْريّ، وأبو الحسن بن المُقيّر، وجماعة.

وتُوُفّي في وسط السّنة .

٢٦٩ ـ الحسن بن هبة الله بن محمد بن عليّ بن المطَّلب (٣).

(۱) بعد قليل باسم خليفة بن المسلم بن رجاء أبو طالب التنوخي الاسكندراني، ويُعرف بأحمد اللَّخمي. وهو برقم (۲۷۲).

⁽٢) أنظر عن (الحسن بن علي) في: سير أعلام النبلاء ٨٩/٢١ دون ترجمة.

⁽٣) أنظر عن (الحسن بن هبة الله) في: الكامل في التاريخ ١١/ ٤٩١، ٤٩١ وفيه «أبو المظفّر بن الحسن بن هبة الله بن المطّلب»، وتاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة باريس ٥٩٢١) ورقة ،٢٠ والتاريخ المظفري لابن أبي الدم الحموي (مخطوطة مكتبة البلدية بالإسكندرية ١٢٩٢ ب) ورقة ،٢٠١ ومرآة الزمان ١٣٧٨، والمختصر المحتاج إليه ٢٦٢١، ٧٧ رقم ٧٩٠ وسير أعلام النبلاء ٢٩٧١، ٨٩ رقم ٥٤، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤/ رقم ٢٠٠، والوافي بالوفيات ٢١/ ٢٩١ رقم ٢٦٢، والعسجد المسبوك ١٨٧/ وفيه «أبو المظفر بن الحسن بن هبة الله بن المطلب».

فخر الدُّولة أبو المظفَّر ابن الوزير أبي (١) المعالي.

كان متصوِّناً متزهِّداً كثير الحجِّ والصَّدَقات والأُوقاف، كبير الشَّان، وافر الخُرْمة. له جامع كبير بغربي بغداد.

له مدرسة بشرقي بغداد ورباط، ولم يدخل في الولايات.

سمع: أبا الحسن العلاف؛ وقرأ الأدب على أبي بكر بن جُوامرد.

وآمتنع في كِبَره من الرواية .

وقد سمع منه: أبو سعد السمعاني، وأحمد بن صالح الجيلي، والكبار. وتُونِّقي في شوّال.

ـ حرف الخاء ـ

٢٧٠ ـ الخضِر بن هبة الله بن أحمد بن عبدالله بن علي بن طاوس (٢). أبو طالب الدَّمشقيّ.

قرأ القرآن على أبي الوحش سُبَيْع بن قيراط صاحب أبي عليّ الأهوازيّ، وهو آخر من قرأ في الدّنيا عليه، وآخر من سمع من الشّريف أبي القاسم النّسيب، وأبي الحسن عليّ بن طاهر.

ومولده في سنة اثنتين وتسعين وأربعمائة.

وكان أبوه وجده من كبار المقرئين.

روى عنه: أبو المواهب بن صُصْرى، وأخوه أبو القاسم.

وقال أبو القاسم: تُونُفّي في ثامن شوّال.

وروى عنه أيضاً: موفّق الدّين بن قُدَامة، والشّمس والضّياء ابنا عبد الواحد، والبهاء عبد الرحمن، وزين الأُمَناء، وطائفة سواهم، وأحمد بن

⁽١) في الأصل: «أبو».

⁽٢) أنظر عن (المخصّر بن هبة الله) في: المعين في طبقات المحدّثين ١٧٧ رقم ١٨٨٥، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٨٩ دون ترجمة، والعبر ٢٣٣٤، والوافي بالوفيات ٣٢٨/١٣ رقم ٤٠٧، وشذرات الذهب ٢٦١، والدارس في تاريخ المدارس ٢١/ ٩٠، ٩٠.

الحسن بن ريش، والعزّ النَّسَّابة، وإبراهيم بن الخُشُوعيّ.

۲۷۱ - خَلَف بن عبد الملك بن مسعود بن موسى بن بشُكُوال بن يوسف بن داحة (۱).

أبو القاسم الأنصاري، القُرطُبي، المحدِّث. حافظ الأندلس في عصره ومؤرِّخها ومُسْنِدها.

وُلِد سنة أربع وتسعين وأربعمائة.

وسمع: أباه، وأبا محمد بن عتّاب فأكثر، وأبا بحر بن العاص، وأبا الوليد بن رُشد، وأبا الوليد بن طريف، وأبا القاسم بن بَقِيّ، وخلْقاً.

ورحل إلى إشبيلية فسمع: شُرَيْح بن محمد، وأبا بكر بن العربيّ. وأجاز له: عليّ بن سُكَّرَة، وأبو القاسم بن منظور، وطائفة. ومن العراق: أبو المنطقر هبة الله الشّلبيّ بأخَرَة.

أنظر عن (خلف بن عبد الملك) في: معجم شيوخ الصدفي لابن الأبّار (طبعة مدريد (١) ١٨٨٥) ص ٨٢، وتكملة الصلة، له، ٢٠٤/١، رقم ٨٣١، ووفيات الأعيان ٢٤٠/٢، وفهرست ابن خير ٥٠٢، ٥١١، والوفيات لابن قنفذ ٢٩٠ رقم ٥٧٨، ومستفاد الرحلة والاغتراب للتجيبي السبني ٦٥، ٦٦، ٨١، ١٨٣، ٢٢٨، ٢٢٨، ٢٢٩، ٢٨٦، ٣١٦، ٣٤٥، ٤٤٩، والمختصر في أخبـار البشـر ٣/ ٦٦، والعبـر ٢٣٤/٤، وتـذكـرة الحفـاظ ٤/١٢٣٩، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٧ و١٨٨، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وسير أعلام النبلاء ١٣٩/٢١ ـ ١٤٣ رقم ٧١، ودول الإسلام ٧/ ٩٠، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩٢، ومرآة الجنان ٣/ ٤١٢، ٤١٣، والوفيات لابن قنفذ ٢٩٠ رقم ٥٧٨، والوافي بالوفيات ٣١٩/١٣، ٣٧٠ رقم ٤٦٣، والبداية والنهاية ٢١٢/١٣، والديباج المذهب ١١٤، وفيـه وردت وفـاتـه سنـة ٥٩٨ هـ.، وذيـل التقييـد ١/٢٢٥، ٣٣٥ رقـم ١٠٢١، وطبقات الحفاظ ٤٧٩، وتاريخ الخلفاء ٤٥٧، وعقد الجمان (مخطوط) ١٦/ ورقة ٢٥٠، وتاريخ ابن سباط ١٦٣/، ١٦٣، وشذرات الذهب ٢٦١/٤، ٢٦٢، وملء العيبة للفهري (أنظر فهمرس الأعلام) ٢/٤٩٧، ومعجم طبقات الحفاظ والمفسّرين ٨٤ رقم ١٠٦٢، ودائرة المعارف الإسلامية ١/٩٧، ٩٨، وكشف الظنون ٢٨٥، ٢٨٦، ١٦٧٤، ١٧٠٧، وهدية العارفين ٣٤٩/١، والرسالة المستطرفة ٩٥، وشجرة النور الزكية ١٥٤، ١٥٥، ودائرة معارف البستاني ٢/٣٦٥، والأعلام ٢/٣١١، ومعجم المؤلفين ٦/١٠٥، وديوان الإسلام ١/ ٣٥١، ٣٥٢ رقم ٥٥٠ وأنظر مقدَّمة كتاب االصلة؛ طبعة مصر ١٩٦٦.

وله مُعْجَم مفيد.

قال أبو عبدالله الأبار^(۱): كان متَّسع الرّواية، شديد العناية بها، عارفاً بوجوهها، حجَّة، مُقدَّماً على أهل وقته، حافظاً، حافلاً، إخباريّاً، تاريخياً، ذاكراً لأخبار الأندلس القديمة والحديث. سمع العالي والنّازل. وأسند عن شيوخه نيّفاً وأربعمائة كتاب بين صغيرٍ وكبير. ورحل إليه النّاس وأخذوا عنه.

وثنا عنه جماعة، ووصفوه بصلاح الدّخلة، وسلامة الباطن وصحة التواضع، وصِدْق الصَّبر للطّلبة، وطول الاحتمال: وألّف خمسين تأليفاً في أنواع العِلم. ووُلّي بإشبيليّة قضاء بعض جهاتها لأبي بكر بن العربيّ. وعقد الشُّروط، ثمّ اقتصر على إسماع العِلم وعلى هذه الصّناعة، وهي كانت بضاعته. والرُّواة عنه لا يُحْصَون، منهم: أبو بكر بن خير، وأبو القاسم القنطريّ، وأبو القاسم بن سَمْحُون، وأبو الحسن بن الضّحّاك. وكلّهم مات قبله.

وصنَّف كتاب «الصِّلة» في علماء الأندلس، وَصَلَ به «تاريخ ابن الفَرَضيّ». وقد حمله عنه شيخه أبو العبّاس بن العريف الزّاهد.

قلت: وله «كتاب الحكايات المستغربة» مجلّد، و «غوامض الأسماء المُبْهَمَة» عشرة أجزاء، و «كتاب معرفة العلماء الأفاضل» أحد وعشرون جزءاً، و «طرق حديث المِغْفَر» ثلاثة أجزاء، «القربة إلى الله بالصّلاة على نبيته» جزء كبير، «من روى الموطّأ عن مالك» في جزءين، «اختصار تاريخ أبي بكر القشّي» في تسعة أجزاء، «أخبار سُفْيان بن عُييْنَة» جزء كبير، «أخبار ابن الممارك» جزءان، «أخبار الأعمش» ثلاثة أجزاء، «أخبار النسائي» جزء، «أخبار زيادة شبطون» جزء، «أخبار المُحاسبي» جزء، «أخبار أبي القاسم» جزء، «أخبار إسماعيل القاضي» جزء، «أخبار ابن وهب» جزء، «أخبار أبي المطرّف عبد الرحمن بن مرزوق القُنازعيّ» جزء، «قُضاة قُرطبة» ثلاثة أجزاء، المطرّف عبد الرحمن بن مرزوق القُنازعيّ» جزء، «قُضاة قُرطبة» ثلاثة أجزاء،

⁽١) في تكملة الصلة.

«المسلسلات» جزء، «طُرُق من كذّب عليّ ، جزء إلى غير ذلك.

وممّن روى عنه: أبو القاسم أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن أحمد بن رُشد، وأحمد بن عبد المجيد المالقي، وأحمد بن محمد الأصلع، وأبو القاسم أحمد بن يزيد بن بَقِي، وأحمد بن عيّاش المُرْسيّ، وأحمد بن أبي حُبَّة القَيْسيّ، وثابت بن محمد الكَلاعيّ، ومحمد بن إبراهيم بن صلتان، ومحمد بن عبدالله بن الصَّفَّار القُرطُبيّ، وموسى بن عبد الرحمن الغَرْناطيّ، وأبو الخطّاب عمر بن دِحْيَة، وأخوه عثمان بن دِحْيَة.

وبالإجازة: أبو الفضل جعفر بن علىّ الهَمَذَانيّ، وأبو القاسم سِبْط السِّلَفيّ، وآخرون.

قال الأبّار(١): تُونفّي في ثامن رمضان. ودُفن بقرب قبر يحيى بن يحيى اللَّيثيّ وله أربعٌ وثمانون سنة.

۲۷۲ ـ خليفة بن المسلم بن رجاء ^(۲).

أبو طالب التُّنُوخيّ، الإسكندرانيّ، ويُعرف بأحمد اللّخميّ.

قال أبو الحسن بن المفضّل الحافظ: غلب عليه أحمد.

سمع: أبا عبدالله الرّازي، وأبا بكر الطّرطُوشي، وعبد المُعْطي بن

وكان عارفاً بالفقه والأصول، ماهراً في عِلم الكلام وفيه لِينٌ فيما يرويه، إلاّ أنّا لم نسمع منه إلاّ مِن أصوله. تُوُفّي في رمضان^(٣).

في تكملة الصلة. (1)

أنظر عن (خليفة بن المسلم) في: الوافي بالوفيات ١٣/ ٣٨٣ رقم ٤٨٥، ولسان الميزان **(Y)** ٢/ ٤٠٨ رقم ١٦٧٨، والمقفَّى الكبير ١/ ٣٦٣، ٦٦٤ رقم ٦٣٥ وفيه: ﴿أَحمد بن مسلم بن رجاء بن جامع بن منصور بن الحسين بن زياد بن المطهّر. . ويُسمّى أيضاً خليفة١. وذكره المؤلَّف ـ رحمه الله ـ في: سير أعلام النبلاء ٢١/ ٨٩ دون ترجمة.

وكان مولده بالإسكندرية سئة ٤٩٤ هـ. (4)

قلت: وروى عنه: أبو القاسم بن رواحة، وعبد الوهّاب بن روّاج، وأبو عليّ الأوقي، وبنا بن هجّام (١٠).

 $.^{(1)}(....)$

العبد الصّالح.

تُونِقي بالقاهرة، في ذي القعدة.

_ حرف العين _

 $^{(7)}$ عبدالله بن أحمد بن محمد بن عبد القاهر $^{(7)}$.

التخطيب أبو الفضل بن أبي نصر الطُّوسيّ، ثمّ البغداديّ، نزيل المَوْصِل وخطيبها.

وُلِد في صَفَر سنة سبْع وثمانين وأربعمائة.

وسمع حضوراً من: ً طراد الزينبي، وأبي عبدالله بن طلحة النّعاليّ، وطائفة.

وسمع من: ابن البَطِر، والطُّرَيْثِيثيّ، وأحمد بن عبد القادر، وأبي الفضل محمد بن عبد السّلام، وجعفر السّرّاج، وأبي الخطّاب بن الجرَّاح، وأبي غالب الباقِلانيّ، وأبي الحسن بن أيّوب البرّار، ومنصور بن حيد،

خيىر المعارف من كفاني شرّه في ذا الزمان، وبِتُّ منه سالما لا أبتغي ربحاً وذلك بغيتي وأكون في طلب الفوائد ظالما ومتى طلبت كمن مضى في ودّهم مع رفدهم أكون غمراً حالما

 ⁽١) وقال المقريزي: وسُير رسولاً إلى ملك الروم لأنه لم يوجد في ذلك الزمان أكفى منه.
 ومن شعره قوله:

⁽٢) في الأصل بياض، ولم أتبيّن اسم صاحب الترجمة.

⁽٣) أنظر عن (عبدالله بن أحمد بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ١٣١، ١٣١، ١٣١ رقم ٥٥٠، وتلخيص مجمع الآداب ٥/ رقم ٦٨٤، ودول الإسلام ٢/٠١، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٧ رقم ١٨٨٧، وتذكرة الحفاظ ١٣٤١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وسير أعلام النبلاء ٢١٠/٧ .. ٨٩ رقم ٣٥، والعبر ٤٦٣٤، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ١١٩/١، المعرف ١١٩٠، والعبر ١١٩٧، والنجوم ١٢٠ رقم ٢٩، ومرآة الجنان ٣/١١٩، والنجوم الزاهرة ٢/٩٤، والعسجد المسبوك ٢/٨٨، وشلرات الذهب ٤١٢٢.

والحسين بن البُسْريّ وأبي منصور الحنّاط، وجماعة.

وتفرَّد بالرّواية عن أكثرهم. وكان في نفسه ثقة.

وكان أبو بكر الخازميّ إذا روى عنه قال: أنا أبو الفضل من أصله العتيق؛ يقول ذلك احترازاً ممّا زوَّر له وغيّره محمد بن عبد الخالق اليُوسُفيّ. لكنّ لمّا بيَّن المحدَّثون ذلك للخطيب أبي الفضل رجع عن روايته. ثمّ خرَّج لنفسه المشيخة المشهورة من أصوله.

روى عنه: أبو سعد السمعانيّ. وعبد القادر الرُّهاويّ، وأبو محمد بن قُدَامة، والبهاء عبد الرحمن، والقاضي أبو المحاسن يوسف بن شدّاد، وأبو النحسن عليّ بن الأثير، وأبو البقاء يعيش النَّحْويّ، وعبد الكريم بن عبد الرحمن التُّرابيّ، وأبو الخير إياس الشَّهْرزُوري، وإبراهيم بن يوسف بن خَنَة (۱) الكُتُبيّ المَوْصِليّ، وآخرون.

قال الشّيخ الموفّق: كان شيخاً حَسَناً. قرأت عليه «المعتقد» لعبد الرحمن بن أبي حاتم. فكتب في آخره سماعي، وكتب: هذا اعتقادي وبه أدين لله تعالى. ولم نَرَ منه إلاّ الخير.

وقال ابن الدُّبيثي (٢): أنشدنا لنفسه كتابة:

أقولُ وقد خيَّمْتُ بالخَيفِ من مِنى وقرَّبتُ قُرْباني وقَطَّيْتُ أَنْسَاكي وحُرْمةِ بيتِ الله ما أنا بالَّذي أَمَلُكِ مَعَ طولِ الزَّمان وأنسَاك^(٣)

تُوُفِّى رحمه الله في رمضان في اثنتين وتسعين سنة.

وقال الحافظ ابن النَّجَّار في تاريخه: وُلِد ببغداد، وقرأ الفقه والأصول

⁽١) خَنَّة: بالخاء المعجمة ونون مشدَّدة. هكذا قيدها في الأصل.

⁽٢) في المختصر ١٣٢/٢.

 ⁽٣) في الأصل: «وأنساكي»، والتصحيح من: الوافي بالوفيات ٢١/١٧.
 ومن شعره أيضاً:

سقى الله أياماً لنا ولياليا نعمنا بها والعيشُ إذ ذاك ناضرُ ليالي لا أُصغي إلى لوم عاذلِ وطرفي إلى أنوار وجهكِ ناظرُ

على إلْكِيّا أبي الحسن عليّ بن محمد الهرّاسيّ، وأبي بكر الشّاشيّ.

وقرأ الأدب على: أبي زكريّا التّبْرِيزيّ، وأبي محمد الحريريّ.

وسمع بإصبهان من: أبي عليّ الحدّاد؛ وبنيسابور من: أبي نصر بن القُشَيْريّ؛ وبترمذ من: أبي المظفّر ميمون بن محمد، وبالموصل من: أبيه وعمّه. وولى خطابتها زماناً.

وتفرَّد وقصده الرَّحَالُون. ثنا عنه: هبة الله بن باطيش، وعليّ الطّبيب، وأبو الحسن محمد بن القَطِيعيّ.

٧٧٥ _ عبدالله بن أحمد بن محمد بن عليّ بن حَمْنيس(١).

أبو محمد السّرّاج البغداديّ. وقيل اسمه عُبَيْدالله.

سمع: أحمد بن المظفّر بن سوسن، وأبا القاسم بن بيان، وأبا العزّ محمد بن المختار، وأبا الحسن بن العلّاف، وأبا سعد بن خُشَيْش.

قال ابن الأخضر-: كان عاميّاً لا يفهم، ولا يُحسن أن يُصلّي، ولا يقرأ التّحيّات.

قلت: روى عنه: تميم البَنْدَنِيجيّ، ونصر بن الحُصْريّ، وأبو عبدالله بن الدَّبِيثيّ، وأبو عبدالله بن الدَّبِيثيّ، وأبو صالح الجِيليّ، ومحمد بن إسماعيل الطّبّال، وعبد اللطيف بن المبارك النّهروانيّ، وآخرون.

ومات في رجب عن سنٍّ عالية.

٢٧٦ ـ [عبدالله](٢) بن عبدالله.

أبو الخير الرّوميّ، الجوهريّ، مولى جعفر الطّيبيّ.

قال الدَّبيثيّ: كَان خيّراً حافظاً للقرآن. قرأ لأبي عَمْرو على أبي العزّ

⁽۱) أنظر عن (عبدالله بن أحمد بن محمد) في: العبر ٤/ ٢٣٥، والمعين في طبقات المحدّثين ۱۷۷ رقم ۱۸۸۸، وشلرات اللهب ٤/ ٢٦٢. وذكره المؤلّف ـ رحمه الله ـ دون أن يترجم له في: سير أعلام النبلاء ٢١/ ٨٩.

 ⁽٢) في الأصل بياض، والمستدرك من: المختصر المحتاج إليه ٢/٦٤٦ رقم ٧٧٨.

القلانِسيّ سنة سبْع عشرة وخمسمائة ببغداد. وأقرأ النّاس.

وروى عن: أبي القاسم بن الحُصَين.

٢٧٧ ـ عبدالله بن يحيى بن عبدالله بن فُتُوح (١).

أبو محمد الحضرمي، الدّاني، النّخويّ، المعروف بعَبْدُون، وبابن صاحب الصّلاة.

أخذ القراءآت عن أبي عبدالله بن سعيد الدّانيّ، وقرأ عليه الأدب، وعلى: والده يحيى، وأبي الحسن طاهر.

وحمل عن: الحافظ أبي الوليد بن خيرة.

وأقرأ النَّحو بشاطِبة زماناً. ثمّ أدَّب بني صاحب بَلَنْسِيَة. وكان مبرّزاً في العربيّة، مشاركاً في الفقه وقَوْل الشعر، متواضعاً، طيّب الأخلاق.

أخذ عنه جِلَّة منهم: أبو جعفر الدَّهَبيّ، وأبو الحسن بن حريق، وأبو محمد بن نصرون، وأبو الربيع بنِ سالم.

وتُوُفِّي في مُسْتَهلٌ رحب ببَلَنسِية وله إحدى وستون سنة.

بن القاضي أبي خازم محمد بن القاضي أبي يَعْلَى بن الفرّاء . الله $(x)^{(1)}$

الحنبليّ أخو أبي يَعْلَى الصّغير.

سمع: أباه، وابن الحُصَيْن، وابن كادش.

وعنه: القَطِيعيُّ، وعبدالله بن أحمد العجبَّاز.

وُلِد سنة عشرِ وخمسمائة.

ومات في ذي الحجّة.

أنظر عن (عبدالله بن يحيى) في: المقتضب من تحفة القادم ٦٨، ٦٩، وتكملة الصلة ٢/ ٨٥٨، ٨٥٨ رقم ٢٠٦٦، والوافي بالوفيات ١٦٨/١٧ ــ ١٧٠ رقم ٢٦٥، وبغية الرعاة ٢/ ٢٥، ٦٦ رقم ١٤٥١.

⁽٢) في الأصل بياض ، والمستدرك من: ذيل طبقات الحنابلة ١/ ٣٥١ _ ٣٥٣ رقم ١٧١ .

 $(...)^{(1)}$ بن عبدالله بن علوان.

أبو عبدالله الأسَديّ، الحلبيّ المجاور بالحجاز، أخو أبي محمد ابن الأستاذ.

إمام زاهد عابد. علَّق عنه أبو المواهب بن صَصْرى، وقال: أقام بالحجاز سنين، وكان للمجاورين به راحة.

قِدِم علينا سنة ثمانِ وسبعين، ثمّ سأل من صلاح الدّين أن يرسل معه من يخفره إلى المدينة، فأرسل معه مَن خفره، فوصل ومرض، فمات في شعبان منها.

۲۸۰ ـ على بن أنوشيكين (۲).

أبو الحَسَن الجوهريّ.

روى عن: أُبَيِّ النَّرْسِيِّ.

سمع منه: عمر بن عليّ، وغيره.

وتُوُفّي في رجب وقد نيّف على الثّمانين^(٣).

٢٨١ ـ عليّ بن الحسين (١).

أبو الحسن الأندلسيّ، النّجّار، الزّاهد المعروف بابن سَعْدُوكُ من جزيرة

سكن بَلَنْسيَة.

قال الأَبْارَ^(ه): كان من أهل الزُّهد والصّلاح التّام والعِلم، يستظهر كثيراً من «صحيح مسلم». وتؤثّر عنه كرامات مشهورة ومقالات عجيبة.

⁽١) في الأصل بياض.

⁽٢) أنظر عن (علي بن أنوشتكين) في: ذيل تاريخ بغداد ٢١١، ٢١١ وقم ٦٨٩.

 ⁽٣) قال ابن النجار: كان يبيع الجوهر، ثم كبر وأسن فانقطع في منزله.

⁽٤) أنظر عن (علي بن العسين) في: تكمُّلة الصلة لابن الآبّار، رقم ١٨٦٩، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٥ ق ١/ ٢٠٥ رقم ٤٠٦.

⁽٥) في تكملة الصلة.

وكان يخبر بأشياء خَفِيّة لا تتوانى أن تظهر جليّة.

وكان أمَّاراً بالمعروف، نهَّاءاً عن المُنْكَر. يجلس للنَّاس ويعِظ.

وكانت العامّة حزبه. ولمّا مات ازدحم الخلّق على نَعشه رحمه الله.

۲۸۲ ـ عيسى بن عِمران.

أبو موسى المِكْناسيّ.

صحِب أبا القاسم بن ورد وأختص به. وكان يقول: لم يكن بالأندلس مثل أبي القاسم بن ورد.

ولقي بأغمات أبا محمد اللَّخميّ فسمع منه في سنة ثلاثين. وكان من الرَّاسخين في العِلم، قائماً على الأصول والفروع، أديباً شاعراً، خطيباً، مُفَوّها، مدركاً، من رجال الكمال.

ولى قضاء مَرّاكُش فحُمِدت سيرته.

وُلِد سنة اثنتي عشرة وخمسمائة.

وتُوُلِّي في شعبان وله ستٌّ وستّون سنة .

_ حرف الفاء _

۲۸۳ ـ فَرُّوخُشَاه بن شاهنشاه بن أيّوب بن شاذي (۱).

الملك عزّ الدّين أبو سعد، صاحب بَعْلَبَكَ، ابن أخي السّلطان صلاح الدّين. كان كثير الصَّدَقة والتّواضُع، ولديه فضيلة في العربيّة والشّعر.

⁽۱) أنظر عن (فروخشاه) في: البرق الشامي ٣/ ٢٩، ٨٥، ٨٦، ٩٤، ١٤٩، ١٥٠، ١٦١، ١٧١ الله عن (فروخشاه) في: البرق الشامي ٣/ ٢٩، ٥٥، والنوادر السلطانية ٥٦، والكامل في التاريخ ١١/ ١٩٤، والأعلاق الخطيرة ١/ ٤٩، ومفرّج الكروب ٢/ ١٢٤ _ ١٢٦، ومرأة الزمان ٨/ ٣٧٧، وزبدة الحلب ٣/ ٢٧، ووفيات الأعيان ٧/ ١٦٧، والمختصر في أخبار البشر ٣/ ٥٥، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، والعبر ٤/ ٣٣٠، و٥٣٢، ودول الإسلام ١٠٤، وسير أعلام النبلاء ١٢/ ٨٩ دون ترجمة، والسلوك ج ١/ق ١/ ٢٩، وتاريخ ابن الوردي ٢/ ٩، والبداية والنهاية ١١/ ١١٣، ومضمار الحقائق ١٥ و٣١، و١٠٤، وتاريخ ابن سباط ١/ ١٦٣، والعسجد المسبوك ٢/ ١٨٧.

ناب عن صلاح الدّين بالشّام، وكان للتّاج الكِنْديّ به اختصاص. وقد مدحه هو والعماد الكاتب.

تُونِّقي بدمشق في جُمادَى الأولى، ودُفن بقبَّتِه. ومدرسته بالشّرف الأعلى (١١).

وولى بَعْلَبَكَّ بعده ابنُه الملك الأمجد.

_ حرف القاف _

٢٨٤ ـ القاسم بن عمر.

الأديب البارع، أبو عبدالله البغداديّ، المؤدّب، ويُعرف بالخليع، الشّاعر مدح (٢) الخلفاء والوزراء.

روى عنه: أبو الحسن بن القُطِيعيّ.

وكان من فحول الشَّعراء. له قصيدة طنَّانة في المستضيء.

مات في جُمادى الأولى سنة ثمانٍ، وله إحدى وستّون سنة.

_ حرف الميم _

٢٨٥ ـ محمد بن أحمد بن عُبَيدُالله بن حسين (٣).

قال العماد: أنشدني في قلعة دمشق ونحن بين يدي صلاح الدين:

إذا شئت أن تعطي الأمور حقوقها وتوقع حكم العدل أحسن موقعه فلا تصنع المعروف مع غير أهله فظلمك وضع الشيء في غير موضعه وقد قال في وصف دمشق:

دمشق سقاك الله صوب غمامة فما غمائب عنها لدى رشيد عسى مسعد لي أن أبيت بأرضها على أنني لو صح لي لسعيد وله أشعار كثيرة مدوّنة.

(٢) في الأصل: «مع».

(٣) أنظر عن (محمد بن أحمد بن عبيدالله) في: المختصر المحتاج إليه ج ١.

⁽١) وقال سبط ابن الجوزي: كان من الأفاضل الأنابل، كثير الصدقات، متواضعاً، سخياً، جواداً، مقداماً، متنصّلاً من المظالم. وكان صلاح الدين قد استنابه بالشام، وكان فرخشاه شاعراً فصيحاً.

أبو المفضّل الآمِديّ ثمّ الواسطيّ. سِبط ابن الأغلاقيّ. من أهل القرآن والحديث والتصوّف.

سمع من: أحمد بن محمد بن حمدون المقرىء، والمبارك بن إبراهيم الخطيب، وأبي عليّ الحسن بن إبراهيم الفارقيّ.

وتُونُقِي في ذي الحجّة بواسط، وله ثلاثٌ وسبعون سنة.

روى عنه: أبو عبدالله بن الدَّبيثيّ في «تاريخه».

٢٨٦ ـ محمد بن عبد الملك بن عليّ بن محمد (١).

أبو المحاسن الهَمَذَانيّ.

كان أبوه محدّثاً مُكثِراً، قدِم بغداد واستوطنها.

وسمع محمد من: ابن الفاعوس، وابن المُصَيْن، وأحمد بن رضوان (٢)، وزاهر بن طاهر.

وكان محمد ثقة مطبوعاً، سمع منه جماعة.

وتُوُفّي في ذي الحجّة.

أجاز لابن الدَّبيثيّ (٣)، وللشّيخ الضّياء.

وحدَّث عنه: عبد الرحمن بن عمر الغزّال.

٢٨٧ ـ محمد بن عتيق بن عطّاف.

أبو عبدالله الأنصاريّ اللّارِديّ (٤)، المعروف بابن المؤذّن.

⁽١) أنظر عن (محمد بن عبد الملك) في: مشيخة النعال البغدادي ٦١ ـ ٦٣، وذيل تاريخ مدينة السلام بغداد لابن الدبيثي ٢/٥١ ـ ٥٣ رقم ٢٥٩، وتلخيص مجمع الآداب لابن الفوطي ج ٥/رقم ١٥٦١، والمختصر المحتاج إليه ٢٠/١.

⁽٢) هو: أبو نصر أحمد بن عبدالله بن رضوان. (مشيخة النعّال).

 ⁽٣) وهو قال: وكان ثقة، صحيح السماع، سهل الأخلاق، وسمع منه أصحابنا وما لقيته. وقد أجاز لنا. (ذيل التاريخ ٢/ ٥٢).

⁽٤) اللّارِديّ: بالراء مكسورة، والدال مهملة. نسبة إلى لاردة، مدينة مشهورة بالأندلس شرقي قرطبة تتصل أعمالها بأعمال طرّكونة منحرفة عن قرطبة الى ناحية الجوف. (معجم البلدان ٥/٧).

سكن بَلنسية .

وأخذ عن: أبي محمد القلنيّ وناظر عليه في «المدوَّنة».

ورِحل إلى قَرْطُبة فناظر على أبي عبدالله بن الحاجّ.

وقَدِّم للشورى والفتيا ببَلَنْسِية. وكان عارِفاً بالفقه، حافظاً إماماً.

تُوُفي رحمه الله في شعبان وقد تعدَّى الثَّمانين.

 $^{(1)}$. محمد بن عبد الرحمن بن أبى بكر

أبو عبد الرَّحمن بن أبي الفتح الكُشْمِيْهَنيِّ (٢)، المَرْوَزِيِّ، الواعظ. والد أبي المجامد محمود.

قدِم بغداد سنة ستين وخمسمائة. وحدَّث «بصحيح مسلم» عن الفُرَاويّ في مجلس الوزير ابن هُبَيْرة.

وسمع أيضاً من: أبي بكر محمد بن منصور السَّمعانيّ، وأبا حنيفة النُّعمان ابن إسماعيل، وأبا منصور محمد بن عليّ الكُراعيّ^(٣).

وقد سمع ببغداد من: هبة الله بن الطّبر، وأبي غالب بن البنّا.

وسمع بنَيْسابور من: أحمد بن عليّ بن سَلْموَيْه، والفُرَاويّ، وعبد الغافر بن إسماعيل.

وقد قدِم الشّام وحدَّث بها.

روى عنه: أبو الفُتُوح بن الحُصْريّ، والأستاذ عبد الرحمن الأَسَديّ بحلب، وزين الأُمَناء ابن عساكر، وأبو القاسم بن صَصْرى بدمشق حدَّث بها

⁽۱) أنظر عن (محمد بن محمد بن عبد الرحمن) في: تاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة شهيد علي) ورقة ۱۰۸، والمختصر المحتاج إليه ۱/۰۱، وسير أعلام النبلاء ۲۱/۸۱، ۸۲ رقم ۲۹، والوافي بالوفيات ۱/۱۲۰، ۱۲۲ رقم ۹۲.

⁽٢) الكُشْمِيهَني: بضم الكاف وسكون الشين المعجمة وكسر الميم وسكون الياء المنقوطة من تحتها باثنتين وفتح الهاء وفي آخرها النون. نسبة إلى قرية من قرى مرو على خمسة فراسخ منها في الرمل إذا خرجت إلى ما وراء النهر. (الأنساب ٢٠/١/٤٣).

 ⁽٣) الكُراعي: بضم الكاف وفتح الراء وفي آخرها العين المهملة. نسبة إلى بيع الأكارع والرؤوس. (الأنساب ٢٠/ ٣٧٣).

هو وابنه محمود ولم يذكرهما ابن عساكر في «تاريخه» فإنّهما قدِما دمشق بعد أن فرغ من «التّاريخ».

وآخر من روى عنه: أبو إسحاق الكاشْغَريّ (١). سمع منه «جزء الكُراعيّ» أو بعضه في سنة ستين وخمسمائة.

وكان ورعاً ديِّناً، مليح الوعظ.

روى عنه: أبو الفَرَج بن الجوزيّ، وغيره.

وتُونُقِي في المحرَّم بمَرْو، وله خمسٌ، وثمانون سنة إلاَّ شهراً.

٢٨٩ _ محمد بن مالك بن أحمد بن مالك (٢).

أبو بكر وأبو عبدالله الميريليّ نزيل إشبيلية.

أخذ القراءآت عن شُرَيْح، والعربيّة عن أبي العبّاس بن حاطب.

وروى عن: أبي بكر بن العربيّ.

وحجَّ وحدَّث. وكان فاضلاً زاهداً مشاراً إليه بإجابة الدَّعوة.

روى عنه: ثابت بن خيار وقرأ عليه «كتاب سِيبَوَيَّه»، وأبو إسحاق الأصبحيّ، وأخذ عنه القراءآت وأجاز له في شوّال من السّنة.

 $^{(7)}$ مروان بن عبدالله بن مروان بن محمد $^{(7)}$.

أبو عبد الملك البَلنْسِيّ، قاضي بَلنْسِية ورئيسها.

سمع من: أبي الحسن بن هُذَيْل، وأبي عبدالله بن سعيد الدّانيّ، وأبي الوليد بن الدّبّاغ.

وأجاز له أبو عليّ بن سُكِّرةً، وجماعة.

ووُلِّي القضاء سنة تسع وثلاثين، ثمّ تأمَّر ببلده عند انقراض الدَّولة اللّمتُونيَّة في شوّال من سنة تسع، وبويع بالإمرة في صَفَر سنة أربعين. ثمّ خُلِع

⁽١) الكاشْغَرِيّ: بفتح الكاف وسكون الشين المعجمة وفتح الغين وفي آخرها الراء. نسبة إلى بلدة من بلاد المشرق يقال لها كاشْغَر. (الأنساب ٣٢٤/١٠).

⁽٢) أنظر عن (محمد بن مالك) في: غاية النهاية ٢/ ٢٣٤ رقم ٣٣٨٧.

⁽٣) أنظر عن (مروان بن عبدالله) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

بعد قليل، وحبسه اللّمتُونيّون في حصن سيف عشرة سنين. ثمّ خلّص وسار إلى مَرّاكُش وحدَّث بها.

قـال الأَبّـار: أخـذ عنـه: أبـو محمـد، وأبـو سليمـان ابنـا حَـوْط الله، وعقيل بن عطيّة، وأبو الخطّاب بن الحميّل، وأخوه عثمان.

ومات بمَرّاكُش وله أربعٌ وسبعون سنة .

۲۹۱ ـ مسعود بن محمد بن مسعود (۱).

قُطُب الدِّين النَّيْسابوريّ أبو المعالي الطُّرَيْثيثيّ (٢)، الفقيه الشَّافعيّ، نزيل دمشق.

وُلِد سنة خمسٍ وخمسمائة. ورأى: أبا نصر عبد الرحيم بن القُشَيْري. وتفقَّه بنَيْسابور على ابن يحيى. وقرأ الأدب على والده أبي عبدالله الطُّرَيْثِيْتِيّ. ثمّ رحل إلى مَرْو، فتفقه على أبي إسحاق إبراهيم بن محمد المَرْوزيّ.

وسمع من: هبة الله السَّدِّيّ، وعبد الجبّار البّينهَقيّ.

⁽۱) أنظر عن (مسعود بن محمد) في: وفيات الأعيان ١٣٥/٣ و ١٦٥ و ٢١٠ و ٢٠٠، ٢٠٠، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ١٩٥/٠، ومرآة الزمان ١٩٧٨، ٣٧٣، ٣٧٣، والمختصر في أخبار البشر ٣/٢٦، والعبر ١٩٠٤، ٢٣٥، ودول الإسلام ٢/ ٩٠، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٨ رقم ١٨٨٩، وسير أعلام النبلاء ١٢/ ٩٨ دون ترجمة، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ١٩٠٤، وطبقات الشافعية للإسنوي ٢/٨٩٤ رقم ١١٩٣، وتاريخ ابن الوردي ٢/٢٠، ٩٣ ومرآة الجنان ٣/٢١٤، لاسنوي ٢/٨٤، والنهاية ٢/٢١٣، ٣١٣، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ٢/٢٥٠، ١٩٤، والبداية والنهاية ٢/٢١٣، ٣١٣، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ٢/٢٥٠، وسيرة ٣/٤٠، والعسجد المسبوك ٢/١٠، وألدارس في تاريخ ابن سباط ١/١٢٤، وشذرات اللهب ٢٦٣٤، والدارس في تاريخ المدارس ١٩٥٨، والأعلام ١١٥٠٨.

⁽٢) الطُرَيْشِيّْ: بضم الطاء المهملة، وفتح الراء، وسكون الياء المنقوطة من تحتها باثنتين، وبعدها الثاء المثلّثة بين الياءين، وفي آخرها مثلّثة أخرى. نسبة إلى طُرَيْشِث وهي ناحية كبيرة من نواحي نيسابور بها قرى كثيرة، ويقال لها بالعجمية «ترشيز». (الأنساب ٢٣٨/٨).

ودرَّس بنظاميّة نَيْسابور نيابةً، واشتغل بالوعظ. وورد بغداد ووعظ بها، وحصل له القبول التّامّ.

وكان ديِّناً، عالماً، متفنِّناً.

ثمّ راح إلى دمشق سنة أربعين، وأقبلوا عليه، ودرّس بالمجاهديّة (١) ثمّ بالزّاوية الغزاليّة (٢) بعد موت أبي الفتح نصر الله المصّيصيّ.

وكان حَسَن النَّظَرِ.

ثمّ خرج إلى حلب، وولي بها تدريس المدرستين اللَّتين بناهما نور اللَّين وأسد الدَّين، ثمّ مضى إلى هَمَذَان وولي بها التّدريس مدّة. ثمّ عاد إلى دمشق، ودرَّس بالغزاليّة وحدَّث، وتفرَّد برئاسة الشّافعيّة.

قال القاسم بن عساكر: كان حَسَن الأخلاق، متودّداً، قليل التّصلُع. مات في سلْخ رمضان. ودُفِن يوم العيد.

قلت: وقد ورد بغداد رسولاً؛ وكتب عنه: عمر بن عليّ القُرَشيّ، وأبو المواهب بن صَصْرى؛ وأجاز للبهاء عبد الرحمن، وللحافظ الضّياء.

وروى عنه: أبو القاسم بن صَصْرى، وتاج الدّين عبدالله بن حَمُّوَيْه. وتخرّج به جماعة.

وقيل إنّه وعظ مرّةً، فسأل نور الدّين أن يحضر مجلسه، فحضر فشرع في وعظه يناديه كما كان يفعل البرهان البلْخيّ شيخ الحنفيّة، فقال للحاجب: اصعد إليه، وقُلْ له لا تخاطبني باسمي.

فَسُئل نور الدين عن ذلك فيما بعد. فقال: إنّ البلْخيّ كان إذا قال يا محمود قامت كلّ شعرة في جَسَدي هيبة له، ويرق قلبي، والقُطْبُ إذا قال يا محمود يقسو قلبي ويضيق صدري. حكاها سِبْط ابن الجوزيّ^(٣)، وقال: كان

⁽١) أنظر عنها في: الدارس في تاريخ المدارس ٢/٣٤٧، ومنادمة الأطلال ١٤٦، ١٤٧.

⁽٢) أنظر عنها في: الدارس في تاريخ المدارس ١٣٦/١ و٣١٣.

 ⁽٣) في مرآة الزمّان ٨/ ٧٧٣.

القُطْب غريقاً في بحار الدّنيا.

قلت: وكان معروفاً بالفصاحة والبلاغة وكثرة النّوادر ومعرفة الفقه والمخلاف. تخرّج به جماعة. ودرّس أيضاً بالجاروخيّة (١). ودُفن بتُربةٍ أنشأها بغربيّ مقابر الصّوفيّة. وبنى مسجداً على الصّخرات الّتي بمقبرة طاحون الميدان، ووقف كُتُبه.

٢٩٢ ـ مَعَدٌ بن حَسَن بن عبدالله.

أبو تراب البغدادي، المنادي.

سمع: أبا سعد أحمد بن عبد الجبّار الصَّيْرَفي، وهبة الله بن الحُصَيْن.

سمع أحمد بن أحمد البُنْدَنِيجيّ.

وكان لا بأس به ينادي على السَّقط.

وتُوُفّي في جُمادى الآخرة.

۲۹۳ ـ مودود^(۲).

الذَّهبيّ، الزّاهد. بغداديّ كبير القدر.

قال ابن النّجّار: ذكر لي شيخنا السّهروَرُديّ أنّه كان من أولياء الله المكاشفين.

قال: وصحِبْتُه.

قال ابن النّجّار: وذكر لي أبو الحسن القَطِيعيّ: أُخِد مودود الذّهبيّ في حادثة إلى باب النُّوبيّ، فأمروا بضربه، فلمّا رفع الضارب بيده لم يقدر على حطّها. فُاطلق فُاطلقت يد الضّارب؛ فأنقطع عن النّاس.

وكان جارنا أبو البركات الشّهرزُوريّ يذكر لنا أحواله وكراماته. تُونّي في هذا العام.

⁽١) أنظر عنها في: الدارس في تاريخ المدارس ١٦٩/١، ومنادمة الأطلال ٩٣.

⁽٢) في الأصل: «ممدود»، والمثبت من: مرآة الزمان ٣٧٣/٨، والمختصر المحتاج إليه ٣/٠٠ رقم ٢٠٣٧، وفي العسجد المسبوك ٢٠٩/١ «أبو ممدود».

 $^{(1)}$ هبة الله بن محمد بن هبة الله بن مميل

أبو محمد بن أبي نصر الشّيرازيّ، ثمّ البغداديّ.

وُلِد ببغداد سنة خمسمائة، وسمع بها: أبا عليّ بن نبهان، ومحمد بن الحسن بن باكير، الفارسيّ، وجماعة.

وكان عدْلاً فاضلاً، وصوفيّاً واعظاً.

قدِم دمشقَ سنة ثلاثين وخمسمائة فاستوطنها، وولي إمامة مشهد عليّ بالجامع. وفُوِّضَ إليه عقد الأنكحة.

وكان ديّناً، حَسَن الطّريقة.

ولمّا تُونِّقي في ربيع الأوّل خَلَفَه في إمامة المشهد ابنه القاضي أبو نصر. روى عنه: ابنه، وابن ابنه أبو المعالي أحمد بن محمد، وأبو المواهب بن صَصْرى، وآخرون.

ـ حرف الواو ـ

٢٩٥ ـ وفاء بن أسعد بن النَّفيس بن البهيّ ^(٢).

أبو الفضل التُّركيّ، ثمّ البغداديّ الخبّاز.

شيخ صالح من أولاد الأجناد.

سمّع: أبا القاسم بن بيان^(٣)، وأبا الخطّاب الكَلْوَاذانيّ^(٤)، وأبا طاهر عبد الرحمن اليُّوسُفيّ، وجماعة.

ووُلد سنة خمسمائة.

⁽١) أنظر عن (هبة الله بن محمد) في: العبر ٢٣٦/٤، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وسير أعلام النبلاء ٢١/٨٥ دون ترجمة.

 ⁽۲) أنظر عن (وفاء بن أسعد) في: مشيخة النعال ٥٩ ـ ٢١، والمختصر المحتاج إليه ١٢/١ و٣/ ٢١٨ رقم ١٢٧٤، والعبر ٤/ ٢٣٧، وشذرات الذهب ٢٦٣/٤،

⁽٣) هو: أبو القاسم على بن أحمد بن بيان الرزّاز. توفي سنة ٥١٠هـ.

⁽٤) هو: أبو الخطاب محفوظ بن أحمد الكلوذاني. توفي سنة ٥١٠ هـ.

روى عنه: أبو محمد بن الأخضر، وأبو محمد بن قُدَامة، والبهاء عبد الرحمن، وأبو صالح الجيليّ، وجماعة.

وقال أبو الفُتُوَح بنَ الْحُصْريّ: تُوُفّي في ربيع الآخر.

ـ حرف الياء ـ

٢٩٦ ـ يحيى بن أحمد بن يحيى بن سيدبونه. أبو زكريّا الخُزَاعيّ، الدّانيّ. روى عن: أبيه، وأبي إسحاق بن جماعة. وأخذ القراءات عن أبي عبدالله بن سعيد الدّانيّ. وحجّ، وسمع بالإسكندريّة.

سمع منه في هذا العام محمد بن عمر بن عامر الدّانيّ.

* * *

وفيها وُلد بعقرباء، مكّيّ بن عبد الرّزّاق.

سنة تسع وسبعين وخمسمائة

_ حرف الألف _

۲۹۷ ـ أحمد بن محمد بن سليمان بن محمد (١). الإمام أبو جعفر الأنصاريّ، الأندلسيّ، الملقّب بالطّينلسان، لحُسْنِ

بزَّته .

أكثر عن أبي مروان بن مَسَرَّة، وغيره.

وطال عُمره.

قال حفيده أبو القاسم بن الطَّيْلسان: تُوُفِّي في صَفَر (٢).

۲۹۸ ـ إبراهيم بن أحمد بن عبد الرحمن بن عثمان^(۳).

أبو إسحاق الأنصاري، الغَرْناطيّ.

سمع من: غالب بن عطية، وابن البادش، وأبي الوليد بن بقوة، وابن

وقرأ بالرّوايات على: منصور بن الخير، وابن شفيع، وابن المطرّف بن الوراق.

وسمع «الموطّأ» في يوم واحد على ابن موهب.

أنظر عن (أحمد بن محمد بن سليمان) في: تكملة الصلة لابن الأبّار ١/١٨، والذيل (1) والتكملة لكتابي الموصول والصلة ج ١ ق ٢/ ٤٣٢، ٣٣٤ رقم ٦٤٣.

وكان من أهل العلم بتجويد القرآن العظيم كثير التلاوة له، معروف الفضل من بيت علم **(Y)** ونباهة ودين.

أنظر عن (إبراهيم بن أحمد) في: تكملة الصلة لابن الأبّار ١٥٥١، ١٥٦، ومعرفة القراء (٣) الكبار ٢/٧٤٥ رقم ٤٩٤، وغاية النهاية ١/٧.

وله إجازة من أبي بكر الطَّرَطُوشيّ. وأوّل سماعه سنة أربع عشرة وخمسمائة. وكان ذا تفنُّن في العلوم^(١).

وُلِّي القضاء بأماكن.

روى عنه: أبو الخطّاب بن واجب.

مات في جُمادى الأولى وله أربعٌ وثمانون سنة رحمه الله تعالى.

۲۹۹ ـ إسماعيل بن قاسم الزّيّات (۲).

المصريّ.

روى عن: أبي صادق،مرشد بن يحيى المَدِينيّ، وغيره.

روى عنه: الحافظ عبد الغنيّ، والشّيخ أبو عمر، ونبا بن أبي المكارم الأطرابُلُسيّ، وكريمة بنت عبد الحقّ القُضاعيّة، وجماعة.

قال أبو الحسن بن المفضّل: أجاز لي ولولدَيّ.

وتُوُفِّي رحمه الله بمصر في شعبان.

_ حرف الباء _

٣٠٠ ـ بُجُيْر بن عليّ بن بُجَيْر .

القاضي أبو الفتح الأشِيريّ، الفقيه. نزيل دمشق.

حدَّث عن: عبد الملكُ الكُرُّوخيّ.

روى عنه: أبو القاسم بن صَصْرى، وغيره.

وناب في القضاء عن الشّهرزُوريّ.

ودرّس بالغزاليّة مدّةً، وعاش نيّفاً وسبعين سنة.

تُوُفّي في تاسع ربيع الآخر.

 ⁽١) وقال ابن الأبّار: وكان من أهل المعرفة الكاملة والتفّنن في العلوم والنفوذ في الأحكام.
 (تكملة الصلة).

⁽٢) أنظر عن (إسماعيل بن قاسم) في: سير أعلام النبلاء ٢١/ ٩١ دون ترجمة.

۳۰۱ ـ بوري (۱).

تاج الملوك مجد الدّين، أخو السّلطان صلاح الدّين.

صار إلى عفو الله في الثالث والعشرين من صَفَر، وله ثلاثٌ وعشرون

سنة .

وكان أصغر أولاد نجم الدّين أيّوب.

وكان أديباً فاضلاً له ديوان شِعر، فمنه:

ومماتي حين يسخط (٢) على ضُغفي مُسلط برّح بي الشّوق وأفرط بالتّلاقي منك يغلط

يا حياتي حين يرضى بين أجفان أجفان وسلطان قسيد تصبّدت وإنْ فلعسل السدّهير يسوماً وله:

غلطوا^(٤) إذاً في قولهم وأساءوا سِلُّ وسائر^(٥) ليله استسقاءُ^(٢)

رمضان بلا مرضان إلاّ أنّهم مَرَضان فيه تخالف، فنهارُهُ وله:

آه من ورد على خيد يه بالمسك منقط

⁽۱) أنظر عن (بوري) في: ذيل تاريخ دمشق ۲۱۹، وزبدة الحلب ۲۱٪، ومفرج الكروب ٢١٤٪، ومؤرج الكروب ٢١٤٪، ومرآة الزمان ٨/ ٢٧٪، والمختصر في أخبار البشر ٢١٣٪، والدرّ المطلوب ٧٧، والعبر ٤١٤٪، وتاريخ ابن الوردي ٢٣/٤، ومرآة الجنان ٤١٤٪، ٤١٥، والوافي بالوفيات ٢١٠، ٣٢٠ ـ ٣٢٠ رقم ٢٨٣٤، والسلسوك ج ١ ق ١/ ٨١، والمقفى الكبير ٢/ ٥٠٠ ـ ٥١٠ رقم ٩٨٤، والنجوم الزاهرة ٢/ ٢٦، وشدرات اللهب ٤/ ٢٦٥ ومضمار الحقائق ١٤٤، وترويح القلوب ٧٨، وتاريخ ابن سباط ١/ ١٦٤ (٥٧٥ هـ.)، والأعلام ١/ ٢٥٠.

⁽٢) زاد في مرآة الجنان بيتاً بعده:

⁽٣) في مرآة الجنان «جفنيك».

 ⁽٤) في الدر المطلوب: «أخطوا».

⁽٥) في الدرّ المطلوب: اولكنا.

 ⁽٦) مقرّج الكروب ٢/١٤٤، البدر المطلوب ٧٧، النجوم الزاهرة ٢/٩٦، مرآة الزمان
 ٨/ ٣٧٨.

أقبل من أعشق واكباً من جهة الغرب^(۱) على أشهب فقلت: سُبحانك يا ذا العُلا أشرقت الشّمس من المغرب^(۲)

تُونِّقي رحمه الله على حلب من طعنة أصابت رُّكبته يوم سادس عشر المحرَّم يوم نزول أخيه عليها، فمرض منها. وكان السلطان قد أعدَّ للصّالح عماد الدين صاحب حلب ضيافة في المخيَّم بعد الصُّلح، وهو على السّماط إذ جاءه الحاجب فأسرَّ إليه موت بوري، فلم يتغيّر وأمره بتجهيزه ودفنه سرّاً، وأعطى الضّيافة حقّها. فكان يقول: ما أخذنا حلب رخيصةً.

وبوري بالعربيّ: ذئب.

ـ حرف التاء ـ

۲۰۲ ـ تَقيّة (۳) .

(٢) وله أيضاً:

أيــا حــامــل الــرمــح الشبيــه بقـــدٌ ويا شاهراً سيفاً حكى لحظه غضبا ضع الرمح واغمد ما سللت فربّما قتلت وما حاولت طعناً ولا ضربا (مرآة الجنان ٣/ ٤١٤) و(المقفى ٢/ ٥١١).

وقال العماد فيه: «ذو الكرم الظاهر، والمحتد الطاهر، والفخر الصادع فجرُهُ الصادق، والنجر السامي قدره السامق، طفل السنّ، كهل السنا، أهل المدح والثنا، نشأ بالفضل متشبّناً، وبالفصل متحدّثاً، وبالنبُل منبعثاً، له الفطرة الذكية الزكية، والهمّة العليّة الجليّة، والعزمة الماضية المضبّة، لم يبلغ العشرين سنة، ولم يورق في ترعة الترعرع غصنه، وله نظم لطيف وفهم شريف.

وله قوله:

لَّسِي فَسِي الأنسام حبيب يُنمُسى إلى الأتسراك الشكو إليه غرامي فما يسرق لشاكسي يظلل بضحك عُجُباً والطسرفُ منسي بساك فسديتُسهُ مسن غسرال بعينسه فتساك ظبسيٌ أغسار علسى ريا قسه مسن المسواك يا ليتنسي كنستُ فسي كف المناسك فلي المناسك فلي كف المناسك فلي المناسك فلي المناسك فلي كف المناسك فلي المناسك فلي المناسك فلي المناسك فلي كف المناسك فلي ال

(٣) أنظر عن (تقيّة) في: صلة الصلة لابن الزبير ٢١٧، والتكملة لوفيات النقلة للمنذري =

⁽١) في مرآة المجنان «من جوانب الغور».

أمّ عليّ. الشّاعرة بنت المحدّث غَيْث بن عليّ السُّلَميّ الأَرْمَنَازِيّ^(۱)، ثمّ الصُّوريّ. والدة المحدّث تاج الدّين عليّ بن فاضل بن صمدون الصُّوريّ.

صبحِبَتْ السِّلَفِّي بالإسكندريّة، تعاليقها، وقال: عَثُرْتُ في منزلي، فانجرح أخمصي، فشقَّت وليدةٌ في الدّار خِرقة من خمارها وعَصَبْتها، فأنشدتْ تقيّة في الحال لنفسها:

لو وجدت السبيلَ جُدْتُ بخدّي عِوَضاً عن خمار تلك الوليدة كيف لي أن أُقبِّل اليوم رِجْلاً سلكت دَهْرَهَا الطّريق الحميدة (٢)

وذكر الحافظ تقيّ الدّين المنذري أنّ تقيّة نظمتْ قصيدةً تمدح بها الملك المظفّر تقي الدّين، فوصفت الخمر وآلة المعظفر تقي الدّين، فوصفت الخمر وآلة المجلس، فلمّا قرأها قال: الشّيخة تعرف هذه الأحوال من صباها.

فبلغها ذلك، فعلمت قصيدةً أخرى حربيّة وأرسلتها، تقول عِلْمي بذاك كعِلْمي بهذا (٣٠).

⁽الطبعة الأولى) ٣/ ١٥١، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٥ق ١/ ٢٢٠، ووفيات الأعيان ١/ ٢٩٧، ٢٩٨، وتكملة إكمال الإكمال لابن الصابوني ٤٧ ـ ٥١، وخريدة القصر (شعراء مصر) ٢٢١/٢، وغربال الزمان (كتاب في التاريخ ينتهي بسنة وخريدة القصر (شعراء مصر) ٢٢١/٢، وغربال الزمان (كتاب في التاريخ ينتهي بسنة والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، و٣٧، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٩١ دون ترجمة، والمشتبه في الرجال ١/ ٤٧، ومرآة الجنان ٣/ ٥١٥، ١٦٤، ونزهة الجلساء في أشعار النساء لفي الرجال ١/ ٤٧، وشذرات اللهب ٤/ ٢٥، وديوان الإسلام ٢/٦ رقم ٥٥، وأعلام النساء ١/ ١٤٥، والأعلام ٢/٨، ومعجم المؤلفين ٣/ ٩٦، وشاعرات العرب، جمع وتحقيق ١/ ١٤٥، والأعلام ٢/٨، وتاريخ التربية الإسلامية للدكتور أحمد شلبي ٤٣٣، وكتابنا: موسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي ق ٢ ج ١٩٦٥ ـ ١٢٢ رقم ١٥٣٤، ودراسات في تاريخ الشامي (لبنان من عصر السيادة الفاطمية حتى السقوط بيد ودراسات في تاريخ الحضاري. ص ٢١٨ – طبعة دار الإيمان ـ طرابلس ١٩٩٤.

⁽١) الأرمنازي: بفتح الهمزة وسكون الراء وفتح الميم والنون، ثم زاي مكسورة. نسبة إلى أرمناز قرية بالقرب من صور على ساحل الشام.

⁽٢) وفيات الأعيان ٢/٢٩٧.

⁽٣) وفيات الأعيان ٢٩٧/١، شذرات الذهب ٢٦٥/٤، ٢٦٢.

وُلِدت بدمشق من أوّل سنة خمسٍ وخمسمائة. وتُوُفّيت في أوائل شوّال(١١).

(۱) وصفها المنذري بأنها من الشاعرات المجيدات والفاضلات المشهورات. (التكملة لوفيات النقلة ۱۵۱/ ۱۵۱) وكتب عنها الحافظ السلفي وذكرها في (معجم السفر)، وحدّث عنها الشيخ الحافظ أبو الحسن المقدسي، وكان يُتني عليها كثيراً، وسمعها أبو الحجّاج يوسف المالقي المعروف بابن الشيخ بمالقة، وكان أحد الزهّاد المشهورين، وأجازت قطعة صالحة من نظمها باستدعاء ابنها لعليّ بن عتيق الأنصاري.

وقال ابن خلَّكان: كانت فاضَّلة ولها شعر جيد، قصائد ومقاطيع. وكتب عنها السلفي في «معجم السفر» وقال:

لم أر شاعرة غيرها. وأثنى عليها، ومدحته. وذكرها في بعض تعاليقه، وكتب عن نفسه. ووصفها أبو القاسم عبدالله بن رواحة الأنصاري الحموي بالأديبة وقال: أنشدتنا لنفسها بغغر الإسكندرية تمدح شيخنا الحافظ أبا طاهر السلفي وتعتلر إليه لانقطاع ولدها أبي الحسن بن حمدون عن مجلسه وملازمته للشريف أبي محمد بن أبي اليابس الديباجي، وكان الحافظ قد غضب عليه بسبب ذلك:

تالله ما غبت عنكم ملكً وكيف أنسي جميلكمم ولكمم أنقد لتموني من كل مهلكة داركهم مُلذ حللت بساحتها اسحبت ذيلي في عرّها مرحاً وإنما غبت عنكم خجسلاً تقـــول عينـــي ودمعهـــا وكِـــفُ وزدت نسمي عسللسه لأردعسه حتى إذا زدت فى مىلامتى قلست لسه والسدمسوع واكفسة كيــف تطيـــق البعـــاد عـــن رجـــل الحافظ الحبر والذي اكتملت أولاك فضلك وسيؤدداً وحجساً فقال: خطّى لديد محتقر يسرفسع دونسي والعيسن تنظسره وكسل واش أتساه فسي سببسي كأننس «المشركون» إذ خدموا فصنت عسرضي بنقلتي أسفا

ولا فيوآدي عين البدئية سلا عُلَي فَض ل يبلغ الأملا قلت أبغي بقريكم بدلا كاتني الشمس حلست الحملا وكنست قدماً لا أعرف الخُيلا لأن ذنبسى يسزيدنسى خجسلا لما رأيست عبدكه قد انتقلا وهـــو عصـــيّ لا يسمــع العـــذلا وظين قلبي بأنيه اعتسدلا والقلب منسي للبيس قسد وجملا حسوى جميسع الفنسون واكتمسلا بــه المعـالــي وزيّــن الــدُولا فصمرت فسي النماس أوحمد الفُضلا إنْ قلمت قُمُولاً أجماب عنه بسلا ولسم أزل مصابسراً ومحتمسلاً لا يـــرفـــع الله عنهــــم عمــــلا ولم اجمة مسلكماً ولا سُبُملا

حتمى كمأن البلاد لست أرى

فهمسو إمسامسي ولايسسري أحسد

أمسدحسه مسأحيست مجتهدأ

فسإن حبسانسي يسزيسدنسي شسرفسأ

فسالله يُبقينه دائمساً أبسداً

في ساحتها سهلا ولا جبلا بيسن فسؤآدي وبينه خلسلا في كل نساد ومحفل وملا وإن قسلاني فليسس ذاك قلى وزاده الله رفعسة وعسلا وما همي وابل وما هطلا

ما لاح بسرق وما دجا غسَقٌ وما همنى وابل وما هطلا وسمع منها القاضي أبو القاسم حمزة بن علي بن عثمان المخزومي المغربي المصري وقد وفد إلى دمشق في شعبان سنة ٥٧١ بكرّاسة فيها شعر تقيّة قد سمعه منها وخطّها عليه بتاريخ محرّم سنة ٥٦٩ بالإسكندرية:

أعسوامنسا السرقسة أيسامهسا والسروض مبتسم بنسور اقسامسه والسروض مبتسم اللي أحداقه والنسورد يحكسي وجنسة محمسرة وأهدت إلى بعض الأفاضل توتاً فكتب إليها:

وتسوت أتسانها مهاؤه فسي احمسراره هديسة من فعاقست جمسالاً وفطنة فطلا عبدمست نفسي تفضّلها الذي فكتبت إليه تقية:

وإنْ تعـــودوا بعـــد نُصحـــي لكـــم ولها من قصيدة:

خسان أخسلاً شي ومسا خنتهم م كُسدِّر السود القسديسمُ السلي رساعدونسي بعد قسربسي لهم ولها من أخرى:

هاجت وساوس شوقي نحو أوطاني وبت أرعى الشها والليل معتكر وعاتبت مُقَاتب طيفاً السمّ بها

وعلا على ظهر السماك خيامها لمما بكى فرحاً عليه غمامها تسرنو لتفهم ما يقول خزامها الحساء لشامها

كدمعي على الأحباب حين ترحّلوا وأبهسى مسن البدر المنيسر وأجمــل يقصّــر وصفــى عــن مــداه ويعــدل

كمشل بهي الدر في طي قرطاس ده أشهراً:

ویحکُـــمُ لا تبــــللـــوا دفتـــرا لا بـــــدُ أن يحبـــــه أشهــــرا تخــالفــونــي فــالبــراء البــرا

وأبسرزوا للشير وجهاً صفيت قد كان قدماً صافياً كالرحيق وحمّلسوا قلبسي مسا لا أطيسق

 نأيت عنكم وني الأحشاء جمرُ لظَّيَ

إذا تهدكرت أياساً لنا سلفت وكتب بعض الأفاضل لها وقد مدحت نفسها: ومنا شنوف أن يمندح المنزء نفشه ومــا كــلّ حيــن يصــدُق المــرءَ قلبُــهُ ا ولا كــل مــن تــُرجــو لغيبــك حــافــظ فكتبَتْ إليه:

تعيب على الإنسان إظهار علمه فددتنك حياتي قد تقدم قبلنا وللمتنبّـــي أحـــرُف فـــي مـــديجـــه أرونسي فتساة فسي زمسانسي تفسوقنسي وكانت تقيّة سألت الشيخ الإمام العالم أبا الطاهر إسماعيل بن عوف الزهري عن الشعر،

> أعرامنها قد أشرقت أيامها والمروض مبتسم بمروض إقساحمه والنرجس الغض المذي أحداقه وشقائيق النعمان فسي وجناتمه وبنفسيج لبيس الحيداد لحيزنيه والجُلَّـــار علـــى الغصــون كـــأكُــؤس وكأنما زهر الرياض عساكر يبدي نسيم الصبح سر عبيرها يا صاح قم لسعادة قد أقبلت واجمع خرواطرنما لنجلبو فكرهما مندح الإمام على الأنام فريضة ومن شعرها:

نأيت وما قلبي على النأي بالراضي وإنسى لمشتاق إليهسم متيسم إذا مساً تسذكسرت الشسام وأهلسه ومُـدُّ غبت عـن وادي دمشـق كـأننـي أبيست أراعسي النجسم والنجسم راكسد فهل طارق منهم يلم بناظري

وسُقم جسمي لما أهواه عنواني أعان دمعى على تغريق نسياني

ولكـــن أفعــالاً تُـــذَمُ وتُمــدحُ ولا كــل أصحــاب التجــارة تــربــح ولا كـل مـن ضـم الـوديعـة يصلـحُ

أسالجد هدا منك أم أنت تمسزح إِلَى مُدحهم قومٌ وقالوا فأنصحوا على نفسه بالحق والحق أوضح وتعلى على علمى وتهجو وتمدح

فقال: هو كلام، إن تكلَّمتِ بحُسْن فهو لكِ، وإنْ تكلَّمت بشرِ فهو عليك.

وقال ابن خلكان: لها من قصيدة في الحافظ أبي طاهر أحمد بّن محمد السلفي:

وعلا على ظهر السماك خيامها لما بكى فرحاً عليه غمامها ترنو فيفهم ما يقول خزامها خالات مسك حاكها رقامها أسفأ على مُهمج يسزيد غرامها خرطت عقيقاً والنضار مُدامها في موكب منشورة أعلامها فينتم عسن طيب بها تمامها وتنبهست بعسد الكسرى نسوامهسا لما تجرد للقريض حُسامها فخسر الأثمسة شيخهسا وإمسامهسا

فلا تغترر منسى بصدي وإعسراضي وقمد طعنموا قلبسي بمأسمسر عسراض بكيتُ دماً حُزناً على الزمن الماضي يُقرض قليسي كل يدوم بمقراض وقد حجبوا عن مُقلتى طيب إغماضي فيان لقاء الطيف أكبر أغراضي وقد روى عنها من شِعْرها أبو القاسم عبدالله بن رواحة. وتُوُفّي ابنها في سنة تلاثٍ وستّمائة.

٣٠٣ ـ ثعلب بن مذكور بن أرنب(١).

أبو الحَسَن، وقيل أبو الحُصَيْن الأكَّاف (٢)، أخو رجب.

سمع من: أبي العزّبن كادَش، وأبي القاسم بن الخُصَيْن، وأبي غالب بن البّناء.

وكان حارساً سيّء الطّريقة، ليس بأهلِ أن يُحمل عنه.

كان مقدّم حرّاس الخليفة.

مات في رمضان^(٣).

_ حرف الحاء _

٣٠٤ ـ الحسن بن سعيد بن عبدالله بن بنُدار (٤).

أبو عليّ الشّاتايّ (٥) عَلَم الدّين الشّاعر.

قدِم بغداد وتفقه وتأدَّب.

وسمع من: قاضي المَرِسْتان، وابن الحُصَيْن، وإسماعيل بن السَّمَرْقَنديّ.

على الليالي أن تجرد صارماً على البين أو يقضي لها حكم قاضي (موسوعة علماء المسلمين).

⁽۱) أنظر عن (ثعلب بن مذكور) في: مشيخة النعّال البغدادي ٢٨، ٦٩، والمختصر المحتاج إليه ٢٧٠/١، والمشتبه في الرجال ١١٤/١ ولسان الميزان ٢/ ٨٢.

⁽٢) الأكاف: بفتح الألف والكاف المشدّدة، هذه اللفظة لمن يعمل إكاف البهائم أي البرذعة.

 ⁽٣) قال النعّال: وهو أخو شيخنا أبي المحرّم رجب بن مذكور.

⁽٤) أنظر عن (العصن بن سعيد) في: خريدة القصر (قسم شعراء الشام) ٣٦١/٢، ووفيات الأعيان ٢/٢١، والروضتين ١٧١، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ١١/٣، والوافي بالوفيات ٢١/٢، ٢٩ رقم ٢٣ و١٢/١٧، ١٧٥ ـ ١٧٨ رقم ١٥٥، وهو في الثانية باسم «الحسن بن على بن سعيد بن عبدالله»، والنجوم الزاهرة ٥٨/١، وتهذيب تاريخ دمشق ٤/٧٧١.

⁽٥) الشَّاتاني: بالشين المعجمة وبعد الألف الأولى تاء ثالثة الحروف وبعد الآلف الثانية نون. وشاتان قلعة من ديار بكر.

وأنشأ الرسائل، وسكن الموصل، ونفّذه أميرها رسولاً إلى الدّيوان. وخرج إلى الشّام، وحدَّث بها. وسمّاه ابن عساكر في «تاريخه». وكان ابن هُبَيْرة الوزير مقبلاً عليه.

تُؤفّي في شعبان بالموصل(١).

٣٠٥ ـ الحَسَن بن عسكر^(٢).

أبو محمد الواسطيّ.

سمع: أبا علىّ الفارقيّ، وغيره.

روى عنه ابن الدَّبِيثيّ قال: كنت ببغداد في ليلة رجب سنة إحدى وعشرين وخمسمائة جالساً على دكّة للفُرْجَة بباب أَبْرَز، إذ جاء ثلاثُ نِسْوة فجلسْنَ إلى جانبي، فأنشدتُ متمثّلاً:

هــواء ولكنّـه راكــدٌ وماءٌ ولكنّـه غيـر جـاري

فقالت لي إحداهن: هل تحفظ لهذا البيت تمام؟

قلت: لا.

فقالت: إنْ أنْشَدَك أحدٌ تمامَه ما تُعطيه؟

قلت: أقبّل فاه.

فأنشدتني .

وخمرٌ من الشّمس مخلوفةٌ بدت لك في قَدَح من نُضَارِ إِذَا مِا تَامَّلَتُهَا وهِي فيه تَامُلُتُ نُـوراً مُحَيطاً بنارِ

(۱) وهو ولد سنة : ٥١ هـ. وقيل ٩١٥ هـ. (الوافي ٢٨/١٢ و١٧٧).

ومن سعره. أهدى إلى جسدي الضَّنَى فأعَلَه ما كنت أحسبُ أن عَقد تَجلَّدي يا ويْت قلب ي اين أطلبُهُ وقد إنْ لم يجُدْ بالعطف منه على الذي وأشدُّ ما يلقاه من ألم الهوى

يُنْحَالُ بالهجَّران حتى حَلَّهُ نادى به داعي الهدوى فأضلَّهُ أضناهُ من فرط الغرام فمن لهُ قرولُ العرواذلِ إنَّه قدد ملّه

وعسمسى يسرقُ لعبده ولعلُّمهُ

٢) أنظر عن (الحسن بن عسكر) في: المختصر المحتاج إليه ٢١/٢ رقم ٥٨٦.

وماءٌ ولكنّه غير جاري له فرد كمة من الجُلُّسارُ

هـــواءٌ ولكنّـــه جـــامــــدٌ كأنّ المدير لها باليمين إذا دار للشُّرب أو باليِّسارِ تـوشّـح ثـوبـاً مـن اليـاسميـن

٣٠٦ ـ الحسين بن القاضي أبي الحسن أحمد ابن قاضي القضاة على بن

الدّامَغَانيّ.

استنابه أخوه قاضي القُضاة في القضاء ببغداد سنة ستٌّ وأربعين وخمسمائة.

قال ابن النَّجَّار: لم يُحْمَد في القضاء. ثنا عنه أحمد بن الحسن بن حنظلة اللَّيْثيّ.

وقد سمع من: ابن الحُصَيْن، وأبي غالب بن البنّاء.

وعاش نيّفاً وستّين سنة .

٣٠٧ ـ الحسين بن هبة الله بن رُطْبة (٢).

أبو عبدالله السواريّ (٣)، شيخ الشّيعة وأبو شيخهم الفقيه العلّامة أبي طاهر هبة الله.

كان متبحرًا في الأصول والفُروع على مذهب الرافضة.

قرأ الكثير، ورحل إلى خُراسان، والرّيّ، ومازنْدَران، ولقى كبار الشَّيعة، وصنَّف، واشتغل بسورا، والحِلَّة.

أنظر عن (الحسين بن أحمد) في: المختصر المحتاج إليه ٢/٣٢ رقم ٦٠٧، والجواهر (1) المضيّة ٢٠٧/١، والوافي بالوفيات ٣٣٧/١٢، ٣٣٨ رقم ٣١٣.

أنظر عن (الحسين بن هَبة الله) في: الوافي بالوفيات ٧٩/١٣ رقم ٦٨، ولسان الميزان **(Y)** ٣١٦/٢، وأمل الآمل ٣٣/٢، ١٠٤، وأعيان الشيعة ٣٦/ ٣٦٠، وورد «الحسن بن هبة الله؛ في ٢٤/ ٢٠٣ رقم ٤٤٨٠ وفيه: كان حيّاً سنة ٥٦٠ هـ.. و﴿رُطُبُّةُ: واحدة الرُّطُبُّةِ:

السُّوراي: بضم أوله وسكون ثانيه ثم راء وألف مقصورة أو ممدودة. نسبة إلى سورا (4) بالقصر، موضع بالعراق من أرض بابل.

وتُوْفَي في رجب.

_ حرف السين _

٣٠٨ ـ سُبَيْع بن خَلَف بن محمد(١).

أبو الوحش الأُسَديّ، الأديب.

شاعر دمشقيّ معروف، مليح القول.

روى عنه: أبو النمواهب بن صَصْرى، وقال: مات في عاشر رجب. وأنشدني لنفسه:

يَمَّمْتُ دارَ أبي فـلانٍ قــاصــداً بمِدائحي فيه وحُسْن قصائدي(٢) من بُخله المتكاثف المتزايد بعطائه ولقيت غير عوائدي جودٌ ولكن من نجاح القاصدِ^(٣)

فرأيتُ منه ضدّ ما عُوِّدْتُه فىذك تُ لمّا أنْ رجعتُ مُجَلِّبَا وَلُمربِّمـا جـاد البخيـلُ ومـا بــــ

_ حرف الصاد _

٣٠٩ ـ صالح بن عبد الرَّحمن بن عليّ بن زَرْعان (٤٠).

أبو محمد البغدادي، التّاجر، أحد الأعيان.

سمع: ابن الحُصَيْن، وأبا غالب بن البنّاء، وأبا غالب محمد بن الحسن الماوردي وجماعة.

وكتب بنفسه عنهم

و﴿زَرُعانٌ صَبِطُهُ النَّمَّالُ: بِفَتْحَ الزَّايِ وَسَكُونُ الرَّاءُ الْمَهْمَلَةُ وَعَيْنُ مَهْمَلَةً وَفِي آخره نُونَ.

أنظر عن (سُبيع بن خلف) في: خريدة القصر (قسم شعراء الشام) ١/٢٤٢، والوافي (1) بالوفيات ١١٨/١١، ١١٣ رقم ١٦١.

في الوافي: «مقاصدي». **(Y)**

الوافي ١١٧/١٥، ١١٣ وفيه نماذج أخرى من شعر سُبَيع. (٣)

أنظر عن (صالح بن عبد الرحمن) في: مشيخة النعّال ٢٦، ٧٠، والمختصر المحتاج إليه (٤) ۲/ ۱۰۵ رقم ۷۲۳.

سمع منه جماعة^(١).

_ حرف الطاء _

٣١٠ ـ طاهر بن عطية.

أبو منصور اللَّخْميّ، الإسكندريّ.

رجل صالح.

روى عن: أبى بكر الطّرطُوشيّ.

أخذ عنه: أبو الحسن المقدسيّ، وغيره.

_ حرف العين _

٣١١ _ عبدالله بن أحمد بن أبي الفتح بن محمد بن أحمد (٢).

أبو الفتح القاسميّ، الخِرَقيّ، الإصبهانيّ.

شيخ نبيل صالح من أولاد المحدّثين، ومن بقايا المُسْنِدين.

سمع: أبا العبّاس الراوي عن عبد الرحمن بن أبي بكر الذّكوانيّ، وأبا مطيع محمد بن عبد الواحد الصّحّاف، وأبا الفتح أحمد بن عبدالله بن أحمد السّوذَرْجانيّ، وأبا الفتح أحمد بن محمد الحدّاد، وبُندار بن محمد الخلقانيّ القاضي، وعبد الرحمن بن حمد الدّونيّ، وأبا أحمد حَمْد بن عبدالله بن حنّة، وعبد الرحمن بن أبي عثمان الصّابونيّ، وعمر بن محمد بن عمر بن علّويّه، وأبا علّي الحدّاد، وطائفة سواهم.

وتفرّد بالرواية عن جماعة؛ وسماعه من ابن علّورّيه في سنة اثنتين وتسعين وأربعمائة حضوراً، فأنا ابن الخلاّل، ثنا محمد بن يوسف البِرْزاليّ

⁽۱) قال النعّال: وكان مولده سنة سبع وخمسمائة. وتوفي في صفر، ويقال في ليلة التاسع والعشرين من رجب، ويقال في شهر رمضان، وهذا هو الأشبه، سنة تسع وسبعين وخمسمائة ببغداد.

 ⁽۲) أنظر عن (عبدالله بن أحمد) في: المعين في طبقات المحدّثين ۱۷۸ رقم ۱۸۹۰، والإعلام بوفيات الأعلام ۲۳۸، وسير أعلام النبلاء ۹۱/۲، ۹۱ رقم ۳۷، ودول الإسلام ۱۸۹۲، والعبر ٤/ ۲۳۷، وشذرات الذهب ٢٦٦/٤.

الحافظ أنَّ هذا الشَّيخ وُلِد في يوم عيد النَّحر سنة تسعين وأربعمائة. وكان جدّه حيّاً، فسمّاه باسمه وكنّاه بكنيته. وعاش بعد ذلك شهراً.

قلت: روى عنه: الحافظ عبد الغني، ومحمد بن مكي الحنبلي، وعبدالله بن أبي الفَرَج الجُبّائيّ، والمهذّب بن الحسين بن زينة، وأبو الفضل بن سلامة العطَّار، ومحمد بن خليل الرَّاذانيُّ (١)، وآخرون.

وبالإجازة: ابن اللَّتيّ، وكريمة، والحافظ الضّياء، والرّشيد إسماعيل بن العراقي، وغيرهم.

وقرأت وفاته بخطِّ زكيِّ الدِّين البِرْزاليِّ في يوم الثلاثاء بعد فراغه من صلاة الصُّبح السَّابع والعشرين من رجب، ودُفن بالمُصَلِّي، وصلى عليه الحافظ أبو موسى المَدِينيّ.

أخبرنا عبد الملك بن عبد الرحمن العطّار بقراءتي: أنا أبو الفضل بن سلامة بحرّان، أنا أبو الفتح عبدالله بن عبد الرحمن العطّار بقراءتي: أنا أبو الفضل بن سلامة بحرّان، أنا أبو الفتح عبدالله بن أحمد بإصبهان، أنا تمّام بن عبد الملك، ثنا أبو بكر بن بُندار، ثنا الطَّبَراني، ثنا أحمد بن المُعَلِّي الدَّمشقيّ، نا أحمد بن أبي الحواريّ: سمعت محمد بن يوسف الفِرْيابيّ يقول: على الإمام أن يضرب أعناق الجَهْمِيَّة والرَّوافض، فإنَّهم زنادقة.

٣١٢ ـ عبدالله بن فَرَج. أبو محمد الأنصاريّ، القُرْطُبّي، الورّاق الزَّمِن. الرجل الصّالح. أجاز له أبو محمد بن عتَّاب ما رواه عن مكَّى بن أبي طالب خاصّة. وأخذ أيضاً عن: أبي الوليد بن طريف، وأبي بكر بن العربيّ. وتُوْفِّي في رمضان.

الراذاني: بفتح الراء واللـال المعجمة بين الألفين وفي آخرها النون. نسبة إلى راذان وهي (1) قرية من قرى بغداد. (الأنساب ٣٦/٦).

٣١٣ ـ عليّ بن عليّ بن نَمَا بن حمدون^(١).

الكاتب أبو الحسن الحِلّى، الرّافضيّ، الخبيث.

مدح ملوك الشّام، وله دّيوان. وقد كفّر الصّحابة رضي الله عنهم. وهو القائل، لعنه الله:

أَيُسُولَسَى على البسريّسة مَسنُ لي سسَ على حَمْل سُورةٍ بأمينِ (٢) وهذا البيت من قصيدة ينشدها أهل الرفض في المواسم. ذكره ابن النّجّار.

ـ حرف الكاف ـ

٣١٤ ـ كرم بن بختيار بن عليّ^(٣).

البغداديّ، الزّاهد^(٤).

أحد الصّالحين.

روى عن: هبة الله بن البحصين.

أخذ عنه: ابن مَشِّقُ، وعبد العزيز بن الأخضر، وأحمد بن أبي بكر البزّاز، وغيرهم.

وتُوفّي في ذي الحجّة^(٥).

أنظر عن (علي بن علي) في: ذيل تاريخ بغداد لابن النجار ٣٤٤/٣ رقم ١٤٩، والوافي بالوفيات ٣٣٥/٢١ ـ ٣٣٧ رقم ٢١٩، وطبقات أعلام الشيعة (الثقات العيون في سادس القرون) ١٩٧، ١٩٨.

⁽٢) من قصيدة طويلة في: الذيل، والوافي.

 ⁽٣) أنظر عن (كرم بن بختيار) في: الكامل في التاريخ ٥٠٣/١١ وفيه «مكرم»، والمختصر
 المحتاج إليه ٣/١٦٢ رقم ١٦١١، وذيل طبقات الحنابلة ٢١/٣٥١، ٣٥١ رقم ١٦٩.

⁽٤) كنيته: أبو الخير، وقيل أبو علي.

⁽٥) ولد في حدود سنة ٤٩٤ هـ.

وقال الناصح ابن الحنبلي: سمعت منه جزءاً بقراءة الشيخ طلحة العلثي يوماً وهو مضطّجع على جنبه والفقيه ابن فضلان ـ يعني شيخ الشافعية ـ عنده يزوره، فأخذ بيد الشيخ كرم يقبّلها تبرُّكاً، وكان زاهداً منقطعاً بالرصافة.

وقال القطيعي: كان زاهداً ورعاً، سريع الدمعة، كثير العبادة، وفي بعض الأوقات تصدر =

ـ حرف الميم ـ

٣١٥ ـ محمد بن أحمد بن بلال.

أبو سعيد المُزَنيّ، الحارثيّ، الدّهّان.

حدَّث عن: جمال الإسلام أبي الحسن.

وعنه: أبو المواهب بن صَصْرى، وأخوه الحسين.

٣١٦ ـ محمد بن أحمد بن حمزة بن جياه(١).

أبو الفَرَج الكاتب الحلَّى.

من فرسان البلاغة والشُّغر. له النَّظْم والنَّثْر.

روى عنه: عليّ بن نصر بن هارون الحِلّيّ، ومحمود بن مفرّج، وأبو بكر عُبَيْدالله بن عليّ التّيْميّ.

ولم يكن بالعراق مثله في التَّرسُّل والأدب، ولكنّه كان ناقص الحظّ، له ملّك يتبلّغ منه.

مات في المحرَّم^(٢).

منه كلمات على خاطر الحاضر عنده.
 وقال الدبيثي: كان أحد الشيوخ الموصوفين بالصلاح، وتوفي يوم الأربعاء سادس ذي
 الحجة سنة تسع وسبعين وخمسمائة، ودُفن بمقبرة الإمام أحمد في دكة بشر الحافي،
 وكان حنبلياً.

(۱) أنظر عن (محمد بن أحمد بن حمزة) في: معجم الأدباء ٣٦١/٦، والوافي بالوفيات ١/١٢/ ١١٣ رقم ٤٤٥، وبغية الوعاة ٩/١ و«جيا» بكسر الجين.

(۲) ومن شعره:

حَتَّامَ أَجَرِي في ميادين الهوى ما هزّني طرب إلى رمل الحِمَى شيوق بيأطراف البلاد مفترق ومدامع كفلت بعارض مُؤنة وكأن جفني بالدموع موكّل إنْ عيادت الأيامُ لي بطويلي

لا سابقاً أبداً ولا مسبوقُ إلاّ تعسرض أجدرَعٌ وعقيدتُ وعقيدتُ يحدوي شتيت الشمل منه فريتٌ لمعت لهما بين الضلوع بروق وكان قلبي للجدوى مخلوقُ أو ضمّنا والظاعنين طريتُ

٣١٧ _ محمد بن أحمد بن محمد (١) . أبو عبدالله بن عزّاق (٢) الغافقيّ، القُرْطُبيّ، المقرىء .

أخذ القراءآت، سوى قراءة الكوفيين، عن: أبي القاسم بن النَّخَّاس، وعَوْن الله بن محمد.

وسمع من: أبي محمد بن عتّاب، وأبي بحر بن العاص. وتصدّر للإقراء والتّسميع.

روى عنه: ابن حَوْط الله، وأبو الخطّاب بن دحية.

وتُوُفِّي في رجب.

ومولده في سنة تسعين وأربعمائة.

۳۱۸ ـ محمد بن بختيار (۳).

ولتط ربن لمسا أبست النسوق

ولمع الثنايما كالبروق تخالُها وقد زار في جُنح الظلام خيالُها ولكن شديدٌ في الطباع انتقالُها

وقدادوا المداكي والدماء يعالُها معقدودة أن لا يُفسك رعسالُها

شــر منهــا ربّ القِــران الثــانــي صِــرُت فيــه تُــدُعــى مــن الأعيــان أنــت أغــريتنــي بــدمّ الــزمــانِ لأنبه ن على الغرام برنرس ومن شعر ابن جياه الكاتب قوله:
 أما والعيون النجل تُصمي نبالها ومنعطف السوادي تسارج نشره وقد كان في الهجران ما يُريح الهوى منها في المديح:

أيا ابن الألَّى جادوا وقد بخِل الحيا ذُدِ السلاهـ عنَّي من رضـاكُ بعـزمـةِ ومنه قوله:

قــل لحــادي عشــر البــروج أبــي العــا يـــا ابـــن شكـــر إن ضلّـــة الـــزمـــان ليـــس طبعـــي ذمّ الـــزمـــان ولكـــن

(۱) انظر عن (محمد بن أحمد بن محمد) في: تكملة الصلة لابن الأبّار ٢/ ٥٣٠، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٢/ ٢١، ومعرفة القراء الكبار ٢/ ٥٤٧، وغاية النهاية ٢/ ٨٦.

(٢) تحرّفت في غاية النهاية إلى «عرّاف» بالفاء.

(٣) أنظر عن (محمد بن بختيار في: خريدة القصر (العراق) ١/ ٨٥، والكامل في التاريخ
 (٣) وتاريخ ابن الدبيثي ١/ رقم ٩١، والمختصر المحتاج إليه ١٨/١، والديل على
 الروضتين (تحقيق محمد زاهد الكوثري) نشره عزت العطار الحسيني بدار الكتب المصرية =

أبو عبدالله البغدادي، الأبله، الشَّاعر، صاحب الدَّيوان المشهور.

كان شابًّا ظريفاً وشاعراً محسناً، يلبس زِيِّ الجُنْد. وشِعره في غاية الرَّقة وحُسْن المَخْلُص إلى المدح.

وكان أحد الأذكياء، ولذا قيل له الأبله بالضَّدّ.

وقيل: بل كان فيه بَلُه.

تُوُفِّي ببغداد في جُمادي الآخرة. وقد سار له هذا البيت:

ما يعرف الشُّوقَ إلاِّ مَن يُكابدُهُ ولا الصَّبابةَ إلاّ من يُعانيها وله:

دارُكَ يَسا بِــدْرَ السِدُّجَــي جِنّسةٌ أكشر أهل الجنّة البُلْه هلا) وقد أتى فى خبر أته . **ل**ه:

> أقــول للغَيــث لمّــا ســال واديــهِ أَعَرت مُـزْنَك أجفاناً بكيت لـه أما ورد [خدّه](٣) والشُّهب ناعسةٌ

وبغيرها نفسي لا تلهو

تحدَّثي عن جفوني يا غواديهِ فمن أعارك ضوء البرق من فيه واللَّيل قبد راق أو كبادت حواشيه

١٩٤٧ ــ ص ٦٦، وذكر وفاته في سنة ٦٠٥ هـ.، ومرآة الزمان ٣٧٩/٨، ٣٨٠، ووفيات الأعيان ٤/٣٢٤، والعبر ١٣٨/٤، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ١٣٢ رقم ٦٦، والإعلام بونيات الأعلام ٢٣٨، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ١/٢٩٧، والوانى بالونيات ٢/ ٢٤٤ ـ ٢٤٦، رقم ٢٤٧، ومرآة الجنان ٣/ ٤١٦، ٤١٧، والعسجد المسبوك ٢/ ١٨٩، ١٩٠، والنجوم الزاهرة ٤/٢٦٦، وبغية الوعاة ١/٣٣، وشذرات الذهب ٤/٢٦.

> وفيات الأعيان ٤٦٤/٤. (1)

الوافي بالوفيات ٢/ ٢٤٦، وفيات الأعيان ٤/ ٤٦٥. **(Y)**

> في الأصل بياض. (٣)

(الكامل ٢١/٣٠٥).

وقال العماد الكاتب: هو شاب ظريف يتزيّا بزيّ الجُنّد، رقيق أسلوب الشعر حلو الصناعة رائق البراعة، عذب اللفظ، أرقّ من النسيم السَّحَري، وأحسن من الوشي التُّسْتَري، وكلّ ما ينظمه، ولو أنه يسير، يسير، والمغنون يغنون برائقات أبياته عن أصوات القدماء، فهم يتهافتون على نظمه المطرب تهافت الطير الحوّم على علب المشرب. ثم قال: أنشدني لنفسه من قصيدة سنة خمس وخمسين وخمسمائة بغداد:

لقد وهَىٰ عزْمُ صبري يوم ودَّعني عصيتُ في حُبّه من بات يعذِلني بالله يا لائمي فيمن كلفْتُ به

أحوى ضعيف نطاق الخصر واهيهِ وما أطعت الهـوى دالاً لأعصيـهِ أقـامـة الغُصـن أحلـى، أمْ تَثْنيـهِ؟

قال أبو الفَرَج بن الجوزيّ: ذكِر عنه أنّه خلّف ثمانية الآف دينار، وشاع أنّه كان يُعامل بالرّبا.

ثمّ ورَّخ وفاته كما مرَّ. روى عنه: أبو الحسن القَطِيعيّ، وعليّ بن نصر الأديب^(١).

> ٣١٩ ــ محمد بن جعفر بن عَقِيل (٢٠). أبو العلاء البصريّ، ثمّ البغداديّ، المقرىء.

زار مسن أحيسا بسرَورته والسَّجَسى في لون طُسرته قمسر ينسي معسانقه بسانسة في طي بُسردته بسانسة في طي بُسردته علي بُسردته علي يست أستجلي المسام علي عُسرة السوائسي وغُسرت علي المسام علي مسن خصسر له وعلي رشفية مسن بسرد ريقته ياله في الحسن من صنم كلّنسا مسن جساهليّسه

يــا لــه فــي الحســن مــن صنــم كلنــــا مــــن جـــــاهليتـــــه وذكر أبو المعالي الكتبي في (مُلَح المُلَح) من شعره في رجلٍ كفل يتيماً وكان مشهوراً بالغلمان:

يا ذا الله كفسل اليتيسم وقصد له كفل اليتيسم إن كنست تطمع في النعيسم فقسد حصلت على الجحيسم

(۱) ومن شِعره: أراق دمعي، لا بسل أراق دمي، ظُلماً بظلم من ريقه الشَّيِم ذو قامية كالقضيب ناضرة وناظر من سقامه سَقَمي، حصلت من وعده على أصدق الـ حصلة ومن وصله على التَّهم

(٢) أنظر عن (محمد بن جعفر) في: مشيخة النعّال البغدادي ٦٣ ــ ٦٥، وتاريخ ابن ُالدبيثي (مخطوطة شهيد علي) الورقة ٢٧، ٢٨، والمختصر المحتاج إليه ٢٠٠١، والعبر ٢٣٨، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٩١ دون ترجمة، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٩، وشلرات اللهب ٢٦٧.

قرأ القراءآت على: أبي الخير المبارك الغسّال(١)؛

وسمع: أبا القاسم بن بيان، وأبا الغنائم النَّرْسِيّ، وأبا غالب محمد بن عبدالواحد القزّاز.

قال ابن الدَّبِيثيّ (٢): وكان حَسن المحاضرة، كثير المحفوظ من الأشعار والحكايات.

وأجاز له: أبو الحسن العلّاف، وأبو (٣) الفتح الحدّاد الإصبهانيّ.

ذكره ابن السّمعاني في «الذّيل»(٤).

قلت: روى عنه: أمين الدّين سالم بن صَصْرى، ومحمد بن أحمد بن خيثمة بن الخرّاط، ومحمد بن سعيد بن الخازن، وآخرون.

ولم أظفر باسم أحدٍ ممّن قرأ عليه بالرّوايات.

وتُونِّقي في جُمادى الآخرة وله ثلاثٌ وتسعون سنة (٥).

۳۲۰ ـ محمد بن عبد العزيز بن علي بن عيسى (٦) .

أبو الحسن الغافقيّ، القَرْطُبيّ، المعروف بالشَّقوريّ.

سمع من: أبي عبدالله بن الأحمر، وأبي بكر بن العربيّ، وأبي جعفر البطروجيّ، وجماعة.

قال الأَبَار: وكان حافظاً لأخبار الأندلس، مَعْنِيّاً بالرجال، ضابطاً، متقناً، له مشاركة في اللّغة والنّخو، مع الزُّهْد والفضل. ووُلّى قضاء شَقُورة وحُمِدت سيرته، وأخد النّاس عنه.

⁽١) الغسّال: بالغين المعجمة والسين المهملة.

⁽٢) في تاريخه.

⁽٣) في الأصل: (وأبا) وهو خطأ.

⁽٤) وقال النعّال: حدّث عنه الحافظ أبو سعد عبد الكريم بن محمد السمعاني، وتوفي قبل مولدي بثلاث سنين. (مشيخة النعال ٦٤).

⁽٥) مولده في ذي الحبَّة سنة ٤٨٦ هـ.

⁽٦) أنظر عن (محمد بن عبد العزيز) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

وتُونِّي في المحرّم. وكان مولده في سنة عشرين وخمسمائة.

٣٢١ _ محمد بن محمد بن الجُنيد بن عبد الرحمن بن الجُنيد(١).

أبو مسلم الإصبهانيّ.

سمع: أبا الفتح الحدّاد، وأبا سعد المطرِّز، والحافظ محمد بن طاهر المقدسي.

وقدِم بغداد حاجًا مع خاله أبي الغنائم محمد بن الحسين بن رزينةٍ، فكتب عنه المبارك بن كامل الخفّاف حديثين.

وكان ثقة من بيت حديث وتصوُّف.

تُوُفّي في رجب وله ٨٢ سنة.

وقد روى الكثير بإصبهان.

٣٢٢ _ محمد بن محمد بن حمزة بن أبي جيش.

أبو طالب الأزدي، الدّمشقي.

سمع: هبة الله بن الأكفانيّ.

روى عنه: المسلم بن عبد الوهّاب، وأبو القاسم بن صَصْرى.

٣٢٣ ـ محمد بن أبي الأزهر عليّ بن أحمد بن محمد بن عليّ بن يوسف(٢).

أبو طالب الواسطيّ، الكتّانيّ، المحتسب، المعدَّل.

كان على حسبة واسط هو وأبوه.

وُلِد سنة خمسِ وثمانين وأربعمائة.

⁽١) أنظر عن (محمد بن محمد بن الجنيد) في: الوافي بالوفيات ١٥٨،١٥٧/ رقم ٧٨.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن أبي الأزهر) في: تاريخ ابن الدبيثي (مخطوط شهيد علي) ورقة ٨٤، والمطبوع ١٥/ ٥٥، والتقييد لابن نقطة ٩٥، والمختصر المحتاج إليه ١٤/١، والعبر ٤/ ٤/٠ والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٨ رقم ١٨٩١، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٨، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ١١٥، ١٦١ رقم ٧٥، وذيل التقييد لقاضي مكة ١٧٦/١ رقم ٣١٧، وشدرات اللهب ٤/٢٢.

قال ابن الدَّبيثيّ (١): سمع محمد بن عليّ بن أبي الصَّقْر الشّاعر، وأبا نُعَيْم بن أبي محمد بن إبراهيم الحِماديّ، وأبا الحسن كاتب الوقف، وأبا نُعَيْم بن زَبّزَب، وأحمد بن أبي محمد العُكْبَريّ، وأبا غالب محمد بن أحمد، والمبارك بن فاخر، وهبة الله بن السَّقَطيّ.

وأنفرد في الدّنيا بإجازة أبي طاهر أحمد بن الحسن الباقِلانيّ، وأبي منصور عبد المحسن الشّيحيّ، وأبي الحَسَن بن أيّوب البرّاز.

ورحل إلى بغداد، فسمع أبا الحسن بن العلّاف، وأبا القاسم بن بيان، ونور الهدى الزّينبيّ.

وكان ثقة صحيح السّماع، متخشّعاً، يرجع إلى دِين وصلاح. رحل النّاس إليه وكتبوا عنه.

روى عنه: أبو المواهب بن صَصْرى، ويوسف بن أحمد الشّيرازيّ، وعبد القادر الرُّهاويّ، وأبو بكر بن موسى الحارميّ، وأبو الفتح المندائيّ، وأبو طالب بن عبد السّميع.

وسمعنا منه الكثير ونِعْمَ الشَّيخ كان.

سمعت منه بقراءتي في سنة أربع وسبعين.

قلت: وروى عنه المُرَجّا بن شُقَيْر كتاب «الطّوالات» للتُّنُوخيّ.

قال ابن الدَّبِيثيّ (٢): وأنشدنا قال: أنشدنا محمد بن عليّ بن زبزب سنة أربع وخمسمائة: أنشدنا أبو تمّام عليّ بن محمد بن حسن قاضي واسط لبعضهم:

هَـوَيْـت وقلـت: رَبْـعٌ قـد دثـر لـلابـه بالباب أفـواجـاً زُمَـر حـديـث نَفَـاقهـم عنـد الكِبَـر

لمّــا تكهّــل مَــن هَــوَيْــت عـــاينـــت مـــن طـــلآبـــه وكــذاك أربـــاب الحـــديــث

⁽١) في تاريخه.

⁽٢) في تاريخه.

تُوفّي رحمه الله في ثاني المحرّم بواسط وله أربعٌ وتسعون سنة.

 $^{(1)}$ عمرود بن نصر بن حمّاد بن صَدَقة بن الشّعار $^{(1)}$.

أبو المجد الحرّاني، البغدادي، والد المحدِّث إبراهيم.

شيخ صالح، سمع الكثير بنفسه من: هبة الله بن الحُصَيْن، وهبة الله بن الطُّبَر، وأبي بكر المَزْرَفيّ، فَمَن بعدهم.

قال ابن الدَّبيثيّ: كان ثقة، صحيح النَّقل.

تُوُفّى في رمضان، وله ثمان وسبعون سنة.

قرأتُ عليه ونِعْمَ الشّيخ كان.

قلت: وروى عن: العلاّمة أبي الوفاء بن عَقِيل.

وروى عنه: القاضي أبو منصور سعيد بن محمد بن جحدر الصُّوفيّ.

وقد قرأ بالروايات على هبة الله بن الطُّبر؛ وكان ثقة.

٣٢٥ ـ مُقَاتل بن عزّون.

الرَّقِّيِّ، المعروف بابن العريف المصريِّ.

واسع الرّواية .

قال الحافظ ابن المفضّل في «الوَفَيَات»: قرأتُ عليه «سُنَن أبي داود»، وأخبرنا ابن المشرّف، عن الحبّال، عن أبي محمد النّحاس، عن ابن ألاعرابيّ مناولةً، عنه.

وقرأتُ عليه ستّة أجزاء من أول كتاب «الأسماء والكنّى» للنّسَائيّ، وهو عشرون جزءاً، عن ابن المشرّف، عن الحبّال، عن ابن الخصيب، عن ابن النّسائيّ، عن أبيه.

وناولني «صحيح مسلم»، أصل سماعه من يوسف المَيُورقيّ، اللَّخْميّ، عن الحسين بن عليّ الطَّبَريّ، بسَنَده.

⁽۱) أنظر عن (محمود بن نصر) في: مشيخة النّعال ٦٥ ــ ٦٧، والمختصر المحتاج إليه ٣/ ١٨٥ رقم ١١٨٣، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٩١ دون ترجمة.

وتُوُفِّي في رمضان. ومولده سنة إحدى وخمسمائة رحمه الله تعالى. ٣٢٦ الموفَّق بن شوعة (١).

اليهودي، المصري، الطبيب، الملقّب بالقيثارة.

من أعيان الأطبّاء والكحّالين. وكان ظريفاً، شاعراً، ماجناً.

خدم السّلطان صلاح الدّين بالطّبّ.

وكان الشّيخ نجم الدّين الخَبُوشانيّ له صورة بمصر، وفيه صلاح و(دين) (٢٠)، فإذا رأى ذِمّيّاً راكباً قصد قتْله، فكانوا يتحامونه، فرأى الموفّق راكباً فضربه بشيء أصاب عينه، فقلعها وراحت هذراً.

وله، أعني الموفّق، قصيدة يهجو فيها ابن جُمَيع اليهوديّ رأس الأطبّاء بالقاهرة ويرميه بالأثبّنة. ولهم اللّعُنة.

_ حرف الياء _

۳۲۷ ـ يوسف بن إبراهيم بن عثمان^(۳).

أبو الحَجّاج العَبْدَريّ، الغَرْناطيّ، المعروف بالثَّغْريّ (٤).

أخذ القراءآت عن: عبد الرحيم بن الفَرَس، وأبي الحسن شُرَيْح بن محمد، وأبي بكر يحيى بن الخلوف، وأبي الحسن بن الباذش.

وسمع منهم، ومن: أبي مروان الباجيّ، وأبي بكر بن العربيّ، وأبي الحسن بن مغيث، وخلْق.

⁽١) أنظر عن (الموفق بن شوعة) في: عيون الأنباء لابن أبي أصيبعة ١٩٣،١٩٢، ١٩٣ وفيه «شرعة» بالراء في العنوان، و«شوعة» في المتن.

⁽٢) في الأصل بياض.

⁽٣) أنظر عن (يوسف بن إبراهيم) في: بغية الملتمس للضبّي ٤٨٨، ٤٨٩، وقم ١٤٣٨، وتحملة الصلة (لمخطوط) ٣/ ورقة ١٤٢، ومعجم شيوخ الصدفي، لابن الأبار ١٣٣١، وصلة الصلة لابن الزبير ٢١٤، ١٦٤، ومعرفة القراء الكبار ٢/٥٥، ٥٥٠ رقم ٥٠١، وغاية النهاية ٢/ ٣٩٣، وهجمة وطبقات المفسّرين للداوودي ٢/ ٣٧٨، ٣٧٩.

⁽٤) عُرِف بالثّغري لأن أباه أصله من ثغر لاردة. (تكملة الصلة).

وصحِب أبا بكر بن مسعود النَّحْويّ مدّة، وأخذ عنه العربيّة. وأجاز له أبو عليّ بن سُكَّرَة، وأبو بكر الطِّرْطُوشيّ.

قال الأَبّار (١٠): وكان فقيها حافظاً، محدّثاً، راوية، مقرئاً، ضابطاً، مفسّراً، أديباً. نزل في الفتنة قليوشة وأقرأ فيها. وولى الصّلاة والخطبة.

أكثر عنه أبو عبدالله التُّجِيْبيّ وقال: لم أر أفضل منه، ولا أزهد، ولا أحفظ لحديث وتفسير منه. ولم أر بالبلاد المشرقية أفضل من أبي محمد العثمانيّ ولا أزهد ولا أورع.

قال: وروى عن أبي الحَجّاج: أبو عمر بن عيّاد، وأبو العبّاس بن عُمَيْرَة، وأبو سليمان ن حَوْط الله (٢).

وتُوفِّي رحمه الله في شوّال، وله ٨٦ سنة.

 $^{(7)}$. يونس بن محمد بن منعة بن مالك بن محمد $^{(7)}$.

الإمام رضيّ الدّين أبو الفضل المَوْصِليّ الإربليّ الأصل، الشّافعيّ.

والد الشَّيخ كمال الدِّين موسى وعماد الدِّين محمد.

وُلِد بإربل، وتفقّه بالموصل على الحسين بن نصر بن خميس الجُهنيّ، وسمع منه كثيراً من حديثه. ثمّ انحدر إلى بغداد وتفقّه بها على أبي منصور سعيد بن محمد الرّزّاز.

⁽١) في تكملة الصلة.

⁽٢) وقال الضبّي: فقيه، محدّث، راوية عارف، أديب. انتقل إلى مُرسية في الفتنة وصار خطيباً بقليوشة من قرى مدينة أوريولة، واقتنع ولم يتعرّض لظهور، وكان قد غصّ به جماعة من الفقهاء بمُرسية حين وصلها لمعرفته، فسعى له في الخطبة بجامع قليوشة المذكورة وانتقل إليها. سمعت عليه بعض كتاب «الموطّا». (بغية الملتمس).

 ⁽٣) أنظر عن (يونس بن محمد) في: تاريخ إربل ١/٧٤، ووفيات الأعيان ٦/٢٥٢، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٩٢٧، والعبر ٢٣٨/٤، ومرآة الجنان ٣/٤٠٦ (٢٠٦ هـ.) و٤١٥، وطبقات الشافعية لابن قاضي شهبة ١/٣٥٤، ٣٥٥ رقم ٣٢١، وتاريخ الخلفاء ٤٥٧، والنجوم الزاهرة ٢/٦٦، وشذرات الذهب ٢٦٧/٤.

ثم ردَّ إلى الموصل وسكنها، وصادف بها قبولاً عند متولِّيها زين الدّين على كُوجَك صاحب إربل.

> ودرًّس وأفتى وناظر، وتفقَّه به جماعة. تُوُفّي في المحرّم وله ثمان وستّون سنة. ورَّخه ابن خَلِّكان (١).

وفيها ولد:

نقيب الأشراف بهاء الدّين عليّ بن محمد بن أبي الجن.

وأبو المجد عبد الملك بن نصر بن الفويّ بالتُّغْر. سمع من ابن المفضّل.

وأبو بكر بن عليّ بن بكّار.

وحدَّث القاضي أبو محمد جعفر بن محمد بن محمود قال: أنشدت شيخَنا يونس بن محمد بن منعة بن مالُّك الفقيه ـ رحمه الله ـ أبياتاً ﴿إِلَى ماذا يقولُ»:

قد شفّه قمرٌ يُرْري على القمر مُسولِّب بفتسور اللحسظ والحَسور عليمه إن فاز بالتقبيل والنظر؟

ماذا يقبول رضي المدين في رجل مُتُکِم قلِسِ صَبِّ حلیسَفِ ضَنسیُّ وقید خیلا بـالـلـي يهـوی فهـل حَرَجُ (تاریخ إربل ۱/۷٤).

نى وفيات الأعيان.

سنة ثمانين وخمسمائة

_ حرف الألف _

٣٢٩ - أحمد بن على بن معمّر بن رضوان (١).

أبو بكر بن جرادة المشاهر البغدادي.

سمع: إسماعيل بن ملّة، وأبا طالب بن يوسف.

سمع منه: عمر بن عليّ.

وتُوُفِّي في جُمادى الآخرة، وهو ابن خمسٍ وتسعين سنة.

قاله الدَّبيثيّ.

٣٣٠ - أحمد بن المبارك بن دَرَك (٢).

أبو العبّاس البغداديّ، الضّرير، المقرىء، الدّارقَزيّ (٣).

شيخ صالح.

سمع: أبا القاسم بن بيان، وأحمد بن عليّ بن قريش.

سمع منه: أحمد بن طارق، وعبد العزيز بن الأخضر، وغيرهما.

وقال إلياس بن جامع الإربليِّ (٤): قرأت عليه جزءاً تحت شجرةٍ في

داره، فقال لي: قرأتُ تحت هذه الشُّنجرة عشرة الآف ختمة.

تُوُفّي في جُمادى الآخرة، وله ثمانٍ وسبعون سنة.

⁽١) أنظر عن (أحمد بن علي) في: تكملة الصلة لابن الأبارج ١.

⁽٢) أنظر عن (أحمد بن المبارك) في: تاريخ ابن الدبيثي ٢/ ورقة ٦٥ ب، والمختصر المحتاج إليه ٢/١٤/، ٢١٥، والعسجد المسبوك ٢/ ١٩٢، ١٩٣.

⁽٣) الدارقزي: نسبة إلى دار القرز.

⁽٤) له ذِكر في تاريخ إربل ١٩١/١.

٣٣١ ـ إبراهيم بن حسين بن يوسف بن محارب^(١). أبو إسحاق القيسيّ البَلنْسِيّ، المقرىء.

أخذ القراءآت عن أبي عبدالله بن سعيد.

سمع من: أبي بكر بن برنجال.

وأُخِذت عنه القراءآت وكتبها. وكان مشهوراً بالتَّجويد.

قال أَلابَار: أخذ عنه شيوخنا أبو عبدالله بن واجب، وأبو الحَجّاج بن أيّوب، وأبو الحسن بن خيرة.

> وقرأ عليه في صِغره أبو جعفر بن عَون الله الحصّار. تُونّني سنة ثمانين أو إحدى وثمانين.

٣٣٢ ـ إيلغازي بن ألبي بن تمرتاش بن إيلغازي بن أرتق (٢). الملك قُطُب الدِّين صاحب ماردين. ولِيها مدَّةً طويلة بعد أبيه. وكان موصوفاً بالشّجاعة والعدل.

تُوكُفّي في جُمادى الآخرة، وخلّف ولدين صغيرين، فأقيم في الأمر أحدهما، وهو حسام الدّين، وقام بتدبيره مملوكه نظام الدّين أَلْبُقش من تحت جناح خال أبيه شاه أرمن صاحب خلاط. فلمّا مات ولي الآخر قُطب الدّين، فامتدّت أيّامه إلى أن قتلَ أَلْبقُش واستقلّ بالأمر (٣).

⁽١) أنظر عن (إبراهيم بن حسين) في: تكملة الصلة لابن الأبارج ١.

⁽٢) أنظر عن (إيلغازي) في: المكامل في التاريخ ٢١/٥٧١ و٥٠٨، وتاريخ مختصر الدول ٢١٩، وتاريخ الزمان ٢٠٢ ووفيات الأعيان ١٩١/١ و٢/٥٢٥ و٥١٥، والأعلاق الخطيرة ج ٣ ق ١/١٢١، ١٤٩، وق ٢/٤٤، ٤٤١، وق ٢/٤٤، ٤٥١، ٤٥١، ٤٥١، ٥٥١، ٥١٠، والسروضتيسن ٢٠٢٠ (طبعة وادي النيل)، ومرآة الزمان ٨/٣٨٣، وتلخيص مجمع الآداب ج ٤ ق ٤/٢٢، والدر المطلوب ٧٨، والمختصر في أخبار البشر ٣/٨٢، والعبر ٤/٩٣١، وتاريخ ابن الوردي ٢/٩٤، والوافي بالوفيات ٢٠/٢٠، ٢٧ رقم ٤٤٤١، والسلوك ج ١ ق ١/٨٨ (سنة ٥٧٩هـ.)، والنجوم الزاهرة ٢/٧١، والعسجد المسبوك ٢/١٩١، وتاريخ ابن سباط ١٦٨٠، وشلرات الذهب ٤/٢٨).

 ⁽٣) الأعلاق الخطيرة ج ٣ ق ٢/ ٥٥٧ وفيه أن قطب الدين بن إيلغازي قتل ألبقش وهو يعوده في مرضه.

٣٣٣ ـ بدر بن عبد الغنيّ بن محمد^(١).

أبو النُّجُم الطُّحَّان، الواسطيّ، المقرىء.

قرأ على: عليّ بن شِيران، وأبي محمد سبط الخيّاط.

روى القراءآت بواسط.

قال الدَّبيثيّ: سمعت منه. وتُونُقي في ربيع الأوّل.

_ حرف الحاء _

٣٣٤ ـ الحسن بن عيسي بن أصبغ.

أبو الوليد الأزْديّ، القَرْطُبيّ، المعروف بابن المناصف.

روى عن: عمّ أمّه أبي محمد بن عتّاب، سمع منه «المدوّنة» وكتابه الكبير في المواعظ الملقّب بـ شفاء الصّدور».

وله إجازة عن: أبي عليّ بن سُكَّرَة.

ولى خطابة إشبيلية.

وحدَّث عنه: أبو القاسم بن الملجوم، وأبو سليمان بن حَوْط الله، وأبو الخطّاب بن دحية.

وتُوفِّي في المحرَّم.

ووُلِد ظنّاً سنة اثنتين وخمسمائة.

٣٣٥ ـ الحسين بن علي بن عبد الواحد بن شبيب^(٢).

أبو عبدالله النّصيبي، ثمّ البغدادي، الكاتب.

كان كاتباً مُنشئاً، فصيحاً، بليغاً، مفوَّها، له النَّظْم والنَّثر.

وكان يدخل على المستنجد بالله ويجالسه، ويحبّ سماع كلامه. ويأمره

⁽١) أنظر عن (بدر بن عبد الغني) في: تكملة الصلة لابن الأبارج ١.

 ⁽۲) أنظر عن (الحسين بن علي بن عبد الواحد) في: معجم الأدباء ۱۲٦/۱۰ ـ ۱۳۰ رقم ۱۰ وفيه قال محققه بالحاشية: «لم نعثر له على ترجمة سوى ترجمته في ياقوت».

بإطالة مُقَامه. قال له مرّةً مصحّفاً: أَإِبنُ شَبِيب؟ فجاوبه مسرعاً: عبدُ مولانا(١٠). تُوُفِّي في ربيع الآخر^(٢).

ـ حرف الزاي ـ

 $^{(7)}$. نهير بن محمد بن أحمد بن أبي سعيد أبو سعد الإصبهاني. يعرف بشعرانة (٤).

وقال ياقوت: كان أديبًا كاتبًا شاعراً له اليد الطولى في حلَّ الألغاز العويصة. تفاوض أبو منصور محمد بن سليمان بن قتلمَشُ، وأبو غالب بن الحُصين في سرعة خاطر ابن شبيب وتقدُّمه في حلِّ الألغاز، فعمل ابن تتلمش أبياناً على صورة الألغاز، ولم يُلغزُ فيها بشيء وأرسلاها إلى ابن شبيب يمتحنانه بها وهي:

ومنا شيء لنه في السراس رِجْسَلٌ ومسوضيعُ وجهسه منسه قفساه؟ وإنْ فتخـــتَ عينـــك لا تـــراه

إذا غمضت عينت ابصر تسه ونظم أيضاً:

وجَـــارِ وهـــو تيّـارُ ضعيــف العقــل خــوًّارُ بـــالا لحــم ولا ريــش وهُــو فــي الــرمــز طيّـارُ بطبّــع بــاردِ جـــداً ولكـــن كُلُّــه نــارُ

فكتب ابن شُبيب على الأول: هو طيف الخيال. وكتب على الثاني: هو الزئبق. فجاء أبو غالب وأبو منصور إليه وقالا: هَبِ اللُّغْزَ الأولِ طيف الخيال، والبَّيت الثاني يساعدك على ما قلت، فكيف تعمل بالبيت الأوَّلِ؟ فقال: لأن المنام يُفَسِّر بالعكس، لأنَّ من بكي يفسّر بكاؤه بالضحك والسرور، ومن مات يفسّر موته بطول العمر. وأما اللغز الثاني: فإن أصحاب صناعة الكيمياء يرمزون للزئبق بالطيّار والفرّار والآبق وما أشبه ذلك، لأنه يناسب صفته، وأمَّا برده فظاهر، ولإفراط برده ثقلُ جسمه وجرْمُهُ، وكله نار لسرعة حركته وتشكُّله في افتراقه والتنامه، وعلى كل حال ففي ذلك تسَّامح يجوز في مثل هذه الصور الباطلة إذا طُبقت على الحقيقة.

ومن شعر ابن شبيب في المستنجد:

من ناب بعد رسول الله أو خَلَفَا أنست الإمبام السذي يحكسي بسيبرت إِنْ عُدُدَت بِحُروف الجُمَّا النُّخَلَفَا أصبحت لُبُ بني العباس كُلُّهم فإن جُمَّل حروف البِّ، اثنان وثلاَثُون، والمستنجد هو الثاني والثلاثون من الخلفاء.

- مولده سنة ٥٠٠ هـ. **(Y)**
- أنظر عن (زهير بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٢/ ٧٥ رقم ٦٧٣، وتلخيص مجمع (٣) الآدابَ ٤/ ٩١، وغاية النهاية ١/ ٢٩٥.
 - ويلقب: غياث الدين. (1)

والد محمد شعرانة الّذي أجاز للقاضي تقي الدّين الحنبليّ.

سمع: سعيد بن أبي الرجاء الصَّيْرَفيّ.

قال الدَّبيثيّ: وكان مقرئاً مجوّداً، قدِم بغداد، ولقِيتُه بالحِلّة وبمدينة النّبيّ ﷺ، وسمعتُ منه.

وتُونُفّي معنا بوادي العروس في تاسع المحرّم.

_ حرف السين _

۳۳۷ _ السّديد^(۱).

أبو البيان بن المدوّر اليهودي، طبيب السلطان صلاح الدّين.

كان حاذقاً بصيراً بالعلاج، خدم الخلفاء الباطنيّة، وخدم بعدهم صلاح الدّين، وطال عمره وانقطع. وكان له في الشّهر أربعة وعشرون ديناراً إلى أن مات إلى لعنة الله.

وكان يُقريء الطّبّ في داره بمصر، وعاش ثلاثاً وثمانين سنة. وهو من تلامذة زين الحسّاب.

تُوُفّي سنة ثمانين.

۳۳۸ _ سعد بن الحسن بن سلمان (۲) .

أبو محمد الحرّانيّ، ثمّ البغداديّ، ويُعرف بابن التّورانيّ (٣). وتُوران قرية على باب حَرّان.

كان تاجراً معروفاً، وأديباً شاعراً. جالس أبا منصور الجواليقيّ، وغيره. روى عنه أبو سعدون شِعره في «الذّيل».

⁽١) أنظر عن (السديد) في: عيون الأنباء ٢/ ١١٥، والوافي بالوفيات ١٢٧/١٥ رقم ١٨٠.

 ⁽۲) أنظر عن (سعيد بن الحسن) في: معجم الأدباء ١٩٢/١، رقم ٥٧، ومعجم البلدان ٢/٥٧، والمختصر المحتاج إليه ٢/٨٨ رقم ٦٨٥، والوافي بالوفيات ١٧٨/١٥ رقم ٢٣٩، وبغية الوعاة ٢/٧٢.

⁽٣) تحرّفت في معجم الأدباء إلى النوراتي.

وتُوُفّي في ذي القعدة (١٦).

_ حرف العين _

٣٣٩ ـ عبدالله بن محمد بن وقاص.

أبو محمد اللَّمطيّ، المَيُورقيّ، خطيب مَيُورقَة ومفتيها.

استشهد في الحادثة الكائنة بقصر مَيُورقَة في هذا العام.

سعد أحمد بن أبي البركات إسماعيل بن أبي سعد أحمد بن محمد $(^{(1)})$.

صدر الدين أبو القاسم النَّيْسابوري، ثمّ البغدادي، الصُّوفي. شيخ الشيوخ.

كان حَسَن النَّظْم والنَّثر، وله رأي ودهاء وتقدَّمٌ وجاه عريض. فكان المشار إليه في حُسْن الرأي والتدبير، مع زُهد وعبادة.

ترسَّل إلى الشَّام، وكانت الملوك تستضيء برأيه (٣).

سمع: أباه، وأبا القاسم بن الحُصَيْن، وزاهر بن طاهر، وأبا عليّ

(١) ومن شعره:

وقال ما يُكتب على سكين:

ج وقــــد شكــــا فــــرْطُ الغــــرامِ ــــف إذا بُلِيــــتُ ببَيّــــن عـــــامِ

وسَــوْرة الهـــمّ تمحــو سيــرة الجَـــذَكِ إِنْ بِنــتِ طــال وإنْ واصلــتِ لــم يَطُــلِ

مـــــن القضــــاء وأجــــرَى وشــــــق رأســـــي صـــــدرا

⁽٢) أنظر عن (عبد الرحيم بن إسماعيل) في: الكامل في التاريخ ٢١/٩٠٥، والمختصر المحتاج إليه ٢٠٩٧، ٢٧ رقم ٧٨٦، والإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٩، وسير أعلام النبلاء ٢٢/ ١٠١ (دون ترجمة)، والوافي بالوفيات ١٨/ ١٢١، ١٢٢ رقم ١٣٣، وفيه «عبد الرحمن»، والعسجد المسبوك ٢/ ١٩٢.

⁽٣) في الوافي ١٨/١٨ «تستغنى برأيه».

الفارقيّ، ومقرّب بن الحسين النّسّاج.

وروى الكثير، وكان صدوقاً نبيلًا.

سمع منه: أبو سعد السمعاني مع تقدُّمه، وأبو الخير القزويني، وأبو منصور حَفَدَة العطّاري.

وروى عنه: أبو أحمد بن سُكَيْنَة، وابنه أبو الفُتُوح، وأبو عبدالله محمد بن الدَّبِيثيّ، وسالم بن صَصْرى، وآخرون.

وكان في الرسليّة من قبَل أمير المؤمنين، هو والطّواشيّ شهاب الدّين بشير، فمرضا بدمشق، وطلبا العَوْد إلى بغداد. وسارا في الحَرّ، فتُوُفّي بشير بالسُّخْنة. وأمَّا الشَّيخ صدر الدِّين فإنّه لم يستعمل في مرضه هذا دواءً توكُّلاً على الله تعالى. كذا نقل ابن الأثير (١) في «تاريخه».

وتُوُفِّي بالرحْبَة في رجب.

وكان معه كَفَّنُهُ إلى أين سافر، وكان من غزَّل أمَّه، ومعه دينار لتجهيزه، من أجرة غزل أُمّه (٢).

 $^{(7)}$ عبد الرحيم بن عمر بن عبد الرحيم بن أحمد $^{(7)}$.

⁽١) في الكامل ١١/٩٠٥.

ومن شعره: (٢)

من عاش في أهله أبدوا سآمته يحنـــو ودادأ وتبـــدو منهـــــمُ إحَـــنُ يهموى لأيشارهم مموتماً يعماجلُمه إنَّ بسان مسن بينهسم سُسرُّوا بغيبته ومنه نمن أبيات:

سافر بهمَّك في مقامات الرضي شمّر فقد وضُمح الطريق إلى الهدى من عناف شهروت وعنق ضميره

المؤلفين ٥/٢١٠.

وعسافسه منهسمُ أهسلٌ وجيسرانُ وليس يتألوهم نُصحاً وإن خمانوا والمسرتجي بعسده عفسو وغفسران وليسس يهناؤه عيش إذا بانوا

واسرح بقلبك في رياض الأنس والحسر مسوعده زوال اللبسس فهو المعافى من عيوب النفس

أنظر عن (عبد الرحيم بن عمر) في: تكملة الصلة لابن الأبار ٢/٢٠١، ٢٠١، ومعجم

أبو القاسم الحضْرميّ، الفاسيّ، المعروف بابن عكيس. سمع بقُرْطُبّة وإشبيلية من: أبي الحسن بن مُغِيث، وأبي بكر بن العربيّ.

وكان حافظًا، مشاورًا، فقيها، مبرّزاً، له تواليف.

حدَّث عنه: ابنه عمر، وأبو محمد بن مطروح.

تُوُفّي في شعبان وله ثمانون سنة.

٣٤٢ ـ عبد القادر بن هبة الله الغضائريّ (١٠).

سمع: أبا القاسم بن الحُصَين، وأبا الحسين بن الفرّاء.

كتب عنه: ابن مَشِّقُ، وغيره.

٣٤٣ _ عبد اللّطيف بن محمد بن ثابت(٢).

الخُجندِيّ. رئيس إصبهان.

عالم، إمام كبير القدر، بعيد الصِّيت.

قدِم بغداد ووعظ، وحجّ، وعاد إلى بلده.

فَتُوفِّي في ربيع الأوّل. وقد حدَّث (٣٠).

٣٤٤ _ عُبَيْدالله بن عليّ بن محمد بن محمد بن الحسين بن الفرّاء (٤).

⁽١) أنظر عن (عبد القادر بن هبة الله) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ٨٠ رقم ٨٩٩.

 ⁽۲) أنظر عن (عبد اللطيف بن محمد) في: الكامل في التاريخ ١١/٥٠٩، ٥١٠، وتاريخ ابن الدبيثي (مخطوطة باريس) ٢/ ورقة ١٦٠ ب، والطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٢٦١/٤، وشذرات الذهب ٣٢٧/٤.

⁽٣) قال ابن الأثير: وله شعر فمنه:

بالحمي دارٌ ساقاها مدمعي يا سقى الله الحمي من مربع المست شعري والأماني ضلّة هل إلى وادي الغضّى من مرجع؟ اذنَاتُ عَلَىوَةٌ للولسي بنا ما على عَلَوةٌ لولم تسمع أو تَحَرَّتُ رَشَداً نيما وَشَى

⁽٤) أنظر عن (عبيدالله بن علي) في: مشيخة النّعال ٧٠ ـ ٧٧، والمختصر المحتاج إليه ٢٠ / ١٨٠ (مم ١٨٠ ورقة ١١٥) ورقة ١١٥ ورقة ١١٥ وتلخيص مجمع الآداب ج ٥/رقم ٣٦١، وذيل تاريخ بغداد ٢/ ٩٢ ـ ٩٤ رقم ٣٣٨، ولسان الميزان ٤/ ١٠٩، وذيل طبقات الحنابلة ١/ ٣٥٦ رقم ٢٥١ وفيه «عبدالله».

أبو القاسم بن أبي الفَرَج ابن أبي خازم ابن القاضي أبي يَعْلَى البغدادي، الحنبليّ.

سمّعه أبوه الكثير من أبي منصور عبد الرحمن القزّاز، وأبي منصور بن خيرون، وأبي عبدالله السّلال، وأبي الحسن بن عبد السّلام.

وطلب هو بنفسه، وأكثر عن أصحاب عاصم بن الحَسَن، وطِراد.

وبالغ حتى سمع من أصحاب ابن الحُصَيْن. وكتب وحصّل الأصول.

قال ابن النّجّار (۱): وكانت داره مجمعاً لأهل العِلم والشّيوخ، وينفق عليهم ويتكرّم. وكان لطيفاً حَسَن الأخلاق ذا مروءة. قرأ الفقه وشهد على القُضاة، ثمّ عُزِل لمّا ظهرت منه أشياء لا تليق بأهل الدّين قبل موته بقليل.

سمع منه: ابن الأخضر، وكان يصفه بالسّخاء والعطاء.

وقال لي ابن القَطِيعيّ: كان عَدْلاً في روايته ضعيفاً في شهادته.

مات سنة ثمانين في آخرها. مرض بالفالج أسبوعاً. ومولده سنة سبع وعشرين.

قلت: روى عنه الشّيخ الموفّق وقال: كان آخر مَن بقي مِن ذرّيّة القاضي أبي يَعْلَى ممّن له حشمة وجاه ومنصب.

وكان له دار واسعة، وعنده أكثر كتب أبي يَعْلَى. ثمّ افتقر فباع أكثرها.

٣٤٥ ـ عتيق بن أحمد بن سلمون.

أبو بكر البَلُنْسِيّ، النَّحْويّ.

أخذ القراءآت عن: ابن هُذَيْل؛ والنَّحو عن: أبي محمد بن عَبْدُون. استشهد في كائنة غربالة.

٣٤٦ ـ عثمان بن محمد بن عيسى (٢).

⁽۱) في ذيل تاريخ بغداد ۲/ ۹۳.

 ⁽۲) أنظر عن (عثمان بن محمد) في: صلة الصلة لابن الزبير ٧٦، وتكملة الصلة لابن الأبّار،
 رقم ١٨٣٦، وبغية الملتمس للضبّي ٤٠٩، ٤١٠، رقم ١١٧٧، والذيل والتكملة لكتابي =

أبو عَمرو اللَّحْميّ، المُرْسِيّ، البشجّيّ^(۱)، نسبة إلى بعض الثُّغور. أخذ عن: أبي الحسن بن هُذَيْل، وأبي عبدالله بن سعادة.

وكان فقيهاً ماهراً، مدرّساً، مناظِراً.

تفقّه به أبو سليمان بن حَوْط الله.

وروى عنه: هو، وأبو عيسى بن أبي السّداد^(٢).

٣٤٧ ـ عليّ بن محمد بن عبد الوارث (٣).

أبو الحَسَن الغَرْناطيّ.

روى عن: أبي التحسين بن ثابت، وابن العربيّ، وشُرَيْح بن محمد، وأبي جعفر البَطْروجيّ.

قال ابن الزُّبَيْر^(ئ): صاحب رواية ودراية وخير وتواضع.

تُوُفِّي سنة ثمانين أو نحوها.

٣٤٨ ـ على بن محمد بن عبد الملك(٥).

الموصول والصلة ٥ ق ١٣٨/١، ١٣٩ رقم ٢٨٢.

(١) في الذيل والتكملة: «البججي»، والمثبت يتفق مع: الصلة، والتكملة. وفي بغية الملتمس ١٠٤ «البشيجي».

(٢) وكان فقيها حافظاً مدرّساً للفقه، أديباً ماهراً، ذا مشاركة في علم الحديث، وحظ صالح من قرض الشعر. دخل يوماً مجلس أبي العباس ابن الحلال القاضي فسأل بعض الحاضرين عنه فقيل له هو ابن أخت أبى عبدالله القسطلى، فأنشد السائل متمثلاً:

فإنّ ابن أخت القوم مُصْغَى إناؤه إذا لم يُراحم حاله باب جلد فإجابه أبو عمرو بديهة:

أنا ابن الأكرمين من آل لخم وأخوالي أولو عالي السناء وليس إناي بين القوم مُصغَى لأني من بني ماء السماء وكان له سلف في العلم. (الذيل والتكملة).

(٣) أنظر عن (علي بن محمد بن عبد الوارث) في: صلة الصلة لابن الزبير ١٠٧، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٥ قـ١٩١٨ رقم ٦١٨.

(٤) في صلة الصلة.

(٥) أنظر عُن (علي بن محمد بن عبد الملك) في: صلة الصلة لابن الزبير ١٠٦، وتكملة الصلة لابن الأبار، رقم ١٨٧٢، والـذيـل والتكملـة لكتـابـي المـوصـول والصلـة ج ٥ =

أبو الحَكَم اللّخْميّ الإشبيليّ. نزل به أبوه قُرْطبة.

سمع: أباه، وأبا عبدالملك بن مكّيّ، وأبا الحسين بن مغيث. ووُلّى خطّة الكتابة بمَرّاكُش.

وكان كاتباً بليغاً مفوّها، من بيت رئاسة.

حدَّث في هذا العام واختفى خَبَرَهُ(١).

_ حرف الميم _

٣٤٩ ـ محمد بن أحمد بن أبي عليّ.

أبو بكر الإصبهاني، ثمّ البغداديّ السّيّديّ، منسوب إلى خدمة الأمير السّيّد أبي الحسن العَلويّ.

شيخ صالح. سمع في الكهولة من: ابن البطّيّ، وأبي زُرْعة، ومُعَمَّر بن الفاخر.

وسمّع: ابنه عبد الكريم، وحفيده أبا جعفر محمداً.

وكان ثقة.

روى عنه: إلياس بن جامع الإربليّ في مصنّفاته.

وتُوُفِّي في شعبان، وله سبعون سنة.

٣٥٠ ـ محمد بن أحمد بن أبي عليّ محمد بن سعيد بن نبهان.

أبو الفَرَج البغداديّ، الكراخيّ.

سمع من: جدّه، وابن بيان الرّزّاز.

= ق ۱/ ۳۱۲ رقم ۲۱۵.

⁽١) وقال المراكشي: وكان من بيت علم وجلالة، نبيه القدر، أحد الكتبة المجيدين، الفائقين لفظاً وخطاً، متين المعارف الأدبية، سريّ الهمّة، كريم الأخلاق، وكتب عن أبي يعقوب بن عبد المؤمن زماناً، ثم إن أبا يعقوب خيّم بظاهر إشبيلية في غزواته ونهى أهل محلته كلهم عن الدخول إلى إشبيلية فدخل إليها أبو الحكم هذا فهجره أبو يعقوب ثم أقصاه ولم يُعِده بعد إلى الكتابة.

روى عنه: تميم البُّنْدَنِيجيّ، والحسين بن محمد بن عبد القاهر، وأبو بكر عبدالله بن أحمد المقرىء، وسالم بن صَصْرَى، ومحمد بن إسماعيل الطّبّال، وجماعة. وكان شاعراً يمدح الرؤساء، وله:

تركتُ القريضَ لمن قالَهُ وجُرودَ فسلان وأفضالَهُ تُ وتبت من الشّعر لمّا رأيت كساد كساد القريض وإهماله وعدت إلى منزلي واثقاً برب يسرى الخليق سوالك

تُوفّى في رمضان وله أربعٌ وتسعون سنة.

٣٥١ ـ محمد بن أحمد بن طاهر ^(١).

أبو بكر الأنصاريّ، الإشبيليّ، النَّحويّ. ويُعرف بالخِدَبّ (٢).

أخذ العربيّة عن: أبي القاسم بن الرّمّال، وأبي الحسن بن مسلم.

وسادَ أهل زمانه في العربيّة، ودرّس في بلادٍ مختلفة. وكان قائماً على «كتاب سيبوَيْه»، وله عليه تعليق سمّاه «الطُّرر»، لم يُسبق إلى مثله.

وكان يتعانى التّجارة، فدخل مدينة فاس وأقرأ أهلها مدّة.

أخذ عنه: أبو ذَرّ الخُشَنيّ، وأبو الحسن بن خَرُوف.

وحج، وأقرأ بمصر، وحلب، والبصرة، ثم رجع. واختلط عقله فأقام ببجّاية وربمًا ثاب إليه عقل فيتكلُّم في مسائل أحسن ما يكون. ذكره

أنظر عن (محمد بن أجمد) في: تكملة الصلة لابن الأبّار، ٨٠٣، والوافي بالوفيات (1) ٢/ ١١٣، ١١٤ رقم ٤٤٨، وبغية الوعاة ١١٢/١، وتاريخ الخلفاء ٤٥٧، والمقفى الكبير ٥/ ١٨٢، ١٨٣ رقم ١٧٣٣، ولسان الميزان ٥/٨٤ رقم ١٨٤، وكشف الظنون ٢١٣، ومعجم المؤلفين ٨/ ٢٧١.

البحدّب: ضبطه الصفدي فقال: بكسر الحاء المعجمة والدال المهملة المفتوحة والباء **(Y)** الموحَّدة المشدَّدة. وهو الرجل الطويل.

في التكملة. وقال: وأقسم أنه يُقرىء كتاب سيبويه بالبصرة حيث وضعه سيبويه، فأقرأه بها. **(**Y) وأنشد له أبو محمد المنذري من قصيدة طويلة يمدح بها السلطان صلاح الدين يوسف بن

٣٥٧ ـ محمد بن حمزة بن محمد بن أحمد بن سلامة بن أبي جميل (١). القُرَشيّ أبو عبدالله بن أبي يَعْلَى الشُّرُوطيّ المعدّل الدّمشقيّ، المعروف بابن أبي الصَّقر. أحد محدّثي دمشق الثقات.

وُلِد في رجب سنة تسعِ وتسعين وأربعمائة.

وسمع من: هبة الله بن الأكفاني، وعليّ بن أحمد بن قبيس، وجمال الإسلام أبي الحسن السُّلَميّ، وطائفة.

ورحل سنة تسع وعشرين، فسمع: هبة الله بن الطّبَر، وأبا بكر الأنصاري، وجماعة.

ولم يزل مشتغلًا بالطُّلَب والإفادة.

وسمّع ولده مُكْرَماً من حمزة بن الحُبُوبيّ، وطبقته. وكان شُرُوطيّ البلد.

روى عنه: البهاء عبد الرحمن، وعبد القادر الرُّهاويّ، وأبو الحَسَن القَطِيعيّ، والضّياء محمد، وآخرون.

وقرأت وفاته بخط الحافظ الضّياء في يوم السَّبْت السّابع والعشرين من صَفَر سنة ثمانين.

مغاني سلمى بالشريف ألا اسلمي سقتك الغوادي كل أوطف أسحم
 فكم وقفة لي في جنابك أعربَت عن الشوق حتى قيل علّي المتيّم
 وصهباء شمملل كمان مسيرَهما إلى الريح ينمى للجديد، وشدتم
 وأنه قال: كنت في صباي أربط شعري بالحائط حتى لا أنام عن الاشتغال، وسكنت في
 الفندق إيثاراً لطلب العلم، أربع عشرة سنة.

وأنه قدم إلى مصر ومعه أربعة آلاف دينار أخدها منه أخوه فاختلّ عقله، وعاد إلى بجاية، فصار بالليل يسرد وقت اختلاله أبيات سيبويه.

⁽۱) أنظر عن (محمد بن حمزة) في: الإعلام بوفيات الأعلام ٢٣٩، والمعين في طبقات المحدّثين ١٧٨ رقم ١٨٩٢، وسير أعلام النبلاء ١٠٩/١ رقم ٥٧، والعبر ١٣٩/٤، وشدرات الذهب ٢٦٨/٤.

قلت: روى عنه أبو المواهب بن صَصْرى.

٣٥٣ _ محمد بن خالد بن بختيار(١).

أبو بكر الأَزَجيّ ابن الرّزّاز، الضّرير، المقرىء.

قال الدَّبيثيّ: شيخ فاضل، عارف بالقراءآت والأدب.

قرأ على: أبي عبدالله البارع، وسِبْط الخيّاط، ودعوان بن عليّ.

وسمع منهم. وأقرأ النّاس مدّة، وتخرّج به جماعة في النُّحُو. وكان ثقة عارفاً بوجوه القراءآت. أمّ مدَّة بمسجد دعوان بباب الأزَج.

وتُونِّي في المحرَّم رحمه الله.

٢٥٤ _ محمد بن سعيد بن عُبَيْدالله(٢).

أبو المظفِّر المؤدّب. شيخ بغداديّ، مليح الخطّ.

علَّم خلَّقاً.

قال الدَّبِيثيّ: هو مؤدّبنا. وكان شيخنا ابن ناصر يقول: هو علّمني الخطّ.

حدَّث عن: أبي بكر محمد بن عبد الباقي الأنصاري، وأبي منصور بن الجواليقي، وجماعة.

وتُوُفّي في ربيع الآخر.

٣٥٥ _ محمد بن عبد الكريم بن الفضل^(٣).

أنظر عن (محمد بن خالد) في: تاريخ ابن الدبيثي ١/٣٦٣، وإنباه الرواة ٣٢٣/،
والمختصر المحتاج إليه ٤٦/١، ومعرفة القراء الكبار ٢/٢٥٥ رقم ٥٠٢، وتلخيص ابن
 مكتوم (مخطوط) ورقة ٢٠٨، وغاية النهاية ٢/١٣٦.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن سعيد) في: المختصر المحتاج إليه ج١.

⁽٣) أنظر عن (محمد بن عبد الكريم) في: عيون الأنباء ١٩٠/٢، وتاريخ إربل ٨٢/١، والتدوين في أخبار قزوين ٨٢/١ - ٤٢١، وذيل تاريخ مدينة السلام بغداد لابن اللهبيثي ٢/ ٦٤ رقم ٢٧٢، وسير أعلام النبلاء ٧١/١٠ رقم ٤٤، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ٢/ ١٣١ _ ١٣٣، وطبقات الشافعية للإسنوي ١/ ٥٧٠، والوافي بالوفيات ٣/ ٢٨٠، ٢٨١ رقم ١٣٢٢، وقاريخ الخلفاء ٤٥٠، وطبقات الشافعية لابن هداية الله ٨٠.

أبو الفضل القَزْوِينيّ، الرافعيّ، الفقيه الشّافعيّ، والد صاحب «الشّرح» تفقّه ببلده على مَلْكَدَاذ بن عليّ العمركيّ، وأبي عليّ بن شافعيّ، وأبي سليمان الزُّبَيْريّ. وسمع منهم.

ثمّ قدِم بغداد، وتفقّه على أبي منصور بن الرَّزاز بالنّظاميّة، وسمع منه. ومن: سعد الخير، ومحمد بن طِراد الزَّيْنبيّ، وغيرهم.

ثم رحل إلى محمد بن يحيى فقيه نَيْسابور فتفقّه عنده، وبرع في المذهب.

وسمع من: عبدالله بن الفُرَاوي، وعبد الخالق بن الشّحّاميّ. ثمّ عاد إلى وطنه، ودرّس الفقه وروى الحديث^(١).

أُخذ عنه: ابنه الإمام أبو الفضائل، وغيره.

وتُوُفّي في رمضان وهو في عَشْر السّبعين (٢).

٣٥٦ ـ محمد بن أبي بكر محمد بن عبد الرحمن (٣).

أبو عبدالرحمن المَرْوَزيّ، الكُشْمِيْهَنيّ، الصُّوفيّ.

قدِم دمشق سنة ثمانِ وخمسين، وحدَّث بها عن: محمد بن عليّ لكراعيّ.

روی عنه: أبو القاسم بن صُصْری، وغير واحد.

⁽۱) طوّل ابنه ترجمته في (التدوين) وقال فيها إنه سافر إلى الري سنة ٥٣٥، وإلى بغداد ٥٣٦، وحجّ سنة ٥٣٨، وعقد المجلس في التاجية سنة ٥٤٧ هـ. ودخل نيسابور في تلك السنة، وسمع بطوس، وآمل، وعاد إلى قزوين سنة ٥٤٩ هـ. وذكر أسماء شيوخه، ثم تلاميذه، ومصنفاته: «التحصيل في تفسير التنزيل»، وهو كتاب كبير يشتمل على ثلاثين مجلّدة، و«الحديث الحاوي الأصول من أخبار الرسول» هم، وقتحفة الغزاة ونزهة الهداة»، وقضائل الشهور الثلاثة»، وغيره.

لم يحدد ابنه تاريخ ولادته نقال: كانت ولادته رحمه الله سنة ثلاث عشرة أو أربع عشرة وخمسمائة. (التدوين ٢٩٢١).

 ⁽٣) أنظر عن (محمد بن أبي بكر محمد) في: المختصر المحتاج إليه ١٢٠/١، ١٢١، ا١٢١، والعسجد المسبوك ١٩٠/٢ (في وفيات سنة ٥٧٩ هـ.)، والوافي بالوفيات ١٩٥/١، ١٦٦، رقم ٩٦.

ومات سنة ٥٨٠.

٣٥٧ ـ المبارك بن محمد بن يحيى^(١).

أبو بكر ابن الواعظ الزّبيديّ.

قدِم مع أبيه بغداد وسكنها، وتكلُّم في الوعظ.

وسمّع ابنيه الحسن والحسين من أبي الوقت.

وحدَّث عن: أبي غالب بن البنَّاء، وغيره.

أخذ عنه: محمد بن أحمد بن صالح الجيليّ، وابن الدَّبيثيّ، وغيرهما. وتُوُفّى فى جُمادى اَلآخرة، وله ٨٦ سنةً.

٣٥٨ ـ محمود بن أبي القاسم بن عمر بن حَمَّكَا(٢).

أبو الوفاء سِبْط محمد بن أحمد البغداديّ، الإصبهانيّ.

شيخ معمّر، مُسْنِد، ثقة. حمل النّاس عنه، وطال عمره. وتفرّد في

عصره.

وكانت له إجازة من النّقيب طِراد الزّينبيّ، وابن طلْحة النّعاليّ.

وسمع: أبا الفتح أحمد بن عبدالله السُّوذَرْجانيّ.

وحدَّث ببغداد في سنة ستِّ وخمسين وخمسمائة.

وتُونِّني سنة ثمانين هذه في ربيع الآخر وله إحدى وتسعون سنة.

روى عنه: محمد بن محمد بن محمد بن واقا، وأبو الفُتُوح بن المُصرى، والحافظ عبد الغني.

وهو ابن أخت الحافظ أبي سعد البغداديّ.

_ حرف الهاء _

 $^{(7)}$ هبة الله بن أبي نصر محمد بن هبة الله بن محمد بن البخاري $^{(7)}$.

⁽١) أنظر عن (المبارك بن محمد) في: المختصر المحتاج إليه ٣/ ١٧٥ رقم ١١٤٩.

⁽٢) أنظر عن (محمود بن أبي القاسم) في: المعين في طبقات المخدثين ١٧٨ رتم ١٨٩٣. والمختصر المحتاج إليه ١٨٦٣، وسير أعلام النبلاء ٢١/ ٨٩، ٩٠ رقم ٣٦.

⁽٣) ﴿ أَنْظُرَ مَنْ (هَبَّةَ اللهُ بَنْ أَبِّي نَصِر) في: المُخْلِصِرُ المُحتاجِ إليه ٢٢٧/٣ رقم ١٢٩٥، وطبقات=

أبو المظفَّر، ابن عمّ قاضي القُضاة أبي طالب.

تفقّه على مذهب الشّافعيّ، وبرع في علم الكلام. وولاه أمير المؤمنين النّاصر نيابة الوزارة إلى أن مات في المحرّم. بقي فيها بعض سنة.

_ حرف الواو _

٣٦٠ ـ وشاح بن جواد بن أحمد (١). أبو طاهر البغدادي، الضّرير. سمع: أبا طالب عبد القادر بن يوسف. أخذ عنه: أبو محمد بن الأخضر، وغيره. تُوُفّى فى شعبان.

_ حرف الياء _

٣٦١ ـ يوسف بن عبد المؤمن بن علي (٢). السلطان أبو يعقوب صاحب المغرب.

لمّا مات عبد المؤمن في سنة ثمانٍ وخمسين كان قد جعل الأمرَ بعده

⁼ الشافعية الكبرى للسبكي ٤/ ٣٨١.

⁽١) أنظر عن (وشاح بن جواد) في: المختصر المحتاج إليه ٢١٩/٣ رقم ١٣٧٦، ونكت الهميان للصفدي ٢٠٦٠.

⁽۲) أنظر عن (يوسف بن عبد المؤمن) في: الكامل في التاريخ ٢١/٥٠٥، والمحلية السيراء لابن الأبار ٢/٠٤٠، ٢٤١، ٢٥٩، ٢٦١، والمعجب في تلخيص أخبار المغرب ٢٣٦ - ٢٦٠، والروض المعطار ٢٠٠، ١٦٧، ١٦٧، ٢٦٦، ٣١٩، ٣٤٦، ٤٧٤، ٥٦٨، ٥٦٣ والمختصر في أخبار البشر ٣/٢، والإحاطة ٤/٣٥٤، ٣٥٦، ومرآة الزمان ٨/٤٧٤، ٥٧٥ (سنة ٩١، ٢٠٠، واللر المطلوب ٤٤ (سنة ٨٥٥ هـ.)، ومرآة الزمان ٨/٤٧٤، ٥٧٥ (سنة ٨٥٥ هـ.)، والعبر ٤/٣٦ ـ ٢٤١، ودول الإسلام ٢/١٩، والإعلام بوفيات الأعلام ٩٣١، وسير أعلام النبلاء ٢/٨٩ ـ ٣٠٠ رقم ٤٦، ووفيات الأعيان ١٣٠٠ ـ ١٣٨ رقم ٥٨، ومرآة الجنان ٣/١٤، ١١٨، ١١٠، وتاريخ ابن الوردي ٢/٣٩، والعسجد المسبوك ٥٨، ومرآة الجنان ٣/١٤، ١١٥، والنبوم الزاهرة ٢/١٥، ومثمار الحقائق ٢٢، ١٩٠، والسلوك ج ١/٢٨، (سنة ٥٠٩ هـ.)، والنبوم الزاهرة ٢/٣، ومضمار الحقائق ٣٣، والسلوك ج ١/٢٨، (سنة ٥٠٩ هـ.)، والنبوم الزاهرة ٢/٣، ومضمار الحقائق ٣٣،

لابنه الأكبر محمد، وكان لا يصلُح للمُلْك لإدمانه الخمور وكثرة طَيْشه.

وقيل: كان به أيضاً جُذام. فاضطّرب أمره، وخلعه الموحّدون بعد شهر ونصف. ودار الأمر بين أخويه يوسف وعمر، فامتنع عمر وبايع أخاه مختاراً، وسلَّم إليه الأمر، فبايعه النّاس، واتّفقت عليه الكلمة بسعي أخيه عمر، وأمّهما هي زينب بنت موسى الضّرير.

وكان أبو يعقوب أبيض بحُمرة، أسود الشَّعْر، مستدير الوجه، أَفْوَه، أَعْيَن، إلى الطُّول ما هو، حُلُو الكلام، في صوته جهارة، وفي عبارته فصاحة. حُلُو المفاكهة، له معرفة تامّة باللَّغة والأخبار. قد صَرَفَ عنايته إلى ذلك لمّا ولي لأبيه إشبيلية، وأخذ عن علمائها، وبرع في أشياء من القرآن والحديث والأدب.

قال عبد الواحد بن عليّ التميميّ في كتاب «المُعْجِب»: صحَّ عندي أنّه كان يحفظ أحد الصّحيحين، غالب ظنّي أنه البخاريّ. وكان سديد الملوكيّة، بعيد الهمّة، سخيّاً، جواداً، استغنى النّاس في أيّامه، وتموّلوا.

قال: ثمّ إنّه نظر في الفلسفة والطّبّ، وحفظ أكثر الكتاب الملكيّ. وأمر بجمع كُتُب الفلاسفة، فأكثر منها وتطلّبها من الأقطار. وكان ممّن صحبه أبو بكر محمد بن طُفَيْل الفيلسوف، وكان بارعاً في علم الأوائل، أديباً، شاعراً، بليغاً، فكان أبو يعقوب شديد الحبّ له. بلغني أنّه كان يقيم عنده في القصر أياماً ليلاً ونهاراً، وكان هو الذي نبّه على قدر الحكيم أبي الوليد محمد بن أحمد بن محمد بن رُشد المتفلسف.

وسمعت أبا بكر بن يحيى القُرطُبيّ الفقيه يقول: سمعت الحكيم أبا الوليد يقول: لمّا دخلت على أمير المؤمنين أبي يعقوب وجدته هو وأبو بكر بن طُفَيْل فقط، فأخذ أبو بكر يُثني عليّ ويُطْريني، فكان أوّل ما فاتحني به أمير المؤمنين أن قال لي: ما رأيهم، يعني الفلاسفة، في السّماء، أقديمة أمْ حادثة؟ فأدركني الخوف فتعلّلت وأنكرت اشتغالي بعلم الفلسفة، ففهم منّي

الرَّوْع، فالتفت إلى ابن طُفَيل وجعل يتكلَّم على المسألة، ويذكر قول أرسطو فيها، ويُورد احتجاجَ أهل الإسلام على الفلاسفة، فرأيت منه غزارة حِفْظ لم أظنَّها في أحدٍ من المشتغلين. ولم يزل يبسطني حتى تكلَّمت، فعرف ما عندي من ذلك. فلمّا قمت أمر لي بخِلْعةٍ ودابّةٍ ومال.

وقد وَزَرَ لأبي يعقوب أخوه عمر أيّاماً، ثمّ رفع قدره عنها، وولّى أبا العلاء إدريس بن جامع إلى أن قبض عليه سنة سبّع وسبعين، وأخذ أمواله، واستوزر وليّ عهده ولده يعقوب.

وكتب له أبو محمد عيّاش بن عبد الملك بن عيّاش كاتب أبيه، وأبو القاسم العالميّ، وأبو الفضل جعفر بن أحمد بن محشوه البِجّائيّ. وكان على ديوان جيشه أبو عبد الرحمن الطُّوسيّ. وكان حاجبه مولاه كافور الخَصِيّ. وكان له من الولد ستّة عشر ذَكراً مِنهم صديقي يحيى.

قال: ومنه تلقَّبت أكثر أخبارهم. ولم أر في الملوك ولا في السُّوقة مثله.

قال: وقُضاته: أبو محمد المالقيّ، ثمّ عيسى بن عمران التّاريّ، وتارا من أعمال فاس. ثمّ الحَجّاج بن إبراهيم التُّجِيبيّ الأَغْماتيّ الزّاهد، فاستعفى، فولي بعده أبو جعفر أحمد بن مضاء القُرْطُبيّ.

وفي سنة اثنتين وستين وخمسمائة نزعت قبيلة غمارة الطّاعة، وكان رأسهم سبُع بن حَيّان ومزردع فدعوا إلى الفتنة. واجتمع لهم خلّق.

وبلاد غمارة طولاً وعرضاً مسيرة اثنتي عشرة مرحلة، فخرج أبو يعقوب بجيوشه، فأسلمت الرجلين جموعهما فأسرا، وشرّدهما إلى قُرطُبة.

ودخل الأندلس، والتفت على ما بيد محمد بن سعد بن مردنيش، فنزل إشبيلية، وجهّز العساكر إلى محمد، وأمّر عليهم أخاه أمير غَرْناطة عثمان. فخرج محمد في جموع أكثرها من الفرنج. وكانوا أجناده، قد اتّخذهم أنصاره لمّا أحسّ باختلاف قوّاده عليه، فقتل أكثرهم، وأمّر الفرنج وأقطعهم. وأخرج

الكثير من أهل مُرْسِية وأسكن الفِرنج دُورَهم. فالتقى هو والموحدون على فرسخ من مُرْسِية، فانكسر وانهزم جيشه، وقتِل منهم جملة. ودخل مُرْسِية مستعدّاً للحصار، فضايقه الموحدون، وما زالوا محاصرين له إلى أن مات، فسُتِرت وفاتُه إلى أن ورد أخوه يوسف بن سعد من بَلنسيّة، فاتّفق رأيه ورأي القُوّاد على أن يسلّموا إلى أبي يعقوب البلادَ. ففعلوا ذلك.

وقد قيل إنّ محمد بن سعد لمّا احتضر أشار على بنيه بتسليم البلاد.

وسار أبو يعقوب من إشبيلية قاصداً بلاد الأدفنش^(۱) لعنه الله تعالى. فنازل مدينة وبْزي، وهي مدينة عظيمة، فحاصرها أشهراً إلى أن اشتد الأمر وأرادوا تسليمها.

قال: فأخبرني جماعة أن أهل هذه المدينة لمّا برّح بهم العطش أرسلوا إلى أبي يعقوب يطلبون الأمان، فأبى، وأطمعه ما نُقِل إليه من شدّة عَطَشَهم وكثرة من يموت منهم فلمّا يئسوا^(٢) من عنده سُمِع لهم في اللّيل لَغَطُّ وضجيج، وذلك أنّهم اجتمعوا يدعون الله ويستسقون، فجاء مطرٌ عظيم كأفواه القرب ملأ صهاريجهم وتقوّوا، فرحل عنهم أبو يعقوب بعد أن هادنَ الأدفنش (٣) سَبْع سنين.

وأقام بإشبيلية سنتين ونصف، ورجع إلى مَرّاكُش في آخر سنة تسع وستّين وقد ملك الجزيرة بأسرها.

وفي سنة إحدى وسبعين خرج إلى السُّوس لتسكين خلافٍ وقع بين القبائل فسكَّنهم.

وفي سنة خمس وسبعين خرج إلى بلاد إفريقيّة حتّى أتى مدينة قَفْصة. وقد قام بها ابن الرّند، وتلقّب بالنّاصر لدين النبيّ عَلَيْكِ، فحاصره وأسره،

⁽١) في الأصل: «الادنش».

⁽٢) في الأصل: «يأسوا».

⁽٣) في الأصل: «الفنش».

وصالح ملك صَقلية وهادنه على أن يحمل إليه كلّ سنة مالاً، فأرسل إليه فيما بلغني ذخائر معدومة النظير، منها حجر ياقوت على قدر استدارة حافر الفَرس، فكلّلوا به المصحف، مع أحجار نفيسة. وهذا المصحف من مصاحف عثمان رضي الله عنه، من خزائن بني أُميّة، يحمله الموحّدون بين أيديهم أتى توجّهوا على ناقة عليها من الحُلِيّ والدّيباج ما يعدل أموالاً طائلة. وتحته وطاء من الدّيباج الأخضر، وعن يمينه وشماله لواءآن أخضران مذهبان لطيفان. وخلف النّاقة بغلٌ مُحَلَّى عليه مصحف آخر. قيل إنّه بخط ابن تُومَرْت. هذا كلّه بين يدي أمير المؤمنين.

قال: وبلغني من سخاء أبي يعقوب أنّه أعطى هلال بن محمد بن سعد المذكور أبوه في يوم إثني عشر ألف دينار وقرّبه، وبالغ في رفْع منزلته.

وقال الحافظ أبو بكر بن الجِدّ: كنّا عند أمير المؤمنين أبي يعقوب، فسألّنا عن سِحْر النّبيّ ﷺ كم بقي مسحوراً؟ فبقي كلّ إنسانٍ منّا يتزمزم، فقال: بقى به شهراً كاملًا. صحّ ذلك.

وكان أمير المؤمنين إماماً يتكلَّم في مذاهب الفقهاء فيقول: قول فلانٍ صواب، ودليله من الكتاب والسُّنَّة كذا كذا، فنتابعه على ذلك.

قال عبد الواحد: ولمّا تجهّز لحرب الروم أمر العلماء أن يجمعوا أحاديث في الجهاد تُمْلى على الموحّدين ليدرسوا، ثمّ كان هو يُملي بنفسه عليهم، فكان كلّ كبير من الموحّدين يجيء بلوح ويكتب.

وكان يُسهل عليه بذل الأموال سعة ما يتجصَّل من الخراج. كان يرتفع إليه من إفريقيَّة في كلّ سنة مائةٌ وخمسون، حمَّل بغُل، هذا سوى حمَّل بِجَاية وأعمالها، وتلمِسان وأعمالها. وكانت أيّامه مواسم وخصَّباً وأمْناً.

وفي سنة تسع وسبعين تجهّز للغزو واستنفر أهل السهل والجبل والعرب، فعبر بهم الأندلس فنزل إشبيلية، ثمّ قصد مدينة شَنْتَرِين أعادها إلى المسلمين، وهي بغرب الأندلس. أخذها ابن الربق لعنه الله، فنازلها أبو

يعقوب وضايقها، وقطّع أشجارها، وحاصرها مدّة. ثمّ خاف المسلمون البرد وزيادة النّهر، فأشاروا على أبي يعقوب بالرجوع فوافقهم.

وقال: غداً فرحل. فكان أوّل من قوّض خباء أبو الحسن عليّ بن القاضي عبدالله المالقيّ، وكان خطيبهم. فلمّا رآه النّاس قوّضوا أخبيتهم ثقةً به لمكانه، فعبر تلك العشيّة أكثرُ العسكر النّهرَ، وتقدّموا خوف الزّحام، وبات النّاس يعبرون اللّيل كلّه، وأبو يعقوب لا عِلْم له بذلك. فلمّا رأى الروم عبور العساكر، وأخبرهم عيونهم بالأمر، انتهزوا القُرصة وخرجوا وحملوا على النّاس، فانهزموا أمامهم حتى بلغوا إلى مخيّم أبي يعقوب، فقُتِل على باب المخيّم خلّقٌ من أعيان الجُند، وخلص إلى أمير المؤمنين، فطُعِن تحت سُرّته طعنة مات منها بعد أيّام يسيرة. وتدارك النّاس، فانهزم الروم إلى البلد، وقد قضوا ما قضوا، وعَبر الموحدون بأبي يعقوب جريحاً في مِحقّة، وتهدّد ابن المالقيّ فهرب بنفسه حتى دخل مدينة شَنتَرين، فأكرمه ابن الربق. وبقي عنده إلى أن تهيّا له أمر، فكتب إلى الموحّدين يستعطفهم ويتقرّب إليهم بضعف البلد، ويدلّهم على عورته. وقال لابن الربق: إنّي أريد أن أكتب إلى عيالي بإكرام الملك لي. فأذن له، فعثر على كتابه فأحضره وقال: ما حملك على هذا مع إكرامي لك؟ فقال: إنّ ذلك لا يمنعني من النّصح لأهل ديني. فأحرقه.

ولم يسيروا بأبي يعقوب إلاّ ليلتين أو ثلاثاً حتّى مات.

وأخبرني من كان معهم أنّه سمع في العسكر النّداء الصّلاة على جنازة رجل، فصلّى النّاس قاطبة لا يعرفون على مَن صلّوا. وصبّروه وبعثوا به في تابوت مع كافور الحاجب إلى تيتمّلل، فدُفن هناك مع أبيه وابن تومرت.

مات في سابع رجب، وأخذ البيعة لابنه يعقوب عند موته، فبايعوه.

* * *

وفيها وُلد:

التّقيّ عبد الرحمن بن مُرْهَف النّاشريّ، المقرىء، وقاضي حماه أبو طاهر إبراهيم بن هبة الله بن البازريّ الجُهَنيّ في شعبان.

وفاطمة بنت محمود ابن الملثّم العادليّ، سمعت من البُوصِيريّ.

وفيها وُلِد: عبد الحميد بن رضوان المصريّ.

وأبو القاسم محمد بن عبد المنعم، روى عن ابن طَبَرُزُد.

وأبو بكر محمد بن زكريًا بن رحمة.

المتوفون على التخمين

_ حرف الألف _

٣٦٢ ـ إبراهيم بن محمد^(١).

اللَّخْمَيِّ السَّبْتَيِّ، المعروف بابن المتقن.

روى عن: أبي محمد بن عتّاب، وأبي بحر الأَسَديّ.

وحجّ، وسمع من السِّلَفيّ.

قال الأَبَّار: تُوُفِّي بعد السّبعين وخمسمائة.

٣٦٣ _ إسحاق بن هبة الله.

أبو طاهر الخراقي، المقرىء.

قدِم دمشق سنة اثنتين وسبعين،

وحدَّث عن: عليّ بن الصّبّاغ.

روى عنه: أبو القاسم بن صَصْرى، وغيره.

٣٦٤ ـ إسماعيل بن غانم بن خالد(٢).

أبو رشيد الإصبهاني، البيّع.

سمع: أبا الفتح أحمد بن عبدالله السّوذَرْجانيّ، وأحمد بن محمد بن أحمد بن موسى بن مردوَيْه، وجماعة.

وعمّر دهراً.

⁽١) أنظر عن (إبراهيم بن محمد) في: تكملة الصلة لابن الأبارج ١.

⁽٢) أنظر عن (إسماعيل بن غانم) في: المعين في طبقات المحدّثين ١٧٨ رقم ١٨٩٤.

روى عنه: الحافظ عبد الغنيّ، ومحمد بن سعيد بن أبي أحمد الأسواريّ، ومحمد بن النّجيب أحمد بن نصر الإصبهانيّ، وآخرون.

وبقي إلى سنة خمسٍ وسبعين. وهو من كبار الشّيوخ الّذين لحقهم عبد الغنيّ بإصبهان.

٣٦٥ ـ إسماعيل بن يونس بن سلمان. القُرَشيّ، الدَّمشقيّ المعروف بابن الأفطس. سمع: هبة الله بن الأكفائي، وعليّ بن أحمد بن قُبيّس. وأجاز للضّاء محمد.

ـ حرف الحاء ـ

٣٦٦ ـ حبيب بن إبراهيم بن عبدالله. أبو رشيد الإصبهاني، المقرىء. سمع: محمود بن إسماعيل الصَّيْرفي، وغيره. وعنه: الحافظ عبد الغني، وغيره. وأجاز للحافظ الضّياء فيما أظنّ.

ـ حرف الزاي ـ

٣٦٧ ـ زاهر بن إسماعيل بن أبي القاسم. الهَمَذَانيّ.

أجاز للضّياء في سنة أربع وسبعين. وأدركه الحافظ عبد الغنيّ.

_ حرف السين _

٣٦٨ ـ سالم بن عبد السّلام بن علوان^(١).

⁽۱) أنظر عن (سالم بن عبد السلام) في: المختصر المحتاج إليه ۹۹/۲ رقم ۷۱۱، وتلخيص مجمع الآداب (في الملقبين بـ«قوام الدين»)، والوافي بالوفيات ۸۳/۱۵ رقم ۱۰۹، وطبقات الشافعية الكبرى للسبكي ۲۲۰/٤.

أبو المُرَجَّى البوازيجيِّ (١)، الصُّوفيِّ. صحِب أبا النَّجيب السَّهروَرُديِّ ولازَمَه. وسمع معه من: زاهر الشَّحّاميِّ، وغيره.

وعنه: يوسف بن محمد الواعظ، وعمر بن محمد المقريء، وشهاب الدين السهروردي، وغيرهم.

وتُوُفِّي قبل الثّمانين وخمسمائة. قاله ابن الدَّبيثيّ.

٣٦٩ _ سلامة الصّيّاد(٢).

المَنْبِجِيّ، الزّاهد، رفيق الشّيخ عدِيّ.

قال الحافظ عبد القادر الرُّهَاويّ، وكانا جميعاً من تلاميد الشَّيخ عقيل: المَنْبِجِيّ الزَّاهد، ساح ولقي المشايخ، ورأى منهم الكرامات، وأقام بالمَوْصِل مدّةً في زمن بني الشّهرزُورِيّ حين كان لا يقدر أحدٌ أن يتظاهر بالحنبليّة ولا السُّنّة. فأقام يُظهر السُّنّة ويُحاجّ عنها. ثمّ رجع إلى مَنْبِج، فأقام بها إلى أن مات.

وكان يتعيَّش في المقاثي وعمل الحُصْر، وينفق من ذلك. دخلتُ عليه بمَنْبِج في داره وهو جالس على حصير يعمله، فترك العمل، وأقبل عليّ يحادثني، فرأيت منه وقاراً وعدْلاً وحِفْظ لسان، وتعرّياً من الدّعاوَى.

أهلاً وسهلاً بطيف مرتحل وصار يهدي فمي إلى فمه ما لي أنيس سوى مطوقة تونسني في الدُّجي ويُدونسها تنشدنسي سجعها وأنشدها ما قال لا قط في محاورة

أنسني بالعناق والقبال ألماني من السلسين والقبال والعسل فارقها إلفها فلم يصل كسل كثيب الفائق مختبال مدح على بن جعفر بن على كساند على الخطل

(٢) أنظر عن (سلامة الصياد) في: الواني بالوفيات ١٥/ ٣٣١ رقم ٤٦٩.

⁽١) لقبه عند ابن الفوطي «قوام الدين»، وسماه: «سالم بن عبد السلام بن عبدان بن عبدون البوازيجي». وقال: أنشد:

وكان قد لزِم بيته، وترك الخروج إلى الجماعة لأنّ أهل مَنْبِج كانوا قد صاروا ينتحلون مذهب الأشعريّ، ويبغضون الحنابلة بسبب واعظ قدِم يُسَمَّى الدّماغ، فأقام بها مدّة، وحسَّن لهم ذلك. وكان البلد خالياً من أهل العلم، فشربت قلوبهم ذلك.

قال: وسمعت رجلًا يقول للشّيخ عسكر النَّصَيبيّ: أهل مَنْبِج قد صاروا يبغضون أهل حرّان من فيه خير.

وسمعت الشّيخ سلامة يقول، لمّا مضى الدّماغ إلى دمشق ومات، جاءنا الخبر فقاموا يُصلّون عليه، ولم أقم أنا، فقالوا لي: ما تصلّي عليه؟ فقلت: لا، قُعُودي أفضل. وقالوا لي: لِمَ لا تخرج إلى الجماعة؟ فقلت: جماعتكم صارت فِرقة.

وقال لي: عبر الشّيخ الزّاهد أبو بكر بن إسماعيل الحرّانيّ على مَنْبِج، ولم يدخل إليّ، وبعث يقول: إنّه لم يدخل إليّ لأجل أهل منبج. وأنا إيش ذنبي.

وكان الشّيخ أبو بكر يذكره كثيراً، وينوّه باسمه، ويحثّ على زيارته، وهو الّذي عرّفنا به.

سمعت الشّيخ سلامة يقول: كنت بالموصل في زمن بني الشّهرزوريّ أذكر السُّنَّة، وأُنكِر السَّماع.

سمعت رجلاً من أهل الموصل يقول: جئت إلى الجزيرة، فأخبرت أنّ الشّيخ هناك، فسألت عنه فوجدته في بعض المساجد، فجئت إليه، ثمّ خرجنا من هناك، فمشى بين يديّ، فنظرت فإذا هو سبقني، فقلت في نفسي من غير أن يسمع، كذا وكذا من أخت كذا.

فالتفت إليّ وقال: أيّ أخواتي فإنّهن جماعة؟ قلت: أيهنّ شئت. ۳۷۰ ـ سليمان بن محمد بن سليمان (۱) .

أبو الربيع الحضْرميّ، الإشبيليّ، المعروف بالمفوّقيّ. روى عن: أبي محمد بن عتّاب، وأبي بحر الأَسَديّ. وكان يعقد الشّروط.

وكان أبو بكر بن الجدّ يغضّ منه ويغص به.

روى عنه: ابن أخته محمد بن عليّ التُّجيبيّ.

قال الأَبَّار (٢): تُوُفِّي في حدود الثَّمانين.

٣٧١ ـ السَّمَوْأَل بن يحيى بن عَيَّاش (٣).

المغربي، ثمّ البغداديّ.

كان يهودياً فأسلم، وبرع في العلوم الرّياضيّة.

وكان يتوقد ذكاءً، وسكن بلاد العجم مدّةً بأذَرْبيْجان ونواحيها.

ومات قبل أن يكتهل بمَرَاغَة في هذا القُوب.

قال الموفّق عبد اللّطيف: أبلغ في العدديّات مبلغاً لم يصله أحدٌ في زمانه، وكان حاد اللّهن جدّاً؛ بلغ في العدديّات وصناعة الجبر الغاية القُصْوى. وله كتاب «المفيد الأوسط في الطّبّ»، وكتاب «إعجاز المهندسين» صنّفه في سنة سبعين وخمسمائة، وكتاب «الرّد على اليهود»، وكتاب «القوانين في الحساب».

⁽١) أنظر عن (سليمان بن محمد) في: تكملة الصلة لابن الأبّار، والليل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٧٨/٤ رقم ١٩٤.

⁽٢) في تكملة الصلة.

⁽٣) أنظر عن (السموأل بن يحيى) في: تاريخ الحكماء لقفطي ٢٠٩، والوافي بالوفيات ٥٢/١٥ من و (١٩٥٠) عنه و (٢٥٠) عنه و (٢٩٠) عنه و (٢٩٠) ١٩٤٠ و (٢٩٠) عنه الظنون ١٩٩١، ١٣١٧) ١٩٤٠، وإيضاح المكنون ١٩٩١، ١٩٥٠، ١٩٥٠ و (٢/٣٢٣) وراث العرب العلمي لطوقان ٣٣٣، ومعجم المؤلفين و٢/٣٢٠.

_ حرف الصاد_

٣٧٢ ـ صالح بن وجيه بن طاهر بن محمد. الشّحّاميّ. أجاز للشّيخ الضّياء مروياته.

ـ حرف العين ـ

٣٧٣ ـ عبّاس بن أبي الرجاء بن بدر. أبو الفضل الرّارانيّ (١٠). أجاز للضّياء من إصبهان. وهو أخو خليل. سمع من: الحّداد.

٣٧٤ ـ عبدالله بن عبد الواحد بن الحسن بن المفرّج. أبو محمد الكناني، الدّمشقي، المؤدّب.

إمام مسجد ابن لَبِيد بالفسقار.

سمع: أبا الحسن بن الموازيني، ومحمد بن عليّ بن محمد بن أبي العلاء المصّيصيّ.

قال أبو المواهب بن صَصْرى: وكانت له حلقة بالجامع يقرىء بها الصِّبيان، وكان شيخاً صالحاً.

وقال ابن خليل: وُلِد في رجب سنة اثنتين وتسعين وأربعمائة.

قلت: روى عنه: أبو القاسم بن صَصْرى، والبهاء عبد الرحمن، وجماعة.

وأجاز لجماعة.

وتُوُفّي سنة نيّفٍ وسبعين، وقد جاوز الثّمانين رحمه الله تعالى.

⁽۱) الراراني: راران بالراءين المفتوحتين المنقوطتين من تحتهما بنقطة واحدة قرية من قرى إصبهان. (الأنساب ٣٨/٦).

٣٧٥ ـ عبد الجبّار بن محمد بن عليّ بن أبي ذَرّ الصّالحانيّ (١).
 أبو سعيد الإصبهانيّ.

من كبار مُسْنِدي بلده.

سمع من: القاسم بن الفضل الإصبهاني، الثَّقفيّ.

وحدَّث سنة سبعين. وتُونِّني بعد ذلك بسنة أو نحوها.

روى عنه: محمد بن خليل الرّارانيّ، وعمر بن أبي بكر بن مسعود الإصبهانيّ. وبالإجازة كريمة.

٣٧٦ - عبد الرّزّاق بن إسماعيل بن محمد بن عثمان (٢).

أبو المحاسن الهَمَذَانيّ القُومَسَانيّ.

سمع: عبد الرحمن بن حَمْد الدُّونيّ، وناصر بن مَهْديّ الهَمَدَانيّ، وغيرهما.

روى عنه: الحافظ عبد الغنيّ.

وأجاز للحافظ الضّياء في سنَّة أربع وسبعين.

٣٧٧ ـ عبد الملك بن محمد بن عبد الملك^(٣).

أبو مروان الأنصاريّ، الإشبيليّ، الحماميّ.

سمع «تاريخ ابن أبي خَيْتُكمة» من: أبي الحسن بن مغيث.

وعنه: أبو القاسم الملاّحيّ، وأبو سليمان حوط الله.

مات قبل الثّمانين وخمسمائة.

٣٧٨ ـ عُبَيْدالله بن محمد التّميميّ.

أبو الحسين ابن اللَّحْيانيّ، الإشبيليّ، المقرىء.

أخذ القراءآت عن: شُرَيْح، وأحمد بن عيشون.

⁽١) أنظر عن (عبد الجبار بن محمد) في: المعين في طبقات المحدّثين ١٧٨ رقم ١٨٩٥.

⁽٢) أنظر عن (عبد الرزاق بن إسماعيل) في: المعين في طبقات المحدَّثين ١٧٨ رُقم ١٨٩٦.

 ⁽٣) أنظر عن (عبد الملك بن محمد) في: تكملة الصلة لابن الأبار، رقم ١٧٢٣، والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ج ٥ ق ١/٣٥ رقم ٨٦.

وتصدَّر للإقراء.

قرأ عليه: أبو القاسم بن أبي هارون.

وحدَّث عنه: مفرّج بن حسين الضّرير.

تُوُفّي في حدود الثّمانين.

٣٧٩ ـ عليّ بن بركات.

أبو الحسن المَشْغراني، ثمّ الدّمشقيّ، المقرىء.

تُوفِّي بعد السّبعين.

روى عن: نصر الله بن محمد المصّيصيّ.

روى عنه: أبو القاسم بن صُصْرى.

٣٨٠ ـ عليّ بن الحسين اللّوّاتيّ.

مرّ في سنة ثلاثٍ وسبعين(١).

٣٨١ ـ عليّ بن خَلَف بن غالب(٢).

أبو الحَسَنَ الأنصاريّ، الأندلسيّ. نزيل [قصر كُتامة](٣).

سمع من: أبي القاسم بن رضا، وأبي عبدالله بن مُعَمَّر، وأبي الحسن بن وليد بن مَفوّز.

وتعلُّم الفرائض والحساب وتصوّف. وصنَّف كتاب «اليقين».

رواه عنه: عبد الجليل بن موسى.

وقال أيوب بن عبدالله السّبتي: رحَلت إليه مرّات إلى قصر عبد الكريم وكان قد سكنه. وكان محدّثاً شاعراً (٤).

⁽۱) تقدم برقم (۸۰).

 ⁽۲) أنظر عن (علي بن خلف) في: صلة الصلة لابن الزبير ۹۹، وتكملة الصلة لابن الأبار،
 رقم ۱۸۷۰، والتشوف ۲۱۱ قم ۸۱، وسلوة الأنفاس ۲/۲۲، وجذوة الإقتباس ۲۹۷،
 والذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة ٥ //٢٠٨ ـ ۲۱۲ رقم ٤١٥.

⁽٣) إضافة من مصادر ترجمته.

⁽٤) وقال المراكشي: وكان عالماً أديباً شاعراً، ديّناً زاهداً متواضعاً، إذا رأيته وعظك بحاله وهو صامت مما غلب عليه من الحضور والمراقبة لله تعالى، قد جمع الله له محاسن جمّة =

٣٨٢ ـ عليّ بن محمد بن ناصر.

أبو الحسن الأنصاريّ، القُرطبيّ.

أخذ القراءآت عن: أبي عبدالله بن صائن، وعبد الجليل بن عبد العزيز. وروى عن: أبي القاسم بن بَقِيّ، وأبي جعفر البَطْرُوحيّ، وأبي القاسم بن رضا، وجماعة.

وكان مقرئاً، نحوياً.

روى عنه: أبو بكر محمد بن عليّ الشّريشيّ.

٣٨٣ ـ عليّ بن هبة الله.

الكامليّ، المصريّ.

سمع من: أبي صادق مرشد المَدِينيّ، وغيره.

روى عنه: الحافظ عبد الغنيّ، وعبد القادر، وابن رواحة، وعليّ بن رحّال، وعبد الرحيم بن الطُّفَيْل، ومحمد بن الملثّم، وآخرون.

٣٨٤ ـ عليّ بن أبي القاسم بن أبي حنون (١).

أبو الحسن التُّلْمِسانيّ، قاضي مَرّاكُش.

روى عن: أبي عبدالله الخَولانيّ، وأبي عليّ بن سُكَّرَة.

وعنه: أبو عبدالله بن عبد الحقّ التّلْمِسانيّ، وعقيل بن طلحة، وأبو الخطّاب ابن دحية.

قال الأَبَّار: كان حيًّا في حدود الثَّمانين.

من العلوم والمعارف والآداب، وخصوصاً علم الحقائق والرياضات وعلوم المعاملات والمقامات والمعاملات والمقامات والأحوال السنية والآداب الشّنيّة، وكان من المحدّثين قيّد في الحديث روايات كثيرة، ولقي من المشايخ الجلّة جملة، غير أنه كان يغلب عليه المراقبة لله والتلّمب للقائه وحسن الرعاية والإقبال على الدار الآخرة، وكان قد بلغ الثمانين سنة وهو في اجتهاده كما كان في بدايته، وكان شيخ وقته علماً وحالاً وورعاً، أشفق خلق الله على الناس، وأحسنهم ظناً بهم.

⁽١) أنظر عن (علي بن أبي القاسم) في: تكملة الصلة لابن الأبار.

_ حرف القاف _

٣٨٥ ـ القاسم بن عليّ بن صالح(١).

أبو محمد الأنصاري نزيل دانية.

أخد القراءآت عن: أبي العبّاس القصيبيّ، وأبي العبّاس بن العريف، وابن غلام الفَرَس فسمع منه «التّيسير» سنة سبْع وعشرين وخمسمائة.

وتصدَّر للإقراء بدانية.

أخذ عنه: أسامة بن سليمان، وغيره.

بقي إلى قريب الثّمانين وخمسمائة. نسيته وقت ترتيب الأسماء.

- حرف الميم -

٣٨٦ ـ محمد بن التّابكان (٢).

المَنْبَجِيّ الزّاهد.

قال الحافظ عبد القادر: كان رفيق الشّيخ عدِيّ والشّيخ سلامة، من تلاميذ الشيخ عقيل أوصى له بعد موته تلاميذ الشيخ عقيل. حدَّثني بعض الصُّوفيّة أنّ الشّيخ عقيل أوصى له بعد موته بالمجلوس في موضعه. دخلت عليه بمنبج غير مرّة فرأيت شيخاً وَقُوراً مَهيباً.

عاش عُمراً طويلاً في طريقةِ حَسَنة ومحمود ذِكر. وكان له جماعة تلاميد.

وكان حافظاً للقرآن يؤمّ بالنّاس. وكان له ملُّك يتعيّش منه رحمه الله.

قلت: كأنّ هذا بقي إلى قرب السّتمائة، فإنّ ابنه الفقيه أحمد بن محمد بن إبراهيم بن التّابلان المَنْبِجيّ سمع منه شيخنا الشّهاب الدّشْتيّ بمَنْبِج، وهو يروي عن التّاج الكِنْديّ.

⁽١) ذكره المؤلف ـ رحمه الله ـ في آخر المتوفين ظنّاً، وقد نسي ترتيبه ونوَّه بذلك في آخر الترجمة.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن التابلان) في: الوافي بالوفيات ٢/ ٢٧٤ رقم ٦٩٨.

٣٨٧ ـ محمد بن عبدالله بن محمد.

الغُرْناطيّ أبو عبدالله بن الغاسل.

سمع: أبا عبدالله النُّمَيْريّ وصحِبه زماناً.

ورحل معه فلقي أبا الحسن بن الباذَش.

وقرأ بالروايات على شُرَيْح.

وسمع أيضاً: أبا الحسن بن مغيث.

وأجاز له ابن عتّاب.

وكان مُقرِئاً، محدِّثاً، ضابطاً. تُوُفِّي سنة نيِّفٍ وسبعين.

٣٨٨ .. محمد بن عبد العزيز (١).

الفقيه أبو عبدالله الإربلي، الشّافعي.

قدِم بغداد، وتفقُّه بالنَّظامَيَّة، وبرع في المذهب. وولي إعادة النَّظاميَّة.

ومن شِعره، وكتبه عنه عبد السّلام بن يوسِف الدّمشقيّ:

رُوَيدك فالدِّنيا الدَّنيّة كم دَنَتْ لقد فاق في الآفاق كلِّ موفّقِ فَسَلُ جامعَ الأموالِ فيها بِحِرْصِهِ فَسَلُ جامعَ الأموالِ فيها بِحِرْصِهِ هي الآل فاحدَرها وذَرْها لأهلها وكسم أسَدِ سادَ البرايا ببره فأصبح فيها عبرةً لاولي النَّهي

بمكروهها من أهلها وصحابها أفاق بها من شكره وصحا بها أخلَفها من بعده أمْ سَرَى بها؟ فما الآل إلا لمعبة من سرابها ولو نابها خطب إذا ما دنى بها بمخلها قد مؤقته ونابها

قال ابن النّجّار: وبلغني أنّ أبا عبدالله الإربليّ سافر إلى الشّام ومات هناك في حدود سنة ثمانين وخمسمائة.

٣٨٩ ـ محمد بن عليّ بن عبدالله بن عليّ (٢).

⁽١) أنظر عن ِ (محمد بن عبد العزيز) في: الوافي بالوفيات ٣/ ٢٥٩، ٢٦٠ رقم ١٢٨٩.

⁽٢) أنظر عن (محمد بن علي) في: ذيل تاريخ مدينة السلام بغداد لابن الدبيثي ١٢٧/٢ رقم ٢٥٥، وذيل تاريخ بغداد لابن النجار (مخطوطة أحمد الثالث ١٤/٢٩١٧) الورقة ٨٠، =

أبو بكر البَتِمَّاريِّ (١)، النَّهْروانيِّ، المعروف بابن العُجَيْل. سمع: أحمد بن المظفّر بن سَوْسَن، وأبا سعيد بن خُشَيْش. سمع منه: عمر القُرَشيِّ، وغيره.

وأصابه صَمَمٌ.

وتُوُفّى بعد السّبعين. ذكره ابن النّجّار.

٣٩٠ ـ محمد بن كُشَيْلة.

الحرّانيّ، الزّاهد.

قال الرُّهاويّ: كان أحد مشايخ أهل حَرّان، زُهْداً، وورعاً واجتهاداً في أبواب الخير.

وكان متواضعاً، كريماً، حيّياً، لا يكاد يرفع رأسه من الحياء، صبوراً على الفَقْر موثراً.

وكان الشّيخ أبو بكر بن إسماعيل يذكره ويمدحه بكونه يعيش من كسّبه. ولمّا مرض أبو بكر خرج محمد إلى عيادته، فوصّى له بثُلث رحاه، واستخلفه في موضعه بالمشهد.

وسمعت بعض أصحابنا يقول: قال أصحاب أبي بكر لأبي بكر: من تأمرنا نجالس بعدك؟ فقال: عليكم بسيّد السّادات محمد.

ذكر الرَّهاويّ هؤلاء وغيرهم. وما أراه ذكر الشَّيخ حياءً، وسأذكره في سنة إحدى وثمانين إن شاء الله تعالى.

٣٩١ ـ محمود بن محمد.

أبو الثناء البغدادي.

⁼ والمختصر المحتاج إليه ١/ ٩٢.

⁽۱) البَيِّمَاري: بفتح الباء وكسر التاء المنقوطة باثنتين من فوقها، وتشديد الميم المفتوحة، وفي آخرها الراء، هذه النسبة إلى بتمّار وهي قرية من قرى النهروان ببغداد. (الأنساب ٢/ ٧٦).

حدَّث بالإسكندريّة عن: هبة الله بن الحُصَيّن، وأبي منصور القزّاز. روى عنه: عليّ بن المفضّل، وغيره.

٣٩٢ ـ المطهّر بن عبد الكريم بن محمد بن عثمان.

الهَمَذَانيّ القُومَسَانيّ.

روى عن: عبد الرحمن بن الدّونيّ، وناصر بن مَهْديّ.

وعنه: الحافظ أبو محمد المقدسيّ، وغيره.

وناصر المذكور هو ابن مهديّ بن نصر بن عليّ بن نصر بن عَبْدان أبو عليّ المشطّب الهَمَذَانيّ. بكّرَ به أبوه أبو الحسن المشطّب فأسمعه «سُنَن الحلوانيّ» من عليّ بن شُعيب بن عبدالوهّاب الهَمَذَانيّ.

وكان عليّ بن شُعيب مُسْنِد هَمَذَان في زمانه. روى عن أُوس الخطيب، وجبريل العدل، وأبي أحمد الغطريفيّ، وإسحاق بن سعد بن الحَسَن بن سُفيان، وطائفة.

روى عنه: عليّ بن الحسين، وابن ممان. وناصر هذا، وأحمد بن عمر البيّع.

وكان ثقة، صَدُوقاً، صالحاً.

قال الحافظ شيرُويَه: سمعت أبا بكر الأنصاريّ يقول: لمّا رجع الشيخ محمد بن عيسى، شيخ الصُّوفيّة، إلى هَمَذَان استقبله الخاصّ والعامّ، وكان عليّ بن شُعيب مع من استقبله، وكان راجلاً، رثّ الهيئة، فكان أبو منصور محمد بن عيسى لا ينزل لأحد، لا للأشراف ولا للوجوه، وإنّما يُصافحهم راكباً. فلمّا رأى عليّ بن شُعيب نزل عن دابّته وعانقه، ومشى معه ساعة حتى سأله أن يركب فركب.

قلت: كان ابن شُعيب باقياً بعد الثّلاثين وأربعمائة.

الكني

٣٩٣ ـ أبو بكر بن إسماعيل الحرّانيّ. الزّاهد.

ذكره الحافظ فقال: كان من مفاريد الزّمان. اجتمعت فيه من خِلال الخير أشياء لو سُطِرت كانت سيرة. كان زاهداً، ورعاً، مجاهداً، مجتهداً، متواضعاً، ذا عزائم خالصة، بصيراً بآفات أعمال الآخرة وعيوب الدّنيا، ذا تجارب.

ساح وخالط، وكان لا تأخذه في الله لومة لائم، منقاداً للحق، مُحِبّاً للخمول، عارياً من تزيّ أهل الدّين. ظاهراً لا يستوطن المواضع. كان تارة يكون مُعَمّماً، وتارة بغير عمامة، وتارة محلوقاً وتارة بشعر. إذا وقف بين جماعة لا يعرفه الغريب، ولم يكن له في المسجد موضع يُعرف به.

وكان إذا قال له أحد: أريد أن أتوب على يدك. يقول: إيش تعمل بيدي، تُبُ إلى الله.

وكان شجاعاً. وهو الذي جَرّى المسلمين على محاصرة الرُّها في سنة تسع وثلاثين وخمسمائة، واشتهر بين النّاس أنّهم يوم وقعة الثلّمة الّتي بالرُّها دخل منها المسلمون رأوا رجلاً قد صعِد فيها، فهزم من كان بها من الإفرنج، وصعِد النّاس بعده، فحكى لي بعض النّاس أنّه الشّيخ أبو بكر رضي الله عنه.

وبلغني أنّ ناساً اختلفوا فيه، فحلف بعضهم أنّه الشّيخ عديّ بن صخْر، فاختلفوا إليه في ذلك، فقال: ذاك الحرّانيّ. سمعته يقول: كان أبي قد أسره الفرنج إلى الرُّها، فقادوه، وأخذوني وأخي رهينةً، يعني وهما صغيران؛ فكان صاحب البلد يأخذني ويجيء بي عند الصّليب، ويجعل يُحني رأسي نحوه، فأمتنع عليه مع هيبته، ويقع في نفسي أنّي إنْ فعلت صرت نصرانيّاً.

وكان يأخذ أخي فيجيء به إلى الصّليب، فيسجد له، فأتعلَّق به وأمنعه. ثمّ إنّه خلّص من أيدي الفِرنج، فسمعته يقول: كنت أمرّ إلى الرّها في اللّيل فأصعد إلى السّور، وأنزل إلى البلد، فإذا عرفوا بي صعدت إلى السّور، فإذا صرت على السّور ومعي سيفي وترسي لم أبال بأحدٍ. وصعدت مرّةً إلى السّور، فلقيت اثنين، قتلت الواحد ودخل الآخر إلى البُرج، فدخلت خلفه فقتلته.

سمعته غير مرّةٍ يقول: رأيت قائلًا يقول لي: كن تَبَعاً إلاّ في ثلاثة: في الزّهد، والورع، والجهاد.

وحج نحوفاً من ثلاثين حَجّة ماشياً. وبلغني عنه أنّه حجّ في بعضها، ولم ينم في تلك المدّة حتّى خرج من الحجّ. ثمّ إنّه ترك الحجّ، وسكن مشهداً قريباً من حَرّان، واشتغل بعمارة رحى هناك. ورتّب الضّيافة لكلّ وارد خبزاً ولحماً وشهوات.

وكان سبب ذلك كما حكى لي قال: كنت أنا وآخر في الشّام، فجعنا جوعاً شديداً، ثمّ جثنا إلى قرية، فصنع لنا إنسان طعاماً وقدّمه إلينا، فجعلنا نأكل وهو حارّ، فلمّا رأى شَرَهَنَا في الأكل مع حرارته قال: أَرْفِقُوا فهو لكم. فأعتقد أنّه لو كان لذلك الرجل ذنوب مثل الجبال لغُفِرت لِما صادف من إشباع جوعنا. فرأيت أنّ حجّي ليس فيه منفعة لغيري، وأنّي لو عملت موضعاً يستظل به إنسان كان أفضل من حجّي.

وكان مع ذلك يكره كثرة العلائق ويقول: لو قيل لي في المنام أنّك تصير إلى هذا المال ما صَدَّقت.

وبنى عند المشهد خاناً للسّبيل، وكان يعمل عامّة نهاره في الحَرّ والغُبار، ويقول: لو أن لي من يعمل معي في اللّيل لعملت.

وعمل لنفسه رحًى، وكان يتقوَّت منه باليسير، ويُخرج الباقي في البرّ.

دخلت عليه في بيته مِراراً وهو يتعشّى، فما رأيته جالساً في سِراج قطّ، ولا كان تحته حصير جيّد قطّ ولا فِراش، بل حصير عتيق، تحته قش الرّزّ.

وحضرت يوماً معه في مكان، فلمّا حضر وقت الغداء جلسنا نتغدّى، وأخرج رغيفاً كان معه، فأكل نصفه، وناولني باقيه، وقال: ما بقي يصلح لي، آكل شيئاً ولا أعمل شيئاً.

وقال لي: وددت أنّي لآتي مكاناً لا أخرج منه حتّى أموت.

وقد سمعته يقول، وذكر لي إنسان أنّ بعض الرؤساء عرض عليه ملكاً يقفه عليه، فقال له أبو بكر: وإيش تعمل به لو لم يكن في مالهم شُبهة إلاّ الجاه لكفى.

سمعت فتيان بن نيّاح الحرّانيّ، وكان عالِم أهل حَرّان وقد جرى بيننا ذِكر الكرامات فقال: أنا لا أحكي عن الأموات ولكن عن الأحياء. هذا أبو بكر بن إسماعيل حجّ في بعض السّنين، فلّما قرُب مجيء الحاجّ جاء الخبر أنّ أبا بكر قد مات. فجلست محزوناً فجاءتني والدته وأنا في مكاني هذا، فسلّمَتْ، فرددْتُ عليها متحزّناً.

فقالت^(۱): إيش هو؟

فقلت: هو الّذي يُحكى.

فقالت: ما هو صحيح.

قلت: من أين لكِ؟

قالت هو قال لي قبل أن يخرج إنّه سَيَبُلُغُكِ أنّي قد متّ، فلا تصدّقي، فإنّي لا بدّ أجيء وأتزوّج، وأرزقُ إبنا وأموت.

قال: فأوّل من جاء هو، وتزوّج ورُزق إبناً، ومات.

هذا مع كراهيته إظهار الكرامات والدّعاوَى.

وكان عاقلاً فِطناً، يتكلّم بالحكمة في أمر الدّين.

حدَّثني مَن حضر موته قال: كنّا أنا وفلان وفلان، فتوضَّا ثمّ صار يسأل عن وقت الظُّهر، فقال بعضنا: جرت عادة النّاس يأخذون من آثار مشايخهم للتّبَرُّك. فقال: إن قبِلتم منّي لا تريدون شيئاً من الدّنيا.

قال: فبينما أنا جالس أغفيت، فرأيت كأنّ البيت الّذي نحن فيه يخرج منه مثل ألسُن الشَّمع، يعني النّور. ورأيت كأنّ شيخاً جاء إلى عند الشّيخ أبي بكر، فقلت: من هذا؟ فقيل: هذا الشّيخ حمّد.

⁽١) ني الأصل: «فقال».

فانتبهت فجعلت أسأل الجماعة عن الشّيخ حمَّد، ففطن لي الشّيخ فقال: إيش تقول؟ فقصصت عليه الرُّؤيا، فقال: نعم هذا الشّيخ حمَّد بن سُرور قد جاء إلينا. وكان الشّيخ حمَّد من مشايخ حَرَّان.

قال: ثمّ إنّه مال يسأل عن وقت الظُّهر، حتّى بقي من الوقت قدر قراءة جزء، ثمّ إنّه تَفَلَ مثل النَّقْحة، فخرجت منها نفسُه وحُمِل إلى حَرّان فدُفن بها رضي الله عنه.

٣٩٤ ـ أبو جعفر بن هارون.

التّرحاليّ، الأندلسيّ، من كبار أهل إشبيلية.

وكان رأساً في الفلسفة، والطّب، والكحالة. ذا عناية بكتب أرسطُوطاليس.

خدم أبا يعقوب بن عبد المؤمن.

وقد أخذ عن الفقيه أبي بكر بن العربيّ، ولازمه مدّة.

وعنه أخذ أبو الوليد بن رُشْد الحفيد، عِلْم الأوائل.

وترحاله: من ثغور الأندلس.

٣٩٥ ـ أبو الفتح.

المَوْصِليّ، العابد، ويُعرف بابن الرئيس.

قال الحافظ الرُّهَاوِيّ: كان زاهداً، ورعاً، قُنُوعاً، صائم الدَّهْر، نورانيّ الوجه، حَسَن الأخلاق، رزين العقل، متواضعاً، شديداً في السُّنّة، داعياً إليها، حافظاً للقرآن.

لقَّن خلْقاً. وكان خيّاطاً يتقوَّت باليسير والباقي ينفقه على أخيه وأولاد أخيه.

وكان يلبس قميص خام ومِثْزَر خام خشِناً.

ولم يكن بالموصل في آخر زمانه مثله. وشيّعه خلّق لا يُحْصَون رحمه الله تعالى.

٣٩٦ ـ أبو الوفا.

شيخ أهل آمِد في زمانه.

قال الحافظ الرُّهاويِّ: تكرَّرْتُ إليه مدَّةَ مُقامي بآمِد، فرأيت منه عقلاً وافراً، وحلْماً وتواضُعاً، وسخاءً، وتألُّفاً للنّاس على مذهب أحمد.

وكان كثير الاحتمال للأذى في تألُّف النّاس. مفيداً بكلامه، حافظاً للسانه، ذكيّاً، فهماً. لم أر في تردادي إليه سَقْطةً، ولا بلغني عنه.

ولقد فرحت برؤيتي له فرحاً شديداً، وأحببته كأشد ما أحببت أحداً من المشايخ.

وكان له شيء من الدّنيا يتعيّش منه، ويواسي منه الفقراء، رحمه الله تعالى.

张垛垛

انتهى المجلد السابع عشر من تاريخ الإسلام ونقلته من خط مؤلفه الحافظ العلامة شمس الدين الذهبي والحمد لله وحده. يتلوه إن شاء الله تعالى الطبقة ٥٩. سنة ٥٨١.

(بعون الله وتوفيقه تم تحقيق هذه الطبقة من «تاريخ الإسلام ووَفَيات المشاهير والأعلام» لمؤرّخ الإسلام الحافظ شمس الدين محمد بن أحمد بن عثمان بن قايماز المعروف باللهبي، الدمشقي، المتوفّى سنة ٧٤٨ هـ. - رحمه الله -، وقام بضبط نصّها، وتخريج أحاديثها وأشعارها، وتوثيق مادّتها، والإحالة إلى المصادر، والتعليق على متنها، وصنعة فهارسها، خادم العلم وطالبه، الحاج أبو غازي، الأستاذ الدكتور عمر عبد السلام تدمري، أستاذ التاريخ الإسلامي في الجامعة اللبنانية، عضو الهيئة العربية العليا لإحادة كتابة تاريخ الأمة في اتحاد المؤرّخين العرب، الطرابلسي مولداً وموطناً، الحنفي مذهباً، وكان الفراغ من التحقيق عند أذان العصر من يوم السبت الثاني والعشرين من شهر ذي العقدة سنة من التجمق من مدينة طرابلس الشام المحروسة، حماها الله وجعلها آمنة عامرة مطمئنة، سخاءً رخاءً رَغَداً، وسائر بكاد المسلمين، ونفع الله بهذا العمل إلى يوم الدين، فهو نِعم المولى وإليه أنيب)



الفهارس

451	١ _ فهرس الآيات القرآنية
٣٤٨	٢ _ فهرس الأحاديث النبوية
489	٣ فهرس الأشعار٣
307	٤ _ فهرس الأماكن والبلدان
409	ه _ فهرس الأمم والقبائل والطوائف
	٦ _ فهرس الأعلام الواردة أسماؤهم في الحوادث
	٧ _ فهرس أسماء الكتب الواردة في المّتن٧
	٨ _ فهرس المشهورين بكناهم وألقابهم
	٩ _ فهرس أصحاب الكتب والمصنفات
	١٠ _ فهرس الأمراء
۲۷٤	١١ _ فهرس القضاة
٥٧٣	١٢ _ فهرس الفقهاء
٣٧٧	١٣ _ فهرس المحدثين والمفسرين
٣٧٨	١٤ _ فهرس القراء
۳۷۹	١٥ _ فهرس النحويين
	١٦ ـ فهرس الشعراء
	١٧ _ فهرس الأدباء
	١٨ _ فهرس الكتاب
	١٩ _ فهرس الأثمة والخطباء والوعّاظ
" ለ٥ .	٢٠ _ فهرس المفتين والمؤذنين
<mark>"</mark> ለገ .	٢١ ــ فهرس المؤدبين والمعدّلين

۳۸۷	الصوفيين	۲۲ ـ فهرس
۲۸۸	الزهادالله النام المستمالة الم	۲۳ _ فهرس
۴۸۹	أصحاب المهن	۲٤ فهرس
	أنساب المترجمين	
	المصادر	
	تراجم الأعلام على حروف المعجم	
	العام للمرض عات	

(۱) فهرس الّایات القرآنیة

الصفحة	السورة	رقمها	الآية
701	الأعراف	٥٤	﴿ الله الخلق والأمر تبارك الله رب العالمين﴾
٥٤	الروم	۲ _ ۱	﴿ اللهِ . غُلِبَتِ الرُّومُ ﴾
			﴿غَلَبَتَ الرَّومَ فِي أَدْنَى الأرضُ وهم من بعدِ غَلْبِهِم
00	الروم	۲و۳	سَيَغْلِمُونَ في بضع سنين﴾
٥٢	الزمو	٧٣	﴿وسيق الذين كفروا إلى جهنم زمراً﴾
74	فصلت	٤٦	﴿وما ربك بظلام للعبيد﴾
٧٩	النجم	٣٢	﴿فلا تزكوا أنفسكم﴾
			﴿كي لا تأسوا على ما فاتكم ولا تفرحوا بما
401	الحديد	74	آتاكم والله لا يحب كل مختال فخور﴾
٧٩	الضحى	11	﴿وأَمَا بِنعِمَةُ رَبِكُ فَحَلَثُ﴾
٥٩	التين	١	﴿والتين والزيتون﴾
707	الإخلاص	١	﴿قُلَ هُوَ اللهُ أَحَدُ﴾

(۲) فهرس الأحاديث النبوية

طرف الحديث	الراوي الصفحة	الصفحة
حرف الألف		
إنكم اليوم على دين وإني مكاثر بكم الأمم إن الله لم يجعل شِفَاء أمّتي فيما حُرّم عليها	7.1	7.1
إن الله لم يجعل شِفَاء أمّتي فيما حُرّم عليها	777	737
حرف الشين		
الشام صَفْوَةُ الله من بلاده يسوق إليها	٥٩	٥٩
حرف الهاء		
وهل يكبّ الناس في النار على وجوههم	معاذ بن جبل ۸۷	۸٧ ,

(۳) فهرس الأشعار

الصفحة	الشاعر		البيت		
		حرف الباء			
	القاضي محيي	مبشِّرٌ بفتـوح القُـلسِ فــي رجــبِ	وَفَتُحكُمُ حَلَبًا بِالسيف في صَفَر		
۳٥	الدين				
779	ېوري	مـن جهــة الغــرب علــى أشهــب	أقبـــل مــــن أعشقــــه راكبّــــا		
		حرف الثاء			
7 • 9	القاضي الفاضل	صدرٌ الأسرار الصبَّابةِ يُنْفِثُ	لا تَضْجَرنَ مما أتيت فإنه		
		حرف الدال			
	سعدبن محمد	كَثُــر الثنـــاء بــه علـــى بغـــدادِ	فما أنصفت بغداد نائبها الذي		
731	ابـن سعـد				
Y • £	السُّلَفِي	عند أرباب علمه النّقاد	ليس حُسْنُ الحديثِ قربَ رجالٍ		
٦	عبـداللـه بـن محمـ	عند أرباب علمه النّقاد مليحُ النسى والشّماث ل والقدّ	وأهْيَفٌ معسولُ النكاهـةِ واللَّمَى		
414	ابن عبدالله	_			
707	ابن هدية	خــــرّوا لِعــــرّه ركّعـــــأ وسُجُـــودأ	لو يسمعون كما سمعنت حديثهًا		
حرف الراء					
99	علي بن محمد	مــــن جمــــع آثـــــام وأوزارِ	ما أجْهَلَ الإنسان في فِعْلمه		
440	••••	بدت لك في قُدَّح مِن نُضَارِ	وخمـرٌ مـن الشمـس مخلـوقـةٌ		
137	عبدالقادر بن علي	به تضرب الأمثال أَنْ ذُكِر الصَّبرُ	أصيب ببلوى الجسم أيوب فاغتدى		
Y 4V	۔ أبو تمام	وقلت: رَبِّسعٌ قسد دئسر	لمسا تكهّل مسن هُسويْست		
۲۱	أبو عطاء السندي	وقد نَهَلَتْ مَنَّا المِثَقَّفَةُ السُّمْرُ	فَـذَكَـرتُـكُ والخطَـيّ يخطُـرُ بيننَـا		
۱٦٧	حَيْص بَيْص	د بمــــالٍ وفِضّــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	يا إمامً الهدى عَلَوْتَ من الجو		

الصفحة	الشاعر		البيت
	أحمد بن أبي الحسر سليمـان بن المهـاجر	ومن كلّ مَن يرنو إليها وينظرُ كان السّرورُ بما كرهت جديرا حرف الطاء	أغـــارُ عليهــا مــن أبيهــا وأمهــا إن المســـاءَة قــد تَسُــرُ وربَّمــا
XVX	ېـوري	ومماتي حين يسخط حرف العين	يا حياتي حيسن يسرضى
۲۰۳	أبو طاهر أحمد بن محمد	تسركسوا الإبتسداع لسلأتبساع	إنّ علىم الحديث عِلْم رجال
		حرف القاف	
78.	عبدالرحمن بن محمد سعـد بـن محمـد	ليس التصسوُّفُ باللبيس والخِــرَقِ ومُطْعَمَ الزَّاد في صُبحِ وفي غَسَقِ	دَعِ الفُـــؤاد بمـــا فيـــه من الخِرَق يا باذلَ المالِ في عَلمِ وفي سَعَةٍ
184	ابـن سعـد		,
777	إبراهيم السُّلَميّ	كما تتحامى العَيْنُ سهْمًا مُفَوَّقا	تحامَتُهُ غزلان الحِمَى ومها النَّقا
704	ابـن نقطـة	أنــوح كمــا نساح الحمــامُ المطــوَّقُ	إذا جنّ ليلمي هـام قلبي بـذِكـركـم
		حرف اللام	
4.0	السُّلَفيّ	عـن منهـج الحـقّ المبيـن ضـلالا	ضَــلَّ المجسِّـم والمعطّــل مثلــه
٨٠	۔ ابـن عسـاکـر	فمساذا التّصــابــي ومـــاذا الغَـــزَلْ	يــا نفـس ويُحـكِ جــاء المَشِيــب
707	أحمدبن أبي الحسن	فسلا أبسالسي مسا يقسول العَسلُولُ	إن كــان لــي عنــد سُلَيْمَــى قَبُــولُ
		حرف الميم	
۱۲۱	صدقة بن الحسين	واجْتَنَبْهـــا فهـــي دارُ الإنتقـــام	لا تُـــوَطَّنْهــــا فليســـت بمُقـــام
440	المسترشد بالله	وسـح كفُّنـهِ منـه تخجـل الـدُّيــمُّ	قُـلْ لـلإمـام الـذي أنعـامـه نِعَـمُ
188	أبو النواس	ست مُشارا إليه بالتعظيم	لا تَضَع من عظيم قَـدْرِ وإن كُنّـ
	أبو القاسم بن	رَكَ؟ منا فينك شعبرةٌ من تميم	کسم تبــادی وکــم تُطَــوّلُ طَــرْطُــو
188	الفضل		
حرف النون			
1.7	محمد بن عبدالله	بجسمي من دآء الصَّبَابة ألْوانُ	وجاءوا عِشاءً يُهْرَعُون وقد بدا
١٨٤	-	ولا تبــُدُّل بعــد الــدُّكُــر نسيــانـــا	

الصفحة	الشاعر		البيت		
	المهذب محمد	ميِّنًا فأمسيتُ منه عباريَ البدنِ	لا تستقلُّـنّ معـروفًـا سمحـت بــه		
۲۱۰	ابـن علـي				
707	احمدبن أبي الحسن	وما أراهم رضوا الدنيا على الدّينِ	أرى رجالاً بدون العَيش قد قنعوا		
	أحمدبن	بعَمْيــاء مــن ليلــى بغيــر يقيــن	ومستخبر عـن سِـرٌ ليلـى تـركتـه		
707	أبي الحسن				
	علي بن علي	ــــن على حمـل سـورةٍ بـأميــنِ	أَيُــولّــى علــى البــريّــة مَــنُ ليــ		
79.	ابن نَمَا				
	حرف الهاء				
٥٣٣	محمد بن عبدالعزيز	بمكروهها مسن أهلهما وصحابها	رويــدك فالدّنيــا الدّنيّة كم دَنَتْ		
۲۸.	تقيّة	عِوَضًا عن خمارِ تلك الوليدة	لو وجدت السّبيل جُدْتُ بخديّ		
	محمد بن أحمد	وجُـــودَ فــــلانُ وأفضـــالَــــهُ	تركتُ القريضَ لمن قالَهُ		
۳۱۳	ابن أبي علي				
794	محمد بن بختيار	وبغيـــرهـــا نفســـي لا تلهـــو	دارُكَ يسا بسدرَ السدُّجَى جنْسةٌ		
7.7	السُّلفي	جُزْتُ تسعين وأرجو أن أجوز مائه	أنا من أهلِ الحديث وهم خير فِئة		
494	محمد بن بختيار	تحدَّثي عن جفوني يا غواديهِ	أقـول للغّيث لما سال واديـه		
777	بوري	غلطوا إذا فني قنولهم وأساءوا	رمضان بلا مرضان إلا أنهم		
	محيي الدين	على حَدَثٍ بادي السَّنا وترحَّموا	ألِمُّوا بِسَفْحَيْ قاسِيُونَ وسلَّموا		
1.7	ابن محمد				
		حرف الياء			
71	سُبِيَع بن خلف	بمدائحي فيه وحُسُن قصائدي	يَمَّمْتُ دارَ أبي فلانٍ قاصداً		
440	الحسن بن عسكر	ومساء ولكنب غيسر جساري	هـــوامٌ ولكنّــه راكــــدٌ		
	عبدالله بـن	وقربَّتُ قُرْباني وقَضَيْتُ أنساكي	أقــولُ وقــد خيَّمْــتُ مــن مِنــيّ		
. ۲77	أحمد بـن محمـد				
704	أحمدبن	أجللت ذِكْركم يجري على بالي	إذا تـذكـرتُ مـن أنتــم وكيـف أنــا		
404	أبي الحسن	_			
148	مرتضى المغني	وورد خمدّيك يغري بـي ويغرينـي	فتــور عينيــكِ ينهــانــي ويــأمــرنــي		

فهرس الأماكن والبلدان

حرف الألف

آمد ۲۷، ۱۵۳، ۱۹۸، ۳۲۲. أذربيجان ۷۱، ۸۲، ۱۹۸، ۳۲۹.

إربل ۲۰، ۲۶، ۲۰، ۲۲۲، ۳۰۰، ۳۰۱. الأبطح ۷.

أبي قبيس ٧.

الإسكنلوية ۱۱، ۱۱، ۹۹، ۱۱۱، ۱۲۳، ۱۲۳، ۱۲۳، ۱۲۳، ۱۲۹، ۱۲۰، ۲۰۲، ۲۰۲، ۲۰۲، ۲۰۲، ۲۰۲، ۱۲۳، آسوان ۱۲۷،

> إفريقية ۲۲، ۳۳، ۲۱۸، ۳۲۱، ۳۲۲. إمريّة ۱۷.

الأنسدلسس ۱۲، ۹۰، ۹۶، ۱۱۱، ۱۲۱، ۱۲۲، ۷۶۲، ۸۰۲، ۲۰۲، ۲۲۲، ۱۹۲۰، ۲۳، ۲۲۳، ۱۶۳.

> أنطاكية ۲۸، ۲۹. أيلة ٥١.

حرف الباء

باب أَبْرَز ۲۸۵. باب الأزج ۳۸، ۳۱۵.

باب بدر ۲۷.

باب حران ۳۰۲.

باب قطُفتا ١٣٣.

باب النوبي ۳۱، ۵۳، ۱۳۳، ۲۷۳. بارين ۲۲۲.

بانیاس ۳۱، ۲۰.

بجاية ۲۱، ۲۲، ۹۰، ۳۱۳، ۲۲۲.

بحر الحجاز ٥١.

بخاری ۸٦.

بَرَدَى ٥٩.

برزة ٧٦. بَرَقَة ١٦٧.

برده ۱۱۲۰ م

بروجرد ۱۹۰. بزَنْجَان ۱۹۸.

بزي ۳۲۱.

البصــرة ٤٣، ١١٠، ١١١، ١١١، ١٩٨،

.717 (700

البطائح ۲۶۸، ۲۰۵.

بغداد ۱۲، ۱۳، ۱۷، ۱۸، ۲۷، ۳۳، ۲۳، ٨٣، ٤٤، ٨٥، ٤٢، ٧٢، ٧٧، ٢٧، ۸۸ ـ ۳۴، ۸۸، ۲۸۵ 3.1_5.13 .113 1113 1113 171, 131, 101, 301, VOI, ۹۰۱، ۱۷۲، ۱۲۱، ۱۲۱، ۲۷۱، ٥٧١، ٢٧١، ١٨١، ٢٨١، ٨٨١، . 113 (191) (191) (191) 7.73 7173 7173 0173 9173 377, PTY, 737, 137, VOY, 7773 3773 4773 9773 7773 3773 3873 0873 7873 7873 7P7; VP7; 177; X17; P. 7, 717, 717, 077. البقاع ٢٥. بلاد الأدفنش ٣٢١. بلاد الأرمن ٣٩، ٤٠. بلاد الجبل ٣٨. بلاد الروم ۳۹. بلاد غمارة ٣٢٠. بلاد الكرك ٤٤. بلاد المشرق ١٢٧. بلاد النّوبة ٢٠٩. البلقاء ٦٣. بلنسيــة ۱۰۸، ۱۲۴، ۱۹۱، ۲۰۷، ۲۲۶ ٥٢٢، ٢٢٩، ٢٧٠. بیت راسین ۷۲. بیت سوا ۷۲. بيت قوفا ٧٦. بیت لهیا ۷٦.

بیت المقدس = القدس.
البیرة ۷۷.
حرف التاء
تبریز ۸۸.
الترکمان ۲۸.
تربة الشافعي ۱۲.
ترمد ۲۲۳.
تل باشر ۲۲۲.
تل بانیاس ۳۱.
تلمسان ۸، ۲۲۲، ۲۳۲.
توران (قریة علی باب حران) ۳۰۲.

حرف الثاء الثغر ١٥٤، ٢١٧، ٣٠١.

تونس ۲۲، ۲۱۸.

حرف الجيم

الجاروفيّة ٢٧٣. جامع المخليفة ٢٠. جامع دمشق ٦٣. جامع الرصافة ٣٩، ٤٢. جامع قرطبة ٢١٢. جامع القصر ٢١، ٢٥، ٢٤٧، ١٦٣. جامع المنصور ٢٥، ٤٢، ٢٣٧. جبل المقطّم ١٥. جبيل ٢٣٠. جيل ٢٣٠.

جرجان ۷۱.

الجزيرة ٨٦، ١٩٨، ٢٢١، ٣٢٨. الخابور ٥٣. جزيرة ابن عمر ٢٢٢. خــراسـان ۱۳، ۱۹، ۲۷، ۱۰۶، ۱۱۳، جزيرة باشرا (قرب تونس) ٦٢. 701, 717, 717. الجزيرة الخضراء ٨٥، ٢٢١. خلاط ۱۹۸، ۳۰۳. جزيرة شُقر ٢٠٧، ٢٦٥. جزيرة قيس ٤٤، ٤٤. جوبر ٧٦. حرف الدال جينين ٦٣. دار آصف ٥٩. حرف الحاء داريًا ٧٥. الحجاز ٥٠، ٥١، ١٧٥، ٢٦٥. دانية ۱۸۰، ۳۳۴. دَرَّ بُنْد ۱۹۸. الحربيّة ١٣٨. حردان ۷٦. دجلة ١٢. حــــران ٤٧، ١٦١، ١٧٥، ١٧١، ١٨٩، الدّامريّة ١٧٠. الدِّيْنُورَ ١٩٨. حرستا ٧٦. دمياط ١٨٥. الحرمين ١٣٥. دمش ____ ق ۲۱، ۲۲، ۲۸، ۳۳، ۴۳، ۸۶، حصن الأكراد ٢٧. 10, PO, 17, TF, 3F, VV, AV, حصن سيف ۲۷۱. ۱۰۱، ۱۱۰، ۲۰۱، ۲۰۱، ۱۱۱، حصن كيفا ٦٤. 311, 111, 171, 071, 171, حطين ٢٥٥. 131, 101_ 301, 771, 071, حلب ۸ ـ ۱۰، ۱۶، ۵۵، ۷۷، ۲۰ ـ ۵۵، TY1, TX1, OX1, XP1, Y+Y_ ۷۵، ۲۰ ۱۰۲ ۱۰۲ ۲۰۱۱ ۱۲۱، ۱۲۱ 3.7, P.7, 717, 777, 077, ٥٧١، ١٨٥، ٢٢٣، ١٨٥، ١٧٥، 7773 7373 VFY3 PFY_ YYY3 037, 777, P77, 717. 3YY, YYY, 1AY, A.T., 31T, الحلَّة ٢٨٦، ٣٠٦. 717, 077, XYY. حماه ۱۶، ۲۲، ۲۹، ۳۳، ۵۷، ۲۰، ۲۰، دنَيْسر ١٥٣. ۷۷، ۱۰، ۱۳۰، ۱۲۸، ۲۲۲، ۲۳۲، دومة (بدمشق) ٦٧. **7375 377.** دُوَيرة السُّمَيْسَاطِيَ ٢٤٣. حمص ۲۷، ۲۹، ۲۰، ۲۰، ۲۰، ۲۰۱، ۲۳۲. دیار بکر ۲۰.

حرف الخاء

جَرُوان (بأصبهان) ١٩٦.

۲۲۲، ۲۳۵، ۲۶۱، ۲۲۷، ۲۲۹، ۲۸۰، ۲۸۰، ۲۸۰، ۲۸۰، ش. ۲۹۰، ۲۹۰، ۳۳۰، ۳۳۰. ش. ش. ش. ۲۸۰، ۲۹۰، ش. ۲۸۰، ۲۸۰، ۳۲۳، ۳۲۳، ش. ۲۸۰، ۳۲۳، ۳۲۳. ش. ۲۸۰، ۳۲۲، ۳۲۳.

حرف الصاد

الصعيد ١٣. صقلية ٣٢٢. صنعاء الشام ٧٥.

حرف الطاء

طبرية ٣١، ٣٢. طرابلس ٢٨. طرطُوشَة ٢٠٧.

حرف العين

عدن ۲۱۰. العــــراق ۶۱، ۵۳، ۱۳۰، ۱۶۲، ۱۵۷، ۱۸۵، ۲۱۳، ۳۲۹، ۲۶۸، ۲۸۸، ۲۹۱. عرفات ۷.

عزاز ۹، ۱۰، ۱۶، ۲۳۲. عسقلان ۲۰، ۷۰.

حرف الغين غرناطة ۱۰۸، ۲۰۷، ۳۲۰. الغزالية ۲۷۲، ۲۷۷. غزنة ۵۲. الغَوْر ۲۰. حرف الراء

رأس العين ۲۷. الرصافة ۱۰۸. الرَّبوة ۷۲. الرَّحية ۲۰، ۳۷، ۵۳، ۹۲، ۱۹۸، ۳۰۸. الرَّحة ۲۷، ۵۳، ۵۳، ۲۲۲.

الرَّقة ٤٧، ٥٥، ٢٢٢.

الرّيّ ۱۳، ۱۹۲، ۱۹۸، ۲۸۲. الرّملة ۲۰، ۳۱.

الرُّها ٣٣٨.

حرف الزاي

زیید ۲۱۰. زملکا ۷۲.

حرف السين

ساوَة ۱۹۸. سَبُتُهٔ ۲۲۱. سَبَشِطِيّة ۲۳.

سَبَسُطِيَة ٦٣ . سَرَقُسُطَة ٢٠٧ .

سروج ٤٧، ٥٣. السَّخنة ٦٤.

سنجار ٤٥، ٤٧، ٥٣، ٢٢٢. سوار ٢٨٦.

السُودان ١٣ .

سور القاهرة ٢٩.

الشُّوس ٣٢١.

حرف الشين

شاطبة ٢٦٤.

الشام ۵۳، ۵۸، ۵۹، ۷۷، ۷۷، ۸۷، ۱۸، ۲۱۰، ۲۱۰، ۲۱۰، ۲۱۰، ۲۱۰،

حرف الفاء

فاس ۱۵۶، ۳۲۰.

فامية ٢٩.

الفسقار ٣٣٠.

حرف القاف

قابس (بتونس) ۲۲.

القابون (بدمشق) ۱۸۵.

قاسيون ٣١.

القاهرة ۱۳، ۱۰، ۲۰، ۲۹، ۱۸۸، ۱۹۶،

007, 177, PP7.

قايوس ٦٢.

القدس ٥٤، ٥٥، ٥٥.

قرطبــة ۹۰، ۱۰۵، ۱۰۵، ۱۷۹، ۲۱۲، ۲۱۲، ۲۱۲، ۲۲۱، ۲۲۱،

.77.

قرى السّواد ۱۷۰.

قرية أم عبيد ٢٤٨.

قرية البلاد ٧٥.

قرية الصّريّة ٢٥٣.

قرية ضمير ١١٦.

قرية الهامة ١٠٦.

قزوین ۱۳، ۱۹۸.

قسطينة ٦٢.

قصر کُتامة ٣٣٢.

قصر ميورقة ٣٠٧.

قفصة (بتونس) ۲۲، ۳۲۱.

قلعة أيلة ٥١.

قلعة دمشق ٣٢.

قلعة عزاز ٩، ١٠.

قلعة الماهاكي ٣٥، ٤٦.

قلعة نجم ٢٩.

قلعة يحصب ٢١٦.

القيروان ١٨٣ .

حرف الكاف

الكرك ٢١، ٤٤، ٥٦، ٢٠، ٢١، ٣٣.

كَفَرْبَطْنا ٧٦.

كَفَرْسُوسَة ٧٦.

كَفَرْطاب ٢٣٦.

الكوفة ١،، ١٠١، ١٧٥، ١٩٧.

كيفا ١١٩.

حرف اللام

لبنان ٥٩.

لريّة ٢٤٢.

حرف الميم

الماردين ٤٧، ٢٥، ٣٠٣.

المارستان ٢٦، ٢٨٤.

المازندران ٤٩، ٢٨٦.

المالقة ۱۰۸، ۱۵۱، ۱۷۷، ۳۲۳، 33۲.

المأمونية ٥٠ .

المجاهديّة ٢٧٢.

المدائن ۲۰.

مدرسة زيرك ١٢٧.

المدينة ٧، ٣٩، ٤٤، ٨٢، ٥٧، ١٠٤،

701, 771, API, 077, F.T.

مسراکسش ۲۱، ۹۵، ۱۵۰، ۲۵۱، ۲۲۲،

177, 177, 777.

مرج عيون ٣١.

المرستان ١٧٦.

مُرْسِية ٢٣٠، ٣٢١.

الميدان ۸۲، ۲۲۰، ۲۷۳.

مَيُورقَة ٦١، ٩٠، ٣٠٧.

ميًافارقين ٢٠٣.

حرف النون

نابلس ۵۱، ۲۰، ۲۱، ۲٤۷.

نصیبین ۷۲، ۵۳، ۱۰۵، ۲۲۲، ۲۲۲.

النظامية ٤٩، ٧١، ٧٧، ١٥٧، ١٩٥،

377, P77, 777, F17, 077.

النيرب ٧٦.

النيل ٥٩.

نهاوند ۱۹۸.

نیسابسور ۷۷، ۸۷، ۱۳۳، ۱۵۱، ۱۲۱، ۱۲۳، ۲۳۳

حرف الهاء

هاوور ۵۲.

هراة ١٣٣.

الهرمين ٥٩.

الهند ٥٢ .

حرف الواو

وادي العروس ٣٠٦.

واسيط ۹۲، ۱۱۰، ۱۱۸، ۱۱۸، ۱۱۲

مَرَقية ٣٢.

مرو ۸۱، ۸۱، ۸۷، ۸۱۸.

المَريَّة ١٦٣.

مزدلفة ٧.

المزة ٧٥.

مسجد ابن لبيد ٣٣٠.

مسجد دعوان ۳۱۵.

مسجد سعد الدولة ١٥.

مصالة ٢٣٠.

مصر ۱۵، ۱۲، ۲۱، ۲۲، ۲۸، ۳۲، ۶۸،

10, VO_*F; VA; P*1; *(1)

311, 771, P71, 131, 701,

301, VF1, OV1, YAI, PP1,

7,7, 6,7, ,17, 717, ,77,

137, 337, 777, 887, 717.

مَصْياف ١٤.

المَعرّة ٢٩، ٢٣٦.

المغرب ٣١٨.

مقبرة باب الصغير ٨٢.

مقبرة طاحون الميدان ٢٧٣.

مكناسة الزيتون ١٢٥.

مکــة ۷، ۸، ۷۱، ۷۰، ۲۸، ۸۹، ۱۰۱،

771, 101, 0VI, FAI, VPI.

منب ج ۹، ۱۰، ۱۶، ۲۳۱، ۲۳۲، ۲۳۷،

ለሃሃኔ 37%.

المنبع ٦٤ .

مِنَى ۸۲.

المنيحة ٧٦.

منین ۷٦.

المهديّة ٢٢.

حرف الياء الياء الياء الياء اليمن ٤٨، ٥٠، ٥١، ١٦٧.

۱۲۵، ۳۳۲، ۲۶۲، ۲۵۵، ۱۲۲۸ ۱۹۲۱، ۲۹۷، ۱۹۲۸، ۲۰۳. وَهْران ۱۸۲، ۱۸۵.

فهرس الأمم والقبائل والطوائف

حرف الألف ٢٨٦، ٢٨٩، ٢٩٠.

الرفاعية ٢٥٥.

الروم ٣١، ٣٣، ٣٩، ٤٦، ٥٥، ٣٢٣.

حرف السين

السلجوقية ١٣ .

حرف الشين

الشيعة ١٨٩، ٢٣٥، ٢٣٦، ٢٨٦.

حرف العين

العبيديون ١٣ .

العلويون ١٦٦ .

حرف الفاء

الفداوية ٩.

الفرنج ۲۱ ـ ۲۳، ۲۷، ۲۸، ۳۱، ۳۳، ۳۳، ۳۳، ۳۳، ۶۳، ۶۵، ۵۱، ۵۱، ۵۱، ۶۳، ۲۰، ۲۳، ۱۳۰، ۱۳۰، ۲۳۰،

1773 277.

حرف القاف

قبيلة غمارة ٣٢٠.

حرف الكاف

الكوفيتون ٣٩٢.

الأتراك ٢٢، ١٨٩. الأحمديّة = الرفاعية. الأرمن ٣٩، ٤٠، ٤٧.

الإصبهانيون ١٠٣، ١٩٧.

الأكراد ٢٧.

حرف الباء

الباطنيّة ١٤، ١٣٣.

البطائحيّة = الرفاعية.

البغداديون ١٤٥، ٢١٢.

بنو الرقيل ٢١٩.

بنو سبكتكين ٥٢.

بنو العباس ٢٣، ١١٠.

بنو عبيد ١٦٧ .

بنو المظفَّر ٢١٩.

بيت عبدالمؤمن ٦٣.

حرف الجيم

الجَهْميَّة ٢٨٩.

حرف الخاء

الخوارج ٤٢.

حرف الراء

السرافضة ٦، ٢٦، ١٦٧، ١٨٣، ٢٣٥،

حرف النون

النّاصرية ٣٦.

النصاري ٤٦.

حرف الهاء

الهاشميون ١٦٦.

حرف الياء

اليهود ۲۰، ۲۲، ۱۸۳.

حرف اللام

اللمتونيّون ٢٧١.

حرف الميم

المحدثون ٢٦٢، ٢٨٨.

المُسْنِدون ۲۸۸.

المصريون ٤١.

الموحدون ٣٢١ ـ ٣٢٣.

الموصليون ٩.

(T)

فهرس الأعلام الواردة اسماؤهم في الحوادث

حرف الألف

أحمد ابن تقي الدين عمر ٢١. أحمد أبو العباس (ولي العهد) = الناصر لدين

أحمد بن الزّوال (نقيب النقباء) ٣٤، ٣٦. أحمد بن محمد بن حنبل (صاحب المذهب) ٢٤، ٢٥.

> أحمد بن محمد بن داذي النّيليّ ٤٧. أحمد بن هبيرة ٥٣.

الأفضل ابن صلاح الدين ١٦. إيلغازي بن نجم الدين الرتقى ٦٥.

الأمين بن الرشيد ٤١.

الله .

أوذ ابن القومصة ٣٢.

حرف الباء

بادين بن بارزان (صاحب الرملة) ٣٢. البرنس أرناط (صاحب الكرك) ٢١، ٢٨، ٤٤.

البُزُوريّ التاجر ٣١.

بشيس المستنجدي (الخادم) ٣٦، ٤١، ٤٩، ٥٣، ٦٤.

حرف التاء

تتامش الأمير ۱۷، ۱۹، ۲۰. تقي الدين الحنبلي (القاضي) ٦.

تقي الدين عمر = عمر بن شاهنشاه. تُورانشاه بن أيوب ٢١، ٧٧ ـ ٢٨، ٤٨.

حرف الجيم

جوبان الكردي ٤٦.

حرف النخاء

خُسْرُوشِاه بن بهرام السُّبكتِكِينيِّ ٥٢. الخلال بن البخاري ٥٣.

حرف الراء

رابعة بنت ابن الجوزي ٥، ٦، ١٢. الرشيد ٢٦، ٤١.

حرف الزاي

زبيد حطان بن منقذ الكناني ٤٨. زين الدين بن نَجِيّة (الواعظ) ٥٨. زين الدين يوسف ٦٥.

حرف السين

سعد الشيرازي ٣٥. السلفي ١٦. سليمان شادوست (نائب الوزارة) ٣٨. سيف الدين = العادل.

السخاوي الإمام ٥٥.

in combine - (no stamps are applied by registered versi

حرف العين

العادل (أخو صلاح الدين) ۱۰، ۱۳، ۱۵، ۵۱، ۵۱، ۵۷

عبدالجبار (الشيخ) ٤٧.

عبدالقادر (الشيخ) ٦.

عبداللطيف الخُجندي ٥٠.

عبدالوهاب بن أحمد الكردي ٣٥، ٤٦.

عبيدالله بن محمد ابن رئيس الرؤساء ٣٩.

عثمان ابن الزّنجيلي ٤٨ .

عثمان بن عفان رضي الله عنه ١٩.

عز الدين (صاحب الموصل) ٦٤.

عز الدين مسعود (صاحب حلب) ٤٥، ٤٩.

عز الدين مُوسَك ١٣ .

العزيز ابن صلاح الدين ١٦.

عضد الدين = محمد ابن رئيس الرؤساء.

علي ابن الدامغاني (قاضي القضاة ٣٦.

علي بن إسحاق الملثم ٦١ _ ٦٣ .

علي بن حمزة بن طلحة ٣١.

علي بن عبدالجبار ٤٧.

علي بن المشطوب ۲۲، ۲۳، ۲۹، ۳۳.

عماد الدين (صاحب حماه) ٤٥، ٥٣.

العماد الكاتب ٤١، ٥٨، ٢٥، ٦٣.

عمر بن شاهنشاه بن أيوب ٢١، ٢٩، ٣٣،

۷۰، ۲۰

عون الدين بن هبيرة (الوزير) ٥.

عيسى الهكاري ٢١، ٢٢، ٥٤.

حرف الغين

غازي بن حسان (أخو نور الدين) ١٤. غازي بن مودود زنكي ٨، ٩.

حرف الشين

الشافعي (صاحب المذهب) ٤٩.

شرف الدين بن شاووش (نائب الوزارة) ٣٩.

شهاب الدين السهروردي ٥٠.

شهاب الدين الغوري (ملك الهند) ٥٢.

شهاب الدين = محمود خال صلاح الدين.

شيبان (الواعظ) ٢٦.

شيخ الشيوخ = صدر الدين عبدالرحيم.

حرف الصاد

الصالح إسماعيل ابن نور الدين ٣٣، ٤٥.

صدر الدين عبدالرحيم ٤١، ٤٦، ٢٤، ٥٣، ٢٤، ٥٣.

صلاح الدین ۸_۱۰، ۱۶ ۱۲، ۲۰، ۲۳_۲۳،

VY: 17: 77: 37: PT_33:

73_P3, Y0_30, F0, A0, .F,

15, 75 _ 05.

صندل المُقْتَفَوِيّ (أستاذ الدار) ٥، ٣٦.

حرف الطاء

طاشتکین ۳۷، ۵۰.

طغتيكين ٤٨.

طُغْرُلْبَك ٤٠

طُغْرُل السلجوقي ٣٩.

طُغُرُل الناصري ٤٣.

حرف الظاء

الظاهر غازي ٥٧.

ظهير الدين ابن العطار (الوزير) ٧، ٢١، ٣٥ ــ ٣٥.

1/1-1

غياث الدين ٢٥.

الفاضل = القاضي الفاضل.

فَرُّرُخُشاه ابن شاهنشاه بن أيوب (ابن أخي صلاح الدين) ٢٨، ٣٢، ٤٨، ٤٥.

حرف القاف

القاسم بن مُهَنّى (صاحب المدينة) ٣٩. القاضي الفاضل ٩، ٢٣، ٢٩، ٤١، ٥٥. قراقوش الأسّدي ١٥، ٢٩، ٢٢.

قزل (صاحب العجم) ٦٥.

قسيم الدولة (صاحب البصرة) ٤٣.

قطب الدين تيمار ٣٧.

قلیج رسلان بن مسعود بن قلیج رسلان ۳۲، ۳۳، ۶۹، ۶۹.

> القليوبي (صاحب التاريخ) ٧. قِوام الدين بن زبال ٤٢. قيماز ١٧، ٤٩، ٦٥.

حرف الكاف

الكامل ابن أخي صلاح الدين ١٥. كمشتِكِين (الخادم بحلب) ٩، ٣٥.

حرف الميم

مالك بن أنس (صاحب المدهب) ٤١.

المأمون بن الرشيد ٤١.

مبارز الدين كشطغاي ٣٣.

مجد الدين بن جميل الحلبي الشافعي ٥٤.

المجلس الفاضلي ٦٠.

محفوظ بن معتوق بن أبي بكر بن عمر البغدادي ٣١.

محمد ابن الأنباري (صاحب ديوان الإنشاء) ٣٦.

محمد بن الدَّارع (حاجب الحجاب) ٣٤. محمد ابن رئيس الرؤساء ٧، ١٨، ١٩، ٣٣، ٢٥، ٣٧.

محمد بن قرا رسلان بن داود ٤٠ .

محمد بن المقدَّم ۲۲، ۲۷، ۲۹، ۵۸. محمود بن تِكِش (صاحب حماه) ۲۲.

محمود خال صلاح الدين (صاحب حماه)

محمود حال صلاح الدين (صاحب حماه) ۲۹، ۱۶.

محيي المدين ابن القاضي زكي الدين ابن المنتخب ٥٤، ٥٥.

المستضىء بالله ٦، ٧، ٢٤ ـ ٢٦، ٣٥.

المستنجدي = بشير المستنجدي.

مسعود الشرابي ٣٩.

مسعود بن النادر ٣٥.

المشطوب = علي بن المشطوب.

المظفر تقي الدين عمر = عمر بن شاهنشاه.

مظفر الدين (صاحب إربل) ٦٠.

مَعَدُ العبيدي ٥٣ .

مكثر بن عيسى بن فُلَيْتَة ٧.

موسى الكاظم ٥٨.

الموفق عبداللطيف ٣٧.

حرف النون

النادر (الواعظ) ٧.

الناصر لدين الله أحمد ٣٤_ ٣٦، ٣٨_ ٤٠. ٣٤، ٧٧، ٥٠، ٥٥، ٢٢.

نصر بن عدنان الزيني ١٣، ٣٤، ٣٦.

نور الدين ٥، ١٠، ١٤، ٣٣.

نور الدين بن قرا رسلان (صاحب حصن كيفا) ٦٤.

حرف الهاء

هبة الله بن الصاحب ٥، ٣٦، ٣٨. هبة الله بن عبدالله بن عبّاد ٤٢. هبة الله بن علي بن البخاري ٣٩ هنفري (صاحب حصن بانياس) ٢٨.

حرف الياء

يحيى بن زيادة ٣١، ٣٦. يعقوب بن يوسف بن عبدالمؤمن ٦٢. ينال بن حسان المنبجي ١٤. يوسف بن أيوب = صلاح الدين. يوسف بن زين الدين بن علي ٦٤. يوسف بن عبدالمؤمن ٦١. يوسف (عليه السلام) ٥٩.

الكني

أبو بكر بن العطار ٣٣. أبو الحكم بن برجان (صاحب التفسير) ٥٤، ٥٥. أبو حنيفة (الإمام صاحب المذهب) ٤٩.

أبو الخير القزويني ٦. أبو سلمة الخلال ٢٣. أبو شامة المقدسي ٥٥، ٥٥. أبو طاهر بن عون ٤١.

أبو الفتح بن المُنَى الحنبلي ٢٥.

أبو الفتوح بن صدقة (حاجب باب النوبي) ٥٣.

> أبو الفرج = ابن الرشيد الطبري. أبو الفضائل الشهرزوري ٣٤.

أبو الفضل = ابن الصاحب. أبو القاسم ابن الجوزي ٥، ٦. أبو المظفر بن قزعلي = ابن الجوزي. أبو المظفر بن المطلب فخر الدولة ٣٦. أبو الهيجاء الهكاري = نصر بن عدنان الزيني. ابن أبي طيء ١٠.

ابن الأثير ٨، ١١، ١٥، ٢١، ٢٨، ٢١. ابن برجان = أبو الحكم.

ابن الزوري ۳۷، ۳۸. ٔ

ابسن الجسوزي ٥، ٦، ٨، ١٢ ـ ١٥، ١٧، ١٨ ـ ١٨، ١٨ ـ ١٨، ١٨ ـ ١٨ ـ ١٨ . ١٨

ابن حسّان ۱۰.

ابن الرشيد الطبري ٥، ٦.

أبن رئيس الرؤساء = محمد ابن رئيس الرؤساء.

ابن الشهرزوري ٤٦.

ابن شیرکوه ۲۹.

ابن الصاحب = هبة الله بن الصاحب.

ابن طلحة (حاجب الباب) ١٩.

ابن عبدالمؤمن ٦٢ .

ابن العطار = ظهير الدين ابن العطار. ابن غانية الملثم = علي بن إسحاق.

ابن قرايا الرافضي ٢٦.

ابن المسلمة ٢٣.

ابن المشطوب = علي بن المشطوب. ابن المقدم = محمد بن المقدم.

ابن الناقد ٥ .

ابن هبيرة (الوزير) ٢٣.

فهرس أسماء الكتب الواردة في المتن

(v)

حرف الألف

الأبدال، ابن عساكر ٧٦.

«الأثمان، ابن أبي شيبة ١٢٤

«أخبار ابن المبارك، ابن بشكوال ٢٥٩

«أخبار ابن وهب، ابن بشكوال ٢٥٩

«أخبار أبي القاسم، ابن بشكوال ٢٥٩

«أخبار أبي المطرّف عبدالرحمن بن مرزوق
القنازعي، ابن بشكوال ٢٥٩

«أخبار إسماعيل القاضي، ابن بشكوال ٢٥٩

«أخبار الأعمش» ابن بشكوال ۲۰۹ «أخبار زيادة شبطون» ابن بشكوال ۲۰۹ «أخبار سفيان بن عيينة» ابن بشكوال ۲۰۹ «أخبار المُكاسبي» ابن بشكوال ۲۰۹ «أخبار النحاة» عبدالرحمن بن محمد ۲۶۰ «أخبار النسائي» ابن بشكوال ۲۰۹ «أخبار النسائي» ابن بشكوال ۲۰۹

«الأربعون الأبدال» ابن عساكر ٧٥ «الأربعون البلدية» ابن عساكر ٧٥ «الأربعون الجهادية» ابن عساكر ٧٥ «الأربعون حديثاً في التشر وأهوال الحشر» يوسف بن عبدالله ١٩٢ «الأربعون الطوال» ابن عساكر ٧٥

«الأربعين البلدانية» يوسف بن أحمد ١٢٩

(الأربعين البلديّة) السلقي ٢٠١ «أسباب النزول) الواحدي ١٣٤ «أسرار العربية) عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠ «الأسماء والكنى» النسائي ٢٩٨ «إصلاح المنطق» ١٩٠ «الأطراف التي للسنن» ابن عساكر ٧٥ «إعجاز المهندسين» السموأل بن يحيى ٣٢٩ «الإنصاف في مسائل المخلاف» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠

> «أهل بَرْزَةً» ابن عساكر ٧٦ «أهل بعلبك» ابن عساكر ٧٦ «أهل بيت سوا» ابن عساكر ٧٦ «أهل جُديا» ابن عساكر ٧٦ «أهل حُردان» ابن عساكر ٧٦ «أهل حرستا» ابن عساكر ٧٦ «أهل رَمْلكا» ابن عساكر ٧٦ «أهل كَفَرْبُطْنا» ابن عساكر ٧٦ «أهل كفرسوسة» ابن عساكر ٧٦ «أهل منين» ابن عساكر ٧٦

حرف الباء

«بهجة الألباب في شرح الشهاب» يوسف بن عبدالله ١٩٢ عبدالله ١٩٢ «بيت قوفا وبيت راسين» ابن عساكر ٧٦ «التيسير» ٢٣٤

حرف الثاء

«ثواب المصاب بالولد» ابن عساكر ٧٥

حرف الجيم

(جامع) أبي عيسى = (جامع) الترمذي
 (جامع) الترمذي ۲۷۱، ۱۲۵، ۱۳۵.
 (جزء الكُرَاعي) ۲۷۰
 (جوبر) ابن عساكر ۷۲
 (الجُمَل في علم الجدل) عبدالرحمن بن محمد
 ۲٤٠

«الجواهر واللّاليء» ابن عساكر ٧٦

حرف الحاء

«حديث أهل صنعاء الشام» ابن عساكر ٧٥ «حديث أهل قرية البلاط» ابن عساكر ٧٥ «الحكايات المستخربة» ابن بشكوال ٢٥٩

حرف الدال

«الداعي إلى الإسلام في علم الكلام» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠ «ديوان اللغة» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠

حرف الذال

«الذيل» ابن السمعاني ١٣٦، ١٤٢، ١٤٧، ١٤٧، ٣٠٦، ١٤٩

حرف الراء

«الردّ على اليهود» السموأل بن يحيى ٣٢٩ «الروضتين» أبو شامّة المقدسي ٥٤ «بیت لِهٔیا» ابن عساکر ۷٦

حرف التاء

«تاريخ» ابن الأبار ٩٨

«تاريخ» ابن أبي خيشمة ٣٣٠

«تاريخ» ابن الأثير ٣٠٨

«تاريخ» ابن الدبيثي ٢٦٨

«تاريخ» ابن السمعاني = «الذيل» ابن السمعاني

«تاريخ» ابن عساكر = «تاريخ دمشق»

«التاريخ» ابن الفرضي» ابن بشكوال ٢٥٩

«التاريخ» أبو الحسن القطيعي ٢٢٦

«التاريخ» أبو الحسن القطيعي ٢٢٦

«التاريخ» أحمد بن فرتوت ٩٥

«تاريخ دمشق» ابن عساكر ٧٠، ٧٣، ٧٧،

«التاريخ» السمعاني = «الذيل» ابن السمعاني

«تاريخ الشيعة» ابن أبي طيء ١٤٢

«التاريخ» القيلوبي ٧

«التالي لحديث مالك العالي» ابن عساكر ٧٥

«تبيين كذب المفتري فيما نسب إلى الأشعري»

ابن عساكر ٧٥

«التحبير» السمعاني ١١٣

«تفسير القرآن» أبو الحكم بن برجان ٥٥، ٥٥ «تفسير لغة المقامات» عبد الرحمن بن محمد ٢٤٠

«التنبيه عن اللحن الخفيّ» هاشم بن أحمد ٢٤٥

«الصلة» ابن بشكوال ۲۵۹

حرف الضاد

«الضاد والطَّاء» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠

حرف الطاء

"طبقات الفقهاء" يوسف بن عبدالله ١٩٢ «طُرُق حديث المغفرة" ابن بشكوال ٢٥٩ «طُرُق قبض العلم" ابن عساكر ٧٥ «طُرُق من كلب علي" ابن بشكوال ٢٦٠ «الطرر» محمد بن أحمد ٣١٣ «الطوالات» التنوخي ٢٩٧

حرف العين

«عمل اليوم والليلة» ابن السني ١٢٩ «عوالي الثوري» ابن عساكر ٧٥ «عوالى شعبة» ابن عساكر ٧٥

حرف الغين

اغرائب إعراب القرآن، عبدالرحمن بين محمد ٢٤٠

«غرائب مالك» ابن عساكر ٧٥ «غوامض الأسماء المبهمة» ابن بشكوال ٢٥٩

حرف الفاء

«فضائل الرّبوة والنيرب» ابن عساكر ٧٦ «فضائل عاشوراء» ابن عساكر ٧٥ «فضائل عسقلان» ابن عساكر ٧٥ «فضل أصحاب الحديث» ابن عساكر ٧٥ «فضل الجمعة» ابن عساكر ٧٥ «فضل القدس» ابن عساكر ٧٥ «فضل المدينة» ابن عساكر ٧٥

حرف الزاي

«الزلازل» ابن عساكر ٧٥ «الزهادة في ترك الشهادة» ابن عساكر ٧٥ «الزهد» سعيد بن منصور ١١٣ «زهر الرياض» عبدالرحمن الصفراوي ٢٠٦

حرف السين

«السّباعيّات» ابن عساكر ٧٥ «سعد بن عبادة والمنيحة» ابن عساكر ٧٦ «السلسلات» ابن عساكر ٧٥ «سنن» أبي داود ١٢٥، ١٩٨ «سنن» النسائي ٢٠٣ ٢٠٣ «سنن التحديث» صالح بن أحمد الهمذاني «سنن الحداني» صالح بن أحمد الهمذاني «سنن الحلواني» ٣٣٧

حرف الشين

«شرح الحماسة» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠ «شرح السنة» البغوي ٨٦ «شرح السنة» اللالكائي ٢٠٤ «شرح المتنبي» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠ «الشرح» محمد بن عبدالكريم ٣١٦ «الشفاء» ابن سينا ١٢١ «شفاء الصدور» ابن المناصف ٣٠٤

حرف الصاد

«صحيح» الإسماعيلي ١١٣ «صحيح» البخاري ٨٣، ١١٨، ١٧٤، ١٧٧، ٢٤٤. «صحيح» مسلم ١٢٥، ١٦١، ٢١٣، ٢٦٩، y firr Combine - (no stamps are applied by registered version

«المعجم» أبو المواهب بن صَصْرَى ٢١٥ «معجم السَّفَر» السلفي ٢٠٤ «معجم الشيوخ» ابن عساكر ٧٥، ٧٧ «معجم القرى والأمصار» ابن عساكر ٧٥ «المعجم» معمر بن الفاخر ٨٢ «معرفة العلماء الأفاضل» ابن بشكوال ٢٥٩ «المعتقد» عبدالرحمن بن أبي حاتم ٢٦٢ «المُغرب في محاسن المَغرب» إليسع بن عيسى ١٦٤

«المفيد الأوسط في الطب» السموأل بن يحيى ٣٢٩

«مقام إبراهيم وبرزة» ابن عساكر ٧٦ «مقامات» الحريري ١٦٨، ١٣٥ .

«المقامات العشرين» أحمد بن حميد ٢٣١ «مناقب ابن الرفاعي» ٢٥٥

«مناقب الشبان» ابن عساكر ٧٥

«المنتظم» ابن الجوزي ۳۰، ۳۱، ۱٦٦.

«من روى الموطأ عن مالك» ابن بشكوال ٢٥٩ «المنهج الرائق في الوثائق» يوسف بن عبدالله ١٩٢

«الموطأ» الإمام مالك ٩٥، ١٢٥، ١٥١، ٢٧٦.

«الموافقات» ابن عساكر ٧٣

حرف النون

«نزهة الألبًا في طبقات الأدبا» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠

«نَسْمَةُ العبير في علم التعبير» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠

«النصر على مصر» ابن الجوزي ١٦٧

«فضل مكة» ابن عساكر ٧٥ «فيمن نزل بالمزة» ابن عساكر ٧٥

حرف القاف

«القربة إلى الله بالصلاة على نبيّه» ابن بشكوال ٢٥٩

«قرية الحميريين» ابن عساكر ٧٦ «قضاة قرطبة» ابن بشكوال ٢٥٩ «القوانيـن فـي الحسـاب» السمـوأل بـن يحيـى ٣٢٩

حرف الكاف

«الكامل» المبرد ٦٩ «الكفاية في مراتب الرواية» يوسف بن عبدالله ١٩٢

«کتاب سیبویه» ۲۲۳، ۲۷۰، ۳۱۳.

اكتاب ما، عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠

حرف الميم

«المبسوط لمنكر حديث الهبوط» ابن عساكر ٧٦

«المجالسة» ابن عساكر ۷۷ «مرآة الزمان» ابن الجوزي ٦٠ «المرتضى في شرح المنتقى لابن الجارود» يوسف بن عبدالله ١٩٢ «المروة» أبو سعد السمعاني ٢١٥

> «مسائل الخلاف» ۷۱ «المسلسل» ۲۰۰

«المسلسلات» ابن بشكوال ٢٦٠

امسند أهل داريا، ابن عساكر ٧٥

«معالم التنزيل» البغوي ٨٦

«المُعْجِب» عبدالواحد بن علي التميمي ٣١٩

حرف الواو «الوَفَيات» الحافظ ابن المفضل ۲۹۸ حرف الياء «اليقين» علي بن خلف ۳۳۲

«النور اللائح في اعتقاد السَّلف الصالح» عبدالرحمن بن محمد ٢٤٠ «نور المحجة» محمد بن محمد بن عبدكان

فهرس المشمورين بكناهم وألقابهم

حرف الألف

عبدالله بن فتوح ٢٦٤ ابن الضّجّة: محمد بن عبدكان ١٠٩

ابن العريف: مقاتل بن عزّون ٢٩٨ ابن العُجَيْل: محمد بن علي بن عبدالله ٣٣٥

ابىن عكيس: عبدالرحيم بن عمر بن عبد الرحيم بن أحمد ٣٠٨

ابن العلويّة: محمد بن محمود بن محمد ابن

ابن القَوّالة: عبدالباقي بن أبي العزّ بن عبدالباقي ١٢٢

ابن المتقن: إبراهيم بن محمد ٣٢٥

ابن المطّلِب: . . . بن محمد بن هبة الله الله

ابن المناصف: الحسن بن عيسى بن أصبغ ٣٠٤

ابن المؤذن: محمد بن عتيق بن عطّاف ٢٦٨

ابن نوح: أيّوب بن محمد بن وهب بن أيّوب ۲۰۷

أحمد اللّخمي: خليفة بن المسلم بن رجاء ٢٦٠

الأُسْتِجِيّ: محمد بن أحمد بن محمد بن

ابن أبي الصَّقر: محمد بن حمزة بن محمد بن أحمد بن أحمد بن سلامة ٣١٤

ابن أبي اليابس: عبدالله بن عبدالرحمن بن يحيى بن إسماعيل ٩٨

ابن الأعرابي: عبدالله بن يحيى بن علي بن هلال ٢١٧

ابن الأفطس: إسماعيل بن يونس بن سلمان ٣٢٦

ابن بَهْدِل: أحمد بن أحمد بن علي ١٣٨

ابن التّوراني: سعد بن الحسن بن سلمان ٣٠٦

ابن الجميّل: الحسن بن علي بن محمد بن فرج ١٤٠

ابن جُوالِق: مسلم بن ثابت بن زيد بن القاسم ١١١

ابن حوائج كاش: عمربن محمد بن عبدالله بن الخضر بن مسافر ١٥٣

ابن الرئيس: أبو الفتح ٣٤١ ابن الزَّمَيْلي: بن حيدرة ١٢٦

ابن سَغُدُوك: علي بن الحسين ٢٦٥

ابن سيده: عبدالله بن المحدّث عبدالرحمن بن أحمد بن علي ٢١٤

ابن صاحب الصلاة: عبدالله بن يحيى بن

حرف العين

عَبْدُون: عبدالله بن يحيى بن عبدالله بن فتوح ٢٦٤

العويص: محمد بن عبيدالله بن أحمد بن محمد بن هشام ٢٢٣

حرف العين

غلام أبي الخطّاب: أحمد بن أبي الوفاء بن عبدالرحمن بن عبدالصّمد ١٦٠ غلام الزاهد ابن العلبيّ: أحمد بن مواهب بن حسن ٢٣٤

حرف القاضي

القاضي: عبدالصمد بن سعد بن أحمد بن محمد ١٠٠

القَبَاعي: محمد بن أحمد بن سليمان ٨٥

القيثارة: الموفق بن شوعة ٢٩٩

حرف اللام

اللّـص: أحمـد بـن علـي بـن محمـد بـن عبدالملك بن سليمان ٢٣١

حرف الميم

المُشَطَّب السَّمَنَاني: محمد بن أحمد بن عبدالجبار ١٢٧

المفوّقي: سليمان بن محمد بن سليمان ٣٢٩

حرف النون

النَّجَّار: عبدالكريم بن عسكر ١٢٣

حرف الواو

وجه نافخ: عبدالله بن محمد بن سهل ٦٧

عبدالعزيز ٢٤٤

الأمير التركي: محمد ابن الوزير علي بن طِراد ٨٩

حرف الباء

البِلجِيطيّ: عثمان بن يوسف بن أبي بكر بن عبدالبّر ٢٤٢

حرف الحاء

حَفَّدَة: محمد بن أسعد بن محمد بن الحسين ٨٦ الحَيْص بَيْص: سعد بن محمد بن سعد بن صنيعي ١٤١

حرف الخاء

الخِدَب: محمد بن أحمد بن طاهر ٣١٣ الخليع: القاسم بن عمر ٢٦٧

حرف الشين

شرف الدين بن شاووش: سليمان بن أرسلان ۲۳۸

الشّقوري: محمد بن عبدالعزيز بن علي بن عسم ٢٩٥

شعرانة: زهير بن محمد بن أحمد بن أبي سعيد ٣٠٥

حرف الصاد

صاحب بن بالان: يحيى بن يوسف بن أحمد ١٣٦

حرف الطاء

الطَّيْلُسان: أحمد بن محمد بن سليمان بن محمد ٢٧٦

(9)

فهرس أصحاب الكتب والمصنفات

حرف الألف

أحمد بن حميد بن الحسن ٢٣٠ أحمد بن عبدالله بن الإمام أبي بكر محمد بن أحمد ١٩٥

أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم ١٩٥

إليسع بن عيسى بن حزم بن عبدالله بن إليسع ١٦٣

حرف الحاء

الحسن بن عيسى بن أصبغ ٣٠٤ الحسن بن هبة الله بن رطبة ٢٨٦

حرف الخاء

خلف بن عبدالملك بن مسعود بن موسى ٢٥٨

حرف السين

السموأل بن يحيى بن عياش ٣٢٩

حرف العين

عبدالرحمن بن أحمد بن محمد بن أحمد ٢١٨ عبدالرحمن بن محمد بن عبيدالله بن أبي سعيد ٢٣٨

عبدالرحيم بن عمر بن عبدالرحيم بن أحمد ٣٠٨

علي بن الحسن بن هبة الله بن عبدالله ٧٠ على بن خلف بن غالب ٣٣٢

حرف الميم

محمد بن أحمد بن طاهر ۳۱۳ محمد بن عبدالكريم بن الفضل ۳۱۵ محمد بن محمد بن عبدكان ۱۰۹ محمد بن محمد بن مواهب ۲۲۶ محمد بن محمد بن عبدالواحد بن ماشاذة ۱۱۱

حرف الهاء

هارون بن العباس بن محمد بن أحمد بن محمد ۱۳۵

هاشم بن أحمد بن عبدالواحد بن هاشم ٢٤٥

حرف الياء

يوسف بن عبدالله بن سعيد بن عبدالله بن أبي زيد ۱۹۱ يونس بن محمد ۲۲۹

فهرس الأمراء

حرف الألف

ارسلان بـن طغـرل بـن محمـد بـن ملکشـاه (سلطان) ۱۱۷

إيلغازي بن ألبي بن تمرتاش ٣٠٣

حرف الباء

بوري ۲۷۸

حرف التاء

تورانشاه ۲۰۸

حرف الحاء

الحسن المستضيء بأمر الله (أمير المؤمنين) ١٦٥

> حرف السين سليمان بن أرسلان ٢٣٨

حرف العين

عبداللطیف بن محمد بن ثابت ۳۰۹ علی بن محمدبن عیسی (وزیر) ۱۵۲

> ح**رف الغين** غازي (صاحب الموصل) ۲۲۱

حرف الفاء

فَرُّرخشاه بن أيوب بن شاذي (صاحب بعلبك) ٢٦٦.

حرف الكاف

كمشتكين (ناثب) ١٢٦

حرف الميم

محمد ابن قاضي القضاة أبي الحسن علي ابن أحمد ١٧٩

محمد بن عبدالله بن هبة الله بن المظفّر (وزير) ۱۳۰

محمد بن محمد أبو الفرج ۱۸۲ محمود بن تكش ۱۳۰، ۸۳ منصور بن نصر بن منصور بن الحسين (وزير) ۱۸۸

حرف الهاء

هبة الله بن أبي نصر محمد بن هبة الله بن محمد (وزير) ٣١٧

حرف الياء

يوسف بن عبدالمؤمن بن علي (صاحب المغرب) ٣١٨

فهرس القضاة

حرف الألف

أيوب بن محمد بن وهب بن أيّوب ٢٠٧

حرف الباء

بُجَيْر بن علي بن بُجَيْر ٢٧٧

حرف الحاء

الحجاج بن يوسف الهواري ٩٥

الحسن بن علي بن نصر بن محمد بن خميس ٩٦

الحسين بن القاضي أبي الحسن أحمد ابن قاضي القضاة ٢٨٦

حرف الدال

داود بن محمد بن الحسن بن خالد (قاضي كيفا) ۱۱۸

حرف العين

عبدالحق بن سليمان (قاضي تلمسان) ٦٨ عبدالرحمن بن أبي القاسم أحمد بن محمد ١٢٣

عبدالرحمن بن أحمد بن محمد بن أحمد ٢١٨ عبدالله بن عبدالرحمن بن يحيى بن إسماعيل ٩٨

> عبدالله بن يزيد بن عبدالله ٢١٦ عثمان بن يوسف بن أبي بكر بن عبدالبَرّ ٢٤٢

علي بن أبي القاسم بن أبي حنّون (قاضي مراكش) ٣٣٣

> عمر بن عبدالرحمن بن عذرة ۲۲۱ عیسی بن عمران (قاضي مراکش) ۲٦٦

حرف الميم

محمد ابن قاضي القضاة أبي الحسن علي ابن أحمد ١٧٩

محمد بن الحسين بن محمد بن المعلم ۸۸ محمد بن عبدالعزيز بن علي بن عيسى (قاضي شُرُّورة) ۲۹۵

محمد بن عبدالله بن القاسم بن المظفر بن علي المدد الله الله بن القاسم المؤلفة المؤلفة المددد المؤلفة المؤلفة الم

محمد بن القاضي عیاض بن موسی بن عیاض (قاضی دانیة) ۱۸۰

مروان بن عبدالله بن مروان بن محمد (قاضي بلنسية) ۲۷۰

مسعود بن الحسين بن سعد ٩١

حرف النون

نصر بن سیار بن صاعد بن سیّار ۱۱۲

حرف الهاء

هبة الله بن محفوظ بن الحسن بن محمد بن الحسين ١٣٥

(I)

فمرس الفقمآء

حرف السين

سعيد بن عبدالله بن القاسم (شافعي) ٢١٣

حرف الصاد

صدقة بن الحسين بن الحسن (حنبلي) ١١٩

حرف العين

عبدالرحمن بن أبي القاسم أحمد بن محمد

عبدالرحيم بن عمر بن عبد الرحيم بن أحمد ٣٠٨

عبدالله بن الخضر بن الحسين (شافعي) ١٤٩ عبدالله بن القاضي أبي خازم (حنبلي) ٢٦٤ عبدالله بن محمد بن وقاص ٢٠٠ عبدالله بن محمد بن وقاص ٣٠٠ عبيدالله بن علي بن محمد (حنبلي) ٣٠٩ عثمان بن محمد بن عيسى ٢١١ علي بن أحمد بن محمد (شافعي) ٢٧١ علي بن الحسن بن هبة الله (شافعي) ٧٠ علي بن الحسين بن علي ١٢٥ علي بن محمد بن المبارك (حنبلي) ٢٢٠ على بن محمد بن المبارك (حنبلي) ٢٢٠

عمر بن عبدالرحمن بن عذرة ٢٢١

حرف الألف

إبراهيم بن محمد بن إبراهيم (شافعي) ٢٣٤. إبراهيم السُّلَمي بن علي (شافعي) ١٦١ أحمد بن أبي الوفاء بن عبدالرحمن (حنبلي) ٢٠٧، ١٦٠

أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم

أحمد بن محمد بن المبارك (حنبلي) ١١٦ أحمد بن نصر بن تميم ١٣٩

اسماعيل بن أبي القاسم نصر بن نصر (شافعي) ١٦٣

إليسع بن عيسى بن حزم بن عبدالله بن اليسع ١٦٣

حرف الباء

بُجَير بن علي بن بُجَير ٢٧٧

حرف الحاء

الحسن بن محمد بن نُمِير (ظاهري) ٦٦ حماد بن إبراهيم بن إسماعيل (حنفي) ٢١٠

حرف الدال

داود بن محمد بن الحسن (شافعي) ۱۱۸

حرف الزاي

زید بن نصر بن تمیم (شافعی) ۱٤۱

حرف الميم

المبارك بن علي بن العصين (حنبلي) ١٨٦ المبارك بن محمد بن المبارك (شافعي) ١١٠ محمد بن أحمد بن سليمان ٨٥ محمد بن أحمد بن عبدالجبّار (حنفي) ٨٦ محمد بن أسعد بن محمد (شافعي) ٨٨ محمد بن الحسين بن محمد (حنفي) ٨٨ محمد بن عبدالرحمن بن محمد (شافعي) ٣٣٥ محمد بن عبدالكريم بن الفضل (شافعي) ٣٣٥ محمد بن عبدالله بن القاسم (شافعي) ١٠٤ محمد بن عبدالملك بن مسعود بن بشكوال

محمد بن هبة الله بن عبدالله (شافعي) ١٥٧

مسعود بن الحسين بن سعد (حنفي) ٩١ مسعود بن محمد بن مسعود (شافعي) ٢٧١ مسعود بن محمود بن أحمد بن عبدالمنعم بن ماشاذة ٢٢٦

مسلم بن ثابت بن زید بن القاسم (حنفي) ۱۱۱

حرف النون

نصر بن سيّار بن صاعد (حنفي) ۱۱۲ نصر الله بن عبدالرحمن (حنفي) ۱۹۰

حرف الهاء

هبة الله بن يحيى بن الحسن (شافعي) ٩٢

حرف الياء

یوسف بن إبراهیم بن عثمان ۲۹۹ یونس بن محمد بن منعة (شافعی) ۳۰۰

(11)

فهرس المحدثين والمفسرين

علي بن الحسن بن هبة الله بن عبدالله ٧٠ علي بن خلف بن غالب ٣٣٢

حرف الميم

محمد بن خير بن عمر بن خليفة ١٧٨ محمد بن عبدالله بن محمد ٣٣٥ مسعود بن محمود بن أحمد بن عبدالمنعم بن ماشاذة ٢٢٦

> حرف الياء يوسف بن إبراهيم بن عثمان ٢٩٩

حرف الألف أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم ١٩٥ إليسع بن عيسى بن حزم بن عبدالله بن إليسع

حرف الخاء خلف بن عبدالملك بن مسعود بن موسى ۲۵۸ حرف العين

> عبدالله بن عبدالرحمن بن يحيى ٩٨ علي بن أحمد بن محمد ١٧٣

(31)

فهرس القراء

علي بن بركات أبو الحسن ٣٣٢ علي بن حميد بن عمار ٨٣، ١٧٤ علي بن عساكر ١٠٠ على بن محمد بن ناصر ٣٣٣

حرف القاف

القاسم بن عبدالرحمن بن دحمان ۱۷۷ القاسم بن علي بن صالح ۳۳٤

حرف الميم

محمد بن أحمد بن أبي الفرج ١٠٢ محمد بن أحمد بن محمد ٢٩٢ محمد بن جعفر بن عقيل ٢٩٤ محمد بن خالد بن بختيار ٣١٥ محمد بن خير بن عمر بن خليفة ١٧٨ محمد بن عبيدالله بن أحمد بن محمد بن هشام

> محمد بن عبدالله بن محمد ۱۰۷ محمد بن علي بن محمد ۱۰۷ محمد بن محمد بن حمّود ۸۹ محمد بن محمد بن عُبْدِكان ۱۰۹

حرف الياء

يحيى بن علي بن يحيى ٢٤٦ يوسف بن إبراهيم بن عثمان ٢٩٩ يوسف بن عمر بن الحسن ١٩٢

حرف الألف

إبراهيم بن حسين بن يوسف ٣٠٣ أحمد بن أحمد بن عبدالعزيز ١١٥ أحمد بن أحمد بن محمد ١٩٤ أحمد بن المبارك بن دَرَك ٣٠٢ أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم

> إسحاق بن هبة الله أبو طاهر ٣٢٥ إليَسَع بن عيسى بن حزم ١٦٣

> > حرف الباء

بدر بن عبدالغني بن محمد ٣٠٤

حرف الحاء

حبيب بن إبراهيم بن عبدالله ٣٢٦

حرف السين

سلیمان بن أحمد بن سلیمان ۲۱۶ سلیمان بن محمد بن حسن ۲۱۶

حرف الصاد

صالح بن المبارك بن محمد ٩٦

حرف العين

عبدالعزيز بن أحمد ١٢٣ عبدالله بن أحمد بن بكران ١٧٠ عبدالله بن محمد بن سهل ٦٧ عبيدالله بن محمد أبو الحسين ٣٣١

(10)

فهرس النحويين

عتیق بن أحمد بن سلمون ۳۱۰ علي بن إبراهیم بن عیسی ۲۹ علي بن حمید بن عمار ۸۳، ۱۷۶ علي بن محمد بن ناصر ۳۳۳

حرف القاف القاسم بن عبدالرحمن بن دحمان ۱۷۷

حرف الميم محمد بن أحمدبن طاهر ٣١٣ محمد بن خير بن عمر بن خليفة ١٧٨ محمد بن عبيدالله بن أحمد بن محمد بن هشام ٢٢٣ حرف الألف أحمد بن علي بن محمد بن عبدالملك بن سليمان بن سند ٢٣١ أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم

حرف الدال
داود بن يزيد السعدي ١١٩
حرف السين
سليمان بن أحمد بن سليمان ٢١٣
حرف العين
عبدالرحمن بن محمد بن عبيدالله ٢٣٨
عبدالله بن يحيى بن عبدالله بن نتوح ٢٦٤

(LI)

فهرس الشعراء

حرف الألف

أحمد بن حميد بن الحسن ٢٣٠ أحمد بن عبدالعزيز بن الفضل بن الخليع ٩٤ أحمد بن علي بن محمد بن عبدالملك بن سليمان ٢٣١

حرف الباء

بوري ۲۷۸

حرف التاء

تقيّة أم علي ٢٧٩

حرف الحاء

الحسن بن سعيد بن عبدالله بن بُندار ٢٨٤

حرف السين

سُبَيَع بن خلف بن محمد ۲۸۷ سعد بن الحسن بن سلمان ۳۰۲ سعد بن محمد بن سعد بن صيفي ۱٤۱

حرف العين

عبدالرحمن بن محمد بن عبيدالله بن أبي سعيد ٢٣٨

عبدالقادر بن علي بن نوقة ٢٤١ عبدالله بن محمد بن عبدالله بن هبة الله ٢١٨ علي بن إبراهيم بن عيسى بن سعد الخير ٦٩ علي بن خلف بن غالب ٣٣٣ عيسى بن عمران ٢٦٦

> حرف القاف القاسم بن عمر ٢٦٧

حرف الميم

محمد بن أحمد بن أبي علي محمد بن سعيد بن نبهان ٣١٢

محمد بن أحمد بن حمزة بن جِياه ٢٩١ محمد بن بختيار ٢٩٢

محمد بن علي بن حمزة بن محمد ١٨٠ محمد بن غالب ١٠٧ محمد بن محمد بن مواهب ٢٢٤

الموفق بن شوعة ٢٩٩

حرف الياء

يوسف بن عبدالمؤمن بن علي ٣١٨ يونس بن محمد ٢٢٩

(IV)

فمرس الأدباء

حرف الميم

محمد بن بُنَيْمَان بن يوسف ١٢٨ محمد بن خير بن عمر بن خليفة ١٧٨ محمد بن الحسين بن الحسن بن الخليل ١٧٨ محمد بن علي بن حمزة بن محمد ١٨٠ محمد بن محرز ١٨٢ محمد بن ميدمان ١٣٤ منوجهر بن محمد بن تركانشاه ١٩٠

حرف الهاء

هارون بن العباس بن محمد بن أحمد بن محمد ١٣٥ هاشم بن أحمد بن عبدالواحد بن هاشم ٢٤٥

> حرف الياء يوسف بن براهيم بن عثمان ۲۹۹

حرف الألف

أحمد بن عبدالعزيز بن الفضل بن الخليع ٩٤ أحمد بن حميد بن الحسن ٢٣٠ إسماعيل بن موهوب بن أحمد بن محمد بن الخضر ١٦٢

حرف الباء

بوري ۲۷۸

حرف السين

سُبَيَع بن خلف بن محمد ۲۸۷ سعد بن الحسن بن سلمان ۳۰٦

حرف العين

عبدالرحمن بن محمد بن محمد ۱۸ علي بن عيسى بن هبة الله ۱۵۱ عيسى بن عمران ۲۲۲

حرف القاف

القاسم بن عمر ٢٦٧

(IV)

فهرس الكتتاب

حرف الشين

شُهْدَة بنت أبي نصر أحمد بن الفرج ١٤٥

حرف العين

عبدالرحمن بن محمد بن محمد ٦٨ علي بن إبراهيم بن عيسى بن سعد الخير ٦٩ علي بن علي بن نما بن حمدون ٢٩٠ على بن محمد بن عبدالملك ٣١١

حرف الميم

محمد بن أحمد بن حمزة بن جِياه ٢٩١ منصور بن نصر بن منصور بن الحسين ١٨٨ منوجهر بن محمد بن تركانشاه ١٩٠ حرف الألف

أحمد بن حميد بن الحسن ٢٣٠ أحمد بن محمد بن علي بن هبة الله بن عبدالسلام ١٩٤، ٢٣٣

حرف الباء

. . . بن حیدرة ۱۲٦

حرف الحاء

الحسين بن علي بن عبدالواحد بن شبيل ٣٠٤

حرف السين

سعيد بن عبدالله بن أحمد بن مفضَّل ١٦٨

(19)

فمرس الأئمة والنطباء والوعاظ

الأئمة

حرف الألف

إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران ٢٣٤ أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم ١٩٥٥

أحمد بن محمد بن سليمان بن محمد ٢٧٦ أشرف بن هبة الله (إمام جامع المنصور) ٢٣٧

حرف الباء

... بن عبدالله بن علوان ٢٦٥

حرف الحاء

حماد بن إبراهيم بن إسماعيل بن إسحاق بن أحمد ٢١٠

حرف الخاء

خلف بن یحیی بن خطاب (إمام جامع قرطبة) ۲۱۲

حرف العين

عبدالله بن الخَضِر بن الحسين ١٤٩ عبدالله بن عبدالواحد بن الحسن بن المفرج (إمام مسجد ابن لبيد) ٣٣٠ عبداللطيف بن محمد بن ثابت ٣٠٩

حرف الميم

محمد بن أسعد بن محمد بن الحسين ٨٦ محمد بن خالد بن بختيار (إمام مسجد داعوان) ٣١٥

محمد بن عبيدالله بن أحمد بن محمد بن هشام ٢٢٣

مسلم بن ثابت بن زید بن القاسم ۱۱۱

حرف الهاء

هبة الله بن محمد بن هبة الله بن مميل ٢٧٤

الخطباء

حرف الألف

أحمد بن علي بن أحمد بن هبة الله بن محمد ابن علي (خطيب الحربيّة) ١٣٨

حرف الحاء

الحجاج بن يوسف الهواري (خطيب مراكش) ٩٥

الحسن بن عيسى بن أصبغ (خطيب إشبيلية) ٣٠٤

حرف العين

عبدالله بن أحمد بن محمد بن عبدالقاهر

حرف الحاء

الحسن بن إبراهيم بن محمد ٦٦

حرف العين

عبداللطیف بن محمد بن ثابت ۳۰٦ عثمان بن عبدالملك ۲۸ عَلَم زوجة الشيخ محمد بن يحيى الـزبيـدي

> علي بن محمد بن الحسن ٢٤٢ علي بن هبة الله بن علي بن خلدون ١٧٥

حرف الميم

محمد بن أسعد بن محمد بن الحسين ٨٦ محمد بن محمد بن عبدالرحمن بن أبي بكر ٢٦٩

محمد بن محمد بن هبة الله بن أحمد بن منصور ۱۳۳

مسعود بن عبدالله بن عبيدالله ١١١ مسعود بن محمد بن مسعود ٢٧١ مسعود بن محمود بن أحمد بن عبدالمنعم بن ماشاذة ٢٦٦

حرف الهاء

هبة الله بن محمد بن هبة الله بن مميل ٢٧٤

(خطيب الموصل) ٢٦١

عبدالله بن حمزة بن محمد بن سماوة (خطیب دُومَه) ۲۷

عبدالله بن محمد بن عیسی ۱۵۰ عبدالله بن محمد بن وقّاص (خطیب میورقة) ۳۰۷

عیسی بن عمران ۲۶۶

حرف الميم

محمد بن أحمد بن أحمد بن سليمان ٨٥ محمد بن أحمد بن محمد بن عبدالعزيز ٢٤٤ محمد بن المحسِّن بن الحسين بن أبي المضاء ١٩٩

حرف الهاء

هاشم بن أحمد بن عبدالواحد بن هاشم ٢٤٥ حرف الياء

يوسف بن إبراهيم بن عثمان ٢٩٩

الوتماظ

حرف الألف

إسماعيل بن أبي القاسم نصر بن نصر ١٦٣

inverted by 11ff Combine - (no stamps are applied by registered version

(۲۰) فهرس المفتين والمؤذنين

حرف النون
نصر الله بن عبدالرحمن بن عبدالسلام ۱۹۰
حرف المیاء
یوسف بن إبراهیم بن عثمان ۲۹۹
المؤذنون
حرف المیم
محمد بن بنیمان بن یوسف ۱۲۸
حرف الیاء
حرف الیاء
حرف الیاء

المفتون حرف الألف أحمد بن أبي الوفاء بن عبدالرحمن بن عبدالصّمد ١٦٠

> حرف الميم محمد بن أحمد بن عبدالجبار ١٢٧ محمد بن أسعد بن حَفَدَة العطاري ١٢٨ محمد بن عتيق بن عطّاف ٢٦٨ مسعود بن الحسين بن سعد ٩١

(۲۱) فهرس الهؤدّبين والهعدّلين

حرف المياء يوسف بن محمد أبو الحجاج ١٣٧ المعدّلون

حرف الميم المبارك بن محمد بن المبارك ١١٠ محمد بن أبي الأزهر علي ٢٩٦ محمد بن حمزة بن محمد بن أحمد بن سلامة ٣١٤

محمد بن سعید بن محمد ۱۰۳

حرف الهاء هبة الله بن أبي الكرم نصر الله ٢٤٦ المؤدّبون
حرف الألف
حرف الألف
احمد بن أحمد بن علي أبو منصور ١٣٨
حرف العين
عبدالله بن عبدالواحد بن الحسن ٣٣٠
حرف القاف
القاسم بن عمر أبو عبدالله ٢٦٧
حرف الميم
محمد بن بنيمان بن يوسف ١٢٨

$(\Gamma\Gamma)$

فهرس الصوفيين

عمر بن علي بن الزاهد محمد بن علي ٢٤٢ حرف الميم

محمد بن أبي بكر محمد بن عبدالرحمن ٣١٦ محمد بن محمد بن حمّود أبو الأزهر ٨٩ محمود بن محمد بن عبدالواحد بن ماشاذة ١١١١

مظفّر بن خَلَف بن عبدالكريم بن خلف بن طاهر بن محمد ۲۲۷

حرف الهاء

هبة الله بن محمد بن هبة الله بن مميل ٢٧٤

حرف الألف أحمد بن علي بن سعيد ٢٣٣ حرف السين سالم بن عبدالسلام بن علوان ٣٢٦ حرف العين

عبدالباقي بن أبي العزّ ١٢٢ عبدالرحيم بن أبي البركات إسماعيل بن أبي سعد ٣٠٧

عبدالعزيز بن عبدالواحد بن عبد الماجد ٢١٨ علي بن محمد بن الحسن أبو المفاخر ٢٤٢

(۲۳)

فهرس الزّمّاد

حرف الألف

أبو بكر بن إسماعيل الحراني ٣٣٨ أبو الفتح ٣٤١

أبو الفَهْم بن فتيان بن حيدرة ٢٤٧ أحمد بن أبي الحسن بن علي بن أحمد ٢٤٨ *

أحمد بن أحمد بن عبدالعزيز بن أبي يعلى

أحمد بن عبدالملك بن عميرة ٢٣٠

أحمد بن محمد بن أبي القاسم ٢٣٣

أحمد بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بكروس ١١٦

حرف الباء

. . . بن عبدالله بن علوان ٢٦٥

حرف الحاء

الحسن بن هبة الله بن محمد بن علي بن المطلب ٢٥٦

حرف الخاء

خلف بن یحیی بن خطاب ۲۱۲

حرف السين

سلامة الصياد ٣٢٧

حرف العين

عبدالرحمن بن محمد بن عبيدالله بن أبي

سعيد ۲۳۸ عبدالعزيز بن أحمد بن غالب ۱۲۳ عبدالله بن الخضر بن الحسين ۱٤۹ عَلَم زوجة الشيخ محمد بن يحيى الزبيدي

> علي بن الحسين ٢٦٥ علي بن عبدالله بن حمود ١٢٥

حرف الفاء فاطمة بنت نصر بن العطار ١٢٦

حرف الكاف كرم بن بختيار بن على ٢٩٠

حرف الميم

محمد بن أحمد بن عبيدالله بن عبدالرحمن

محمد بن التابلان ۳۳۶ محمد بن کشیلة ۳۳٦ محمد بن مالك بن أحمد بن مالك ۲۷۰ محمود بن محمد بن عبدالواحد بن ماشاذة

حرف الهاء

هاشم بن أحمد بن عبدالواحد بن هاشم ٢٤٥

([3])

فهرس أصحاب المهن

حرف الشين

شهاب بن أبي الفوارس (البوّاب) ١٦٩

حرف الصاد

صالح بن عبدالرحمن بن علي (التّاجر) ٢٨٧ صدقة بن الحسين بن الحسن (النّاسخ) ١١٩

حرف الطاء

ظَفَر بن عمر (الخبّاز) ٩٧

حرف العين

عبدالرحيم بن بدالخالق بن أحمد بن عبدالقادر (الخياط) ١٥٠

عبدالصمد بن علي (الحدّاء) ٢٤٠ عبدالله بن عبدالله (الجوهري) ٢٦٣ عبدالله بن فرج (الوراق) ٢٨٩ عبدالله بن يحيى بن علي (الدّبّاس) ٢١٧ عبدالمحسن بن تُريّك (البيّم) ٢٧٧ عتيق بن عبدالعزيز (الخبّاز) ٢٢٤ علي بن أنّوشْتِكِين (الجوهري) ٢٦٥ علي بن الحسين أبو الحسن الأندلسي (النجار

علي بن عساكر بن المرحب بن العوام (الأستاذ) ۱۰۰

على بن عسى بن هبة الله البغدادي

حرف الألف

إبراهيم بن علي بن مواهب (البزّاز) ٢٠٧ أبو الفتح (الخيّاط) ٣٤١ أحمد بن أبي الوفاء (الصانع) ٢٠٧ أحمد بن أحمد بن محمد (الشاهد) ١٩٤ أحمد بن حامد بن الفرات (البزّاز) ١١٦ أحمد بن عبدالعزيز (الناسخ) ٩٤ أسعد بن بلدرك (البواب) ١٣٩ إسماعيل بن غانم بن خالد (البيّع) ٣٢٥

حرف الباء

بدر بن عبدالغني بن محمد (الطّحّان) ٣٠٤ . . . بن أبي الفوارس بن أبي بكر (السّنباك) ١٤٠

حرف السين

سالم بن إسحاق بن الحسين (البزّاز، التاجر) ۲۱۲

> سالم بن علي بن سلامة (الدّلاّل) ١٦٨ السّديد (الطبيب) ٣٠٦

سعد بن الحسن بن سلمان (التّاجر) ٣٠٦ سعد الله بن نجا بن محمد بن فهد (الدّلاّل) ١٤٤

سلامة المنبجي (الصّيّاد) ٣٢٧

مظفّر بن محمد بن عبدالباقي (البنّاء) ۲۲۷ مَعَدّ بن حسن بن عبدالله (المنادي) ۲۷۳ المهذب بن النّقاش (الطبيب) ۱۰۸ الموفق بن شوعة (الطبيب) ۲۹۹

حرف النون

نصر الله بن أحمد بن حمزة بن أبي الحجاج (العطّار) ٢٢٧

نفیس بن دینار (الرّزّاز) ۱۵۸

حرف الهاء

هبة الله بن أحمد بن محمد بن هلال (الدّباس) ٢٢٨

هبة الله بـن يحيى بـن الحسـن أبـو جعفـر (العطّار) ٩٢

حرف الواو

واثق بن الحسين بن علي (العطار) ۲۲۸ وفاء بن أسعد بن النفيس (الخبّاز) ۲۷۶

حرف الياء

يحيى بن يوسف بن أحمد (الخباز) ١٣٦ يوسف بن عبدالله بن سعيد بن عبدالله بن أبي زيد (الأستاذ) ١٩١ (الطبيب، البزاز) ١٥١

عمر بن محمد بن عبدالله بن الخَضِر بن مسافر (التاجر) ۱۵۳

عمر بن هدية بن سلامة (السَّمْسار، الصَّوَاف) ٨٥

عيسى بن أحمد بن محمد (الهرّاس) ١٧٦

حرف الميم

المبارك بن علي بن محمد بن خلف (الدّلال) ۲٤٥

المبارك بن المبارك بن محمد بن أحمد (الخياط) ٢٢٥

محفوظ بن أبي عبدالله محمد بن عبدالمنعم (الوراق) ٩١

محمد بن أحمد بن بلال أبو سعيد (الدّهّان) ۲۹۱

محمد بن أحمد بن الفرج أبو منصور (الدقاق) ۱۷۷

محمد بن خير بن عمر بن خليفة (الأستاذ) ۱۷۸

محمد بن محمد بن محمد بن عثمان أبو الفضل (الدّبّاس) ١٨٦

مسلم بن عبدالمحسن بن أحمد أبو الغنائم (البزّاز) ۲۲۷

(٢٥) فهرس أنساب المترجمين

	حرف الألف	
171	إبراهيم السُّلَمي بن على	الآمدي
777	محمد بن أحمد بن عبيد الله	*
114	داود بن محمد بن الحسن	الإربلي
٥٣٣	محمد بن عبد العزيز	,
۳.,	يونس بن محمد بن منعة	
751, 4.7	إبراهيم بن علي بن مواهب	الأزج <i>ي</i>
74.	أحمد بن حُميد بن الحسن	
707	الحسن بن علي بن الحسين	
۱٦٨	سعيد بن عبد الله بن أحمد	
Y1Y	عبد الله بن يحيى بن علي	
١٧٢	عبد المحسن بن تُرَيْك	
710	محمد بن خالد بن بختيار	
1.7	محمد بن عبد الباقي بن أحمد	
۸۲۲	هبة الله بن أحمد	
3 • 4	الحسن بن عيسى بن أصبغ	الأزدي
۲۱۸	عبد الرحمن بن أحمد بن محمد	
717	عبد الرحمن بن عبد العزيز بن محمد	
99	عبد الله بن عطاف	
797	محمد بن محمد بن حمزة	
770	بن عبد الله بن علوان	الأسدي
۲۸۷	سبیع بن خلف بن محمد	
۲٦٠	خليفة بن المسلم بن رجاء	الإسكندراني

	عبد الله بن عبد الرحمن بن يحيي	٩٨
	عبد الله بن عطاف	99
	علي بن خلف	105
	يحيى بن محمد بن أحمد	118
الإسكندري	طاهر بن عطية	Y A A Y
	علي بن مهديّ	104
	يوسف بن محمد	۱۳۸
الإشبيلي	الحسين بن محمد بن نمير	77
	سلیمان بن أحمد بن سلیمان	۲۱۳
	سلیمان بن محمد بن سلیمان	۴۲۹
	عبد الله بن خَلَف بن محمد	410
	عبد الملك بن محمد بن عبد الملك	١٣٣
	عبيد الله بن محمد أبو الحسين	۱ ۳۳
	علي بن محمد بن عبد الملك	٣١١
	محمد بن أحمد بن طاهر	۳۱۳
	محمد بن أحمد بن عبيد الله	100
	فتح بن محمد بن فتح	108
	محمد بن خير بن عمر بن خليفة	۱۷۸
الأشعري	أحمد بن نصر بن تميم	144
الأشنان <i>ي</i>	محمد بن بنیمان بن یوسف	۱۲۸
الأشيري	بُجَيْر بن علي بن بجير	Y Y Y
الإصبحي	عبد الله بن محمد	97
الإصبهان <i>ي</i>	أحمد بن محمد بن أحمد	190
	إسماعيل بن غانم	410
	بن أبي الفوارس بن أبي بكر	18+
	حبيب بن إبراهيم بن عبد الله	ም የ٦
	زهير بن محمد بن أحمد	4.0
	عبد الجبار بن محمد بن علي	441
	عبد الله بن أحمد بن أبي الفتح	***

	عبد الله بن عمر بن عبد الله	1 2 9
	علی بن محمد بن عیسی	107
	محمد بن أحمد بن أبي علي	717
	محمد بن أحمد بن أبي الفرج	1.4
	محمد بن حامد	777
	محمد بن عبيد الله بن على	۸۹
	محمد بن محمد بن الجنيد	797
	محمد بن محمد بن شجاع	788
	محمود بن أبي القاسم بن عمر	۳۱۷
	محمود بن محمد بن عبد الله	111
	مسعود بن محمود بن أحمد	777
	يحيى بن سعيد بن أبي الأسود	97
الأطرابلسي	علي بن حميد بن عمار	۱۷٤ ، ۲۷
الأموي الأموي	" عبد الله بن عبد الرحمن بن يحيى	٩٨
ء الأنباري	عبد الرحمن بن محمد بن عبيد الله	የ ፖለ
-	محمد بن محمد	١٨٢
الأندلسي	إبراهيم بن خلف	98
Ŧ	أبو جعفر بن هارون	781
	أحمد بن محمد بن سليمان	۲۷ ٦
	أحمد بن عبد العزيز	9 8
	أحمد بن عبد الملك بن عميرة	۲۳.
	أحمد بن على بن محمد	737
	عبد الله بن خلف بن محمد	710
	علي بن الحسين	770
	علي بن خلف بن غالب	227
	عمر بن عبد الرحمن بن عذرة	771
	يوسف بن عبد الله بن سعيد	191
	يولس بن محمد	444
	محمد بن غالب	1.4

777	إبراهيم بن أحمد بن عبد الرحمن	الأنصاري
98	أحمد بن عبد العزيز بن الفضل	
777	أحمد بن محمد بن سليمان	
707	خلف بن عبد الملك بن مسعود	
PAY	عبد الله بن فرج	
10.	عبد الله بن محمد بن عيسي	
717	عبد الله بن مغیث بن یونس	
۲۳۱	عبد الملك بن محمد بن عبد الملك	
101	عبيد الله بن عبد الله بن خلف	
737	عثمان بن یوسف بن أب <i>ي</i> بکر	
79	علي بن إبراهيم بن عيسى	
۲۷۶ ، ۲۷	علي بن حميد بن عمّار	
የ ዮሃ	علي بن خلف بن غالب	
የ የየ	علي بن محمد بن ناصر	
177	عمر بن عبد الرحمن بن عذرة	
108	فتح بن محمد بن فتح	
177	القاسم بن عبد الرحمن بن دحمان	
٤٣٣	القاسم بن علي بن صالح	
۲۱۲	محمد بن أحمد بن طاهر	
100	محمد بن أحمد بن عبيد الله	
٨٢٢	محمد بن عتیق بن عطاف	
۱۰۸	المشرف بن علي بن مشرف	الأنماطي
١٤٨	صالح بن عبد الملك	الأوسيّ
	حرف الباء	
۲۸۱	محمد بن محمد بن محمد	البابصري
1.41	محمد بن أبي غالب بن أحمد	الباقداري
۲۲٥	محمد بن علّي بن عبد الله	البَيِّمَّاري
727	أبو الفهم بن فتيان	البجلي

177	بن حَيْلَرة	البجلي
۲۱.	حمّاد بن إبراهيم بن إسماعيل	البخاري
780	المبارك بن علي بن محمد	البَردانيّ
11.	المبارك بن عبد الجبار	البَرْدَغُوليّ
٣١٠	عثمان بن محمد بن عیسی	البشجَيّ
11+	المبارك بن محمد بن المبارك	البصري
448	محمد بن جعفر بن عقیل	-
1	علي بن عساكر	البَطَاثحي
1.9	محمد بن المحسِّن بن الحسين	البعلب <i>كي</i>
17.	أحمد بن أبي الوفاء بن عبد الرحمن	البغدادي
110	أحمد بن أحمد بن عبد العزيز	-
198	أحمد بن أحمد بن محمد	
190	أحمد بن عبد الله بن الإمام أبي بكر	
٦٦	أحمد بن على بن محمد بن العباسي	
7.7	أحمد بن علي بن معمر	
4.4	أحمد بن المبارك بن دَرك	
109	أحمد بن محمد بن عبد الرحمن	
111	أحمد بن محمد بن المبارك	
98	أحمد بن محمد بن هبة الله	
17.	أحمد بن مسعود بن عبد الواحد	
377	أحمد بن مواهب بن حسن	
144	أسعد بن بلدرك	
1.7	بن محمد بن هبة الله	
707	الحسن بن أحمد بن محمد	
90	الحسن بن سعيد بن أحمد	
۲. ٤	الحسين بن علي بن عبد الواحد	
۱٦٨	سالم بن علي بن سلامة	
۲۰٦	سعد بن الحسن بن سلمان	
۲۳۸	سليمان بن أرسلان	
	- -	

السموأل بن يحب <i>ي</i>	٣٢٩
شافع بن صالح بن حاتم	179
صالح بن عبد الرحمن بن علي	۲۸۷
صالح بن المبارك بن محمد	97
صدقة بن الحسين بن الحسن	119
عبد الباقي بن أبي العزّ	177
عبد الرحيم بن أبي البركات إسماعيل	۳.۷
عبد الصمد بن على	78.
عبد الله بن أحمد بن محمد بن عبد القاهر	177
عبد الله بن أحمد بن محمد بن على	775
عبيد الله بن علي بن محمد	4.4
على بن أحمد بن محمد	۱۷۳
على بن عبد الرحيم بن الحسين	719
علي بن عيسى بن هبة الله	101
علي بن المبارك بن أحمد بن محمد	٨٤
على بن محمد بن المبارك	۲۲.
عمر بن هدية بن سلامة	۸٥
عيسى بن أحمد بن محمد	177
القاسم بن عمر	777
کرم بن بختیار بن علی	44.
مبارك بن الحَسَن	91
المبارك بن عبد الله بن محمد	440
المبارك بن على بن الحسين	781
المبارك بن المبارك بن محمد بن أحمد	440
المبارك بن محمد بن عبد الكريم	١٨٧
المبارك بن محمد بن محمد	777
المبارك بن محمد بن مكارم	104
محمد بن أحمد بن أبي علي بن أبو بكر	۳۱۲
محمد بن أحمد بن أبي علي أبو الفرح	411
-	

حمد بن أحمد بن الفَرَج	١٧٧
حمد بن بختيار	797
حمد بن جعفر بن عقیل	498
حمد بن الحسن بن علي	٨٨
حمد بن سعيد بن عبيد الله	٣١٥
حمد بن سعید بن محمد	۳۰۱
حمد بن علي بن أحمد	107
۔ حمد بن علی بن محبوب	۲۲۴
۔ حمد بن محمد بن مواہب	377
حمد بن محمود بن محمد	1.9
لحمود بن أبي القاسم بن عمر	۲۱۷
لحمود بن محمد أبو الثناء	٢٣٦
لحمود بن نصر بن حماد	AP7
محفوظ بن أبي عبد الله	91
مظفّر بن محمد بن عبد الباقي	277
مَعَدّ بن حسن بن عبد الله	YVY
سىعود بن عبد الله بن عبيد الله	111
سلم بن ثابت بن زید	111
منصور بن نصر بن منصور	١٨٨
منوجهر بن محمد بن ترکانشاه	19.
المهذب بن النقاش	101
مودود	274
هارون بن العباس بن محمد	100
هبة الله بن علي بن محمد	114
هبة الله بن محمد بن هبة الله	377
هبة الله بن يحيى بن محمد	118
فاطمة بنت نصر بن العطار	177
وشاح بن جواد بن أحمد	۸۱۲
وقاء بن أسعد بن النفيس	277

197	يوسف بن عمر بن الحسن	
۸۲۲	يوسف بن محمد بن علي	
۳۰۳	إبراهيم بن حسين بن يوسف	البلنسي
371	٠٠٠ بن عبد الله بن عبد الرحمن	
۱۲۳	عبد العزيز بن أحمد	
۳۱.	عتيق بن أحمد بن سلمون	
79	علي بن إبراهيم بن عيسى	
۲۷.	مروان بن عبد الله بن مروان	
۲۲۲	سالم بن عبد السلام	البوازيج <i>ي</i>
94	هبة الله بن يحيى بن الحسن	البوقي
۲۳۷	أشرف بن هبة الله	البياضيّ
727	علي بن محمد بن الحسن	البيهقي
440	إسماعيل بن غانم بن خالد	البيتع
١٧٢	عبد المحسن بن تُريِّك	
	حرف التاء	
91	محمد بن محمد بن أحمد	التجيبي
481	أبو جعفر بن هارون	الترحالي
77	طغدي بن خمارتكين	المتركي
377	وفاء بن أسعد بن النفيس	
140	هبة الله بن محفوظ بن المحسن	التغلبي
٦٨	عبد الحق بن سليمان	التلمساني
የ የየ	علي بن أبي القاسم	
181	سعد بن محمد بن سعد	التميمي
441	عبيد الله بن محمد أبو الحسين	
۲7.	خليفة بن المسلم بن رجاء	التنوخيّ
717	سالم بن إسحاق بن الحسين	
	حرف الثاء	
799	يوسف بن إبراهيم	الثَّغْري

97	يحيى بن سعيد بن أبي الأسود	الثقفي
	حرف الجيم	
139	أسعد بن بلدرك بن أبي اللَّقاء	الجبريلي
۲۰۸	ېدر	البجلاذادي
190	أحمد بن محمد بن أحمد	الجَرْوَاني
ን ምን	إبراهيم بن محمد بن إبراهيم	الجزري
ግ ۲ Υ	عبد الله بن عبد الله	الجوهري
410	علي بن أَنُوشْتِكين	
737	عمر بن علي بن الزاهد محمد	الجويني
٧٢	عبد الله بن حمزة	الجيرُ فْتِيّ
179	شافع بن صالح بن حاتم	الجيلي
۱٦٣	إليسع بن عيسى بن حزم	الجيّاني
	حرف الحاء	
791	محمد بن أحمد بن بلال	المحارثي
۱۸۷ ، ۱۳۰	محمود بن تَكَش	-
۲•۸	بدر	الحبشي
14.	عبد الله بن أحمد بن علي	الحَجْريّ
90	الحسن بن سعيد بن أحمد	الحربي
371	عتيق بن عبد العزيز	-
۳ ۳۸	أبو بكر بن إسماعيل	الحراني
4.7	سعد بن الحسن بن سلمان	
٣٣٦	محمد بن كُشَيْلة	
79 A	محمود بن نصر بن حماد	
١٨٨	منصور بن نصر بن منصور	
1 8 9	بن محمد بن مسعود	الحريمي
1AY	المبارك بن محمد بن أحمد	-
1.4	محمد بن علي بن محمد	
۱۷۳	علي بن أحمد بن محمد	الحسيني

الخضكفيّ	داود بن محمد بن الحسن	۱۱۸
الحضرمي	سلیمان بن محمد بن سلیمان	444
	عبد الرحيم بن عمر بن عبد الرحيم	۳•۸
	عبد الله بن يحيى بن عبد الله	377
الحلبي	بن عبد الله بن علوان	470
	نصر الله بن أحمد بن حمزة	***
	هاشم بن أحمد بن عبد الواحد	7 2 0
	علي بن علي بن نما	44.
	محمد بن أحمد بن حمزة	791
الحمامي	عبد الملك بن محمد بن عبد الملك	7771
الحموي	أحمد بن نصر بن تميم	129
	زید بن نصر بن تمیم	181
الحميري	محمد بن أحمد بن محمد	337
الحنبلي	أحمد بن أبي الوفاء بن عبد الرحمن	۲۱، ۷۰۲
	أحمد بن محمد بن المبارك	711
	صدقة بن الحسين بن الحسن	119
	عبد الله بن القاضي أبي حازم	377
	عبيد الله بن علي بن محمد	4.4
	علي بن محمد بن المبارك	44.
	المبارك بن علي بن الحسين	۲۸۱
	مسلم بن ثابت بن زید بن القاسم	111
الحنفي	حماد بن إبراهيم بن إسماعيل	۲۱.
	محمد بن أحمد بن عبد الجبار	۱۲۷
	محمد بن الحسين بن محمد	٨٨
	مسعود بن الحسين بن سعد	91
	نصر بن سیّار بن صاعد	117
	نصر الله بن عبد الرحمن	19.
الحوزي	أحمد بن علي بن سعيد	የ ዮዮ

حرف الخاء

114	داود بن محمد بن الحسن	الخالدي
174	عبد الكريم بن عسكر	•
4.4	عبد اللطيف بن محمد	المُحَجَنْدِيّ
440	إسحاق بن هبة الله	الىخراق <i>ى</i>
YAA	عبد الله بن أحمد بن أبي الفتح	الخرقي
440	يحيى بن أحمد بن يحيى	- الخزاعي
774	محمد بن عبيد الله بن أحمد	الخُشَني
۸٩	محمد بن عبيد الله بن علي	الخطيبي
የ ዮዮ	أحمد بن محمد بن أبي القاسم	الخفيفي
	حرف الدال	
4.4	أحمد بن المبارك بن دَرَك	الدَّارقَزِّي
108	كرم بن أحمد	43 -
۲۸۲	الحسين بن القاضي أبي الحسن أحمد	الدامغاني
19.	نصر الله بن عبد الرحمن	₩
181	الحسن بن علي بن محمد	الدّاني
97	عبد الله بن محمد بن خلف	6
377	عبد الله بن يحيى بن عبد الله	
440	يحيى بن أحمد بن يحيى	
١٧٠	عبد الله بن أحمد بن بكران	الداهري
787	أبو الفهم بن فتيان	الدمشقى
109	أحمد بن عبد الرحمن بن سلمان	*
۲۲۳	إسماعيل بن يونس بن سلمان	
٦٦	الحسن بن إبراهيم بن محمد	
Y0Y	الخضر بن هبة الله بن أحمد	
٧٨٧	سُبَيَع بن خلف بن محمد	
Y 1 Y	عبد الرحمن بن عبد العزيز بن محمد	
1	عبد الصمد بن سعد	

٦٧	عبد الله بن حمزة بن محمد	
۲۳.	عبد الله بن عبد الواحد بن الحسن	
317	عبد الله بن المحدث عبد الرحمن	
٣٣٢	علي بن بركات	
٧٠	علي بن الحسن بن هبة الله	
۱۷٥	عمر بن علي بن الخَضِر	
۱٥٣	عمر بن محمد بن عبد الله	
317	محمد بن حمزة بن محمد	
797	محمد بن محمد بن حمزة	
777	مسلم بن عبد المحسن	
777	نصر الله بن أحمد بن حمزة	
۱۳٥	هبة الله بن محفوظ بن الحَسَن	
727	یحیی بن علی بن یحیی	
۱۷٦	عيسى بن أحمد بن محمد	الدُّوشابي
90	إسماعيل بن عبد الرحمن	الدِّيباجي
٩٨	عبد الله بن عبد الرحمن بن يحيى	
707	الحسن بن علي بن الحسين	الديلمي
177	محمد بن أحمد بن هبة الله	الدِّيناري
	حرف الذال	
۲۷۲	مودود	الذهبي
	حرف الراء	
۲۳.	عباس بن أبي الرجاء	الرّاراني
۱۱٤	يحيى بن محمد بن أحمد	الرازي
44.	علي بن علي بن نما	الرافضي
410	محمد بن عبد الكريم بن الفضل	الرافعي
117	أحمد بن حامد بن الفُرات	الرَّبَعِي
١٣٥	هبة الله بن محفوظ بن الحسن	
۱٥٨	نفیس بن دینار	الرّزاز

1.4	محمد بن غالب	الرصافي
711	أحمد بن أبي الحسن بن علي	الرِّفاعي
719	علي بن عبد الرحيم بن الحسين	الرَّقِي
191	مقاتل بن عزّون	
775	محمد بن عبيد الله بن أحمد	الرَّنديّ
775	عبد الله بن عبد الله	الرّومي
	حرف الزاي	
۱۷٥	عمر بن علي بن الخضر	الزبيري
PAY	عبد الله بن فرج	الزَّمِن
۱۳۳	محمد بن محمد بن هبة الله	الزَّيْتُوني
۱۷۳	علي بن أحمد بن محمد	الزيدي
44	محمد ابن الوزير علي بن طراد	الزَّيْنَبِي
777	إسماعيل بن قاسم	الزّيّات <i>ي</i>
	حرف السين	
240	إبراهيم بن محمد	السَّبْتي
17.	أحمد بن محمد بن عبد الرحمن	-
۱۸۰	محمد بن القاضي عياض	
727	عثمان بن يوسفُ بن أبي بكر	السَّرَقُسْطِي
119	داود بن یزید	السعدي
717	عبد الله بن يزيد بن عبد الله	
۲۳۱	يحيى بن يوسف بن أحمد	السَّقلاطوني
1.7	محمد بن أحمد بن أبي الفرج	السكري "
117	أرسلان بن طُغْرُل	السلجوقي
107	محمد بن هبة الله بن عبد الله	السَّلَمَاسيَ
171	إبراهيم السلمي بن علي	السلمي
109	أحمد بن عبد الرحمن بن سلمان	
۸r	عبد الرحمن بن محمد بن محمد	
317	عبد الله بن المحدث عبد الرحمن	
419	علي بن عبد الرحيم بن الحسين	

18.	بن أبي الفوارس بن أبي بكر	السّنباك
۲۸۲	الحسين بن هبة الله بن رُطْبة	السواري
414	محمد بن أحمد بن أبي علي	السيّدي
	حرف الشين	
3.47	الحسن بن سعيد بن عبد الله	الشّاتاي
190	أحمد بن عبد الله	الشاشي
10.	عبد الله بن محمد بن علي	الشاطبي
74.5	إبراهيم بن محمد بن إبراهيم	الشافعي
171	إبراهيم السُّلَمي بن علي	•
۳۲۱	إسماعيل بن أبي القاسم نصر بن نصر	
114	داود بن محمد بن الحسن	
181	زید بن نصر بن تمیم	
717	سعيد بن عبد الله بن القاسم	
189	عبد الله بن الخَصْر بن الحسين	
۱۷۳	علي بن أحمد بن محمد	
٧,	علي بن الحسن بن هبة الله	
11.	المبارك بن محمد بن المبارك	
٨٦	محمد بن أسعد بن محمد	
440	محمد بن عبد العزيز	
٣١٥	محمد بن عبد الكريم بن الفضل	
1.8	محمد بن عبد الله بن القاسم	
104	محمد بن هبة الله بن عبد الله	
171	مسعود بن محمد بن مسعود	
94	هبة الله بن يحيى بن الحسن	
***	يونس بن محمد بن منعة	
YYY	مظفّر بن خَلَف بن عبد الكريم	الشّحامي
۳۳٠	صالح بن وجيه بن طاهر	
317	محمد بن حمزة بن محمد	الشروطي
98	أحمد بن عبد العزيز	الشُّرِيُّوني
1 • 8	محمد بن عبد الله بن القاسم	الشهروزدي

74.	أحمد بن حميد بن الحسن	الشيباني
110	أحمد بن أحمد بن عبد العزيز	الشيرازي
١٠٩	محمد بن محمود بن محمد	• -
478	هبة الله بن محمد بن هبة الله	
۱۲۸	محمد بن بدر بن عبد الله	الشِّيميْ
	حرف الضاد	
۲۳•	أحمد بن عبد الملك بن عميرة	الضبي
	حرف الطاء	
YV1	مسعودین محمدین مسعود	الطُّرَيثيثي
۲•۸	ېدر	الطّواش <i>ي</i>
177	عبد الله بن أحمد بن محمد	الطوس <i>ي</i> الطوسي
ለጎ	محمد بن أسعد بن محمد	
	حرف الظاء	
77	الحسن بن محمد بن نمير	الظاهري
	حرف العين	
114	الحسن بن أحمد بن محمد	العباسى
170	الحسن المستضيء بأمر الله	.
177	عيسى بن أحمد بن محمد	
140	هارون بن العباس بن محمد	
799	يوسف بن إبراهيم بن عثمان	العبدري
90	إسماعيل بن عبد الرحمن	العثماني
٩٨	عبد الله بن عبد الرحمن بن يحيى	¥
٨٨	محمد بن الحَسَن بن علي	
777	نصر الله بن أحمد بن حمزة	العدوي
78, 771	محمد بن أسعد بن محمد	العطّاري
174	إسماعيل بن أبي القاسم	العكبري
317	سليمان بن محمد بن حسن	پن بازی
۱۷۳	علي بن أحمد بن محمد	العلوي

۱۸۰	محمد بن علي بن حمزة	
۱٥٣	عمر بن محمد بن عبد الله	العُلَيْمي
107	محمد بن نسيم بن عبد الله	الْعَيْشُونْتِيّ
	حرف الغين	
۱٦٣	إليّسع بن عيسي بن حزم	الغانقي
۲.۷	أيوب بن محمد بن وهب	•
٨٥	محمد بن أحمد بن أحمد	
797	محمد بن أحمد بن محمد	
790	محمد بن عبد العزيز	
777	إبراهيم بن أحمد بن عبد الرحمن	الغرناطي
119	داود بن يزيد	*
۲1 ۸	عبد الرحمن بن أحمد بن محمد	
٦٧	عبد الله بن محمد بن سهل	
717	عبد الله بن يزيد بن عبد الله	
711	على بن محمد بن عبد الوارث	
٥٣٣	محمد بن عبد الله بن محمد	
799	يوسف بن إبراهيم بن عثمان	
	حرف الفاء	
109	أحمد بن عبد الرحمن بن الحسن	الفارسي
۳۰۸	عبد الرحيم بن عمر بن عبد الرحيم	•
١٢٥	على بن الحسين بن على	الفاسي
140	على بن عبد الله بن حمُّود	•
41	مبارك بن الحَسَن	الفَرَضي
98	إبراهيم بن خلف	الفهري
410	عبد الله بن خلف بن محمد	_
	حرف القاف	
Y A A	عبد الله بن أحمد بن أبي الفتح	القاسم <i>ي</i>
۲۲۲	إسماعيل بن يونس	<u>۔</u> القرشی
410	عبد الله بن خَلَف بن محمد	ia -

	عمر بن علي بن الخَضِر	140
	محمد بن حمزة بن محمد	414
القرطبي	الحسن بن عيسى بن أصبغ	۲۰٤
Ģ. J	خلف بن عبد الملك بن مسعود	Nox
	خلف بن یحیی بن خطاب	717
	عبد الله بن أحمد بن على	١٧٠
	عبد الله بن فرج	PAY
	عبد الله بن مغيث بن يونس	717
	عبيد الله بن عبد الله	101
	علی بن محمد بن ناصر	ምም
	محمد بن أحمد بن محمد أبو عبد الله	797
	محمد بن أحمد بن محمد بن عبد العزيز	337
	محمد بن عبد العزيز	790
	محمد بن عبد الملك بن مسعود	337
	محمد بن محمد بن أحمد	91
	محمد بن میدمان	148
القزّاز	صالح بن المبارك بن محمد	97
القَزْويني	محمد بن عبد الكريم بن الفضل	710
القَسْطلى	یونس بن محمد	777
القضاعي	عبد الله بن يوسف بن علي	717
القَطُفُطي	أحمد بن أحمد بن عبد العزيز	110
القُومَسَاني	عبد الرّزاق بن إسماعيل	771
-	المطهر بن عبد الكريم بن محمد	<i>ቸ</i> ፖላ
القيسي	إبراهيم بن حسين بن يوسف	۳۰۳
Ŧ	الحسن بن إبراهيم	77
	عبد الحق بن سليمان	٦٨
	محمد بن عبد الرحمن بن أحمد	701
	حرف الكاف	
الكامل <i>ي</i>	علي بن هبة الله	ppp
الكتاني	أحمد بن علي بن محمد	777
~	•	

11.	المبارك بن محمد بن المبارك	
797	محمد بن أبي الأزهر علي	
717	محمد بن أحمد بن أبي علي	الكراخي
97	صالح بن المبارك بن محمد	
٧٢	عبد الله بن حمزة بن محمد	الكوماني
717	محمد بن أبي بكر محمد	الكُشْمِيْهَني
779	محمد بن محمد بن عبد الرحمن	
97	الحسن بن علي بن نصر	الكعبي
777	مسلم بن عبد المحسن	الكَفَرْطابي
148	محمد بن میدمان	الكلبي
18+	الحسن بن علي بن محمد	
۴۳.	عبد الله بن عبد الواحد بن المحسن	الكناني
117	نصر بن سیّار بن صاعد	
۱۸۰	محمد بن علي بن حمزة	الكوفي
	حرف اللام	
77.	محمد بن عتيق بن عطاف	اللّارِديّ
440	إبراهيم بن محمد	اللخمي
444	طاهر بٰن عطيّة	•
٦٨	عثمان بن عبد الملك	
٣١٠	عثمان بن محمد بن عیسی	
411	علي بن محمد بن عبد الملك	
۲۵۳	عليّ بن مَهْدي	
191	يوسف بن عبد الله بن سعيد	اللَّربي
337	محمد بن محمد بن شجاع	اللّفتواني
١٧٨	محمد بن خير بن عمر بن خليفة	اللمتوني
*.٧	عبد الله بن محمد بن وقاص	اللمطي
777 , 170	علي بن الحسين بن علي	اللُّواتيُّ
	حرف الميم	
١٤٨	صالح بن عبد الملك	المالقي
10.	عبد الله بن محمد بن عيسى	

	القاسم بن عبد الرحمن بن دحمان	۱۷۷
المأموني	سعيد بن الحسين بن سعيد	717
ري	هارون بن العباس بن محمد	١٣٥
المخزومي	عبد الكريم بن عسكر	144
المردا <i>سي</i>	على بن عبد الرحيم بن الحسين	719
المُرْس <i>ي</i>	عثمان بن محمد بن عیسی	٣١٠
ر پ	محمد بن عبد الرحمن بن أحمد	107
المَزْوَزي	محمد بن أبي بكر	717
چې	محمد بن محمد بن عبد الرحمن	779
المُرِّي	عبد الله بن يوسف بن علي	414
المُزن <i>ي</i> المُزن <i>ي</i>	محمد بن أحمد بن بلال	791
المست <i>وفي</i>	علي بن محمد بن الحسن	737
المُسَدِّي	محمد بن علي بن محبوب	۲۲۳
المَشْغراني	على بن بركات	٣٣٢
المصري	ا الله الله الله الله الله الله الله ال	YVY
ري الم	علي بن هبة الله	ሥ ሥ
	محمد بن علي بن أحمد	107
	محمد بن المحسِّن بن الحسين	1 • 9
	مقاتل بن عزّون	۲9 A
	الموفق بن شوعة الموفق بن شوعة	799
المعافري	بن عبد الله بن عبد الرحمن	178
	أحمد بن أبي الحسن بن علي	787
المحري	السَّمَوْأَلُ بن يحيى	٣٢٩
	محمد بن محرز	١٨٢
المكي	بی طبی ہن عمار عمار عمار عمار عمار عمار	۲۸، ۱۷٤
الم <i>باعي</i> المِكناسي	عبد الرحمن بن محمد بن محمد	٦٨
المِلْفُلْسَي	علي بن عبد الله بن حمُّود	140
	ي.ن عمران عيسي بن عمران	777
المنادي	مَعَدٌ بن حسن بن عبد الله	۲۷۳
· _	سلامة الصياد	۳۲۷
المَنْبِجيّ	محمد بن التابلان	377
	,	

المواقيتي	المبارك بن محمد بن المبارك	11+
المَوْصِليّ	أبو الفتح	781
	الحسن بن علي بن نصر	97
	عبد الله بن الخَضِر بن الحسين	189
	محمد بن عبد الله بن القاسم	۱ • ٤
	يوسف بن محمد بن علي	۸۲۲
	يونس بن محمد بن منعة	۳.,
الميريلي	محمد بن مالك بن أحمد	444
المَيُورقي	عبد الله بن محمد بن وقاص	4.4
	حرف النون	
النَّسَوِي	عبد الصمد بن سعد	1
النَّصيبي	الحسين بن علي بن عبد الواحد	4.8
النهرواني	أحمد بن أحمد بن علي	۱۳۸
	محمد بن علي بن عبد الله	۳۳٥
النيسابوري	سعيد بن الحسين بن سعيد	717
	عبد الرحيم بن أبي البركات إسماعيل	*•٧
	عبد العزيز بن عبد الواحد	Y1 A
	مسعود بن محمد بن مسعود	YV1
	مظفر بن خلف بن عبد الكريم	777
	حرف الهاء	
الهاشمي	أحمد بن علي بن أحمد	۱۳۸
	أحمد بن علي بن محمد بن العباس	77
	أحمد بن مسعود بن عبد الواحد	17.
	أشرف بن هبة الله	747
	الحسن المستضيء بأمر الله	170
	سعيد بن الحسين بن سعيد	717
	عیسی بن أحمد بن محمد	۱۷٦
	المبارك بن محمد بن عبد الكريم	١٨٧
	هارون بن العباس بن محمد	140
الهرَّاس	عیسی بن أحمد بن محمد	177

111	نصر بن سیار بن صاعد	الهروي
777	زاهر بن إسماعيل بن أبي القاسم	الهَمَذاني
۲۳۱	عبد الرزاق بن إسماعيل	•
۱۲۳	عبد الكريم بن عسكر	
۱۲۸	محمد بن بُنَيْمان بن يوسف	
۸۲Y	محمد بن عبد الملك بن على	
۲۳۷	المطهّر بن عبد الكريم بن محمد	
۱۸۸	مكي بن محمد بن عبد الملك	
90	- بشير مولى عبد الحق اليوشفي	الهندي
90	الحجاج بن يوسف	الهواري
۱۷۸	محمد بن الحسين بن الحسن	الهيتي
	حرف الواو	
٤٠٣	بدر بن عبد الغني بن محمد	الواسطي
170	الحجاج بن علي بن حجاج	• .
440	الحسن بن عسكر	
317	سلیمان بن محمد بن حسن	
137	عبد القادر بن علي بن نوقة	
797	محمد بن أبي الأزُّهر علي	
۲ ٦٧	محمد بن أحمد بن عبيد الله	
۸۹	محمد بن محمد بن حمود	
787	هبة الله بن أبي الكرم نصر الله	
94	هبة الله بن يحيى بن الحسن	
1	حمّاد بن إبراهيم بن إسماعيل	الوائلي
۱۳۸	أحمد بن علي بن الحسين	الوكيل
91	محفوظ بن أبي عبد الله محمد	
177	محمد بن أحمد بن الفرج	
111	مسلم بن ثابت بن زید	
118	هبة الله بن يح <i>يى</i> بن محمد	
118	يحيى بن أحمد	
171	محمد بن محرز	الوهراني

حرف الياء

17.	أحمد بن محمد بن عبد الرحمن	اليافعي
۱۸۰	محمد بن القاضي عياض	اليَحْصُبِيّ
717	عبد الله بن يزيد بن عبد الله	
91	مسعود بن الحسين بن سعد	اليَزْديّ
٣٠٦	الشديد	اليهودي
799	الموفق بن شوعة	

([7])

فهرس المصادر والمراجع المعتَّمدة في تحقيق هذه الطبقة (۵۷۱_ ۵۸۰ هـ)

Ĵ

ابن عساكر في ذكرى مرور تسعمائة سنة (صدر بمناسبة الإحتفال بدمشق).

إتعاظ الحنفا بأخبار الأثمّة الفاطميين الخلفا، للمقريزي.

أخبار الدول وآثار الأول، للقرماني.

أزهار الرياض في أخبار عياض، للمقري،

الاستدراك، لابن نقطة.

الأعلاق الخطيرة في ذكر أمراء الشام والجزيرة، لابن شدّاد.

اطلأعلام، للزركلي.

الإعلام بونيات الأعلام، للذهبي.

الإعلام والتبيين بخروج الفرنج الملاعين على بلاد المسلمين، لابن الحريري.

أعلام النساء، لكحّالة.

أعيان الشيعة، للأمين.

الإكمال في رفع الارتياب، لابن ماكولا.

أمراء دمشق في الإسلام، للصفدي.

إنباه الرُّواة على أنباه النُّحاة، للقفطي.

الأنساب، لابن السمعاني.

أهل المئة فصاعدًا، للذهبي.

إيضاح المكنون، للبغدادي.

ب

بدائع البدائه، لابن ظافر الأزدي. بدائع الزهور في وقائع الدهور، لابن إياس.

البداية والنهاية في التاريخ، لابن كثير. البرق الشامي، للعماد الإصفهاني. بغية الطلب في تاريخ حلب، لابن العديم الحلبي (مخطوط). بغية الملتمس، للضبّى. بغية الوُعاة، للسيوطي. البُلغة في تاريخ أئمّة اللغة، للفيروزأبادي. ت تاج العروس، للزّبيدي. التاج المكَّلل بمآثر الطراز الآخر والأول، للقنوجي. تاريخ ابن خلدون. تاريخ ابن الدبيثي (مخطوط بمكتبة شهيد علي). تاريخ ابن الدبيثي (مخطوط بباريس رقم ٥٩٢٢). تاريخ ابن الدبيثي (مخطوط بالظاهرية بدمشق). تاريخ ابن سباط (بتحقيقنا). تاريخ ابن الفُرات. تاريخ الأدب العربي، لبروكلمان. تاريخ إربل، لابن المستوفي. تاريخ الأزمنة، للدُوَيهي. التاريخ الباهر في الدولة الأتابكية، لابن الأثير. تاريخ التربية الإسلامية، للدكتور أحمد شلبي. تاريخ الحكماء، للقفطي. تاريخ الخلفاء، للسيوطي. تاريخ الخميس في أحوال أنفس نفيس، للديار بكري. تاريخ دمشق، لابن عساكر، الأول ١٩٥١. تاريخ دمشق، لابن عساكر، الثاني ١٩٥٤. تاريخ دمشق، لابن عساكر، العاشر ١٩٦٣. تاريخ دمشق، لابن عساكر (بُسر _ ثابت) ١٩٦٣. تاريخ دمشق، لابن عساكر (العين المتلُوَّة بالألف) ١٩٧٦. تاريخ دمشق، لابن عساكر (عبد الله بن جابر _ عبد الله بن زيد) ١٩٨١.

تاريخ دمشق، لابن عساكر (تراجم النساء) ١٩٨٢.

تاريخ دمشق، لابن عساكر (عبادة بن أوفى ــ عبد الله بن ثوّب) ١٩٨٢. تاريخ دمشق، لابن عساكر (عثمان بن عفان، رضي الله عنه) ١٩٨٤. تاريخ دمشق، لابن عساكر (عبدالله بن سالم _ عبدالله بن أبي عائشة) ١٩٨٦. تاريخ دمشق، لابن عساكر (عبد الله بن مسعود ـ عبد الحميد بن بكار) ١٩٨٦. تاريخ دمشق، لابن عساكر (علي بن أبي طالب، رضي الله عنه) ١ ــ ٢/ ١٩٧٥. تاريخ دمشق، لابن عساكر (ترجمة الشهاب الزُهري) ١٩٨٢. تاريخ دمشق، لابن عساكر (عمر بن الخطاب رضي الله عنه) ١٩٩٤. تاريخ دمشق، لابن عساكر (عبد الله بن عمران ـ عبد الله بن قيس) ١٩٩٤. تاريخ دمشق، لابن عساكر (مخطوطة التيمورية رقم ١٠٤١). تاريخ دولة آل سلجوق ـ للعماد الإصفهاني، باختصار البنداري. تاريخ الزمان، لابن العبري. تاريخ طرابلس السياسي والحضاري (تأليفنا). التاريخ المجدِّد، لابن النجار (مخطوط بباريس ١٢٣١). تاريخ مختصر الدول، لابن العبري. التاريخ المظفّري، لابن أبي الدم الحموي (مخطوط مكتبة البلدية بالإسكندرية ١٢٩٢ ب). تبصير المنتبه بتحرير المشتبه، لابن حجر. تتمّة المختصر في أخبار البشر، لابن الوردي. التحبير في المعجم الكبير، لابن السمعاني. تحفة الأحباب، للسخاوي. تحفة القادم. تهحفة الناظرين فيمن ولي مصر من السلاطين، للشرقاوي. التدوين في أخبار قزوين، للقزويني. تذكرة الحفّاظ، للذهبي. التذكرة الفخرية، للإربلي. تراث العرب العلمي، لقدري حافظ طوقان. ترويح القلوب في ذكر ملوك بني أيوب، للمرتضى الزّبيدي. التشوّف إلى رجال التصوّف، لابن الزّيات. التقييد لمعرفة رُواة السُّنَن والمسانيد، لابن نقطة. تكملة إكمال الإكمال، لابن الصابوني. التكملة لكتاب الصلة، لابن الأبار. التكملة لوفيات النَقَلة، للمنلري،

تلخيص ابن مكتوم (مخطوط).

تلخيص مجمع الآداب في معجم الألقاب، لابن الفوطي.

تهذيب تاريخ دمشق، لبدران.

توضيح المشتبه، لابن ناصر الدين.

الجامع، للترمذي.

جامع المسانيد، للخوارزمي.

جلوة الإقتباس فيمن حل من الأعلام بمدينة فاس، لابن القاضي.

الجواهر المضيّة في طبقات الحنفية، للقُرشي.

الجوهر الثمين، لابن دقماق.

حُسن المحاضرة، للسيوطي.

خيريدة القصر وجريدة العصر، للعماد الإصفهاني.

خلاصة اللهب المسبوك، للإربلي.

خريدة القصر وجريدة العصر، للعماد الإصفهاني. أخلاصة اللهب المسبوك، للإربلي. دائرة المعارف الإسلامية. دائرة معارف البستاني. المدارس في تاريخ المدارس، للنُعَيمي. المدر المطلوب في تاريخ ملوك بني أيوب، لابن أيبك الدواداري. المر المنثور. الدياج المذهب في معرفة علماء المذهب، لابن فرحون. ديوان الإسلام، لابن الغزي. ديوان الإسلام، لابن الغزي. ديوان الإسلام، لابن الغزي. ديوان الحيص بيص، نشره مكي السيد جاسم، وشاكر هادي شكر.

الذهب المسبوك فيمن حج من الملوك، للمقريزي. ذيل تاريخ الأدب العربي، لبروكلمان. ذيل تاريخ بغداد، لابن النجار. ذيل التقييد لمعرفة رواة السُنن والمسانيد، لقاضي مكة. الذيل والتكملة لكتابي الموصول والصلة، للمراكشي.

ذيل الروضتين، لأبي شامة. الذيل على طبقات الحنابلة، لابن رجب. رايات المبرزين. الرسالة المستطرفة، للكتّاني. رفع الاصر عن قُضاة مصر، لابن حجر. الروضتين في أخبار الدولتين، لأبي شامة. ز زاد المسافر، لصفوان بن إدريس. زُبُدة التواريخ، للحسيني. زبدة الحلب في تاريخ حلب، لابن العديم. الزهرة، لأبي بكر الإصفهاني. السّلك الناظم. السلوك لمعرفة دول الملوك، للمقريزي. سلوة الأنفاس. سنا البرق الشامي، للبُنْداري. سؤالات الحافظ السلفي. ش شاعرات العرب، لعبد البديع صقر. شجرة النور الزكية، لمخلوف. شذرات الذهب، لابن العماد الحنبلي. شفاء القلوب في مناقب بني أيوب، للحنبلي. صبح الأعشى في صناعة الإنشا، للقلقشندي. صحيح البخاري. صحيح مسلم. صلة الصلة، لابن الزبير.

صيد الخاطر.

طبقات أعلام الشيعة، للطهراني. طبقات الأولياء، لابن الملقن. طبقات الحفاظ، للسيوطي. الطبقات السنية في تراجم الحنفية، للغزّي. طبقات السافعية، لابن قاضي شهبة. طبقات الشافعية، لابن كثير (مخطوط). طبقات الشافعية، لابن هداية الله. طبقات الشافعية، للإسنوي. طبقات الشافعية الكبرى، للسبكي. طبقات الشافعية الكبرى، للسبكي. طبقات الكبرى، للشعراني. الطبقات الكبرى، للشعراني. طبقات المفسّرين، للداوودي. طبقات المفسّرين، للداوودي. طبقات المفسّرين، للسيوطي. طبقات المفسّرين، للسيوطي. طبقات النُعَاة واللُغَويّين، لابن قاضي شهبة (مخطوط).

ع

العِبرَ في خبر من غبر، للذهبي.
العسجد المسبوك، للخزرجي.
العِقْد الثمين في تاريخ البلد الأمين، لقاضي مكة.
عقد الجُمان، للميني (مخطوط).
العقود اللؤلؤية، للخزرجي.
عيون الأنباء في طبقات الأطباء، لابن أبي أصيبعة.
عيون التواريخ، لابن شاكر الكتبي.

غ

غاية في النهاية في طبقات القرّاء، لابن الجزري. غربال الزمان، للعامري (مخطوط بخزانة نصيف بجُدَّة).

ف

الفخري في الآداب السلطانية، لابن طباطبا.

فهرست ما رواه عن شيوخه، للإشبيلي. فوات الوَفيّات، لابن شاكر الكتبي.

ق

القاموس المحيط، للفيروزأبادي. قضاة دمشق، للنُعَيمي.

ك

الكامل في التاريخ، لابن الأثير. كشف الصلصلة عن وصف الزلزلة، للسيوطي. كشف الظنون عن أسامي الكتب والفنون، لحاجّي خليفة. كنوز الأجداد.

الكواكب الدُّريّة في تراجم السادة الصوفية، للمناوي.

ل

اللُّباب في تهذيب الأنساب، لابن الأثير. لبنان من السيادة الفاطمية حتى السقوط بيد الصليبيّين (تأليفنا). لسان الميزان، لابن حجر. اللمعات البرقية في النُكَت التاريخية، لابن طولون.

٢

مآثر الإنافة في معالم الخلافة، للقلقشندي. محيط المحيط.

مختصر التاريخ، لابن الكازروني.

مختصر تاريخ دمشق، لابن منظور.

المختصر في أخبار البشر، لأبي الفداء.

المختصر المحتاج إليه من تاريخ ابن الدبيثي، للذهبي.

مرآة الجنان وعبرة اليقظان، لليافعي.

مرآة الزمان، لسبط ابن الجوزي.

مراصد الإطلاع على منجم العمران، للعمراني.

مسالك الأبصار في ممالك الأمصار، لابن فضل الله العُمري.

مستفاد الرحلة والاغتراب، للتجيبي.

المستفاد من ذيل تاريخ بغداد، للدمياطي.

المُسْنَد، للإمام أحمد. المشتبه في الرجال، للذهبي. مشيخة ابن السمعاني (مخطوط). مشيخة النقال. المصباح المضيء في خلافة المستضيء، لابن الجوزي. مضمار الحقائق وسرّ الخلائق، للأيّوبي. المُطْرب، لابن دحية الكلبي. المُعْجَب في تلخيص أخبار المغرب، للمراكشي. معجم السفر، للسلفي (مصور). معجم السفر، للسلفي، بتحقيق بهجة الحسني. معجم شيوخ الذهبي. المعجم في أصحاب القاضي أبي على الصدفي، لابن الأبار. معجم طبقات الحفّاظ والمفسّرين، للسيروان. معجم المطبوعات العربية، لسركيس. معجم المؤلفين، لكحالة. معرفة القراء الكبار، للذهبي. المعين في طبقات المحدّثين، لللهبي. المغرب في حُلى المغرب، لابن سعيد. المغنى في الضعفاء، للذهبي. مفتاح السعادة، لطاش كبري زادة. مفرّج الكروب في أخبار بني أيوب، لابن واصل. المقفّى الكبير، للمقريزي. الملابس المملوكية، لماير. مِلْء العيبة بما جُمع بطول الغَيْبة، للفِهْري. منامات الوهراني. المَنّ بالإمامة، لابن صاحب الصلاة. منتخبات التواريخ لدمشقي، للمحصني. المنتخب من مخطوطات الحديث بالظاهرية، للألباني. المنتظم، لابن الجوزي. من حديث خيثمة الأطرابلسي، (بتحقيقنا). المواعظ والاعتبار بذكر الخطط والآثار، للمقريزي. موسوعة علماء المسلمين في تاريخ لبنان الإسلامي، (تأليفنا).

ن

النجوم الزاهرة في ملوك مصر والقاهرة، لابن تغري بردي. نزهة الجلساء في أشعار النساء، للسيوطي. نفح الطيب من غصن الأندلس الرطيب، للمقري. -نقد كتاب معجم السفر، للدكتور بشّار عوّاد معرّوف (مجلّة المورد). نكت الهميان في نكت العميان، للصفدي. نهاية الأرب في فنون الأدب، للنويري. النوادر السلطانية في المحاسن اليوسُفية، لابن شدّاد.

نيل الابتهاج، للتنبُّكْتي.

هدية العارفين، للبغدادي.

الوافي بالوفيات، للصفدي. الوفيات، لابن قنفذ. وفيات الأعيان، لابن خَلَّكان.

(rv)

فهرس تراجم الأعلام على حروف المعجم

حرف الألف

139	١٠٦ ـ إبراهيم بن أحمد
277	۲۹۸ ـ إبراهيم بن أحمد بن عبد الرحمن بن عثمان
۳،۳	٣٣١ ـ إبراهيم بن حسين بن يوسف بن محارب
٩٤.	٣١ ـ إبراهيم بن خلف بن الحبيب
171	١٤٤ ـ إبراهيم السُّلَمي بن علي
۲•۷	١٤٥ ، ١٩٦ ـ إبراهيم بن عليّ بن مواهب
٥٢٣	٣٦٢ ــ إبراهيم بن محمد
377	٢٤٦ ــ إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران
	٣٩٣ ـ أبو بكر بن إسماعيل الحراني
	٣٩٤ ـ أبو جعفر بن هارون
	٣٩٥ ـ أبو الفتح
727	٢٦٥ ــ أبو الفهم بن فتيان بن حيدرة
	٣٩٦ ــ أبو الوفا أ
110	٦٦ ـ أحمد بن أحمد بن عبد العزيز بن أبي يَعْلى
	١٠٢ ـ أحمد بن أحمد بن على
198	١٩٢ ـ أحمد بن أحمد بن علي بن حمدي
	٢٦٦ ـ أحمد بن أبي الحسن بن علي بن أحمد بن يُحيى بن
788	حازم بن علي بن رفاعة
Y•V	١٤٥، ١٩٥ ـ أحمد بن أبي الوفاء بن عبد الرحمن بن عبد الصمد
117	٦٧ _ أحمد بن حامد بن الفرات بن أحمد بن مهدي
۲۳.	٢٣٩ _ أحمد بن حُمَيْد بن الحسن
	١٣٨ ـ أحمد بن عبد الرحمن بن الحسن
	١٣٩ ـ أحمد بن عبد الرحمن بن سلمان بن حمزة بن الخضر

98	٢٠ _ أحمد بن عبد العزيز بن الفضل بن الخليع
190	١٩٢ ـ أحمد بن عبد الله بن الإمام أبي بكر محمد بن أحمد
	٢٤٠ ـ أحمد بن عبد الملك بن عُمَيْرة
۱۳۸	١٠٢ _ أحمد بن علي بن أحمد بن هبة الله بن محمد بن علي بن المهتدي بالله
	١٠٤ _ أحمد بن علي بن الحسين بن الناعم
	٢٤٢ _ أحمد بن علي بن سعيد
	١ ــ أحمد بن علي بن محمد بن العباس
221	٢٤١ _ أحمد بن علي بن محمد بن عبد الملك بن سليمان بن سند
	٣٢٩ ــ أحمد بن علي بن معمّر بن رضوان
	٣٣٠ ـ أحمد بن المبارك بن دَرَك
	٢٤٤ ـ أحمد بن محمد بن أبي القاسم
190	١٩٤ _ أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم
277	۲۹۷ _ أحمد بن محمد بن سليمان بن محمد
17.	١٤١ ـ أحمد بن محمد بن عبد الرحمن
109	١٤٠ _ أحمد بن محمد بن عبد الرحمن ابن الدَّيْنُوري
۲۳۳	٢٤٣ ، ١٩١ _ أحمد بن محمد بن علي بن هبة الله بن عبد السلام ١٩٤ ،
111	٦٨ _ أحمد بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بكروس
۹٤.	٣٠ _ أحمد بن محمد بن هبة
	١٤٢ ــ أحمد بن مسعود بن عبد الواحد بن مطهر
707	- أحمد بن المسلم
1	٢٤٥ _ أحمد بن مواهب بن حسن
144	١٠٥ أحمد بن نصر بن تميم
117	٦٩ _ أرسلان بن طُغْرُك بن محمد بن مَلِكْشاه
177	١٤٦ ـ إسحاق بن موهوب بن أحمد بن محمد بن الخضر
٥٢٣	٣٦٣ ـ إسحاق بن هبة الله
149	١٠٧ _ أسعد بن بلدرك بن أبي اللقاء
175	١٤٨ ـ إسماعيل بن أبي القاسم نصر بن نصر١٤٨
٩٥.	٣٢ ـ إسماعيل بن عبد الرحمن بن يحيى بن إسماعيل
٥٢٣	٣٦٤ _ إسماعيل بن غانم بن خالك
(77	١٦٦ ـ إسماعيل بن فاسم الريات
347	٢٤٧ _ إسماعيل بن الملك الصالح نور الدين

177 771	١٤٧ ــ إسماعيل بن موهوب بن الجواليقي
Y11	ـــ إسماعيل الوائلي
٣٢٦	٣٦٥ _ إسماعيل بن يونس بن سلمان
YTV	٢٤٨ ــ أشرف بن هبة الله
٠,٠٠٠	١٤٩ ـ إليسَع بن عيسى بن حزم بن عبد الله بن إليَسع .
٣٠٣	٣٣٢ ـ إيلغازي بن ألبي بن تمرتاش بن إيلغازي بن أرتة
Y•V	١٩٧ ـ أيوب بن محمد بن وهب بن أيوب
	حرف الب
YVV	٣٠٠ ـ بُجَيْر بن علي بن بُجَيْر
۲۰۸	١٩٨ ـ يلار١٩٨
	٠٠٠ . ٣٣٣ ـ بدر بن عبد الغني بن محمد
٩٥	۳۳ ـ بشير الهندي۳۳
18	١٠٨ ـ بن أبي الفوارس بن أبي بكر
	٨٣ ـ بن حَيْثُرة
ن عيشونن	٧٨ ـ بن عبد الله بن عبد الرحمن بن مسعود بر
۲٦٥	
189	١١٥ ـ بن محمد بن مسعود بن السَّدنك
1.7	٤٦ ــ , بن محمد بن هبة الله
YVA	۳۰۱ ـ بوري
ناء	حرف الت
178	١٥٠ ــ تَجَنَّى أَم عِتْبِ الوهبانية
	٣٠٢ تقيّة
YTV	٧٤٩ ـ تمرتاش
۲۰۸	١٩٩ ــ تورانشاه
ناء	حرف ال
YAE	٣٠٣ ــ ثعلب بن مذكور بن أرنب
داء	
	٣٦٦ ـ حبيب بن إبراهيم بن عبد الله
۰۲۸	١٥١ ـ الحجاج بن علي بن حجاج

90	٣٤ ـ الحجاج بن يوسف الهواري
<i>IT</i>	٢ _ المحسن بن إبراهيم بن محمد٢
11A	٧٠ _ الحسن بن أحمد بن محمد بن أحمد٧٠
Y07	٢٦٧ ــ الحسن بن أحمد بن محمد بن المعمّر
90	٣٥ ـ الحسن بن سعيد بن أحمد بن الحسن بن البنّا
YAE	٣٠٤ _ الحسن بن سعيد بن عبد الله بن بندار
۲۸۰	٣٠٥ ــ الحسن بن عسكر
97	٣٧ _ الحسن بن عبد الجبار٣٧
٩٦	٣٦ _ الحسن بن عبد الله بن هبة الله ابن المسلمة
Yot	٢٦٨ ــ الحسن بن علي بن الحسين بن شيرُويْه
18	١٠٩ _ الحسن بن علي بن محمد بن فرج
97	۳۸ ــ الحسن بن علي بن نهر بن محمد بن خميس
۳۰٤	٣٣٤ _ الحسن بن عيسى بن أصبغ
γλΥ γλΥ	٣٠٧ ـ الحسن بن هبة الله بن رُطُبّة
Υο γ	٢٦٩ ـ الحسن بن هبة الله بن محمد بن علي بن المطلب
٠٠٠٠	١٥٢ ــ الحسن المستضيء بأمر الله
٣٠٤	٣٣٥ ــ الحسين بن علي بن عبد الواحد بن شبيب
	٣٠٦ _ الحسين بن القاضي أبي الحسن أحمد ابن قاضو
u	القضاة على بن محمد
77	۳
مد بن شیث بن نصر بن	٢٠٠ _ حمّاد بن إبراهيم بن إسماعيل بن إسحاق بن أح
۲۱۰	شيث بن الحكم بن افلًا بن أبان بن عُقْبَة بن يزيد
	حرف الخ
	-
ې بن صوص	٢٧٠ ـ الخضر بن هبة الله بن أحمد بن عبد الله بن علم
شکوال بن	۲۷۱ _ خلف بن عبد الملك بن مسعود بن موسى بن بـ
'οΛ	يوسف بن داحة
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	۲۰۱ ـ خلف بن يحيى بن خطاب
7	٢٧٢ _ خليفة بن المسلم بن رجاء
ال	حرف الا
	٧١ _ داود بن محمد بن الحسن بن خالد
	۷۱ _ داود بن محمد بن المحس بل محمد

119	٧٢ ــ داود بن يزيد
الراء	حرف
Y11	
الزاي	حرف
-	٣٦٧ ــ زاهر بن إسماعيل بن أبي القاسم
٣٠٥	٣٣٦ _ زهير بن محمد بن أحمد بن أبي سعيد
181	۱۱۰ ــ زید بن نصر بن تمیم
السين	
	٢٠٢ ــ سالم بن إسحاق بن الحسين
٣٢٦	٣٦٨ ـ سالم بن عبد السلام بن علوان
	١٥٣ ـ سالم بن علي بن سلامة
YAY	٣٠٨ ــ سُبَيْع بن خلفٌ بن محمد
	٣٣٧ _ السديد
۳۲۹	٣٧١ ـ السّموأل بن يحيى بن عياش
٣٠٦	٣٣٨ _ سعد بن الحسن بن سلمان
1 1 1	١١١ ــ سعد بن محمد بن سعد بن صَيْفي
١٤٤	١١٢ ــ سعد الله بن نجا بن محمد بن فهد
	۲۰۳ _ سعيد بن الحسين بن سعيد بن محمد
	١٥٤ ـ سعيد بن عبد الله بن أحمد بن مفضَّل
۲۱۳	٢٠٤ ــ سعيد بن عبد الله بن القاسم
٣YV	٣٦٩ ـ سلامة الصياد
۲۱۳	۲۰۵ _ سليمان بن أحمد بن سليمان
۲ ۳۸	۲۵۰ _ سلیمان بن أرسلان
718	۲۰٦ ــ سليمان بن محمد بن حسن
P77	۳۷۰ ـ سليمان بن محمد بن سليمان
حرف الشين	
179	١٥٥ _ شافع بن صالح بن حاتم
179	١٥٦ ـ شهاب بن أبي الفوارس محمد بن هبة الله
ر الدينوري ثم البغدادي الإبري ١٤٥	١١٣ ـ شُهُدة بنت أبّي نصر أحمد بن الفَرَج بن عمر

حرف الصاد

٣٠٠ _ صالح بن عبد الرحمن بن علي بن زرعان
١١٤ ــ صالح بن عبد الملك بن سعيد
٣٥ _ صالح بن المبارك بن محمد بن عبد الواحد ٩٦
۳۷۲ ـ صالح بن وجیه بن طاهر بن محمد
٧٢ _ صَدَقَة بن الحسين بن الحسن بن بختيار٧٢
حرف الطاء
٣١٠_ طاهر بن عطية
٤ _ طُغْدي بن خُمارتِكِين
حرف الظاء
٤٠ _ ظَفَر بن عمر
حرف العين
٣٧٣ ـ عباس بن أبي الرجاء بن بدر٣٠٠
٧٤ _ عبد الباقي بن أبي العزّ بن عبد الباقي ابن الكوّار٧٤
٣٧٥ ـ عبد الجبّار بن محمد بن علي بن أبي ذر الصالحاني٣٢١
٧ _ عبد الحق بن سليمان٧
١٥٩ _ عبد الحق بن عبد الخالق بن أحمد بن عبد القادر بن محمد بن يوسف ١٧٠
٧٥ _ عبد الرحمن بن أبي القاسم أحمد بن محمد بن أحمد بن
مخلد بن عبد الرحمن
٢١٤ ــ عبد الرحمن بن أحمد بن محمد بن أحمد
●عبد الرحمن بن خلف الله بن عطيَّة
٢١٣ _ عبد الرحمن بن عبد العزيز بن محمد بن عبد الرحمن بن علي بن
عبد الرحمن بن سعيد بن حُمَيْد بن أبي العجائز٧١
٢٥١ ـ عبد الرحمن بن محمد بن عُبيّد بن أبي سعيد٣٨
٨ ـــ عبد الرحمن بن محمد بن محمد٨
٣٤٠ عبد الرحيم بن أبي البركات إسماعيل بن أبي سعيد أحمد بن محمد ٧٠٠
١٢٠ _ عبد الرحيم بن عبد الخالق بن أحمد بن عبد القادر بن محمد بن يوسف ٥٠
٣٤١ ـ عبد الرحيم بن عمر بن عبد الرحيم بن أحمد

۱۳۳	٣٧٦ ـ عبد الرزاق بن إسماعيل بن محمد بن عثمان
	٤٤ ــ عبد الصمد بن سعد بن أحمد بن محمد
	٢٥٢ ـ عبد الصمد بن علي
۱۲۳	٧٦ ـ عبد العزيز بن أحمد بن غالب٧٦
	٢١٥ ــ عبد العزيز بن عبد الواحد بن عبد الماجد بن عبد الواحد بن
۲۱۸	القاسم القشيري
137	٢٥٣ ــ عبد القادر بن علي بن نوقة
٣.٩	٣٤٢ ـ عبد القادر بن هبة الله الغضائري
	٧٧ ـ عبد الكريم بن عسكر٧٧
	٣٤٣ _ عبد اللطيف بن محمد بن ثابت
	٣١١ ـ عبد الله بن أحمد بن أبي الفتح بن محمد بن أحمد
۱۷۰	١٥٧ _ عبد الله بن أحمد بن بكران
۱۷۰	١٥٨ ــ عبد الله بن أحمد بن علي بن قرشي
771	٢٧٤ ــ عبد الله بن أحمد بن محمد بن عبد القاهر
777	٢٧٥ _ عبد الله بن أحمد بن محمد بن علي بن خَميس
٦٧.	٥ _ عبد الله بن حمزة بن محمد بن سماًوة
189	١١٦ ــ عبد الله بن الخضر بن الحسين
110	۲۰۸ ـ عبد الله بن خلف بن محمد بن حبيب بن فرقد
٩٨.	٤٢ ــ عبد الله بن عبد الرحمن بن يحيى بن إسماعيل
	٢٧٦ ــ عبد الله بن عبد الله
۰۳۲	٣٧٤ ـ عبد الله بن عبد الواحد بن الحسن بن المفرج
99	٤٣ ـ عبد الله بن عطاف
189	١١٧ ـ عبد الله بن عِمر بن عبد الله بن عمر
	٣١٢ ــ عبد الله بن فَرَج
778	٢٧٨ ــ عبد الله بن القاضي أبي خازم محمد بن القاضي أبي يعلى بن الفرّاء
418	٢٠٧ ـ عبد الله بن المحدّث عبد الرحمن بن أحمد بن علي بن صابر السلمي
٩٧.	٤١ _ عبد الله بن محمد بن خلف بن سعادة
	٦ _ عبد الله بن محمد بن سهل٦
	٢١٦ ــ عبد الله بن محمد بن عبد الله بن هبة الله ابن رئيس الرؤساء
10.	۱ ۲۸ عبد الله بن محمد بن علي بن خلف
10.	١١٩ ــ عبد الله بن محمد بن عيسي

٣٠٧	٣٣٩ ـ عبد الله بن محمد بن وقاص
	۲۰۹ ــ عبد الله بن مغیث بن یونس بن محمد بن مغیث بن
۲۱٦	محمد بن يونس بن عبد الله بن مغيث
	۲۷۷ ـ عبد الله بن يحيى بن عبد الله بن فتوح
	٢١٢ ـ عبد الله بن يحيى بن علي بن هلال
	٢١٠ ـ عبد الله بن يزيد بن عبد الله
۲۱۷	٢١١ ــ عبد الله بن يونس بن علي بن محمد
	١٦٠ ــ عبد المسحن بن تُرَيْك بنُّ عبد المحسن بن تريك
	٣٧٧ ـ عبد الملك بن محمد بن عبد الملك
	١٦١ ـ عبيد الله بن أحمد بن محمد بن قدامة
	١٢١ ـ عبيد الله بن عبد الله بن خلف بن عياش
۳.4	٢٤٤ ــ عبيد الله بن علي بن محمد بن محمد بن الحسين بن الفراء
۱۳۳	٣٧٨ ـ عبيد الله بن محمّد بن التميمي
	٣٤٥ ــ عتيق بن أحمد بن سلمون
	٧٩ ـ عتيق بن عبد العزيز بن علي بن صيلا
	٩ _ عثمان بن عبد الملك٩
۳۱.	٣٤٦_ عثمان بن محمد بن عيسى
	٢٥٤ ـ عثمان بن يوسف بن أبي بكر بن عبد البرّ بن
787	سيدي بن ثابت
	١٦٢ ــ عَلَم زوجة الشيخ محمد بن يحيى الزَّبيدي
79	١٠ _ علي بن إبراهيم بن عيسى بن سعد الخير
٣٣٢	٣٨٤_ علَّي بن أبي القاسم بن أبي حتَّون
419	٢١٧ ـ عليّ بن أحمد بن محمد بن بكروس
۱۷۲	١٦٣ ـ عليّ بن أحمد بن محمد بن عمر بن حسن
770	۲۸۰ ـ عليّ بن أنوشتكين
۲۳۲	۳۷۹_ علي بن بركات
٧٠	١١ _ علي بن الحسن بن هبة الله بن عبد الله بن الحُسَيْن
770	٢٨١ ـ. على بن الحسين
۲۳۲	٨٠، ٣٨٠ ـ علي بن الحسين بن علي اللَّواتي
	١٦٤ ، ١٦٤ _ علي بن حُمَيْد بن عمّار ٨٦٠
104	١٢٥ ـ على بن نجلف بن العريف

TTT	٣٨٠ ـ علي بن خلف بن غالب
بن عبد الملك	٢١/ على بن عبد الرحيم بن الحسين
140	٨١ _ على بن عبد الله بن حمُّود
عوّامعوّام	20 _ على بن عساكر بن المُرَحِّب بن ال
Y4	٣١٣ _ على بن على بن نَمَا بن حمدون
101	۱۲۲ ـ. علي بن عيسى بن هبة الله
مد بن بكريمد بن بكري	۱۳ _ على بن المبارك بن أحمد بن محا
787	٢٥٥ _ على بن محمد بن الحسن
٣١١	٣٤٨ ــ على بن محمد بن عبد الملك
۳۱۱	۳٤٧ ـ على بن محمد بن عبد الوارث .
107	۱۲۳ ـ على بن محمد بن عيسى ١٢٣
عمد بن بکروس 	٢١٩ _ على بن محمد بن المبارك بن أ-
TTT	٣٨٢ ـ على بن محمد بن ناصر
ن الظَّهِيرين الظُّهِيري	١٤ _ على بن المظفّر بن على بن حسير
104	۱۲٤ ـ على بن مَهْدى بن على بن قلينا
ΨΨΨ	٣٨٣ _ على بن هبة الله٣٨٣
١٧٥	١٦٥ _ على بن هبة بن على بن خلدون
يد الله ١٧٦	١٦٧ _ عيسي بن أحمد بن محمد بن عب
\YY	١٦٨ _ عيسى بن الإمام المسترشد بالله
דרץ	۲۸۲ ـ عيسي بن عمران
177	٢٢٠ ـ عمر بن عبد الرحمن بن عدرة
الله بن عليا ١٧٥	١٦٦ _ عمر بن على بن الخَضر بن عبد
ن علي بن حمویه	٢٥٦ _ عمر بن على بن الزاهد محمد بر
۔ یخضر بن مسافرمسافر	١٢٦ _ عمر بن محمد بن عبد الله بن ال
٨٥	١٥ _ عمر بن هديّة بن سلامة
حرف الغين	
YYY	۲۲۱ ـ غازي
ادية١٢٦	
108	۱۲۷ _ فتح بن محمد بن فتح
بن شاذي۲٦٦	۲۸۳ ـ فروخشاه بن شاهنشاه بن ايوب ا

حرف القاف

١٧٧ .	١٦٩ ـ القاسم بن عبد الرحمن بن دحمان
۳۳٤ .	٣٨٥ ـ القاسم بن علي بن صالح
Y7V .	٢٨٤ ـ القاسم بن عمر
	حرف الكاف
	•
108.	۱۲۸ ــ كرم بن أحمد بن عبد الرحمن بن قتيبة
Y9.	٣١٤ ــ کرم بن بختيار بن علي
۱۲۲ .	٨٤ ـ كُمُشْتِكِين
	حرف اللام
۱۳٦ .	٩٨ ــ لاحق بن علي بن منصور بن كارة
	حرف الميم
۹۱	٢٤ _ مبارك بن الحسن
١١٠.	٥٦ _ المبارك بن عبد الجبار بن محمد
۱۸۷ .	١٨٢ ـ المبارك بن محمد بن عبد الكريم بن أبي الفوارس
	٢٢٦ ـ المبارك بن عبد الله بن محمد
	١٨٠ ــ المبارك بن علي بن الحسين بن عبد الله بن محمد
	۲۲۰ ـ المبارك بن على بن محمد بن خلف
	۲۲۷ ـ المبارك بن المبارك بن محمد بن أحمد بن حكيم
	۱۸۱ ـ المبارك بن محمد بن أحمد بن محمد بن قيداس
	۷۰ _ المبارك بن محمد بن المبارك
	۲۲۸ ـ المبارك بن محمد بن محمد بن العرمرم
	۱۳۶ ـ المبارك بن محمد بن مكارم بن سكينة
۳۱۷	
۹۱	
	١٧٣ ــ محمد ابن قاضي القضاة أبي الحسن علي بن أحمد بن
۱۷۹	
	علي بن محمد بن علي
77	٢١ ــ محمد ابن الوزير على بن طِراد الزينبي٢١

٣ ــ محمد بن أبي بكر محمد بن عبد الرحمن٣
٣٢٣ _ محمد بن أبي الأزهر علي بن أحمد بن محمد بن علي بن يوسف
١٧٦ ــ محمد بن أبي غالب بن أحمد بن مرزوق
٣٤٩ ـ محمد بن أحمد بن أبي علي
٣٥٠ _ محمد بن أحمد بن أبي علي محمد بن سعيد بن نبهان
١٦ ــ محمد بن أحمد بن أحمد بن سليمان١٦
٣١٥ ــ محمد بن أحمد بن بلال
٣١٦ ـ محمد بن أحمد بن حمزة بن جياه
٣٥١ ـ محمد بن أحمد بن طاهر
٨٥ _ محمد بن أحمد بن عبد الجبار٨٥
٢٨٥ _ محمد بن أحمد بن عبيد الله بن حسين
١٢٩ ــ محمد بن أحمد بن عبيد الله بن عبد الرحمن
١٧٠ ــ محمد بن أحمد بن الفرج١٧٠
٤٧ ــ محمد بن أحمد بن أبي الفرج بن ماشاذة
٣١٧ ـ محمد بن أحمد بن محمد
٢٥٧ ـ محمد بن أحمد بن محمد بن عبد العزيز
٨٦ _ محمد بن أحمد بن هبة الله بن محمد٨٦
٨٧ ــ محمد بن أسعد حَفَدة العطاري٨٧
١٧ ـ محمد بن أسعد بن محمد بن الحسين
٣١٨ ـ محمد بن بختيار
۸۸ ــ محمد بن بدر بن عبد الله
۸۹ ــ محمد بن بُنَيْمان بن يوسف۸۹
٣٨٦ ـ محمد بن التّآبلان٣٨٦
٣١٩ ـ محمد بن جعفر بن عقيل
۲۲۲ _ محمد بن حامد
١٨ _ محمد بن الحسن بن علي بن هلال بن همصا بن نافع
١٧١ ــ محمد بن الحسين بن الحليل المخليل المحمد بن الحليل المحمد بن الحسين بن الحليل المحمد بن الحمد بن
١٩ ــ محمد بن الحسين بن محمد بن المعلم
٣٥٢ _ محمد بن حمزة بن محمد بن أحمد بن سلامة بن أبي جميل

٣١٥	٣٥١ ــ محمد بن خالد بن بختيار
	۱۷۱ ــ محمد بن خير بن عمر بن خليفة
	٣٥٤ _ محمد بن سعيد بن عبيد الله
	٤٨ _ محمد بن سعيد بن محمد بن عمر
	رع _ محمد بن عبد الباقي بن أحمد بن علي النَّرْسي
	١٣٠ _ محمد بن عبد الرحمن بن أحمد
۳۳۰	
	۳۲۰ ـ محمد بن عبد العزيز بن علي بن عيسى
	٣٥٥ ـ محمد بن عبد الكريم بن الفضل
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	-
	٩٢ _ محمد بن عبد الله بن الحسين بن السَّكن
٣٣٥	 ٤٩ _ محمد بن عبد الله بن القاسم بن المظفَّر بن علي .
	۲۸۷ _ محمد بن عبد الله بن محمد
	٩١ _ محمد بن عبد الله بن هبة الله بن المظفَّر ابن رئيسر
	الرؤساء أبي القاسم علي ابن المسلمة
Y7X	٢٨٦ _ محمد بن عبد الملك بن علي بن محمد
	۲۵۸ ـ محمد بن عبد الملك بن مسعود بن بشكوال
	٢٢٣ ــ محمد بن عبيد الله بن أحمد بن محمد بن هشام .
	۲۰ _ محمد بن عبيد الله بن علي
Y٦ λ	۲۸۷ _ محمد بن عتیق بن عطاف
۲۵۱	۱۳۱ ــ محمد بن علي بن أحمد بن واصل
١٨٠	١٧٤ _ محمد بن علي بن حمزة بن محمد
tto	٣٨٨ _ محمد بن علي بن عبد الله بن علي
rry	٢٢٤ _ محمد بن علي بن محبوب
١٠٧	٥١ _ محمد بن علي بن محمد بن مهنَّد
1+Y	o۲ _ محمد بن غالب
	.٠٠ . ١٧٥ ــ محمد بن القاضي عياض بن موسى بن عياض
" "	۳۹۰ ـ محمد بن کشیلة
	٢٨٩ _ محمد بن مالك بن أحمد بن مالك
ΑΥ	٧٧٨ _ محمل برد محرز

1.9	٥٥ محمد بن المحسِّن بن الحسين بن أبي المضاء .
	۹۶ ــ محمد بن ميدمان
1AY	١٧٧ ــ محمد بن محمل
بن لبيب	٢٣ _ محمد بن محمد بن أحمد بن خلف بن إبراهيم
الجنيد ٢٩٦	٣٢١ ـ محمد بن محمد بن الجُنَيْد بن عبد الرحمن بن
Y97	٣٢٢ ــ محمد بن محمد بن حمزة بن أبي حبيش
	٢٢ _ محمد بن محمد بن حمود
788	٢٥٩ _ محمد بن محمد بن شجاع بن أحمد بن علي .
	۲۸۸ ــ محمد بن محمد بن عبد الرحمن بن أبي بكر .
1.4	٥٣ ــ محمد بن محمد بن عَبْدَكان
	۱۷۹ ـ محمد بن محمد بن محمد بن عثمان
	۲۲۵ ــ محمد بن محمد بن مواهب
188	٩٣ _ محمد بن محمد بن هبة الله بن أحمد بن منصور
1.9	٥٤ _ محمد بن محمود بن محمد
	١٣٢ ـ محمد بن نسيم بن عبد الله
10V	١٣٣ ــ محمد بن هبة ألله بن عبد الله
	٣٥٨ ـ محمود بن أبي القاسم بن عمر بن حمكا
١٨٧ ، ١٣٠٠	۹۰، ۱۸۳ ــ محمود بن تَكَشّ
	٣٩١ ـ محمود بن محمد
111	۵۸ ــ محمود بن محمد بن عبد الواحد بن ماشاذة …
	٣٢٤ ـ محمود بن نصر بن حماد بن صدقة بن الشعار
ΥΥ•	۲۹۰ ــ مروان بن عبد الله بن مروان بن محمد
	٢٦ ــ مسعود بن الحسين بن سعد
	٥٩ _ مسعود بن عبد الله بن عُبَيّد الله
777	۲۲۹ ــ مسعود بن عمر الملاح
YY1	۲۹۱ ـ مسعود بن محمد بن مسعود
	٢٣٠ ـ مسعود بن محمود بن أحمد بن عبد المنعم بن
	۲۰ مسلم بن ثابت بن زید بن القاسم
	٢٣١ ـ مسلم بن عبد المحسن بن أحمد

١٥٨	١٣٥ _ المشرف بن على بن مشرف بن المسلم
انان	٣٩١ ـ المطهر بن عبد الكريم بن محمد بن عثر
، بن طاهر بن محمد الشحامي	۲۳۱ ـ مظفر بن خلف بن عبد الكريم بن خلف
YYV	
YY#	٢٩١ _ مَعَدٌ بن حسن بن عبد الله
Y9A	٣٢٠ ـ مُقَاتل بن عزّون
1AA	٠٠٠ ـ مكى بن محمد بن عبد الملك
1AA	١٨٥ _ منصور بن نصر بن منصور بن الحسين
19•	۱۸۲ ــ منوجهر بن محمد بن ترکانشاه
١٣٤	۹۵ منویه۹۵
١٥٨	• ــ المهذب بن النَّقّاش
TVT	۲۹۲ _ مه دو د
Y99	٣٢٦_ الموفق بن شوعة
رف النون	>
117	٦١ _ نصر بن سيّار بن صاعد بن سيّار
يَجًاج	٢٦٤ ـ نصر الله بن أحمد بن حمزة بن أبي الحَ
19	۱۸۷ _ نصر الله بن عبد الرحمن بن عبد السلا
١٥٨	١٣٦ ـ نفيس بن دينار١٣٦
رف الهاء	
ن محمد بن المأمون	٩٦ _ هارون بن العباس بن محمد بن أحمد بر
م	٢٦١ _ هاشم بن أحمد بن عبد الواحد بن هاش
ىد بن محمد بن مخلد	٢٦٣ ـ هبة الله بن أبي الكرم نصر الله بن محم
	٣٥٩ _ هبة الله بن أبي نصر محمد بن هبة الله
YYA	
\ \Y	٦٢ _ هية الله بن على بن محمد بن زَنْبَقَة
ΥξΊ	٢٦٢ ـ هبة الله بن المبارك بن بكري الحريمي
	۹۷ ـ هبة الله بن محفوظ بن الحسن بن محما
١٣٥	
	-3 U. U. U.

YV£	٢٩٤ ـ هبة الله بن محمد بن هبة الله بن مميل
97	٢٧ _ هبة الله بن يحيى بن الحسن
118	٦٣ ــ هبة الله بن يحيى بن محمد بن هبة الله
لواو	حرف ا
ΛΥΥ	٢٣٦ ـ واثق بن الحسن بن علي
	٣٦٠ _ وشاح بن جواد بن أحمد
	٢٩٥ ــ وفاء بن أسعد بن النفيس بن البهي
لياء	حرف ا
١٥٨	١٣٧ ـ ياقوت النّقاش
118	٦٤ ـ يحيى بن أحمد
YV0	۲۹۲ ــ يحيى بن أحمد بن يحيى بن سيد بونه
	٢٨ ـ يحيى بن سعيد بن أبي الأسود
	٢٦٤ ــ ي <i>ىحىي بن علي بن يحيى بن العافية</i>
	٦٥ _ يحيى بن محمد بن أحمد بن إبراهيم
	٩٩ ـ يحيى بن موهوب بن المبارك بن السَّدنك
	۱۰۰ _ يحيى بن يوسف بن أحمد
	۳۲۷ ــ يوسف بن إبراهيم بن عثمان
	۱۸۸ ـ يوسف بن أحمد بن الحسين
	١٨٩ ـ يوسف بن عبد الله بن سعيد بن عبد الله بن أب
	٣٦١ ـ يوسف بن عبد المؤمن بن على
	١٩٠ ـ يوسف بن عمر بن الحسن
	١٠١ ــ يوسف بن محمد
	۔ ۲۳۷ ــ يوسف بن محمد بن علي بن أبي سعيد
YY9	٢٣٨ ــ يونس بن محمد
	۳۲۸ ــ يونس بن محمد بن منعة بن مالك بن محمد .

(LV)

الفهرس العام للهوضوعات الطبقة الثامنة والخمسون

سنة إحدى وسبعين وخمسمائة

•	جلوس ابن الجوزي تحت المنظرة
٥	القبض على أستاذ الدار صندل
٥	زواج بنت ابن الجوزي
٦	كلام ابن الجوزي تحت المنظرة
٦	كثرة الرفض
٧	خروج المستضيء إلى كشكه
	ولاية المخزن
٧	الفتنة بمكة
٨	وقعة تل السلطان
٩	قتوحات صلاح الدين
٩	كتاب فاضلى إلى الخليفة
1.	إستعراض صلاح الدين ذخائر ابن حسّان
١.	جرح السلطان من الحشيشية
١.	منازلة حلب
11	كسو ف الش مس
	سنة اثنتين وسبعين وخمسمائة
۱۲	وعظ ابن الجوزي
17	عرس ابنة ابن الجوزي
11	قص دجلة
۱۲	البَرَّد في بغداد

۱۲	وعظ ابن الجوزي بجامع القصر
۱۳	وقعة السلجوقي الطامع بالسلطنة
	الزلزلة بالريّ وقزوين
	معاقبة الطحان
	جلوس ابن الجوزي
۱۳.	وقعة الكنز
١٤.	أخذ صلاح الدين منبج
١٤	مصالحة صلاح الدين حلب
١٤	تخريب مصياف
١٥	ېئاء سور مصر
17	سماع السلطان من السُّلَفي
17	بناء تربة الشافعي
	met
	سنه تلاث وسبعين وخمسمائة
١٧ .	سنة ثلاث وسبعين وخمسمائة العفو عن تتامشالعفو عن تتامش العفو عن العدم الله المسلمانية المسلمانية المسلمانية المسلمانية المسلمانية
۱۷ . ۱۷ .	العفو عن تتامشالعفو عن تتامش العفو عن تتامش العفو عن تتامش العناد
۱۷ . ۱۷	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوی لابن الجوزي
۱۷ . ۱۷	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوی لابن الجوزي
\V . \V \A .	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي
\\ \\ \\ \\	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الربح ببغداد
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الريح ببغداد
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الريح ببغداد وقوع البرد
1V . 1A . 1A . 1A . 1A .	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الربح ببغداد وقوع البَرَد واغتيال الوزير ابن رئيس الرؤساء حجابة ابن طلحة الباب
1V . 1A .	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الربح ببغداد وقوع البَرَد اغتيال الوزير ابن رئيس الرؤساء حجابة ابن طلحة الباب ختية اليهود
1V . 1A	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلُّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الربح ببغداد وقوع البرد اغتيال الوزير ابن رئيس الرؤساء حجابة ابن طلحة الباب ختروج لصوص من الحبس
1V . 1A . 1A . 1A . 1A . 1A . 1A . 1Y . 1Y . 1Y . 1Y . 1Y . 1Y .	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فترى لابن الجوزي تكلُّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الريح ببغداد وقوع البَرَد اختيال الوزير ابن رئيس الرؤساء حجابة ابن طلحة الباب خروج لصوص من الحبس خروج لصوص من الحبس
1V	العفو عن تتامش وعظ ابن الجوزي فتوى لابن الجوزي تكلَّم ابن الجوزي بناء مسجد عظيم ببغداد هبوب الربح ببغداد وقوع البَرَد اغتيال الوزير ابن رئيس الرؤساء حجابة ابن طلحة الباب ختية اليهود

24	مطالعة القاضي الفاضل بقتل الوزيرمطالعة القاضي الفاضل بقتل الوزير
	سنة أربع وسبعين وخمسمائة
۲٤	جلوس ابن الجوزي في عاشوراء
4 8	كسوف القمر والشمسكسوف القمر والشمس
	ولادة ثلاثة توائم
	تجديد قبر أحمد بن حنبل
	تكلم ابن الجوزي في جامع المنصور
۲0	إطلاق تتامش
40	عمل الدكة بجامع القصر
40	حديث ابن الجوزي عن نفسه
۲٦	حكاية ابن الجوزي عن الرشيد
41	ظهور مشعبذ
41	قتل ابن قرایا الرافضي
44	امتناع الركب العراقي
27	هبوب ریح وظهور نار ببغدادهبوب ریح وظهور نار ببغداد
44	جلوس ابن الجوزي يوم عَرَفة
۲٧	اجتماع الفرنج عند حصن الأكراد
۲٧	تسلم صلاح الدين بعلبك
۲۸	،
۲۸	غارة البرنس على شيزر
۲۸	غارة صاحب طرابلس
4	إنعام السلطان على الملك المظفر
44	انشاء سور القاهرة
۳.	ختام كتاب المنتظم
	سنة خمس وسبعين وخمسمائة
۳١.	الظفر بذيل كتاب المنتظم
۳١.	وصول البشارة إلى بغداد بكسر الفرنج
۴١	وقعة مرج العيون

44	الظَّفَر ببُطْسَتَين للفرنجالنَّافَة ببُطْسَتَين للفرنج
٣٢	إنهزام سلطان الروم أمام المظفر تقي الدين
	وصول بعض أسرى الروم والغنائم إلى بغداد
٣٤	حجوبية ابن الدارع
۴٤	وصول ابن الشهرزوري رسولاً إلى بغداد
٣٤	عزل ابن الزوال عن النقابة بالزينبي
٣٤	الإرجاف بموت الخليفة
۲٤	التوقيع بولاية العهدالتوقيع بولاية العهد
٣0	إمتلاك الكردي قلعة الماهكي
۳٥	وفاة الخليفة المستضيء
٣٦	خلافة الناصر لدين الله
٣٦	القبض على ابن العطارالقبض على ابن العطار
٣٧	الخلعة بإمرة الحاجالخلعة بإمرة الحاج
٣٧	هتك ابن العطار بعد وفاته
	الوّباء والغلاء ببغدادالوّباء والغلاء ببغداد
٣٨	إرسال الخِلَع إلى ملوك الأطراف
	الزلزلة ببلاد الجبل
	سنة ست وسبعين وخمسمائة
49	عزل وتولية في نيابة الوزارة
	صلاة الناصر بجامع الرصافة
	قدوم رسول الملك طغرل
44	القبض على ابن الوزير
	وصول أمير الحاج
٣٩	خروج صلاح الدين لمحاربة الأرمن
	وصول النخلع إلى صلاح الدين
	ىن كتاب صلاح الدين إلى الخليفة الناصر
	سماع صلاح الدين «الموطّأ» في الإسكندرية
	قليد الخليفة البلاد لصلاح الدين

	1
	رصول رسول ابن عبّاد
	كوب الخليفة الدَّسْت
٣٤	قطاع طغرل البصرة
٤٣	خروج الخليفة للصيد
٤٣	ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ
	سنة سبع وسبعين وخمسمائة
٤٤	نخريب بلاد الكَرَك
٤٤	ركوب الخليفة في موكب
٤٤	معاتبة صلاح الدين على تسمّيه بالناصر
٤٥	أخَّذ عز الدين حلب
٤٥	مقايضة سنجار بحلب
	سنة ثمان وسبعين وخمسمائة
٢3	رخاء الأسعار بالعراق
	الوثوب على صاحب قلعة الماهكي
	الكتابة إلى صلاح الدين بالرحيل عُن الموصل
٤٦	فتح بلد كبير بالروم
٤٧	قتح حران وسروج وسنجار وغيرها
٤٧	ملك صلاح الدين حلبملك صلاح الدين حلب
٤٧	النجلعة بشرف الفتوة
٤٨	الخروج الأخير لصلاح الدين من مصر
٤٨	دخول سيف الإسلام اليمن
٤٨	وفاة فرُّوخشاه
	سنة تسع وسبعين وخمسمائة
٤٩	قدوم رسول ملك مازندران إلى الخليفة
٤٩	قتل مُستفت ستّ شافعي
٤٩	القبض على مجاهد الدين قايماز وإعادته
٩	مجيء الرُّسلية إلى صلاح الدين
	٠٠٠٠ <u>٠٠٠ </u>

٥٠	لفراغ من رباط المأمونيةلفراغ من رباط المأمونية
۰٥	قدوم الخُجَنْدي للحج
٥٠	كتاب فاضليّ إلى الديوان بتشتيت الفرنج
٥٢	تسلم صلاح الدين حلباً
٥٢	أَخْذُ الغوري ملك الهند غَزْنة
٥٣	عودة الرسلية بالتقدمة إلى بغداد
٥٣	وفاة نائب الوزارة وولاية ابن صدقة
٥٣	ولاية الحجابة
٥٣	وفاة شيخ الشيوخ ويشير
٥٣	منازلة صلاح الدين حلباً وتسلّمها
٤٥	البشارة بفتح القدس
٥٥	كتاب فاضلي بإبطال المكس بالرَّقة
٥٦	محاصرة السلطان الكرك
٥٧	نيابة الملك المظفر بمصر
٥٧	نيابة الملك المظفر بمصر
٥٨ ٥٨	سنة ثمانين وخمسمائة جَعْلُ مشهد الكاظم أمناً
٥٨ ٥٨ ٥٨	سنة ثمانين وخمسمائة جَعْلُ مشهد الكاظم أمناً
٥٨ ٥٨ ٥٨	سنة ثمانين وخمسمائة جَعْلُ مشهد الكاظم أمناً
0 0 0 0 0 1 1 1	سنة ثمانين وخمسمائة جَمْلُ مشهد الكاظم أمناً
0A 0A 0A 7 1	سنة ثمانين وخمسمائة جَمْلُ مشهد الكاظم أمناً موت رجل راهن على دفنه نصف يوم كتاب السلطان بمحاسن دمشق مهاجمة السلطان نابلس منازلة الكرّك
0A 0A 0A 7 1	سنة ثمانين وخمسمائة جَمْلُ مشهد الكاظم أمناً
0A 0A 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	سنة ثمانين وخمسمائة مناً
0 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	سنة ثمانين وخمسمائة مناً مناً موت رجل راهن على دفنه نصف يوم على دفنه نصف يوم كتاب السلطان بمحاسن دمشق منازلة الكرك منازلة الكرك خروج ابن غانية الملثم بالمغرب منازلة الخطبة العباسية بإفريقية منازلة السلطان الكرك حصار الكرك في كتاب للعماد
0 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	سنة ثمانين وخمسمائة مناً
0 0 0 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	سنة ثمانين وخمسمائة مثهد الكاظم أمناً موت رجل راهن على دفنه نصف يوم كتاب السلطان بمحاسن دمشق مهاجمة السلطان نابلس منازلة الكرّك خروج ابن غانية الملثم بالمغرب منازلة السلطان الكرّك منازلة السلطان الكرّك حصار الكرّك في كتاب للعماد وفاة رسولي الخليفة بالشام
0 0 0 0 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	سنة ثمانين وخمسمائة مناً مشهد الكاظم أمناً

سلطان بقضد الموصل	11
يب ماردين ٢٥	
المتوفون سنة إحدى وسبعين وخمسمائة	
حرف الألف	
عمد بن علي بن محمد بن العباس	~i_ !
حرف الحاء	
حسن بن إبراهيم بن محمد	.31. Y
حسين بن محمد بن نَمِير	
حرف الطاء	
لهٔ ای بن خُمارِتِکین	٤ _ طُ
حرف العين	
بيد الله بن حمزة بن محمد بن سماوة	٥ع
بد الله بن محمد بن سهل	 ב - ٦
 سِد الرَّحمن بن خلف الله بن عطيَّة	۷ _ ع
سدالرحمن بن محمد بن محمد	- Λ
شمان بن عبد الملك	 ۹_ع
علي بن إبراهيم بن عيسى بن سعد الخير	- , -
علي بن الحسن بن هبة الله بن عبد الله بن الحُسَين	. 11
علي بن حُمَيد بن عمار	
علي بن المبارك بن أحمد بن محمد بنِ بكري	- 11 - 14
علي بن المظفّر بن علي بن حسين الظّهِيري	- 11
علي بن المطفر بن علي بن حسين الحويري	
	,- 10
حرف الميم	
محمد بن أحمد بن سليمان	- 17
محمل بن أسعل بن محمل بن الحسين	17
محمد بن الحسن بن علي بن هلال بن همصا بن نافع	- 18

۸۸	١٠ _ محمد بن الحسين بن محمد بن المعلم
	٢ _ محمد بن عُبيّد الله بن على ٢
۸٩	٢ _ محمد ابن الوزير علي بن طِراد الزَّيْنَبي
	٢٠ _ محمد بن محمد بن حمّود٢٠
۹,	٢٢ ــ محمد بن محمد بن أحمد بن خلف بن إبراهيم بن لبيب
	٢٤ _ مبارك بن الحسن
٩١	٢٥ _ محفوظ بن أبي عبد الله محمد بن عبد المنعم
	٢٠ _ مسعود بن الحسين بن سعد
	حرف الهاء
97	٢٧ هبة الله بن يحيى بن الحسن٢١
	حرف الياء
97	٢٨ _ يحيى بن سعيد بن أبي الأسود
	سنة اثنتين وسبعين وخمسمائة
	حرف الألف
98	٢٩ _ أحمد بن عبد العزيز بن الفضل بن الخليع٢٠
٩٤	٣٠ _ أحمد بن محمد بن هبة الله
٩٤	٣١ ــ إبراهيم بن خَلَف بن الحبيب٣١
90	٣٢ ــ إسماعيل بن عبد الرحمن بن يحيى بن إسماعيل
	حرف الباء
90	٣٣ _ بشير الهندي٣٠
	حرف الحاء
90	٣٤ ــ الحَجّاج بن يوسف الهراوي
	٣٥ ــ الحسن بن سعيد بن أحمد بن الحسن بن البنّا
	٣٦ ــ الحسن بن عبد الله بن هبة الله ابن المسلمة٣٢ ــ الحسن بن عبد الله بن هبة الله ابن المسلمة
	٣٧ ــ الحسن بن عبد المجبار٣٧
	۳۸ ــ الحسن بن على بن نصو بن محمد بن خميس٣٨

حرف الصاد ٣٩ _ صالح بن المبارك بن محمد بن عبد الواحد ٩٦ حرف الظاء ٤٠ _ ظَلَفُر بن عمر حرف العين ٤١ _ عبد الله بن محمد بن خَلَف بن سعادة ٤٢ _ عبد الله بن عبد الرحمن بن يحيى بن إسماعيل ٤٤ _ عبد الصمَّد بن سعد بن أحمد بن محمد حرف الميم ٤٧ _ محمد بن أحمد بن أبي الفَرَج بن ماشاذة ۱۰۳ محمد بن سعید بن محمد بن عمر ٤٨ ٤٩ _ محمد بن عبد الله بن القاسم بن المظفّر بن علي ١٠٤ ٥٠ _ محمد بن عبد الباقي بن أحمد بن علي بن النَّرْسي ٥١ ــ محمد بن على بن محمد بن مهنَّد ۲۰ _ محمد بن غالب ٥٣ _ محمد بن محمد بن عَبْلِكان٥٣ ٥٤ _ محمد بن محمود بن محمد ٥٥ _ محمد بن المحسِّن بن الحسين بن أبي المضاء ٥٦ _ المبارك بن عبد الجبّار بن محمد ٧٥ _ المبارك بن محمد بن المبارك ۵۸ _ محمود بن محمد بن عبد الواحد بن ماشاذة ٥٩ _ مسعود بن عبد الله بن عُبيَّد الله

٦٠ _ مسلم بن ثابت بن زيد بن القاسم٠٠٠

حرف النون
٦١ ـ نصر بن سيّار بن صاعد بن سيّار
حرف الهاء
٦٢ ــ هبة الله بن علي بن محمد بن زنبقة
٦٣ ــ هبة الله بن يحيى بن محمد بن هبة الله
حرف الياء
٦٤ _ يىحيى بن أحمد
٦٥ ـ يحيى بن محمد بن أحمد بن إبراهيم
سنة ثلاث وسبعين وخمسمائة
حرف الألف
٦٦ ــ أحمد بن أحمد بن عبد العزيز بن أبي يَعْلى
٦٧ _ أحمد بن حامد بن الفرات بن أحمد بن مَهْدِي
٦٨ _ أحمد بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بَكْرُوس
٦٩ _ أرسلان بن طُغْرِل بن محمد بن ملِكُشاه
حرف الحاء
٧٠ _ الحسن بن أحمد بن محمد بن أحمد
حرف الدال
٧١ ــ داود بن محمد بن الحسن بن خالد٧١
٧٢ ـ داود بن زيد٧٢
حرف الصاد
٧٣ ـ صَدَقة بن الحسين بن الحسن بن بختيار
حرف العين
٧٤ _ عبد الباقي بن أبي العزّ بن عبد الباقي ابن الكوّار

بن مخلد بن عبد الرحمن	٧ _ عبد الرحمن بن أبي القاسم أحمد بن محمد بن أحمد ب
	٧ _ عبد العزيز بن أحمد بن غالب٧
177"	٧ _ عبد الكريم بن عسكر٧
ن ١٢٤	بن عبد الله بن عبد الرحمن بن مسعود بن عَيْشُوا ٧/ ـ بن عبد الله بن عبد الرحمن بن مسعود بن عَيْشُوا
178	٧٠ ــ عتيق بن عبد العزيز بن علي بن صيلا٧٠
170	٨ _ على بن الحسين بن على٨
170	۸ _ علي بن عبد الله بن حمُّود
	J J
	حرف الفاء
177	٨٢ ــ فاطمة بنت نصر بن العطار البغدادية
177	۸۲ ــ بن حَيْلَارة
	٠, ١٠٠١ ١٠٠ عن المراجعة
	حرف الكاف
١٢٦	٨٤ _ كُمُشْتِكِين٨٤
	۲۸۰ د مسوس
	حرف الميم
\YY	٨٥ _ محمد بن أحمد بن عبد الجبار
1YY	٨٦ _ محمد بن أحمد بن هبة الله بن محمد
١٢٨	٧٨
NYA	۸۸ _ محمد بن بدر بن عبد الله
NA	۸۹ بـ محمد بن بُنَيْمان بن يوسف
١٣٠	
·	٩١ _ محمل بن عبد الله بن هية الله بن المظفّر
۳۰	ابن رئيس الرؤساء أبي القاسم علي ابن المسلمة
	٩٢ ــ محمد بن عبد الله بن الحسين بن السُّكن
TT	٩٣ . محمل بن محمل بن هية الله بن أحمد بن منصور
Τξ	95 محملان ملمان
٣٤	٩٥ ـ مَنُويه٩٥
	and the second s

سنة أربع وسبعين وخمسمائة

حرف الياء

٩٩ ـ يحيى بن موهوب بن المبارك بن السَّدنَّك

حرف الألف

٠٠٠٠٠ ٨٣١	. • ١ - احمد بن احمد بن علي
ي بالله	١٠١ _ أحمد بن علي بن أحمد بن هبة الله بن محمد بن علي بن المهتد
١٣٨	١٠٠ ـ أحمد بن علي بن الحسين بن الناعم
	١٠٠ ـ أحمد بن نصر بن تميم
184	۱۰ - إبراهيم بن أحمد
144	١٠١ ــ أسعد بن بلدرك بن أبي اللقاء
١٤٠	١٠٠ ـ بن أبي الفوارس بن أبي بكر

حرف الحاء

۱٤٠	١٠٠ ــ النحسن بن علي بن محمد بن فَرَج
	حرف الزاي

181	١١ ــ زيد بن نصر بن تميم١١	•
181	١١ ــ سعد بن محمد بن سعد بن صيفي١١	۱۱

1 2 8	١١١ ــ سعد الله بن نجا بن محمد بن فهد
	حرف الشين
١٤٥	١١٢ ـ شُهْدَة بنت أبي نصر أحمد بن الفَرَج بن عمر الدِّينَوَرِي، ثم البغدادي الإبَرِي
	حرف الصاد
۱٤٨	١١٤ ـ صالح بن عبد الملك بن سعيد
1 2 9	١١٥ ـ بن محمد بن مسعود بن السّدنك
	حرف العين
1 2 9	١١٦ ــ عبد الله بن الخَضِر بن الحسين
1 2 9	١١٧ _ عبد الله بن عمر بن عبد الله بن عمر
١٥٠	١١٨ ـ عبد الله بن محمد بن علي بن خلف
	١١٩ ــ عبد الله بن محمد بن عيسى
	١٢٠ _ عبد الرحيم بن عبد الخالق بن أحمد بن عبد القادر بن محمد بن يوسف
	١٢١ _ عُبِيِّد الله بن خلف بن عيّاش
	۱۲۲ ــ علي بن عيسى بن هبة الله
	١٢٣ ـ علي بن محمد بن عيسى
	على بن مَهْدي بن علي بن قلينا
۲٥٢	١٢٥ ـ علي بن خلف بن العريف
	۱۲٦ ـ عمر بن محمد بن عبد الله بن الخَضِر بن مسافر
	حرف الفاء
102	۱۲۷ ــ فتح بن محمد بن فتح
	حرف الكاف
٤٥	١٢٨ ــ كرم بن أحمد بن عبد الرحمن بن تُعيَّة
	حرف الميم
٥٥	١٢٩ ــ محمد بن أحمد بن عبيد الله بن عبد الرحمن
٥٦	۱۳۰ ــ محمد بن عبد الرحمن بن أحمد

١٣١ ــ محمد بن علي بن أحمد بن واصل
١٣٢ _ محمد بن نسيم بن عبد الله
١٥٧ محمد بن هبة الله بن عبد الله
١٣٤ ــ المبارك بن محمد بن مكارم بن سكينة
١٣٥ _ المشرف بن علي بن مشرف بن المسلم
- المهلب بن النّقاش
حرف النون
۱۳۲ ــ نفيس بن دينار
حرف الياء
۱۳۷ ـ ياقوت النقّاش
سنة خمس وسبعين وخمسمائة
حرف الألف
١٣٨ _ أحمد بن عبد الرحمن بن الحسن
١٣٩ ــ أجمد بن عبد الرحمن بن سلمان بن حمزة بن الخَضِر
١٤٠ ــ أحمد بن محمد بن عبد الرحمن ابن الدَّيْنوري
١٤١ ــ أحمد بن محمد بن عبد الرحمن
١٤٢ _ أحمد بن مسعود بن عبد الواحد بن مطهر
١٤٣ ــ أحمد بن أبي الوفاء بن عبد الرحمن بن عبد الصمد
١٤٤ ـ إبراهيم السُّلَمي بن علي١٤٤
١٤٥ ــ إبراهيم بن علي بن مواهب
١٤٦ _ إسحاقٌ بن موهوب بن أحمد بن محمد بن الخَضِر
١٤٧ ــ إسماعيل بن موهوب بن الجواليقي١٢٠
١٤٨ _ إسماعيل بن أبي القاسم نصر بن نصر١٦٣
١٤٩ _ إليَّسَحُ بن عيسيّ بن حَوْمُ بن عبد الله بن إليَّسَعْ١٦٣
حرف التاء
١٥٠ ــ تَجَنَّى أَم عِتْب الوَهْبانية

حرف الحاء

_
١٥ _ الحَجّاج بن علي بن حَجّاج
١٥ ــ الحَسَن المستضيء بأمر الله
حرف السين
١٥١ ــ سالم بن علي بن سلامة١٥١
١٥ _ سعيد بن عبد الله بن أحمد بن مفضّل١٥٠
حرف الشين
١٥٩ ــ شافع بن صالح بن حاتم
١٥٠ _ شهاب بن أبي الفوارس محمد بن هبة الله
حرف العين
الله ير عبدالله بن المحمد بن بحراف
١٥/ _ عبد الله بن أحمد بن علي بن قُرَشي١٧٠
١٥٠ _ عبد الحق بن عبد الخالق بن أحمد بن عبد القادر بن محمد بن يوسف١٧٠
١٦٠ _ عَبد المحسن بن تُريك بن عبد المحسن بن تُريك١٧٢
١٦١ _ عُبَيِّك الله بن أحمد بن محمد بن قُلاَمة
١٦١ _ عَلَمُ زوجة الشيخ محمد بن يحيى الزَّبيديّ
١٦٢ _ على بن أحمد بن محمد بن عمر بن حسن
١٦٤ _ على بن حُمَيْد بن عمار
١٦٥ _ علي بن هبة الله بن علي بن خلدون
١٦٦ _ عمر بن علي بن الخضر بن عبد الله بن علي١٦٥
١٦٧ ـ. عيسى بن أحمد بن محمد بن عُبيّد الله١٦٧
١٦٨ _ عيسى بن الإمام المسترشد بالله١٧٧
حرف القاف
١٦٩ _ القاسم بن عبد الرحمن بن دحمان١٧٧
حرف الميم
١٧٠ _ محمد بن أحمد بن الفرج١٧٠
١٧١ ــ محمد بن الحسين بن الحسن بن الخليل١٧٨

١٧٨	١٧٢ ــ محمد بن خير بن عمر بن خليفة
	١٧٢ _ محمد بن قاضي القضاة أبي الحسن علي بن أحمد بن
١٧٩	على بن محمد بن علي
	١٧٤ ــ ميحمد بن علي بن حمّزة بن محمد١٧٤
	١٧٥ ــ محمد بن القاضي عياض بن موسى بن عياض
	١٧٦ ــ محمد بن أبي غالب بن أحمد بن مرزوق
	۱۷۷ ــ محمد بن محمد
	١٧٨ _ محمد بن مجرز
	١٧٩ ـ محمد بن محمد بن محمد بن عثمان١٧٩
	١٨٠ ــ المبارك بن علي بن الحسين بن عبد الله بن محمد
	١٨١ ــ المبارك بن محمد بن أحمد بن محمد بن قيداس
	١٨٢ ــ المبارك بن محمد بن عبد الكريم بن أبي القوارس
	١٨٣ ــ محمود بنَ تَكَش
١٨٨	١٨٤ _ مكّى بن محمد بن عبد الملك
	١٨٥ ــ منصور بن نصر بن منصور بن الحسين
٠٩٠	١٨٦ ــ منوجهر بن محمد بن تركانشاه
	حرف النون
19	١٨٧ ــ نصر الله بن عبد الرحمن بن عبد السلام
	حرف الياء
191	١٨٨ ــ يوسف بن أحمد بن الحسين
191	١٨٩ ــ يوسف بن عبد الله بن سعيد بن عبد الله بن أبي زيد
197	
	سنة ست وسبعين وخمسمائة
	حرف الألف
	١٩١ ــ أحمد بن محمد بن علي بن هبة الله بن عبد السلام
	١٩٢ ـ. أحمد بن أحمد بن محمد بن علي بن حمدي
190	١٩٣ _ أحمد بن عبد الله بن الإمام أبي بكر محمد بن أحمد

١٩٤ _ أحمد بن محمد بن أحمد بن محمد بن إبراهيم
١٩٥ ــ أحمد بن أبي الوفاء
۱۹۶ ـ إبراهيم بن علي بن مواهب ۲۰۷
١٩٧ ــ أيوب بن محمد بن وهب بن أيوب
حرف الباء
١٩٨ ــ بدر
حرف التاء
١٩٩ ــ تورانشاه
حرف الحاء
۲۰۰ ـ حمّاد بن إبراهيم بن إسماعيل بن إسحاق بن أحمد بن
شيث بن نصر بن شيث بن الحكم بن افلك بن عُقْبَة بن يزيد
• ـ وأبوه ركُن الدّين
 دوأبوه إسماعيل الوائلي
حرف الخاء
۲۰۱ _ خَلَف بن يحيى بن خطاب
حرف السين
٢٠٢ ــ سالم بن إسحاق بن الحسين
۲۰۳ ــ سعيد بن الحسين بن سعيد بن محمد
۲۰۴ ــ سعيد بن عبد الله بن القاسم
۲۰۵ ـ سليمان بن أحمد بن سليمان
۲۰۱ ـ. سليمان بن محمد بن حسن
حرف العين
٧٠٧ _ عبد الله بن المحدِّث عبد الرحمن بن أحمد بن علي بن صابر السَّلمي ١٤
٢٠٨ _ عبد الله بن خَلَف بن محمد بن حبيب بن فرُقد٢٠

	٢٠٩ ــ عبد الله بن مُغِيث بن يونس بن محمد بن مغيث بن محمد بن
F17	يونس بن عبد الله بن مُغِيث
<i>717 717</i>	۲۱۰ ـ عبد الله بن يزيد بن عبد الله
Y1V	٢١١ ـ عبد الله بن يوسف بن علي بن محمد
Y1V	٢١٢ ــ عبد الله بن يحيى بن علي بن هلال
بن	٢١٣ ــ عبد الرحمن بن عبد العزيز بن محمد بن عبد الرحمن بن علي ب
Y1V	عبد الرحمن بن سعيد بن حُمَيْد بن أبي العجائز
Y1X	٢١٤ ـ عبد الرحمن بن أحمد بن محمد بن أحمد
ڀ	٢١٥ ــ عبد العزيز بن عبد الواحد بن عبد الماجد بن عبد الواحد بن أبر
Y 1	القاسم القُشَيْري
Y1X	٢١٦ ــ عبد الله بن محمد بن عبد الله بن هبة الله ابن رئيس الرؤساء .
Y19	٢١٧ ــ علي بن أحمد بن محمد بن بكروس
719	٢١٨ ـ. علي بن عبد الرحيم بن الحسين بن عبد الملك
YY•	٢١٩ ــ علي بن محمد بن المبارك بن أحمد بن بكروس
YY1	۲۲۰ ــ عمر بن عبد الرحمن بن علرة
	حرف الغين
YY1	۲۲۱ ـ غازي
	حرف الميم
	•
777	۲۲۲ _ محمد بن حامد
	٢٢٣ ــ محمد بن عُبَيْد الله بن أحمد بن محمد بن هشام
	۲۲۶ ــ محمد بن علي بن محبوب
YYE 3YY	۲۲٥ ــ محمد بن محمد بن مواهب
	٢٢٦ ـ المبارك بن عبد الله بن محمد
	٢٢٧ ــ المبارك بن المبارك بن محمد بن أحمد بن حكيم
	٢٢٨ ــ المبارك بن محمد بن محمد بن العرمرم
	٢٢٩ ــ مسعود بن عمر الملاح
77	٢٣٠ ــ مسعود بن محمود بن أحمد بن عبد المنعم بن ماشاذة
YYY	٢٣١ ــ مسلم بن عبد المحسن بن أحمد

۲۳۲ _ مظفّر بن خلف بن عبد الكريم بن خلف بن طاهر بن
محمد الشَّحَّامي
٢٣٣ ــ مظفّر بن محمّد بن عبد الباقي بن جند
حرف النون
٢٣٤ _ نصر الله بن أحمد بن حمزة بن أبي الحجّاج
حرف الهاء
٢٣٥ _ هبة الله بن أحمد بن محمد بن هلال
٢٣٨ _ واثق بن الحسين بن علي
حرف الياء
٢٣٧ _ يوسف بن محمد بن علي بن أبي سعيد
٢٣٨ ــ يونس بن محمد
سئة سبع وسبعين وخمسمائة
حرف الألف
٢٣٩ _ أحمد بن حُمَيْد بن الحسن
٢٤٠ _ أحمد بن عبد الملك بن عُمَيْرة
٢٤١ _ أحمد بن علي بن محمد بن عبد الملك بن سليمان بن سند
۲۲۲ _ أحمد بن علي بن سعيد
٢٤٣ _ أحمد بن محمد بن علي بن هبة الله بن عبد السلام
٢٤٤ _ أحمد بن محمد بن أبي القاسم
٧٤٥ _ أحمد بن مواهب بن حسن
۲۶۲ _ إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران
٢٤٦ ـ إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران
٢٤٦ ـ إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران
٢٤٦ ــ إبراهيم بن محمد بن إبراهيم بن مهران

حرف السين ۲۵۰ ـ سليمان بن أرسلان حرف العين ٢٥١ .. عبد الرحمن بن محمد بن عُبَيِّد الله بن أبي سعيد٢٥٨ ٢٥٧ _ عبد الصَّمَد بن علىعلى ٢٥٣ _ عبد القادر بن علي بن نوقة٢٥٣ ٢٥٤ _ عثمان بن يوسف بن أبي بكر بن عبد البر بن سيدي بن ثابت ٢٥٥ _ على بن محمد بن الحَسَن ٢٥٦ _ عمر بن علي بن الزاهد محمد بن على بن حَمُّويَه٢٤٦ حرف الميم ٢٥٧ ـ محمد بن أحمد بن محمد بن عبد العزيز ٢٥٨ ـ محمد بن عبد الملك بن مسعود بن بَشْكُوال٢٥٨ ٢٥٩ ـ محمد بن محمد بن شجاع بن أحمد بن على٢٤٤ ٢٦٠ ــ المبارك بن على بن محمد بن خَلَف٢١٠ حرف الهاء ٢٦١ _ هاشم بن أحمد بن عبد الواحد بن هاشم٢٦٠ _ ٢٦٢ ــ هبة الله بن المبارك بن بكري الحريمي٢٦٢ ــ هبة الله بن المبارك بن بكري الحريمي ٢٦٣ ـ هبة الله بن أبي الكرم نصر الله بن محمد بن محمد بن مَخْلَد٢٦٣ حرف الياء ٢٦٤ _ يحيى بن على بن يحيى بن العافية٢٤٦ الكني ٢٤٧ ـ أبو الفهم بن فتيان بن حيدرة٢٤٧ سنة ثمان وسبعين وخمسمائة حرف الألف ٢٦٦ _ أحمد بن أبي الحسن بن علي بن أحمد بن يحيى بن حازم بن علي بن رفاعة ٢٢٨ ـ

_ أحمد بن المسلم
حرف الحاء
٢٦٧ ــ الحسن بن أحمد بن محمد بن المعمر
٢٦ ــ الحسن بن علي بن الحسين بن شيرُوَيْه
٢٦٠ ــ الحسن بن هبة الله بن محمد بن علي بن المطّلب
حرف الخاء
٢٧٠ ـ الخَضِر بن هبة الله بن أحمد بن عبد الله بن علي بن طاوس
٢٧١ _ خلف بن عبد الملك بن مسعود بن موسى بن بُشْكُوال بن يوسف بن داحة٢٥٨
۲۷۱ _ خليفة بن المسلم بن رجاء
771 77Y
حرف العين
٢٧٤ ــ عبد الله بن أحمد بن محمد بن عبد القاهر
٢٧٥ _ عبد الله بن أحمد بن محمد بن علي بن حَمْنيس
٢٧٦ ــ عبد الله بن عبد الله
٢٧٧ ــ عبد الله بن يحيى بن عبد الله بن فُتُوح
٢٧٨ ـ عبد الله بن القاضي أبي خازم محمد بن القاضي أبي يَعْلَى بن الفراء٢٧٨ ـ عبد الله بن القاضي أبي عازم محمد بن القاضي أبي عبد الله بن القاضي أبي القاضي أبي القاضي أبي القاضي أبي القاضي أبي المداد الله بن القاضي أبي المداد الله بن القاضي أبي المداد الله بن القاضي أبي الله بن القاضي أبي المداد الله بن القاضي أبي المداد الله بن القاضي أبي الله بن القاضي أبي المداد الله بن القاضي المداد الله الله الله الله الله الله الله ا
٢٧٩ ـ بن عبد الله بن علوان
۲۸۰ ـ علي بن أنُوشْتِكِين
٧٦٥ الحسن الحسن
۲۸۲ ــ عیسی بن عِمران
حرف الفاء
٣٦٣ _ فَرُّونُحْشَاه بن شاهنشاه بن أيوب بن شاذي٢٦٦
۱۸۱۰ ــ فروطسه بن طالعت بن الوب بن حرف القاف حرف القاف
٢٦٧ _ القاسم بن عمر
حرف الميم
٢٦٧ _ محمد بن أحمد بن عُبيّد الله بن حسين

٢٨٦ ــ محمد بن عبد الملك بن علي بن محمد
۲۸۷ ــ محمد بن عتيق بن عطاف
۲۸۸ ــ محمد بن محمد بن عبد الرحمن بن أبي بكر
۲۸۹ _ محمد بن مالك بن أحمد بن مالك
۲۹۰ ــ مروان بن عبد الله بن مروان بن محمد
٢٩١ ــ مسعود بن محمد بن مسعود٢٩١
٢٩٢ ــ مَعَدّ بن حسن بن عبد الله٢٩٢
۲۹۳ ــ مودود ۲۷۳
حرف الهاء
٢٩٤ ــ هبة الله بن محمد بن هبة الله بن مميل
حرف الواو
٢٩٥ ــ وفاء بن أسعد بن النفيس بن البهي
حرف الياء
۲۹۲ ــ يىحيى بن أحمد بن يىحيى بن سيد بونه
سنة تسع وسبعين وخمسمائة
حرف الألف
٢٩٧ ـ أحمد بن محمد بن سليمان بن محمد
۲۹۸ _ إبراهيم بن أحمد بن عبد الرحمن بن عثمان
٢٩٩ _ إسماعيل بن قاسم الزّيّات
حرف الباء
۳۰۰ ـ بُجَيْر بن علي بن بُجَيْر
۲۰۸ ــ بوري
حرف التاء
۲۷۹

حرف الثاء

	•
YAE	٣٠١ ــ ثعلب بن مذكور بن أرنب
	حرف الحاء
YA8	٣٠٠ _ الحسن بن سعيد بن عبد الله بن بُنَّدار
YA0	٣٠٥ ـ الحسن بن عسكر
የ ለን	٣٠٠ _ الحسين بن القاضي أبي الحسن أحمد ابن قاضي القضاة علي بن محمد .
FAY	٣٠١ _ الحسين بن عبة الله بن رُطْبة
•	حرف السين
YAY	٣٠٨ _ سُبَيْع بن خلف بن محمد
	بي بن حرف الصاد
YAY	۳۰۹ ـ صالح بن عبد الرحمن بن علي بن زَرْعان
	حرف الطاء
YAA	٣١٠ ـ طاهر بن عطية
	حرف العين
۲۸۸	٣١١_ عبد الله بن أحمد بن أبي الفتح بن محمد بن أحمد
YA9	٣١٢ ـ عبد الله بن فَرَج
ra	۳۱۳ ـ علي بن علي بن نما بن حمدون
	حرف الكاف
19•	٣١٤ ــ كرم بن بختيار بن علي
	حرف الميم
' 9 1	٣١٥ ـ محمد بن أحمد بن بلال٣١٥
' 41	٣١٦_ محمد بن أحمد بن حمزة بن جِياه
97	٣١٧ _ محمد بن أحمد بن محمد
٩٢	۳۱۸ ــ محمد بن بختيار

٣١٩ ـ محمد بن جعفر بن عقيل
٣٢٠ ــ محمد بن عبد العزيز بن علي بن عيسى
٣٢١ ــ محمد بن محمد بن الجُنيَّد بن عبد الرحمن بن الجُنيِّد
٣٢٢ ــ محمد بن محمد بن حمزة بن أبي حبيش
٣٢٣ ــ محمد بن أبي الأزهر علي بن أحمد بن محمد بن علي بن يوسف ٢٩٦
٣٢٤ ــ محمود بن نُصر بن حمَّادُ بن صَدَقة بن الشعار
٣٢٥ _ مُقَاتل بن عزون٣٢٠
٣٢٦ ــ الموفّق بن شوعة
حرف الياء
٣٢٧ ــ يوسف بن إبراهيم بن عثمان
۳۲۸ ــ يونس بن محمد بن منعة بن مالك بن محمد
سنة ثمانين وخمسمائة
حرف الألف
٣٢٩ ــ أحمد بن علي بن معمر بن رضوان٣٠٢
٣٣٠ _ أحمد بن المبارك بن دَرَك
٣٣١ ــ إبراهيم بن حسين بن يوسف بن محارب
٣٣٢ ــ إيلغازي بن ألبي بن تمرتاش بن إيلغازي بن أرتق
حرف الباء
٣٠٤ _ بدر بن عبد الغني بن محمد
حرف الحاء
٣٠٤ ــ الحسن بن عيسى بن أصبغ
٣٣٥ ــ الحسين بن علي بن عبد الواحد بن شَبِيب
حرف الزاي
٣٣٠ ــ زهير بن محمد بن أحمد بن أبي سميد٣٣٠ ــ زهير بن محمد بن أجمد بن أبي سميد

حرف السين

Na
٣٣ _ السديد ٢٠٠٣
٣٣٠ ــ سعد بن الحسن بن سلمان٣٣٠
حرف العين
٣٣٣ ـ عبد الله بن محمد بن وقاص
٣٤ _ عبد الرحيم بن أبي البركات إسماعيل بن أبي سعد أحمد بن محمد ٣٠٧
٣٤ ـ عبد الرحيم بن عمر بن عبد الرحيم بن أحمد٣٤
٣٤٧ ـ عبد القادر بن هبة الله الغضائري٣٤٠
٣٤٢ _ عبد اللطيف بن محمد بن ثابت٣٤٠ ـ عبد اللطيف بن محمد بن ثابت
٣٤٤ _ عُبَيْد الله بن علي بن محمد بن محمد بن الحسين بن الفراء ٣٠٩
٣٤٥ ــ عتيق بن أحمد بن سلمون٣٤٥
٣٤٠ _ عثمان بن محمد بن عيسى
٣٤٧ ـ. على بن محمد بن عبد الوارث٣٤٧ ـ.
٣٤٨ _ علي بن محمد بن عبد الملك٣١٨
حرف الميم
٣٤٩ ـ محمد بن أحمد بن أبي علي
٣١٢ _ محمد بن أحمد بن أبي علي محمد بن سعيد بن نبهان
٣٥١ _ محمد بن أحمد بن طاهر
٢٠٢ _ محمد بن حمزة بن محمد بن أحمد بن سلامة بن أبي جميل
۳۱۵ محمد بن خالد بن بختيار
٣١٥ _ محمد بن سعيد بن عُبيَّد الله
٣١٥ _ محمد بن عبد الكريم بن الفضل
٣١٦ _ محمد بن أبي بكر محمد بن عبد الرحمن
٣١٧ _ المبارك بن محمد بن يحيى
٣١٧ _ محمود بن أبي القاسم بن عمر بن حَمَكا
٨٥ ١ ــ محمود بن ابي العاسم بن صر بن صحافة حرف الهاء
٣١٧ هبة الله بن أبي نصر محمد بن هبة الله بن محمد بن البخاري

حرف الواو
٣٦ وشاح بن جواد بن أحمد٣١٨
حرف الياء
٣٦ ـ يوسف بن عبد المؤمن بن علي٣١٨
المتوفون على التخمين
حرف الألف
٣٦٠ ـ إيراهيم بن محمد
٣٦ ـ إسحاق بن هبة الله٣٦
٣٦ _ إسماعيل بن غانم بن خالد٣٦
٣٦ ــ إسماعيل بن يونس بن سلمان٣٦
حرف المحاء
٣٦ ـ حبيب بن إبراهيم بن عبد الله٣٦
حرف الزاي
٣٦٦ ــ زاهر بن إسماعيل بن أبي القاسم
حرف السين
٣٦ ــ سالم بن عبد السلام بن علوان٣٦ ـ ٣٦٦
٣٦ ـ سلامة الصياد
٣٧ ــ سليمان بن محمد بن سليمان٣٧
٣٧ ــ السَمَوْأَلُ بن يحيى بن عياش٣٧
حرف الصاد
٣٧ ـ صالح بن وجيه بن طاهر بن محمد٣٧
حرف العين
٣٧ ـ عباس بن أبي الرجاء بن بدر٣٧

٣٣.	٣٧٤ ـ عبد الله بن عبد الواحد بن الحسن بن المفرّج
۱۳۲	٣٧٥ _ عبد الجبار بن محمد بن علي بن أبي ذَرّ الصالحاني
۲۳۱	٣٧٠ ـ عبد الرزاق بن إسماعيل بن محمد بن عثمان
۲۳۱	٣٧١ ــ عبد الملك بن محمد بن عبد الملك
۲۳۱	٣٧٨ _ عُبَيِّد الله بن محمد التميمي
	۳۷۹ ـ علي بن بركات
۳۳۲	٣٨٠ ـ علي بن الحسين اللّواتي
	٣٨١ ـ علي بن خلف بن غالب
٣٣٣	٣٨٢ ـ علي بن محمد بن ناصر
	٣٨٣ ـ علي بن هبة الله
	٣٨٤ ـ علي بن أبي القاسم بن أبي حنون
	حرف القاف
ምም	٣٨٥ ـ. القاسم بن علي بن صالح
	حرف الميم
٤ ٣٣	٣٨٦ _ محمد بن التّابَلان
٥٣٣	٣٨٧ ـ محمد بن عبد الله بن محمد
240	٣٨٨ ــ محمد بن عبد العزيز
440	٣٨٩ ـ محمد بن علي بن عبد الله بن علي
۲۳٦	۳۹۰ ــ محمد بن کُشَيْلة
	٣٩١ ـ محمود بن محمد
۳۳۷	٣٩٢ ـ المطهر بن عبد الكريم بن محمد بن عثمان
	الكنى
۲۳۸	٣٩٣ ــ أبو بكر بن إسماعيل الحرّانيّ
451	٣٩٤ ــ أبو جعفر بن هارون
451	٣٩٥ ــ أبو الفتح
787	٣٩٣ ـ أبو الوفا

الفهارس

۳٤٧	١ _ فهرس الآيات القرآنية
۳٤۸	٢ _ فهرس الأحاديث النبوية
454	٣ ــ فهرس الأشعار
401	٤ _ فهرس الأماكن والبلدان
309	٥ _ فهرس الأمم والقبائل والطوائف
411	٢ _ فهرس الأعلام الواردة أسماؤهم في الحوادث
470	٧ _ فهرس أسماء الكتب الواردة في المتن
۴۷۰	٨ ـ فهرس المشهورين بكناهم وألقابهم
۲۷۲	٩ _ فهرس أصحاب الكتب والمصنفات
۳۷۳	١٠ ــ فهرس الأمراء
۴۷٤	١١ ـ. فهرس القضاة
٥٧٣	١٢ ــ فهرس الفقهاء
۲۷۷	١٣ ــ فهرس المحدثين والمفسرين
" የ	١٤ ــ فهرس القراء
444	١٥ ــ فهرس النحويين
የ ለ •	١٦ ــ فهرس الشعراء
	١٧ ــ فهرس الأدباء
	١٨ ـ فهرس الكتاب
	١٩ ــ فهرس الأثمة والخطباء والوعّاظ
٥٨٣	۲۰ ــ فهرس المفتين والمؤذنين
۲۸٦	٢١ ــ فهرس المؤدبين والمعدّلين
۲۸۷	٢٢ ــ فهرس الصوقيين
	٢٣ ــ فهرس الزهاد
	٢٤ ــ فهرس أصحاب المهن
	٢٥ ــ فهرس أنساب المترجمين
	٢٦ ـ فهرس المصادر
277	٢٧ ــ فهرس تراجم الأعلام على حروف المعجم
	٢٨ ــ الفهرس العام للموضوعات



